

## 目次

事業の概要	4
凡例	29
1-2 ウエペケレ「ユク シキ セイレカ」	33
1-3 ウエペケレ「ユク シキ セイレカ」解説	50
1-4 カムイユカラ「フム パクパク」	52
1-5 カムイユカラ「フム パクパク」解説	68
1-6 カムイユカラ「エパウ」	70
1-7 カムイユカラ「エパウ」解説	86
1-8 シサムウエペケレ「ピリカ チャペ アレス」	88
1-9 シサムウエペケレ「ピリカ チャペ アレス」解説	102
2-1 日付 場所 とうるしのさん紹介	104
2-2 ウエペケレ「ランコ カッケマツ」	105
2-3 ウエペケレ「ランコ カッケマツ」解説	129
2-4 ウエペケレ「アウナラペ イキモルラ」	132
2-5 ウエペケレ「アウナラペ イキモルラ」解説	151
2-6 ウエペケレ「パシクル ウタサ イタク ヒ アヌ」	154
2-7 ウエペケレ「パシクル ウタサ イタク ヒ アヌ」解説	172
2-8 ペナンペアン パナンペアン	176
2-9 ウエペケレ「オンネ ニス」	181
3-1 ウエペケレ「オンネ ニス」解説	196
3-2 ウエペケレ「テックプ ウシ ヘカチ」	197
3-3 ウエペケレ「テックプ ウシ ヘカチ」解説	214
3-4 ウエペケレ「オコッコ チャペ アライケ」	217
3-5 ウエペケレ「オコッコ チャペ アライケ」解説	243
3-6 カムイユカラ「ハラトンナ」	246
3-7 カムイユカラ「ハラトンナ」解説	264
4-1 テープ内容紹介	267
4-2 ウエペケレ「キムンカムイ カネ アワンキ イエルサ」	268
4-3 ウエペケレ「キムンカムイ カネ アワンキ イエルサ」解説	288
4-4 ウエペケレ「アオナハ ウエンカムイ オロワ アウク」	291
4-5 ウエペケレ「アオナハ ウエンカムイ オロワ アウク」解説	306
4-6 オンネ パシクル	309

4-7	オンネ パシクル解説	312
4-8	カムイユカラ「ハンチキキ ソクソキヤ」	314
4-9	カムイユカラ「ハンチキキ ソクソキヤ」解説	322
4-10	ウエペケレ「パシクルトノ ヤニ アコロ」	324
4-11	ウエペケレ「パシクルトノ ヤニ アコロ」解説	345
4-12	テープ内容 日時 再紹介	348
5-1	テープ内容紹介	349
5-2	ウエペケレ「スルクマツ チクペニカムイ イカオピューキ」	350
5-3	ウエペケレ「スルクマツ チクペニカムイ イカオピューキ」解説	374
5-4	ウエペケレ「ポロシルンカムイ トウレシヒ アコロ」	377
5-5	ウエペケレ「ポロシルンカムイ トウレシヒ アコロ」解説	386
5-6	ウエペケレ「アロヌマンノチュー トウレシヒ イカオピューキ」	388
5-7	ウエペケレ「アロヌマンノチュー トウレシヒ イカオピューキ」解説	408
5-8	ウエペケレ「キタレツポ チチラ ウコイソイタク ヒ アヌ」	411
5-9	ウエペケレ「キタレツポ チチラ ウコイソイタク ヒ アヌ」解説	431
5-10	テープ内容再紹介	433
6-1	ウエペケレ「ヌサコロカムイ イカオピューキ」	434
6-2	ウエペケレ「ヌサコロカムイ イカオピューキ」解説	462
6-3	ウエペケレ「チシナオツ イタク ハウエ アヌ」	466
6-4	ウエペケレ「チシナオツ イタク ハウエ アヌ」解説	487
6-5	ウエペケレ「ケトウペ カムイ イレス」	491
6-6	ウエペケレ「ケトウペ カムイ イレス」解説	526
7-2	ウエペケレ「ケソラプ カムイ イレス」	528
7-3	ウエペケレ「ケソラプ カムイ イレス」解説	591
8-1	テープ内容日時紹介	598
8-2	カムイユカラ「トビパカムイ ヤイエユカラ (ヘウルル)」	599
8-3	カムイユカラ「トビパカムイ ヤイエユカラ (ヘウルル)」解説	627
8-4	カムイユカラ「チュポルンクル (サンタソワソ)」	629
8-5	カムイユカラ「チュポルンクル (サンタソワソ)」解説	638
8-6	カムイユカラ「ミントウチカムイ イケスイモトホ (ヘムノエ)」	641
8-7	カムイユカラ「ミントウチカムイ イケスイモトホ (ヘムノエ)」解説	676
8-8	パナンペペナンペ「アッケテク ホプニ」	681
8-9	パナンペペナンペ「アッケテク ホプニ」解説	687
8-10	パナンペペナンペ	689
8-11	パナンペペナンペ解説	693
8-12	日時、大雪紹介	695

9-1	内容 ユカラ紹介	696
9-2	ユカラ「サクソモアイェブ」(1)	697
9-3	ユカラ「サクソモアイェブ」(2)	737
9-4	ユカラ「サクソモアイェブ」(3)	770
9-5	会話	793
9-6	ユカラ「サクソモアイェブ」(4)	796

## 事業の概要

### 1. 業務題目

アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業（北海道沙流郡平取町）

### 2. 業務の目的

我が国における言語・方言のうち、ユネスコが最も消滅の危機に瀕<sup>ひん</sup>していると認定しているアイヌ語について、消滅することなく、その保存・継承が円滑に行われるよう、各地で保存されているアイヌ語の音声資料を活用し、アイヌ語学習への援用も視野に入れたアーカイブ化に関する調査研究を行う事業が、平成25年度から文化庁によって行われることとなった。

平取町には、平取町教育委員会が主体となって昭和44年に記録した、アイヌ口承文芸のオープンリールテープが平取町立二風谷アイヌ文化博物館に所蔵されている。記録後今日に至るまで非公開の資料で、かつ保存状態は良好である。被採録者6名の居住地は沙流川流域の各地にわたっており、全員が流暢<sup>ちよう</sup>なアイヌ語話者である。

文化庁事業の目的にかない、かつアイヌ口承文芸の今日的継承を推進していく上で、本音声資料の整理、分析、公開が果たす役割は大きいと考えられる。そうしたことを踏まえながら、平成25・26年度の2か年にわたってアイヌ語学習への援用も視野に入れたアーカイブ作成に向けた基礎的な作業及び調査研究を行う。

### 3. 調査体制

#### (1) 事業の概要

事業委託者 文化庁

事業受託者 国立大学法人千葉大学（業務担当：文学部教授 中川裕）

再委託先 北海道沙流郡平取町

（業務担当：平取町教育委員会文化財課主幹 長田佳宏）

業務期間 第1年次 平成25年 8月12日 ～ 平成26年3月25日

第2年次 平成26年 9月 4日 ～ 平成27年3月31日

#### (2) アイヌ語の転写(聞き起こし)

監修 中川裕

転写・翻訳担当（平取町民及び出身者等の関係者）

関根健司，貝澤美和子，萱野志朗，関根真紀，尾崎友香，山道ヒビキ，山道陽輪，矢崎春菜

転写・翻訳担当（千葉大学大学院生及び関係者）

遠藤志保，小林美紀，深澤美香，吉川佳見，佐藤雅子，欠ヶ端和也，藤田護，大坂拓，  
八谷麻衣

アイヌ語校閲補助

北原次郎太（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）

#### 4. 資料の概要

対象としている音声資料はオープンリールテープ24本分で，録音時間（アイヌ口承文芸部分）は1,135分19秒（約19時間）に及ぶ。収録されているアイヌ口承文芸は98編で，内訳はウエペケレ（散文説話）53編，カムイユカラ（神謡）29編，ユカラ（英雄叙事詩）11編，ルパイェ（節のない語り）4編，言葉遊び1編となっている。

昭和44年に平取町教育委員会から委嘱された調査員は故萱野茂氏で，録音は同年1月～4月に行なわれている。被採録者は全員女性で，貝澤とうるしの（当時の居住地は平取町二風谷：以下同様），平賀さだも（日高町富川），鍋澤ねぶき（平取町去場），平目よし（同荷菜），木村きみ（同ペナコリ），黒川てしめ（同荷負本村）の6名である（音声資料の詳細は表1参照）。

#### 5. 業務の成果

##### (1) アイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）

地元（平取町）に残されたアイヌ語音声資料（ウエペケレ：681分31秒，カムイユカラ：187分22秒，ユカラ：198分06秒，ルパイェ：67分02秒，言葉遊び：1分18秒，合計1,135分19秒）を活用し，アイヌ語のアーカイブ化を行うための基礎作業として，まずアイヌ語の転写（聞き起こし）を実施した。一次作業はアイヌとしてのアイデンティティを持ち，アイヌ語の基礎的なトレーニングを受けた平取町民及び関係者と，千葉大学文学部大学院生・関係者で行なった。

その転写作業の結果は，千葉大学教授中川裕に送られた。そこで，アイヌ語の聞き取りに対する校閲を行い，その結果を踏まえて二風谷アイヌ文化博物館及び千葉大学における講習会において，語学的なアドバイスをを行った。

校閲に関しては北海道大学の北原次郎太准教授と千葉大学文学部大学院生・関係者にも補助を依頼し，作業の効率化とチェック体制の強化を図った。アイヌ語の解釈に検討を要する場合は複数人でチェックし，より精度の高いアイヌ語の転写に努めた。

##### (2) アイヌ語音声資料の翻訳（和訳）

アイヌ語の転写と同時に日本語への翻訳を行った。まず，最初の転写と同時に仮訳を付けたものを送り，中川裕らが転写をチェック，校閲した後に担当者に戻した。校閲を受け

たテキストに改めて訳を付け、それを再度チェックするという形で丁寧に進めた。特に、意識に当たっては本来の解釈や世界観を損なうことのないよう注意を払った。

なお、これら(1)(2)の作業は、地元出身者のアイヌ語継承に向けた訓練ともなり、アイヌ語復興・継承運動の指導者養成にもつながるものとなっている。このことから、アイヌ語の継承ということを考えるならば、研究者だけによる(1)(2)の作業ではなく、今回のような、アイヌとしてのアイデンティティを持ち、アイヌ語の基礎的なトレーニングを受けた地元民が中心となって作業を進めるとい将来を見据えた形が有益であり、望ましい形態であると考えることができる。

表1 音声資料の内容

1. 話者及び採録の概要

収録順	氏名	生没年	出身地	収録年月日	調査員	収録媒体	テープ番号
1	貝澤とうるしの	1889-1982	二風谷	昭和44(1969)年1月22・23・26日	萱野茂	オープンリールテープ	1~6
2	平賀さだも	1895-1971	福満	昭和44(1969)年2月16・17日	萱野茂	オープンリールテープ	7~13
3	鍋澤ねぶき	1889-1974	去場	昭和44(1969)年2月18・19日	萱野茂	オープンリールテープ	14~17
4	平目よし	1899-1973	荷菜	昭和44(1969)年2月21・22日	萱野茂	オープンリールテープ	18~19
5	木村きみ	1900-1988	ペナコリ	昭和44(1969)年2月24日	萱野茂	オープンリールテープ	20~22
6	黒川てしめ	1895-1973	荷負本村	昭和44(1969)年4月15日	萱野茂	オープンリールテープ	22~24

2. アイヌ語音声の内容及び分数

収録順	氏名	ウエペケレ (散文説話)	カムイユカラ (神話)	ユカラ(英雄叙事詩)	ルバイエ (散文形式のユカラ)	言葉遊び	合計	分数
1	貝澤とうるしの	19	4			1	24	227分24秒
2	平賀さだも	8	3	11			22	368分24秒
3	鍋澤ねぶき	6	15		2		23	180分34秒
4	平目よし	4			1		5	100分02秒
5	木村きみ	7	1				8	107分02秒
6	黒川てしめ	9	6		1		16	151分53秒
	合計	53	29	11	4	1	98	
	分数	681分31秒	187分22秒	198秒06秒	67分02秒	1分18秒		1,135分19秒

※98編は物語の数ではなく、1トラックごとにカウントした数の合計（ユカラは長大なストーリー展開の中で幾つかに区切って整理しており、ウエペケレはオリジナル音源の中で1話を分断して収録しているものがみられるため）

表2 転写・翻訳の実績

年度	話者	ジャンル	ファイル	時間
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	1-⑧	0:08:25
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-②	0:13:57
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-④	0:10:04
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-⑥	0:08:18
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-⑧	0:02:18
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	2-⑨	0:07:24
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	3-②	0:09:12
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	3-④	0:14:41
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	4-②	0:11:56
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	4-④	0:09:33
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	4-⑩	0:10:47
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-②	0:11:39
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-④	0:04:41
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-⑥	0:11:08
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	5-⑧	0:10:59
25	貝澤とうるしの	ウエペケレ	6-③	0:11:40
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	1-④	0:06:29
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	1-⑥	0:08:04
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	3-⑥	0:09:40
25	貝澤とうるしの	カムイユカラ	4-⑧	0:03:51
25	貝澤とうるしの	言葉遊び	4-⑥	0:01:18
25	平賀さだも	ウエペケレ	10-①	0:22:26
25	平賀さだも	ウエペケレ	10-③	0:32:04
25	平賀さだも	ウエペケレ	11-①	0:07:15
25	平賀さだも	ウエペケレ	11-②	0:15:04
25	平賀さだも	ウエペケレ	11-④	0:14:09
25	平賀さだも	ウエペケレ	7-②	0:40:33
25	平賀さだも	ウエペケレ	8-⑧	0:02:25
25	平賀さだも	ウエペケレ	8-⑩	0:01:43
25	平賀さだも	カムイユカラ	8-②	0:11:07
25	平賀さだも	カムイユカラ	8-④	0:05:53
25	平賀さだも	カムイユカラ	8-⑥	0:17:39

年度	話者	ジャンル	ファイル	時間
25	平賀さだも	ユカラ	11-⑥	0:09:12
25	平賀さだも	ユカラ	12-②	0:25:11
25	平賀さだも	ユカラ	12-③	0:33:45
25	平賀さだも	ユカラ	12-④	0:05:07
25	平賀さだも	ユカラ	13-②	0:24:05
25	平賀さだも	ユカラ	13-④	0:30:41
25	平賀さだも	ユカラ	13-⑤	0:06:42
25	平賀さだも	ユカラ	9-②	0:21:40
25	平賀さだも	ユカラ	9-③	0:16:29
25	平賀さだも	ユカラ	9-④	0:11:15
25	平賀さだも	ユカラ	9-⑥	0:13:59
25	平目よし	ウエペケレ	18-②	0:23:56
25	平目よし	ウエペケレ	19-②	0:09:17
25	平目よし	ルパイェ	19-④	0:19:55
26	貝澤とうるしの	ウエペケレ	1-②	0:10:21
26	貝澤とうるしの	ウエペケレ	6-①	0:15:52
26	貝澤とうるしの	ウエペケレ	6-⑤	0:15:07
26	木村きみ	ウエペケレ	20-②	0:18:01
26	木村きみ	ウエペケレ	20-④	0:12:56
26	木村きみ	ウエペケレ	20-⑥	0:16:21
26	木村きみ	ウエペケレ	21-②	0:15:13
26	木村きみ	ウエペケレ	21-④	0:20:43
26	木村きみ	ウエペケレ	21-⑥	0:12:42
26	木村きみ	ウエペケレ	22-②	0:02:55
26	木村きみ	カムイユカラ	24-⑥	0:08:11
26	黒川てしめ	ウエペケレ	22-④	0:12:43
26	黒川てしめ	ウエペケレ	22-⑥	0:11:38
26	黒川てしめ	ウエペケレ	23-⑤	0:06:44
26	黒川てしめ	ウエペケレ	23-⑥	0:05:49
26	黒川てしめ	ウエペケレ	23-⑧	0:16:07
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-②	0:05:37
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-③	0:10:48
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-④	0:06:49
26	黒川てしめ	ウエペケレ	24-⑤	0:04:14



年度	話者	ジャンル	ファイル	時間
26	黒川てしめ	カムイユカラ	23-③	0:11:38
26	黒川てしめ	カムイユカラ	23-④	0:08:59
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑦	0:02:16
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑧	0:10:22
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑨	0:08:48
26	黒川てしめ	カムイユカラ	24-⑩	0:03:35
26	黒川てしめ	ルパイエ	22-⑦	0:25:46
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	14-⑦	0:10:01
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	14-⑧	0:08:16
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	15-⑮	0:12:45
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	16-⑩	0:18:24
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	17-②	0:27:44
26	鍋澤ねふき	ウエペケレ	17-⑥	0:11:13
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	14-②	0:01:40
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	14-④	0:10:11
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	14-⑥	0:06:06
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-②	0:07:42
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-④	0:02:25
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑥	0:07:28
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑧	0:02:43
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑩	0:03:25
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑫	0:02:37
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	15-⑬	0:06:20
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	16-②	0:02:02
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	16-④	0:07:34
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	17-④	0:01:41
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	17-⑧	0:03:53
26	鍋澤ねふき	カムイユカラ	17-⑩	0:05:03
26	鍋澤ねふき	ルパイエ	16-⑥	0:11:30
26	鍋澤ねふき	ルパイエ	16-⑧	0:09:51
26	平目よし	ウエペケレ	18-④	0:23:30
26	平目よし	ウエペケレ	19-⑤	0:23:24
			合計	18:55:19
※1-⑧は1号ディスクのトラック8であることを示す				(1,135分19秒)

## 6. 転写（聞き起こし）に時間の掛かる理由

きちんとした和訳や音声との逐一の対照を含まない一次作業としてのアイヌ語転写（聞き起こし）は、専門の研究者が、理想的な音声資料（現実にはめったにない）を用いて最も順調に行った場合でも、1時間の録音に対し最低3時間はかかっている現実がある。しかし、アイヌ語には、英語や日本語の聞き起こしとは異なる幾つかの大きな問題があり、一次作業だけを取っても、専門の研究者でも実際にはそれよりはるかに時間が掛かることが一般的である。

一つは、アイヌ語には、英語や日本語のような大規模な辞典が完備していないということである。平取町を含むアイヌ語沙流方言の辞典は、アイヌ語諸方言の中でも最も数多く出されているが、それでもJ・バチェラー『An Ainu-English-Japanese Dictionary』（1889-1938年）、田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』（1996年）、萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』（1996年）、そして一般には流通していない久保寺逸彦『アイヌ語辞典稿』（1992年）が主なものであり、信頼度に難点のあるバチェラーの2万語が最大の収録語彙数である。60万語を擁するオックスフォード英語辞典（第二版、1989年）や、50万語を擁する日本国語大辞典（第二版、2002年）とは比較にならない。これはアイヌ語研究者の怠慢というより、ひとえにこれまで文字を持たないアイヌ語（古い文字記録が残されていない）の言語研究に投入された年月と人材と資金の差によるものである。大規模な辞典がないということは、アイヌ語の音声資料の中には辞典に記載されていない単語や表現が数多く出てくるといって問題に直面するということにつながっている。また、アイヌ語は様々な要素を組み合わせる新しい語形を作り出すことが容易にできるのが文法的特徴であり、それらの語の形や意味は辞典に載っていないだけでなく、正しく捉えるには、文法的な深い知識が必要であるにもかかわらず、そうした知識を持つ専門の研究者は極めて少ないという問題もある。

二つ目には、アイヌ語には既にほとんど母語話者がいなくなっており、聞き取りにおける不明点を解明しようとしても、それを尋ねられる相手がいらないということである。そのため、不明点の解消のためには、これまで記録された数多くの資料から類似の表現を探していくということによって行わざるを得ない。しかし、調べるべき数多くの資料をそろえるといった環境を整えている専門の研究者でも、調べるべき資料が少なくなく、非常に時間のかかる作業であり、上記の「1時間の録音に対し最低3時間はかかっている現実」というのは、音声資料の録音状態がクリアであり、現存するアイヌ語辞典の範囲の単語で話されていることによって、他の資料を当たるといった作業を行わずに済んだ場合での一次作業の概算である。

さらに、音声の機械的な処理で文字化したくても、アイヌ語に対応するものはなく、人間が行うしかないという状況にある。

今回は計画書の中で「地元人材の育成」もうたっている。これは、機械的な処理では文字化できず、人間が行うしかないないにもかかわらず、アイヌ語を専門とする研究者の数

が極めて限られている中、数多く残されているアイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）や翻訳に必要な人材は明らかに不足している現実を踏まえ、アイヌとしてのアイデンティティを持つアイヌ自身がアイヌ語の復興・継承に携わる機会となり、今後のアイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）や翻訳のためのトレーニングにもなることを見込んでのものである。

こうした点を勘案し、平取町民及び関係者が行う録音1時間当たり10時間位の見込み（一次作業としての転写+仮和訳）を想定した。しかし、最終的な結果として得られた1時間当たりの作業時間は、平均して、ウエペケレ20時間、ユカラ30時間、カムイユカラ20時間、ルパイェ20時間、言葉遊び20時間と、当初の見込みを超えるものであった。平成25年度においてはこうした試みが初めてのことであり、理想的な音声資料と言えるものではなかったとは言え、予測のつかなかった部分である。平成26年度は前年度の実務を踏まえた上での転写（聞き起こし）ではあったが、何度か自分で聞き直しをしたり、辞書や他のテキストを調べたりなど、アイヌ語の力が向上したこととあいまって、一次作業の質的向上を目指した結果、意外と時間が掛かってしまうのが実際のところであった。

結果として、2年間中川裕の指導を受けて徐々に転写の精度を上げていくことができたものの、録音1時間当たりの作業時間を短縮するには至らなかった。

転写・翻訳担当者（平取町民及び関係者）はアイヌ文化振興・研究推進機構主催のアイヌ語指導者育成事業などに参加して、アイヌ語の基礎的な知識を得ており、その点では一般の人よりはるかにアイヌ語の聞き取り能力を持っている。しかし、アイヌ語の転写（聞き起こし）は単に音が聞き取れるだけでは済まない点がある。例えば、アイヌ語には人称接辞というものがある。これは、誰が何をしたかということを表すものであり、これを適切に把握しないと話の流れがまったく分からなくなる。今回の転写（聞き起こし）の対象は口承文芸であるが、アイヌの大部分の口承文芸においては、主人公が「私が～した。」という語り口で進んでいく。それは自動詞の場合、人称接辞anで表されるが、これは「いる」という意味のanと同形であり、「いる」という意味の動詞と区別するために=anという文法的な役割表示も含んだ表記を採用している。たとえばan=an「私が・いる」の前のanは「いる」という動詞であり、後部の=anは「私が」という人称接辞である。

この=anを人称接辞として捉えるには、アイヌ語に対する習熟度の向上が必要になる。たとえばhawean「言う」は、語源による分解をすればhawe an「声が・ある」だが、語源による分解に基づいて解釈してしまうと、hawe an anという表現が出てきたときにhawe an=an「声が 私が・いる」という意味不明の解釈になる可能性がある。実際にはhaweanは「（彼・彼女が）言う」であり、hawean=anは「私が言う」であって、これを間違えると話の理解ができなくなる。アイヌ語の音声資料は、話の理解ができて初めて文字で表記できるのである。こうした文法現象と聞き取り、解釈の深いつながりやを数度聞いただけで把握できるのは、専門の研究者の中でも一握りに限られている。今回使用した音声資料は、転写・翻訳担当者（平取町民及び関係者）のアイヌ語習熟度では、何度も何度も聞き直し、その上で研究

者からの指導を受けて初めて把握できるような高難度のものであった。こうしたレベルの音声資料が転写（聞き起こし）の対象となっていたことが、想定以上に時間がかかった理由の一つである。

また、アイヌ口承文芸の中で最も難しいのはユカラで、難解な固有名詞が度々登場する。こうした単語は慣れないと全く意味が分からない。例えば「Atuyya kotan」（アトゥイヤコタン：集落名）などがある。ユカラに出てくる言葉は、辞書に出てないものが多いので、慣れと類例検索が非常に重要となる。さらに、本来の発音に関係のない音を伴う節も度々出てくる。例えば「hawa」は、本来は「awa」なのだが、韻文中では頭に「h」を伴って発音されることが多々あり、こうしたものの聞き取りには通常の会話・散文に習熟したものでも、訓練が必要である。

こうした課題を抱えていることから、講習を2年間にわたって行うことで掛かる時間は大きく変わらないまでも、転写（聞き起こし）の精度は格段に向上した。

## 7. 翻訳に時間の掛かる理由

転写と翻訳は本来一体化した作業であり、意味を考えずに音だけ同定するということは、「6. 転写（聞き起こし）に時間のかかる理由」で示したとおり、特にアイヌ語では不可能である。音の聞き取りから意味を判定し、意味の解釈からフィードバックさせて音を再同定し、文字にするという絶え間ない作業が、実際の作業の際には行われるので、転写（聞き起こし）と翻訳を時間的に厳密に分離することはできない。

翻訳を行なう際の重要な問題は、転写（聞き起こし）と同じく網羅的に語彙を擁する大規模な辞典がないことと、不明点を尋ねられるような母語話者がいないことにある。それを補うに当たっては、検索をするための既存テキストの打ち込みという作業が有効である。既存のテキストの打ち込みを行うことによって、辞典に載っていない語の用例を見られるようになる可能性があるからである。大変な時間は掛かるが、専門の研究者の直接指導をすぐに受けられない現在の平取のような状況においても、転写（聞き起こし）や翻訳を行う際のデータベースを整えるということになる。翻訳を進めることと並行して作業を進めることになるが、転写・翻訳担当者のアイヌ語表現と文法の習熟度を上げることもつながるため、欠くことのできない作業であった。

また、ユカラの表現は、言わば『源氏物語』を訳すようなものなので、現代語の知識だけでは古典の『源氏物語』を訳したり、理解したりできないのと同じように、アイヌ語学習で学ぶ日常のアイヌ語の知識だけでは対応できず、ユカラ独特の表現に関する特別な知識が必要である。実際問題として、ユカラのテキストの翻訳作業を本格的に行った研究者は歴史的に見ても金田一京助、久保寺逸彦、萱野茂、蓮池悦子、奥田統己など、アイヌ語研究者の中でのごく少数の人間に限られると言ってよい。千葉大学教授中川裕自身、ルパイェと呼ばれる散文形式のユカラに関しては転写（聞き起こし）・翻訳の実績があるが、サコイエ「節つき」のユカラを丸々訳出した経験はない。したがって今回のような転写（聞き起こ

し)・翻訳担当者によってユカラの翻訳そのものにどのくらい時間が掛かるかは、あらかじめ想定すること自体が非常に困難であった。そのため、「転写(聞き起こし)・翻訳」とまとめて考えるしかなかった。

以上のような理由で、実際の作業は、転写(聞き起こし)と翻訳を合わせた時間が、当初の想定を大幅に超えるものになった。

なお、アイヌ口承文芸のテキスト作成に当たっては、音声資料をそのまま聞き起こしたものと翻訳だけでは不十分であり、注釈によって用語や世界観の解説を加えていくことが望ましい。平成26年度の調査研究では、どの部分に注釈を付ける必要がありそうで、どうい内容の注釈にすべきかといった具体的な検討を行い、注釈を付すこととした。

## 8. 謝金の計算方法とその考え方の妥当性

転写と翻訳は厳密には分離できないという考えの下、転写作業、翻訳を一体のものとして、音声資料1分当たり謝金単価1,400円ということで実施した(一連の作業として行なう必要があるため、転写と翻訳それぞれ個別に単価設定は行っていない)。

この金額設定については、アイヌ語の転写(聞き起こし)・翻訳に関わる人材の問題を考慮する必要がある。2か年にわたる転写(聞き起こし)・翻訳担当者(平取町民及び関係者)8名中7名は企業や自営業等の仕事に就いている。仕事の合間にアイヌ語上級講座(アイヌ文化振興・研究推進機構主催)を受講したり、地域住民にアイヌ語を教えたりして、自身のアイヌ語の向上に努めている。なお、本転写(聞き起こし)・翻訳担当者の内、4名は平取町二風谷アイヌ語教室の講師も務めている。

「アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究」は調査研究事業であって、アイヌを対象とした継続的な雇用対策事業として行なうわけではない。ただ、アイヌ語の転写(聞き起こし)・翻訳という特殊作業を通じた成果の提出を中心としつつも、今後のアイヌ語音声資料のアーカイブ化を考えた場合、その取組に寄与でき、公開された音声資料を使つての指導もできる、より高度な人材の育成という面もある。したがって事業期間のみ、アイヌ語の知識を十分に持つ専門の研究者数人に依頼して作業を行う形では、今後の展望をにらんでいる事業の趣旨に合わない。その上、研究者数人だけでは、転写(聞き起こし)・翻訳のできる量も限られてしまう。できる量を増やしたくても、必要な人数だけ専門の研究者を確保すること自体が実現困難であるという現実がある。

母語話者でない人間が、網羅的で大規模な辞典や詳細な文法書も完備していない言語について、しかも他人の録った音声資料の分析を行うということは、千葉大学教授中川裕のような専門の研究者でも苦勞するところである。自分が採録したものであれば不明点をその時に質したり、別の機会に録った音声資料を参照したりして補えるが、他人の録音したものは、音質がクリアである保証もない中で、ただその音声だけを手掛かりに解釈することになるので、非常に困難が伴うのが一般的である。したがって、網羅的で大規模な辞典や詳細な文法書が完備されており、母語話者に確認も取りやすい英語やフランス語の翻訳

と同様に捉えることはできない。文字を持っている言語においては、正書法も確立されていることが多く、音声の転写（聞き起こし）もやりやすい上、通常の翻訳は確定された文章がそこにあるわけだが、アイヌ語の音声資料の分析というのは、文章の確定からやっつけていかなければならないので、通常の文字資料の翻訳とは根本的に違っている。

文化庁の平成25年度謝金単価によると、原稿作成1枚（400字）当たりの単価は1,800円であり、英文和訳の翻訳1枚（400字）当たりの単価は4,000円である。400字詰め原稿用紙1枚分が口頭での大体1分くらいになると言われていることを考えると、一からの構築作業を含むアイヌ語の転写（聞き起こし）・翻訳作業の謝金を、1分当たり単価1,400円とした設定は東京に対する北海道という地域差を勘案しても、決して高すぎることはなく、少し安いかな線だったと考えられる。

なお、北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、日額（北海道単価）で学生などの作業員を雇用し、センターに常駐する研究員の指導の下で作業を行なっている。これは、道内主要大学が集まっている札幌市にあり、アイヌ語を専門とする研究者のいる機関のやり方として可能なものである。平取町立二風谷アイヌ文化博物館を拠点に行なう場合は日々の指導も含めて難しい部分があり、同じように行うことはできない。今後、アイヌ語音声資料の転写（聞き起こし）・翻訳が行われる場合、札幌市のような環境にあるところはほかにはなく、謝金を換算するためには、音声資料の1分当たりの単価を設けるやり方が現実的である。

将来的に人材が増えていけば、ノウハウも増えて作業効率が上がり、雇用等のやり方も検討の余地が出てくるかもしれないが、現時点では担当した音声資料の分単価で謝金を計算して成果を提出してもらう方法が妥当と考えられる。

## 9. 使用した音声データの内容と録音状態の特徴

本事業の音声資料は、平取町教育委員会が主体となって昭和44年に記録した、アイヌ口承文芸のオープンリールテープである。総録音時間は、1,478分03秒で、録音されている内容の内訳は、ウエペケレ:681分31秒、カムイユカラ:187分22秒、ユカラ198分06秒、ルパイエ:67分02秒、言葉遊び:01分18秒、萱野茂氏によるインタビュー・録音内容の説明等（転写の実績は表3のとおり）:342分44秒である。

記録後今日に至るまで非公開の資料であり、アイヌ語アーカイブ作成のための調査研究に用いる音声資料として量的にも十分なものがあり、かつ保存状態はかなり良好である。採録者6名の居住地は沙流川流域の各地にわたっており、全員が流暢なアイヌ語話者である。したがって母語話者ならではの発声と滑らかさのある語りとなっており、アイヌ語・アイヌ口承文芸のアーカイブ化に適した音源と言える。

保存されている録音メディアは、アナログのオープンリールテープであり、録音から40年以上がたっており、どうしてもノイズが含まれてしまう状態ではあるが、保存状態が良かったことで、同じ年数を経過した音声資料としては、かなり音質も良い方に分類される。

表3 萱野茂氏によるインタビュー・録音内容の説明等 転写実績

話者	ファイル	時間	話者	ファイル	時間
貝澤とうるしの	1-①	0:03:28	鍋澤ねぶき	14-③	0:03:10
貝澤とうるしの	1-③	0:06:04	鍋澤ねぶき	14-⑤	0:00:57
貝澤とうるしの	1-⑤	0:03:14	鍋澤ねぶき	14-⑨	0:05:31
貝澤とうるしの	1-⑦	0:04:00	鍋澤ねぶき	14-⑩	0:00:27
貝澤とうるしの	1-⑨	0:05:31	鍋澤ねぶき	15-①	0:00:17
貝澤とうるしの	2-①	0:00:25	鍋澤ねぶき	15-③	0:01:26
貝澤とうるしの	2-③	0:06:17	鍋澤ねぶき	15-⑤	0:01:05
貝澤とうるしの	2-⑤	0:06:37	鍋澤ねぶき	15-⑦	0:03:13
貝澤とうるしの	2-⑦	0:06:36	鍋澤ねぶき	15-⑨	0:01:50
貝澤とうるしの	3-①	0:02:57	鍋澤ねぶき	15-⑪	0:03:05
貝澤とうるしの	3-③	0:06:49	鍋澤ねぶき	15-⑭	0:00:48
貝澤とうるしの	3-⑤	0:06:06	鍋澤ねぶき	15-⑯	0:04:25
貝澤とうるしの	3-⑦	0:06:25	鍋澤ねぶき	16-①	0:00:39
貝澤とうるしの	4-①	0:00:18	鍋澤ねぶき	16-③	0:02:40
貝澤とうるしの	4-③	0:07:21	鍋澤ねぶき	16-⑤	0:03:30
貝澤とうるしの	4-⑤	0:06:19	鍋澤ねぶき	16-⑦	0:00:57
貝澤とうるしの	4-⑦	0:01:48	鍋澤ねぶき	16-⑨	0:01:53
貝澤とうるしの	4-⑨	0:03:00	鍋澤ねぶき	16-⑪	0:01:44
貝澤とうるしの	4-⑪	0:05:29	鍋澤ねぶき	17-①	0:00:18
貝澤とうるしの	4-⑫	0:00:28	鍋澤ねぶき	17-③	0:01:40
貝澤とうるしの	5-①	0:00:34	鍋澤ねぶき	17-⑤	0:02:35
貝澤とうるしの	5-③	0:07:29	鍋澤ねぶき	17-⑦	0:05:51
貝澤とうるしの	5-⑤	0:03:12	鍋澤ねぶき	17-⑨	0:06:03
貝澤とうるしの	5-⑦	0:07:38	平賀さだも	10-②	0:09:37
貝澤とうるしの	5-⑨	0:05:02	平賀さだも	11-③	0:06:00
貝澤とうるしの	5-⑩	0:00:14	平賀さだも	11-⑤	0:09:21
貝澤とうるしの	6-②	0:09:47	平賀さだも	11-⑦	0:00:21
貝澤とうるしの	6-④	0:08:36	平賀さだも	12-①	0:00:30
貝澤とうるしの	6-⑥	0:02:45	平賀さだも	13-①	0:00:25
木村きみ	20-①	0:06:17	平賀さだも	13-③	0:02:26
木村きみ	20-③	0:07:08	平賀さだも	7-①	0:03:37
木村きみ	20-⑤	0:00:29	平賀さだも	8-①	0:00:25
木村きみ	20-⑦	0:01:11	平賀さだも	8-③	0:03:31
木村きみ	20-⑧	0:00:14	平賀さだも	8-⑤	0:04:35
木村きみ	21-①	0:00:15	平賀さだも	8-⑦	0:08:59
木村きみ	21-③	0:13:09	平賀さだも	8-⑨	0:02:45
木村きみ	21-⑤	0:01:21	平賀さだも	8-⑪	0:02:23
木村きみ	22-①	0:00:12	平賀さだも	8-⑫	0:01:06
黒川てしめ	22-③	0:00:21	平賀さだも	9-①	0:00:15
黒川てしめ	22-⑤	0:05:11	平賀さだも	9-⑤	0:00:46
黒川てしめ	22-⑧	0:03:48	平目よし	18-①	0:03:31
黒川てしめ	23-①	0:00:24	平目よし	18-③	0:11:03
黒川てしめ	23-②	0:06:08	平目よし	18-⑤	0:00:11
黒川てしめ	23-⑦	0:02:34	平目よし	19-①	0:00:28
黒川てしめ	24-①	0:00:13	平目よし	19-③	0:10:06
黒川てしめ	24-⑪	0:00:20	平目よし	19-⑥	0:00:45
鍋澤ねぶき	14-①	0:05:27	平目よし	7-③	0:16:23
			合計		5:42:44
					(342分44秒)

※1-①は1号ディスクのトラック1であることを示す

平取町として、将来的な保存と活用を意図して、オープンリールテープのオリジナル音声資料を特別な加工をせずに、平成23年にデジタル化しており、今回の調査研究では、主にデジタル化された音声資料を使用し、オリジナルは必要のある場合に限り確認のために用いている。

なお、アナログの音声資料やパソコン等での作業ができないデジタル音声資料（MD、DAT等）しかない場合、アイヌ語アーカイブを作成するに当たっては、まずはMP3などパソコンで作業のできる形式でのデジタル化の作業が必要となるのは、言うまでもない。

#### 10. アイヌ語音声データをデジタル化するに当たっての留意点

音声資料のデジタル化については、アナログでは劣化してしまい早晩聞くことができなくなるので、非常に緊急性が高い。また、MDやDATで保存されている音声資料も、再生できる機器がいつまで使えるかという問題が生じており、やはりパソコンで作業できる形式で保存し直す必要がある。北海道所有のアナログ音声資料は、北海道立アイヌ民族文化研究センターによってデジタル化がほぼ完了している。しかし、北海道内の市町村では、アイヌ語のアナログ音声資料を持っていても、保存することで精一杯で、デジタル化の必要性を認識しているところは余りない上、仮に認識されても、生活に密着している施策が優先されやすいことから、アイヌ語のアナログ音声資料のデジタル化の優先順位が高くなることはなかなか期待できない状況にある。デジタル化の必要性を周知し、その緊急性に鑑みて、国としてデジタル化に取り組むことが必要である。貴重な音源を保存・活用していくためには、アナログ音声資料が使えない状態になる前の今しかない。アナログ音声資料のデジタル化については、アイヌ政策推進会議政策推進作業部会でも委員から課題として発言があった事柄であり、アイヌ政策を推進する方向性としては、アイヌの委員を含む有識者の考える方向性とも合致しているものである。

ただし、音楽的な音声資料と異なり、言語資料のデジタル化に当たっては、単純なノイズ低減のような調整を行うと、特に摩擦音系の子音はそれ自体がノイズのように聞こえるため、かえって正確に聞き取れなくなってしまう場合がある。したがって、ノイズ低減を行う場合は、何回か違う条件で聞き取り実験を行い、その音声資料にとって最適な設定を見いだした上でデジタル化しないと、むしろ音質劣化を起こすことになってしまう危険がある。それだけに、アナログ音声を単純にデジタル化する形での費用計算ではなく、専門の研究者の協力を得てノイズ軽減などの処理を行うことを含めての費用計算をする必要がある。

#### 11. 一般的に、アイヌ語の音声資料の転写（聞き起こし）や翻訳の作業に携われる人材がどの位いると推定されるか

千葉大学教授中川裕と同様の精度と速さでアイヌ語の転写・翻訳を行える人材は、全国でおそらく10人に足りないであろう。そのほとんどは大学や研究機関の研究者であり、ア



アイヌとしてのアイデンティティーを持っている人材は、その中のまたごく一部である。さらに、今回の転写（聞き起こし）・翻訳担当者（平取町民及び関係者）と同じくらいの速度と精度でその作業を行える人材ということであれば、大学でアイヌ語を専攻している学生なども含めれば、全国で30人くらいと推察される。

今後、アイヌ語の研究やアイヌ語の継承運動を充実させていくためには、大学や研究機関の関係者以外にも裾野を広げて、特に、アイヌとしてのアイデンティティーを持っている人材を育成していく必要がある。

## 12. 北海道内にあるアイヌ語音声資料のデジタル化の状況について

現在、北海道が所有するアイヌ語音声資料は、北海道立アイヌ民族文化研究センター、北海道開拓記念館、北海道立北方民族博物館、北海道立図書館に収められている。それらの音声資料は北海道立アイヌ民族文化研究センターによってデジタル化がほぼ完了している。さらにその内、約5割は同センターホームページ内の「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」で公開されている。

これは、音声の概要は紹介されているが、音声聞けるだけで、転写（聞き起こし）や翻訳は付されていない。

また、市町村が所有するアイヌ語音声資料や個人が所有するアイヌ語音声資料については、その全てが把握されているわけではないが、デジタル化を行っているという情報があるのは、ごく一部のもの（例えば帯広市、平取町所有の内の一部）である。また、北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、森町教育委員会の村岡文庫中のピリカ会関係資料、伊達市噴火湾文化研究所のジョン・バチラー資料、長万部町教育委員会録音資料、弟子屈町教育委員会の更科源蔵資料について、徐々にではあるがデジタル化及び整理・保存が進められている。

それ以外は、アナログのまま保管されており、デジタル化が急がれる。

## 13. 文法タグのサンプルについて

今回の事業計画の一つとして、今後アイヌ語音声資料のアーカイブ化を行い、テキストの一般公開を行っていくに当たり、その語学的理解に必要な文法情報をテキスト上で単語単位に付与する（これを「文法タグ」と呼ぶ）方式を検討することが含まれている。これについては、国立国語研究所特任准教授アンナ・ブガエワ氏が開発し、千葉大学人文社会科学部科学研究科博士後期課程院生小林美紀が木村きみ氏（今回の平取町資料の話者の一人）のテキストに適用したものを以下に提示する。より普遍性を持つ、研究者向けの形式としては左端の「略語」を使うことになろうが、専門家ではない一般の利用者を対象にした形式としては、右端の「日本語グロス」を付すことになるだろう。

略語	英語	日本語	日本語グロス
1/2/3/4	1st /2nd / 3rd / 4th person	1/2/3/4 人称	1/2/3/4
∅	zero-marked 3rd person	ゼロマーカ-3 人称	
=	inflectional boundary in the morphemic line	屈折の境界	=
-	derivational boundary in the morphemic line	派生の境界	-
A	transitive subject	他動詞主語	他主
ADV	adverbial	副詞的	副形成
AO	applicative object	充当相の目的語	
APASS	antipassive	逆受動	人/もの
APPL	applicative	充当相	
ARG	argument	項	
AUX	auxiliary verb	助動詞	助動
CAUS	causative	使役	～させる
CLF	classifier	類別	
COHR	cohortative	勧誘	～しよう
COMP	complementizer	補文標識	ということ
COP	copula	コピュラ	である
DIM	diminutive	指小辞	指小辞
DESID	desiderative	願望	～したい
EMP	emphatic particle	強調詞	も
EP	epenthetic consonant	挿入子音	挿入子音
EXC	exclusive	除外的	除外
EXCL	exclamatory particle	感嘆詞	よ/ね
FIN	final particle	終助詞	よ/ね/な/ぞ/ぜ
INC	inclusive	包括的	包括
INDF	indefinite	不定	4 人称
INFR.EV	inferential evidential	推量の証拠性	～の
IMP . POL	imperative polite	命令丁寧形	命令.丁寧
NEG	negative particle	否定	ない
NONVIS.EV	nonvisual evidential	非視覚的感覚の証拠性	～の感じ
NMLZ	nominalizer	名詞化辞	名詞化
O	object	目的語	目
PERF	perfect	完了	完了

PL	plural	複数	複
POSS	possessive	所有	所有
P.RED	partial reduplication	部分的重複	
PROH	prohibit	禁止	決して～するな
RES	resultative	結果態	～された
Q	question particle	疑問詞	か
REC	reciprocal	相互	互い
REFL	reflexive	再帰	自分
REP .EV	reportive evidential	伝聞の証拠性	～そう
S	intransitive subject	自動詞主語	自主
SG	singular	単数	単
SGST	suggestive particle		だろう
SOC	sociative	共格	共に
sth	something	不定	もの
TOP	topic	主題	～は
VBLZ	verbalizer	動詞化辞	動詞化辞
VIS .EV	visual evidential.	視覚の証拠性	～の様子
TVS	transitivation suffix	他動詞形成接尾辞	他形成
IVS	intransitivation suffix	自動詞形成接尾辞	自形成
PF	prefix	接頭辞	接頭

以下にサンプルとして、中川裕が1981年9月19日に、木村きみ氏から採録したウエペケレ（整理記号 K8109193UP）に、この方式の文法タグを施したものを一部例示する。アイヌ語原文、略号、日本語グロス（「日グ」と略）、和訳の順に並べる。単語の区切りは空白で示し、一つの形式に複数のタグがつけられる場合は、「.」（ピリオド）でそれを示す。

原文：a=sa-ha                                    an            a=yup-ih                                    tun  
 略号：4. POSS=older. sister-POSS   exist. SG   4. POSS=older. brother-POSS   two-person. CLF  
 日グ：4. 所有=姉-～の                                    ある. 単   4. 所有=兄-～の                                    2-人  
 和訳：私には姉が（ひとり）いて、兄がふたり

原文：an            hine oka=an  
 略号：exist. SG and exist=PL. 4. S  
 日グ：ある. 単   して  ある. 複=4. 自主  
 和訳：いた。

原文：pak katkemat isam katkemat a=sa-ha ne wa  
略号：till wife not.exist wife 4. POSS=older. sister-POSS COP and  
日グ：～まで 奥さん ない 奥さん 4. 所有 姉-～の ～である して  
和訳：姉は、並ぶものがない立派な女性である

原文：ne kuni a= ramu  
略号：COP COMP 4. A= think  
日グ：～である と 4. 他主= ～を思う  
和訳：と私は思っていた。

原文：a=yup-utar-ih i a=sa-ha ye pe  
略号：4. POSS=older. brother-PL-POSS 4. POSS=older. sister-POSS say thing  
日グ：4. 所有=兄-複数-～の 4. 所有=姉-～の ～と言う もの  
和訳：兄たちは、姉の言うことを何でも

原文：nu pa wa  
略号：hear PL and  
日グ：～を聞く 複数 して  
和訳：聞いて、

原文：nennen i-ki pa kor  
略号：various APASS-do PL and  
日グ：いろいろと もの-～をする 複数 ながら  
和訳：いろいろなことをやって

原文：oka=an pe ne a p  
略号：exist. PL=4. S thing COP PERF. SG while  
日グ：ある. 複 4. 自主 もの ～である 完了. 単 だが  
和訳：暮らしていたが、

原文：a=yup-utar-i rupne pa hi orano  
略号：4. POSS=older. brother-PL-POSS grow. up PL time then  
日グ：4. 所有=兄-複数-～の 大きい 複数 とき それから  
和訳：兄たちは成長すると、

原文：yuk ci-koyki-p kamuy ci-koyki-p  
 略号：deer 1PL.A-kill-thing bear 1PL.A-kill-thing  
 日グ：シカ 私たち〜をとる-もの クマ 私たち〜をとる-もの  
 和訳：シカやクマを

原文：nuwe ko-oka  
 略号：abundant.game to.APPL-exist.PL  
 日グ：たくさんの獲物 〜に対して-ある.複  
 和訳：たくさん捕ってきた。

原文：nep a=e rusuy nep a=kor rusuy somo ki  
 略号：what 4.A=eat DESID what 4.A=have DESID NEG do and  
 日グ：何 4.他主=〜を食べるしたい何 4.他主=〜を持つ したい 否定 〜をする して  
 和訳：私は何を食べたいとも欲しいとも思わずに暮らし、

原文：si-poro cise or ta ineapta nispa an usi  
 略号：true-be.big house place at EXCL rich.man exist.SG place  
 日グ：本当-大きい 家 〜のところ 〜に なんとまあ ニシパ ある.単 ところ  
 和訳：とても大きな家に（いたが、その家は）たいそう立派な長者の家

原文：ne wa sir-an ya ka a=eramiskari  
 略号：COP and appearance-exist.SG Q even 4.A=not.know  
 日グ：〜である して 様子-ある.単 か も 4.他主= 〜を知らない  
 和訳：のようであった。

原文：coypep ne manu pe sorekusu tu ikir ne ka  
 略号：dish COP called thing exactly two pile as even  
 日グ：皿 〜である とかいう もの それこそ 2 まとまり 〜としても  
 和訳：宝物の食器というものも、二重の列をなして

原文：u-sos-kamu no sir-an ruwe ne  
 略号：REC-layer-cover.sth? and appearance-exist.SG INFR.EV COP  
 日グ：互い-重なり-〜を覆う? して 様子-ある.単 〜のこと 〜である  
 和訳：積み重なっていた。

原文：ruwe ne hine oka=an ruwe ne a p  
略号：INFR. EV COP and exist. PL 4. S INFR. EV COP PERF. SG while  
日グ：～のこと ～である して ある. 複=4. 自主 ～のこと ～である 完了. 単 だが  
和訳：そうやって暮らしていたところ,

原文：a=sa-ha ene haw-e-an hi  
略号：4. POSS=older. sister-POSS like. this voice-POSS-exist. SG thing  
日グ：4. 所有=姉-～の このように 声-～の-ある. 単 こと  
和訳：姉がこのように言った。

#### 14. アイヌ語音声資料のアーカイブ化のための設計図

2年間にわたる調査研究の成果を基に、アイヌ語音声資料のアーカイブ化の手順を整理すると、次のようになる。

ここで示した手順、様式で各地の音声資料のアーカイブ化が行われれば、横断的な検索にも資するものとなり、各地がばらばらに実施するよりも有益なアーカイブが構築されるので、この方向で進められることを期待する。

- ①アイヌ語のアナログ音声資料又はMD, DATに収録された音声資料のデジタル化  
→ パソコンで作業のできるMP3などの形式にする。
- ②デジタル化された音声資料のデータの整理  
→ 録音年月日、収録者名及び被収録者名、被収録者の生年月日・出身地等、収録場所、収録時間、収録内容等を記録し、収録内容に基づいてトラックに分割する。
- ③音声資料の一次転写（書き起こし）及び仮和訳  
→ 音声資料を、音素表記を用いて転写（書き起こし）をし、仮和訳を行う。
- ④一次転写（書き起こし）及び仮和訳の確認  
→ アイヌ語研究者の協力を得て、一次転写（書き起こし）及び仮和訳の確認を行う。
- ⑤二次転写（書き起こし）及び和訳、注釈の作成  
→ アイヌ語研究者の指摘を踏まえて、転写（書き起こし）を修正し、和訳を調える。さらに、必要な注釈を作成する。
- ⑥二次転写（書き起こし）、和訳及び注釈の確定  
→ アイヌ語研究者の協力を得て、二次転写（書き起こし）、和訳及び注釈の確認を行い、確定する。
- ⑦片仮名表記の作成と文法タグの作成

→ 確定した転写（書き起こし）に基づいて片仮名表記を加える。また、アイヌ語研究者の協力を得て、必要な文法タグを作成する。

⑧アーカイブとして公開する形式に調整

→ アーカイブとして公開するために、音声資料，転写（書き起こし），片仮名表記，和訳，注釈，文法タグを組み合わせる。

⑨アーカイブの公開

→ 音声資料を所有・管理するところで、アーカイブとして公開する。

音素表記による転写（書き起こし）は、次の音節表に基づいて実施したが、今後の転写（書き起こし）においても、横断的な検索の便を考えると、同様の音節表に基づくことが望まれる。なお、「子音+母音+子音」という音節(例 kik キク)もあるが、ここでは表記の例として「母音+子音」を挙げておく。

母音

a	i	u	e	o
---	---	---	---	---

子音+母音

ka	ki	ku	ke	ko
sa	si	su	se	so
ta		tu	te	to
ca	ci	cu	ce	co
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	hu	he	ho
pa	pi	pu	pe	po
ma	mi	mu	me	mo
ya	yi	yu	ye	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa	wi	wu	we	wo

母音+子音

ak	ik	uk	ek	ok
as	is	us	es	os
at	it	ut	et	ot
an	in	un	en	on
ap	ip	up	ep	op
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy

ar	ir	ur	er	or
aw	iw		ew	ow
母音				
ア	イ	ウ	エ	オ
子音+母音				
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ		トウ	テ	ト
チャ	チ	チュ	チェ	チョ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	イエ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ	ウイ	ウ	ウエ	ウオ
母音+子音				
アク	イク	ウク	エク	オク
アシ	イシ	ウシ	エシ	オシ
アツ	イツ	ウツ	エツ	オツ
アン	イン	ウン	エン	オン
アプ	イプ	ウプ	エプ	オプ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アラ	イリ	ウル	エレ	オロ
アウ	イウ		エウ	オウ

片仮名表記への変換は、「アイヌ語ローマ字カナ変換 HTML Application」(<http://www.geocities.jp/aynuitak/WEBhenkan/chiyu.htm>) を用いて実施したが、今後の片仮名変換においても、横断的な検索の便を考えると、同様の表記を用いることが望まれる。

文法タグについては、「13. 文法タグのサンプルについて」に基づいて行われることが望まれる。



## 15. 事業報告会の実施

2か年にわたる調査研究の成果報告会を開催した。会場は札幌市と平取町で行い、本事業の概要説明と音源の調査報告を行った。その上でアイヌ口承文芸の楽しみ方、アイヌ語音声資料の重要性、故萱野茂による音声保存の意義等についての講演を行った。

また、平成27年度以降の「アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化事業」につながり得る音源の所在情報の提供を一般聴衆に呼び掛ける場ともした。

事業名称 文化庁委託事業 アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究報告会「アイヌ語の未来を考える - 音声資料をいかに活用していくか -」

事業内容 文化庁ではアイヌ語音声資料のデジタル化・アーカイブ作成のための調査研究事業を進めている。平成25年度からは、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の資料を対象に、町内外の関係者と千葉大学の協力を得ながら、基礎的な整理作業と研究を行った。

この資料は、同町教育委員会が故萱野茂氏に調査員を委嘱して昭和44年に記録したもので、6名の語り手はいずれも沙流川流域に暮らした流暢なアイヌ語話者である。

本報告会では、アイヌ口承文芸の魅力や、萱野氏の調査活動を紹介するとともに、この間の成果を取りまとめて報告する。

札幌会場 平成27年1月31日（土） 13:00～16:00（開場12:30）  
北海道大学学術交流会館第一会議室 札幌市北区北8条西6丁目

平取会場 平成27年2月1日（日） 13:00～16:00（開場12:30）  
沙流川歴史館レクチャーホール 沙流郡平取町二風谷227-2  
※札幌会場、平取会場ともに同様の内容で実施

次 第	13:00～13:05	開会あいさつ
	13:05～13:25	概要説明 「アイヌ語の保存・継承に係る文化庁の取組」 鈴木仁也（文化庁文化庁国語課国語調査官）
	13:25～13:40	報 告 「調査・研究の成果について」 関根健司（平取町二風谷アイヌ語教室講師）
	13:40～14:40	講演 1 「アイヌ口承文芸と音声資料」 中川 裕（千葉大学文学部教授）
	14:40～14:50	休 憩
	14:50～15:45	講演 2 「沙流のアイヌ口承文芸 - 萱野茂による記録 -」

萱野志朗（平取町二風谷アイヌ語教室事務局長）

15:45～16:00 質疑・応答

16:00 閉 会

主 催 文化庁，国立大学法人千葉大学，国立大学法人北海道大学アイヌ・先住民研究センター，平取町教育委員会

来場者数 札幌会場 82 名 平取会場 52 名 合計 134 名

アンケート集計結果 表 4・5 参照

成 果 報告会の開催内容(Q1)については，アンケートの多くが「とてもわかりやすかった」，「まあまあわかりやすかった」との回答であった。音声資料の一般普及に主眼をおいた報告会で，言語学的な専門領域に大きく踏み込む内容としなかったことが一般聴衆の理解度につながったとみられる。Q2の満足度についても，高い支持を得ることができた。理由はQ1と同様と考えられる。Q3の特に良かったものについては，中川裕の講演が最も高い票を得た。アイヌ口承文芸の内容やジャンル毎の説明，実際の音声披露が関心を引いた結果ともみられる。Q4の設問は，本アンケートで最も顕著な傾向が表れた。文化庁によるアイヌ語の保存・継承の取組が国語課主体で行われていることについて，認知度が低いことが示されることとなった。その一方、Q5・Q6の設問からは、大多数がアイヌ語のアーカイブ化に対して肯定的であることが分かった。アイヌ語の普及に対する一般の要望・関心を示す傾向と考えられ，本事業の意義についても，報告会で伝えることができたと考えられる。

表4 事業報告会アンケート集計結果1

札幌会場 平成27年1月31日(土)  
 会場：北海道大学学術交流会館 第一会議室  
 回答者数：54名

Q1 本日の報告会の内容は、全体として分かりやすかったですか

ア	とてもわかりやすかった	33
イ	まあまあわかりやすかった	19
ウ	余り分かりやすくなかった	0
エ	全く分かりやすくなかった	0
無記入		2

Q2 本日の報告会の内容には、全体として満足できましたか

ア	とても満足できた	28
イ	まあまあ満足できた	21
ウ	余り満足できなかった	3
エ	全く満足できなかった	0
無記入		2

Q3 特に良かったものは、どれでしょうか(複数回答)

ア	概要説明「アイヌ語の保存・継承に係る文化庁の取組」	11
イ	報告「調査・研究の成果について」	12
ウ	講演1「アイヌ口承文芸と音声資料」	38
エ	講演2「沙流のアイヌ口承文芸 - 萱野茂による記録 -」	14
オ	一つもなかった	0
無記入		6

Q4 文化庁が、アイヌ文化振興・研究推進機構を経由しない形でも、アイヌ語の保存・継承の取組を行っていることを知っていましたか

ア	知っていた	9
イ	知らなかった	43
無記入		2

Q5 アイヌ語の音声資料を聞くことができるアーカイブが公開されたら、使ってみたいですか

ア	使ってみたい	49
イ	使ってみたくない	0
無記入		5

Q6 アイヌ語のアナログ音声資料のデジタル化や、アイヌ語音声資料によるアーカイブ作成は、アイヌ語の保存・継承のために進めるべきであると考えますか

ア	進めるべきである	50
イ	進める必要はない	0
無記入		4

回答者

北海道内	42	男性	26
北海道外	7	女性	18
無回答	5	無回答	10

10代	0	50代	6
20代	15	60代	10
30代	4	70歳以上	8
40代	6	無回答	5

表5 事業報告会アンケート集計結果2

平取会場 平成27年2月1日(日)  
 会場：沙流川歴史館 レクチャーホール  
 回答者数：36名

Q1 本日の報告会の内容は、全体として分かりやすかったですか

ア	とてもわかりやすかった	21
イ	まあまあわかりやすかった	15
ウ	余り分かりやすくなかった	0
エ	全く分かりやすくなかった	0
無記入		0

Q2 本日の報告会の内容には、全体として満足できましたか

ア	とても満足できた	19
イ	まあまあ満足できた	15
ウ	余り満足できなかった	2
エ	全く満足できなかった	0
無記入		0

Q3 特に良かったものは、どれでしょうか(複数回答)

ア	概要説明「アイヌ語の保存・継承に係る文化庁の取組」	5
イ	報告「調査・研究の成果について」	13
ウ	講演1「アイヌ口承文芸と音声資料」	25
エ	講演2「沙流のアイヌ口承文芸 - 萱野茂による記録 -」	12
オ	一つもなかった	0
無記入		2

Q4 文化庁が、アイヌ文化振興・研究推進機構を経由しない形でも、アイヌ語の保存・継承の取組を行っていることを知っていましたか

ア	知っていた	11
イ	知らなかった	25
無記入		0

Q5 アイヌ語の音声資料を聞くことができるアーカイブが公開されたら、使ってみたいですか

ア	使ってみたい	33
イ	使ってみたくない	3
無記入		0

Q6 アイヌ語のアナログ音声資料のデジタル化や、アイヌ語音声資料によるアーカイブ作成は、アイヌ語の保存・継承のために進めるべきであると考えますか

ア	進めるべきである	33
イ	進める必要はない	0
無記入		3

回答者

北海道内	35	男性	14
北海道外	0	女性	17
無回答	1	無回答	5

10代	2	50代	9
20代	5	60代	2
30代	4	70歳以上	4
40代	9	無回答	1

## 凡 例

- ・各話のタイトルは、原資料（オープンリール）の箱に萱野茂氏が記したものをそのまま使用した。ただし、和訳は各担当者による。  
また、原資料にタイトルがない話については、担当者が適宜つけた。
- ・アイヌ語カナ表記は話者の発音をそのまま記したが、ローマ字表記においては単語の切れ目などがわかるように分析した表記をとっている。そのため、両者の間にずれが生じる場合もある。  
例) **sekor** 「〜と」の **e** が弱化している場合は、「シコロ／**sekor**」とそれぞれ表記。
- ・アイヌ語ローマ字表記は、中川裕、1995『アイヌ語千歳方言辞典』（草風館）の表記方法に準拠した。
- ・アイヌ語カナ表記は、インターネット上のアイヌ語変換プログラム（「アイヌ語ローマ字カナ変換 HTML Application」<http://www.geocities.jp/aynuitak/WEBhenkan/chiyu.htm>）を使用したため、上記のプログラムによる表記に従っている。詳細は「事業の概要」23-24 ページ参照。
- ・アイヌ語のなかに日本語が混じる場合、ローマ字表記ではローマ字の大文字、カナ表記ではひらがなで記した。
- ・言いさし（言いかげ）は、… もしくは …… で示した。
- ・音が変化する部分は、変化する部分の直後にアンダーバーで表した。  
（例：オッタ→**or\_ ta** / アンマ→**an w\_a**）
- ・聞き起こし・解釈に疑問が残る部分は、直後に(?) を付した。
- ・不明点は、**XXX** であらわした。
- ・何らかの理由で、単語の一部のみが発音されている場合などは（ ）でその内容を補った。  
例) ソンだけしか聞こえないが、ソンコ **sonko** 「伝言」の意味だと考えられる場合  
ソン (コ) **son(ko)**

- ・英雄叙事詩において、韻律の都合による挿入音が聞こえる場合、カナ表記ではそれも反映している。ローマ字表記においては [ ] で記した。これは文法上・解釈上は意味のない音である。
- ・和語解説中においてアイヌ語が混じる場合、ローマ字で表記し、意味は、読んだときにわかる程度におぎなった。その場合は、直後に亀甲カッコ [ ] の中に意味を入れている。
- ・語釈などについては各担当者の判断にゆだね、全体として統一はしていない。同じ語であっても、語の区切り・和訳などに違いがあるのはそのためである。
- ・なお、テキストのうち、01-01、07-01、13-03、14-01、18-01、20-01、22-05、23-02、23-07 については、個人情報を含む内容のため、非公開とした。

## 参考文献略称

- 『アイヌの叙事詩』：鍋沢元蔵（筆録）、門別町郷土史研究会（編）、1969『アイヌの叙事詩』門別町郷土史研究会
- 『音声資料』：田村すず子（編著）、1984～1999『アイヌ語音声資料』早稲田大学語学教育研究所
- 『萱野辞典』：萱野茂、2002（1996）『萱野茂のアイヌ語辞典〔増補版〕』三省堂
- 『クトゥネシリカ』：鍋沢元蔵（筆録）、門別町郷土史研究会（編）、1965『アイヌ叙事詩 クト<sup>o</sup>ネシリカ』門別町郷土史研究会
- 『久保寺辞典稿』：久保寺逸彦（編）、1992『アイヌ語・日本語辞典稿』北海道教育委員会
- 『沙流方言辞典』：田村すず子、1996『アイヌ語沙流方言辞典』草風館
- 『静内語彙集』：奥田統己（編）、1999『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集』札幌学院大学
- 『神謡・聖伝の研究』：久保寺逸彦、1977『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』岩波書店
- 『神話集成』：萱野茂、1998『萱野茂のアイヌ神話集成』（全10巻）ビクターエンタテインメント
- 『千歳方言辞典』：中川裕、1995『アイヌ語千歳方言辞典』草風館
- 『知里動物篇』：知里真志保、1976『知里真志保著作集別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 動物篇・植物篇』平凡社
- 『知里人間篇』：知里真志保、1975『知里真志保著作集別巻Ⅱ 分類アイヌ語辞典 人間篇』平凡社
- 『バチェラー辞典』：ジョン・バチェラー、1995（1939）『アイヌ・英・和辞典』岩波書店
- 『ユーカラ集』：金成まつ（筆録）、金田一京助（訳注）、1959-75『アイヌ叙事詩ユーカラ集』（全9巻）三省堂





## 1-2 ウエペケレ

### 「ユク シキ セイレカ」

#### 鹿の目玉を炒る

語り手：貝澤とうるしの

イシカラ エムコ タ シノ ニシパ アネ ヒネ アナン ヒケ

Iskar emko ta sino nispa a=ne hine an=an hike

私は石狩川上流の本当に裕福な男で、

パク イソン クル イサム イソン クル アネ、

pak ison kur isam ison kur a=ne,

私ほどの狩の名人は他になく

ピリカ メノコ アマチヒ ネ ワ アヘコテ カツケマツ ポ ヘネ

pirka menoko a=macihi ne wa a=hekote katkemat po hene

美しい女性が妻としていて、その妻がさらに、

イピリカコロ コロ…… コロ イヌヌケ コロ オカアン ペ ネ コロラ

i=pirkakor kor... kor i=nunuke kor oka=an pe ne kor ora

私を盛り立て、尽くしてくれながら暮らしていたのですが、

ポサカン ワ ポエイコイトウパアン シヌマ ポ ヘネ

posak=an wa poeykoytupa=an sinuma po hene

私たちには子どもがなく、欲しいと思っていました。彼女はなおさら

ポ エイコイトウパ コロ アン ハウエ エネ アニ

po eykoytupa kor an hawe ene an h\_i

子どもを欲しがっていてこのように言いました。

「コタン コン ニシパ シネ マツネポ コロ ワ カトウ アヌカン ノイネ

“kotan kor\_ nispa sine matnepo kor wa katu a=nukar\_ noyne

「村長には娘が一人いて、私が見たところ

ピリカ カトゥ ピリカ メノコ ネ ルウェ ネ ナ、ポンマツ ネ エトゥン ヤン。  
**pirka katu pirka menoko ne ruwe ne na, ponmat ne etun yan.**  
 容姿の良い美しい女性ですよ。妾として貰ってください。

ヤクネ ポ コロ ヤクネ イコイヨマップ ポカ アン クシ ネ ナ」  
**yakne po kor yakne ikoyomap poka =an kus ne na.”**  
 それで子どもが出来たならば（その子を）かわいがることだけでも出来るのですから。」

シコロ カネ ハウエアン ルウェ ネ コロカ アエランポキウエン  
**sekor kane hawean ruwe ne korka a=erampokiwen**  
 そのように言います。しかしそれではかわいそうだ

アイルシカレ カ エランポキウエン クシ アコソモタシヌ ワ  
**a=iruskare ka erampokiwen kus nena a=kosomotasnu wa**  
 彼女に腹立たしい思いをさせたりするのもかわいそうだと思いますし知らぬふりをして

アナナ プ コント イペ カ ソモ キ ノ チシ コロ イェ ヒ クス  
**an=an a p konto ipe ka somo ki no cis kor ye hi kusu**  
 いたのですが、しまいには食事もとらずに泣きながら（そのことを）言うので

オラウン アエトゥン アクス ポン ユピヒ ポロ ユピヒ オナハ ウヌフ アン  
**oraun a=etun akusu pon yupihi poro yupihi onaha unuhu an**  
 とうとう妾を貰いました。下の兄、上の兄、父親、母親とその人にはいたのですが、

ペ ネ プ ラムオシマ パ ヒネ マツ ネ アエトゥン ヒネ ポン マツ ネ  
**pe ne p ramuosma pa hine mat ne a=etun hine pon mat ne**  
 皆同意してくれたので妻として、妾として

アコン ルウェ ネ アクシ ナニ ホンコロ ヒネ、ピリカ オッカヨ ポイゾン  
**a=kor\_ ruwe ne akus nani honkor hine, pirka okkayo poison**  
 貰い受けたところすぐに妊娠し美しい男の子を産みました。

コン ルウェ ネ アクス オラノ ネア イウヌネ プ テケヘ ケレ シリ カ  
**kor\_ ruwe ne akusu orano nea iunune p tekehe kere siri ka**  
 しかしそれからは産んだ母親の手が赤ん坊に触れるという様子は

イサム ノ アポロマチ パテク フライエ ネ ヤ カイ ネ ヤ キ  
**isam no a=poromaci patek huraye ne ya kay ne ya ki**  
 無く、本妻だけが、洗ったり、おぶったりと

ソレクス アリキキ プ ネ クシ ネン ネン ヌカンヌカラ コロ オカアン  
**sorekusu arikiki p ne kus nen nen nukannukar kor ok=an**  
 それこそ一生懸命になって、なにやかやと面倒をみながらいました。

ルウェ ネ アイネ タネ パシテッテレケ アプカシ ワ エアラキンネ  
**ruwe ne ayne tane pastetterke apkas wa earkinne**  
 そうして、もう、よちよち歩きをするようになり、とても

スクパシヌ ワ ポ アエヤイコブンテク コロ オカアン ラポッケ  
**sukupasnu wa po a=eyaykopuntek kor oka=an rapokke**  
 成長がよいので一層、私たちは喜びながら過ごしました。そうやってしばらくの間は

タネ アコロ ソン アエヤム マ ソモ キムナン ア コロカ  
**tane a=kor son a=eyam w\_a somo kimun=an a korka**  
 その子を大切に山狩にも行かなかったのですが

ハンケ クチャ チセ カ アコッ トウイマ クチャ チセ カ アコロ  
**hanke kuca cise ka a=kor\_ tuyma kuca cise ka a=kor**  
 私は近くにも、そして遠くにも狩り小屋を持っています。

ペ ネ ヒ クス  
**pe ne hi kusu**  
 ですので、

「トウイマ クチャ チセ オルン アラパアン クシ ネ ナ。アコロ ソン  
**“tuyma kuca cise or un arpa=an kus ne na. a=kor son**  
 「遠くの狩小屋へ行って来るよ。私の息子を

エヤム ウタシパ ウエヤム ノ オカ ヤン」  
**eyam utaspa ueyam no oka yan.”**  
 大切に、二人で代わる代わる大切にしてくれよ。」

シコロ ハウエアナン コロ アラパアン ルウェ ネ イネ イナウロシキアン  
**sekor hawean=an kor arpa=an ruwe ne h\_ine inawroski=an**  
 と言い残して、行きました。イナウを立てたり

したり トウナシ アラパアン ペ ネ クス キ ヒネ、  
**SITARI tunas arpa=an pe ne kusu ki hine,**  
 早い時間に出発するのでイナウを立て

ヤイエイノンノイタカン シオカ ウンノ キ ヒネ オラウン エキムネアン  
**yayeynonnoitak=an sioka unno ki hine oraun ekimne=an**  
 自分の無事を祈り、自分が去った後の無事を祈ってそれから、山へ狩に入りました。

レウシ アナニネ エキムネアナ クス ナニ エ…… アラパアン オウシ (?)  
**rewsi an=an h\_ine ekimne=an akusu nani e... arpa=an ous(?)**  
 (狩り小屋に) 泊まり、山に入るとすぐ、行ったあとに (?)

クワリアニネ オラウン イワカン タネ シリコクンネ  
**kuwari=an h\_ine oraun iwak=an tane sirkokunne**  
 仕掛け弓をとりつけ、そして (狩り小屋に) 戻りました。もうあたりが暗くなるころに

アン ノ イワカン ペ オラウン エクシコンナ シオカオポタラアニネ  
**an no iwak=an pe oraun ekuskonna siokaopotara=an h\_ine**  
 戻ったのですが、それからきゅうに自分の来た後 (村) のことが心配になりました。

エアラキンネ ウェンルイ ウェンルイ イノンノイタカン コロ アナン アイネ  
**earkinne wenruy wenruy inonnoitak=an kor an=an ayne**  
 なので、とても強く激しく神への祈り言葉を唱えながらいたのですが

オラウン コント アウエ…… アクウエヘ カムイ オシマ したんだとよ。  
**oraun konto a=we... a=kuwehe kamuy osma SITANDATOYO.**  
 そうしているうちに、仕掛け弓に熊が掛ったのです。

(萱野：うんうん)

ば…… オヌマン ネ コロカ オシマ ペ ナニ オラウン サマ タ

**BA... onuman ne korka osma pe nani oraun sama ta**

もう夕方だったのですが、熊が仕掛け弓にかかったのだが、すぐに掛った熊の側に

カムイ アニスキネ アアヌ テキネ オラ

**kamuy a=nisuk h\_ine a=anu tek h\_ine ora**

神にお願いし（話し相手の神を）さっと置いて<sup>[1]</sup>

イタカナウエ エネ アニ。

**itak=an h\_awe ene an h\_i.**

私が語った言葉はこのようなものでした。

「マク ネ フミ ネ ヤ シオカオポタラアン ワ ウエン ルイ クス

**“mak ne humi ne ya siokaopotara=an wa wen ruy kusu**

「どういうわけか、自分の残して来た後が心配でどうしようもないので

クンネ ヒ ネ ヤッカ サナン クス ネ ナ、オハ カムイ オハ ピト ネ

**kunne hi ne yakka san=an kusu ne na, oha kamuy oha pito ne**

暗い中ではありますが山を下ります。同じ神どうし、尊い神どうしなので

カムイ フチ トウラノ ウエネウサラ ヤン」

**kamuy huci turano uenewsar yan.”**

火の神と共に語り合ってください。」

シコロ ハウエアナン コロ パサン カネ<sup>[2]</sup> テレケアン カネ サナン。

**sekor hawean=an kor pas=an kane terke=an kane san=an.**

そう言い残し、駆けるごとく跳ねるごとく（急いで）山を下りました。

アイネ タネ シリコクンネ ノ アニネ アウニ タ サナン

**ayne tane sirkokunne no an h\_ine a=uni ta san=an**

そしてもう、真っ暗になりそうな中、私の家まで下がりました。

エ…… アコタヌ タ サナナクス アウニヒ ウン ソネ アイヌ オラ（？）

**e... a=kotanu ta san=an akusu a=unihi un sone aynu ora(?)**

村に下ると私の家ではXXX（？）

アイヌ ソイエンパ したり アフプ したり キ シリ アヌカラ コロカ  
 aynu soyenpa SITARI ahup SITARI ki siri a=nukar korka  
 人々が入りしている様子が見えたのですが、

アッカリ アポンマチ ウン アラパアナクス シネン ネ アニネ オラ  
 akkari a=ponmaci un arpa=an akusu sinen ne an h\_ine ora  
 そこを通り越し妾の所へ行くと、彼女は一人っきりでいて

ヘマンタ ス アニ セイレカ コラン。  
 hemanta su ani seyreka kor an.  
 何かを鍋で炒っているのです。

エアラキンネ イエヌ (?) ウルコサンパ シン ネ ノイネ イキ  
 earkinne ienu(?) urukosanpa sir\_ ne noyne iki  
 (私の存在に気づき) 彼女は急にひどく、ぶるっと震えたようになり (?)

イエラムトゥイ ノイネ イキ コロ  
 i=eramutuy noyne iki kor  
 私に対してびっくりした様子でいます。

「マク エイキ シラン? フンタ エカラ? フンタ エカラ?」  
 “mak e=iki sir an? hnta e=kar? hnta e=kar?”  
 「お前は何をやっているんだ。何を作っている?何を作っている?」

シコロ ハウエアナン。  
 sekor hawean=an.  
 と私は言い

「フンタ エカラ シリ アナン (?) ? ソモ ネプ カ アエラナク コロカ  
 “hnta e=kar siri an=an(?)? somo nep ka a=eranak korka  
 「お前は何を作っているんだ。何も気になることはなかったのだが

シオカオポタラアン ワ サナナワ マク ネ ヒネ エネ  
 siokaopotara=an wa san=an awa mak ne hine ene  
 残して来たあとが心配になり山を下りてきたのだ。なぜあのように、

アウニ ウン アイヌ アフプ ソイエンパ シリ アン？」

**a=uni un aynu ahup soyenpa siri an?"**

私の家を人が出入りしているんだ？」

シコロ ハウエアナナクス イポロ ウン シリ シンナイノ アン コロ

**sekor hawean=an akusu iporo un siri sinnayno an kor**

と言うと、妾の顔色が変わり

ス ウコポイポイエ ラポク ネプ カ ポロ ノ マク カトウ カ

**su ukopoypoye rapok nep ka poro no mak katu ka**

鍋の（中身を）かき混ぜています。そのうちに何だか大きくて（大きくなって）（？）何なのか

アエランペウテク ペ オラウン エクシコンナ ソレクス

**a=erampewtek pe oraun ekuskonna sorekusu**

分からないものが（あり）そして突然に、それこそ

ニ エヤシペレパ ヘネ フム ネノ カネ ヘマンタ プシ

**ni eyasperpa hene hum neno kane hemanta pus**

木を裂き割るような、何かはその鍋から破裂する音がしました。

ネア ス オロワ<sup>3</sup> (?) イエイリパク ネア ペコロ ネア アコロ

**nea su orwa(?) ieirpak nea pekor nea a=kor**

（それに）続いてといったふうに私の

ほんけ オロ ワ オッカヨ ネ フミ アシ ペ ホユプ ヒネ アラパ ヒネ

**HONKE oro wa okkayo ne humi as pe hoyupu hine arpa hine**

本家から男が走ってきたような音がして

「マク ネ ヒネ アイヌ ニシパ サン ルウェ ネイケ オラ

**“mak ne hine aynu nispa san ruwe ne h\_ike ora**

「どうしてあなたは山から下りてきたのに

シラッカリ ルウェ アン？ エヘコテ カツケマツ マウエ トウイ ナ！」

**sirakkari ruwe an? e=hekote katkemat mawe tuy na! “**

（本家を）通り越したのですか？奥さんが亡くなりましたよ！」

シコロ ハワシ エアラキンネ ソレクス アエラムコエシカリ ラポッケヘ  
**sekor hawas earkinne sorekusu a=eramkoesikari rapokkehe**  
 と言います。本当に、それこそ私は驚いたのですが、そうする間にも

「マク エイキ シリ アン? アン?」  
**“mak e=iki siri an? an?”**  
 「お前は何をしたんだ? 何をしたんだ?」

シコロ ハウエアナン コロ サパ ウシ ペ アテッコノイエ アクス  
**sekor hawean=an kor sapa us pe a=tekkonoye akusu**  
 そう言いながら、私が妾の髪を手でねじり込んでいると

ラポク ユプタリ アフプ シリ エネ アニ ウレンテッコロ トウン ネ ワ  
**rapok yuputari ahup siri ene an h\_i urentek kor tun ne wa**  
 そこに妾の兄たちが入って来て2人して両手で

オトピ° キシマ ワ エシリキク パ オテッテレケ パ  
**otopi kisma wa esirkik pa otetterke pa**  
 髪の毛をつかみ、バンバン叩きつけ、ガンガン踏みつけ

アライケ ノイネ シリキ シリ  
**a=rayke noyne sirki siri**  
 妾が殺されそうな様子を

アヌカッ テク コロ エカニネ アコロ ほしい オロ タ エカニネ  
**a=nukar\_ tek kor ek=an h\_ine a=kor HOISAI oro ta ek=an h\_ine**  
 ちらっと見つつも本妻の所へ来てみると

ニシパ ウタラ ウコパラパラク メノコ ウタラ カ ウコパラパラク  
**nispa utar ukoparaparak menoko utar ka ukoparaparak**  
 男たちは、わあわあ声を上げ泣いており、女たちもわあわあ泣いています。

アウコテマツパレ (?) ヤッカ ナニ マウエ トウイ ルウエ ネ。  
**a=ukotematpare(?) yakka nani mawe tuy ruwe ne.**  
 XXX (?) しても、妻はすぐのこと切れたのです。



オラノ チサナ アナ ケウ クルカシ アエヤイシル パ (?) コロ  
 orano cis=an a =an a kew kurkasi ayaysiru pa(?) kor  
 そして、私は泣きに泣いて、体の上にXXX (?) しながら

エネ ネ ワクス サマ アコヤヤプテ ワ アイェ イケ カ  
 ene ne wakusu sama a=koyayapte wa a=ye h\_ike ka  
 これだから身の回りのことに(?)気を付けるようにと妻にも言っていたのに (?)

アコロ カッケマツ ハウエアナ ワ  
 a=kor katkemat hawean a wa  
 妻も (気を付けると) 言っていたのに (?)

「マカン クス エネ シリキ アン!」  
 “mak an kusu ene sirki an!”  
 「どうしてこんなことになったんだ!」

シコロ アン ペ アイェ コロ ヤイエカラカラセレアン。  
 sekor an pe a=ye kor yayekarkarsere=an.  
 と言いながら私は (その怒りと悲しみで) のたうちまわりました。

ソレクス チサナ アナ イノンノイタカン コロ キ ルウエ ネ ア プ、  
 sorekusu cis=an a =an a inonnoytak=an kor ki ruwe ne a p,  
 それこそ泣きながら、神に祈り言葉を唱えながらいたのですが

ネロク マタパ コロ ウタラ マタパ カン ロキネ  
 nerok matapa kor utar matapa kar\_rok h\_ine  
 あの兄たちは妹 (妾) を懲らしめ (叩いたり、踏みつけたり) て

ロンヌ ルウエ ネ アカイェ コロ オラウン アコタヌ ワ  
 ronnu ruwe ne y\_ak a=ye kor oraun a=kotanu wa  
 殺したということです。そして私の村から

アコタヌ ウン ウタラ イエプリウエン ペ ネ クス ネア アコロ カッケマツ  
 a=kotanu un utar i=epuriwen pe ne kusu nea a=kor katkemat  
 村の人たちが、私に同情し、私の本妻を

カッケマツ アオスラ クニ オッカシケ タ アオスラ ソレクス チサナ アナ  
 katkemat a=osura kuni okkasike ta a=osura sorekusu cis=an a =an a  
 淑女を葬るように普段以上によく埋葬してくれました(?)。私は泣いて泣いて

オラ ネア アコロ ソン アヤイコルイルイパ コロ チサナ アナ  
 ora nea a=kor son a=yaykoruyruypa kor cis=an a =an a  
 そうして息子を何度も何度も撫でながら泣いて泣いて

ウヌフ アライケ ヒ ネ ヤッカ  
 unuhu a=rayke hi ne yakka  
 母親が殺されたというのに

ウヌ エオナ アナク アラパ カ ソモ キ ノ (?)  
 unu e=ona anak arpa ka somo ki no(?)  
 お前の父親は(その時)お前の母親(のところに)行ってやることも出来なかったというのに(?)

アテムニコロ オマ プ ネ クス  
 a=temnikor oma p ne kusu  
 私の腕の中で抱かれているのが一層憐れで(?)

アヤイコルイルイパ コロ チサナ アナ  
 a=yaykoruyruypa kor cis=an a =an a  
 何度も何度も息子を撫でさすりながら泣き続けました。

アイネ オラ アコロ カッケマツ アオスラ イネ イサム ルウェ ネ ア プ  
 ayne ora a=kor katkemat a=osura h\_inē isam ruwe ne a p  
 そのように妻は埋葬されもういないのですが

トウッコ レレコ シラン コロ ウェンタラパン。タネ アン ピリカ  
 tutko rerko siran kor wentarap=an. tane an pirka  
 2、3日たつと、私は夢をみました。今までの美貌が

シアラウェンルイ イネ イヨシノ アニネ エネ ハウエアニ  
 siarwenruy h\_inē i=os no an h\_inē ene hawean h\_i  
 なお一層増し見たことも無いほど美しい姿の本妻が私の後ろに立ちこのように言いました。

「タン アヘコテ ニシパ イタカン ワ エイヌ カトウ エネ アニ、  
 “tan a=hekote nispa itak=an wa e=inu katu ene an h\_i,  
 「私が夫よ、私が語りあなたが聞く様子とはこのようなものです。」

カツ タクピ ピリカ コロカ ワ オアラ ケウトウム アラケヘ ウエン ペ  
 kat takupi pirka korka wa oar kewtum arkehe wen pe  
 容姿ばかりよくても、まったく心の半分は悪であったのがあなたの妾です。

ネ アアン ペ アシヌマ アナク イヨマプエイコイトウパアン クス  
 ne aan pe asinuma anak iomapeykoytupa=an kusu  
 私は子どもをかわいがりたいばかりに

アエコテ ニシパ ラム アエコイキ アイネ トウラノ アナン ワ  
 a=h\_ekote nispa ramu a=ekoyki ayne turano an=an wa  
 あなたの心を悩ませたあげく、(妾と) 一緒に暮らすことになって

オッカヨ ヘカチ アコロ ワ アエヤイコプンテク ワ クシ ネノ ネ ヤク  
 okkayo hekaci a=kor wa a=eyaykopuntek wa kus neno ne yak  
 男の子を授かって私はうれしかったので(?) そのように

ラクン (?) エヤッキル (?) シ クシ (?)  
 rakun(?) eyakkiru(?) si kus(?)  
 XXXXX (?)

アシヌマ パテク アカイ アオマプ  
 asinuma patek a=kay a=omap  
 私ばかり負ぶってかわいがっている

ネ ワ アン ペ エウエイサンペコロ クス パクノ アシトマ プ イサム ペ  
 ne wa an pe eweysampekora kusu pakno a=sitoma p isam pe  
 ことを妾はおもしろくなく思っていたのです。これほどまでに恐ろしい物はないといえるのが

ユク シク ネ ルウェ ネ プ、ユク シク トウプ ウク ワ アン ワ アン ペ  
 yuk sik ne ruwe ne p, yuk sik tup uk wa an wa an pe  
 鹿の目玉なので鹿の目玉を2つ取っておいた物を、

オラウン ミンタラ ケシ タ アラパ イネ ピノ ホリピ キ コロ  
 oraun mintar kes ta arpa h\_ine pino horipi ki kor  
 そうして庭の端に行っては秘密の舞を踊りながら

クワ コロ ワ ピノ ホリピ キ コロ イタカウエ エネ アニ  
 kuwa kor wa pino horipi ki kor itak h\_awe ene an h\_i  
 墓標を持って秘密の舞を踊りながら唱えた言葉とはこのようなものです。

『タン ユク シク アセイレカ ヤクン アスコセイレカ ヤクン  
 ‘tan yuk sik a=seyreka yakun a=sukoseyreka yakun  
 『この鹿の目玉を炒ったならば、鍋で炒ってそして

プシ ヤク エイリパク タアン ほしい マウエ トウイ クシ ネ ナ』  
 pus yak eirpak taan HOYSAY mawe tuy kus ne na!  
 はじけ飛ばせば、それに続きこの本妻の息はこと切れるのだ!』

シコロ アン ペ イェ コロ ホリピ ヒネ オラウン イキ ヒネ アン ペ  
 sekor an pe ye kor horipi hine oraun iki hine an pe  
 そういいながら舞い、そうしていると

ソレクス ユク シク アニ アエイノンノイタク ワ ライアン ルウエ ネ ワ  
 sorekusu yuk sik ani a=eynonnoitak wa ray=an ruwe ne wa  
 それこそ鹿の目玉を使った術によって私は死んだのです。

アエコテ ニシパ カトゥン シリ キ シリ アヌカラ コロ ポ ヘネ  
 a=h\_ekote nispa katun siri ki siri a=nukar kor po hene  
 あなたの様子を見るにつれなおさら

イルシカアン ばかくさいアン コロ アナン コロカ  
 iruska=an BAKAKUSAI=an kor an=an korka  
 腹立たしく、馬鹿馬鹿しいとも思えるのですが

アシヌマ レンカイネ ネ クシ ネイ ワ カ ピリカ ワ オケレ メノコ エク ワ  
 asinuma renkayne ne kus ney wa ka pirka wa okere menoko ek wa  
 私の方、意思により、どこからか美しい女が来るので

マツ ネ エコレ ヤク オッカヨ ポ マッカチ ポ コロ ヤクン

mat ne e=kore yak okkayo po matkaci po kor yakun

あなたが嫁として迎え入れれば男の子、女の子も授かり

パク エチウエピリカ ペ イサム オアシ ルウェ ネ ワ オラウン

pak eci=uepirka pe isam oasi ruwe ne wa oraun

あなたたちほど皆が幸せな家族は他にないというふうになるでしょう。それから

メノコ ネ イケ ウエインカラ ワ ネ ワ アン ペ ポ

menoko ne h\_ike ueinkar wa ne wa an pe po

女の子の方は透視能力がある子なので、それによっても、あなたたちはなお一層

エチエピリカ ナンコロ クス オラウン

eci=epirka nankor kusu oraun

繁栄するでしょう。そうして

『アコロ カツケマツ アヌラッパ ナ。』

‘a=kor katkemat a=nurappa na.’

『わが妻よ、供養しますよ。』

シコロ アン ペ イテキ オイラ ノ イヌラッパ

sekor an pe iteki oyra no i=nurappa

と言うのを忘れずに私の供養をなさい。

アコロ カムイ オロワノ シンリッ オロワノ

a=kor kamuy orowano sinrit orowano

私は神の国、先祖の国にいてそこから

アコロ ソン ウタラ アエプンキネ クシ ネ オラウン アエケムヌ クス

a=kor son utar a=epunkine kus ne oraun a=e=kemnu kusu

あなたの子どもたち(?)を私が守ります。そして私はあなたを憐れんでいるので

オンネ パク シペツテク パク ピリカ スクプ エキ ワ

onne pak sipettek pak pirka sukup e=ki wa

死ぬまで、最後まで良い人生を送り

ピリカ オンネ エキ クニネ エセレマカ アウシ クシ ネ ナ」  
**pirka onne e=ki kunine e=seremaka a=us kus ne na.**”  
 天寿をまっとうするように見守っていますよ。」

セコロ ハウエアン イオシノ アン ワ ヌペコラ PAPSE コロ  
**sekor hawean i=osno an wa nupekorapapse kor**  
 と言いました。私の後ろで涙をこぼしながら

キ ヤク アタカラ。オラウン  
**ki yak a=takar. oraun**  
 言う夢を見た。そこで、

ポ チサナ アナ コロ、ネア アコロ ソン アヤイコオマプ コロ  
**po cis=an a=an a kor, nea a=kor son a=yaykoomap kor**  
 さらに私も泣きに泣きました。我が子を一人でかわいがりながら

アナナイネ ソンノ カ ネア ヒナク ワ エク メノコ ポ  
**an=an ayne sonno ka nea hinak wa ek menoko po**  
 過ごしました。そうしていると本当にどこからか若い女(?)がやって来て

オムケ オムケ コロ シケウレク(?) クシ アアフンテ クシ アイェ ア プ、  
**omke omke kor sikewrek(?) kus a=ahunte kus a=ye a p,**  
 咳払いの(来訪を知らせる)声が門口でしたので私は入るよう言いました。

イヨッ タ アン ワ イパロスケ イピリカコロ コロ オカアナイネ  
**i=or\_ ta an wa i=parosuke i=pirkakor kor oka=an ayne**  
 (彼女は)私のところにおいて食事やらなんやらと私の面倒を見てくれながらいて、そして

ホンコロ アクス マッカチ コロ ルウェ ネ ヒネ アエヤイコプンテク コロ  
**honkor akusu matkaci kor ruwe ne hine a=eyaykopuntek kor**  
 妊娠し、女の子を産んだので嬉しく思いながら

オカアナプ はなしはやい ヒネ スイ オッカヨ コン ルウェ ネ ワ  
**oka=an a p HANASIHAYAI hine suy okkayo kor\_ ruwe ne wa**  
 過ごしました。話を早く進めると、また次には男の子が生まれ

ピリカ オッカヨ ヘカチ コロ ワ アコロ ソン ウタラ エネ  
**pirka okkayo hekaci kor wa a=kor son utar ene**

美しい男の子が生まれ、私の子どもたちはこのように

ウサットウラシ コロ オカアナインネ ソレクス ルプネ タネ オピッタ  
**usatturasi kor oka=an ayne sorekusu rupne tane opitta**

下座にずらっと座って暮らして、それこそ今ではみな成長して

ルプネ オラノ ネア キムン カ アエイケスイ ワ オラウン ネロク  
**rupne orano nea kimun ka a=eykesuy wa oraun nerok**

大きくなり、そうして私は山獵も嫌になり行かないでいて

シウト ネ アコロ オッカイポ ウタラ ユクライケ カムイ ライケ ヤッカ  
**siwto ne a=kor okkaypo utar yuk rayke kamuy rayke yakka**

私が舅となる（娘の旦那たち）若者たちが鹿でも熊でも獲っては

イコアンパ パ イコレ パ ワ アコロ ソン ウタツ トウラノ アエ コロ  
**i=koanpa pa i=kore pa wa a=kor son utar\_ turano a=e kor**

私のところに運んでくれ、私にくれるので子どもたちとそれを食べながら

オカアン アイネ ソンノ カ タネ アコロ ヘカッタン ルプネ  
**oka=an ayne sonno ka tane a=kor hekattar\_ rupne**

過ごしています。そうして本当に私の子どもたちも成長したので

ルウェ ネ アクシ マッカチ ネ イケ タネ ポロ マッカチ ネ プ  
**ruwe ne akus matkaci ne h\_ike tane poro matkaci ne p**

娘のほうは今ではもう立派な娘になり

オラウン シイエイエ モト ネ ヤッカ ネプ ネ ヤッカ イエ  
**oraun siyeye moto ne yakka nep ne yakka ye**

病気の原因であろうが何であろうが

アコピシ コロ キ  
**a=kopisi kor ki**

私が尋ねると言い当てます。

オラウン ペツ トウラシ ノチウ ウエエ…… ウエ (?) ペコロ  
**oraun pet turasi nociw uee... ue(?) pekor**  
 そして川に沿って星が川下から (?) かのよう

アラキ シリ アヌカラ コロ アナクネ  
**arki siri a=nukar kor anakne**  
 上がってくる様子があればそれは

『カムイ パ エク クシ シリキ ネ ナ』  
 ‘kamuy pa ek kus sirki ne na’  
 『疫病の神がやって来る様子なのですよ。』

シコッ タレ (?) [4] ハウエアン ペ ネ クシ ネノ アエトウナンカラ ワ  
**sekor\_ tare(?) hawean pe ne kus neno a=etunankar wa**  
 というので、そのようなことに会えば、

イチャラパアン したり ネン ネン キ ワ ネプ アエシリキラプ カ  
**icarpa=an SITARI nen nen ki wa nep a=esirkirap ka**  
 供養をしたり何やかやとしているので、何が心配だとも

ネプ アシトマ カ ソモ キ ノ オカアン クシ タプネ カネ ヤイスukupkaアン  
**nep a=sitoma ka somo ki no oka=an kus tapne kane yaysukupka=an**  
 何が恐ろしいとも思わずに過ごしているのですが、このようなつらい記憶があるので

ペ ネ アクシ アポウタリ アエパカシヌ ナ。  
**pe ne akus a=poutari a=epakasnu na.**  
 子どもたちよ、話しておくぞ。

ネプ ネ ヤッカ アヌ ワ オカアン ペ ネ クス アイェ ハウエ ネ ナ。  
**nep ne yakka a=nu wa oka=an pe ne kusu a=ye hawe ne na.**  
 何でも私が聞いたことなので言うしておくのだぞ。

シコロ イシカラ エムコ ウン ニシパ イソイタク。  
**sekor Iskar emko un nispa isoytak.**  
 と石狩上流の男が語りました。



(萱野：はい、どうも有難う御座います。)

【注】

- [1] このような時にネウサラカムイ newsar kamuy 「話し相手の神」というものを作り、熊のそばに立てておくということである（萱野茂、1978『アイヌの民具』（すずさわ書店）：263)
- [2] 音は「カレ」のようにも聞こえるが、文脈からカネ kane とした。
- [3] オロワ orowa の後に k のような音が聞こえるが不明。
- [4] 音は「タレ」のように聞こえるが、あるいは カネ kane か。

### 1-3 ウエペケレ「ユク シキ セイレカ」解説

解説：萱野茂

萱野：私は、Iskar putu... Iskar emko kor nispa というのは、石狩川の流の  
下流の方で住んでおった、一人の男でありました。

なに不自由なく暮らしておったのですけれども、それだけ不自由なこ  
とは子供がなくて困った。近所の人のお勧めもあり、私自身のその、本妻  
のお勧めもありましたので、近所にいる一人の娘を、妾として迎えて、何  
か月か暮らしておるうちに、まあ、身ごもったと、そして男の子が一人  
生まれました。それを、妾である後から来た人、女の人の手にも触らないほ  
どに、私の本妻は、それを大切に育てておってくれた。どうやら、欲し  
かった子供も生まれたので、私は、ある時に熊狩りに山へ行った。

そして、kucacise という山での狩小屋の所へ行っていろいろ準備して、  
その日のうちに仕掛矢をしたら、その日の夕方には、すでに熊の一頭も  
捕れるというふうになり、その熊のそばに行く……、まあ熊が捕れた、  
そのそばに行くと、何かしら家の事が、急に急に心配になったので、そ  
の熊のそばへ、kamuy nisuk [神に頼む] と言って、アイヌの風習はそ  
ういうあれがあるんですが、熊を捕ってもその日のうちに皮を剥ぐこと  
できないときには、神様を作ってその熊のそばに置く風習があるんです  
が、そのように、その捕れた熊のそばへ神様を一つ作っておいて、何か  
家の事が心配ですので、家へ行ってきます。どうぞ、神様どうし newsar  
[話] という、まあ話し合いしながらこう、ゆっくり過ごしてください。  
と、言いながら、我が家をさして、一散に駆け出した。

家へ帰ってみると、家の方は、いわゆる本家の方では、あかあかと灯  
がともって、大勢の人が出たり入ったりなんか騒がしい。けれどもその  
家を通り越して、いわゆる妾の家の方に入っていくと、私の妾は、何か  
しら鍋に入れて、一生懸命煎っておる。こう返したりしながら、こうし  
ゃもじで煎るようにしている。それは、脂を弾くような音をも交えなが  
ら、煎っておった。「どうしているんだ？ お前は何をやっているんだ？」  
という、それと同じ相前後して、その煎っておったものが、ものすご  
い大きな音で弾けた音がした。「どうしたんだ、どうしたんだ。」と言  
っておるところへ、隣の本家の方から走ってきて、男の人が走ってきてい  
うのには、「どうしたんだ？ 帰ってきておったんだったら、どうして本  
家に寄らずに直ぐ来た？ あんたの奥さんはもう亡くなりましたよ。」と、

こういうふうに言われたと。

驚いて行って見ると、まあ急病か何かのように、もうすっかりこと切れておった。村の人たちが皆で集まって、いろいろ手当をしても、どうすることもできずに、そのまま死んだ。私も、その原因もさっぱりわからなくておった。

何日かして、私の本妻、亡くなった本妻が夢枕に立って言う事には、あんたの連れてきた妾というのは、見かけは非常にいい人であったのに、非常に精神の悪い人だったので、私を呪う意味で、鹿の目玉を二つ抜いて、それを鍋に煎る。そしてその鍋に煎っておる鹿の目玉が、はじけると同時に私が死んだんであった。と、こうして死んでみて、初めてそれは分かったけれども、今ではどうすることもできない。

と、しかし、あんたの所へは、いい女の人に来て、後添えとして住み込み、そして、男の子と女の子が生まれますが、その女の子の方は、アイヌ語で言う **tusu** [神おろし] と言いましょうか、その **ueinkar** ということですね。**ueinkar** というのは、こう呪術と言いましょうか、そんなことで、すべてのことを見通して言い、子供二人生まれるから、といい、夢枕に立ったのを見た。それで私も、私の家内の死んだ原因が分かりましたが、非常に悲しんでおる。

まあその、私の本妻を、呪い殺した妾の方も、その兄弟たちによって、まあ、いじめて、いじめ殺されるようにしてしまつて、まあ、何年かするうちに、本当に私の本妻の言ったように、女の人が荷物を背負ってやってきて、私と一緒にになり、そして、夢にあったと同じように、男の子が生まれ、女の子が生まれ、そして、その女の子は、非常にすべてのことを、病気の原因とかそうしたことを、当てるといふか、それでなに不自由なく、私たちは暮らしておりました。と、石狩のアイヌが語った。という物語でした。

## 1-4 カムイユカラ

「フム パクパク」

## 雷の神が自叙する神謡

語り：貝澤とうるしの

サケへ：V=フム パクパク  
V=hum pakpak

VV アイヌ コタン VV aynu kotan	人間の村を
V チェシカルン V c=esikarun	私は懐かしく
タパンペ クス tapanpe kusu	そのために
V レプン コタン ワ V repun kotan wa	沖の村から
V アトウイ ノシキ V atuy noski	海の真ん中を
V チカマテレケ V ci=kamaterke	私は越えて
V ホプンパアシ ワ V hopunpa=as wa	飛び立って
チシンタ パケ ci=sinta pake	私の乗り物の先

チシンタ ケセ ci=sinta kese	私の乗り物の末を
チキク チキク ci=kik ci=kik	私は叩き叩き
V ラッチタラ V ratcitara	静かに
V ヤパサワ V yap=as awa	上陸すると
V シシリムカ V Sisirmuka	沙流川の
ペトプトウ タ pet oputu ta	河口へ
V ヤパサクシ V yap=as akus	上陸すると
V イセンラム セコロ V isenram sekor	いつものように
V スス チクニ V susu cikuni	ヤナギの木
イナウ チクニ inaw cikuni	イナウの木が
V アシ ル コンナ V as ru konna	立っている様子は
メウナタラ mewnatara	美しい

V イネロクペタ V inerokpeta	なんとまあ
V スス ピリカ ワ V susu pirka wa	ヤナギが美しく
イナウ チクニ inaw cikuni	イナウの木が
ピリカ キ ワ pirka ki wa	良いもの
シラン ヤ カ siran ya ka	であるかも
V チェラミシカリ V c=eramiskari	わからない (ほど美しい)
アンラヤプ ネ anrayap ne	感心を
チキ コツ タシ ci=ki kor_ tasi	私はしていたが
V ペッ トウラシ V pet turasi	川を遡り
V ラッチタラ V ratcitara	静かに
パイェアサワ paye=as awa	行って
V パイェアサイネ V paye=as ayne	行くと

V アイヌ コタン V aynu kotan	人間の村
インネ コタン inne kotan	大勢の村が
シエトクン ワ sietok un wa	前方に
V アシ ル コンナ V as ru konna	ある様子は
メウナタラ mewnatara	立派で美しい
V パイエアサワ V paye=as awa	行くと
V シネ オッカヨ V sine okkayo	一人の男が
V イルイケ ネ キ プ V iruyke ne ki p	研ぎ物に
コアリキキ koarikiki	いそしんでいたが
イルイケ ワッカ iruyke wakka	研ぎ物の水を
コロ ワ ソイネ kor wa soyne	外へ持っていく
シニシ コトロ sinis kotor	空へ

V コチャリ キ コロ V kocari ki kor	撒き散らしながら
イタカウエ itak h_awe	言ったことは
V エネ オカ ヒ V ene oka hi	このようであった
V 「カムイ ソモ キ プ V “kamuy somo ki p	「神様はしないのであろうか
ネプキ ヘ アン nepki he an	働くことを
イルイケ ヘ アン」 iruyke he an”	研ぎ物を」
V タパンペ ネノ V tapanpe neno	このように
ハウエアン コロ hawean kor	言いながら
V ヌプキ クタ V nupki kuta	汚れ水を捨てる
V パテク ネ ヤッカ V patek ne yakka	だけであっても
チルシカ ロク ペ ci=ruska rok pe	腹立たしいのに
V シネ メノコ V sine menoko	一人の女が



イウタ ネ キ プ iuta ne ki p	搗き物に
コアリキキ koarikiki	いそしんでいたが
V 「カムイ ソモ キ プ V “kamuy somo ki p	「神様はしないのであろうか
ネプキ ヘ アン nepki he an	働くことを
イウタ ヘ アン」 iuta he an”	搗き物を」
V タプネ カネ V tapne kane	などということを
ハウエアン キ コロ hawean ki kor	言いながら
V イウタ ネ キ プ V iuta ne ki p	搗き物に
コアリキキ koarikiki	いそしんでいたが
V パテク ネ ヤッカ V patek ne yakka	それだけであっても
チルシカ ロク ペ ci=ruska rok pe	腹立たしいのに
シネ メノコ sine menoko	一人の女が

V イテセ ネ キ プ V itese ne ki p	ござ編みに
コアリキキ koarikiki	いそしんでいる
ピッ フミ pit humi	重り石の音が
V ケウナタラ V kewnatara	鳴り響く
V イネアプクシタ V ineapkusta	なんとまあ
チルシカ キ ワ ci=ruska ki wa	私が腹の立った
フマサ カ humas y_a ka	ことか
チェラミシカリ c=eramiskari	わからないほどであり、
V タパンペ クス V tapanpe kusu	それゆえに
V チシンタケセ V ci=sintakese	私の乗り物の末を
チュプユブ ci=yupuyupu	私は強く強く
チシンタアトウ ci=sintaatu	私の乗り物の紐を

チュプユプ ci=yupuyupu	私は強く強く
チシンタケセ ci=sintakese	私の乗り物の末を
チキク チキク ci=kik ci=kik	私は叩き叩き
V チシンタパケ V ci=sintapake	私の乗り物の先を
チキク チキク ci=kik ci=kik	私は叩き叩き
V エヌネ アワ V enune awa	そうすると
V コタン ノシキ ワ V kotan noski wa	村の真ん中から
V ピリカ ウタラパ V pirka utarpa	立派な首領が
V ニシパ ネノ V nispa neno	紳士らしく
V シピネ ルウエ V sipine ruwe	装う様子である
アナク…… anak...	
V オシマケ ワ V osmake wa	背後から

コッチャケ ワ kotcake wa	前から
コタン カブネブ kotan kapnep	村の宝刀を
シトムシ ワ sitomusi wa	身に着けて
V ヌサ オッ タ V nusa or_ ta	祭壇へ
イナウチパ オッ タ inawcipa or_ ta	幣場へ
V アラパ ヒネ V arpa hine	行って
ヌペ トウラ nupe tura	涙を流しながら
V エネ イタキ V ene itak h_i	このように言った
V 「アシヌマ アナク V “asinuma anak	「私は
V ネプ イララ V nep irara	何も（神を）軽んじて
アキ カトウフ a=ki katuhu	いるわけでは
V ソモ ネ キ ナ V somo ne ki na	ありません

ヤユタロロ yayutar or	自分の仲間たちへ
V カシパ オツテ V kasper otte	命じることを
アキ コツ タシ a=ki kor_ tasi	私はちゃんとして
ウ アナナワ u an=an awa	いましたが
V カムイ ネ アン クル V kamuy ne an kur	神であるお方よ
チェラムハウケ ceramhawke	お慈悲を
イエカラカラ i=ekarkar	私に
キ ワ イコレ ヤン」セコロ ki wa i=kore yan” sekor	かけて下さい」と
V ハウエアン キ コロ V hawean ki kor	言いながら
V ホリピ トウラ V horipi tura	踊りと共に
ヌペ トウラ nupe tura	涙と共に
イタク ア ヒ itak a hi	語ったことに

V ネ…… ポ ヘネ V ne... po hene	なおさら
チルシカ ペコロ ci=ruska pekor	私は怒りを
ヤイヌアシ クス yaynu=as kusu	覚えたので
V ウサッ ラヨチ V usat rayoci	燠の虹
シラン ラヨチ sirar_ rayoci	大きな石の虹を
チャオクタ ci=yaokuta	私はぶちまけた
V タパンペ クス V tapanpe kusu	そのために
V イルカ ネ コン V iruka ne kor_	しばらくすると
ネア コタン nea kotan	その村は
ヌイコテレケ nuykoterke	炎がつき
V コタヌファイ ワ V kotan uhuy wa	村は燃えて
イサム ルウエ isam ruwe	無くなってしまった

V イキコロカイキ V ikikorkayki	けれども
V イルシカ ルイ ペ V iruska ruy pe	怒りが激しい
チネ プ ネ クス ci=ne p ne kusu	ものであったので
V ウェン メノコ V wen menoko	悪い女の
ウタロロケ utar orke	仲間たち
ウェン オッカヨ wen okkayo	悪い男の
ウタロロケ utar orke	仲間たちの
V キワ ウェン ペ V ki wa wen pe	した悪行
V タパンペ クス V tapanpe kusu	そのために
V ニシパ カムイ V nispa kamuy	立派な首領を
ホシキノ ポ hoskino po	真っ先に
V チライケ シラン セコロ V ci=rayke siran sekor	私は殺したようだ

ヤイヌアシ コロ  
yaynu=as kor 思いながら

V パイエアシ キ コロ  
V paye=as ki kor 行きながら

V ペッ トウラシ  
V pet turasi 川を遡って

パイエアサイネ  
paye=as ayne 行ったあげく

V シラン ラヨチ  
V sirar\_ rayoci 大きな石の虹

ウサッ ラヨチ  
usat rayoci 燠の虹を

(ここから散文語り)

アラオクタ プ ネ クス  
a=raokuta p ne kusu  
私は下へ落としたため

ネア コタン ウフイ ワ イサム オカケ タ オラ エネ ヤイヌアン ヒ。  
nea kotan uhuy wa isam okake ta ora ene yaynu=an hi.  
その村は燃えて無くなってしまったが、その後、こう思った。

イテキ ネノ シリキ ヤクネ  
iteki neno sirki yakne  
あんなことがなければ、そのような様子には (ならなかった)。

シシリムカ ペッ トウラシ アラパアン ルウエ、  
Sisirmuka pet turasi arpa=an ruwe,  
沙流川を遡って行って、



スス ピリカ イナウ チクニ ピリカ ルウェ アエラマス ワ

**susu pirka inaw cikuni pirka ruwe a=eramasu wa**

柳の木が立派なこと、イナウ（木幣）にする木が立派であることが気に入った。

アプカサナワ ウエン メノコ ウタロロケヘ

**apkas=an awa wen menoko utar orkehe**

歩いていくと悪い女たちと

ウェノッカヨ ウタロロケ アナ クス

**wen okkayo utar orke an a kusu**

悪い男たちがいたせいで、

コタン コン ニシパ ホシキノ カシ ウン

**kotan kor\_ nispa hoskino kasi un**

先に村長（むらおさ）の上に、

シラン ネ ヤ ウサツ ネ ヤ ハチレ ワ

**sirar\_ ne ya usat ne ya hacire wa**

大きな石や炎（usat）を落として、

ナニ コタイ ウフイ ワ ネワアンペ アルシカ

**nani kotan uhuy wa newaanpe a=ruska**

間もなくその村はこのように燃えてしまい、そのことが腹立たしい。

パクノ アエヌコシネ ピサム ペ

**pakno a=enukosne p isam pe**

私は一番腹が立つのが、

イルイケ イユタ ネ ルウェ ネ イテセ ネ ルウェ ネ クス

**iruyke iuta ne ruwe ne itese ne ruwe ne kusu**

研ぎ物、搗き物やござ編みなのだから、

アイエ ハウエ ネ ナ。

**a=ye hawe ne na.**

という話だよ。

タネオカ カムイ アイヌ エチヌカン レンカイネ

taneoka kamuy aynu eci=nukar\_ renkayne

今いらっしゃる神よ、あなたたちは人間の面倒を見て、

イテキ ウエン ヌコシネ キ ヤン セコロ

iteki wen nukosne ki yan sekor

けっして腹を立てないようにと

かみなり ハウエアン コロ ふれない タ アラパ ルウエ ネ ヤカイエ。

KAMINARI hawean kor HURENAI ta arpa ruwe ne yak a=ye .

雷が言いながら、振内（ふれない）に行ったという話だよ。

コロ あれ シララ いっぱい 落ちてあるべさ

kor あれ sirar いっぱい 落ちてあるべさ。

大きな石いっぱい 落ちてあるべさ。

ネ ヒ コタン ウン (?) オマ ワ コタン アウエンテ ルウエ ネ ヤカイエ

ne hi kotan un(?) oma wa kotan a=wente ruwe ne yak a=ye

そういうことが村に起こって、村が荒廃したっていう話。

タナコロ ペッ プトゥフ アイェ イ シシリムカ だと。

tan a=kor pet putuhu a=ye h\_i Sisirmuka だと。

この私たちの川の河口を言う名はシシリムカ<sup>[1]</sup>だと。

で、アコロ ペッ プトゥ スス ピリカ ヒ

で、a=kor pet putu susu pirka hi

で、私たちの川の河口はヤナギが素敵だと

カムイ ゆったんだっていうんだ、これ。

kamuy ゆったんだっていうんだ、これ。

神様が言ったっていうんだ、これ。

イルシカ ワ アプカシ ワノ リットウンナ セコン ネ

iruska wa apkas h\_i wano rittunna sekor\_ ne

（雷神が）腹を立ててからはリットウンナって。<sup>[2]</sup>

アッパケ タ フンパクパク セコン ネ ハウエ  
**atpake ta humpakpak sekor\_ ne hawe**  
 最初はフンパクパクって声で

フミ ハウキ ア ポラ、イルシカ ヒ ワノ  
**humi hawki a p ora, iruska hi wano**  
 音が静かなんだけど、腹立ててからは

リットウンナ チシンタ パケ チキク チキク  
**rittunna ci=sinta pake ci=kik ci=kik**  
 リットウンナ 私の乗り物の先を叩き叩き

チシンタ ケセ チキク チキク っていうの。フミルイ だわ。サケへ。  
**ci=sinta kese ci=kik ci=kik** っていうの。 **humihiruy** だわ。 **sakehe.**  
 乗り物の末を叩き叩きっていうの。音が激しいんだわ。サケへ。

(萱野：なるほどね。今のはこれカムイユカラでした)

(萱野：なるほどね。今のはこれ **kamuyyukar** でした)

(萱野：なるほどね。今のはこれ神謡 でした)

カムイユカラ。雷さん  
**kamuyyukar.** 雷さん。  
 神謡。雷さん (の)。

#### 【注】

[1] Sisirmuka シシリムカ は沙流川のこと。

[2] 以下、この物語のサケへ（折り返し句）についての説明。

## 1-5 カムイユカラ「フム パクパク」解説

語り手：貝澤とうるしの

聞き手：萱野茂

貝澤：esikarun せば uepeker なんぼも〔思い出せば昔話いくらでも〕あるんだ。

萱野：私は雷でありました。沙流川の古いい名は **Sisirmuka** と言いますが、その **Sisirmuka** は非常にその柳のいいところで、その柳を切ってイナウを作る御幣ですね、イナウを作るべく、その沙流川の方へやってきましたら、村の若者たちは、昔からアイヌの言い伝えで、雷のなる時には、研ぎものをしてはいかん、あるいはその **itese**〔編む〕という、ごぎを織ったりそういう仕事をせずに、こうかしこまっているようにと言うのが、昔からのアイヌの風習なんです、そういう風なことを聞いて知っている若者は、「神様だからとて、働かないの？ 神様だからと言って、研ぎものはしないの？ 神様だからとて稗を搗いたり、粟を搗いたりしないのかい？」と言いながら、私の音を聞いていながらも、遠慮もせずに、研ぎものをしたり、あるいは、搗き物をしたりしたので、私は、私の乗っておる **sinta**〔ゆりかご〕、いわゆるアイヌの考え方として、この雷というのは、いわゆる龍だと考えておるんですね。その龍自身の乗っておるその乗り物の **sinta pake sinta kese a=kik a=kik** というのは、乗り物の前の方を、後ろの方をたたくと、前の方から石の滝が落ち、後ろの方からは、あの一**suma rayoci**〔石の虹〕と **usat rayoci**〔燠の虹〕？

貝澤：**suma rayoci usat rayoci a=raokuta**〔石の虹、燠の虹を私は下に落としました〕。

萱野：その、前の方からは石のたきを、石の虹を落とし、後ろの方からは火の虹を落とし、火の滝を落とすようにして、アイヌの村を全滅させてしまったと。だけれども、今の雷よ、そんな風にして、村の上を通過して、村の若者たちがそういう風にしたからと言って、短腹を起こして〔痲癩を起して〕、村を痛めつけてはいけませんよ。と、一人の雷が言ったと。

その時の、いわゆる天から降ってきた石があるのは、今の平取町内の

岩知志（いわちし）付近か？

貝澤：岩知志。

萱野：岩知志とかそれから、池売（いけうり）の辺りまでな？

貝澤：イケウレリ。

萱野：イケウレリて言うんだったな、あすこは。

貝澤：イケウレリやら岩知志まで、ずっとあるもの。

萱野：そうだ、ずっと平らに堤防の上に、石がゴロンゴロンゴロンゴロンある。  
それは雷から落とされたものだ。と、まあ、伝説をも交えた、これは  
kamuyyukar [神謡]。sakehe というんですね、この hum pakpak という。

貝澤：hum pakpak というのは sakehe [リフレイン]。

萱野：hum pak pak というのは sakehe と言って、繰り返し、繰り返しそれを  
言いながら、間へいろいろな言葉を入れていくんですね。これは  
kamuyyukar [神謡] と言います。

貝澤：hum pak pak ya... yan atpake hum pak pak [フムパクパク 上陸した  
最初は フムパクパク]

## 1-6 カムイユカラ

## 「エパウ」

## キツネの神が自叙した神謡

語り手：貝澤とうるしの

サケへ：V =アワ エパウ アワ<sup>l1</sup>

V =awa epaw awa

V1=ア エパウ アワ

V1=a epaw awa

V2=ア エパウ

V2=a epaw

V カムイコタン タ V2

神の村の

V kamuykotan ta V2

シサムコタン タ

和人の村の

sisamkotan ta

V1 クンネチロンヌプ

黒狐が

V1 kunnecironnup

V1 チネ キ ヒネ

私であり、そして

V1 ci=ne ki hine

V1 オカアサワ

暮らしていたところ

V1 oka=as awa

V1 エネ ヤイヌアシ

このように思った

V1 ene yaynu=as h\_i

V1 アイヌパタ V1 aynupata	羨ましい
V1 チロンヌプカムイ V2 V1 cironnupkamuy V2	狐の神
ウタロロケヘ utarorkehe	たちは
V1 アイヌモシッ タ V1 aynumosir_ ta	人間の国土で
V1 オカ キ ワ V2 V1 oka ki wa V2	暮らしていて
マラット ネ コロ maratto ne kor	宴の客となって
V1 イナウ ピリカピ V1 inaw pirkapi	美しいイナウ（木幣）を
V1 コロ ヤク アイェ V2 V1 kor yak a=ye V2	手に入れると言う
タパンペ タシ tapanpe tasi	これこのものを
V1 チェコイトウパ V1 c=ekoytupa	私は羨む
V1 キ ワクス V2 V1 ki wakusu V2	ので
オロ シネ アンタ or sine anta	ある日のこと

V1 カムイ チネ クス V1 kamuy ci=ne kusu	私は神であるので
V1 キナ ペンチャイ V1 kina pencay	草の弁財船
V1 ポロ ペンチャイ V2 V1 poro pencay V2	大きな弁財船を
チカン ルウエ ネ ci=kar_ ruwe ne	私は作り
V1 オロワウン V1 orowaun	それから
V1 キナ アイヌ V2 V1 kina aynu V2	草の人間を
レホッ エ…… レホッ イキリ rehot e... rehot ikir	60人の列を
V1 チカン ルウエ ネ V2 V1 ci=kar_ ruwe ne V2	私は作り
シエチポヤラ siecipoyar	舟を走らせることを
V1 チキ クス V1 ci=ki kusu	私はするために
V1 ポロ ペンチャイ V1 poro pencay	大きな弁財船を
V1 チカン ルウエ ネ V1 ci=kar_ ruwe ne	私は作り



V1 キ ルウエ ネ アワ V2

そうしていたが

V1 ki ruwe ne awa V2

ヤパシクス

陸に上がるために

yap=as h\_ikusu

V1 ヤパシ アワ V2

岸へ向かって

V1 yap=as awa V2

シエチポヤラ

舟を走らせることを

siecipoyar

V1 チキ キワ

私はして

V1 ci=ki ki wa

V1 ヤパサワ V2

岸に向かうと

V1 yap=as awa V2

(訪問者 (?): こんにちは)

アヤカナ フンナ ハウエ アン<sup>㊦</sup>

びっくりした。誰の声だい？

ayakana hunna hawe an

ポロ ペンチャイ

大きい舟船が

poro pencay

V1 チコッテンカンカリ (?)

私たちが繋がって

V1 ci=kottenkankari(?)

V1 チカン ルウエ ネ

私は作り

V1 ci=kar\_ ruwe ne

V1 チパニ

舟を

V1 cip ani

V1 シエプ…… シエチポヤラ V1 siep... siecipoyar	走らせることを
V1 チキ ルウエ ネ V2 V1 ci=ki ruwe ne V2	私はしたのだ
ヤパサワ yap=as awa	岸に向かったが
V1 ヤウンクル アトウイ V1 yaunkur atuy	蝦夷地（北海道）の海と
V1 レプンクル アトウイ V2 V1 repunkur atuy V2	沖の方（本州）の海の
アトウイ ウトウル atuy utur	海の間
V1 チェパ キ コロ V2 V1 c=epa ki kor V2	私がたどり着くと
タン ウェン レラ tan wen rera	このひどい風
V1 ユプケ レラ V1 yupke rera	強い風が
V1 レプン ソッキ ワ V1 repun sotki wa	沖の寝床から
V1 ヤン ルウエ ネ V1 yan ruwe ne	岸に向かって吹いた
V1 タポロワノ V2 V1 tap orowano V2	それから

ヤウン カムイ yaun kamuy	蝦夷地（北海道）の神が
V1 チェラムハウケ V1 ceramhawke	心を静めて
V1 イエカラカラ ワ V2 V1 i=ekarkar wa V2	くれて
アプニタラ apunitara	おだやかになって
V1 ヤパシ クニネ V1 yap=as kunine	上陸できますように（と）
V1 ハウエアナン コロ V1 hawean=an kor	私は言いながら
V1 パウセアン コロ V1 pawse=an kor	パウパウと鳴きながら
V1 ヤパン アイネ V1 yap=an ayne	私は岸に向かい、そのうち
V1 タネ アナクネ V2 V1 tane anakne V2	今はもう
ヤウンクル アトウイ yaunkur atuy	蝦夷地（北海道）の海
アトウイ ノシキタ atuy noskita	海の真ん中に
V1 アラキアン キ コロ V arki=an ki kor	私はやってくると

V1 キナ ペンチャイ V1 kina pencay	草の弁財船
V1 ネ プ ネ クス V2 V1 ne p ne kusu V2	なので
エアラキンネ earkinne	とても
V1 タネ アナクネ V1 tane anakne	最早
V1 ラウオシマ アンキ V1 rawosma anki	沈みそうになった
V1 フマシ ルウエ V2 V1 humas ruwe V2	ようである
イキ ア コロカ iki a korka	ではあるが
V1 ラッチタラ V1 ratcitara	ゆっくりと
V1 アプニタラ V2 V1 apunitara V2	おだやかに
タネ ヘヤシ tane heyasi	今は陸（おか）を
V1 インカラン コロ V1 inkar=an kor	見てみると
V1 キナ ネクス V2 V1 kina nekusu V2	草であるので

ペネ ワ イサム pene wa isam	溶けてしまった
V1 ル ワ イサム V1 ru wa isam	溶けてしまった
V1 キナアイヌ カ V1 kinaaynu ka	草の人間も
V1 キナ ネクス V2 V1 kina nekusu V2	草なので
モム マ イサム mom w_a isam	流れてしまった
V1 オロワノ V1 orowano	それから
V1 マ ネ マヌ プ V1 ma ne manu p	泳ぐということを
V1 チキ キ アニ V1 ci=ki ki ani	私はして、それで
V1 イキアナイネ V2 V1 iki=an ayne V2	私がしているうちに
ヤウンクル アトウイ yaunkur atuy	蝦夷地（北海道）の海
アトウイ パロツ タ atuy par or_ ta	海の入口へ
V1 ヤナン コロカ V1 yan=an korka	登ったが

V1 アプカシ ポカ V2 V1 apkas poka V2	歩くことばかりも
アアンヌクリ <sup>[3]</sup> a=annukuri	私はたいへん億劫で
V1 イキアナイネ V1 iki=an ayne	いるうちに
V1 サクン…… サ ウン マサラ V1 sakun... sa un masar	前の方の草原（浜）へ
V1 マクン マサラ V1 makun masar	奥の草原（浜）へ
V1 マサラ ウトウツ タ V2 V1 masar utur_ ta V2	浜辺の草原の間に
ホッケアン キ ワ hotke=an ki wa	寝ていたが
V1 ヤイヘセレ V1 yayhesere	自ら息をして
V1 アキ コロ アナン V2 V1 a=ki kor an=an V2	私はしながらいた
キ アクス ki akusu	していたが、
(ここから散文)	
シンキアン マ アナニネ キ プ ネ クス sinki=an w_a an=an h_ine ki p ne kusu 私は疲れて	

ヤイヘセレアニネ アナナワ  
**yayhesere=an h\_ine an=an awa**  
 息をしていたが、

アイヌ カ ソンノ ウタラパ ネ ノイネ アン オッカヨ サン ヒネ  
**aynu ka sonno utarpa ne noyne an okkayo san hine**  
 人間なのであろうか本当に立派な様子の男（首領）が下って来て、

タシロ エタイテクテキネ  
**tasiro etaytektek h\_ine**  
 タシロ（山刀）をさっと抜き

ホリピ トウラ イケウエホムス ハウエ エネ アニ  
**horipi tura ikewehomsu hawe ene an h\_i**  
 踊りと共に魔を払う儀式を行い、このように言った

「シパセカムイ ネ ノイネ アン ペ  
**“sipasekamuy ne noyne an pe**  
 「位の高い神とお見受けするお方、

マクネ ルウエ シペコピチチチ<sup>[4]</sup> ヒネ エネ アニ アン？」  
**makne ruwe sipekopicicici hine ene an h\_i an?”**  
 なぜ全身ずぶ濡れになって、そのようにしているのか？」

セコロ ハウエアン ヒ クス  
**sekor hawean hi kusu**  
 というので、

コチャヌプコロ クニネ コタヌ コパクン ウニ コパクン  
**kocanupkor kunine kotanu kopak un uni kopak un**  
 目指していた村の方へ家の方へ

エトウトウリトウリアナクス エネ イタキ。  
**etuturituri=an akusu ene itak h\_i.**  
 私は鼻を伸ばす（そっちのほうに顔を突き出す）と、男はこのように言った。

「カムイ ネ アン クル イオシ エイトウラ ワ イコレ

“kamuy ne an kur i=os e=i=tura wa i=kore

「神であるお方、私の後から一緒に来ていただき、

ウエンタラプ ヘネ イキレ ヤク エアシリ カムイ ネ アカラ クスネ ナ」

wentarap hene i=kire yak easir kamuy ne a=kar kusune na”

私に夢を見せるなどして下さるならば神の姿に私はしてさしあげますよ」

セコロ ハウエアン ヒ クス セタ イトウラ シンネノ カネ

sekor hawean hi kusu seta itura sinneno kane

と言うので犬が人について行くようにして、

オサラパアナクス タプ サ……

os arpa=an akusu tap sa…

後から私がついて行くと、今……

マクン マサラ マサラ オシマク タ インネ コタン アン アアニネ

makun masar masar osmak ta inne kotan an aan h\_inne

奥の草原（浜）、草原（浜）の背後にはにぎわった村があり、

ヌサ オルン アラパ イ クス

nusa or un arpa h\_i kusu

男が祭壇のところへ行ったので

イナウチパ オッ タ アラパアニネ アナナクス

inawcipa or\_ ta arpa=an h\_inne an=an akusu

幣場（イナウチパ）に私が行ってそこにいると、

カムイ フチ オロ タ アフニネ イイエ アン ペ こんど

kamuy huci oro ta ahun h\_inne i=ye an pe KONDO

男は神の媼のところ（家の中）に入って、私のことを告げると、

カムイ フチ クワ エテテ エテテ カネ ヒネ ソイネ ヒネ イケウエホムス。

kamuy huci kuwa etete etete kane hine soyne hine i=kewehomsu.

神の媼は杖をつきつき、戸外へ出て私をねぎらった。



イケウエホムス ハウエ エネ アニ

**i=kewehomsu hawe ene an h\_i**

私にこのようなねぎらいの言葉を言った。

「オヨイ クンネチロンヌプカムイ カムイ ウタラパ エネ ヒネ

**“oyoy kunnecironnupkamuy kamuy utarpa e=ne hine**

「これはなんと、黒狐の神、神の首領であるあなたが、

ヤウンモシルン エヤン ルスイ クス

**yaunmosir un e=yan rusuy kusu**

蝦夷地（北海道）へあなたは上陸したいので、

アイヌ オルン エヤン ワ イナウ ピリカプ エエシトムテヤン ルスイ クス

**aynu or un e=yan wa inaw pirkap e=esitomteyar\_ rusuy kusu**

人間のところへ上がって美しいイナウ（木幣）で自らを飾りたいと望んだので、

エヤナ アン ペ オロヤチキ

**e=yan aan pe oroyaciki**

上陸して、おそらく、

キナペンチャイ エカラ ペ ネ クス

**kinapencay e=kar pe ne kusu kina ne kusu**

あなたは草の舟財船を作ったので、

キナ ネ クス ル ワ イサム ペネ ワ イサム ヤッカ

**ru wa isam pene wa isam yakka**

草であるため（船は）溶け（ru）で無くなり、溶け（pene）で無くなったけれども、

セレマク エコロ オラ ヤウンカムイ カ エシコエハンケレ ワ

**sermak e=kor ora yaunkamuy ka e=sikoehankere wa**

守り神があなたにいたので、蝦夷地（北海道）の神も、あなたを自分のほうに近づけたので

エヤン ルウエ ネ ナ。

**e=yan ruwe ne na.**

あなたは上陸したのですよ。

アレンカイネ ネ クス カムイ ネ アエカラ クス ネ ナ。

**a=renkayne ne kusu kamuy ne a=e=kar kusu ne na.**

私の力添えであなたは神様としてまつられますよ。

カムイ ネ アン クニ ラム」

**kamuy ne an kuni ramu”**

神になるのだと思いなさい。」

セコロ ハウエアン コロ

**sekor hawean kor**

と言いながら

イコプンテク したんだと ルウエ ネ ヒネ

**i=kopuntek SITANDATO ruwe ne hine**

私のことを祝福してくれました。

オラ ネ アイヌ ニシパ ソイネ ヒネ イチョッチャ アヤニ キ イネ

**ora ne aynu nispa soyne hine i=cotca ay ani ki h\_in**

それからそこでその人間のニシパ（徳の高い人）が外に出てきて私を矢で射ました。

エアラ アイ アウキネ マラット ネ アン ルウエ ネ アクス

**ear ay a=uk h\_in maratto ne an ruwe ne akusu**

一本の矢を私は受け取り、客人となったため、

それくす イナウ ピリカプ アエイコイトウパ プ ネ クス

**SOREKUSU inaw pirkap a=eykoytupa p ne kusu**

それこそ、美しいイナウを私は羨む者なので、

イナウ ピリカプ アイエトムテカラ

**inaw pirkap a=i=etomtekar**

美しいイナウで私は飾られ、

オラノ カムイ フチ カ イコプンテカ イコプンテカ。

**orano kamuy huci ka i=kopuntek a i=kopuntek a.**

それから神の媼も私を誉めそやし誉めそやした。

オラウン ヤウンモシッ タ オカ クンネチロンヌプ アシコエハンケレ ワ  
**oraun yaunmosir\_ ta oka kunnecironnup a=sikoehankere wa**  
 それから蝦夷地（北海道）にいる黒狐を私は自分のほうへ呼び寄せ、

ネア ニシパ トウラノ セレマカウシ クニ カ アウエンタラプテ  
**nea nispa turano sermak a=us kuni ka a=wentarapte**  
 とともに例のニシパの守り神となることを、私は（ニシパに）夢を見させ、

アイイワクテ プ ネ クス イナウ ピリカプ アイコレ  
**a=i=iwakte p ne kusu inaw pirkap a=i=kore**  
 （ニシパが私の魂を）送ってくれる時に美しいイナウを与えてくれるように、

カムイ フチ イカシパオツテ  
**kamuy huci i=kaspaotte**  
 神の媼が命じて、

イコプンテカ イコプンテカ コロ キ ワ クス  
**i=kopuntek a i=kopuntek a kor ki wa kusu**  
 私を誉めそやし誉めそやしてくれたので、

アイヌモシッ タ ヤナン ワ クンネチロンヌプ カムイ アネ ワ  
**aynumosir\_ ta yan=an wa kunnecironnup kamuy a=ne wa**  
 蝦夷地（北海道）へ上陸してから私は黒狐神になり、

アウタリヒ アエウタンネ ワ アエヤイコプンテク コロ アナン ルウェ ネ ナ。  
**a=utarihi a=eutanne wa a=eyaykopuntek kor an=an ruwe ne na.**  
 私の仲間たち（北海道にいる黒狐たち）と一緒に暮らし、私は喜びながらいるのですよ。

タネ オカ クンネチロンヌプ  
**tane oka kunnecironnup**  
 これからの黒狐は、

アイヌ オルン イテキ ウェンノ…… ウェン ケウトウム コロ ヤン。  
**aynu or un iteki wenno... wen kewtum kor yan.**  
 人間に対してけっして悪い精神を持たないように、

セコロ クンネチロンヌプ イソイタク したと  
**sekor kunnecironnup isoytak SITATO**

と黒狐が語りました。

フッタッチプ だって言うもの、フッタッってゆったって、あのトプ ハムさ、  
**huttatcip** だって言うもの、**huttat** ってゆったって、あの **top ham** さ、  
 笹舟だと言うの、フッタッと言うのは、竹の葉さ。

トプ ハム のに カムイ ネ クス  
**top ham NONI kamuy ne kusu**  
 竹の葉で神であるので

レホッ エウトウラ ペンチャイ やったんだって言うもの  
**rehot eutura pencay** やったんだって言うもの  
 60人（草人間を）つれて来たと言うだんね。

（萱野茂：レホッ つたら60かい？）<sup>[5]</sup>

（萱野茂：rehot つたら60かい？）

レホッっていったら60よ。  
**rehot** っていったら60よ。

（萱野茂：60だな）

#### 【注】

- [1] この kamuyyukar の sakehe「折り返し」は、非常に特徴的なもので、ア エパウ アワ a epaw awa (V1で示す) を行頭に繰り返すが、2～4句ごとに行末にア エパウ a epaw (V2で示す) という sakehe を置いて、少しポーズをとる。そして次の行は行頭の sakehe 無で始めるという形式になっている。つまり、3行から5行くらいがひとつのまとまった単位として語られている。このように行を超えた単位を sakehe で区切る謡い方の例は他にも見られるが、非常に数は少ない。
- [2] この1行は、訪問者が来たことに対して語り手がもらした言葉であって、物語の一部ではない。
- [3] アンヌクリ annukur は アラ- ar-「まったく」ヌクリ nukuri「大儀で～したくない」。
- [4] シペコピチチチ sipekopicicici は si-「自分に」pe「水分」ko-「～に対して」picicici

「放す（重複形）。なお、『沙流方言辞典』（P56）などには cipekopicici 「体からしずくが落ちるくらいぬれる」という語がある。

- [5] 以下、萱野茂氏が語り手である貝澤とうるしのさんに質問し、とうるしのさんがそれに答えている。

## 1-7 カムイユカラ「エパウ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：私は一匹の黒狐でありました。

貝澤：男たって。

萱野：私の仲間たちが、アイヌの所へ神様と、まあ、maratto [宴の客] としてかな。神様として行くとたくさんのお土産をもらって帰ってくる、それを見て、私も一度だけでいいから、アイヌの村へ、お客として行ってみたいな。そんな風に考えておっても、私の住んでおるところは、ずーっとアイヌの住んでおる所から遠い遠い海を隔てた土地なので、何とか渡りたいと、そんな風に考えて、何日か何年か、過ごしておった。ある日の事、どうしてもアイヌの所へ行きたくなかったので、

貝澤：cikuni [薪] ないな、家に。

萱野：いや、あるある。草で舟を作ったと、それも少ない数でなく60艘の舟を作ったと。そしてそれにまた草で、たくさん人間を作って、それに乗りこませて、

貝澤：top aynu [竹の人間] だからおっきいのさ。

萱野：乗り込ませて、私も一緒に乗って、アイヌの村をさして漕ぎ出した。何日も何日も漕いでおるうちに、大しけにあって、もう右へ揺れ左へ揺れしておるうちに、草で作った舟なので、その舟はたちまち壊れてしまった。私も、どうかどうかしておるうちに、すっかりもう、舟も壊れちゃったので、海へ落ちて、どうか泳いだり流れたりしながら、

貝澤：ukirare ya hawe(?)さ。

萱野：波に打ち上げられるように、海辺へ浜辺へ寄せられた。そして、もう半

死半生になっているところへ、一人のアイヌの立派なおじいさんが出てきて、黙って私の方を見るので、何とか助けてほしいということは、その狐の考えは、アイヌの所へお客として行きたいんだということを言いたいんだけど、さっぱり言葉として言うこともできない。こう、鼻先をアイヌの村の方へいくらかビクビク動かしたら、「まあ、用事あるんならおれの後へついてこい」と、そのおじいさんが言いながら、歩き出したので、おじいさんの後をついて行った。

そうすると、浜辺のちょっと奥まった所で、大きな村、何十軒かの村があって、その村の一軒の家へ入って、私はすぐにその家の裏を回って、inawcipa [幣場] という祭壇の所へ行っておった。そしたら、今一緒に来た爺さんが、火の神様へ話ししたらしく、火の神様が出てきて、「お前がアイヌ部落に行きたいという理由もわかった。神様にするから、少しお待ちください。」と、火の神様が言いましたと。

それで私は黙って待っていると、家の中から弓と矢を持った人が出てきて、私を弓で射殺してくれた。そして、たくさんのたくさんのごちそうを、イナウやもちやたくさんのお土産をもらって、私は神の国へ帰ることができました。

それから、まあ見て私にたくさんのイナウをくれたアイヌの所へはたくさんのまだ授けものですから、狩猟に恵まれるように見守って、いつまでもいつまでも、私はアイヌの神様として、過ごすようになりました。と、黒狐が言いました。これは kamuyyukar [神謡] でした。

貝澤：ほんとに kamuyyukar [神謡] よ、これ。

萱野：kamuyyukar はいいね。おばさん。

貝澤：あれ、あの木はくべたらいいの。まるつきり火ない。

## 1-8 シサムウエペケレ

「ピリカ チャペ アレス」

良い猫を育てた

語り：貝澤とうるしの

シネ おばさん ピリカ マツネ ポン チャペ レス ヒネ

sine OBASAN pirka matne pon cape resu hine

一人の和人のおばさんがかわいいメスの子猫を飼って

アン ペ ネ ルウェ ネ ヒケ、

an pe ne ruwe ne hike,

いまして

まるっで エヤム ペ ネ クス イペレ コロ オツチケ カラ ワ イペレ コロ、

MARUDDE eyam pe ne kusu ipere kor otcike kar wa ipere kor,

本当に大切にしていたものでした。そのため、食べさせるときは、お膳を作って食べさせて、

エネカラ ヒ ウナ でなく レタラパシ ポンノ ちち

ene kar hi una DENAKU retarpas ponno CICI

その様子は、灰の粉でなく炭を少しづつ

チャペ オイペピ オマレ ワ エレ コラン。

cape oyepi omare wa ere kor an.

猫のお椀に入れて食べさせていました。

シイエイエ クニ エヤム ペ ネ クス キ プ ネ ルウェ ネ ア プ

siyeye kuni eyam pe ne kusu ki p ne ruwe ne a p

(そうしないと) 病気になると思って、炭を入れて食べさせていましたが、

タネ ポロ ワ オケレ エアラキンネ イソン ワ

tane poro wa okere earkinne ison wa

今はすっかり大きくなって、本当に狩りが上手になって、



エレム カ ウカ ウカ コラン ワ、  
**ermu ka uk a uk a kor an wa,**  
 ネズミもたくさん捕ってきていて、

ポオ オマプ コラン ペ ネ ルウエ ネ ア プ、  
**poo omap kor an pe ne ruwe ne a p,**  
 なおいっそうかわいがっていたものですが

ポ カ サク ホク カ サク ノ アン クルマツ ネ クス  
**po ka sak hok ka sak no an kurmat ne kusu**  
 息子も夫もない和人の女だったので、

ポ ヘネ チャペ オマプ コラナプ、  
**po hene cape omap kor an a p,**  
 なおさら猫をかわいがっていましたが

ネア チャペ ヒナクン アラパ ワ イサム。  
**nea cape hinak un arpa wa isam.**  
 その猫はどこかへ行ってしまいました。

オラノ エアラキンネ エウエンラムコッ チシ コロ エシカルン。  
**orano earkinne ewenramkor cis kor esikarun.**  
 それからは非常に悲しいと思い、泣きながら恋しがっていました。

パイカラ キ ソイネ オラノ エク ルウエ カ イサム ワ 𑄀  
**paykar ki soyne orano ek ruwe ka isam wa**  
 春になって、外に出たきり、戻ってきた様子もありません。

オラノ モシマ ソモ ヤイヌ コラン ペ ネ ルウエ ネ アイネ  
**orano mosma somo yaynu kor an pe ne ruwe ne ayne**  
 そのうちにそれから、そのことばかりを考えて暮らしているうちに

タネ シリパイカリネ パイカツ…… チュク ソイネ ヒネ イサム ペ  
**tane sirpaykar hine paykar\_... cuk soyne hine isam pe**  
 今や春になりました。秋に外に出ていなくなってしまったけれど、

オラ シリパイカリネ…… ヤッカ エク ルウェ カ イサム。

**ora sirpaykar hine... yakka ek ruwe ka isam.**

そして、春になっても戻ってきませんでした。

タネ ポン コロコニ カ ルイ ワ オケレ ペウレ キナ ルイ ワ オケレ ヒクス

**tane pon korkoni ka ri wa okere pewre kina ri wa okere hikusu**

今、小さいフキもすっかり伸びてしまって、若い山菜も伸びてしまったので

こんと ナイ トウラシ コロコニ トウイエ ワ シエトコマレ ランケ

**KONTO nay turasi korkoni tuye wa sietok omare ranke**

今度、川づたいに上流に行ってフキを切って、自分の前に倒し、

シエトコマレ ランケ コロ アラパ

**sietok omare ranke kor arpa**

それをくりかえしながら行きました。

ペツ…… ナイ トウラシ キ ルウェ ネ ア プ、

**pet... nay turasi ki ruwe ne a p,**

沢づたいにフキを切って、

トオプ ナイ トウラシ アラパ コロ

**toop nay turasi arpa kor**

もっとずっと遠くに沢づたいに行くと、

ヒナクン チセ キタイ ヌカリ クシ インカラクス ピリカ ワ オケレ パ

**hinak un cise kitay nukar h\_i kus inkar akusu pirka wa okere pa**

どこかに家の屋根が見えたので、見てみるととてもきれいな

ポン チセ ヌプリ チョロポク ペカ シレシク ルウェ ネ。

**pon cise nupuri corpok peka siresik ruwe ne.**

小さい家が、山の下の所にたくさんありました。

コツチャケヘ タ ナイ パロツ タ ピリカ チセ オツ タ ワッカタ パ

**kotcakehe ta nay par or\_ ta pirka cise or\_ ta wakkata pa**

その前で川口の所のきれいな家で、水汲みをしている

ペウレ メノコ ウタラ カ ソイエンパ ワ アフプ シリ カ シエトクン ヌカラ。

**pewre menoko utar ka soyenpa wa ahup siri ka sietok un nukar.**

若い女たちも外に出ている様子が、前の方に見えて、

ネア クルマツ キ コロ アラパ アクス

**nea kurmat ki kor arpa akusu**

その和人のおばさんはそうしながら、山菜を採りながら、行くと、

シネ ピリカ ワ オケレ ポン クルマツ サパ カラカラ コロ ソイネ ヒネ

**sine pirka wa okere pon kurmat sapa karkar kor soyne hine**

一人のとっても美しい和人の女性が、頭を整えながら出てきて

「おばさん 入って シニ ヤク ピリカ ピリカ 」

**“OBASAN HAITTE sini yak pirka pirka”**

「おばさん、入って休んだら、いいよ、いいよ。」

シコロ。

**sekor.**

と、言いました。

ネ おばさん コロ イヨクペ タンタタプ (?) …… ソイ タ アヌ イネ

**ne OBASAN kor iyokpe tantatap(?)... soy ta anu h\_ine**

そのおばさんは鎌を、外に置いて、

オラ アフン ヒネ シニ アクシ タネ サパ カラカラ オケレ アニネ オラ

**ora ahun hine sini akus tane sapa karkar okere an h\_ine ora**

それから、入って、休むと、その女性は頭をすっかり整えて、それから、

スケウシ ウン ネア クルマツ アラパ ヒネ オッチケ カリネ

**suke-usi un nea kurmat arpa hine otcike kar h\_ine**

その女性は台所に行って、お膳を作って

コロ ワ エク ルウエ ウサ コッチョ ウサ チェッポ ネ ヤッカ

**kor wa ek ruwe usa kotco usa ceppo ne yakka**

持ってきました。いろいろなごちそうや、いろいろな小魚でも、

ネ プ ネ ヤッカ アマム トウラノ オッチケ オロ ヒネ コロ ワ エキネ  
 nep ne yakka amam turano otcike or o hine kor wa ek h\_in

なんでも、ごはんと一緒にお膳のに入れて持って来て、

オラウン エネ イキ ヒ コロ アペオイ オルン レタラパシ ポンノ ウキネ  
 oraun ene iki hi kor apeoy or un retarpas ponno uk h\_in

それから、どうしたかというと、炉から灰を少しとって、

ネロク コッチョ カ アマム カ カシ オチャッチャリ ルウエ ネ。

nerok kotco ka amam ka kasi ocatcari ruwe ne.

そのごちそうにもごはんにも上にふりかけました。

マキピキ シコロ ヤイヌ コロカ モシマノ アン ルウエ ネ ヒネ オラ  
 makip iki sekor yainu korka mosmano an ruwe ne hine ora

どうしてそのようなことをするのかと、思ったけれど、かまわずにいたのです。そしてそれから、

「ホクレ イペ イペ」

“hokure ipe ipe”

「早く食べなさい、食べなさい」

シコロ ハウエアニネ

sekor hawean h\_in

と、言いました。

ネ クルマツ イペ ヒネ ルプネマツ イペ ルウエ ネ

ne kurmat ipe hine rupnemat ipe ruwe ne

そして、その和人の女性は食べて、その老婦人（おばさん）も食べました。

ヒネ オケレ アクス オラウン ネア オッチケ ウキネ オラ エネ ハウエアニ  
 hine okere akusu oraun nea otcike uk h\_in ora ene hawean h\_i

それが終わると、それから、例のお膳を片付けて、このように言いました。

「ウエンノ エヤイヌ クス エイキ ヒ カ ソモ ネ。

“wanno e=yaynu kusu e=iki hi ka somo ne.

「あなたは、悪いことを考えて（あのように）したのではないのですね。

アシヌマ アナクネ エレス チャペ アネ ルウエ ネ ワ。

asinuma anakne e=resu cape a=ne ruwe ne wa.

私は、あなたが養ってくれた猫ですよ。

チャペ アナクネ オホンノ シネ ウシケ タ オカ カ ソモ キ プ ネ ワ クス

cape anakne ohonno sine uske ta oka ka somo ki p ne wa kusu

猫は、ひとところで長く居るものではなくて、それで

アシヌマ アナク ソイネアン ワ エオヤッケ タ エキムネ ワ シキルアン ワ

asinuma anak soyne=an wa e=oyakke ta ekimne wa sikiru=an wa

私は外に出て、あなたの家から離れて、山に向かいました。

タオカ マク ペカ オカ チセ オッピタ チャペ チセ ネ ルウエ ネ コロカ

taoka mak peka oka cise oppita cape cise ne ruwe ne korka

この奥一帯の家は、ぜんぶ猫の家なのですが

アシヌマ イヨッタ サ ワ アナン ルウエ ネ ア プ

asinuma iyotta sa wa an=an ruwe ne a p

私は一番前の方にいたのですが、

エイタサ イエシカルン ワ エチシ したり キ コロ

eytasa i=esikarun wa e=cis SITARI ki kor

とてもあなたが私を恋しがって、泣きながらものを食べたりすると、

アオイペピヒ エヌペヘ オ ワ アエ カ エアイカプ ヒ クス

a=oypepihi e=nupehe o wa a=e ka eaykap hi kusu

私の食器にあなたの涙が入って、私は食べることもできないので

オロ タ アナン ウシケ アエヌカレ ワ

oro ta an=an uske a=e=nukare wa

私がいる場所をあなたに見せて、

エネ エネ エイキ クニ アイェ ワ アエヌレ ルスイ クス

ene ene e=iki kuni a=ye wa a=e=nure rusuy kusu

これこれあなたがすべきことを、私は言って聞かせたいので、

アエシコエクテ ルウエ ネ カトウ エネ アニ  
**a=e=sikoekte ruwe ne katu ene an h\_i**

私はあなたを自分の所に来させたのです。というのは

タネ アナクネ アシヌマ アナク チャペ アネ プ ネ クス  
**tane anakne asinuma anak cape a=ne p ne kusu**

今は私は猫なので

エトゥラ ノ アナン カ エアイカプ  
**e=tura no an=an ka eaykap**

あなたと一緒に私はいることもできない、

イレス イオマプレス プ ネ ア コロカ キ、クス  
**i=resu i=omapresu p ne a korka ki, kusu**

私をかわいがって育ててくれたのだからできない。なぜ

エイキ プ カ アエランペウテカ プ  
**e=iki p ka a=erampewtek a p**

あなたがなぜそんな（ご飯に炭をかけるような）ことをするのもわからないでいたが、

オヤチキウン シイエイエヤン クニ  
**oyacikiun siyeye=an kuni**

今わかったところでは、私が病気になることを、

エエヤム クス カムイ フチ コロ クスリ アオイペピ° エオチャッチャリ ヒネ  
**e=eyam kusu kamuy huci kor kusuri a=oyepi e=ocatcari hine**

気遣ってくれたので 火の神様の薬を私の食器にふりかけて、

アン ヒ カ アエラムアン クス エネ イカラ イ ネノ アエカラ ワ  
**an hi ka a=eramuan kusu ene i=kar a h\_i neno a=e=kar wa**

いたことも私はわかったので、このように私にしてくれたのと同じように私があなたにして、

ソモ エエ ヤクン ソモ アエランポキウエン クナク アラム ア プ、  
**somo e=e yakun somo a=erampokiwen kunak a=ramu a p,**

あなたが食べなかったら、気の毒に思うこともないと思っていたのですが、

エエ ワ イサム ルウェ ネ クス アエパカシヌ ハウエ ネ ナ。

**e=e wa isam ruwe ne kusu a=e=pakasnu hawe ne na.**

あなたがすっかり食べたのでお教えするのです。

タント ネ エイペ ヤクン オラ エサン ワ エホツケ ワ

**tanto ne e=ipe yakun ora e=san wa e=hotke wa**

今日、あなたが食事をしたなら、それから、山を下りて、寝て

ネプ フマサッカ イテキ エホプニ ノ

**nep humas y\_akka iteki e=hopuni no**

何か音がしても起きずに

エアン ヤクネ オンネ パクノ エエ クニ プ エミ クニ プ

**e=an yakne onne pakno e=e kuni p e=mi kuni p**

いれば、あなたは老いるまで、食べることも着ることも

ネプ ネ ヤッカ トノコタン ワ アウエカリレ ワ

**nep ne yakka tonokotan wa a=uekarire wa**

何であっても和人の村から私が集めて

アセ ワ アアヌ クス ネ ナ。ウタツ トウラノ アセ ワ アアヌ クス ネ ナ。

**a=se wa a=anu kusu ne na. utar\_ turano a=se wa a=anu kusu ne na.**

私が背負ってきておくつもりです。仲間と一緒に背負ってきておくつもりですから、

ネウン フマサワサッカ イテキ ホプニ ノ アン ワ オラ

**neun humas h\_awas y\_akka iteki hopuni no an wa ora**

誰かが何かしている音がしても、起きないでいるのでいるのですよ。そして

イシムネ インカラ ヤクネ ウサ アمام ネ ヤッカ ウサ アミプ ネ ヤッカ

**isimne inkar yakne usa amam ne yakka usa amip ne yakka**

翌日に見たら、いろいろな穀物であっても、着物であっても

エミ クニ プ ネプ ネ ヤッカ エエ クニ プ チセ シクノ アン ナンコロ。

**e=mi kuni p nep ne yakka e=e kuni p cise sikno an nankor.**

着るものも、食べるものも家いっぱいにあるでしょう。

オラウン トノコタン ワ マチヤ コツ トノ オロ ワ  
 oraun tonokotan wamaciya kor\_ tonoro wa

それから、和人の町の殿さまから、

エネ イキ イ カ イサム  
 ene iki hi ka isam

どうにもならない（生活の苦しい）、

ポン ウムレク アレンカイネ ネ クス アラキ ワ エカオイキ イネ  
 pon umurek a=renkayne ne kusu arki wa e=kaoyki hine

若い夫婦が、私の力によってやって来て、あなたの世話をしてくれて

アエ アエプ スパ ワ エエレ コロ オカ アイネ エオンネ ナンコロ クス  
 a=e aep supa wa e=ere kor oka ayne e=onne nankor kusu

食べ物を、煮て食べさせてくれていて、そのうちあなたは老いるでしょう。だから、

イテキイ オシクン ノ エサン ワ ネプ フマシ オヌマン キ ヤッカ  
 iteki i=oskur\_ no e=san wa nep humas onuman ki yakka

私のことを悲しまずにあなたは山を下りて、何か物音が夜にしても、

イテキイ オシクン ノ エサナク ピリカ オラ  
 iteki i=oskur no e=san yak pirka ora

私のことを惜しく思わずに、山を下りなさい。そして

オホンノ エシクヌ オラ ネ ペウレ ウタラ エヌヌケ コロ オカ アイネ  
 ohonno e=siknu ora ne pewre utar e=nunuke kor oka ayne

長い間あなたは生きてから、その若者たちがあなたを大事にしてくれているうちに、

ポ コロ シリ カ エヌカラ アイネ アエウコヌヌケ アイネ  
 po kor siri ka e=nukar ayne a=e=ukonunuke ayne

子供を持つ様子も見て、（その子供たちからも）みんなに大事にされて、

エイサム ナンコン ナ  
 e=isam nankor\_ na

やがてあなたは逝くでしょう



イテキ イオシクル イテキ テワノ アナク チシ ワ イコレ。エチシ ヤク  
iteki i=oskur iteki tewano anak cis wa i=kore. e=cis yak

私のことを惜しまないでこれからは泣かないでください。あなたが泣いてくれても

エチシ ヌペ アオイペピ オ ワ イペアン カ エアイカプ ルウエ ネ ナ  
e=cis nupe a=oyepipi o wa ipe=an ka eaykap ruwe ne na

あなたが泣く涙が私の食器に入って、食べることもできないのですよ。

チャペ ヘネ セタ ヘネ アレス ヤッカ オホンノ エイタサ ソモ アコロ  
cape hene seta hene a=resu yakka ohonno eytasa somo a=kor

猫でも犬でも、養われても長い間はいないものです。

オラウン イサム ヤッカ イテキ チサン ペ ネ ナ。

oraun isam yakka iteki cis=an pe ne na.

それから、いなくなっても、泣いてはいけないものなのですよ。

イテキ チシ ノ イペ ワ オラ サン」

iteki cis no ipe wa ora san”

泣かないで食事して山を下りなさい」

シコロ ハウエアン。

sekor hawean.

と言いました

エアラキンネ クルマツ ネ ワ サパハ カラ コロ アナ プ、  
earkinne kurmat ne wa sapaha kar kor an a p,

和人の女性となって、とてもきれいに髪をこしらえているのに、

ネア アレス ポン チャペ ネ アナウエ アン シコロ ヤイヌアナクス  
nea a=resu pon cape ne an h\_awe an sekor yaynu=an akusu

あの私が育てた子猫であるということだったのかと思っていると

アエケウトウム コンナ オクナタラ コロカ オラウン  
a=ekewtum konna oknatara korka oraun

私の心は悲しみでいっぱいになったのだが、それから

カムイ トウタヌ ワ ウエン ペ セコロ ヤイヌアン クス ソイネアン イネ  
**kamuy tutanu wa wen pe sekor yaynu=an kusu soyne=an h\_ine**  
 神のようなもの（だから一緒にいては）と思って、外に出て

アコロ コロコニ タラオマレ コロ サナニネ  
**a=kor korkoni tar a=omare kor san=an h\_ine**  
 私のフキを背負い紐に入れながら<sup>[2]</sup>、下っていて

アコロ チセ オッ タ サナニネ  
**a=kor cise or\_ ta san=an h\_ine**  
 私の家まで下りて、

オラ スイ スケアニネ イペアン ハウエ ソモ ネ ヒネ<sup>[3]</sup>  
**ora suy suke=an h\_ine ipe=an hawe somo ne hine**  
 それから再び料理して食べる、という話ではない。

オラウン ホッケアン…… トウナシ ホッケアン クス  
**oraun hotke=an... tunas hotke=an kusu**  
 それから寝て、早く寝るように

アイイエ プ ネ クス ホッケアナクス  
**a=i=ye p ne kusu hotke=an akusu**  
 言われたので、寝ていると

オラノ アイヌ オアオフワ オラ ソイエンパ ペコロ フマシ コロカ  
**orano aynu oahup wa ora soyenpa pekor humas korka**  
 そして、人が入ってきて、それから外に出るような物音がするけれども

エネ アイエ ヒ ネ ア クス ソモ イヌアナペコロ アナン ノ  
**ene a=i=ye hi ne a kusu somo inu=an apekor an=an no**  
 そのように言われていたので、聞かないふりをして

アナナイネ タネ アンチカラ アノントム パクノ ネノ フマシ コロ  
**an=an ayne tane ancikar anhontom pakno neno humas kor**  
 そうして、もはや夜の夜中まで、そのような物音がした

シラナイネ イシムネ ホプニアナクス  
**siran ayne isimne hopuni=an akusu**  
 あげく翌日起きてから、

ソモ カ エネ シラン クナク アラム イ  
**somo ka ene siran kunak a=ramu h\_i**  
 まさか、そんな様子だとは思わなかったが

ウサ ポイ サケ ウサ ポン タラ ネ ヤッカ チェプ ネ ヤッカ  
**usa pon\_ sake usa pon tara ne yakka cep ne yakka**  
 小さい酒（樽）やら、小さい俵でやら、魚であっても

ネプ ネ ヤッカ ポロンノ アルラ、チセ シクノ キ ワ オカ  
**nep ne yakka poronno a=rura, cise sikno ki wa oka**  
 何であっても、たくさん運ばれていて、家がいっぱいになっていた。

オラ ピリカ アミプ カ アミ クニ プ カ アウエカリレ ワ アン  
**ora pirka amip ka a=mi kuni p ka a=uekarire wa an**  
 よそ行きの着物もふだん着も集められていて、

オラノ チサン。ソモ チサン クナク イェ プ ネ ア コロカ ヒナク タ エパク  
**orano cis=an. somo cis=an kunak ye p ne a korka hinak ta epak**  
 それから私は泣いた。泣かないように言われたのだけれど、ちょうどいいあんばいに

アオマプレス コロ アン ペ アコロ ポン チャペ ネ ア クス  
**a=omapresu kor an pe a=kor pon cape ne a kusu**  
 私がかわいがって育てていた、私の子猫だから

カムイ ネ アン マ エネ イヌヌケ ルウェ アニ アン  
**kamuy ne an w\_a ene i=nunuke ruwe an h\_i an**  
 神であって、このように私に孝行してくれたのだ。

シコロ ヤイヌアン ワ チサン コロ アエヤイコプンテク コロ アナン  
**sekor yaynu=an wa cis=an kor a=eyaykopuntek kor an=an**  
 と、思っていて私は泣いて喜びながら居た

オラノ フムネアニ ウン アルラ ワ イキリ アカラ ワ アナナイネ  
**orano humneani un a=rura wa ikiri a=kar wa an=an ayne**  
 それから、それを一か所に運んで、山のようにして暮らしていたが、そのうちに、

ラポッケ ネイ ワ ネ ヤ シネ ペウレ ウムレク  
**rapokke ney wa ne ya sine pewre umurek**  
 その間どこかから、一組の若い夫婦、

ポイ シサムタラ<sup>[4]</sup> アラキ ヒネ  
**pon\_ sisam utar arki hine**  
 若い和人たちが来て

「ポウ ウエイ シサム アネ ヤッカ  
**“pon\_ wen\_ sisam a=ne yakka**  
 「私たちは、若い貧乏な和人なのですが、

おばさん アレス クス アラキアン ルウェ ネ ナ」  
**OBASAN a=resu kusu arki=an ruwe ne na”**  
 おばさんの世話をするために私たちは来たのですよ」

シコロ ハウエオカ コロ アラキ イネ  
**sekor haweoka kor arki h\_ine**  
 と、言いながら来て、

オラノ イカオイキ パ イレス パ コロ オカ アナン アイネ  
**orano i=kaoyki pa i=resu pa kor oka an=an ayne**  
 それから私を手伝って、私の面倒をみてくれていた。そうして暮らしているうちに、

タネ オンネアン シンネ クス ポ カ アサク ホク カ アサク ノ アナン ワ  
**tane onne=an sinne kusu po ka a=sak hok ka a=sak no an=an wa**  
 今や私は年老いたので、子供もなく夫もなく、それで、

ポン チャペ パテク アレス プ ネ ア コロカ それくす  
**pon cape patek a=resu p ne a korka SOREKUSU**  
 子猫だけを私は育てたのだが、それこそ

カムイ トウタヌ アレス プ ネ クス アイヌ ネ アン マ

kamuy tutanu a=resu p ne kusu aynu ne an w\_a

神様のように扱って育てたものなので、人間に変身して

スケ ワ イペアン カ キ オラウン

suke wa ipe=an ka ki oraun

(その猫が) 料理したものを私は食べもして、それから、

タプネ アオマプレス ヒ イエヤイライケ クス

tapne a=omapresu hi i=eyairayke kusu

このようにして私がかわいがって育てたことに感謝してくれたので

ウサ アエプ ウサ アミプ ルラ ワ イカオイキ パ プ エタシカッタロ アイネ

usa aep usa amip rura wa i=kaoyki pa p etaskattaro ayne

(若夫婦は) いろいろな食べ物や着物を運んで来て、私の世話をして (私は) 助かってあげく

オンネアン シンネ クス セタ カ チャペ カ イテキ アコレウエン ノ

onne=an sinne kusu seta ka cape ka iteki a=korewen no

私は年老いたのです。だから、犬も猫もぞんざいにしないで

アレシパ プ ネ ナ て シネ クルマツ イソイタク。

a=respa p ne na TE sine kurmat isoytak.

養うんですよ。と、一人の和人の女性が語りました。

#### 【注】

- [1] ここでは「春に出て行った」と言っているが、後の方では「秋に出て行った」と言い直している。
- [2] 「来る途中に刈っておいてきたフキを、帰りがけに背負い紐にくくってかつぎながら」ということ。
- [3] 言い間違えたので訂正している。
- [4] ポイ シサムタラ poy sisam utar はペウレ ウムレク pewre umurek の言い換え。

## 1-9 シサムウエペケレ「ピリカ チャペ アレス」解説

語り手：貝澤とうるしの

解説：萱野茂

萱野：これは、同じ uepeker [昔話] でも、普通は sisam uepeker [和人の昔話]。

貝澤：sisam uepeker だ。

萱野：シャモ [和人] の方の uepeker [昔話] ということで、よく、aynu uepeker [アイヌの昔話] と言って、aynu だけが語るんでなく、aynu の事だけを語るんでなくて、いわゆる、昔のその日本人のことを題にしたことも、この uepeker という物語の中で出てくるんですね。

今の場合は、私は一人住まいの女であった。子供もいないし、家族もおらないので、一匹の猫を養っておった。その猫は非常にいい猫で、何年も何年も子供のようにかわいがっていた。ネズミもどっさり捕るし、たった猫だけを友として生活をしておった。

けども、その猫に物を食べさせるときには、必ず、囲炉裏の中から、いわゆる木灰、直接でなくて、炭の上で白くなった灰のところを、ちょっと取って、コソコソとご飯の上にかけてやる。と、いうふうに私はして、その猫を養っていた。それは、粗末にするとかそういうことではなくて、そうしたものには、いわゆる、木灰が薬になるんだと、そんな風なことを、知っておったのでそのようにしておったと。

何年も養っておったのに、その猫はどうしたのか、ある月から行方が分からない。いくら探しても、わからない。どこか行って死んだのだろうかなんて、一人で悲しみながら、毎日、今日はくるか？ 明日は帰って来るか？ と、楽しみにしておった。

けれども、それもとうとう見えないし、ある春に、道路のへりずっとフキを切りながら、山の方へ入っていった。ずうっと山へ入っていくと、そこで家もあろうはずのない所で、一軒の家があって、そこできれいな女の人が、一生懸命自分で自分の頭をなで、頭に櫛をかけながら、そこへ、ひょいに行った。「さあさあ、入っておやすみなさい。」と、いうわけ、そこで、まあ、ちょっと、疲れもしたし、入って休んだ。

そしたら、いろいろと、ごちそうの支度をして、「さあさあ、食べなさ

い」。お膳にいっぱい、ごちそうを盛って出してくれた。けれども、そのお膳のごちそうには、灰（あく）をちんまりちんまりと、かけてあった。「どうして、こんなにおいしいごちそうにこうするんだろうな？」って、そんな風に考えたんですが、それもその、あんまり気にもしないで、まあ十分に食べて、ごちそうになり終わったら、その女の人の言うのには、「実は私は、あなたに養われておった猫ですよ。猫でも、犬でも、一か所の家で何年も養われるということは、遠慮するというか、そういうことで、私は自分から身を引いて、この村へ、猫の村へ帰ってきておったんですよ。そしておったら、あなたが、私のことを考えては泣くので、あなたの泣いた涙とか、そうしたのが、私の食べ物の中に入るので、どうしても、食べることもできないし、私がいなくなった理由をあなたに聞かすべく、今日は来てもらって、ごちそうするときにも、私に食べさせてくれたと同じように、その、こうちょっと木灰をかけた。それでも、嫌がらずに、食べてくれたので、本当に嬉しかったんですよ。養ってもらったお礼に、今晚はあなたの家へ、食べ物とか、着物とか、そうしたものをいっぱい運びますから、早く帰って、家で寝て、夜、夜中どんな音がしても、決して起きだしたりしてはいけませんよ。」と、言われた。

それで、「ああ、猫だったのか。」と、思いながら家へ帰ってきた。「早めに寝ろ。」と言われたので、早く寝ると、その夜は多くの人が、出たり入ったり、出たり入ったり、そんな音を聞いて、朝になってみるとたくさんの食べ物、たくさんの着物が届けられてあった。まあ、猫が昨日言ったように、「あなたには、お礼として、たくさんの食べ物や、着物を届けますから。」と、言われたとおりに、こんなにたくさんのが、来たんだな。と、感謝しながら、それを食べて、それを着て、なに不自由なく、私は生活をしていました。だから、犬を育てても、猫を育てても大切にするんですよ。と、一人のおばあさんが、言いました。

という、これは、**sisam uepeker** [和人の昔話] という事でした。こういう **uepeker** [昔話] の中でも、ずいぶん、まあ、そういう、何といふかな、生活の中で、犬を大切にしなさい、猫を大切にしなさい。そういう、教えるような、あれあるね。

貝澤：ある、ある。

萱野：子供たちにもな、あばあさんを大切にしたら、どうだとか。よく言われたもんだ、俺も。

## 2-1 日付 場所 とうるしのさん紹介

解説：萱野茂

萱野：昭和44年1月22日、平取町二風谷、貝沢とろしのさんの所へ来ています。これからウエペケレ〔散文説話〕を聞かせていただきます。



## 2-2 ウエペケレ

「ランコ カッケマツ」

桂の木の女神

語り：貝澤とうるしの

(萱野茂：うん、いいよ)

アオナア アン アウヌ アニネ オカアニケ  
a=onah\_a an a=unuhu an h\_ine oka=an h\_ike  
私は父と母がいましたが、

アユプタリ ポン アユピ カ アン ポロ アユピ カ アン ペ  
a=yuputari pon a=yupi ka an poro a=yupi ka an pe  
兄たちは小さい兄と大きい兄もいて、

オラウン シンナ オカ ワ オラ ユク ライケ パ アッカ  
oraun sinna oka wa ora yuk rayke pa y\_akka  
(親たちとは) 別に暮らしていました。そして、兄たちは、鹿を獲っても

カムイ ライケ パ アッカ アオナウタリ エレ パ カ ソモ キ ノ  
kamuy rayke pa y\_akka a=onautari ere pa ka somo ki no  
熊を獲っても、父たちに食べさせるもしないで、

イカン (?) ナイタロ コロ オカイ ペ ネ ルウェ ネ ア プ  
ikan(?) naytaro kor okay pe ne ruwe ne a p  
(父たちは) 泣きながら(?)暮らしていました、

アオナ イコイトウパ ハウエ ネ ノイネ  
a=ona ikoytupa hawe ne noyne  
父は暮らしに困っているらしく

「タン イアラモイサマ タ パイエアン コロ

**“tan iarmoysama ta paye=an kor**

「あの山の向こうに行くと、

シノ ニシパ アン ペ ネ ルウエ ネ ワ

**sino nispa an pe ne ruwe ne wa**

一人の立派なニシパがいて

パクノ プリ ピリカ ニシパ イサム ペ ネ ルウエ ネ

**pakno puri pirka nispa isam pe ne ruwe ne**

それほど行いの立派な紳士はほかにはいないもので、

ポ ウタリヒ パクノ イソン ニシパ ウタラ イサム ペ ネ ルウエ ネ クス

**po utarihi pakno ison nispa utar isam pe ne ruwe ne kusu**

息子たちも、それほど獲物に恵まれた裕福な人たちは、いないくらいのもので

オロ タ エアラパ ワ アイヌ コロ ペ ピリカ イケ アエセレ クス ネ ナ

**oro ta e=arpa wa aynu kor pe pirka h\_ike a=e=sere kusu ne na**

そこに行って、宝物をお前に持っていかせよう。

アマツネポホ メノコ エネ ヤッカ アエオトウワシ ナ

**a=matnepoho menoko e=ne yakka a=e=otuwasi na**

娘よ、お前は女だけれど、お前が頼りだ、

アラパ ワ シリペ ワ エク」

**arpa wa siripe wa ek”**

行って食べ物をもらってきなさい」

セコロ ハウエアン ヒ クス

**sekor hawean hi kusu**

と言って、

アラパアン クニ アイイエ ルウエ ネ ヒネ オラウン

**arpa=an kuni a=i=ye ruwe ne hine oraun**

行くように言われたのです。そして

「メノコ アプカシ コロ アナクネ イヨクペ カ ネプ カ

“menoko apkas kor anakne iyokpe ka nep ka

「女があるくときは、鎌でも何でも

ノタコプ コロ ペ ネ ナ」

notakop kor pe ne na”

刃の付いたものを持つものですよ」

セコロ アウヌ カ イイエ アオナ カ イイエ プ ネ ヒケ

sekor a=unu ka i=ye a=ona ka i=ye p ne hike

と、母も父も私に言うものでしたが、

アラパアン エシタク ア プ

arpa=an esitaku a p

行く支度をしましたが、

オヤチキ アユプタリ カ イピシケ クシ ワ ネ ハウエ ヘネ ヤ

oyaciki a=yuputari ka i=pisike kus wa ne hawe hene ya

どうやら兄たちも浜の方を通過して（食べ物を探しに）行く話らしく、

「ヒナクン パイエ」

“hunak un paye”

「どこに行くのだろう？」

セコロ ヤイヌアン コロカ

sekor yaynu=an korka

と、思ったけれど

アラパアン ナイ トウラシ アラパアニネ ナニ ナイ ペシ サナン

arpa=an nay turasi arpa=an h\_ine nani nay pes san=an

私は川づたいに上って行き、すぐに川に沿って下って行って、

イウオロ ワノ ナイ アラパ プ ネ クス ナイ ペシ サナン オラウン

iwor wano nay arpa p ne kusu nay pes san=an oraun

森から川が上ってきているものですから、（その）川を下りました。それから

ヤイヌアヌミ エネ アニ ラムチュプテカン コロ アプカサン ペ ネ クス  
**yaynu=an h\_umi ene an hi ramucuptek=an kor apkas=an pe ne kusu**  
 私が思うに、心細い思いをしながら歩いていたので、

オウポポリンネ ランコ、アシ ルウエ ピリカ ランコ  
**owpoporinne ranko, as ruwe pirka ranko**  
 ひこ生えの生えたカツラ、立つ姿が良いカツラ、

ルウエ ランコ チクニ アシ ルウエ アン  
**ruwe ranko cikuni as ruwe an**  
 太いカツラが立っていて、

オウシケヘ タ ポン ランコ ヘトゥクパ ワ オカイ クス  
**ouskehe ta pon ranko hetukpa wa okay kusu**  
 その根元に小さいカツラが生えているので、

オウシケヘ タ アペ アアリ イネ シニアン ヒネ オラウン こんと  
**ouskehe ta ape a=ari h\_ine sini=an hine oraun KONTO**  
 その根元で火を焚いて休んで、それから、今度、

ポン ランコ シネプ アトゥイエ ヒネ アイヌ アシル パクノ アカラ ヒネ  
**pon ranko sinep a=tuye hine aynu as ru pakno a=kar hine**  
 小さいカツラを一本切って、人間が立ったぐらいに作って、

オラ オンネ プ サパ ムイエ クス アエサパムイエ プ アヤサ ヒネ  
**ora onne p sapa muye kusu a=esapamuye p a=yasa hine**  
 そして、老人は頭を縛るので、私の鉢巻を割いて（作って）

アエサパムイエレ コロ イタカン ハウエ エネ アニ  
**a=esapamuyere kor itak=an hawe ene an h\_i**  
 その頭を縛って、こう言いました。

「ランコ カツケマツ カムイ マツネポホ イエトクシ ワ アペクル ワ  
**“ranko katkemat kamuy matnepoho i=etok us wa apekur wa**  
 「カツラの女神、神の娘、私の前にいて、火にあたって、

イテレ ワ イコレ。イセレマクシ ワ イコレ ヤクネ ネプ ポカ  
**i=tere wa i=kore. i=sermakus wa i=kore yakne nep poka**  
 私を待っていてください。蔭ながらお守りいただければ、いくらかでも、

アセ ワ エカン ヤクネ ランコ カツケマツ ウタラ ランコ カムイ ウタラ  
**a=se wa ek=an yakne ranko katkemat utar ranko kamuy utar**  
 (食べ物を) 背負って戻ってきたら、カツラの女神たち、カツラの神々に

アコプニ クシ ネ ナ」  
**a=kopuni kus ne na”**  
 ご馳走いたしますよ。」

セコロ ハウエアナン コロ  
**sekor hawean=an kor**  
 と、私は言いました。

アペ サム タ ネア アイヌ アシル パクノ アン クワ  
**ape sam ta nea aynu as ru pakno an kuwa**  
 火のそばで、その人間が立ったぐらいある杖を

アアシ アサパムイエレ ヒネ オラ アアシ ルウエ ネ ヒネ  
**a=asi a=sapamuyere hine ora a=asi ruwe ne hine**  
 私が立てて、ハチマキを縛って、立てて

オラウン アラパアン ルウエ ネ。  
**oraun arpa=an ruwe ne.**  
 それから、行きました。

ナ シリペケレ ヒネ コタンコシレパアン ルウエ ネ  
**na sirpeker hine kotankosirepa=an ruwe ne**  
 だんだん辺りが明るくなって、その村に着きました。

それこそ ピリカ インネ コタン ポロ コタン アン ルウエ ネ イケ  
**SOREKOSO pirka inne kotan poro kotan an ruwe ne h\_ike**  
 それこそ美しくて、人の多い村でそれは大きい村でしたが

コタン コロ クル チセ オルン アオナハ イウテク ペ ネ クス  
**kotan kor kur cise or un a=onaha i=utek pe ne kusu**  
 村長の家に父が私を使いによこしたもので

コタン コロ クル ソイ タ アラパアン イコロ シケ イキレ プ ネ クス  
**kotan kor kur soy ta arpa=an ikor sike i=kire p ne kusu**  
 村長の家の表に私は行って、宝物を背負わされてきたので、

アセ ヒネ アラパアン ルウェ ネ ヒネ シムシシカアナクス  
**a=se hine arpa=an ruwe ne hine simusiska=an akusu**  
 背負って行って、訪問の音を立てていたところ、

ピリカ ワ オケレ メノコポ ヌプキ クタ クシ ソイネ ヒネ  
**pirka wa okere menokopo nupki kuta kus soyne hine**  
 とっても美しい若い女性が、汚れ水を捨てに外に出て

イヌカラ ヒネ オラウン  
**i=nukar hine oraun**  
 私を見て、すると、

「ソイ タ イヤラモイサマ ウン メノコポ ネ ヤク  
**“soy ta iarmoysama un menokopo ne yak**  
 「外に山の向こう側に住む娘だと

アイエ ア プ ネ ノイネ アン ペ エク ルウェ ネ」  
**a=ye a p ne noyne anpe ek ruwe ne.**  
 いうものらしい人が、来ています」

セコロ ハウエアン アクス オンネ クル イタク ネ ハウエアシ  
**sekor hawean akusu onne kur itak ne haweas**  
 というと、老人が言うには、

「ソモ イヨモンモモ ノ カ イソイケ タ アラキ ウタラ アナク  
**“somo iomommomo no ka i=soyke ta**  
 「こまごまとしゃべらないで、外に来ている人たちは

アフプテ クシ アイェ プ ネ ナ。アフンテ オリパクノ キ」  
**arki utar anak ahupte kus a=ye p ne na. ahunte oripakno ki”**  
 入らせるように言っているのですから、謹んで入ってもらいなさい」

セコロ ハウエアン。  
**sekor hawean.**  
 と、言いました。

ハウエアシ アクス オラ ムンヌパ ソ アヌ フミ アシネ  
**haweas akusu ora munnupa so anu humi as h\_in**  
 と言ってから、それから、ごみを掃いたり、墓塵を敷いたりする音がして

オラウン ソイネ ヒネ アシケヘ アニ オアツテク コロ アテケ アニ ヒネ  
**oraun soyne hine askehe ani oattek kor a=teke ani hine**  
 それから外に出て、片手で私の手を取って

イアフンテ ヒケ オ ソレクス オリパカン ノ アフナン ヒネ  
**i=ahunte hike o sorekusu oripak=an no ahun=an hine**  
 入らせました。それこそ遠慮深く入って、

アパサム アコシキル アアン クス ネ アクス  
**apasam a=kosikiru a=an kusu ne akusu**  
 入り口のほうを向いて座ろうとすると、

「アペサムン エク エク。ナニ アペサムン エク ワ アペクル アペクル」  
**“apesam un ek ek. nani apesam un ek wa apekur apekur”**  
 「火のそばにこいこい。すぐ火のそばに来て、火に当たりなさい当たりなさい」

セコロ アイイエ。アペクラン  
**sekor a=i=ye. apekur=an**  
 と私は言われました。私は火にあたった。

アペサム タ アラパアン ヒネ アペクラン ルウェ ネ アクス  
**apesam ta arpa=an hine apekur=an ruwe ne akusu**  
 私は火のそばに行って火にあたって、

イエランカラプ ヒネ オラ イコウウェペケンヌ ヒ クス

i=erankarap hine ora i=kouepekennu hi kusu

(主人が) 私に挨拶をして、それから、私は話を聞かれたので

「タプネ カネ アオナハ アユプタリ コイトウパ ヒケ カ イルシカ

“tapne kane a=onaha a=yuputari koytupa hike ka iruska

「このように、私の父は、兄たちに不自由させられても、腹を立てているような

ハウ コロ カ ソモ キ プ ネ ア プ

haw kor ka somo ki p ne a p

声も上げないものでしたが

タント ネ アナクネ

tanto ne anakne

今日は

『アコン ニシパ エウナラパ ワ

‘a=kor\_ nispa eun arpa wa

『私の (知り合いの) 長者のところに行って、

ポンノ ネ ヤッカ カムイ ハル ヘネ ユク ハル ヘネ

ponno ne yakka kamuy haru hene yuk haru hene

少しでも、クマの肉でもシカの肉でも

エシリペ…… エシリペ プ エセ ルウエ ネ セコロ エハウエアナク

e=siripe... e=siripe p e=se ruwe ne sekora e=hawean y\_ak

食べるものをもらって背負っていきますとお前が言え、

アエコレ ナンコン ナ』

a=e=kore nankor\_ na’

お前にくれるだろうから』

セコロ アオナ イイエ ワ エカン ルウエ ネ」

sekora a=ona i=ye wa ek=an ruwe ne”

と父が言うのでやって来ました」



セコロ ハウエアナナクス パシロタ エアラキンネ ソレクス  
**sekor hawean=an akusu pasrota earkinne sorekusu**  
 と言うと、(兄たちを) 非常にののしって、それこそ

「フンナ オナコロ ウヌコロ イケ  
**“hunna onakor unukor h\_ike**  
 「どこの世界に父を持ち、母を持つ者が

ソモ イペレノ シンナ オカイ ペ ネ ソモ カシオイキ プ ネ ヒネ エネ  
**somo ipereno sinna okay pe ne somo kasioyki p ne hine ene**  
 ちゃんと食べさせずに、別の家に暮らして、世話もしないとは

フンナ プリヒ フンナ カッチャマ エネ オカ イ アン」  
**hunna purihi hunna katcama ene oka h\_i an“**  
 だれのやり方か、誰の流儀で、そんなことがあるのか」

セコロ ハウエアン コロ エアラキンネ アオナハ ケムヌ ハウコカリ コロ  
**sekor hawean kor earkinne a=onaha kemnu hawkokari kor**  
 と言って、非常に父を気の毒に思う言葉を繰り返しまして、そうしながら

うんと カム ピリカ イ チェプ ピリカ イ アスパ ワ  
**UNTO kam pirka h\_i cep pirka h\_i a=supa wa**  
 うんと肉や魚のいいところを煮て、

ネア メノコポ スケ ピリカ  
**nea menokopo suke pirka**  
 その娘が上手に料理してくれて

ルプネ マツ アン ワ イルイルイパ したり キ コロ オカアン アイネ  
**rupne mat an wa i=ruyruypa SITARI ki kor oka=an ayne**  
 大人の女性は、私をなでさすっていました。

ネア メノコポ スケ コラン ハ…… ラポク  
**nea menokopo suke kor an ha... rapok**  
 その娘が料理している間に、

ネア オンネクル アシケヘ ピタ ヒネ コオンカミ  
nea onnekur a=sikehe pita hine koonkami

老人は私の荷をほどいて、礼拝をして、

「ソモ ネプ カ エセ ノ エエカツカ

“somo nep ka e=se no e=ek y\_akka

「何もあなたが背負ってこなくても

ネノ エハウエアン コロ エカクン アシケレ ペ ネ  
nenno e=hawean kor ek y\_akun a=sikere pe ne

そのように言って来たならば、荷（食料）を背負わせてあげるものを、

アポンコ エシケレ ルウエ アニアン」

aponko e=sikere ruwe an h\_i an“

ずいぶんたくさん（宝物を）背負ってきたもんだなあ」

シコロ ハワン コロ コオンカミ ア コオンカミ ア イネ  
sekor hawan kor koonkami a koonkami a h\_ine

といいながら、礼拝してして、

オラ ロルンソ オルン アヌ チタラペ トウラノ キ ルウエ ネ ア プ  
ora rorunso or un anu citarpe turano ki ruwe ne a p

上座に置いて、敷物を敷いて、礼拝しましたが、

タネ シリクンネ イネ ネア メノコポ スケ オケレ アクス  
tane sirkunne h\_ine nea menokopo suke okere akusu

今や暗くなって、その娘が料理も終わった頃、

ユク セ ウタラ イワクミ アシ ルウエ ネ ア プ

yuk se utar iwak h\_umi as ruwe ne a p

鹿を背負った人たちが帰宅する音がしました。

イコカマフプテ コロ アナニ イェ ワ ネ ノイネ ソヨシピタツパ アイネ  
ikokamahupte kor an=an h\_i ye wa ne noyne soyosipitatpa ayne

東窓から荷物をいれているらしく、家の外で身支度を解いて、

アフプ パ ルウエ レコマトゥ カネ アン クル オラ

**ahup pa ruwe rekomatu kane an kur ora**

入り口から来て、髭のある男性が、

レク クル ポカ チャレアイタレ カネ アン クル ウトゥラ ヒネ

**rek kur poka careaytare kane an kur utura hine**

髭もまだ生えそろっていない人と一緒に

アフプ イネ イエランカラプ パ オピッタ キ ヒネ

**ahup h\_in e i=erankarap pa opitta ki hine**

入ってきて、ふたりとも私に挨拶の言葉を言い

オラウン キヤンネ ワ アン クル エネ ハウエアニ

**oraun kiyanne wa an kur ene hawean h\_i**

それから、年上のほうがこう言いました。

「アオナハ ウウエペケンヌ ア ルウエ アン？」

“a=onaha uepekennu a ruwe an?”

「おとうさん、事情を聞いたか？」

セコロ ハウエアニ アクス

**sekor hawean akusu**

というと、

「ウウエペケンヌアン ハウエ エネ アン マ アン

“uepekennu=an hawe ene an w\_a an

「事情は聴いた。このようなことで、

エチシクアプ (?) エチインカラ トオ エネ アイヌ ニシパ

**eci=sikap (?) eci=inkar too ene aynu nispa**

XXX (?), あそこでこのようにアイヌの紳士<sup>[4]</sup>は

アエプ コン ルスイ クス マツネポ アポンコ シケレ ルウエ アン ヤッカ

**aep kor\_rusuy kusu matnepo aponko sikere ruwe an yakka**

食べ物が欲しいので、娘にたくさんの荷を背負わせてきたのだが

ソモ アン ペ ケマノッ タ アエプ コン ルスイ オッ タ  
**somo an pe keman or\_ ta aep kor\_ rusuy or\_ ta**  
 飢餓で食べ物が欲しい時に

アタイェ アウク ネ クス  
**ataye a=uk ne kusu**  
 代償をとるものではないのだから、

アタイェ アウク カ コパン ヤッカ ヘトポ アセレ ヤッカ コソシ クス  
**ataye a=uk ka kopan yakka hetopo a=sere yakka kosos kusu**  
 その代償をもらうのを拒んでも、このまま荷を背負わせて帰すのも重たいから、

ニサッタ リトゥル パクノ ウサ エチシケ ワ エチルラ ワ  
**nisatta ritur pakno usa eci=sike wa eci=rura wa**  
 明日、途中まで、いろいろお前たちは荷を背負って運んで

オラウン エチホシッパ シレパノ (?)  
**oraun eci=hosippa sirepano(?)**  
 それから、お前たちは戻るんだ。

エチシレパ ヤクネ スイ ユプタリ ヌ ヤク  
**eci=sirepa yakne suy yuputari nu yak**  
 到着するまでお前たちが行けばまた兄たちがそれを聞くと

ウェン クス リトゥル パク エチトゥラ ヤク ピリカ ルウェ ネ ナ」  
**wen kusu ritur pak eci=tura yak pirka ruwe ne na”**  
 よくないので、途中まで一緒に行くのだぞ」

セコン ネ アクス パシロタ パ。ネア キヤンネ ワ アン クル ポ ヘネ  
**sekor\_ ne akusu pasrota pa. nea kiyanne wa an kur po hene**  
 と言うのです、すると、二人とも（私の兄の事を）ののしりました。年上の方は、なおいっそう

「ヘンパラ オナ パラコアッ ウヌ パラコアッ クニ ペ  
**“henpara ona parkoat unu parkoat kuni pe**  
 「いつ父や母が罰があたるようなことを

エネ イキ パ イ アン？」

ene iki pa h\_i an?”

したというのか？」

セコロ ハウエアン コロ イルシカ コロ

sekor hawean kor iruska kor

と言って、(若者たちは) 怒って、

イペアン コロ カム ピリカ ヒ チェプ ピリカ ヒ

ipe=an kor kam pirka hi cep pirka hi

食事すると、肉の良いの、魚の良いのを

ヤイコプニ ワ アヤプテ クシ ネ コロ

yaykopuni wa a=yapte kus ne kor

自分でよそって、私が (みやげに持ち帰るために料理を鍋から) とろうとすると、

「ポロンノ チ アエプ カ アセレ プ ネ ナ ホクレ イペ イペ」

“poronno ci aep ka a=sere p ne na hokure ipe ipe “

「たくさん、火の通った食べ物も背負わせてあげますから、さあ食べて、食べて」

セコロ ネア ルプネマツ カ メノコポ カ イイエ

sekor nea rupnemat ka menokopo ka i=ye

と言って、その奥さんも娘も言いました

オッカヨ ウタラ カ キ コロカ アコイメカレ カ キ ルスイ クス

okkayo utar ka ki korka a=koymekare ka ki rusuy kusu

男たちも言ったけれど、私は料理を持ち帰るためによそって、

アヤプテ ヒネ アセ ルウェ…… アセ クニ ネ アカン ルウェ ネ ア プ

a=yapte hine a=se ruwe... a=se kuni ne a=kar\_ ruwe ne a p

背負えるように荷造りし

レウシ…… ピリカ レウシアン アクス イピンネ……

rewsi... pirka rewsian akusu ipinne...

ぐっすりと一晩を過ごすと、

イシムネ ノシリクンネ ノ ネア メノコポ スケコアリキキ ルウェ ネ イネ  
 isimne nosirkunne no nea menokopo sukekoarikiki ruwe ne h\_ine  
 翌日まだ辺りが暗いうちに、あの娘が料理をしていました。

こんと ネロク オッカイポ ウタラ チェプ クマ タイ オロ ワ  
 KONTO nerok okkaypo utar cep kuma tay or wa  
 今度、例の若者たちは魚を干す竿の列から

カム クマ タイ オロ ワ  
 kam kuma tay or wa  
 肉を干す竿の列から

チェプ シケ シンナ カム シケ シンナ ユク カム カムイ カム ネ アッカ  
 cep sike sinna kam sike sinna yuk kam kamuy kam ne y\_akka  
 魚の荷物と肉の荷物は別々に、鹿肉や熊肉であっても、

チェプ サツ チェプ ネ ヤッカ ウサ ミケルイ ネ ヤッカ  
 cep sat cep ne yakka usa mikeruy ne yakka  
 魚は干し魚であっても、いろいろ身おろした鮭であっても

ポロンノ ウコシナンパ オラ オテッテレケ パ ペコロ カ  
 poronno ukosinanpa ora otetterke pa pekor ka  
 たくさんひもでくくって、ぎゅうぎゅう踏みつけるようにして

ナ ネンネン カラ パ コロ コオシネシケネ ヒネ アシヌマ カ  
 na nennen kar pa kor koosinesikene hine asinuma ka  
 いろいろ作って、ひとまとめの荷物にして、私も

シケ アカラ コロカ オラ トウン ネ ヒネ シケ パ ヒネ イルラ パ ヒネ  
 sike a=kar korka ora tun ne hine sike pa hine irura pa hine  
 荷物を作りましたが、ふたりで荷物を背負って運んで

アラキアン ア プ、ナニ エネ ハウエオカ イ  
 arki=an a p, nani ene haweoka h\_i  
 来ましたが、すぐにこのように言いました。

「ナニ シレパ ノ タネ シランケ クス シレパ ノ アトゥラ ヤッカ

“nani sirepa no tane siranke kusu sirepa no a=tura yakka

「すぐに（家に）到着するまでもう近いので、到着するまで私たちが一緒に行っても、

ポ スイ エパコアツパ クス とちゅうから ホシツパアニケ？」

po suy epakoatpa kusu TOTYUUKARA hosippa=an h\_ike?”

そのことで（兄たちから）とがめられるから、途中から私たちは戻ってはどうか？」

セコロ キヤンネ ワ アン クル ハウエアン アクス

sekor kiyanne wa an kur hawean akusu

と年上の方が言うと、

「ヤッカ ピリカ。アユピ イェ プ ネノ イキアン クス ネ ナ。

“yakka pirka. a=yupi ye p neno iki=an kusu ne na.

「それでもいいよ。兄さんが言うとおりにするよ。

アレンカイネ ネ クシ シケ アカリ イエコシ」

a=renkayne ne kus sike a=kar h\_i i=ekosi”

私がやるから、荷物を作るのは私にまかせて」

セコン ネ イアクネクル ハウエアン コロ

sekor\_ nea iaknekur hawean kor

と、弟のほうが言いました。

ネア トウン ネ ワ セ パ シケ シネ プ ネ ウコシナ ヒネ オラ

nea tun ne wa se pa sike sine p ne ukosina hine ora

ふたりで背負ってきた荷物を、縛ってひとつにまとめて、それから

ユプユプ ペコロ テツテレケ ペコロ カラ アクス コオシネシケネ ヒネ

yupyupu pekor tetterke pekor kar akusu koosinesikene hine

荷物を締めるかのように、踏みつけるかのようにして、ひとまとめの荷物にして

カラ ヒネ オラ ネア ポン アシケヘ アコセ ヒネ オラ

kar hine ora nea pon a=sikehe a=kose hine ora

作って、それから、その小さい私の荷物を弟が背負って、そして

「アプンノ アラパ

“apunno arpa

「気を付けて行きなさい。

オラ スイ ヘトポ エネ…… エネ エチイキ イ カ イサム チキ  
ora suy hetopo ene... ene eci=iki h\_i ka isam ciki

そして、またあなた方がどうにもならなくなったら、

トゥナシノ エエク クニ エオナ エウン エイエ ヤク ピリカ」  
tunasno e=ek kuni e=ona eun e=ye yak pirka.”

早く来るようにあなたのお父さんに言いなさい」

セコロ ハウエオカ コロ

sekor haweoka kor

と言いながら、

ホシッパ ヒネ イサム ヒネ オラ アエヤイコプンテク コロ  
hosippa hine isam hine ora a=eyaykopuntek kor

戻って行ってしまい、私は喜んでいました。

ネア シケ アセ フミ アセ エパパクノ アニネ アセ ヒネ  
nea sike a=se humi a=se epapakno an h\_ina a=se hine

その荷物は私が背負えるだけ背負うようになっているので、背負って

ネア ランコ サム タ きたけ アペ ア コロ シラン…… ルウェ エネ アニ  
nea ranko sam ta KITAKE ape a kor siran... ruwe ene an h\_i

そのカツラのそばに来たら、火が燃えているようです。その様子は

ピリカ メノコポ クンネ プ エサパムイエ ヒネ ミナ カネ ヒネ ア ワ アン  
pirka menokopo kunne p esapamuye hine mina kane hine a wa an

美しい娘は黒いもので頭を縛って、笑って、髪を束ねて座っていました。

ヒネ オラウン

hine oraun

すると、



「アコロ カツケマツ エエトコ アオシニ キ

“a=kor katkemat e=etoko a=osini ki

「私の御嬢さん、あなたが来るまで私は休んでいましたよ。

ウクラン ネ ワノ アエルラ クニ アン ワ アナン ペ ネクス

ukuran ne wano a=e=rura kuni an wa an=an pe nekusu

タベから貴女が送られることになっていたのです、

アイヌ ニシパ ウタラ リトゥル ワ ホシッパ クニ ネ アヤイヌレ

aynu nispa utar ritur wa hosippa kuni ne a=yaynure

(送ってくれた) アイヌの紳士達が、途中から戻るように、私は思わせて、

アウヌフ アオナハ カ ヤイヌレ ワ リトゥル ワ ホシッパ ルウエ ネ

a=unuhu a=onaha ka yaynure wa ritur wa hosippa ruwe ne

母や父にも思わせて、途中から戻って行きました。

オラウン パクノ ケウトウム ピリカ ウタラ イサム

oraun pakno kewtum pirka utar isam

そしてまもなくこれほど精神のいい人たちはいないほどで、

イユプネ クル カ ケウトウム ピリカ プ ネ コロカ

iyupne kur ka kewtum pirka p ne korka

兄のほうも精神が良いものであるが、

ポニウネ ワ アン クル アナクネ ソモ アイヌ サニ ネ ルウエ ネ

poniwne wa an kur anakne somo aynu sani ne ruwe ne

年下のほうの人は、人間の子孫ではないのです。

クス アレンカイネ ネ クス エチウコパヨカ アイネ オラウン

kusu a=renkayne ne kusu eci=ukopayoka ayne oraun

だから、私の力でお互いに行き来してそして、

ネア ポニウネ ワ アン クル むこさん エチオルン アラパ ナンコロ クス

nea poniwne wa an kur MUKOSAN eci=or un arpa nankor kusu

その年下のほうの人が嬢さんになって、あなたたちのところに行くでしょう。だから

ネノ エヤイヌ ヤクネ ネプ エチエシリキラプ カ ソモ キ ルウエ ネ ナ  
 neno e=yaynu yakne nep eci=esirkirap ka somo ki ruwe ne na  
 そのように考えれば、何をあなたたちは困ることもないのです。

エユプタリ アナクネ ネプ カ アエプ カ ホッパ カ ソモ キ コロカ  
 e=yuputari anakne nep ka aep ka hoppa ka somo ki korka  
 あなたの兄たちは何も食べ物も残して置かなかったけれど、

ピシ クシ ワ エイリパク アプカシ ワ パヨカ  
 pis kus wa eirpak apkas wa payoka  
 海岸を通過して、一緒に歩き回った

ヒ カ アヌカラ コロ アナン ルウエ ネ ア プ  
 hi ka a=nukar kor an=an ruwe ne a p  
 ことも私が見ていたのですよ。

エネ ピリカ シケヘ キ ワ とちゅう ネ エシケ アカラ ワ クス  
 ene pirka sikehe ki wa TOTYUU ne e=sike a=kar wa kusu  
 そのようにきれいに荷物をして、途中で、あなたの荷物を私が作ったので

アエエカスイ ワ アコシネユッパ アコシネシナ コロ  
 a=e=ekasuy wa a=kosineyuppa a=kosinesina kor  
 私はあなたを手伝って、縛って、きつく縛って、別にもって

アエエカスイ アイネ エセ ワ エエク ルウエ ネ ナ」  
 a=e=ekasuy ayne e=se wa e=ek ruwe ne na”  
 私が手伝って、あなたが背負って来たのです。」

セコロ ハウエアン クス  
 sekor hawean kusu  
 とカツラの女神が言うので

オラ ネア チ アエプ カ チェプ カ ネア ランコ カムイ アコプニ シンネ  
 ora nea ci aep ka cep ka nea ranko kamuy a=kopuni sinne  
 それから、その焼けた食べ物も魚もそのカツラの神に捧げます

ヤカイエ コロ ニアウコンタ オルン アアリ オラ

**yak a=ye kor niawkonta or un a=ari ora**

と言いながら、木の股のところに置いて、それから、

ネア メノコポ カ ネア チ アエプ カ フ チェプ カ アコレ

**nea menokopo ka nea ci aep ka hu cep ka a=kore**

その（神の）娘にも焼いたそれらの食べ物も、生の魚もあげました。

「エアラキンネ ネウン テク エイキ ヤッカ アエコプンテク

**“earkinne neun tek e=iki yakka a=e=kopuntek**

「本当に、あなたが何をしてくれても私は嬉しいのに、

エラマヤクス エネ エイキ ヒ アン」

**eramaakusu ene e=iki hi an”**

このようなことをあなたがしてくれることよ」

セコロ ハウエアン コロ オラウン

**sekor hawean kor oraun**

と言いました。それから

「それこそ エセレマク アウシ クス ネ ナ ランコ カツケマツ

**“SOREKOSO e=sermak a=us kusu ne na ranko katkemat**

「それこそ私がお前を守ってあげるのですよ。私はカツラの女神の、

マツネポ アネ クス エセレマカ アウシ ワ ピリカ アイヌ ネ アン クニ

**matnepo a=ne kusu e=sermaka a=us wa pirka aynu ne an kuni**

娘なので、あなたの背後にいて、いい人間でいるように、

エネ イキアン クス ネ ナ」

**ene iki=an kusu ne na”**

して、守っていきますよ」

セコロ ハウエアン コロ オラ アシケ アセ ヒネ

**sekor hawean kor ora a=sike a=se hine**

と言いました。それから私は荷物を背負って、

ウウェコホッパアン イネ シヨカ ウン インカラナクス  
uekohoppa=an h\_ine siyoka un inkar=an akusu

(女神と)別れて、後ろを振り返ってみると、

アイヌ カ ネプ カ イサム ルウェ ネ ヒネ オラ アウニ タ シレパアニネ  
aynu ka nep ka isam ruwe ne hine ora a=uni ta sirepa=an h\_ine

人間も何もいませんでした。そして私の家に到着して、

「タップネ タップネ ネ ワ ヤイライケアン コロ エカン ルウェ ネ」  
“tapne tapne ne wa yairayke=an kor ek=an ruwe ne “

「これこれこのようなわけで、感謝して帰ってきました。」

セコロ ハウエアナン コロカ オラ とちゅうに アペ アアリ ヒ カ  
sekor hawean=an korka ora TOTYUUNI ape a=ari hi ka

と私は言いましたが、途中で火を焚いたことも、

エネ イキアン ヒ カ アオモンモモ カ ソモ キ ノ  
ene iki=an hi ka a=omommomo ka somo ki no

どのようにしたのかも、こまごまとは言いませんでした。

それこそ アオナハ アウヌフ チシ コロ ウサ カム ウサ チェプ  
SOREKOSO a=onaha a=unuhu cis kor usa kam usa cep

それこそ、父や母は泣いて、干し肉や干し魚を

エヤイコブンテク ワ サキリ カ オ  
eyaykopuntek wa sakir ka o

喜んで竿に掛け、

オラノ アエ コロ オカアン アイネ ラポッケヘ  
orano a=e kor oka=an ayne rapokkehe

それから食べているうちに、

こんと ネア ニシパ オロ ワ ソンコ エク ハウエ エネ アニ  
KONTO nea nispa oro wa sonko ek hawe ene an h\_i

今度その紳士からのことづてが来たということで、

「ウエンカス アイヌ ニシパ アケムヌ クス

“wenkasu aynu nispa a=kemnu kusu

「あまりにもアイヌの紳士が気の毒なので、

ポン アポホ カシ アオイキレ クニ ネ ウコラムコラン クス ネ ナ」

pon a=poho kasi a=oykire kuni ne ukoramkor=an kusu ne na”

私の下の子の方に世話をさせるようにお互いに相談いたしましょう。」

セコロ ハウェアン ソンコ エク ペ ネ クス

sekor hawean sonko ek pe ne kusu

と言うことづてが来たものです。だから

アオナ ラムオシマ ヒネ オラ ネ ポニウネ ワ アン クル

a=ona ramuosma hine ora ne poniwne wa an kur

私の父は承諾し、そののち、その年下の方の人を

むこさん ネ アコロ ワ アオナ カシ アオイキ アウヌ カシ アオイキ

MUKOSAN ne a=kor wa a=ona kasi a=oyki a=unu kasi a=oyki

婿さんにして、父も、母も世話をして

ネロク アシリペ クス アセ ア プ カ

nerok a=siripe kusu a=se a p ka

例の、食料をもらうために私が背負っていったものも、

こんと ネア オックアイポ セ ワ エク ペ ネ クス

KONTO nea okkaypo se wa ek pe ne kusu

その若者は背負って来たものなので、

コロ ペ ネ アン それこそ アユプタリ アナクネ ネウン アン

kor pe ne an SOREKOSO a=yuputari anakne neun an

彼の持ち物にしました。それこそ、私の兄たちは、何か

チロンヌプ ホン (?) ポカ カ

cironnup hon(?) poka ka

せめてきつねの腹 (?) でも、

アオナウタリ エレ カ ソモ キ パ プ オラウン

a=onautari ere ka somo ki pa p orawn

父たちに食べさせるもしないで、そして

キヤンネ アユピヒ カ ポサク オラ タンタネ エネ イキ イ カ イサム

kiyanne a=yupihi ka posak ora tantane ene iki h\_i ka isam

上の兄も子供ができず、だんだん、どうしようもなくなったという

パハウ アヌ ヒケ カ ヘトポ ホロカ エネ ネ クニ アヌ ワ アナン

pahaw a=nu hike ka hetopo horka ene ne kuni a=nu wa an=an

うわさを私は聞きましたが、それとは逆に、どうすべきか私は聞いていて、

カムイ オルシペ アヌ ワ キ プ ネ ワクス

kamuy oruspe a=nu wa ki p ne wakusu

神様の話を私は聞いていたので

オラ ネア オンネ ウタラ カシ アオシケ したり アホタヌカラ パ したり

ora nea onne utar kasi a=osike SITARI a=hotanukar pa SITARI

そして、例の（山向こうの）老人たちに荷物を持って行ったり、訪ねて行ったり

フムネ ネア キヤンネ ワ アン ニシパ カ マッコロ ワ アオナ

humne nea kiyanne wa an nispa ka matkor wa a=ona

一方、例の年上の紳士も嫁さんをもらって、私の父の

カシ オイキ プ ネクス イホタヌカラ パ したり キ コロ オカアナイネ

kasi oyki p nekusu i=hotanukar pa SITARI ki kor oka=an ayne

世話をしてくれたので、私たちを訪ねてくれたりして暮らしているうちに、

カムイ サシミ ネ ヤカイエ クツ トウラノ アナン ペ ネ クス ポ

kamuy sasimi ne yak a=ye kur\_ turano an=an pe ne kusu po

神の子孫だと言われる人と一緒に暮らしていたので、なおさら

ウサ カムイ ウサ オヤオヤ プ ヌウェ コアン ワ

usa kamuy usa oyaoya p nuwe koan wa

さまざまな神やいろいろな獲物に恵まれて

ネパエ ルスイ カ ネパコン ルスイ カ ソモ キ コロ オカアナイネ  
 nep a=e rusuy ka nep a=kor\_ rusuy ka somo ki kor oka=an ayne  
 何も食べたいとも、何も欲しいとも思わないで暮していましたら、

ウコポシレシクテアン ワ アオナ ウタリ イコイヨマップ コロ オカアナイネ  
 ukoposiresikte=an wa a=ona utari i=koiomap kor oka=an ayne  
 子供もいっぱいできて、父たちは子供たちをかわいがっているうちに

オンネ パ ワ イサム オカケ タ ソレクス ニシパ ポ アコロ  
 onne pa wa isam okake ta sorekusu nispa po a=kor  
 年を取って亡くなったあとで、それこそ私は、紳士の息子をさずかり、娘もできて

マツネポ アコロ ワ ポヌコアナン マツネポコラン ワ  
 matnepo a=kor wa ponukoan=an matnepokor=an wa  
 子供がたくさんでき、娘もできて、

アイヌヌケ コロ オカアン アイネ  
 a=i=nunuke kor oka=an ayne  
 私を大事にしてくれているうちに、

タネ ポロ スクパン ワ オンネアン オアシ シンネ クス アポ ウタリ  
 tane poro sukup=an wa onne=an oasi sinne kusu a=po utari  
 今は、だいが年をとって、天寿をまっとうするようなので、子供たちよ、

イテキ オナ アコッ チキ アオクパレ  
 iteki ona a=kor\_ ciki a=okpare  
 父や

ウヌ アコッ チキ アオクパレ プ ネ ナ  
 unu a=kor\_ ciki a=okpare p ne na  
 母を虐待するものではありませんよ。

タプネ カネ イキアン ワ カムイ イラムイエ クス オラ ランコ カムイ  
 tapne kane iki=an wa kamuy iramuye kusu ora ranko kamuy  
 これこれこのように私はして、神様に感謝したので、それから、カツラの神が

ポヌコアン シンネ ノ ポヌコアナン ワ ポシレシクテアン ワ  
 ponukoan sinne no ponukoan=an wa posiresikte=an wa

子孫が多いように、私も子供にめぐまれ、子供もたくさんでき、

エチスクプ シンネ ナ セコロ シネ カツケマツ ハウエアン コロ オンネ  
 eci=sukup sinne na sekor sine katkemat hawean kor onne

おまえたちが育ったのだぞと一人の女性が語ってこの世を去りました。

【注】

[1] 主人公である娘の父のことを指す。

[2] カツラの神に子供が多いというのは、ひこばえが生えることを言っている。



## 2-3 ウエペケレ「ランコ カッケマツ」解説

語り手：貝澤とうるしの

解説：萱野茂

萱野：私の兄があり、兄が二人おって、なに不自由なく生活をしておる家族であった。

けれども、兄たちは、どういうわけか、私の父とか母にあまりたくさん肉を持ってくるとか魚を持ってくるとか、そういうことがないので、兄も二人おる生活なんですけれども、父たちは、あまり十分楽しいとか、いい生活をしている様子はなかった。

父親が、あるときに言うには、「まあお前の兄たちを当てにするよりも、これから、ひと山越えて向こう側へ行くと、私の知り合いの人がおるから、そこへこの宝物を持って行き、そして肉とか魚とか、そうしたものと取り換えて来るように。」そう言いながら、父は宝物を出して **toma** [ごぞ] にくるんで、私に持たしてくれた。

私はそれを背負って、川を渡り、山を越えてずーっと来た。そしてある一か所の場所で泊まったんだな、これは？

貝澤：いや、泊まらない。火焚いておいたんだ。

萱野：そうか。途中で大きなカツラの木のあるそばで、アイヌ語で **owpoporinne** という言葉を使っておりましたが、それは、木とかそうしたものの、根からいっぱい出る、いわゆる分けつ（分蘖）の状態を **owpoporinne** というのですが、どっさり細いカツラの木の生えているそばで大きく火を焚いてちょっと休みながら私のかぶっておる被り物を、一本取って、そこであるカツラの木を、木の若木を一本スッと切って、人間の背丈ぐらいにして、それに黒い被り物をハチマキにさせて、私の言ったのは、「今こうして、父から頼まれて、アイヌ語で **siripe** と言うんですけれども、食べ物を欲しくて、この宝物を持って隣村まで行ってきます。帰りにまた寄って休みますので、どうぞひとつここで火を焚いて待っていてくださいよ。」と言いながら、その一本の木を、木を人間の高さぐらいに切り、そしてそれに、そのハチマキをさして、私は出かけて行った。

そして、行った行き先のおじいさんは非常にいい人であったので、い

ろいろな食べ物もおいしいものを食べさせてくれ、そして私の持って行った宝物を見て、「あー、やっぱり *nispa* [裕福な人] であるから、いいものを持たせてくれたな。しかし、こういう飢饉とか、そうした時には、その代償と言いましょうか、肉をやったり、魚をやったりその代わりに宝物をもらおうということは、するべきではないけれども、まあいったん受け取りましよう。」と、そういいながら、それを大切に向こうのほうへ置いたと。

そうこうしておるうちに、そこの二人の息子が山から帰ってきて、また、鹿か何かを背負ってきて、いろいろ面白い話を聞きながら、その晩はたくさんごちそう食べさせられて泊まったと。

そして次の朝には干し肉とか、干し魚とか、そうしたのをどっさり荷物にして、その荷物もできるだけ足で踏んだり、そしてがさばらないように [量が多くならないように]、小さく小さく荷造りして、その男の人たち二人が背負って、途中まで送って戻ってきてくれた。

そこへ、最初に行く途中に休んで火をたいたところまで、戻ってくると、そこで、やっぱり火が燃えておって、そこできれいな女の子が一人、娘が一人おって、私が置いたその黒いハチマキをして、言うのには「やはり、よく無事で帰ってきてくれましたね。私はあなたの言った通りに、人間になってここでお待ちしておりましたよ。」と、ニコニコ笑いながら私を迎えてくれたと。

そこで、いろいろな話をしながら、「あなたが行きながら言ったことを、私の父神、母神が聞いたので、このように人間になったんですよ。」と、言いながら、そこでいろいろと面白い話をして休み、そして、途中までその荷物をしょって [背負って] きたわけだな？

その今男の人たちが持ってきてくれた荷物を、途中から私が一人で背負ってきたのを、まあそこへきて、そのカツラの木の女神と一緒に背負って、私の父のところへ帰ってきた。

そしてその女の人は神様であったがゆえに神の国へ帰ったけれども、戻ったけれども、その時に言う事は、「今途中まで送ってくれた人の弟の方の人は非常にいい精神の人なので、必ずあなたのところに来てお婿さんになってくれるでしょう。そしていい生活をできるでしょうから、どうぞ幸せに暮らしてくださいね」と、言いながらそのカツラの女神は帰って行った。

なるほど、何か月か過ぎてから、その弟の方の人が来て、私と一緒にになり、そしてなに不自由なく幸せに生活することができ、生活をしております。と、一人のアイヌの女の人が語った。

これは、uepeker〔散文説話〕です。uepeker... aynu uepeker〔人間の散文説話〕ですね。

## 2-4 ウエペケレ

「アウナラペ イキモルラ」

おばに山へ連れられて

語り：貝澤とうるしの

アウナラペへ…… ネウン イキ ワ アン ペ アネ ルウエ ネ ヤ カ

a=unarpehe... neun iki wa an pe a=ne ruwe ne ya ka

どうしてなのか

アエラミシカリ ノ アウナラペ イレス ヒネ オカアン ペ ネ ルウエ ネ イケ

a=eramiskari no a=unarpe i=resu hine oka=an pe ne ruwe ne h\_ike

わからないけれど、私はおばに育てられており、

なに<sup>[1]</sup> マツネポ シネプ コン ルウエ ネ。

NANI matnepo sinep kor\_ ruwe ne.

おばには実の娘がひとりいました。

ウナラペ イレス ルウエ ネ イネ オカアン ペ ネ…… ペ オラウン

unarpe i=resu ruwe ne h\_ine oka=an pe ne... pe oraun

おばが私を養い、私達は暮らしていましたが、

ネプ カ ピリカ プ カラ コロ マツネポ エイカウンノ エレ

nep ka pirka p kar kor matnepo eykaunno ere

おばは何か美味しいものをつくると、その娘にまっさきに食べさせて、

オロワ アシヌマ アナクネ シノ オカ

orowa asinuma anakne sino oka

私はずっと後で(?)

イオマプレス、イオマプ カトウン カ ソモ キ ノ

i=omapresu, i=omap katun ka sono ki no

大事にされるでも、可愛がられるようでもなく

オカアン ペ ネ ルウェ ネ ア プ、  
**oka=an pe ne ruwe ne a p,**  
 暮らしていましたが、

タネ ポロ メノコポ アネ コン ラポッケヘ  
**tane poro menokopo a=ne kor\_ rapokkehe**  
 もう私が年頃の娘になった頃、あるとき、

シネアンタ フナク ウン エキムネ コロ  
**sineanta hunak un ekimne kor**  
 おばはどこかの山に行っては

オラ シリクンネ シロヌマン コロ エアシリ イワク ランケ コロ  
**ora sirkunne sironuman kor easir iwak ranke kor**  
 暗くなって夕方になるとようやく帰ってくるようになっていました。

「マキプ エネ アウヌフ イワク モイレ イ アン？」  
**“makip ene a=unuhu iwak moyre h\_i an?”**  
 「どうしてこのように私たちの母は帰るのが遅くなるのか？」

セコロ アサハ セコロ アイエ コロ アナン マツネポ  
**sekor a=saha sekor a=ye kor an=an matnepo**  
 と私が姉と呼んでいた娘は

ハウエアン ランケ コロ オカアン ペ ネ ア プ、  
**hawean ranke kor oka=an pe ne a p,**  
 いつもそう言って、私たちは暮らしていたものですが、

シネアンタ…… タネ トウッコ レレコ エキムネ コロ オラ シネアンタ  
**sineanta... tane tutko rerko ekimne kor ora sineanta**  
 もはや二、三日おばは山に行っていて、ある日、

「イシレン。エキムネアン ハンケノ キ クス ネ ナ、イトウラ。」  
**“i=siren. ekimne=an hankeno ki kusu ne na, i=tura.”**  
 「私と一緒においで。私は近くの山に行くから、私と一緒においで。」

セコロ ハウエアン ルウエ ネ。

**sekor hawean ruwe ne.**

とおばが言います。

「ヒナクン ネプ カ アカラ カ エラムシカリ プ

**“hinak un nep ka a=kar ka eramuskari p**

「どこで何をするかも知らないのに、

フンタ コエキムネ ヒネ イシレナウエ アン？」

**hunata koekimne hine i=siren h\_awe an?”**

おばさんは何をしに山に行っていて、私を連れて行くと言うんだらう？」

セコロ ハウエアナナクシ ハウエアナン…… ラムアナン コロカ

**sekor hawean=an akus hawean=an... ramuan=an korka**

と私は思ったけれど

イエプ アハイタ カ エアイカプ。アウヌフ もてないもの<sup>[2]</sup>

**ye p a=hayta ka eaykap. a=unuhu MOTENAIMONO**

おばの言うことを蔑ろにすることもできず、実の母でもないので

イエプ アハイカ…… アハイタ カ エアイカピ クス

**ye p a=hayka... a=hayta ka eaykap h\_i kusu**

おばの言うことを蔑ろにできず、それで

アトゥラ クナク アイエ ルウエ ネ アワ ヘム キ。

**a=tura kunak a=ye ruwe ne awa hem ki.**

私は一緒に行くと言いました。

ピリカ マツネ セタ アレス、レタラ マツネ セタ アレス イネ アン ワ

**pirka matne seta a=resu, retar matne seta a=resu h\_ine an wa**

私は美しい雌犬を育て、白い雌犬を育てていて、

まるっで<sup>[3]</sup> イオシクヌカ エム キ プ ネ (?)。

**MARUTDE i=osiknuka h\_em ki p ne(?)**

その犬は本当に私になつていました。

シキルアナクス イオシ チシチシ カネ コロ

sikiru=an akusu i=os ciscis kane kor

私が振り向くと、私の後ろでなきながらいて、

マウ トウットウリ ペコリキ ア ポラ

maw tutturi pekor iki a p ora

息をのばしのばししているようなのですが、

イオシ エク カ ソモ キ ルウエ ネ ヒネ

i=os ek ka somo ki ruwe ne hine

私の後をついて来ることもしません。

アウナラペヘ ニタンノ アラパ プ ネ クス

a=unarpehe nitanno arpa p ne kusu

私のおばは急ぎ足で進むものなので

オシ ニタナニネ パイエアナインネ トオプ キム タ パイエアン コロ

os nitan=an h\_inne paye=an ayne toop kim ta paye=an kor

私はおばの後ろを急ぎ進んでいき、奥山に私達は行くと、

ポロ セプ ノ シロウリ ヒネ アン ペ エネ アニ オラ

poro sep no sirouri hine an pe ene an h\_i ora

大きく広い穴が掘られていて、

カシ チャ オ ヒネ アン ルウエ ネ アアン ヒネ エネ ハウエアニ

kasi ca o hine an ruwe ne aan hine ene hawean h\_i

その上に小枝が載せてあります。おばは

「なに トアン ウシケ タ アエトウラ ヤクン アイェ…… アイェ プ ネノ

“NANI toan uske ta a=e=tura yakun a=ye... a=ye p neno

「私があそこへお前を連れて行ったら、私が言うように

エイキ プ ネ ナ。」

e=iki p ne na.”

お前はするんだよ。」

セコロ ハウエアン コロ パイエアナクス

sekor hawean kor paye=an akusu

と言いながら私達は行くと、

「ヘラシ ネア チャ アムケ ヒネ オラ ヘラシ ヘポキキ コロ

“herasi nea ca amke hine ora herasi hepokiki kor

「下にその小枝を外し、頭を下げて

トアン スイ アサム タ ヘマンタ トアン ルウェ アン ナ<sup>[4]</sup> ヌカラ。」

toan suy asam ta hemanta toan ruwe an na nukar.”

その穴の底に何かあるから見なさい。」

セコロ ハウエアン。ケシト シヌマ オウリ ウシケ ネ ア ノイネ

sekor hawean. kesto sinuma ouri uske ne a noyne

と言います。毎日彼女が掘ったところであったようで

アシンノ アオウリ ウシケ ネ プ オラ エウン イヘヘウパレ ヒネ

asinno a=ouri uske ne p ora eun i=hehewpare hine

最近掘られたところを私に覗かせて、

ヘヘウパアナ プ、セコロ イオプトウイテクテキネ

hehewpa=an a p, sekor i=oputuytektek h\_inie

私は覗いたのですが、このように、おばは私を後ろからドンと突き飛ばして

トオプ スイ アサムン トウルルセアン<sup>[5]</sup>。

toop suy asam un tururse=an.

その穴の底に私は落ちたのでした。

オラノ コント イカ チャ オ ヒネ ネア スイ カシ チャ オ ヒネ

orano konto i=ka ca o hine nea suy kasi ca o hine

それから私の上に小枝を載せ、その（私が落ちた）穴の上に小枝を載せて

オラウン イホツパ ルウェ ネ ノイネ ネプ カ アラパアン ル カ イサム。

oraun i=hoppa ruwe ne noyne nep ka arpa=an ru ka isam.

おばは私を置き去りにするように、何か私が進む道も無くなってしまいました。



オラノ チサン コロ アナナクス

orano cis=an kor an=an akusu

それで私は泣いていると、

ヘリカシ ワ セタ ニウニウセ ハウ アシ ルウエ ネ イネ

herikasi wa seta niwniwse haw as ruwe ne h\_inē

上のほうから犬がクンクンなく声がするのです。

インカラナクス チサン コロ ヤイナンカピリパアン コロ

inkar=an akusu cis=an kor yaynankapirpa=an kor

私が見て、私は涙ながらに自分の顔を拭い拭い

インカラナクス

inkar=an akusu

見ると、

ネア アコロ ポン マツネ セタ イオシ ニウニウセ ア プ、アラパ ヒネ

nea a=kor pon matne seta i=os niwniwse a p, arpa hine

その私の小さな雌犬は私の後ろでクンクンないていたのですが、(その犬は) 行って

オラノ チャ シネプ ちち エクパ ワ エタイェ ワ オヤクン

orano ca sinēp CICI ekupa wa etaye wa oyak un

それから、小枝を一本ずつくわえ、引き抜いては他のところへ

ルトウ ランケ ルトウ ランケ シンネ ノイネ イキ オラノ

rutu ranke rutu ranke sir\_ ne noyne iki orano

ずってずって押しずらしているようす。

チサン コロ アナン アイネ ニウニウセ、

cis=an kor an=an ayne niwniwse,

私が泣いているうちに犬も鳴き、

イヌカラ ワ ニウニウセ ニウニウセ カ ハウエ ネ、

i=nukar wa niwniwse niwniwse ka hawe ne,

私を見てクンクンクンと

ハウェアン コロ アン ルウェ ネ アイネ

**hawean kor an ruwe ne ayne**

言って、鳴いていました。

ラポッケへ なに ヒナク ワ ネ ヤ アイヌ エク フム アシ ルウェ ネ アクス

**rapokkehe NANI hinak wa ne ya aynu ek hum as ruwe ne akusu**

そうしているうちに、どこからか人間が来るような音がして、

ネア アコロ ポイ セタ ニウニウセ ニウニウセ カネ ハウェアン コン

**nea a=kor pon\_ seta niwniwse niwniwse kane hawean kor\_**

その私の小犬はクンクンと鳴き続けながら、

ネ アイヌ エカリ サラ スイエスイエ コロ

**ne aynu ekari sar suyesuye kor**

その人の周りを、尻尾を振り振り

ホユプ シン ネ ノイネ イキ ア プ、

**hoyupu sir\_ ne noyne iki a p,**

走っているようでしたが、

コント アイヌ カ ウタラパケ、パクノ ニシパ イサム ペ ネ ノイネ

**konto aynu ka utarpake, pakno nispa isam pe ne noyne**

その人は、男性の中でも特に立派な、比類のない長者であるらしく、

イポッ トウンマ<sup>[6]</sup> カ アン、ピリカ オッカイポ スイ パッ タ エキネ

**ipor\_ tumma ka an, pirka okkaypo suy par\_ ta ek h\_in**

それが顔色に表れている素晴らしい若者が、穴の口に来て、

パシロタ コロ エネ ハウェアニ

**pasrota kor ene hawean h\_i**

声を張り上げて言うことには、

「ネウン エチイキ ヤコラ エチエペセ クニ ネ

“neun eci=iki yak ora eci=epese kuni ne

「あなた達がどうにかすればそれで助かるように

イキアン クシネ ナ エラムオカ ヤン。

**iki=an kus ne na eramuoka yan.**

私はするから覚えていなさい。

ヘマンタ エネ…… エネ チホツパ イタカン、

**hemanta ene... ene cihoppa itak an,**

なんとも、残された言葉

シンリッ イタカン ヒ エネ イキ パ ヒ アン。」

**sinrit itak an hi ene iki pa hi an.”**

先祖の言葉がそのようなことを述べているんですよ。」

セコロ ハウエアン コロ トウシ ランケ

**sekor hawean kor tus ranke hine**

と言いながら、綱を下ろして

ヒネ イキシマレ クシ ネ イ イエ イネ アキシマ アクス

**i=kismare kus ne h\_i ye h\_ine a=kisma akusu**

私にそれを掴むように男は言い、私が（綱を）掴んだら

ネ ポイ セタ エクパ して イカスイ ひっぱるんだと。

**ne pon\_ seta ekupa SHITE ikasuy HIPPARUNDATO.**

その小犬が綱をくわえ、手伝って、それを引っ張るのです。

（萱野：うん。）

ヒネ リク タ ヘメスアナクス オラノ イトウイトウイエ ネ クル キ コロ

**hine rik ta hemesu=an akusu orano i=tuytuye ne kur ki kor**

それで、穴の上に私がのぼると、その人は私をふるってゴミを飛ばし、

パシロタ コロ コント ネア ポイ セタ カ エヤラポカニ、

**pasrota kor konto nea pon\_ seta ka eyarpokani,**

声を荒げながら、その小犬を小脇にかかえ、

アシヌマ カ イエヤラポカニ イネ

asinuma ka i=eyarpokani h\_ine

私も小脇にかかえて、

ヒナクン マウコホブンパアン フミ ネ、フミ アシ コロ

hinak un mawkohopunpa=an humi ne, humi as kor

どこかへ風に舞い上げられるような感じがすると、

ヒナクン パイエアナイネ

hinak un paye=an ayne

どこかへ私達は行き

モシリパサリヒ<sup>7</sup> タ いったんだと

Mosirpasarihi ta ITTANDATO

斜里に（行ったんだと）

（萱野：うん。）

ルウェ ネ アクス ピリカ コタン、ニシパ コタン アン ルウェ ネ。

ruwe ne akusu pirka kotan, nispa kotan an ruwe ne.

行くと、美しい集落、長者の村がありました。

「チセ ソイ タ イトウイトウイエ イネ

“cise soy ta ituytuye h\_ine

「家の外でゴミをはらい

オラ アミプ、イカ ワ アミプ カシヒ トウイトウイエ ワ アフンケ ヤン。」

ora amip, ika wa amip kasihi tuytuye wa ahunke yan.”

それから着物、上着の上をはらってから家に通しなさい。」

セコロ ハウエアン コロ アン ペ ネ クシ

と男が言うので

sekor hawean kor an pe ne kus

ピリカ メノコポ ソイネ イネ アミ プ トウイトウイエ、  
**pirka menokopo soyne h\_ine a=mi p tuytuye,**  
 美しい娘が外に出てきて、私の着物をはらい、

ムン ヌイエプ アニ イトウイトウイエ イネ  
**mun nuye p ani i=tuytuye h\_ine**  
 箒を持って私をはらって、

オラウン アテケ アニ イネ アニケ  
**oraun a=teke ani h\_ine an h\_ike**  
 それで彼女は私の手をひいたのですが、

「マク イキ ワ ヒナク ワ シコ ペネ ヒネ  
**“mak iki wa hinak wa siko p e=ne hine**  
 「どうして、どこで生まれ、

エネ アエカリ アン」  
**ene a=e=kar h\_i an”**  
 このようにされているのか」

セコロ ヤイヌアン ワ チサン コロ アフナン ルウェ ネ アクス  
**sekor yaynu=an wa cis=an kor ahun=an ruwe ne akusu**  
 と思い、私は泣きながら家に入ったところ

ルプネ マツ カムイ カ アン、チャチャ カムイ カ アニネ  
**rupne mat kamuy ka an, caca kamuy ka an h\_ine**  
 媼神も、翁神もいらっしやって、

オラウン ライパシロタ コロ イルカ オカアン テク コン  
**oraun raypasrota kor iruka oka=an tek kor\_**  
 ひどく声を荒げていらっしやいます。少しすると、

ネア メノコポ フナクン ネア オツカイポ ウテキネ  
**nea menokopo hunak un nea okkaypo utek h\_ine**  
 そこの娘がどこかへ若者を使いに出し、

ソイネ アクス アイヌ カ ウタラパケ イリワキヒ ネ ノイネ アン、  
**soyne akusu aynu ka utarpake irwakihi ne noyne an,**  
 若者が外に出たところ、男性の中でも立派な人のその兄弟であるような

キヤンネ ノイネ アン ニシパ ウェンノ ライパシロタ  
**kiyanne noyne an nispa wenna raypasrota**  
 一番年上のような旦那がひどく声を張り上げて

ハウエ エネ アニ  
**hawe ene an h\_i**  
 言うことには、

「アオカ アナクネ クスル プトゥ コン ニシパ アネ ルウエ ネ ワ  
**“aoka anakne Kusur putu kor\_ nispa a=ne ruwe ne wa**  
 「私達は釧路川の河口を領有する長者であって、

アアキヒ タアン メノコポ コロ クニ  
**a=akihi taan menokopo kor kuni**  
 私の弟はその娘を嫁にするようにと

シンリッ エイタクヌ イエ (?) [8] ルウエ ネ。  
**sinrit eytaknu ye(?) ruwe ne.**  
 先祖の言葉で述べられたのです。

ああ、継親だとその婆っこ。

(萱野：うん。)

イネ イオシ ワ アン エチウヌフ  
**h\_ine ios wa an eci=unuhu**  
 その後から来たお前達の母親（おばさん）が

マツネポ ネウン ポカ イコニタツパ ルスイ クス  
**matnepo neun poka ikonitatpa rusuy kusu**  
 自分の娘をどうにかして見守ってやりたいので

エネ エライケ ルスイ クス スイエオマレ…… スヨレオマレ ヒ  
 ene e=rayke rusuy kusu suy e=omare... suy or e=omare hi  
 このようにあなたを殺したくて、穴の中に入れたことを

アアキ エママン ペ ネ クス チョラウキ ワ アラパ ルウエ ネ ワ  
 a=aki emaman pe ne kusu corawki wa arpa ruwe ne wa  
 弟は知っていたものだから、怒って向かって行ったのです。

ソレクス ワ エホシピ ヤカナクネ エシクヌ カ ソモ キ プ ネ クス  
 sorekusu wa e=hosipi yak anakne e=siknu ka somo ki p ne kusu  
 それこそ、あなたは家に帰ると生きてはいられないものですから、

タネ ナニ テ タ エアン ペ ネ ナ。アアキヒ イェ プ ヌ ワ イェ プ ヌ ワ。  
 tane nani te ta e=an pe ne na. a=akihi ye p nu wa ye p nu wa.  
 いますぐここで暮らさない。弟の言うことを聞くのですよ。

テケ アコイキ クニ ネ エイキ ヤクネ  
 teke a=koyki kuni ne e=iki yakne  
 弟の手をわずらわせるようなことをあなたがしても、

エコロ シンリッ ウタラ カ シンリッ イホツパ イタク ネ アクス  
 e=kor sinrit utar ka sinrit i=hoppa itak ne akusu  
 あなたの先祖たちも先祖が我々に遺した言葉であると

ヤイコトウヤシパ ルウエ ネ ナ。」  
 yaykotuyaspa ruwe ne na."  
 安心するものですから。」

セコロ ハウエアン。ウエニヨクヌレアン コロ アナナ プ、  
 sekor hawean. wenyokunnure=an kor an=an a p,  
 と言い、私は大変驚きました。

ネア…… エア…… レウシアン、エアンチカリ<sup>[9]</sup> イシムネ アナクス  
 nea... ea... rewsian, eancikari isimne an akusu  
 さて、その夜私は泊まり、翌日になって

トケシ エソイネ オムケオムケ ハウ アシ したんだと。

**tokes esoyne omkeomke haw as SHITANDATO.**

夕方になって、表で誰かがノックをする音がしました。

(萱野：うん。)

ルウェ ネ アクス ネア ルプネ マッ マツネポ シピネレ、

**ruwe ne akusu nea rupne mat matnepo sipinere,**

(ノックをする音が)すると、例のおばが娘を身支度をさせて、

ピリカノ シピネレ ヒネ トウラ して いったんだと。

**pirkano sipinere hine tura SHITE ITTANDATO.**

綺麗に身支度させて、連れて行ったのでした。

(萱野：うん)

ルウェ ネ アクス ソレクス

**ruwe ne akusu sorekusu**

すると、

ネア チャチャ カムイ カ イルシカ ハウエ エネ アニ

**nea caca kamuy ka iruska hawe ene an h\_i**

その翁神も怒った声でこう言いました。

「イナンペ クス シンリッ イタク チホッパ イタク アヌ ワ オカアナワ

**“inanpe kusu sinrit itak cihoppa itak a=nu wa oka=an awa**

「なんということ、先祖の言葉、言い残された言葉を我々は聞いていたのだが、

エコロ ウエンプリ アン クス ヤニ コシマツ ネ アコロ クシ ネ プ

**e=kor wenpuri an kusu yani kosmat ne a=kor kus ne p**

あなたの悪い行いのために、危うく嫁に迎える人を

ラウ エオマレ ワ レイエプ カムイ イコアスラニ ワ アポホ イカオパシ ワ

**raw e=omare wa reyep kamuy i=koasurani wa a=poho ikaopas wa**

お前が深い穴の中に入れ、それで犬が私に危急を知らせて息子がかけつけ、



トゥラ ワ エク ルウェ ネ イケ オラウン フンタ エチカラ、  
**tura wa ek ruwe ne h\_ike oraun hunta eci=kar,**  
 彼女を連れて来たのだが、いったいどの面をさげて

エチアラキ シリ アン。」  
**eci=arki siri an.”**  
 やって来たんだ。」

セコン ネ コロ カンニ エシカニパ (?) [10] イネ  
**sekor\_ ne kor kanni esikanipa(?) h\_ine**  
 と言いながら棒をつかむと (?)、

ソレクス ワ シシトマレ パ プ ネ クス  
**sorekusu wa sisitomare pa p ne kusu**  
 彼女たちは恐くなってしまったために、

コント ナニ キラ ワ イサム パ ルウェ ネ。  
**konto nani kira wa isam pa ruwe ne.**  
 すぐに逃げてしまったのでした。

オラウン ソレクシ チシ コロ イケウエホムス ネ ルプネ マツ カ キ。  
**oraun sorekus cis kor ikewehomsu ne rupne mat ka ki.**  
 それで泣きながら、おばも魔払いの儀式を行いました。

「タプネ カネ トウッコ レレコ ヒナクン エキムネ アプ オラ  
**“tapne kane tutko rerko hinak un ekimne a p ora**  
 「このように、2、3日、おばがどこかの山に行っていたのですが、

イシレン ワ アラパアナクス  
**i=siren wa arpa=an akusu**  
 私を一緒に行こうと誘って私が行くと、

アコロ ポイ セタ イオシ ニウニウセ コロ ク…… アン ア ルウェ ネ アワ  
**a=kor pon\_ seta i=os niwniwse kor k... an a ruwe ne awa**  
 私の小犬は私の後ろでクンクンないていましたが、

オロワ ポイ セタ ホシキ アラパ ワ チャ エクパ ワ  
**orowa pon\_ seta hoski arpa wa ca ekupa wa**  
 小犬は先に行って、小枝をくわえて

オヤクン エタイエ、ニンパ コロ アン ラポク  
**oyak un etaye, nimpa kor an rapok**  
 他のところへ引き抜いて、引っ張っているうちに、

ニシパ アラパ ワ イシクヌ<sup>[11]</sup> ルウエ ン…… ルウエ ネ。」  
**nispa arpa wa i=siknu ruwe n... ruwe ne.”**  
 旦那が来て私の命を救ってくれたのです。」

セコロ ハウエアナナクス その いぬ アスラニ したんだと。  
**sekor hawean=an akusu SONO INU asurani SITANDATO.**  
 と私が言うと、その犬が危急を知らせたんだと。

(萱野：うん。)

「ネ レイエプ カムイ アスラニ ワ オラノ オロミクオロミク カネ コロ  
**“ne reyep kamuy asurani wa orano ormik’ormik kane kor**  
 「その犬が危急を知らせて大声で吠えていて

シオカ ウン マウ トウットウリ、  
**sioka un maw tutturi,**  
 自分のほうに息をのばしのばし、

ネプ カ エシンパイ シン ネ ノイネ イキ ワ  
**nep ka esimpay sir\_ ne noyne iki wa**  
 何かを心配しているようでした。

ナニ ポナポホ ソモ アイヌ セ…… サニ ネ プ ネ クス  
**nani pon a=poho somo aynu se... sani ne p ne kusu**  
 すぐに年下の息子は人間の血統ではないので、

イカオピウキ ワ アラパ ワ クスケライ エシクヌ ルウェ ネ ナ。

**ikaopiwiki wa arpa wa kusukeray e=siknu ruwe ne na.**

助けに行き、そのおかげであなたは命拾いをしたのですよ。

ニシパ プリ ウタラパ プリ エエアシカイ ヤクネ

**nispa puri utarpa puri e=easkay yakne**

長者の態度、人の上に立つ立派な人の態度ができれば、

ソモ アイヌ サニ ハポ ネ プ ネ クス カムイ サシミ ネ クス

**somo aynu sani hapo ne p ne kusu kamuy sasimi ne kusu**

彼女の母親はアイヌの血統ではなくて神様の子どもであるのだから、

エチオカ エアシカイ ペ ネ ナ。」

**eci=oka easkay pe ne na.”**

お前達は（夫婦として）暮らせるのだよ。」

セコン ネア イユブネクル カ

**sekor\_ nea iyupnekur ka**

と（翁神は言い）、兄である人も

ハウエアン イユブネクル カ シンナ アン ペ ネ アン。

**hawean. iyupnekur ka sinna an pe ne an.**

言って、それで兄である人とも別々に暮らすことになりました。

イオナネ ウタラ オロ タ イマツネポネ プ

**ionane utar oro ta imatnepone p**

両親のところでは、その娘が

イカオイキ コロ アン ウシケ ウン アラ……

**ikaoyki kor an uske un ar..**

世話をしていたのですが、そこへ

アイトウラ ルウェ ネ アン ワ ソレクス ワ アエピリカ コロ オラウン

**a=i=tura ruwe ne an wa sorekusu wa a=epirka kor oraun**

私は連れて行かれることになり、それで私は幸せになって暮らしました。

ネプ アエシリキラプ カ ソモ キ ノ アナン

nep a=esirkirap ka somo ki no an=an

私は何も困ることもなく暮らしていて、

ソレクス ワ アイヨマプレス ワ アイヨマプ コロ アナン アイネ

sorekusu wa a=i=omapresu wa a=i=omap kor an=an ayne

私は愛情込めて育てられて暮らしていましたが、そのうちに

ポコロアナクス

pokor=an akusu

子どもを授かりました。

オッカヨポ ホシキ アコロ ワ ネワアンペ ポ アイヨマプカラ コロ

okkayopo hosiki a=kor wa newaanpe po a=iomapkar kor

男の子を先に産んで、私はその子をなおさらいつくしみながら

ネプ アエ ルスイ カ ネパコン ルスイ カ ソモ キ ノ

nep a=e rusuy ka nep a=kor\_ rusuy ka somo ki no

何を食べたいとも何が欲しいとも思わずに

オンネ ウタラ アヌヌケ コロ アナナイネ

onne utar a=nunuke kor an=an ayne

年寄りを大事にしながら暮らしていて、

オッカヨポヌコアナン、メノコポ カ トupp アコロ ワ

okkayoponukoan=an, menokopo ka tup a=kor wa

たくさんの男の子に恵まれ、女の子も二人産んで、

アエ……… ポヘネ アイコプンテク コロ アナナクス

ae... pohene a=ikopuntek kor an=an akusu

いっそう私は喜んでいましたが、

タプネ マカナク<sup>[12]</sup> イキ ワ アン ペ アネ ワ オラ

tapne makanak iki wa an pe a=ne wa ora

このように、どうしたことか、

アウナラペへ セコロ アイェ コロ アナン ペ

**a=unarpehe sekor a=ye kor an=an pe**

おばさんと私が呼んでいた人が

シロウリ ワ オロ イヨマレ プ レイエプ カムイ アン クシケライ

**sirowri wa oro i=omare p reyep kamuy an kuskeray**

穴を掘ってそこに私を入れても、犬がいたおかげで

クスッ タ アイシクヌレ ワ アラパアン ペ ネ ア クス

**Kusur\_ ta a=i=siknure wa arpa=an pe ne a kusu**

釧路に命拾いをして来たので、

アポウタリ アエウパシクマ ナ、オンネ ウタラ イテキ アオクパレ。

**a=poutari a=eupaskuma na, onne utar iteki a=okpare.**

私の子どもたちに語り伝えるのですから、年寄りたちを粗末にはいけません。

イテキ アウエンクルコロ ペ ネ ナ、

**iteki a=wenkurkor pe ne na,**

悪い人と結婚してはいけませんよ。

セコロ シネ メノコポ ハウエアン コロ オンネ したと。

**sekor sine menokopo hawean kor onne SITATO.**

とひとりの娘が言って往生したと。

(萱野：はい。)

#### 【注】

- [1] NANI：貝澤とうるしのさんに多く見られるフィラー（「うーんと」「ええと」等）の一種で、日本語の「なに（何）」から来ているものと考えられる。
- [2] もてないもの：「a=unuhu（私の母）、ka（も）、somo ne（でない）、p（もの）」というアイヌ語を直訳した日本語である可能性がある。あるいは、日本語で「(私の母を)持っていないもの」ということかもしれない。
- [3] まるっで：日本語北海道方言。「まるっきり、全く、本当に」などという意味で用いられる。
- [4] hemanta toan ruwe an na：不明。

- [5] tururse=an : tururse のように聞こえるが、turse の言い間違いかもしれない。
- [6] ipor\_ tumma : eypotumma sinna kane や eypotumma kurkus などと関連する表現と思われるが不明。
- [7] Mosirpasarihi 【名】 [mosir-pa-sarihi 国・の上(かみ)(=東)・の葦原][地名] (地名 (=Mosirpasari モシリパサリ) 北見の斜里地方 (『沙流方言辞典』 p. 395)。
- [8] eytaknu ye:eytaknu の意味ははっきりしない。uytaknu で「互いに/一方が他方の言うことを聞く、同意する」(『沙流方言辞典』 p. 751)
- [9] eancikar 「その晩」(『静内語彙集』 p. 16)
- [10] kanni esikanipa : 不明。esikari の複数形 esikarpa かもしれない。
- [11] siknu ではなく sikhure と言いたかったところだと思われるが、次の ruwe を言いさしてしまったことによって混乱が生じ、siknu と言ってしまったものと思われる。
- [12] 音が約まり manak のように聞こえる。

## 2-5 ウエペケレ「アウナラペ イキモルラ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
解説：萱野茂

萱野：この場合は、a=unarpe [私のおばさん]

貝澤：うん。a=saha sekor hawean=an kor an=an ayne a=unarpe i=kimorura  
[姉さんと言っているうちにおばさんに山に連れられた] したんだと。

萱野：a=unarpe i=kimorura [おばさんに山に連れられた] .

貝澤：sirowri [穴掘り] 三日、四日かかったんだっていうもの。おっかない。

萱野：そして、それはあのう、嫁に行ったカムイは、何カムイだべ。

貝澤：嫁に行ったカムイって

萱野：ueinkar [千里眼] した

貝澤：ueinkar [千里眼] したんだと。kamuy erampokiwen [神が気の毒に思  
って]。

萱野：ああそうか。

貝澤：ueinkar wa siyeye moto ka ye ora nep ka ekatkikus pe oka kor eypirma  
sekor [千里眼で見て、病気の原因も言って、それから何かに憑かれています  
とこっそり教えた] だと。newaanpe po kusu a=pirkakor [それで  
なおさらいい暮らしを] したんだって。

萱野：私は一人の親のない娘でありました。私を育ててくれておる人は……、  
おる人のことを時には「おばさん」と言い、時には「姉」と言いながら、  
育てられ一人前になって、もうお嫁に行ってもいいぐらいの年頃になっ  
た、と。

私には妹が一人おって、その妹は私とやや同じくらいの年ではあるけれども、ほんとうの母も父も同じ兄弟ではないらしく、同じに生活しておっても私のおばは、何というか特別扱いと言うか、私のことをあまりよくは扱ってはくれなかった。それにしてもどうやら生活をして、女三人で暮らしておった、と。

ある日のこと、何日も何日も私のおばは、山へ行っては疲れたような顔をして帰ってくる。それが何日か続いたある日、「今日は山へ一緒に行きましょう」と、私を誘うので、山へずっと、奥山の方へ一緒に行った。そうすると深い深い穴を掘ってある。その掘ってある穴も、はっきり姉（おば）が掘ったものだということも分かる。その穴の側（そば）へ来たなら、「あれ、あれ、あの穴の底の方で何かあるぞ、あれ見れ、見れ」、見なさいというふうに私に言うので、何かこれ、恐ろしいことでも起きるんじゃないかと、不吉な予感はずたけれども、姉の言うこと反対も出来ないなので、その穴のへりへ行って、こう中を覗き込んだ。

そうすると、姉は私の後ろからギョんとその穴の中へ突き落として、ゴロゴロ転がって穴の底へ私は落ちてしまった。山へ出かける時に一匹の犬が、養っておった犬が何か、アイヌ語では **niwniwse** と言うんですけども、鳴きながら私の後をついて来たのもおったのに、私が穴の底へ突き落とされたのを見ると、その犬は本当に上で悲しそうに鳴いておった。

それを尻目に一緒に来た姉は、私を落とし込んだ穴の上に柴をいっぱい運んで、そして下からでは、とてもどうすることも出来ないように這い上がることも出来ないように蓋をしちまった。そうして、さっさと帰って行ってしまったんですね、そのうちにその一緒に来た犬が、やっぱりさっきと同じように鳴きながら柴を一本銜えて運び、二本銜えて運びというふうにしておった。それでも私を助け出すことは出来ないで、何日かぐらい過ごしておった。

ある日のこと、一人の男の人が何処からともやって来て、上であったその柴を取り除いて、長い縄を投げおろして寄こした。それに私が掴まって、上がろうとすると、一緒におった犬もその縄を銜えて、私を引き上げるのに助けるようにして、その穴から引き上げられた。

そしたら、その男はすぐに私を小脇に抱えるようにして、まるっきり空を飛ぶような速さで、ずっとずっとどっか遠いところへ私を連れてきてくれた。よく話を、まあ、連れて来られたところの家を見ると、その家は立派な家でそこへ行ったら、おじいさんとおばあさんがいるんだなあ。



貝澤：うん、いる、娘と。

萱野：おじいさん夫婦と娘のおる一軒の家（うち）へ連れて来られて、そこのおじいさんやおばあさんの言うのには、「実はあなたをうちのここへ、今お前を助けた男のところへお嫁に貰うと思っておったのに、あなたと一緒に育てられている、悪い方の娘をあなたにお嫁に寄こしたいと言うんで、所謂あなたを育てた継母（ままはは）は、穴の底へあなたを突き落とすとした。それを見ておった犬は『うちの者が穴の下へ突き落とされたよ』というふうに知らせに来てくれたので、うちの息子がお前を助け出して来たのだよ。ですから、これからあなたは、

貝澤：昔は、wenpe XXX ene iki pa rokoka [悪い XXX がそんなことをしたんだなあ]

萱野：お嫁になって、楽しく暮らして下さい」。そう言われたので、私は本当に嬉し泣きに泣き、泣いてそこで何日か過ごしたある日のこと、外で物音をするので、よく見ると、私を育ててくれたあの女が、あまりよくない方の娘を着飾って連れて来て、お嫁にというふうに来たら、いえの者が皆で大勢で叱りつけたり怒ったりしたので、ほうほうの体で逃げ帰った、と。そのあとで私は、何不自由なく楽しく暮らしておりました。穴へ落ちた私を犬が助けてくれたので、その犬をも大切に生活をしております、というこれは uepeker [散文説話] ですね。

## 2-6 ウエペケレ

「パシクル ウタサ イタク ヒ アヌ」

カラスのおしゃべりを聞く

語り：貝澤とうるしの

アマチヒ アニネ オカアニケ アマチヒ ポ サク ワ  
 a=macihi an h\_ine oka=an h\_ike a=macihi po sak wa  
 私には妻がいて、ともに暮らしていたが、私の妻は子どもがおらず、

ポエイコイトウパアン<sup>[1]</sup> コロ オカアン ペ ネ ルウエ ネ ア プ、  
 poeykoytupa=an kor oka=an pe ne ruwe ne a p,  
 子どもを欲しがりながら暮らしていた。

イエンコロケヘ タ シノ ニシパ ネ クル アトクイエ ネ ヒネ  
 i=enkorkehe ta sino nispa ne kur a=tokuye ne hine  
 川上の真の長者である人が私の友人で

オカアン ペ ネ ルウエ ネ ア プ、  
 oka=an pe ne ruwe ne a p,  
 私たちは暮らしていたが（そんなある日）、

「マク ネ イネ ニサプ シイエイエ ワ  
 “mak ne h\_ine nisap siyeye wa  
 「どうしたことか、（川上の長者が）突然病気になって、

エネ アイエ イ カ イサム コロ アン。」  
 ene a=ye h\_i ka isam kor an.”  
 手の打ちようがなくいる。」

セコロ ハワシ ハウエ アヌ。  
 sekor hawas hawe a=nu.  
 という噂を聞いた。

アトクイエ ネ ニシパ ネ パクノ イサム ニシパ ネ ア プ、  
**a=tokuye ne nispa ne pakno isam nispa ne a p,**  
 私の友人である旦那で、これほどの長者はいないという人だったが、

エネ ハワシ ペ ソモ アホタヌカン ノ アナン カ エアイカピ° クス  
**ene hawas pe somo a=hotanukar\_ no an=an ka eaykap h\_i kusu**  
 そのように聞いて私は見舞いに行かずにいられなくなったので、

アヌ…… アホタヌカラ クシ アラパアン。リトゥロレウシアン ペ ネ ワ  
**anu... a=hotanukar kus arpa=an. riturorewsi=an pe ne wa**  
 見舞いに行くことにした。道中泊まりがけで

エアシリ アラパアン ペ ネ イ クス  
**easir arpa=an pe ne h\_i kusu**  
 なければ行けないところなので、

アレウシ チセ オツ タ アラパアニネ…… アラパアン。  
**a=rewsi cise or\_ ta arpa=an h\_ine... arpa=an.**  
 私の宿泊小屋に行った。

ホタヌアン クス アラパアニ カムイ アヌレ ヘム キ  
**hotanu=an kusu arpa=an h\_i kamuy a=nure hem ki**  
 見舞いに出掛けることは、火の神にも言い聞かせ、

アマチヒ カ アコイタクムイエ イネ オラウン アラパアナ プ、  
**a=macihi ka a=koitakmuye h\_ine oraun arpa=an a p,**  
 私の妻にも言い残して、それで私は出かけたのだった。

なに㊦ ペツ ペシ ネ レウシ チセ オツ タ  
**NANI pet pes ne rewsicise or\_ ta**  
 川を下ってその宿泊小屋に

アラパアニネ アペ アアリ ヘム キ ルウェ ネ ア プ、  
**arpa=an h\_ine ape a=ari hem ki ruwe ne a p,**  
 私は行って火も焚いた

ラポッケへ なに ホパシ…… いや

**rapokkehe NANI hopasi... IYA**

というところで、

オキムネ ペツ ペシ パシクル シネプ サニネ

**okimne pet pes paskur sinep san h\_ine**

山のほうから川に沿ってカラスが一羽下りてきて、

イエペカノ ニ カ ウン レウ。

**i=epekano ni ka un rew.**

私の正面の木にとまった。

オピシネ パシクル シネプ エキネ ニ カ ウン レウ イネ

**opisne paskur sinep ek h\_ine ni ka un rew h\_ine**

浜のほうからカラスが一羽飛んで来て木の上にとまって、

オラ ウコイタカウエ エネ アニ

**ora ukoytak h\_awe ene an h\_i**

なにやら話し合っているのは、こんなことで

「オピシネ エク ペ エネ ワ ネプ カ アイヌ オツ タ ヘネ

**"opisne ek pe e=ne wa nep ka aynu or\_ ta hene**

「浜のほうから来たものよ、何か人間のところや、

カムイ オツ タ ヘネ アエラナク ペ イサム ヤ？」

**kamuy or\_ ta hene a=eranak pe isam ya?"**

神様のところで心配なことはないかい？」

セコロ オキムネ エク パシクル ハウエアナクス

**sekor okimne ek paskur hawean akusu**

と山から来たカラスが言うのだった。

ソモ カ エネ ハウオカ クナク アラム コロ

**somo ka ene hawoka kunak a=ramu kor**

まさか、そう言うと思わないながらも

イコカヌアナクス

**ikokanu=an akusu**

私は盗み聞きをしていたところ、

アイヌ イタク ハウ ネノ カネ

**aynu itak haw neno kane**

まるで人間の言葉のように

「アイヌ オッ タ…… わ…… カムイ オッ タ アナク

“aynu or\_ ta... WA... kamuy or\_ ta anak

「神様のところでは

ネプ カ アエラナク ペ カ イサム コロカ

**nep ka a=eranak pe ka isam korka**

何も心配事はないけれども、

オラウン パテク アエラナク ペ ネ アン ペ

**oraun patek a=eranak pe ne an pe**

これだけが心配事としてある。というのは、

なに テ タ エク ワ レウシ ワ アン クル ウニヒ ハラキシケヘ ワ

**NANI te ta ek wa rewsu wa an kur unihi harkisokehe wa**

ここに来て泊まっている人の家の左座から

チセ シッケウ カランケヘ

**cise sikkew karankehe**

家の角に近いところに

オヤチキ ネシコ エトイタ ヒネ アナアン ペ

**oyaciki nesko etoyta hine an aan pe**

どうやらその人がクルミを植えていたのだが、

ネ ネシコ チセ コロ クル ホッケ ウシケヘ

**ne nesko cise kor kur hotke uskehe**

そのクルミの木は家の主人が寝ているところの枕の下に

エニヌイペ チョロポッケ ウンノ シンリチ シトウリ イネ アン。

**eninuype corpokke unno sinrici situri h\_ine an.**

その根っこが伸びていて、

ネワアンペ コロ いたんちら アニ

**newaanpe kor ITANCIRA ani**

それ（クルミの木）のいたずらで

マチヒ オッシケ アラカ ヒネ エアラキンネ アエキマテク コロ シラン。

**macihi ossike arka hine earkinne a=ekimatek kor siran.**

その奥様がお腹を痛めて、大変狼狽されているご様子なのだ。

パテク タシ ネ ネク。」

**patek tasi ne nek.”**

それだけが心配だなあ。」

セコロ ハウエアン オピシネ ワ エク パシクル キ。オラウン

**sekor hawean opisne wa ek paskur ki. oraun**

と浜から来たカラスが言った。それで、

「オキムネ サン クル エネ ワ ネプ カ アイヌ オツ タ エネ

**“okimne san kur e=ne wa nep ka aynu or\_ ta h\_ene**

「山からやって来たお前さんは、何か人間のところでも

カムイ オツ タ エネ ソモ アエラナク ヤ？」

**kamuy or\_ ta h\_ene somo a=eranak ya?”**

神様のところでも心配事は無いのかい？」

セコロ カネ ハウエアナクス オピシネ エク ペ ハウエアナクス

**sekor kane hawean akusu opisne ek pe hawean akusu**

と浜から来たカラスが言ったところ、

オキムネ サン パシクル エネ ハウエアニ

**okimne san paskur ene hawean h\_i**

山から下りて来たカラスが言うことには、

「カムイ オツ タ アナク

“kamuy or\_ ta anak

「神様のところでは

ネプ カ アエラナク ペ イサム コロカ オラウン

nep ka a=eranak pe isam korka oraun

何も心配事は無いけれども、

パテク アイヌ オツ タ アエラナク ペ ネ アン ペ

patek aynu or\_ ta a=eranak pe ne an pe

ひとつだけ、人間のところで私が心配しているのは、

エネ アニ アエシンパイ カムイ フチ オロ ワ

ene an h\_i a=esimpay kamuy huci oro wa

このようなことだ。火の神から

アヌ ワ キ カトウ エネ アニ

a=nu wa ki katu ene an h\_i

聞いて心配していることなんだが、

テ タ エク ニシパ ホタヌカラ クス

te ta ek nispa hotanukar kusu

ここに来た旦那が見舞いに

アラパ ニシパ マチヒ ムン ヌパ コロ

arpa nispa macihi mun nupa kor

行く長者の、その奥さんがゴミを掃いても

ルトムンキ パク カパツ トウムン ムン ヌパ ワ

rutomunki pak kapar\_ tumun mun nupa wa

土間のござのところまで、薄い塵やゴミを掃き、

オラ ウレ…… ウレナバ<sup>[3]</sup> ピシカヌン トウムン ルトゥルトウ ワ

ora ure... urenapa piskan un tumun raturutu wa

それで両側の戸口の周りに塵を掃いてずらして

ネノ アヌ ワ アン。

**nenō anu wa an.**

そのままにして置いていて、

ネワアンペ アパサムンカムイ イルシカ ヒネ クス

**nēwaanpe apasamunkamuy iruska hine kusu**

それで戸口の神様が怒ったために

チセ コロ クル ヤイヌミウエニネ

**cise kor kur yaynumiwen h\_ine**

家のご主人が病気になってしまった。

ネワアンペ パテク タシ アエラナク ネク。」

**nēwaanpe patek tasi a=eranak nek."**

それだけが唯一私は心配だなあ。」

セコロ カネ ハウエオカ。エアラキンネ イオクンヌレアン。

**sekor kane haweoka. earkinne iokunnure=an.**

ということを口々に言っているのだった。私はとても驚いた。

ヘカッタラ カ ウサ ニヌム ウイナ パ シリ

**hekattar ka usa ninum uyna pa siri**

子どもたちがクルミの実などをとる様子を

アエランポキウエン クシ アレス プ ニシコ ネ アワ

**a=erampokiwen kus a=resu p nisko ne awa**

私は憐れんだために、私が育てたのがクルミの木だったのだが

エネ ハワシ アン

**ene hawas h\_i an**

このような話があるのか、

セコロ ヤイヌアン コロ アナン ルウエ ネ イネ オラウン コント

**sekor yaynu=an kor an=an ruwe ne h\_ine oraun konto**

と私は思っていた。とはいえ、



クシ エカン ペ ネ プ、

**kus ek=an pe ne p,**

私が来た理由であるのだし、

ホタヌ ウシ ウン ホシキ アラパアン セコロ ヤイヌアン。

**hotanu usi un hoski arpa=an sekor yaynu=an.**

見舞いをするところへ先に行くべきだと私は思った。

オラウン オピッタ ホブンパ イネ イサミ クシ

**oraun opitta hopunpa h\_inē isam h\_i kus**

それでカラスはみんな飛んで行ってしまったので

ホタヌ オウシ ウン ホシキ アラパアニネ

**hotanu ousi un hoski arpa=an h\_inē**

見舞いの目的地にまずは向かい、

オヌマン シレパアニ クス

**onuman sirepa=an h\_i kusu**

夕方に私は到着した。それで

「アコン ニシパ マク キ<sup>[4]</sup> ハウエ アン ワ

**“a=kor\_nispa mak ki hawe an wa**

「私の友人の旦那様に変なことがあったという噂を聞いて、

アエキマテク クス アホタヌカラ クス エカン ルウエ ネ ワ

**a=ekimatek kusu a=hotanukar kusu ek=an ruwe ne wa**

私はそれに驚いたので見舞いに来たのです。

ソネ ウパキタラ ネ ヤ?<sup>[5]</sup>」

**sone upakitara ne ya?”**

やはりお変わりありませんか？」

セコロ ハウエアナナクス

**sekor hawean=an akusu**

と私は言う

「エアラキンネ イタク カ ヌクリ、イペアン カ ヌクリ。

“earkinne itak ka nukuri, ipe=an ka nukuri.

「本当に話すのもつらい。食事をとるのもつらい。

エアラキンネ アネオロ アラカ フミ ネ ヤ アエラムシカリ ノ

earkinne a=neoro arka humi ne ya a=eramuskari no

まったく私のどこが病に侵されているのかわからず、

アヤイヌミウエン ワ エネ イキアニ カ イサム コロ

a=yaynumiwen wa ene iki=an h\_i ka isam kor

病に苦しんでどうすることもできずに

アナン ルウェ ネ アワ

an=an ruwe ne awa

いたところなんだが

アコン ニシパ ヒナク ワ ヌ イネ エク ハウエ アン?

a=kor\_nispa hinak wa nu h\_ine ek hawe an?

旦那様はどこから話を聞いていらっしゃったのですか。

アコン ニシパ エク チキ ソモ イエイノンノイタカク

a=kor\_nispa ek ciki somo i=eynonnoitak y\_ak

旦那様がいらっしゃったからには、祈ってもらわないで

ピリカ ハウエ ヘ アン？」

pirka hawe he an?”

良いと言えましょうか（お祈りしていただきますよう）。」

セコロ ハウエアン ヒ クス オラウン

sekor hawean hi kusu oraun

と言うので

イタカナウエ エネ アニ……

itak=an h\_awe ene an h\_i...

私が話したことは……

ホプニアニネ ウレンアパ サム ネプ ポカ オ ワ オカイ ペ  
**hopuni=an h\_inē uren'apa sam nep poka o wa okay pe**  
 私は立ち上がって、両方の戸口になんでも置いているもの

ウレナパ ピシカン アパ サムン イナウ アロシキ ワ  
**urenapa piskan apa sam un inaw a=roski wa**  
 両側の戸口のまわりや戸口の傍の御幣が立てられて

オカ ウシケ インカラナクス  
**oka uske inkar=an akusu**  
 いるところを眺めると、

ソンノ カ アパ サム タ アロシキ チェホロカケプ ノシキケ パクノ  
**sonno ka apa sam ta a=roski cehorkakep noskike pakno**  
 やはり本当に、戸口の側に立てられた逆さ削りの御幣のその真ん中まで

トゥムン リキン パク ウサ トゥムン ウサ ムニヒ アルツパ ワ  
**tumun rikin pak usa tumun usa munihi a=rutpa wa**  
 塵がのぼるくらい、いろいろな塵やゴミが掃きだめられ、

ネノ オカ ワ オカイ ペ ネ アン ヒ クス  
**nenō oka wa okay pe ne an hi kusu**  
 そのままになっているので、

コント イルシカアン コロ アハウエコイキ  
**konto iruska=an kor a=hawekoyki**  
 私は怒り、

ネア チセ コロ メノコ キ コロ  
**nea cise kor menoko ki kor**  
 その家の女を私は叱ると、

アパサムン カムイ アエタイパ ヒネ  
**apasamun kamuy a=etaypa hine**  
 戸口の神様の御幣を私は抜き取って、

オカケへ アケレケリレ、アムンヌパレ

**okakehe a=kerkerire, a=munnapare**

その後をその女に掃かせ、ゴミを掃かせて、

ウレナパ ピシカン キ コロ イタカナウエ エネ アニ、

**urenapa piskan ki kor itak=an h\_awe ene an h\_i,**

両側の戸口の周りを掃かせながら、私はこう言った。

「カムイ イェプ アヌ ワ エカン ワ

**“kamuy ye p a=nu wa ek=an wa**

「神様が言うことを私は聞いて来て

イルシカアナウエ ネ クス

**iruska=an h\_awe ne kusu**

私が怒ったのですから、

アエカ…… アコン ニシパ イテキ イルシカ アク ピリカ。

**aeka... a=kor\_nispa iteki iruska y\_ak pirka.**

旦那様、あなたは怒らないでください。

フンナ カッチャマ フンナ プリヒ エネ オカ ヒ

**hunna katcama hunna purihi ene oka hi**

どこにこんなことをするやつがいるというのか、

ムンヌパアン コロ アパ サムン アオライエ ワ

**munnapa=an kor apa sam un a=oraye wa**

ゴミを掃いて、そのゴミを戸口に寄せて、

ネノ アアレ プ ネ ワ アパサムン カムイ オムンポク<sup>[6]</sup> ワ

**nenno a=are p ne wa apasamun kamuy omunpok wa**

そのようにおいていて、戸口の神様がゴミに埋もれ、

ネワアンペ カムイ イルシカ アニ

**newanpe kamuy iruska ani**

それを神様が怒ったために

アコン ニシパ ヤイヌミウエニネ  
**a=kor\_ nispa yaynumiwen h\_ine**  
 旦那様が病気になり、

アヌ ワ エカン ルウエ ネ ワ クス  
**a=nu wa ek=an ruwe ne wa kusu**  
 私はそれを聞いてきたので、

ニウエナナウエ ネ ナ。」  
**niwen=an h\_awe ne na.”**  
 ひどく怒っているのですよ。」

セコロ ハウエアナン コロ  
**sekor hawean=an kor**  
 と私は言いながら、

ネア メノコ アコパシロタ、アコサカヨカラ コロ  
**nea menoko a=kopasrota, a=kosakayokar kor**  
 その女を私がののしり、怒鳴りつけ、

アムンヌパレ、トゥムン ソヤオレ  
**a=munnapare, tumun soy a=ore**  
 ゴミを掃かせ、ゴミを外に出させた。

オラウン アパサムン カムイ アロシキ、  
**oraun apasamun kamuy a=roski,**  
 それで、戸口の神様を私は立てて、

チセ トウム (?) アエロシキ イネ  
**cise tum(?) a=eroski h\_ine**  
 家の壁に (?) さして、

オラウン カムイ フチ エウン カ ヤヤパプアニ アイエ。  
**oraun kamuy huci eun ka yayapapu=an h\_i a=ye.**  
 火の神様にもお詫びを述べ、

ネア ニシパ アエイノンノイタク ヒ アイェ ルウエ ネ オラウン  
 nea nispa a=eynonnoytak hi a=ye ruwe ne oraun  
 その旦那に祈りの言葉を述べました。

ナニ シオカポタラアン ノ イヌアン ペ ネ クス  
 nani siokapotara=an no inu=an pe ne kusu  
 そうすると、すぐに私は留守を案じ聞いたものだったから

コント ナ チュプリ イネ シレパアン ペ ネ クソラウン  
 konto na cup ri h\_ine sirepa=an pe ne kus oraun  
 まだ日が高いうちに到着していたので

「テ ワノ カ ネノ エイキ ヤカナクネ エカン ワ  
 “te wano ka neno e=iki yak anakne ek=an wa  
 「これからもそのようにお前がすれば、

アエウエンパカシヌ クシ ネ ナ。」  
 a=e=wenpakasnu kus ne na.”  
 私が来てひどく懲らしめますからね。」

セコロ ハウエアナン コロ アコパシロタ、アコサカヨカラ コロ  
 sekor hawean=an kor a=kopasrota, a=kosakayokar kor  
 と私が言っののしり、友人の旦那の妻を怒鳴りつけると、

「ヘシト ヘシト エネ ネ ワ クス ネプ カ アイェ コロ  
 “hesto hesto ene ne wa kusu nep ka a=ye kor  
 「そらみたことか、こんなことだから何か俺が言っても

エヌ ハウエ カ イサム ペ ネ アクス  
 e=nu hawe ka isam pe ne akusu  
 お前は聞きもせずについて、すると

アコン ニシパ アン クシケライポ  
 a=kor\_nispa an kuskeraypo  
 旦那様がいらっしやった。そのお陰で、

ネン ポカ ネ アコイ セレマカ アコロ ハワシ ハウエ ネ。

nen poka ne a=kor\_ sermaka a=kor hawas hawe ne.

どうにか私に守護神がつくことになったということなのだ。

エカムイシコエパクテ。

e=kamuysikoepakte.

お前が神様の罰を招いたのだ。

ネワアンペ イヤラパレ ルスイ クス エネ エイキ ヒ アン？」

newaanpe i=arpare rusuy kusu ene e=iki hi an?"

その罰で私を殺したくてこんな真似をしたのか？」

セコロ アン コロ イルシカ、パラマウ アニ ネ コロカ キ オラ

sekor an kor iruska, parmaw ani ne korka ki ora

とその長者は息絶え絶えにも怒った。

アエイノンノイタク ヒネ オラ ヤイキマテッカアニネ

a=eynonnoitak hine ora yaykimatekka=an h\_ine

私が祈りを捧げて、急いで

サナン ルウエ ネ アクス

san=an ruwe ne akusu

山を下りると、

エアラキンネ ソンノ カ アマチヒ ホ…… オッシケ アラカ イネ

earkinne sonno ka a=macihi ho... ossike arka h\_ine

やはり本当に私の妻がひどくお腹を痛めていて

アエウキマテッカ コロ シラニ クス

a=eukimatekka kor siran h\_i kusu

それでみなが慌てている様子であったので、

シレハウエコイキアナウエ エネ アニ、

sirehawekoyki=an h\_awe ene an h\_i,

私はこう怒鳴りつけた。

「タアン ネシコ トオ キキンニ<sup>[7]</sup> ウサム タ ロシキ プ

**“taan nesko too kikinni usam ta rosiki p**

「そのクルミの木とあのキキンニは隣同士に生えているが、

キキンニ カ ネシコ カ

**kikinni ka nesko ka**

キキンニもクルミの木も

ポン シンリチ ウンノ プシパ ワ イコレ ヤン イコレ ヤン オラ

**pon sinrici unno puspa wa i=kore yan i=kore yan ora**

若い根っこまで掘り起してくれ。

チセ チョロポクン シネ シンリチ シトウリ

**cise corpok un sine sinrici situri**

軒下に一本の根が伸びて

ワ アン ハウエ アヌ ペ ネ クス

**wa an hawe a=nu pe ne kusu**

いるという話を聞いたものだから、

シンリチ エチコシロウリ エチエタイェ ワ エチイコレ プ ネ ナ。」

**sinrici eci=kosirowri eci=etaye wa eci=i=kore p ne na."**

お前たちはその根に対して地に穴を掘り、根を引っ張ってくれ。」

セコロ ハウエアナン。

**sekor hawean=an.**

と私は言った。

オッカイポ ウタン ナニ エウキマテッカ プ ネ クス ネノ イキ パ イネ

**okkaypo utar\_ nani ewkimatekka p ne kusu neno iki pa h\_ine**

若者たちはそれでみな慌てて、私の言ったようにした。

キキンニ クル…… カ (?) トオ ネシコ アエトイタ ワ アン ペ、

**kikinni kur... ka(?) too nesko a=etoyta wa an pe,**

キキンニも…… (?) そのクルミの木も私は植えていたのだが、



ポン シンリチ アコプシプス イネ

pon sinrici a=kopuspusu h\_ine

その若い根ごと掘り起し

オラウン アパ ポクン ミンタラ ケスン アトウイパトウイパ ヒネ

oraun apa pok un mintar kes un a=tuypatuypa hine

戸の下に、庭の下手へそれを切り刻んで、

アムンコウファイカ、イルシカアン コロ

a=munkouhuyka, iruska=an kor

私はゴミと一緒に燃やし、

アムンコウファイカ ルウェ ネ イネ

a=munkouhuyka ruwe ne h\_ine

怒ってゴミと一緒に燃やし、

オラ アマチヒ アエイノンノイタク ルウェ ネ クシケライ オラ

ora a=macihi a=eynonnoitak ruwe ne kuskeray ora

それで私の妻に私は祈りをささげたおかげで、

アマチヒ カ シクヌ ルウェ ネ。

a=macihi ka siknu ruwe ne.

私の妻も命拾いしたのだった。

オラ ネア ニシパ カ アエイノンノイタキ ナニ オラウン

ora nea nispa ka a=eynonnoitak h\_i nani oraun

それで、例の長者にも私は祈りを捧げて、すぐに

ヤイヌミピリカ ワ ソレクス ウェニヨクンヌレアン ペ ネ クス

yaynumipirka wa sorekusu wenyokunnure=an pe ne kusu

体調が回復して、それで私はひどく懲りたので、

クスリ ネ アエニシテ プ キキンニ ネ ヤッカ

kusuri ne a=eniste p kikinni ne yakka

薬として頼られているキキンニであっても

キキンニ チセ オウシ タ チセ カランケ イテキ アエトイタ。

**kikinni cise ousi ta cise karanke iteki a=etohta.**

キキンニの木は家のすぐそば、家の近くに植えるものではない。

オラウン ネシコ カ イテキ チセ カランケ アエトイタ プ ネ ヒ

**oraun nesko ka iteki cise karanke a=etohta p ne hi**

クルミの木も家の近くに植えるものではない、ということの

トゥ モトオロケ レ モトオロケ アヌ ワ クス

**tu motoorke re motoorke a=nu wa kusu**

由来を聞いたので

スクプタラ アエパカシヌ ハウエ ネ ナ ヌ ヤン

**sukup utar a=epakasnu hawe ne na nu yan**

大人たちに私が教えることであるから聞きなさい。

セコロ シネ ニシパ イソイタク。

**sekor sine nispa isoytak.**

とひとりの長者が語った。

#### 【注】

- [1] poeykohtupa : 「子どもを欲しがる」という一項動詞 ( < po-eykohtupa 子ども・を欲しがる )。
- [2] NANI : 貝澤とうるしのさんの言い癖で、フィラー ( 「ええと」「あの一」等 ) の一種。
- [3] urenapa は、「uren-apa 両側・戸口」と解釈したが辞書などに該当する語が見つからない。
- [4] mak ki という言い方は木村きみさんも使用する。
- [5] upakitara は、「変わりなく、今までと同じように」(『萱野辞典』p. 115) や「相変わらず」(『久保寺辞典稿』p. 295) とある。ここの解釈は、どの状態から「変わらない」のかという点で検討を要する ( 例えば、「お変わらないですか=元気でしたか」、「噂通り病に伏しているのですか」、「病は快方に向かっていないのですか」など )。
- [6] 発音としては omonpok に近いが不明。
- [7] kikinni : ここで言う kikinni は、エゾノウワミズザクラのこと。 ; 「パコロカムイ ( 流行病の神 ) が寄らないように、寄っても長く休まれないようにつくさい物、水桶さきキンニ入れた」(財団法人アイヌ民族博物館 ( 編 )、1999『アイヌ民族博物館伝承記録 4 川

上まつ子の伝承―植物編 1―』1 : p. 30-35)

## 2-7 ウエペケレ「パシクル ウタサ イタク ヒ アヌ」解説

語り手：貝沢とうるしの

聞き手：萱野茂

貝澤：kotan or\_ ta inaw sakno [村にイナウ（の削りかけ）をつけずに] まるっぽ [丸木] を立てたもんだ。

萱野：その kikinni [エゾウワミズザクラまたはナナカマド] で。

貝澤：kotan epunkine pa cise pisno epunkine kuni ne [村を守って、家ごとに守ってくれるように] ということ a=ye wa [言って]、入り口に ikuspe us [柱がある] 元は木戸あるから、柱 os un [の後ろへ(?)] こう ora caca [そして、おじいさんが(?)] こう eymek [して食べ物を捧げて] roski して [立てて]。

萱野：そうかい。そのキキンニ eraperoski [羽状に切り込みを入れる] しただけ？

貝澤：eraperoski [羽状に切り込みを入れる] したただけだ。

萱野：長さはどのくらい。

貝澤：これくらい。

萱野：このぐらいつちゅったら5寸（約15センチ強）くらいだな？

貝澤：うん。何ここへにこう tawki する [ばっさり切る] べ、一回 tawki したら、あそこんどここう okari eraperoski して [まわりに羽状の切り込みを入れて] 立てたもんだんだ。

萱野：今の場合は、このウエペケレ [散文説話] は、私は一人のアイヌであった、と。家内を持ち何不自由なく生活しておった。

ある日のこと、山へ狩に行ったら、狩に行きそして、山で休んでおっ

たら、山の方からカラスが一羽飛んで来て、私の休んでいる木の上に止まった。浜の方からカラスが一羽飛んで来て、私の休んでいる木の上へ止まった。そして、言うのには、「山から来たカラスよ、あなたは浜の方から来て何かそれ心配事は」……いや、山から来たカラスだなあ先に言うのは。「浜の方からあなた来て、何か心配事はありませんか」そう言ったら、そうね、別に心配事、神の国では心配は無いけれども、アイヌの方で心配な事が一つある。その心配というのは、今この木の下に座って休んでいる男の人の家のそばで、**kikinni** と **nesko** というのは、何の木。

貝澤：クルミ。

萱野：クルミだな。**kikinni** というのはナナカマドとクルミの木が生えている。そして、**nesko** の方の根が行ってるんだな。

貝澤：**nesko** の根。寝屋（ねや）の下入ってたんだ。

萱野：なる程。クルミの木の根が、今下で休んでいるアイヌの夫婦の寝部屋の下の方へ入っているの、そこの奥さんが病気になりそうだ、と。

貝澤：腹痛（はらいた）を起こしたんだと。

萱野：それが一つ心配だ、と。それから、今、この人が最初にクマ狩と言ったけれど、狩でなくて、

貝澤：**hotanu** [お見舞い] しに。

萱野：隣の村の人の所へ見舞いに行く。隣の村の所謂 **kotan kor kur** [村長]、と言うのは、酋長という言葉が適当かどうか知らないが、そのうちへ見舞いに行こうとしている所の男の人の病気の原因は、そこの奥さんが、家の中をこう箒使った。その箒使いをした、そのゴミは出さずに、

貝澤：庭（土間の意）から全然出さないで。

萱野：所謂庭（土間の意）べりにある **apa sam un kamuy** [戸のそばにいる神] という、その神様の所へ全部寄せ集めているので、神様が非常にそれを嫌って、そこの主人を病気にしてているんですよ。それさえ取り除けば、

そこも治るし、今この下で休んでいる人の奥さんも急病から逃れるでしょうよ、と言いながら、双方へカラスが別れて行ったのを見た。

私は宙を飛ぶようにして、それを聞いてから、その見舞いに行くはずの男の所へ行って、行ったら、「どうですか」って言ったら、そこの見舞いに行ったとこの人は、本当に苦しそうな息の中で、「あなたでも来てくれれば、何とか助かるんじゃないか」と考えておったんですけども、「こんな重体になってからもうどうなる事やら」と言う。もう自分は、そのカラスの神様から聞いて行ったので、大急ぎでその辺を見回すと、なる程、カラスが言ったように、戸のそばでは、ゴミの山があつて、そこで神様が

貝澤：wenpurikor pe ne hawe. [悪い奴だなあ]

萱野：すっかりゴミに埋まっていると。それを取り除かせて、大掃除させて、そうしたら段々段々と元気になったし、神様にお詫びのお神酒をあげたり、お詫びのことばを言いながら、そこをして、すぐにまだ、私は村へ帰って来た。

そうすると、私の家内は、もう腹病みで七転八倒の苦しみだ、と。それも原因を聞いてきたので、その家のすぐそばであったクルミの木の根を掘り起こさせて、すっかり取り払ったので、私の方の家内も日に日に良くなり、そして見舞いに行った方の男の人もすっかり病気が良くなり、

貝澤：そこからこんど ikor [宝物] もらったんだと。

萱野：ああ、なる程。病気も良くなった、と。私はカラスのことばを聞くことが出来たお陰で、このように家内も安全、そして隣村のニシパも死なずに終わりました。と一人の男が物語ったというウエペケレ [散文説話] ですね。これはウエペケレ [散文説話] でも、何と言うんだ？

貝澤：aynu uepeker [人間の散文説話]

萱野：aynu uepeker [人間の散文説話] で、paskur itak hi a=nu. [カラスが言うのを聞いた]

貝澤：paskur utasa itak hi a=nu. [カラスが言い合うのを聞いた]

萱野：paskur utasa itak h\_i a=nu. [カラスが言い合うのを聞いた] と、こういうあれだな。

貝澤：うん。paskur utasa itak [カラスが言い合う]

萱野：paskur utasa itak [カラスが言い合った] それから。

貝澤：oro tunasno ikaopas y\_akun oro wen しない [大急ぎで行けば、大変なことにはならない] って、paskur [カラス] 言ったって言うんだ。

## 2-8 ペナンペアン パナンペアン

## 川上の男と川下の男がいた

語り：貝澤とうるしの

ペナンペ…… ペナンペ アン パナンペ アニネ シラニケ  
**penanpe... penanpe an pananpe an h\_ine siran h\_ike**  
 川上の男、ペナンペとパナンペがいて、

パナンペ エアラキンネ イソン チェプ ヌコアン コロ  
**pananpe earkinne ison cep nukoan kor**  
 パナンペは非常に獲物と魚をたくさんとりながら

アン ペ ネ ルウェ ネ ヒケ  
**an pe ne ruwe ne h\_ike**  
 いるものであって

ペナンペ アナク ネウン イキ ヤッカ オムケン パテク キ ア プ、  
**penanpe anak neun iki yakka omuken patek ki a p,**  
 ペナンペはそうしても獲物をとれないばかりで

シネ アン タ エキネ、  
**sine an ta ek h\_ine,**  
 ある日に来て、

「アコロ パナンペ マク エイキ イネ エネ  
**“a=kor pananpe mak e=iki h\_ine ene**  
 「私のパナンペよ、お前はどのようにして

ナニ エイソン ペ オラ アシヌマ アナク  
**nani e=ison pe ora asinuma anak**  
 すぐにお前は狩りが上手なものなのか？ 私は



ネプカ アサキ アン ネプ カ アウク カ エアイカピ° アン。」

**nepka a=sak h\_i an nep ka a=uk ka eaykap h\_i an.”**

なにもない時がある。なにもとれないときがある」

シコロ ハウエアン アクス

**sekor hawean akusu**

と言うと、

「エク。イペ コロ アパシクマ ナ。」

**“ek. ipe kor a=paskuma na.”**

「来いよ。食事をしながら教えてやるよ」

シコロ ハウエアナクス

**sekor hawean akusu**

と言うと、

パナンペ ハウエアナクス

**pananpe hawean akusu**

パナンペがそう言うと、

「ソモ アヌ ヤッカ ホシキ タシ アヌ ア プ」

**“somo a=nu yakka hoski tas a=nu a p”**

「聞かなくても先に私が聞いたのに」

セコロ ハウエアン コロ アパ ソモアン…… サム ウン

**sekor hawean kor apa somoan... sam un**

といいながら戸のそばに

オクイマ テク コロ ソイネ ルウエ ネ。

**okuyma tek kor soyne ruwe ne.**

小便をさっとひっかけて外にでたのだ。

オラノ パナンペ アナク エミナ ルスイ

**orano pananpe anak emina rusuy**

それからパナンペは笑いたくなって、

「エネ アイェ プ カ エハイタ イケ フンタ エオシコニ プ アン？」

“ene a=ye p ka ehayta h\_ike hnta e=oskoni p an?”

「このように私が言うことも無視して何が捕まえられるものか」

シコロ ハウエアン コロ エミナ ルスイ コラン ルウエ ネ

sekor hawean kor emina rusuy kor an ruwe ne

といいながら笑いながらいたのだ。

アクス ソンノカ コント オムケン ワ エネ イキ ヒ カ イサム オラノ

akusu sonnoka konto omuken wa ene iki hi ka isam orano

すると本当に（それから）獲物がとれなくてどうすることもできない。そこで

パナンペ アナクネ

pananpe anakne

パナンペは

「タ エネ ネ ワ クス アイェ プ エヌ ワ アイェ プ

“ta ene ne wa kusu a=ye p e=nu wa a=ye p

「ほら、こういうことだから、私が言うことを聞いて、私の言う

ネノ エイキ ヤクネ ピリカ イケ、アイェ プ エヌ カ ソモ キ ヒ アン。

nenno e=iki yakne pirka h\_ike, a=ye p e=nu ka somo ki hi an.

ようにすればよかったのに、私が言うことをお前が聞きもしない。

カムイ ネ ヤッカ アイヌ ネ ヤッカ イテキ アシコウエンテ ノ

kamuy ne yakka aynu ne yakka iteki a=sikowente no

神であっても人間であっても、自分を粗末にしないで（?）

アイヌ イェ プ カムイ イェ プ

aynu ye p kamuy ye p

人間が言う事、神が言うことを

アヌ コロ オカアン コロ ピリカ プ ネ ヒケ エネ

a=nu kor oka=an kor pirka p ne hike ene

私が聞きながらいると良いものなのに、このように

アイェ プ カ ソモ エヌ オラ エネ エイキ ヒ カ イサム イ アン」  
**a=ye p ka somo e=nu ora ene e=iki hi ka isam h\_i an”**  
 私が言うことも聞かないので、どうしようもなくなるのだ」

シコロ カネ ハウエアン コロ アン、  
**sekor kane hawean kor an,**  
 といいながらいた。

オラノ パナンペ アナク エミナ ルスイ ペナンペ アナク  
**orano pananpe anak emina rusuy penanpe anak**  
 それからパナンペはそのことを笑いたい。ペナンペは

エネ イキ ヒ カ イサム。ウク ワ エ プ カ イサム マ  
**ene iki hi ka isam. uk wa e p ka isam w\_a**  
 どうしようもなくとって食べるものもなくて

シノ ライ トウットウ イェ コラン オラノ エネ ヤイヌ ヒ  
**sino ray tuttu ye kor an orano ene yaynu hi**  
 本当に死ぬ（と）言い（？）ながらいた。それからこのように思ったことは

「イテキ アコロ パナンペ イェ プ アハイタ ノ イェ プ アヌ ア ヤクネ  
**“iteki a=kor pananpe ye p a=hayta no ye p a=nu a yakne**  
 「私のパナンペが言ったことを無視しないで、言うことを聞いていれば

アイヌ ネノ イキアン…… エネ イキ ヒ ネノ イキアン ペ ネ。  
**aynu neno iki=an... ene iki hi neno iki=an pe ne.**  
 人間のように私もできた。あの（パナンペの）ように私もできたのに。

イエ プ アハイタ オラ エネ  
**ye p a=hayta ora ene**  
 言う通りにしないからこのように

オムケナン チェッポ ポカ カ アエオムケニ アン。」  
**omuken=an ceppo poka ka a=eomuken h\_i an.”**  
 私は獲物がとれない、小魚さえもああ獲物がない」

シコロ ヤイヌ ワ

sekor yaynu wa

と思って

エネ イキ ヒ カ イサム マ クス

ene iki hi ka isam w\_a kusu

どうしようもないので、

パナンペ イェ プ ペナンペ ソモ ヌ ワ オラ エネ イキ ヒ カ イサム マ

pananpe ye p penanpe somo nu wa ora ene iki hi ka isam w\_a

パナンペが言うことをペナンペが聞かなくてどうしようもなくて

カムイ オピッタ オロワ アウエナ PAPU ワ

kamuy opitta orowa a=wenapapu wa

神々みんなから、ひどくとがめられて

エネ イキ ヒ カ イサム コロ アン ルウエ ネ

ene iki hi ka isam kor an ruwe ne

どうしようもなくていた

シコン フナコロ アヌ プ アン

sekor\_hunakor a=nu p an

と言う話をどこかで私は聞いた。

(萱野茂：ペナンペ アン パナンペ アニネ オカアン ペ ネ ア ヒケ)

(萱野茂：penanpe an pananpe an h\_ineline oka=an pe ne a hike )

(萱野茂：パナンペがいた、ペナンペがいた)

(萱野茂：っちゅうんだな。)

(フチ：ペナンペ アン パナンペ アン)

(フチ：penanpe an pananpe an)

(フチ：パナンペがいた、ペナンペがいた)

もう一つみちかいのあるけんど？

## 2-9 ウエペケレ

## 「オンネ ニス」

## 古い臼

語り：貝澤とうるしの

シノ ニシパ アネ ヒネ アナン イシケ…… ヒケ

sino nispa a=ne hine an=an isike... hike

私は本当のニシパ<sup>[1]</sup>でした。ユペツ<sup>[2]</sup> ホントモ コン ニシパ アネ ヒネ アナン ルウエ ネ ヒケ

Yupet hontomo kor\_ nispa a=ne hine an=an ruwe ne h\_ike

ユペツ（湧別）の中流域を領有するニシパだったが

トゥイマ クチャチセ カ アコロ ハンケ クチャチセ カ アコロ ペ ネ クス  
tuyma kucacise ka a=kor hanke kucacise ka a=kor pe ne kusu

遠い所や近い所などに狩小屋を持っていました。

クチャチセ オルン キムナン クス アラパアン コッ

kucacise or un kimun=an kusu arpa=an kor\_

狩小屋から狩りに行くと

とちゅうに アトクイエ ネ ニシパ アン ペ ネ ア ヒ クス

TOTYUUNI a=tokuye ne nispa an pe ne a hi kusu

途中に、友人がいるので、

オロ タ レウシアン ランケ プ ネ ア プ、

oro ta rewsa=an ranke p ne a p,

そこにいつも泊まっていたのですが

スイ シネアント アラパアン イネ レウシアン ウエネウサラン

suy sineanto arpa=an h\_ine rewsa=an uenewsar=an

またある日行って泊まって四方山話をし、

イポネクル カ シネナン ペ ネ クス ウエネウサラン。

**iponekur ka sinen an pe ne kusu uenewsar=an.**

息子もひとりいたので四方山話をし、

ルプネマツ カムイ カ イマツネポ ネ プ カ アン ペ ネ ワ

**rupnemat kamuy ka imatnepo ne p ka an pe ne wa**

おばあさんや娘もいたので、

ウエネウサラナイネ ホツケアナクス

**uenewsar=an ayne hotke=an akusu**

四方山話をして、そのうちに横になりました。

マキプ エソイネ セム チセ ウエウシ ウシケ ネ ペコロ イヌアン。

**makip esoyne sem cise ueus uske ne pekor inu=an.**

何か外で、物置と家のつなぎ目のあたりで声が聞こえます。

オンネ ルプネマツ ヌワプ ハウ ウルウルク ハウ アヌ ルウエ ネ。

**onne rupnemat nuwap haw uruuruk haw a=nu ruwe ne.**

年を取った女性がうめく声、震える声が聞こえます。

マキプ ハワシ セコロ ヤイヌアン。

**makip hawas sekor yaynu=an.**

何の声だろうと思って

ヤイコシラムスイパアン コロ アナナイネ

**yaykosiramস্যুপা=an kor an=an ayne**

私は考えていました。

こんど クンネアシナン クス ソイネアン コロ

**KONDO kunneasin=an kusu soyne=an kor**

今度、外が暗くなってきたので

ピリカ シルワンテアニケ カ シリクンネ イネ

**pirka siruwante=an h\_ike ka sirkunne h\_ine**

私は良く調べてみようとしたが、暗くて

ネプ アヌカラ フミ カ イサム。アフナナ プ、  
**nep a=nukar humi ka isam. ahun=an a p,**  
 何も見えず音もしない。私が入ったところ

オラノ アンケシ パクノ ネノ ウルウルク トウラ  
**orano ankes pakno neno uruuluk tura**  
 それから夜明けくらいにぶるぶると震えと共に

ヌワプ ハウ アヌ コロ アナン。  
**nuwap haw a=nu kor an=an.**  
 うめき声を私は聞きながらいた。

アオヤモクテ キムナン クス アラパアナ プ、  
**a=oyamokte kimun=an kusu arpa=an a p,**  
 私は不思議に思いながら山に入り、行ったところ

マキプ ハワシ セコロ ヤイヌアン。  
**makip hawas sekor yaynu=an.**  
 いったいどのような声なのだろうと私は思っていました。

アエヤイコウエペケレ カ キ コロ アナナイネ  
**a=eyaykouepeker ka ki kor an=an ayne**  
 いろいろ考えているうちに

シリペケレ イネ トウナシ ホプニアン  
**sirpeker h\_ine tunas hopuni=an**  
 辺りが明るくなり、早く起きました。

タネ ソイ タ ネプ カ オカ アッカ  
**tane soy ta nep ka oka y\_akka**  
 もう外に何があるかを

アヌカレアシカイ パクノ シラニ クス  
**a=nukar easkay pakno siran h\_i kusu**  
 見ることが出来るほどになっていたのもので、

ナニ ソイネアニネ セモロ ワ ソイネアン コロ  
**nani soyne=an h\_ine sem or wa soyne=an kor**  
 すぐに外に出て、物置から外に出ると

エウトウンネ ホシキ インカラン  
**eutunne hoski inkar=an**  
 まず、下手のほうを見、

エロンネ イオシ ネ ホサリアン アクス  
**eronne iosi ne hosari=an akusu**  
 それから上手のほうを向くと、

フシコ オンネ ニス チセ セム ウエウシ ウシケ タ  
**husko onne nisu cise sem ueus uske ta**  
 古い臼が物置と家のつなぎめのあたりのところに

ウセノ アホツケレ イネ アニネ  
**useno a=hotkere h\_ine an h\_ine**  
 そのまま横たえられていて、

オラ パトイェ オアラアラケ ワ エメシケ フシコ ムイ オンナイケ タ  
**ora patoye oar'arke wa emeske husko muy onnayke ta**  
 縁の片側が欠けた古い箕の中に

アン カネ ヒネ アホツケレ ヒネ アン。  
**an kane hine a=hotkere hine an.**  
 横たえられていた。

ネワアンペ クス ネ アアニネ  
**newaanpe kusu ne aan h\_ine**  
 このせいであったのかと

エアラキンネ ウェニヨクンヌレ アキ ヒネ  
**earkinne wen iokunnure a=ki hine**  
 大変ひどくびっくりしました。



オラウン イシムネ チセ コン ニシパ ホプニ イ クス

oraun isimne cise kor\_ nispa hopuni h\_i kusu

そこで（例の声を聞いた）翌日（つまりその日）、家の主が起きたので

「タップネ カネ ウクラナネピッタ オンネ ルプネマツ ヌワプ ハウ

“tapne kane ukuran anepitta onne rupnemat nuwap haw

「こうこうしかじかの事で、ゆうべ一晩中年寄りの少女のうめき声、

ウルウルク ハウ アヌ ルウエ ネ ワ

uruuruk haw a=nu ruwe ne wa

震える声を聞いて

アエヤイコウエペケン ルウエ ネ ワ

a=eyaykouepeker\_ ruwe ne wa

よく考えてみたのだが、

ソモ ネプ カ コラムヌ プ アン ヤ？」

somo nep ka koramunu p an ya?”

何か不審に思うことはないか？」

セコロ ハウエアナナクス

sekor hawean=an akusu

と言うと、

「インカラン フミ カ ウェン ペ ネ クス

“inkar=an humi ka wen pe ne kusu

「私は目が悪くて、

オアツタプネ アマツネポウタリ アポウタリ

oattapne a=matnepoutari a=poutari

私の娘や息子たちが

イキ ルウエ ネ ア カ アエラミシカリ」

iki ruwe ne y\_a ka a=eramiskari,”

何かしたのかもわからない」

セコロ ハウエアン ヒクス オラ

**sekor hawean hikusu ora**

と言ったので、

「タップネ カネ エメシケ ムイ フシコ ムイ と

**“tapne kane emeske muy husko muy TO**

「これこれこういうわけで、欠けた箕、古い箕と、

オンネ ニス タネ アエイワンケ カ エアイカプ ノ アン

**onne nisu tane a=eywanke ka eaykap no an**

古い臼がもう使えなくなって、

オンネ ニス セム チセ ウエウシ ウシケ タ アホッケレ ワ

**onne nisu sem cise ueus uske ta a=hotkere wa**

古い臼が、物置と家のつなぎめのところに横たえられ、

トイトイ カ タ アホッケレ ワ アン ワ

**toytoy ka ta a=hotkere wa an wa**

土の上で寝ていたので、

ネワアンペ ヤイエラムシカルンカ ネ ノイネ ヤイヌアン」

**newaanpe yayeramsikarunka ne noyne yaynu=an.”**

それで自分のことを気づかせようとしたのだと思う」

セコロ ハウエアナナクス

**sekor hawean=an akusu**

と私は言った。

エアラキンネ アペパスイ ウクク (?) カネ

**earkinne apepasuy ukuk(?) kane**

火箸を強く差し、

マツネポホ カ コン ルプネマツ カ コパシロタ コロ

**matnepoho ka kor\_ rupnemat ka kopasirota kor**

娘や老女（奥さん）を咎めながら、

「インカラヌミ ウェン シクナカン ワ ネプ カ アヌカルミ カ イサム。  
 “inkar=an h\_umi wen siknak=an wa nep ka a=nukar h\_umi ka isam.  
 「私は目が悪くて、ものが見えないので、何も見るができなかった。」

カ イカシパオツテアナウエ ソモ エチヌ イネ  
 ka ikaspaotte=an h\_awe somo eci=nu h\_ine  
 私がいいつけておいたことをお前たちは聞かないでいたな。

アエイワンケ ワ クスケライ オカアン ペ  
 a=eywanke wa kusukeray oka=an pe  
 それを使うおかげで私たちが暮らせるものが、

オンネ ニス オンネ カムイ ネ ルウエ ネ  
 onne nisu onne kamuy ne ruwe ne  
 古い白、年老いた神様であり、

ムイ カツケマツ ネ ルウエ ネ ワ。  
 muy katkemat ne ruwe ne wa.  
 箕の淑女であるのだ。

オンネ ワ エチエイワンケ エアイカパ コロ エチイエ イケ  
 onne wa eci=eywanke eaykap a kor eci=ye h\_ike  
 古くなって使えなくなったとお前たちは言っていたが、

マク ネ イネ アコン ニシパ エク クシケライポ モト アヌ ハウエ ネ」  
 mak ne h\_ine a=kor\_nispa ek kuskeraypo moto a=nu hawe ne.”  
 どういうわけか私たちのニシパが来てくれたお陰で、わけを聞くことができた」

セコロ ハウエアン コロ  
 sekor hawean kor  
 と言いました。

こんと イナウケマキリ カ アコロ ペ ネ クス  
 KONTO inawkemakiri ka a=kor pe ne kusu  
 今度、私はイナウケマキリ（木幣を削る小刀）を持っていたので、

イナウネニ サプテ イネ イナウ アケ ア アケ ア アイネ  
**inawneni sapte h\_ine inaw a=ke a a=ke a ayne**

イナウ（木幣）にする山から取って来て、イナウを削りに削って

オラウン カムイフチ エウン  
**oraun kamuyhuci eun**

それから火の神の媼へ、

ニスカツケマツ カムイ カツケマツ ムイ カツケマツ  
**nisukatkemat kamuy katkemat muy katkemat**

臼の淑女、箕の淑女に

カムイフチ カシパオツテ クニ アイェ コロ  
**kamuyhuci kaspotte kuni a=ye kor**

神の媼が伝えてくれるように言いながら、

ヌサ オルン カ イナウ アロシキ ヤヤ PAPUAN。  
**nusa or un ka inaw a=roski yayapapu=an.**

祭壇（ヌサ）のところでイナウを立てお詫びしました。

ネア ニシパ コツチャケ アエヤヤ PAPU ヒ アイェ コロ  
**nea nispa kotcake a=eyayapapu hi a=ye kor**

例の長者の代わりに私はお詫びを致します。

アシヌマ ヤイカタ ネア ニス カ ヌサ オルン アアニ ヒネ  
**asinuma yaykata nea nisu ka nusa or un a=ani hine**

私は自分自身で例の臼の女神を祭壇の前において、

ムイ トウラノ ウサ アマム アオマレ ウサ キナ ハル カ アオ ヒネ  
**muy turano usa amam a=omare usa kina haru ka a=o hine**

箕とともに穀物や山菜や食べ物などを供えて

アホプニレ ルウエ ネ。  
**a=hopunire ruwe ne.**

神の国へお送り致します。

オラノ ナニ エキムネ アラパアン カ エトランネ イ クス  
**orano nani ekimne arpa=an ka etoranne h\_i kusu**  
 それから、すぐに山へ行くのもいやだったので、

オラ ヌサコロカムイ ネ アッカ  
**ora nusakorkamuy ne y\_akka**  
 祭壇の神のところで

アコヤヤパプ ポロ ニシパ コッチャ タ キ ルウエ ネ  
**a=koyayapapu poro nispa kotca ta ki ruwe ne**  
 立派なニシパの代わりにお詫びをしました。

オンネ アイヌ ヤイコエラメウニン。インカルミ カ ウェン ワ キ ワ  
**onne aynu yaykoeramewnin. inkar h\_umi ka wen wa ki wa**  
 あの老人は気がつかなかったのです。目が悪く、

メノコ アナクネ パカ ネ パ ワ ネ ナ  
**menoko anakne paka ne pa wa ne na**  
 女たちは馬鹿者でしたので、

カムイ イコッキ イサム ノ  
**kamuy ikotki isam no**  
 神様の罰を与えることなく、

アプンノ オンネ ニシパ ウタラ オカ クニ アイェ ア アイェ ア ヒネ  
**apunno onne nispa utar oka kuni a=ye a a=ye a hine**  
 おだやかに年配のニシパたちが暮らせますようにと、言いました。

オラ レウシアン ルウエ ネ アクス  
**ora rewsian ruwe ne akusu**  
 そしてその晩泊ると、

カムイ ネ クス コラチ アン オンネ ルプネマツ  
**kamuy ne kusu koraci an onne rupnemat**  
 いかにも神様らしい老女が

アンレタラ オスツペウシ エネキピ(?)<sup>[3]</sup> アン  
**anretar osuppeus enekipi(?) an**  
 真っ白なXXXを着て

ミナ カネ ヒネ アニネ エネ ハウエアニ。  
**mina kane hine an h\_in e ne hawean h\_i.**  
 笑いながらこう言った。

「タン アイヌ ニシパ エアン クスケライポ。  
**“tan aynu nispa e=an kusukeraypo.**  
 「その人間のニシパのお陰です。

ソレクス メコヤイウエンヌカラン アプト アシ コロ アプトカラン  
**sorekusu mekoyaywennukar=an apto as kor aptokar=an**  
 それこそ、私は寒さに苦勞をしてしました。雨が降れば雨にやられ、

ウパシ アシ コロ ウパシカラン レラカラン  
**upas as kor upaskar=an rerakar=an**  
 雪が降れば雪にやられ、風にやられ、

ルヤンペ コヤイウエンヌカラン ワ  
**ruyanpe koyaywennukar=an wa**  
 暴風雨に難儀して、

ウルウルカン ヌワパン ハウエ エヌ。  
**uruuruk=an nuwap=an hawe e=nu.**  
 寒くてブルブルと震えて、うめいている声をあなたが聞いてくれました。

エアニ ネ ヤケアシリ セコロ ヤイヌアン クス アエヌレ ルウエ ネ アワ  
**eani ne yak easir sekor yaynu=an kusu a=e=nure ruwe ne awa**  
 あなたならではのと思って、あなたに声を聞かせていたのですが、

アイヌ ヘタップ エネ カトウ アン。  
**aynu hetap e=ne katu an.**  
 あなたは人間でしょうか（まるで神のようだ）。

ソレクス イナウ ピリカプ ムイ カツケマツ トウラノ イコレ ワ  
**sorekusu inaw pirkap muy katkemat turano i=kore wa**  
 それこそ、美しいイナウを箕の淑女<sup>14</sup>とともに与えていただいて、

エアラキンネ ヌサコロカムイ カ エコヤイライケ。  
**earkinne nusakorkamuy ka e=koyayrayke.**  
 祭壇の神もあなたに感謝しています。

アイヌ ニシパ アン クスケライポ  
**aynu nispa an kusukeraypo**  
 ニシパのお陰で、

アコロ オンネ カムイ ウタラ イコシレパ シリ セコロ ハワシ コロ  
**a=kor onne kamuy utar i=kosirepa siri sekor hawas kor**  
 年老いた神々が私（祭壇の神）のところにたどりついたと言いながら、

ヌサコロカムイ カ  
**nusakorkamuy ka**  
 祭壇の神も

イコヤイライケ…… エコヤイライケ イェ ア イェ ア ルウエ ネ。  
**i=koyairayke... e=koyayrayke ye a ye a ruwe ne.**  
 あなたに感謝しています。

オラウン エエキムネ チキ アシクネ ト アッカリ  
**oraun e=ekimne ciki asikne to akkari**  
 そこであなたは5日以上の間、

イテキ キム タ エアナク ピリカ ナ」  
**iteki kim ta e=an y\_ak pirka na.”**  
 山にいてはいけません」

セコロ アイイエ ヤク アタカラ ヒネ  
**sekor a=i=ye yak a=takar hine**  
 という夢を私は見た。

オラウン オンカミアナ アナ

oraun onkami=**an a =an a**

そして、それから私はお祈りをし、祈りました。

イシムネ アロロキシネ ヤイエイノンノイタカン。ネウンアックス

isimne arorkisne yayeynonnoitak=**an. neun an kusu**

翌日、こっそりと私は自分のことを祈ってみた。なぜ

アイイエ ト ピシキ ハウエ ネ ヤ カ アエラミシカリ ヤッカ

a=i=ye to piski hawe ne ya ka a=eramiskari yakka

そう言われたのか、日の数を数えなければならないのか分からなかったが、

アプンノ シネプ スマウエ アコロ クニ アヌ プ ネ クス

apunno sinep sumawe a=kor kuni a=nu p ne kusu

何事もなく獲物を一匹私が得られると聞いたので

クワリアン アラパアニネ キ ルウエ ネ イネ イネ ト アナナクス

kuwari=**an arpa=an h\_in**e ki ruwe ne h\_in e ine to an=**an akusu**

私は仕掛け弓を仕掛けに行って4日の間いると、

ハイカンヌプ アクウエ オシマ ヒネ アライケ ヘ

haykannup a=kuwe osma hine a=rayke he

中くらいの熊が私の仕掛け弓にかかって死んでいて、

アリ ヒネ アセ ヒネ イワカン

a=ri hine a=se hine iwak=**an**

私は皮を剥ぎそれから背負って帰って、

アコロ クチャチセ オツ タ イワカナクン

a=kor kucacise or\_ ta iwak=**an y\_akun**

自分の狩り小屋に帰ったら、

ネ コタノルン イット アン マ サナン シンネ イ イエ (?) ナ

ne kotan or un itto an w\_a san=**an sinne h\_i ye(?) na**

その村へは1日で下りられると言っていた (?) な



セコロ ヤイヌアン コロ サナナクス

sekor yaynu=an kor san=an akusu

と思いながら下りていくと、

カムイ アリ ウシケヘ ワ ポン ナイ トモトウイエ アプカサン ペ ネ プ

kamuy a=ri uskehe wa pon nay tomotuye apkas=an pe ne p

熊神の皮を私は剥いだところから、小さい沢を横切って行くことになっていたが

ネ ナイ トモトウイエ だか ナイ トウラシ

ne nay tomotuye DAKA nay turasi

その沢を横切り……遡り、

イネウレペッ ウシ ペ アラパ オカケ アン

ineurepet us pe arpa okake an

四つ爪の熊が行った跡がある。

ネワアンペ アイエヤムカラウエ

newaanpe a=i=eyamkar h\_awe

そのことを心配して

アシクネ ト アッカリ イテキ エアン ナ

asikne to akkari iteki e=an na

五日間以上（山に）あなたはいてはいけません

セコロ アイイエ イ ネ クニ アラム ワ イヨクンヌレアナ コロカ

sekor a=i=ye h\_i ne kuni a=ramu wa iyokunnure=an a korka

と言われたのだと、私は思っぴびっくりしたけれども、

オラ ネ ルウエ アヌカラ ペ カ

ora ne ruwe a=nukar pe ka

その足跡を見たもの（化け物熊）は、

ネイ パクノ アヌカラ カ エラミシカリ クス

ney pakno a=nukar ka eramiskari kusu

それ以来いつまでも見ることはなかった（現れなかった）ので、

ニス カツケマツ ヌサコロカムイ イエプンキネ クシ  
**nisu katkemat nusakorkamuy i=epunkine kus**  
 臼の淑女、祭壇の神様が私を守ってくれるように

イエ パ アイコエウン ワ  
**ye pa a=i=koeun wa**  
 一緒に言ってくれたので、

エネ アン ペ ル オカケ アヌカラ コロカ  
**ene an pe ru okake a=nukar korka**  
 このように（化け物の）足跡を見ながらも、

ネプ カ アシトマ カ ソモ キ ノ オラ ホシピアン コン  
**nep ka a=sitoma ka somo ki no ora hosipi=an kor\_**  
 何も恐ろしいことも起こらず、戻る事ができて、

ネア ニシパ オロ タ カム はんぶん アホッパ したと。  
**nea nispa oro ta kam HANBUN a=hoppa SITATO.**  
 ニシパ（長者）のところに肉を半分おいていった、と。

ソレクス チシ コロ  
**sorekusu cis kor**  
 それこそ、家の主人は

エヤイコプンテク ア エヤイコプンテク ア パ ルウエ ネ ワ  
**eyaykopuntek a eyaikopuntek a pa ruwe ne wa**  
 喜んで喜んでいた。

イヨクンヌレアン ペ ネ クス  
**iokunnure=an pe ne kusu**  
 （ということで）私は驚いたので、

ネプ ネ アッカ アエイワンケプ オンネ プ  
**nep ne y\_akka a=eywankep onne p**  
 何でも道具の古くなったものを

イテキ エタラカ アオスラ プ ネ ナ。と。

**iteki etarka a=osura p ne na. TO.**

むやみに捨ててはいけません、ということですよ。

### 3-1 ウエペケレ「オンネ ニス」解説

解説：萱野茂

萱野：昭和44年1月23日です。昨日（きのう）に続きまして、貝澤とろしのさんの所へお邪魔しております。

テープ番号2号の一番御終いの方で uepeker〔散文説話〕の「オンネ ニス」というのがあります。その和訳は、このテープ番号3の所へ入れることになっております。この uepeker〔散文説話〕の「オンネ ニス」というのが、2号の一番御終い、53分から60分まで入っていますが、それのは、ある一人の男が、隣村の知り合いのうちへ行って泊まった。そうすると、家のすぐそばの、アイヌ語では sem〔土間〕と言うんですけども、その sem の辺りへおばあさんの唸り声が、夜いっぱい聞こえた、と。それで、翌朝早く起きて見ると、そこにはすっかり朽ち果てた臼があった。

そして、それからそのそばで箕（み）もあった、と。いずれも古くなっておったものをそのまま神の国へ帰さずにあった。それらしく思いましたので、家主に話をし、お酒あるいはタバコ、あるいは穀類なんかをあげて神の国へお帰しした。そうすると、晩に立派なおばあさんが夢枕に立って、「あなたのお陰で、私はお土産がたくさん出来たので、神の国へ帰ることが出来ましたよ。本当にありがとうございました。」そのように夢枕に立って、話をしてくれたと。

こうした物語の中でも、アイヌはどんな物でも、手作りのものにも、物には魂が入っておるんだと。そんなことがこう伺われる一つの uepeker〔散文説話〕であったわけです。

uepeker〔散文説話〕「オンネ ニス」の和訳。2号の53分から60分まで入っていたのを今3号テープの最初の方に入れてあります。

それでは、まだ続きまして貝澤とろしのさんに uepeker〔散文説話〕をしていただきます。

## 3-2 ウエペケレ

### 「テックプ ウシ ヘカチ」

#### 翼の生えた少年

語り：貝澤とうるしの

シノ ニシパ アネ ヒネ アナニケ  
sino nispa a=ne hine an=an h\_ike  
本当の長者で私はあって、

ユク ネ チキ カムイ ネ チキ アエアウナルラ。  
yuk ne ciki kamuy ne ciki a=eawnarura.  
鹿でも熊でもたくさん獲った。

イパナケ タ モヨノ アン コタナン ペ ネ コロカ オラウン  
i=panake ta moyono an kotan an pe ne korka oraun  
私からみて川下の方に人の少ない村があるのだが

パク カツケマツ イサム ペ アエウタンネ コロカ オラ  
pak katkemat isam pe a=ewtanne korka ora  
これ以上ない妻をわたしはめとっていたが、

ポサカン マ ポエイコイトウパアン コロ アナン ペ ネ ルウェ ネ ア プ  
posak=an w\_a poeykoytupa=an kor an=an pe ne ruwe ne a p  
私には子どもがいなくて、子どもがほしいと思っていたのだが、

アウコシンナイレ ヘカチ イオロ ペカ イキ  
a=ukosinnayre hekaci i=or peka iki  
身寄りのない(?)男の子が、私のところに

エク ランケ エク ランケ コロ アン。  
ek ranke ek ranke kor an.  
いつも来ていた。

アエランポキウエン クシ シヨッ タ アン ノイネ

a=erampokiwen kus sior\_ ta an noyne

私は気の毒に思ったので、その子は自分のところになるようで

タネ ポロ ヘカチ ネ ネプ カ エキムネ アシトウラレ ヤッカ

tane poro hekaci ne nep ka ekimne a=siturare yakka

今や大きな子に成長して、山へ行くのに私について来させても、

エアシカイ パクノ タネ きかない ポロ ヘカチ ネ ポラウン

easkay pakno tane KIKANAI poro hekaci ne p oraun

ついて来られるほどに、今ではわんぱくに成長した男の子であったが、

なに<sup>[1]</sup> クンネ アン ワ モコロ コラノ

NANI kunne an wa mokor kor (or)ano

男の子は夜になって寝ると

オラノ フンタ カ イエ ア イエ ア ハウエ ネ ヤ

orano hnta ka ye a ye a hawe ne ya

何を繰り返し言っているのか

モンナイタク ハウエ ネ ヤ

monnaytak hawe ne ya

寝言を言っているのか、

モコロ ハウエ ウエン ワ アキ フミ ウエン コロカ オラ

mokor hawe wen wa a=ki humi wen korka ora

寝つきが悪くて、私たちの寝つきも悪かったのだが、

アヘコテ カツケマツ カ イヨマップ エイコイトウパ プ ネ クス

a=hekote katkemat ka iomap eykoytupa p ne kusu

私の妻も子どもを可愛がりたいと思っていたので

シピネレ、ネウン ネン アミプ カラ ワ コレ…… ミレ したり キ、

sipinere, neun nen amip kar wa kore... mire SITARI ki,

着物を着せて、あれこれと着物を作り与えて、着せたりして、

ネウン ネン アオマプレス コロ オカアン ペ ネ ルウエ ネ ア プ  
**neun nen a=omapresu kor oka=an pe ne ruwe ne a p**  
 いろいろと可愛がって育てていたのだが、

タネ ナ ホツネ パハ アイェ ノ (?) アン コロ  
**tane na hotne paha a=ye no (?) an kor**  
 今やもう二十歳と言える年になると、

ヒナクン ソイネ ヒネ イサム。  
**hinak un soyne hine isam.**  
 どこかへ出かけて行っていなくなった。

オラノ ケシト アエカヌナラ ヤッカ ウエン ルウエ ネ ヒ  
**orano kesto a=ekanunara yakka wen ruwe ne hi**  
 毎日私たちはその子を待っていてもその甲斐もなく、

オラノ アマチヒ  
**orano a=macihi**  
 その時から (?), 私の妻は

「ポ エネ ネア ヘカチ マク イキ ルウエ アン?  
**“po h\_ene nea hekaci mak iki ruwe an?”**  
 「ほんとうに私の男の子はどうしているのだろう、

ヒナクン アラパ ルウエ アン?  
**hinak un arpa ruwe an?”**  
 どこに行ってしまったのだろう」

セコロ ハウエアン。アシヌマ カ アエポタラ カ キ。  
**sekor hawean. asinuma ka a=epotara ka ki.**  
 と言った。私も心配をした。

アアフプカラ クニ ネウ カ アイェ ヘネ キ カ ソモ キ ノ  
**a=ahupkar kuni new ka a=ye hene ki ka somo ki no**  
 私も養子にするとも何も言ったりすることもなく

アレス プ ネ クス

**a=resu p ne kusu**

育てたものだから、

エタラカ イタク カ アコスイエ カ エアイカプ ペ ネ ア コロカ

**etarka itak ka a=kosuye ka eaykap pe ne a korka**

むやみにその子に言葉を投げかけることもできなかったが、

エキムネ コシレレコロ

**ekimne kosirerkor**

山へ行くついでに

イオヤウトロケ ウン シトゥ ウトロサムン エキムネアン ワ

**i=oyautorke un situ utorsam un ekimne=an wa**

山の反対側の尾根の側へ私は入って行って

オヤク ワ エク ペッ ペッ オロケ ヘネ

**oyak wa ek pet pet orke hene**

別の方から流れて来る川の川筋も

アオアプカシ ワ インカラシ ルスイ クス

**a=oapkas wa inkar=an rusuy kusu**

私は歩いて見て回りたいかったので、

シトゥ オイカ アラパアニネ ナイ トウラシ アラパアナイン

**situ oyka arpa=an h\_ine nay turas arpa=an ayne**

尾根を越えて行き、沢に沿って進んで、

シトゥ メッカ タ アラパアニネ

**situ mekka ta arpa=an h\_ine**

尾根の上へ行って、

オヤク ワ エク ペッ アコロ ペッ コパッケ ワ

**oyak wa ek pet a=kor pet kopakke wa**

別の方から流れて来る川の私のところの川の近くから



ウトロサマ アペシネ ラمامケ ケナシ ネ クス  
**utorsama a=pes h\_ine ramamke kenas ne kusu**

(その別の方から来る川の)横をたどって下ると、ゆるやかな木原になっているので

ケナシ オペシ サナナクス ニ カ タ トウ パシクル オカ イネ  
**kenas opes san=an akusu ni ka ta tu paskur oka h\_ine**

木原に沿って私は下っていくと、木の上に二羽のカラスがいて、

オラ ヘマンタ シラウン ヌカラ パ ワ  
**ora hemanta siraun nukar pa wa**

何か自分の下の方を見て、

ラコテス<sup>㊦</sup> ワ ラプ クシ ネ コロ コホピ。  
**rakotesu wa rap kus ne kor kohopi.**

羽が触れるくらいに下りてくると離れて飛んでいき

ネプ カ ニ シスイエ ヘネ キ シンネ ペコロ シリキ ヒクス  
**nep ka ni sisuye hene ki sinne pekor siriki hikusu**

何か木が揺れでもしたかような様子であるので、

アイ アナクネ トウ ワイ アイ カ アセ プ ネ クシ  
**ay anakne tu wan\_ ay ka a=se p ne kus**

矢なら 20 本も私は背負っているのだ

イカヨオパセ カネ プ ネ クス アイ アアニ カネ ヒネ  
**ikaop a=se kane p ne kusu ay a=ani kane hine**

矢筒を背負っていたので、矢を準備して、

エタラカ ネプ カ カミアシ ヘネ イヌカラ クニ アシトマ クス  
**etarka nep ka kamiasi hene i=nukar kuni a=sitoma kusu**

むやみに何かの魔物が私を見ると思うと私は恐ろしかったので

へへウパアナクス  
**hehewpa=an akusu**

覗き見をすると、

ネア オッカイポ ソレクス チカプ カスノ ポロ チカプ テックプ ウシネ  
**nea okkaypo sorekusu cikap kasuno poro cikap tekkup us h\_ine**

例の（私のところに来ていた）若者に、鳥のなかでもとても大きい鳥の羽が生えていて、

オラウン ネア パシクル ウタラ エウン  
**oraun nea paskur utar eun**

するとそのカラスたちが、その子に向かって

ラプ クシ ネ コロ コホピ ラポラポ シンネ ヤ  
**rap kus ne kor kohopi, raporapo sinne ya**

下りてきては離れて飛んでいき、羽ばたいているようなのか、

ネウン ネウン イキ コロ コホピ パシクル ウタラ  
**neun neun iki kor kohopi paskur utar**

あれこれしては飛んでいったカラスたちの、

キラ ワクス アン パシクル ハウ ネ アアニネ  
**kira wakusu an paskur haw ne aan h\_ine**

逃げようとしたカラスたちの声だったので、

オラウン アエキマテク、アシトマ クス  
**oraun a=ekimatek, a=sitoma kusu**

私はそのことにびっくりして恐ろしかったので、

ルウェ チクニ センピリ オロケヘ アエヤイペカレ ヒネ  
**ruwe cikuni senpir orkehe a=eyaypekare hine**

太い木の陰へと身を隠して、

エネ シリキ アヌカン ルスイ クス インカラン ワ アナナクス  
**ene siriki a=nukar\_ rusuy kusu inkar=an wa an=an akusu**

その様子を私は見たかったので、眺めていたところ、

ラポラポ コロ アナイネ ソレクス オウセ ホプニ イネ  
**raporapo kor an ayne sorekusu ouse hopuni h\_ine**

その子は羽をバサバサとはばたかせて、パッと飛び立って、

ネア オヤク ワ エク ペッ ペッ オロ ペッ オペシ サン ルウェ ネ。

nea oyak wa ek pet pet oro pet opes san ruwe ne.

その別の方から流れてくる川、川の所を、川筋に沿って下りていった。

ソンノ アエオハイシトマ

sonno a=eohaysitoma

私はとても恐ろしくて、

ネウ カ ネ ワ イヌカラ クニ アエオハイシトマ プ ネ クス

new ka ne wa i=nukar kuni a=eohaysitoma p ne kusu

どのようにかして私を見るのではないかと恐ろしかったので、

オラ ナニ ホシピアニネ

ora nani hosipi=an h\_ine

そこですぐに私は引き返して、

ニ オロ ウン カ ペトルン カ ヤイエイノンノイタカニネ

ni or un ka pet or un ka yayeynonnoytak=an h\_ine

木に向かっても川に向かっても、私は一人祈り言葉を唱えて、

ヤイカキカニネ

yaykakik=an h\_ine

自分をはらい清め、

「ネプ カ サニヒ ネ プ、エイコカンタマ プ、アイヌ ネ アペコロ アン ワ

“nep ka sanihi ne p, eykokantama p, aynu ne apekor an wa

「何か（恐ろしいものの）の血筋の者、人をだます者が、人間の姿をして

アオマプレス プ ネ アアン ペ エネ カトウフ アン ルウェ アニ アン。

a=omapresu p ne aan pe ene katuhu an ruwe an h\_i an.

私がかわいがって育てたものが、このような姿であったとは。

アイヌ ネ プ オラウン テックプシ ワ ポロ テックプシ ワ

aynu ne p oraun tekkup us wa poro tekkup us wa

人間ではあったが、羽が生え、大きな羽が生えていて、

ホプニ シリ ネ アッカ オヤポルン アエコシ クシ ネ ナ。

**hopuni siri ne y\_akka oyap or un a=ekosi kus ne na.**

飛び立つ様子にしても（恐ろしいので）、他の方へ私はその子をお任せしようと思います。

カムイ イコホサリ ワ イコレ。

**kamuy i=kohosari wa i=kore.**

カムイよ、私の方を向いてください。

シリコロ カムイ ネ アッカ ワッカ ウシ カムイ ネ アッカ

**sirkor kamuy ne y\_akka wakka us kamuy ne y\_akka**

樹木のカムイであれ水のカムイであれ

イコホサリ ワ イコレ。

**i=kohosari wa i=kore.**

私の方を向いて下さい。

アシヌマ アナクネ シンナ アイヌ アネ ルウェ ネ ナ。」

**asinuma anakne sinna aynu a=ne ruwe ne na.”**

私は違う人間なのですよ。」

セコロ アン ペ、ヤイエイノンノイタカン。

**sekor an pe, yayeynonnoytak=an.**

ということ、自分のことをカムイに祈った。

ヤイカキカアン コロ イワカン ルウェ ネ ヒネ

**yaykakika=an kor iwak=an ruwe ne hine**

自分をはらい清めて、家に帰ってきて

アコロ カムイフチ エウン カ アロロキシネ ヤイエイノンノイタカン。

**a=kor kamuyhuci eun ka arorkisne yayeynonnoytak=an.**

わが家の火の女神へも密かに自分のために祈り言葉を唱えた。

ヌサ オツ タ カ ヤイエイノンノイタカン ルウェ ネ ア プ

**nusa or\_ ta ka yayeynonnoytak=an ruwe ne a p**

幣場でも自分のために祈り言葉を唱えたのであったが、

ネア エアンチカリヒ ウェンタラパン。

nea eancikarihi wentarap=an.

その日の夜に私は夢を見た。

フナク タ アラパアナ アナクス

hunak ta arpa=an a =an akusu

どこへだか私はずっと進んで行くと

ネア ヘカチ オッカイポ イエホシノ アン ヒネ

nea hekaci okkaypo i=ehosno an hine

その青年が背中を向けていて、

オラウン やっぱり ポロ テックプ ヘ…… ヘマンタ ウシネ オラウン

oraun YAPPARI poro tekkup he... hemanta us h\_ine oraun

やっぱりその子には大きな羽が、何かが生えていて、

エネ ハウエ アニ、

ene hawe an h\_i,

このように言った、

「タン アヌン アイヌ ニシパ、イタカン ワ

“tan anun aynu nispa, itak=an wa

「ここなる人間の長者よ、私が話をして

エイヌ カトゥ エネ アニ、

e=inu katu ene an h\_i,

あなたが耳にするのはこのようなことですよ。

オナ アコロ ワ ウヌ アコロ ワ アナン ペ ネ アアン ペ

ona a=kor wa unu a=kor wa an=an pe ne aan pe

私は父と母をもって暮らしていましたが、

オヤチキ ウェンカムイ コホサリ オナ アコロ ペ ネ アアニネ

oyaciki wenkamuy kohosari ona a=kor pe ne aan h\_ine

実は魔物と関係した父を私はもっていたのです。

ウエンカムイ エイカシヌカラ ペ アネ アアン ペ  
 wenkamuy eykasinukar pe a=ne aan pe,  
 私は魔物に目をかけられていたのですが、

ネ ウエンカムイ イヤイエイカウヌ イネ  
 ne wenkamuy i=yayeykaunu h\_ine  
 その魔物の方が私よりうわてになって、

ウエンカムイ ネ アナン クニ…… クス ネ アンアン (?).  
 wenkamuy ne an=an kuni... kusu ne an=an(?).  
 私は魔物になるようでした。

アンホントム タ カ ネン カ イコイタクミ ネ アナペコロ ヤイヌアン ワ  
 anhontom ta ka nen ka i=koytak h\_umi ne an apekor yaynu=an wa  
 真夜中にも誰かが私に話しかけるようだと思って、

ネウン ネウン イソイタカン カ ハウェアナン カ キ コロ アナン ヒケカ  
 neun neun isoytak=an ka hawean=an ka ki kor an=an hikeka  
 あれこれと私は物語をして話をしていたのですが、

オロワ シリペケレ コロ  
 orowa sirpeker kor  
 夜が明けると

ネ エネ アラム ヒ カ イサム ノ アナン ペ ネ ア プ  
 ne h\_ene a=ramu hi ka isam no an=an pe ne a p  
 そのような記憶もなくしていたのですが、

シネ アン エキムネアニネ ケナツソ ペカ サナナクス  
 sine an ekimne=an h\_ine kenasso peka san=an akusu  
 ある日、山へ行き、木原に沿って下りて行くと

イエカリ チオシケ サラニプ ヘウシ アペコロ アン  
 i=ekari cioske saranip heusi apekor an  
 私に向かって逆さ編みしたこだしを頭にかぶったかのような

ヘマンタ エキネ オラ ミナ カネ ヒネ エネ ハウエアニ、  
**hemanta ek h\_ine ora mina kane hine ene hawean h\_i,**  
 化け物が来て、笑みを浮かべながらこのように言いました。

『エアニ アナクネ アウタリヒ エネ ルウェ ネ クス、  
**'eani anakne a=utarihi e=ne ruwe ne kusu,**  
 『お前は私たちの同族であるのだから、

アイヌ オツ タ エアン カ ソモ キ プ ネ ナ。  
**aynu or\_ ta e=an ka somo ki p ne na.**  
 人間の世界で暮らすべきものではないのだ。

イテキ アイヌ オルン シキル ノ タネ キム タ エアン ワ  
**iteki aynu or un sikiru no tane kim ta e=an wa**  
 人間の方に戻ることなく、これからは山でお前は生活し、

オラウン エネ エイキ ルスイ ネノ エイキ プ ネ ナ』  
**oraun ene e=iki rusuy neno e=iki p ne na'**  
 そしてお前がそうしたいと思うようにするのだよ』

セコロ ハウエアニ コロ インカラン アクス  
**sekor hawean kor inkar=an akusu**  
 というので、私が目を向けると、

ネ アレコ カ エトランネ ウナラペ<sup>[3]</sup> ネロコカイ ペ エネ イイエ ヒ ワノ  
**ne a=reko ka etoranne unarpe nerok okay pe ene i=ye hi wano**  
 その名を呼ぶのも気が進まない老婆が、そのようなことを私に言ったときから、

コント アイヌ オツ タ アイヌ カムイ フチ オロ タ イパラ アオスケ コロ  
**konto aynu or\_ ta aynu kamuy huci oro ta i=par a=osuke kor**  
 人間のところで、人間の火の姫神のところで私は養われて

アイヨマプ コロ アナナ プ セコロ ヤイヌアナ コロカ  
**a=i=omap kor an=an a p sekor yaynu=an a korka**  
 かわいがられて私は暮らしていたのにと私は思ったのですが、

オラ アイカシパオツテ ハウエ エネ アン ペ セコロ ヤイヌアン ワ  
 ora a=i=kaspaotte hawe ene an pe sekor yaynu=an wa  
 このように命じられたのだと私は思い、

コント ウェンラマッコロアン オッカヨ アネ ポラウン  
 konto wenramatkor=an okkayo a=ne p oraun  
 悪い魂を持つ男で私はありますが、

アオナハ ウェンラマツ コロ ワ カミアシ サニ アネ イ アン  
 a=onaha wenramat kor wa kamiasi sani a=ne h\_i an  
 私の父が悪い魂を持ち、私は魔物の子孫であって、

ウェンカムイ エシ…… エイカシヌカラ ペ アネ アアン ワクス  
 wenkamuy es... eykasnukar pe a=ne aan wakusu  
 私は魔物に見守られていたために、

カミアシ ネ アナニネ ルウエ ネ ナ。  
 kamiasi ne an=an h\_ine ruwe ne na.  
 私は魔物になってしまっているのです。

イテキイ オシクン ノ  
 iteki i=oskur\_ no  
 私のことを残念に思うことなく

オラウン ネイ ワ カ エク…… オッカイポ ウムレク アラキ ヤクン  
 oraun ney wa ka ek... okaypo umurek arki yakun  
 この後、どこからか若い夫婦が来たならば、

エチオロ ペカ イキ ペコロ イキ パ アイネ  
 eci=oro peka iki pekor iki pa ayne  
 あなたたちの所に出入りするようになって、そのうち、

オラウン ポ ネ エチレス マツネポ ネ エチレス ヤクネ  
 oraun po ne eci=resu matnepo ne eci=resu yakne  
 息子と娘としてあなたたちが育てると、



ピリカ ウサプキ エチキ アイネ

**pirka usapki eci=ki ayne**

あなたたちは何でもよく働いているうちに、

ウコポコロ ワ ポコロ シリ カ エヌカラ ワ オラ

**ukopokor wa pokor siri ka e=nukar ora**

(その息子夫婦が) 子どもを産んで子の親になる様子をあなたは見て、

エオンネ クシ ネ ルウエ ネ。

**e=onne kus ne ruwe ne.**

あなたは年をとっていくでしょうよ。

パクノ カシカムイエ ユプケプ イサム ペ エチネ アアン クシケライポ

**pakno kaskamuye yupkep isam pe eci=ne aan kuskeraypo**

あなたたちは並外れて憑神が強かったのも、そのおかげで

ネウ カ エチイレス ヒ エチエウエン カ ソモ キ クス ネ ナ。

**new ka eci=iresu hi eci=ewen ka somo ki kusu ne na.**

あなたたちが子育てをすることで、悪いことはおこらないでしょう。

イテキ エヤイコシラムスイパ」

**iteki eyaykosiramusuypa”**

もう私のことを思い出したりしてはいけません」

セコロ ハウエアン ヤカタカラ オラ イヨクンヌレアン コロ

**sekor hawean yak a=takar ora iokunnure=an kor**

と言ったと私は夢に見て、私は驚いて

アシリキンネ カムイ アヌレ ワ

**asirkinne kamuy a=nure wa**

本当に火の神へ私は報告し、

ヤイエイノンノイタカナ アナ ルウエ ネ。

**yayeynonnoytak=an a =an a ruwe ne.**

私は自分のために祈り言葉を唱え続けていた。

オロワノ コント タネ アオシクル カ エイケスイ ペ ネ クス  
**orowano konto tane a=oskur ka eykesuy pe ne kusu**

そうして、もはや（いなくなった子のことを）惜しがっているのも嫌なので、

ハンケ クチャ トウイマ ク…… クチャ チセ アコロ ペ ネ クス  
**hanke kuca tuyma k... kuca cise a=kor pe ne kusu**

私は近い狩小屋や遠い狩小屋を持っているので、

エウン キムナン ワ ユク カ カムイ カ アロンヌ ワ  
**eun kimun=an wa yuk ka kamuy ka a=ronnu wa**

そこへ山に行って鹿や熊を獲って

アエ コロ オカアン アイネ  
**a=e kor oka=an ayne**

私は食べて暮らしていると、

ネイ ワ ネ ヤ ピリカ オツカイポ ウムレク  
**ney wa ne ya pirka okkaypo umurek**

どこからか美しい若者の夫婦が

ヒナク ワ ポイ シケポ キ カネ イネ アラキ イネ  
**hinak wa pon\_ sikepo ki kane h\_ine arki h\_ine**

どこからか小さな荷物をしょって、やってきて、

「ウヌ カ サク オナ カ サク ペ アネ ワ  
**“unu ka sak ona ka sak pe a=ne wa**

「私たちは父も母もいない者で

イヨヤブ…… イウトウルサマ ウン  
**i=oyap... i=utorsama un**

（山の）私の側の

イアラモイサマ ウン ペツ ホントム マ  
**i=armoysama un pet hontom w\_a**

向かいの川の中流から

アイウココレウエン ペ ネ ワ イケスイアン ワ

a=i=ukokorewen pe ne wa ikesuy=an wa

ひどい扱いをされ、堪えがたくて、

ネイ タ カ ウッシウ ネ ポカ オカアン ルスイ クス アラキアン ルウエ ネ」

ney ta ka ussiw ne poka oka=an rusuy kusu arki=an ruwe ne”

どこかでせめて召し使いとしてでも暮らしたくて来たのです」

セコロ ハウエオカ。エアラキンネ アエランポキウエン クス

sekor haweoka. earkinne a=erampokiwen kusu

と言った。私はとてもかわいそうに思い、

コント シオツ タ アアリ シリ エネ アニ、

konto sior\_ ta a=ari siri ene an h\_i,

自分のところに置いた様子は次のようであった。

メノコ カ ユプテク オッカヨ カ ユプテク ワ

menoko ka yuptek okkayo ka yuptek wa

女も一生懸命に働き、男も一生懸命に働き、

ネプ カ アマチヒ テケヘ ケレ カ ソモ キ ノ イキ ワ

nep ka a=macihi tekehe kere ka somo ki no iki wa

何も私の妻の手に触らせることなく、

アコルミ ピリカ コロ オカアナイネ

a=kor h\_umi pirka kor oka=an ayne

気持ちよく私たちは暮らし<sup>[4]</sup>、

イエカスイ イラマンテ カ キ ワ らくに アン アイネ

i=ekasuy iramante ka ki wa RAKUNI an ayne

狩りでも助けてくれて、私たちは楽に暮らし、

ラポク ウコポコロ ワ オッカヨ マッカチ コロ ワ

rapok ukopokor wa okkayo matkaci kor wa

そのうちに彼らに子どもができ、男の子と女の子ができて

アコヨマップ、イピリカヌヌケ コロ オカアン ワ

**a=koyomap, i=pirkanunuke kor oka=an wa**

私はかわいがり、彼らは私たちの面倒をよく見て、私たちは暮らした。

ネア ホシキ イキプ アナク アオシクル カ ソモ キ ノ

**nea hoski iki p anak a=oskur ka somo ki no**

あの先にいた者については私は惜しいと思うこともなく、

イオシワ アイヌ ネ イ アエラマン ペ アコヨマップ コロ オカアナイネ

**ios wa aynu ne h\_i a=eraman pe a=koyomap kor oka=an ayne**

後から来た人間であることが分る者を私たちはかわいがって暮らしていると

まるって ヘカッターラ カ タネ アエラナク カ ソモ キ ノ ルプネ ワ

**MARUTTE hekattar ka tane a=eranak ka somo ki no rupne wa**

まったく子どもたちのことで困ったりすることもなく、その子たちは大人になって

ネア オッカイポ<sup>o</sup> イカスイ ユク ネ ヤッカ カムイ ネ ヤッカ ロンヌ ワ

**nea okkaypo i=kasuy yuk ne yakka kamuy ne yakka ronnu wa**

その青年が私を助けて鹿でも熊でも獲って

アエピリカコロ コロ オカアン、アイヌヌケ コロ オカアン アイネ

**a=epirkakor kor oka=an, a=i=nunuke kor oka=an ayne**

私たちを大切に暮らし、私たちの面倒をよく見て暮らしていて

タネ ポロスクパン ワ エキムネアン カ エアイカプ シン ネ ヤッカ

**tane porosukup=an wa ekimne=an ka eaykap sir\_ ne yakka**

そしてもう年をとって山へ行くこともできないようになって

「アポホ アマツネポホ」.

**“a=poho a=matnepoho”**

「私の息子、私の娘」

セコロ ハウエアナン コロ アナン ペ ネ ナ

**sekor hawean=an kor an=an pe ne na.**

と私たちは呼んで暮らしているのだよ。

ヘカッタラ ピリカノ エチエヤム オラウン

**hekattar pirkano eci=eyam oraun**

子どもたちよ、お前たちよく気を付けて、

ソモ アンペ オモトネ ヒ アエランペウテク ノ ネイ ワ カ アラキ プ

**somo anpe omotone hi a=erampewtek no ney wa ka arki p**

決して本当の素性がよく分からないどこから来た者、

ヤヨモンモモ カ ソモ キ プ ソモ アレシパ プ ネ ナ。

**yayomommomo ka somo ki p somo a=respa p ne na.**

自分の素性を詳しく話さない者を育てるものではないんだよ。

タプ ネ アン ペ アエヤイスクプカ プ ネ ア クス アエイソイタク ナ

**tap ne an pe a=eyaysukupka p ne a kusu a=eysoytak na**

このようなことを私は思い出して辛く思うので語っておくのだよ、

アポ ウタリ アマツネポ ウタリ ピリカノ ヘカッタラ エヤム ヤン

**a=po utari a=matnepo utari pirkano hekattar eyam yan**

私の息子たち娘たちよ、よく子どもたちは気を付けるのだよ

セコロ シネ ニシパ イソイタク。ふふ。

**sekor sine nispa isoytak. HUUH.**

と一人の長者が語った。

#### 【注】

- [1] 貝澤とうるしのさんは、幾つかの箇所ですぐに」という意味ではなく nani を用いており、この用法は日本語の「何」に近いのではないか。
- [2] rakotesu 「羽スレスレニ」(『久保寺辞典稿』 p. 217)。
- [3] kenasunarpe 「谷地の妖婆」のこと。
- [4] 私の妻に仕事をさせることも、自分が仕事をすることもなく暮らしていた。

### 3-3 ウエペケレ「テックプ ウシ ヘカチ」解説

語り：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：私は一人のアイヌでありました。家内と共に何不自由なく生活をしておったんですけども、たった一つ不自由なのは、子供がなくて、それだけが不自由だ、寂しい。

そしておるときに、あるいつ頃からかよく分からないんだけども、一人の子供が村の中出たり入ったりしておる時に、段々その子が自分のうちへ近づき、そして家内も共に大切に育てておった。

それが、12～3歳、14～5歳となっても何かたまたま仕事なんかも手伝わせるようになって、楽しく生活しておったのに、いつの間にかその子供がヒョイと見えなくなってしまった。17～8になって、ようやくこれから本当にクマ狩りなんかでも一緒に歩けると、楽しんでおったのに、その私アイヌ自身も本当に寂しくって、それ以上に家内の方も寂しがって、共に何日も泣いたりしたんだけども全然行き先も分からない。だからと言って、探すあてもないしそのままにして過ごした。

ある日のこと、ふと山へ行きたくなったので、いつものように弓とか矢とかそうしたものを一抱え背中に背負（しよ）って、一地根越えて、次の方の川へ下りて行った。そしたらずっと向こうの方の台地のような丘のような所を下っていくと、向こうの方に見える木の上にカラスが二羽止まって、何かその木の上から下でいる者へスッと舞い降りると、下でいる何者か知らないけれども、棒か何かで振り回して、そのカラスが逃げるような仕草をしているので、すぐに段々近寄って行って、いったい何がいて、そんな事しておるんだろうと、こっそり立木の陰から忍んで寄って行って見た。

そうすると、見えなくなって、あんなに皆で悲しんでおった子供が、もう大分いい体付きにもなって、それが木の下にいた。

それには大きな、人間……、形も体も人間なのに大きな羽根が付いておると。だからその羽根を見ただけでも、本当に恐ろしい感じもする。異様な感じもする。

それでカラスがこう舞い降りると、そのカラスに向かって何か羽根をパタパタすると、カラスが舞い上がるということが続けておった。

しかし、声を掛けるのも恐ろしいので、だまって立木の陰から見ておると、うちで育てたことのあったあの子供が、であり、そして今では羽根が生えているその子供が何となく恐ろしい姿、恐ろしい顔付きそのまま、ヒュッと立って、普通の鳥の飛ぶように、飛び立ってずっと山を越えて向こうへ行ってしまった。

それを見てから、恐ろしさのあまり、本当に大急ぎで我が家へ帰って、その話なんかをうちでした。その晩の夢に、夢枕にその子供が、元あった時と同じような形で立っても、向こう側へ向いて、私の方へ振り向きもせず、体を向こうへ向けて、言うのには「大切に育てられておった時は、本当に楽しい生活であったのに、何か獵をすと言うんで、山へ行って、そして行くと、そのアイヌ語では *kenas unarpe* と行って、湿地帯に住む悪魔ばあさんと言いましょか。そういうばあさんがおって、『お前はよく来たな。お前はアイヌのところで生活する人間でないだと。生まれながらに化物として生まれたのだから、化物の仲間入りするんだぞ、と。だから決して前の村へ帰ってはいけませんよ』と。そういふうに言われた途端に何か身も心も体も重くなってしまった、と。そういう状態になって、そのままにしていると、ニョキニョキとその羽根も生えてきた。そして、そのままこういう姿になっておったのに、私を大切に育ててくれた *nispa* [長者] が、そうやって私を見たら、本当に今からも帰ることも出来ませんし、私のことはどうぞ忘れて泣かずに生活して下さい。その代わりに遠い村で非常に精神のいい若夫婦がおるから、私の考え方によって、あなたの所へ来て、あなたの息子として生活出来るようにしますから、どうぞあまり泣かずに生活して下さい。」

それを言われたんで、ああそうであったかと、生まれながらにそういういわば化物として生まれたんであれば、仕方がない、と。それを諦めておるところへ、まあ、夢に見た通りに若い二人が来て、そして私の所へ住みつき、子供も生まれ、大切に仲良く生活出来て私も年を取って、所謂もう死ぬに近いんだ、と。

だからこれからの人たちは、その、氏素性の知らないそういう子供が来ても、決して軽はずみに泊めたり、養ったりするという事も恐ろしいものだから、素行の分からない者は、あまり寄せ付けるものでないよ、と言って一人の男が死んだ。

これは *uepeker* [散文説話] でした。

貝澤：aynu uepeker [人間の散文説話]

萱野： aynu uepeker ですね。これは、どういうふうに言ったんだっけ？ kup kor

貝澤： tekkup kor [羽のある]。tekkup us kane [羽の生えた]。tekkup us wa して [羽が生えて] こういう…

萱野： tekkup us hekaci [羽の生えた少年] だな。

貝澤： うん。tekkup us hekaci [羽の生えた少年]。cikap kasuno poro tekkup aynu ne p ora us wa ani hopuni [鳥よりも大きな羽が、人間であったものに生えて、それで飛んで行った] って。

萱野： tekkup, tekkup [羽、羽が]

貝澤： tekkup us [羽が生えた]

萱野： hekaci [少年]



### 3-4 ウエペケレ

#### 「オッココ チャペ アライケ」

#### 化け猫を私は退治した

語り：貝澤とうるしの

イシカラ エムコ ウン ニシパ アネ ヒネ アナン ヒケ

Iskar emko un nispa a=ne hine an=an hike

石狩川の上流に住む長者で私はあって、

ユク ネ チキ カムイ ネ…… インネ コタン オツ タ アナン ワ

yuk ne ciki kamuy ne... inne kotan or\_ ta an=an wa

鹿でも熊でも……大きな村に私は暮らしていて、

ユク ネ チキ カムイ ネ チキ

yuk ne ciki kamuy ne ciki

鹿でも熊でも

アエアウナルラ コロ アナン ペ ネ ルウェ ネ ア プ エネ イヌアン ヒ

a=eawnarura kor an=an pe ne ruwe ne a p ene inu=an hi

獲って暮らしていたのだが、このようなことを耳にした——

「サッポロ セコロ アイェ シサム コタヌン アイヌ サプ コロ

“Sapporo sekora a=ye sisam kotan un aynu sap kor

「札幌と呼ばれる和人の村へアイヌが下って行くと

オラ ホシッパ イサム」

ora hosippa isam”

帰ってこないのだ」

セコロ ハワシ ハウエ アヌ コロ アナン。

sekora hawas hawe a=nu kor an=an.

という話を私は聞きながら私は暮らしていた。

マク ネ ハウエ ネ ヤ カ アエラミシカリ コロ アナン ルウエ ネ アイネ  
**mak ne hawe ne ya ka a=eramiskari kor an=an ruwe ne ayne**

どういふことなのか分からずに過ごしていたあげくに

オアラ イヌアン フミ アオヤモクテ ヒクス オラウン  
**oar inu=an humi a=oyamokte hikusu oraun**

耳にした話をまったく不審なことだと思っていたところ、

ピリカ ピンネ セタ マツネ セタ アコロ ペ ネ ヒクス  
**pirka pinne seta matne seta a=kor pe ne hikusu**

よい雄犬と雌犬を私は飼っていたのだが、

ネ アコロ マツネ セタ ウタラ アトゥラ ヒネ  
**ne a=kor matne seta utar a=tura hine**

その雌犬たちを連れて

ネ サッポロ ウン シネウエアン クナク アイェ コロ サナナクシ  
**ne Sapporo un sinewe=an kunak a=ye kor san=an akus**

その札幌へ訪問に行くように言われ、私は下って行ったところ、

アヘコテ カッケマツ  
**a=hekote katkemat**

私の大事な妻は

「アコタヌ ウン ウタリ エネ ハウエオカ イ  
**“a=kotanu un utari ene haweoka h\_i**

「私たちの村に住む者たちがこのように言い、

マク ネ ハウエ ネ ヤ カ エラミシカリ プ、  
**mak ne hawe ne ya ka a=eramiskari p,**

どういふわけなのかも私は知らないし、

アコン ニシパ、エタラカ オマナニ カ アエポタラ プ エネ ハウエ アニ アン」  
**a=kor\_nispa etarka omanan h\_i ka a=epotara p ene hawean h\_i an”**

あなたがむやみに行くことも私は心配してしまうのだけど、それでも行くと言うの？」

セコロ ハウエアン コロカ

sekor hawean korka

と言ったが、

カムイ ニスクアン アロロキシネ キ イネ イオシ インカラ クニ アイエ

kamuy nisuk=an h\_ine arorkisne ki h\_ine i=osi inkar kuni a=ye

カムイにもこっそりと私の背後を見守ってくれるよう私は頼んで、

オロワノ ヌサ オツ タ カ ヤイエイノンノイタカン

orowano nusa or\_ ta ka yayeynonnoytak=an.

幣棚の所でも自分のことについて祈りを唱えた。

「ネウン ネン ハウエ ネ ヤ カ アエラミシカリ ヤッカ

“neun nen hawe ne ya ka a=eramiskari yakka

「どういう話なのか私はよく解らないのだが、

なに アヘコテ カムイ ネ ヤッカ ヌサ コロ カムイ ネ アッカ

NANI a=hekote kamuy ne yakka nusa kor kamuy ne y\_akka

私の大事にするカムイであれ、幣棚を管理するカムイであれ、

カムイ オピッタ イオシ インカラ ワ アプンノ ホシピ アキ クシ ネ ナ」

kamuy opitta i=osi inkar wa apunno hosipi a=ki kus ne na”

カムイが皆私を見守ってくれて、私は無事に帰るつもりなのですよ」

セコロ アン ペ アイエ。ヤイエイノンノイタカン オラ

sekor an pe a=ye. yayeynonnoytak=an ora

ということを行った。私は自分のことについて祈りを唱えて、

アコロ セタ ウタラ カ アンノイタク。レクチ イナウ アコツパ<sup>[1]</sup> ヒネ

a=kor seta utar ka a=nonnoytak. rekuci inaw a=kotpa hine

私の犬たちについても私は祈りを唱えた。(犬たちの)首にイナウを結んで

アエノ…… アエイノンノイタク ヒネ オラウン サパネトク タ アナクネ

a=eno... a=eynonnoytak hine oraun sap=an etok ta anakne

犬たちについて私は祈りを唱えて、そして下って行く前には

セタ ウタラ コッ イナウ アナク アアヌ ヒネ オラウン サナン。

**seta utar kot inaw anak a=anu hine oraun san=an.**

犬たちが付けているイナウは下に置いて、そして下った。

イカヨブ カ アアセ カネ ヒネ

**ikaop ka a=ase kane hine**

矢筒も私は背負って、

キラナッカ コシネノ キラアン クニ ネ アナニネ サナン ルウェ ネ ア プ

**kira=an y\_akka kosneno kira=an kuni ne an=an h\_inne san=an ruwe ne a p**

逃げる際でも身軽に逃げられるようにして、私は下った。

タネ サナン ルイ アイネ ヒナク タ タネ シットケシ コン

**tane san=an ruy ayne hinak ta tane sittokes kor\_**

さてどんどん下って行くと、どこでだかもう辺りが暗くなり、

ラポッケヘ アコロ セタ ウタラ

**rapokkehe a=kor seta utar**

その間、私の犬たちは

マウトウツトウリ マウトウツトウリ ペコロ イキ パ

**mawtutturi mawtutturi pekor iki pa**

ハッハッハッと息をするようにして、

ネブ カ オヤモクテ ノイネ イキ パ。

**nep ka oyamokte noyne iki pa.**

何かを疑わしく思うそぶりをしていた。

オラノ ピリカ シルワンテアナイネ

**orano pirka siruwante=an ayne**

私はよく辺りを調べて、

イコホサラパ ワ ニウニウセ ニウニウセ カネ ハウェオカ コロ、

**i=kohosarpa wa niwniwse niwniwse kane haweoka kor,**

私の方を向いてクンクンと鳴いているのだけど、

イコホサラパ ワ インカラ パ コロ オラ スイ サピ クス

i=kohosarpa wa inkar pa kor ora suy sap h\_i kusu

私の方を向いて、あたりを見て、下って行き、そしてまた下って行くので

「オシ レイエプカムイ ウタラ ウエク (?) カムイ フチ イエ プヌワ

“os reyepkamuy utar uek(?) kamuy huci ye p nu wa

「後ろから、犬たちのところに来た (?) 火の女神が言うのを (犬たちは) 聞いて

ネプ カ アシトマ プ アン ヤッカ イカン アシマケタ ナ」

nep ka a=sitoma p an yakka ikan a=simaketa na”

何か恐ろしいことがあっても、負けるわけにはいかない」

セコロ アン ペ アイェ コロ サナン ルウエ ネ アクス

sekor an pe a=ye kor san=an ruwe ne akusu

ということを私は言いながら下ったところ、

ニ カ ウン ノッタララ パ ヒネ インカリクス インカラナクス

ni ka un nottarara pa hine inkar h\_ikusu inkar=an akusu

木の上の方へあごを突き出して眺めているので、私も見ると、

ソレクス ポロ セタ パクノ アン ポロ チャペ ニ カ タ アニネ

sorekusu poro seta pakno an poro cape ni ka ta an h\_ine

それこそ大きな犬ほどもある大きな猫が木の上において、

ネ ワ アン ペ エミク パ ハウエ ネ アンヒネ

ne wa an pe emik pa hawe ne an hine

そいつを見て (犬たちは) 吠え続けていて、

ミク パ オロワノ アシコメウエ ハウエ エネアニ:

mik pa orowano a=sikomewe hawe ene an h\_i:

吠え続けて、そして私は挑発してつぎのように言った -

「マク イキ プ ネ ルウエ ネ ヤ、アイヌ レス プ ネ ルウエ ヘ アン?

“mak iki p ne ruwe ne ya, aynu resu p ne ruwe he an?

「どうしたことなのか、アイヌに育てられているのか。

シサム エレス ワ シサム オロ ワ エエク ペ ネ ルウェ アニネ  
 sisam e=resu wa sisam or wa e=ek pe ne ruwe an h\_ine  
 和人がお前を育て、和人の所から来ているのなら、

ネプ カ ウエン プリ ソモ エコロ ペ ネ ア ヤクン ネ ヒ コラチ  
 nep ka wen puri somo e=kor pe ne a yakun ne hi koraci  
 何の悪い振る舞いを持つものでないならばそのように

エラン ヤク ピリカ ピリカ」  
 e=ran yak pirka pirka”  
 お前は降りて来るとよいぞ、よいぞ」

セコロ ハウエアナン コロ シリコロカムイ カ アノンイタク コロ  
 sekor hawean=an kor sirikorkamuy ka a=nonnoytak kor  
 と私は言いながら、樹木のカムイへも私は祈りの言葉を唱えて、

イン…… エサラノンノイタカン コロ アナナクス  
 in... esar'inonnoytak=an kor an=an akusu  
 高い声で祈り言葉を唱えていると、

フムネ アコロ セタ ウタラ ニ トウラシ  
 humne a=kor seta utar ni turasi  
 一方で私の犬たちは木をつたって

ニム クニ ペコロ イキ パ アクソラ  
 nimu kuni pekor iki pa akusu ora  
 登るようにすると

エキマテク ワ ネ シンネ ヤ シリカオシマ  
 ekimatek wa ne sinne ya sirkaosma  
 (猫は) びっくりした様子なのか、地面に落ちて

ニ ペシ ネプ カ オプ シコパヤラ シンネノ カネ イキ イネ ラナクス  
 ni pes nep ka op sikopayar sinneno kane iki h\_ine ran akusu  
 木を伝って何かが檜のような様で落ちて来ると

ウコプクプク ヒネ ライケ パ ルウエ ネ。

ukopukpuku hine rayke pa ruwe ne.

(犬たちは) よってたかって (猫を) 殺してしまった。

オロワノ エアラキンネ アロハイシトマアン ルウエ ネ ア プ オラ

orowano earkinne arohaysitoma=an ruwe ne a p ora

そうして本当に私は恐ろしく思っていたのだが、

コント ネアン…… ネ ワ アン ペ アトウシコテ イネ アニン……

kontone an... ne wa an pe a=tuskote h\_ine a=nin...

そしてそのものに私は縄を付けて、

アニンパ ヒネ ソレクス アコロ セタ ウタラ サパハ カ クパクパ パ コロカ

a=ninpa hine sorekusu a=kor seta utar sapaha ka kupakupa pa korka

引きずって、私の犬たちはその頭も何度も噛んだが、

ライ ニサプ ネ クス アコイキ パ ヒネ

ray nisap ne kusu a=koyki pa hine

(猫は) 死んですぐだったので、私はなんども打ちつけて (?)

オラウン トノ オルン アセ ワ エネ ハワシ アヌ ルスイ クス

oraun tonon or un a=se wa ene hawas h\_i a=nu rusuy kusu

そして和人の殿様のところに運んで行って、そのようになった話を私は聞きたいので、

トウサコテ ヒネ アニンパニンパ ヒネ サナン ルウエ ネ。 ネ……

tus a=kote hine a=ninpaninpa hine san=an ruwe ne. ne...

私はそいつに縄を付けて引きずって、

タネ エピシネ シランケ セタ ミカウオカ シサム ハウオカ アヌ パクノ

tane episne sir h\_anke seta mik h\_awoka sisam hawoka a=nu pakno

浜に近くなったようで、犬の吠え声、和人の声が聞こえる所まで

サナン。ホマンノ ネ ヤッカ アイヌ ハウ アヌ コロ サナン ア プ

san=an. homanno ne yakka aynu haw a=nu kor san=an a p

下って行った。かすかにではあるがアイヌの声が聞こえて下って行ったのだが、

ソモ カ エネ シラン クナク アラム ア ヒ  
**somo ka ene siran kunak a=ramu a hi**  
 そのようなこととも私は思っていなかったのだが、

ポロ ワ オケレ ヤイニ サمامニ ホクシ ワ アン。  
**poro wa okere yayni samamni hokus wa an.**  
 とても大きなドロの木の倒木が横たわっている。

チョロポツケ エチャクラシ ネ プ チョロポツケへ  
**corpokke ecakuras ne p corpokkehe**  
 その下に枝のままになっているところの下で

メノコ オツ タ オツカヨ オツ タ アライケ ワ  
**menoko or\_ ta okkayo or\_ ta a=rayke wa**  
 女も男も殺されて

アケプケピ° ポネヘ ライ ルピヒ アン ルウエ ネ。  
**a=kepkepi ponehe ray rupihi an ruwe ne.**  
 かじられた骨のものすごい山があった。

「ソンノ イネクスン エクシナ イサム マ ホシッパ イサム  
**“sonno inekusun ekusna isam w\_a hosippa isam**  
 「本当になるほど行き着くこともなく帰ることもない

セコロ ハワシ ペ ネ ハウエ エネ シラニアン」  
**sekor hawas pe ne hawe ene siran h\_i an”**  
 と言われていたのはこのようなことだったのか」

セコロ アン ペ アイェ イノンノイタカン カ キ オラウン  
**sekor an pe a=ye inonnoytak=an ka ki oraun**  
 ということを私は言い、祈りを唱えもしてそうして、

「ライ カムイ ウタラ アイヌ ライ ラマチヒ ネ アッカ  
**“ray kamuy utar aynu ray ramacihi ne y\_akka**  
 「死霊、人間の死んだ魂であっても、



イセレマクシ ヤクネ シサム オツ タ トノ オツ タ サナン ワ  
 i=sermakus yakne sisam or\_ ta tono or\_ ta san=an wa  
 私の背後を守るなら、和人の所、殿様の所へ私は下って

エネ ネ ヒ トウ モトオロケ レ モトオロケ アヌ クシ ネ ナ」  
 ene ne hi tu motoorke re motoorke a=nu kus ne na”  
 このように、二つの素性、三つの素性を私は聞きましょうよ」

セコロ ハウエアナン コロ サナン。  
 sekor hawean=an kor san=an.  
 と私は言いながら下って行った。

タンパク パク テク (?) アコロ ペ ネ クス タンパク アチャラパ コロ  
 tanpaku pak tek(?) a=kor pe ne kusu tanpaku a=carpa kor  
 煙草を少しばかり (?) 私は持っていたものだから、煙草を私は辺りに撒きながら

サナニネ ネ ワ アン ヘマンタ アニンパニンパ ポロ プ ネ クス  
 san=an h\_inine ne wa an hemanta a=ninpaninpa poro p ne kusu  
 下り、今言ったその化け物を私は引きずり、大きいものだから

トウサコテ ワ アニンパニンパ コロ セタ ウタツ トウラノ キ ヒネ  
 tus a=kote wa a=ninpaninpa a=kor seta utar\_ turano ki hine  
 私は綱を結び付けてずるずる引きずって、犬たちと一緒にそれをして、

ネ サッポロ タ マチヤ オツ タ サパン ルウエ ネ。  
 ne Sapporo ta maciya or\_ ta sap=an ruwe ne.  
 札幌へ、大きい町へ私は下って行った。

ウセクツ チセ オルン エアフン ヤッカ タシ ウエン ネク  
 usekur\_ cise or un e=ahun yakka tasi wen nek  
 普通の人の家へお前が入るときとよくないぞ

セコロ ヤイヌアン ペ ネ クス  
 sekor yaynu=an pe ne kusu  
 と私は考えたものだから

カムイ トノ ウニヒ ネ ヤカイエ ペ ウン

**kamuy tono unihi ne yak a=ye pe un**

和人の殿様の家と呼ばれている所の

アパ ソイナ タ アラパアン ルウエ ネ アクス

**apa soyna ta arpa=an ruwe ne akusu**

玄関に私は行ったところ、

アシンカラ ウタラ エカニ イエ ワ ネ ノイネ チャシキ オロ ワ

**asinkar utar ek=an h\_i ye wa ne noyne casiki or wa**

足軽たちが、私が来たことを言ったようで、座敷の方から

トゥ タムカオツテ<sup>㊦</sup> カネ アン カムイ トノ

**tu tam ukaotte kane an kamuy tono**

二本の大小を腰に挿した和人の殿様が

エク シリ イキ アクス オラウン

**ek siri iki akusu oraun**

来る様子がしたところ、

「アイヌ オツテナ アフンテ ヤン アフンテ ヤン。ケマハ カ フライエ

“aynu ottena ahunte yan ahunte yan. kemaha ka huraye

「アイヌのオツテナを入れなさい、入れなさい。足も洗って

フナコロ ヘ タ フナコロ ヘ タ フライエ ワ アフンテ ヤン」

**hunakor he ta hunakor he ta huraye wa ahunte yan”**

あっちもこっちもあらって入れなさい」

セコロ ネ ワ ネ ヤカイエ コロ

**sekor ne wa ne yak a=ye kor**

と私は言われて、

ネア アニンパニンパ プ

**nea a=ninpaninpa p**

その私が引きずってきたものは、

ルトムンキ ヘ たか<sup>[3]</sup> にわ オツ タ アアヌ ヒネ オラウン  
 rutomunki he TAKA NIWA or\_ ta a=anu hine oraun  
 入口の土間……でなくて、庭に置いて、

オリパカン ノ レイエレイエアニネ ヘメスアン ルウエ ネ アクス  
 oripak=an no reyerereye=an h\_ine hemesu=an ruwe ne akusu  
 私は畏まって、そちらへ這って行って、(座敷へと)上がったところ、

「イテキ レイエ ノ カ ヘメス。

“iteki reye no ka hemesu.

「這いずったりしないで上がれ。

マク イキ クス サン ペ エネ ルウエ ネ ヒネ  
 mak iki kusu san pe e=ne ruwe ne hine  
 どうしてここまで下りて来て、

エネ アン ペ エニンパ ワ エエク ルウエ アニ アン？」  
 ene an pe e=ninpa wa e=ek ruwe an h\_i an?”  
 こんなものをあなたが引きずって来ることになったのか？」

セコロ ネア カムイ トノ ア ウシケ タ ア イネ イコウエペケンヌ ヒクス  
 sekor nea kamuy tonon a uske ta a h\_ine i=kouepekennu hikusu  
 とその和人の殿様が自分の座へすわり、私に質問するので、

イタカナウエ エネ ハウエアニ  
 itak=an h\_awe ene hawean h\_i  
 私が語った話はこのようであった。

「トウム アン ケウトウム<sup>[4]</sup> アコロ ワ サナン ルウエ カ ソモ ネ。ソレクス  
 “tumu an kewtum a=kor wa san=an ruwe ka somo ne. sorekusu  
 「私は間違った気持ちで下りてきたのではありません。

アコロ イシカラ エムコホ イエンコロケ ワ カ イパナケ ワ カ  
 a=kor Iskar emkoho wa i=enkorke wa ka i=panake wa ka  
 私の治める石狩川上流から、私より川上の方からも川下の方からも

タン サッポロ ウン イラウケトゥパ クス サプ オッカヨ ウタラ  
tan Sapporo un irawketupa kusu sap okkayo utar

この札幌へ仕事をしに下って行った男たちが

メノコ トウラ イケ トウラ ワ サプ コロ オラ ホシッパ イサム  
menoko tura h\_ike tura wa sap kor ora hosippa isam

女を伴に連れる者は連れて下りて行き、そして戻ってこない

セコロ ハワシ ワ アコタヌ ワ アナク ナ ソモ エネ ネ イクシ  
sekor hawas wa a=kotanu wa anak na somo ene ne h\_ikus

という話があり、私の村からはまだそのようなことはなかったのだ

ネウネネ ハウエアニ カ アエランペウテク コロカ サナン ワ  
neun ene hawean h\_i ka a=erampewtek korka san=an wa

どうい話なのだか分からなかったのだが、私は下りて来て、

エコロ マチ オロ パク サナン ワ インカラン ルスイ ヒクス  
e=kor maci oro pak san=an wa inkar=an rusuy hikusu

あなたの治める町まで下りて来て、様子を見たかったので

サナン ルウェ ネ アワ  
san=an ruwe ne awa

下りて来たのだが

ヒナク ワ エク チャペ ヘ アレス プ ネ ア ノイネ アラム ポラウネネ  
hinak wa ek cape he a=resu p ne a noyne a=ramu p oraun ene

どこから来た猫だか育てられたものであったように私は思ったが、

アイヌ ライケ ワ サمامニ チョロポク エシクテ ワ アン ルウェ ネ ワ  
aynu rayke wa samamni corpok esikte wa an ruwe ne wa

そのようにアイヌを殺して倒木の下を一杯にしている、

ソレクス ヤニ ヤニ セタ アサク ペ ネ ヤクン  
sorekusu yani yani seta a=sak pe ne yakun

それこそ危なく私の犬を連れていかなかったら

アシヌマ カ アイライケ ノイネ シリ イキ

asinuma ka a=i=rayke noyne siri iki p

私も殺されそうなものだったが、

アコロ セタ ウタラ ピンネ セタ ポヘネ ニウエン ペ ネ クス

a=kor seta utar pinne seta pohene niwen pe ne kusu

私の犬たちは雄犬がいつそう獐猛なものだから

コテレケ アンキ イキ ヘネ コニム アンキ イキ アクス

koterke anki iki hene konimu anki iki akusu

今にもとびかかりそうに、今にも木を登りそうにしたところ、

エキマテク クス テレケ クシケライ

ekimatek kusu terke kuskeray

(猫が) びっくりして跳んでしまったことで、

アコロ セタ ウタン ロンヌ ルウエ ネ ヒネ

a=kor seta utar\_ ronnu ruwe ne hine

私の犬たちが殺してしまって、

オラ ネ チクニ オロ ワ ポンノ アラキアン テク コロ サパン テク コロ

ora ne cikuni oro wa ponno arki=an tek kor sap=an tek kor

その木の所から少し私は下りて来ると、

ソレクス エチャクラシ ヤイニ ポロ シコタンコンニ ホラク ワ アン。

sorekusu ecakurasi yayni poro sikotankonni horak wa an.

それこそ、枝のままでドロの木の太い樹木が倒れていた。

チョロポッケヘ アイヌ ライチェプ アエシクテ

corpokkehe aynu raycep a=esikte

その下にアイヌの死体で一杯になり、

アエ ルウエ ヘ ネ ヤ ネウン ネ ルウエ ネ ヤ

a=e ruwe he ne ya neun ne ruwe ne ya

食べられたのかどうなったのか、

アイヌ ライチェプ アエシクテ ワ オカ ルウェ ネ ワ

aynu raycep a=esikte wa oka ruwe ne wa

アイヌの死体で一杯になっているので、

ネ ワ アン ペ イレンカハ アイェ クス サナン ルウェ ネ」

ne wa an pe irenkaha a=ye kusu san=an ruwe ne”

そのことの申し立てを言いに私は下ってきたのです」

セコロ ハウエアナン アクス

sekor hawean=an akusu

と私が言うと、

ソレクス ワ エシリカウン インカラ<sup>[4]</sup> ハウエ エネ ハウエ アニ

sorekusu wa esirkaun inkar hawe ene hawe an h\_i

(和人の殿は) 深く俯いたままで次のように言った

「アシヌマ カ アラウエ ワ アレス プ カ ソモ ネ。

“asinuma ka a=rawe wa a=resu p ka somo ne.

「私も望んで育てたものではないのです。

なに シサム コタン ワ アイヌ モシリ ウン ヤウン モシルン

NANI sisam kotan wa aynu mosiri un yaun mosir un

和人の村からアイヌの国へこの島の国へ

ヤパン チパニ キ ヒ タ

yap=an cip ani ki hi ta

私が舟で上陸したとき、

ポロ チャペ アレス オッカヨ チャペ アレス プ ネ ア プ

poro cape a=resu okkayo cape a=resu p ne a p

(和人の村で) 大きなネコを私は育て、雄の猫を私は育てていたのだが、

ヒナク ウン アラパ ヒネ イサミネ

hinak un arpa hine isam h\_in

どこへ行ったのかいなくなってしまう、

アホッパ ノ チポアニネ ヤパン ペ ネ ルウエ ネ ア プ…… ペ ネ ア プ  
**a=hoppa no cipo=an h\_in e yap=an pe ne ruwe ne a p... pe ne a p**  
 私は置いて舟に乗り、上陸したのです。(するとあるとき)

『ネプ カ チプ オワ ヘ ネ ヤ ネウン ネ ワ ネ ヤ  
**'nep ka cip o wa he ne ya neun ne wa ne ya**  
 『どの舟に乗っていたのか、どうしたのか、

ネア アレス チャペ アキリ ワ アヌカラ』  
**nea a=resu cape a=kir wa a=nukar'**  
 その私が育てた猫が見つかった』

セコロ アシンカラ ウタラ ハウエオカ ルウエ ネ コロカ  
**sekor asinkar utar haweoka ruwe ne korka**  
 と足軽たちが言っていたのだが

ネプ カ ウエン プリ コロ ソモ キ ノ ネイ タ カ  
**nep ka wen puri kor somo ki no ney ta ka**  
 何の悪い振る舞いをすることもなく、どこかで

ネプ カ コホイヨケレ イネ アン (?) ルウエ ネ クナク アラム アワ  
**nep ka kohoyyokere h\_in e an(?) ruwe ne kunak a=ramu awa**  
 何かXXX (?) だろうと私は思っていたのだが、

タプ タ ハワシ マカナクン アイエ ハウエ?  
**tap ta hawas makanak un a=ye hawe?**  
 そうしたことだとすると、どのような言い訳ができるか?

アイヌ ニシパ アイヌ オッテナ イコチャランケ ハウエ ネ ヤクン  
**aynu nispa aynu ottena i=kocaranke hawe ne yakun**  
 アイヌの旦那様が私に談判をするのならば、

エネ アイエ ヒ カ イサム ハウエ ネ クス  
**ene a=ye hi ka isam hawe ne kusu**  
 私がどう言うこともできないので、

なに アイアシンケレ ヤカイエ ヤクン

**NANI a=i=asinkere yak a=ye yakun**

私が償いの品を出すようにと言われるならば、

パカコロ ペ アアシンケ ヤッカ

**pak a=kor pe a=asinke yakka**

私が持っている物ばかりは償い品として出す。だから

イテキ アイライケ ノ チャシ ポクン アイランケ ヤクン

**iteki a=i=rayke no casi pok un a=i=ranke yakun**

どうか殺さないでくれ。城下へ下らされるのなら、

ラニアッカ ピリカ」

**ran=an y\_akka pirka”**

下るということで構わない」

セコロ ハウエアン。

**sekor hawean.**

と言った。

エアラキンネ オラ なに ヤイカオマレ レス プ ネ ヒ イェ プ ネ クス

**earkinne ora NANI yaykaomare resu p ne hi ye p ne kusu**

ほんとうに白状して、育てたものであったことを言ったので、

コント エネ イタカニ

**konto ene itak=an h\_i**

このように私は言った。

「アライケ セコレネ ハウエアナニ カ ソモ ネ ヤッカ ネ……

**“a=rayke sekor ene hawean=an h\_i ka somo ne yakka ne…**

「殺すと言うこともないのだけれど、

イワン オッカヨ パク トウ メノコ パク アライケ ヒネ

**iwan okkayo pak tu menoko pak a=rayke hine**

六人ほどの男、二人ほどの女が、殺されて



ハウエ アヌ ワ アナン ペ ネ クシ

**hawe a=nu wa an=an pe ne kus**

そういう話を私は聞いていたので、

ネ ヒ モトホ モト アイェ ヒネ オラ エネ ハウエアナニ

**ne hi motoho moto a=ye hine ora ene hawean=an h\_i**

その大元の原因を言われて、それでは私はこのように言います。

ネロク ライ パ プ ウタリヒ

**nerok ray pa p utarihi**

その死んだ同族の者たちに、

アエレ クニ プ アミレ クニ プ サンケ ヤクン

**a=ere kuni p a=mire kuni p sanke yakun**

食べさせる物や着せる物を出してくれば、

ソモ チャシ ポク オラン ヤッカ ピリカ ルウエ ネ」

**somo casi pok oran yakka pirka ruwe ne'**

城下へ下らなくてもよい」

クス アイェ プ ヌ ワ エエパッケ タ

**kusu a=ye p nu wa eepakke ta**

ということを私が言うのを（和人の殿様は）聞いて、次に（私は）

「ニシパ ネ ウタリヒ カ アプンノ オカイ キ ルスイ チキ

**"nispa ne utarihi ka apunno okay ki rusuy ciki**

「あなたもその一族も無事でいてほしいなら

ライ ロク ウタラ ライ ラマチヒ ハルコレ したり

**ray rok utar ray ramacihi harukore SITARI**

死んだ者たちの死んだ魂に食べ物や捧げたり

オヤオヤブ アコチャラパ クニ プ サンケ

**oyaoyap a=kocarpa kuni p sanke**

あれこれの物、供養のために撒くべきものを出し

イチェン ネ ヤッカ サケ ネ ヤッカ ネプ ネ ヤッカ サンケ ワ  
**icen ne yakka sake ne yakka aep ne yakka sanke wa**  
 お金であれ、酒であれ、食べ物であれ、出なさい。

ネロク ウタラ ウタリ ヘム アタシケタロ クニ ネ イキ ヤカナクネ  
**nerok utar utari hem a=tasketaro kuni ne iki yak anakne**  
 その（死んだ）者たちの一族を助けようと、そのようにするならば、

ピリカ ハウエ ネ」  
**pirka hawe ne”**  
 （城下に下らずとも）構わない」

セコロ ハウエアナナクス ソレクス サパハ シリカ タ アヌ アヌ カネ  
**sekor hawean=an akusu sorekusu sapaha sirka ta anu anu kane**  
 と私が言うと、（和人の殿様は）頭を地にこすりつけて、

トゥ ノイワイ スイ レ ノイワイ スイ イコヘポキ ア イコヘポキ ア  
**tu noiwan\_ suy re noiwan\_ suy i=kohepoki a i=kohepoki a**  
 何回も何回も、私に頭を下げ、頭を下げして

エアラキンネ ヌペ トウラ ヤイライケ イ イェ ルウエ ネ。  
**earkinne nupe tura yairayke h\_i ye ruwe ne.**  
 涙を流しながら感謝すると言った。

エムコネ オラ アシヌマ カ アエサンペウエン ノ イキ ルウエ ネ オラ  
**emkone ora asinuma ka a=esampewen no iki ruwe ne ora**  
 反面では私もそれで気分が悪くて、そのようにしたことで（？）、

ピリカ レウシ アキ ヒネ オラ  
**pirka rewsa a=ki hine ora**  
 私はぐっすりと泊まって、

コント ネ ア プ アナクネ アエコシ パ ヒ アイェ プ ネ クス  
**konto ne a p anakne a=ekosi pa hi a=ye p ne kusu**  
 件のことは殿様に任せるということを私が言ったので、

ヒナクン アシンカラ ウタラ

**hinak un asinkar utar**

どこへだか足軽たちに

ウサ チェプ ハル ウサ オヤオヤプ トウラノ ニンパレ パ イネ

**usa cep haru usa oyaoyap turano ninpare pa h\_ine**

様々な魚の食糧を他の様々な物とともに引っ張らせて

アイワクテ シリ ネ ノイネ シリキ ルウェ ネ アクス オラウン

**a=iwakte siri ne noyne siriki ruwe ne akusu oraun**

とむらう様子であるので、

ピリカ レウシ アクス…… アキ ルウェ ネ アクス コント

**pirka rewsu akusu... a=ki ruwe ne akusu konto**

私はぐっすりと泊まったところ

アシンカラ ウタラ エウン エネ ハウエアニ

**asinkar utar eun ene hawean h\_i**

(和人の殿様は) 足軽たちへこのように言った。

「ニシパ ウタラ エウン タン ニシパ オロ パクノ

**“nispa utar eun tan nispa oro pakno**

「旦那たちの家へ、この旦那のところまで

アミプ ネ ヤッカ アエプ ネ ヤッカ トノト ネ アッカ

**amip ne yakka aep ne yakka tonoto ne y\_akka**

着物であれ、食べ物であれ、酒であれ、

エチセ ワ ニシパ エチルラ オロワ

**eci=se wa nispa eci=rura orowa**

お前たちは背負って、旦那さんもお前たちが運んで、

ネ アイヌ アライケ ウシケ タ シンナトイネ イチャラパアン クニ

**ne aynu a=rayke uske ta sinnatoyne icarpa=an kuni**

そのアイヌたちが殺された場所で特別に供養のために物を撒くように

タン ニシパ エウン アイェ プ ネ クス

**tan nispa eun a=ye p ne kusu**

この旦那さんへ言われたものであるので

イチャラパ コロ パイエ ナンコン ルウエ ネ クス

**icarpa kor paye nankor\_ ruwe ne kusu**

撒きながら進んでいくことになっているので

アイェ プ エチヌ ワ エチイチャラパ ワ エチイコレ

**a=ye p eci=nu wa eci=icarpa wa eci=i=kore**

私が言うことをお前たちは聞いて、お前たちは物を撒いてくれ、

エチシケ ワ エチイコレ ヤク ピリカ」

**eci=sike wa eci=i=kore yak pirka”**

お前たちは荷を運んでくれ」

セコロ ハウエオカ アクス

**sekor haweoka akusu**

と言うと、

アシンカラ ウトウ…… パイエアン ハウエ エネ ネ

**asinkar utu... paye=an hawe ene ne**

私達が進んでいく声がして、

「マカン ネ ヤ アコツ トノ イェ プ アハイタハウエ？」

**“mak an ne ya a=kor\_ tonno ye p a=hayta hawe?”**

「どうして我々の殿様が言うことに背くことができよう？」

セコロ ハウエオカ コロ シケ パ ヒネ イトウラ パ オラ

**sekor haweoka kor sike pa hine i=tura pa ora**

と言いながら荷物を背負い私に付いてきたが、

ウサ タンパク ウサ アمام オロ…… ネ ライ ワ オカ ピチウポネ オルン

**usa tanpaku usa amam oro... ne ray wa oka picwipone or un**

煙草やら、穀物のやら、その死んでいる白骨へ

アチャラパ クニ プ カ サケ カ アイコレ プ ネ クス  
**a=carpa kuni p ka sake ka a=i=kore p ne kusu**  
 ばらまくものも、酒も、私へ与えられたので、

ネ サマムニ チョロポクン アチャラパ アクタ コロ  
**ne samamni corpok un a=carpa a=kuta kor**  
 その倒木の下へ私は撒き、注ぎかけながら

イタカナウエ エネ アニ。  
**itak=an h\_awe ene an h\_i.**  
 次のように言った。

「アイヌ ラマツ ピリカ ヒケ アナクネ  
**“aynu ramat pirka hike anakne**  
 「人の魂が美しいものは、

イコイトウパ イペ ルスイ コロ オカ ナンコラッカ  
**ikoytupa ipe rusuy kor oka nankor y\_akka**  
 物を欲しがり、食べたいと思っているならば

トノ オロ ワ ハル アコレ。  
**tono oro wa haru a=kore.**  
 殿様からの食糧をやるぞ。

カシカムイエ ウエン チャペ アラウエン チャペ アラウエン カムイ オロ ワ  
**kaskamuye wen cape arwen cape arwen kamuy or wa**  
 憑神の悪い猫、非道の猫、とても悪いカムイにより

アロンヌ パ エネ アン ペ  
**a=ronnu pa ene an pe**  
 殺されてこのようになったが、

パハウエ アヌ クシケライ トウ モトオロケ レ モトオロケ アエラムアン ワ  
**pahawe a=nu kuskeray tu motoorke re motoorke a=eramuan wa**  
 そのうわさを聞いたことで、二つの起源、三つの起源を私は分かり、

タップ タップ アシンペウカン ワ エカン シリ ネ ナ。

**tap tap asinpeuk=an wa ek=an siri ne na.**

これこのように償いの品をもって私は来ているのだよ。

カムイ オッ タ ピリカ ウエウタンネ キ ワ

**kamuy or\_ ta pirka ueutanne ki wa**

カムイの世界でよく互いに同族になり

イテキイ イペ ルスイ イテキイ イミ ルスイ ノ オカ アク ピリカ」

**iteki ipe rusuy iteki imi rusuy no oka y\_ak pirka”**

食事をしたがることも着物を欲しくなることもなくいられるように」

セコロ ハウエアナン。

**sekor hawean=an.**

と私は言った。

ネ ワ オカ シサム ウタン ルプネ シケ キ プ イテレ ワ オカ オラ

**ne wa oka sisam utar\_ rupne sike ki p i=tere wa oka ora**

その和人たちは大きな荷物を持って私を待っていて、

アコロ セタ ウタラ カ ピリカ アイペレ コロ アトゥラ ヒネ アラキアニネ

**a=kor seta utar ka pirka a=ipere kor a=tura hine arki=an h\_ine**

私の犬たちへもよく食事をさせて、連れて戻って来て、

アウニ タ アラキアン。オラウン

**a=uni ta arki=an. oraun**

私の家へと戻って来た。

「ネ ロク オッカイポ ウタラ、アレウシレ パ ヒネ レウシ パ ヒネ オラ

**“ne rok okkaypo utar, a=rewsire pa hine rewsu pa hine ora**

「青年たちよ。私は泊まらせるので泊まって、そうしてから

ヤイトウパレ ノ サプ ヤク ピリカ」

**yaytupare no sap yak pirka”**

気を付けて山を下りなさい」

セコロ ハウエアナン コロ

sekor hawean=an kor

と私は言って、

アコオンカミ ア アコオンカミ ア パ ワ

a=koonkami a a=koonkami a pa wa

私は何度も礼拝をして、

エアラキンネ ヤイライケ イ イェ パ コロ サプ ルウェ ネ オカケ タ

earkinne yairayke h\_i ye pa kor sap ruwe ne okake ta

(彼らも) ととても感謝していると言って、下って行って、その後に

コント ペナケ タ ハンケノ アン コタン ネ プ ネ クス

konto penake ta hankenno an kotan ne p ne kusu

川上に近くにある村なもので、

エウン シノオ カ アラパアン カ エラミシカリ プ ネ ア コロカ

eun sinoo ka arpa=an ka eramiskari p ne a korka

そちらへは、実際には行くこともなかったのだが

アラパアナクス

arpa=an akusu

私は行くと

コタン コロ クル キヤンネポホ コタン ホントム タ シネ ポ コロ クル

kotan kor kur kiyannepoho kotan hontom ta sine po kor kur

村長の上の息子と、村のまん中に一人息子を持っている人、そして、

コタン パ タ トウ ポ コロ クル キヤンネ ヒケヘ ウポコロ ワ サプ ペ

kotan pa ta tu po kor kur kiyanne hikehe upokor wa sap pe

村の上手に二人息子を持っている者の長男が親子で下りて来て、

イワン オッカヨ トウ メノコ アライケ ヒネ ヤカイエ ヒネ コント

iwan okkayo tu menoko a=rayke hine yak a=ye hine konto

六人の男と二人の女を殺されたと言われたので

「ネア ウタリ イサム ウタリ アロンヌ ウシケ ピシノ

“nea utari isam utari a=ronnu uske pis no

「その一族が亡くなり、殺された場所ごとに

ハル ネ ヤッカ アミプ ネ ヤッカ ウサ サケ ネ ヤッカ

haru ne yakka amip ne yakka usa sake ne yakka

食糧であれ、着物であれ、いろいろと酒であれ、

ウサ ポンタラ ネ ヤッカ タプネ イキアン ワ エカン ナ」

usa pon tara ne yakka tapne iki=an wa ek=an na”

小さな俵であれ、このように（供養）して私は来たのですよ」

セコロ ハウエアナン コロ アコララ アクス エアシラナ ソレクス

sekor hawean=an kor a=korar akusu easirana sorekusu

と私は言って、それらをあげたところ、それこそ

ウコパラパラク コロ ヨロコンタロ プ オラウン

ukoparaparak kor yorokontaro p oraun

彼らは声を上げて泣いて喜んだのだが、そして

イチャラパ パ したり エネ…… ネウン ネン

icarpa pa SITARI ene... neun nen

（先祖供養で）食べ物を蒔いたり、いろいろと

アイオロツ ワ イチャラパアン オラ

a=iorot wa icarpa=an ora

私も仲間に入って食べ物を蒔き

ネ ワ アン ペ アエトクイエコロ ワ イシカラ エムコ ワ

ne wa an pe a=i=etokuyekor wa Iskar emko wa

それで私は親しくなり、石狩川の上流から

エアラキンネ アイピリカコロ カムイライケパアン コロ

earkinne a=i=pirkakor kamuyraykepa=an kor

とても大切にされ、私達は熊をたくさん獲っては



セ ワ サプ したり ネウン ネン アイヌカンヌカラ クス  
**se wa sap SITARI neun nen a=i=nukannukar kusu**  
 彼らが背負って下りてきたりして、いろいろと面倒を見てもらい、

アコロ トゥ セタ アン クシケライポ  
**a=kor tu seta an kuskeraypo**  
 私の二匹の犬がいてくれたおかげで

イシカラ エムコホ ワ サプ ワ チャペ オロ ワ アロンヌ アイヌ  
**Iskar emkoho wa sap wa cape or wa a=ronnu aynu**  
 石狩川の上流から下りて来て、猫によって殺された人間の

トゥ モトオロケ レ モトオロケ アエラムアン ワ オラノ コント アナクネ  
**tu motoorke re motoorke a=eramuan wa orano konto anakne**  
 二つの素性、三つの素性を私は見て取って、そして今度は

ネア トノ カ ネロク ウタリ イサム パ プ イクラ したり  
**nea tono ka nerok utari isam pa p ikra SITARI**  
 その殿様もその同族を亡くした人たちに物を送ってくれたり、

ネウン ネン ネ コロ オカアン アイネ  
**neun nen ne kor oka=an ayne**  
 どうにかして私たちは暮らしていて、

アコオンネ ペネ クス  
**a=koonne pe ne kusu**  
 そうして私は年老いたものだから

ソモ オカイ ペ カシカムイエ アオヤモクテ チャペ アナクネ  
**somo okay pe kaskamuye a=oyamokte cape anakne**  
 あろうことか憑神が変だと思ふような猫は

イテキ アレシパ プ ネ ナ  
**iteki a=respa p ne na**  
 育てるものではないよ

セコロ シノ ニシパ イソイタク。

sekor sino nispa isoytak.

と本当の長者が語った。

【注】

- [1] kote (kotpa) 「(vt) 結びつける、つける」(『久保寺辞典稿』 p. 142)
- [2] tu tam ukaotte 「二本の大小を腰に挿す」(『久保寺辞典稿』 p. 285)
- [3] 「たか」は言い間違えたと思った時に、よく使われる日本語。
- [4] tumu an kewtum 「[雅] 思い違い、まちがった気持ち、憤慨」(『沙流方言辞典』 p. 735)
- [5] eshirka un inkar 「俯く」(『久保寺辞典稿』 p. 68)

## 3-5 ウエペケレ「オコッコ チャペ アライケ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：これは *okokko cape a=rayke* [化け物猫を退治した]

貝澤：*okokko cape* [化け物猫]、そうよ。

萱野：だな。*okkoko cape a=rayke* [化け物猫を退治した]

貝澤：*okokko cape, kim un cape* [化け物猫、山の猫]。

萱野：私は石狩の浜近くで住む一人のアイヌでした。私たちの村近くでは、何一つ不自由なく村も平和に暮らしておったのです。

けれども、アイヌ語では *hemtomaniwano* [この頃] と言って出ていますが、この頃札幌の方へ行くアイヌたちがどうしたのか、札幌へ行くと行って出て行っても、札幌へ到着したのも聞かないし、まだ札幌の方から石狩の方へ来ると言っても、それがこちらへ到着しない、と。そういうことを聞いてその途中で何かその恐ろしい事がきっと起きているのではないか、と。そんなふう考えたので、一度調べに行かなくちゃ、と。それを考えておった。

どうしてもまだ……この頃も「そうであった」というふうに聞いたので、ある日のことひそかに *kamuy nisuk* [神に頼む] をして、神様を作って、これから札幌の方へ行く、と。途中で何か恐ろしい事があるのかも知れませんが、どうぞ守って下さるように、と、神様にそんな事をお願いしたり、犬も、いい犬を二頭持っておった、と。その犬たちにも *inaw* [イナウ、木幣] を作って、首に巻いてやり、これから札幌の方へ行く

と。しかし、途中何か恐ろしい化物がきつとおるはずだから、よく注意して、主人である私を守るように、と言い聞かせて、神様、それぞれたくさんのお願いをし、犬にも *inaw* をやって、ある朝早く出発をした。

そして、札幌の方に向いて出かけたら、もう村も近くなったらしく、犬の吠え声とか、あるいはなんとなく人里近い感じしておる所へ来ると、

自分より先に歩いておった犬が、何かこの場合アイヌ語で **maw tutturi** という表現を使っていますが、

貝澤：何か臭いすることだな。

萱野：その何かの別の臭いを嗅いだらしく、犬が立ち止まって、鼻をヒクヒクさせながら、その辺り臭いを嗅んでおった。ちょっと進んでは止まり、ちょっと行っては座るといふような仕草を繰り返しながら、進んで行くと、何かしら前の方へ大きな木の上へ黒いものが見えた。そこへさして犬は一斉に走り出した。よく近寄って見ると、それは大きな犬ぐらいもある大きな猫であった。

その猫を見つけて、犬たちは吠え立てていると、すると猫の方も上から逆襲して降りようとしたんだけど、そうこうしておるうちに、犬にその猫が引きずり降ろされるようにして、降りてきた。そして、二匹の犬に噛み殺された。まあ、その間にはいろいろこう喧嘩とか格闘とかしながら、その猫を犬二匹で噛み殺してしまった。よくまあ考えてみると、確かにこの猫は持ち主があるんじゃないか、と。だから、その持ち主の所へ行って、**caranke**〔談判〕付けてあれしなくちゃと思ひ、そしてその化け猫というか、山猫に縄を付けて引きずるようにして、札幌の村さして歩き出した。

そうすると、ちょっとその立木から向こうへ行くと大きなドロノキの風倒木があった。その下には、人間の骨、いわゆる猫に食い殺され、そして肉のところは食われて、骨ばかりが、もう山のようにその木の風倒木の下にはあった。それを見ながら札幌へ行って、たくさん何軒かあるうちでも、普通の家でなく **kamuytono** と言って、いわゆる偉いシャモ〔和人〕のようなうちの家、偉いそこの殿様らしい家の所へ入って行って、そしてこの猫は知らないか、と言うと、殿様は「いや、まことに申し訳ない、と。それは私の持っておった猫だったのに、途中から見えなくなって、そういう悪さをしておったということは、本当に済まない、と。」アイヌ何人も、まあ人間、男五〜六人と女二〜三人殺した、と。だから、その事で、何というか、償いをしてくれ、と。強硬に **caranke**〔談判〕をした。

そしたら、その殿様は非常に物分りのいい人で、「それではその死んだ人たちに食べ物も着物も与えますよ。どうぞ、一つ許して下さい。」と、非常に穏やかに話をしてくれたので、死んだ人たちの家族とかそうした人には、食べ物とか着物とか与えるように話をして、私も私のうちへ帰

ってきて、その後は、何一つそうした心配も無く村が平和に暮らしておりました。

だから、そういう猫でも、あまりよくない猫を長く養うとか、そういう事はしないようにと、一人のアイヌが言って、そういう事を言いながら世を去りました。これは **aynu uepeker** [人間の散文説話] ですが、いわゆる札幌という地名が出たり、あるいは猫という比較的新しい時代に北海道へ入ったんではないかと、思われる、ものでもこういう物語として出てくるあたりに、何か珍しいというような感じの **uepeker** [散文説話] です。

## 3-6 カムイユカラ

「ハラトンナ」

白熊神

語り：貝澤とうるしの

サケヘ V=ハラトンナ

V=haratonna

二次的なサケヘ<sup>[1]</sup>

サコンタラポ チキリパ オシケ

sakontarpo cikirpa oske

V サコンタラポ

V sakontarpo

V チキリパ オシケ

Vcikirpa oske

V カムイ ネ アン クル

神である人と

V kamuy ne an kur

V チェウタンネ ワ

私は結婚して

V c=ewtanne wa

V オカアシケ

暮らして

V oka=as h\_ike

V ピリカ ポンペ

私は良い赤ん坊

V pirka ponpe

V チヤイコサンケ

を産んだ

V ci=yaykosanke

V チセトウルフ V ci=seturuhu	私の背中を
V チョテレケレ V c=oterkere	踏んづけさせて
V サコンタラボ V sakontarpo	
V チキリパ オシケ V cikirpa oske	
V キ コロ ネシ <sup>[2]</sup> V ki kor nesi	しながら
V オカアシ アワ V oka=as awa	私がいたところ
V チコン ニシパ V ci=kor_ nispa	私の旦那の
V ユピヒ タ V yupihi ta	兄のところで
V 「サケ アカン ナ V “sake a=kar_ na	「私が酒を作ったよ
V アアクニシパケ V a=aknispake	私の弟よ
V イクタサ エエク」 V ikutasa eek”	酒宴にきなさい」
V セコロ オカイ ペ V sekor okay pe	ということを

V アイェ ルウエ ネ V a=ye ruwe ne	言われた
V キ ロク アワ V ki rok awa	そうしたところ
V アコン ニシパ V a=kor_ nispa	私の旦那は
V 「アラパアン クシ ネ ナ V “arpa=an kus ne na	「私は行くよ
V アコロ ポンペ V a=kor ponpe	私の坊や
V カムイ ネ アン ペ V kamuy ne an pe	神であるものを
V ピリカノ エヤム」 V pirkano eyam”	よく面倒見るのだよ」
V セコロ オカイ ペ V sekor okay pe	ということを
V タ イェ カネ V ta ye kane	言いながら
V アラパ ワ イサム V arpa wa isam	行ってしまった。
V キ オカケ タ V ki okake ta	そうしたあとに
V サコン タラポ V sakon tarpo	



V チキリパ オシケ V cikirpa oske	
V キ コロ オカアシ V ki kor oka=as	そうして暮らしてい
V キ ロク アワ V ki rok awa	たところ
V ホントモ ワノ V hontomo wano	途中から
V チコロ ポンペ V ci=kor ponpe	私の坊やが
V チシコワイセ V ciskowayse	泣きわめく
V エネ チカリ V ene ci=kar h_i	私はどうしようも
V イサム キ コロ V isam ki kor	なくていながら
V オカアシ アワ V oka=as awa	いたところ
V セコン ネ コロ V sekor_ ne kor	というところで (話変わって)
V アイヌ ニシパ V aynu nispa	アイヌの旦那で
V アネ ヒネ V a=ne hine	私はあって

V キムン チセ オロ ワ V kim un cise or wa	山の家から
V イワカン アワ V iwak=an awa	私が帰ったところ
V ソモ カ エネ V somo ka ene	よもや
V シリキ コンナ V sirki konna	そのような様子である (とは)
V アラム ロキ V a=ramu rok h_i	私が思 (わなか) った
V	
V アン レタラ カムイ V ar_ retar kamuy	真っ白い神 (クマ)
V カムイ ネットパ V kamuy netopa	神中の神
V ネ コロカイキ V ne korkayki	であるけれども
V エネ オカ ヒ V ene oka hi	こんな様子であった
V オッシケオペ V ossikeope	内臓を
V コオヘテッケ V koohetetke	ぶちまけて

V チピレタ(?) V cipireta(?)	傷だらけになったものが(?)
V イエカリ エク ナ V i=ekari ek na	私に向かって来るよ
V タシロ アエタイテクテク V tasiro a=etaytektek	山刀を引き抜く
V フムセ トウラ V humse tura	フムと声を上げながら
V ホリピ トウラ V horipi tura	踊りと共に
V パセ カムイ V pase kamuy	重々しい神が
V ラモシマ コ V ramosma ko	一緒になって(?)
V マカナク ネ ルウエ V makanak ne ruwe	どうしたことで
V アン キ クス V an ki kusu	あるのか
V カムイ ケウエホムス V kamuy kewehomsu	クマの神に危なかったことの見舞いを(魔払い)
V アキ シンネ ナ V a=ki sinne na	私はしているのだった。
V パセ カムイ V pase kamuy	重々しい神が

V ラモシマ コ V ramosma ko	一緒になって
V マクネ ルウエ アン V makne ruwe an	どうしたのか
V ハウエアナン コロ V hawean=an kor	私が言いながら
V ホリピ <sup>°</sup> アン アクス V horipi=an akusu	私が踊ると
V アイヌ アシル ネノ V aynu as ru neno	人間が立つのと同様に
V エネ ヘタプ ネ V ene hetap ne	であろうか
V オッシケオペ V ossikeope	内臓が
V コオヘテッケ プ V koohetetke p	流れ落ちるもの
V アイヌ アシル ネノ V aynu as ru neno	人間が立っているかのように
V アン キ ヒネ V an ki hine	して
V ホリピ <sup>°</sup> キ コロ V horipi ki kor	踊りながら
V ヘセパハ V hesepaha	吐く息が

V エネ ネ ペコロ V ene ne pekor	このようであるかのように
V チヌ キ キ ヒ V ci=nu ki ki hi	私が聞いたことは
V 「アイヌ ニシパ V “aynu nispa	「人間の長よ、
V シパセ カムイ V sipase kamuy	私はまことに尊い神
V アネ キ ヒネ V a=ne ki hine	であって
V レタッチラマンテプ V retatciramantep	白い動物
V アネ キ キ ワ V a=ne ki ki wa	であって
V タンペ ポ ヘネ V tampe po hene	それゆえになおさら (父母にかわいがられた)
V オナ アコロ ワ V ona a=kor wa	私には父がいて
V ウヌ アコロ ワ V unu a=kor wa	私には母がいて
V アイオマプレシパ V a=i=omaprespa	私は可愛がられて育てられた
V キ ロク アワ V ki rok awa	そうしたところ

V ユプ アコロ ワ V yup a=kor wa	私には兄が
V アナン ヒケ V an=an hike	いたのだが
V サケ アカン ナ V sake a=kar_ na	酒を作るよ
V イヤシケウカン ナ V iaskeuk=an na	招待するよ
V アアクニシパケ V a=aknispake	私の立派な弟よ
V エク ワ イコレ V ek wa i=kore	来てください
V テシカラ クス V teskar kusu	(という) 伝言が来たので
V アラパアン アワ V arpa=an awa	私が行ったところ
V ウサ シト V usa sito	いろいろな団子
V ウサ オヤオヤ プ V usa oyaoya p	いろいろな別々のもの
ウサ チェプ ピリカ ヒ usa cep pirka hi	いろいろな魚の良いものを
V アイコプニ ヒ クス V a=i=kopuni hi kusu	私に供えたので

V アコロ ポンペ V a=kor ponpe	私の坊や
V アコロ カツケマツ V a=kor katkemat	私の妻に
V アコメカレ クス V a=komekare kusu	食べ物を持って帰るために
V アアリ アクス V a=ari akusu	私を取り分けると
V ルシカ クス V ruska kusu	(それに) 腹を立てて
V アイヌパタウン V aynupataun	うらやましいなあ
V ポコロ クス V pokor kusu	子供がいるので
V イメカレ シリ V imekare siri	食べ物を分けるなんて
V セコロ オカイ ペ V sekor okay pe	ということを
V タ イェ カネ V ta ye kane	いいながら
V マカニ クス V makani kusu	どういうわけで
V エネ ハワシ アン V ene hawas h_i an	そんなこと (難癖) を言うのか

V セコロ オカイペ V sekor okaype	ということ
V シサム ネ ウタラ V sisam ne utar	そばにいる人々
V ネ ワ ネ ヤッカ V ne wa ne yakka	も
V タ イェ カネ V ta ye kane	言って
V キ ヒケ カ V ki hike ka	くれるのだが
V ヌ ハウエ カ V nu hawe ka	聞くことも
V ヌ シリ カ V nu siri ka	聞く様子も
V イサム キ コロ V isam ki kor	なく
V イコテレケ V i=koterke	私にとびかかって
V キ ロク アイネ V ki rok ayne	そうしたあげく
V アオッシケオプ カ V a=ossikeop ka	私のはらわたも
V イコオテッテレケ V i=kootetterke	私に対して何度も踏みつけ



V イコペツパカラ V i=kopetpakar	ずたずたに裂いた。
タップ エネ アナン ルウエ ネ ナ tap ene an=an ruwe ne na	(そして) 私はこのような姿になったのだ。
V イチョツチャ ワ イコレ V i=cotca wa i=kore	私を射ってくれ
V キ ワ ネ ヤクネ V ki wa ne yakne	そうするのなら
V アシリ カムイ ネ V asir kamuy ne	新しい神になる
V アシリ ピト ネ V asir pito ne	新しい神になる
V アナン ヤクネ V an=an yakne	私がいたら
V エセレマカ アウシ V e=sermaka a=us	私はお前の守り神になって
V アエピリカレ クス V a=e=pirkare kusu	私が豊かにするので
V キ ナ」 セコロ V ki na” sekor	そうするのだよ」と
V ヘセパハ V hesepaha	吐く息が
V アヌ ルウエ ネ V a=nu ruwe ne	そう聞こえたのだ。

V ラッチタラ V ratcitara	ゆっくりと
V アラパ ヒ クス V arpa hi kusu	歩いて行くので
V オシ アラパアン V os arpa=an	その後を私は行く
V キ アクス V ki akusu	すると
V アコン ヌサ コパク ウン V a=kor_ nusa kopak un	我が家の祭壇のほうへ
V アラパ ヒ クス V arpa hi kusu	行ったので
V トウ イヨアイ V tu iyoay	2本の毒矢
V アイ アエアキネ V ay a=eak h_ine	矢を私は射て
V アチョツチャ アクス V a=cotca akusu	射当てると
V エアラ アイ ネ V ear ay ne	ただ一本の矢となって
V アチョツチャ キ コロ V a=cotca ki kor	ささって
V イナウチパ エルプシク タ V inawcipa erupsik ta	祭壇の東側に

V アラパ ヒネ 行って

V arpa hine

V シロシマ ルウエ ネ 倒れたのだ

V sirosma ruwe ne

V

(ここから散文)

タップネ ネ コロ

tapne ne kor

このとおりであると

それこそ カムイ フチ オロ タ アフナニネ

SOREKOSO kamuy huci oro ta ahun=an h\_inē

それこそ火の神のところに私が入って

タップネ タップネ ネ ワ カムイケウエホムスアン コロ

tapne tapne ne wa kamuykewehomsu=an kor

かくかくしかじかで私がクマの神に危なかったことの見舞いを言うと

アン レタラ カムイ アトゥラ ワ エカン アライケ ワ エカン ルウエ ネ ナ。

ar\_ retar kamuy a=tura wa ek=an a=rayke wa ek=an ruwe ne na.

私は真っ白いクマ神を連れてきて殺してきたのだよ。

カムイ フチ ヌ ワ イコレ セコロ イタカン アワ エネ ネ ヒ

kamuy huci nu wa i=kore sekor itak=an awa ene ne hi

火の神が聞いてくれと言ったところこんなこと

コント カムイ フチ ソイネ ワ カシパオツテ ヒ カ

konto kamuy huci soyne wa kaspaotte hi ka

それから火の神が外に出て命じたことも

オラ ウェンタラプ カトウ エネ アニ

ora wentarap katu ene an h\_i

そして夢に見た様子はこんなことであった。

「それこそ イユプネ クル アナクネ

“SOREKOSO iyupne kur anakne

「それこそ兄である人は

フレ トンプク イカクシテ クン ネ ワ ウェン ヌコシネ プ

hure tonpuku ikakuste kur\_ ne wa wen nukosne p

赤い道服を上から着た人で、悪い短気もの

ネ ワ クス アク トノケ アクニシパケ ライケ ハウエ

ne wa kusu ak tonoke aknispake rayke hawe

であるので弟様、立派な弟を殺したということ

ネ ヤッカ ライケ エカツネカリ (?) <sup>[3]</sup> ネ ヤッカ カムイ ネ

ne yakka rayke ekatnekar h\_i(?) ne yakka kamuy ne

であれ、殺したも同然ということであれ (?)、神として

エカラ ワ アエコプンテク クス エセレマク ウシ オアシ ナ」

e=kar wa a=ekopuntek kusu e=sermak us oasi na.”

お前が祭ってくれて私は嬉しいので、お前の守り神になることにするぞ」

セコロ ウェンタラパン オラウン ソンノ カ

sekor wentarap=an oraun sonno ka

と私は夢に見た。それから本当に

レタラ コソンテ ミ カムイ イウエンタラプテ ヒ エネ オカ ヒ

retar kosonte mi kamuy i=wentarapte hi ene oka hi

白い小袖を着た神が私に夢を見せたことはこんなことであった。

「アイヌ ヘタプ エネ カトウ アン アイェ プ ネノ エイキ ワ

“aynu hetap ene katu an a=ye p neno e=iki wa

「人間なのか？ こんなことを私が言ったとおりにお前がしてくれて

タネ アナクネ イナウ ピリカプ イコレ ワ アシリ ピト ネ  
**tane anakne inaw pirkap i=kore wa asir pito ne**

いまはイナウのよいものを私にくれて私は新しい人、

アシリ カムイ ネ アナン ワ、ネワアンペ アコロ ソン  
**asir kamuy ne an=an wa, newaanpe a=kor son**

新しい神となり、暮らしていて、そのために私の子は

エカッキクシ クス オヤチキ チシ ネ アン ペ ヤ カ アエラミシカリ ノ  
**ekatkikus kusu oyaciki cis ne an pe ya ka a=eramiskari no**

思うに悪い予感がして泣いていたのも私はわからないで

エネ イキアン

**ene iki=an**

このようにした。

オラウン アウエン ユピヒ エネ イラ…… イアラタツパ ルウェ アン ペ  
**oraun a=wen yupihi ene ira... i=aratatpa ruwe an pe**

それから私の悪い兄がこのように私を切り裂いたのだが(?)、

イケウエホムス パテク カ アエヤイライケ アクス  
**i=kewehomsu patek ka a=eyairayke akusu**

私に危なかったことの見舞いを言ってくれるだけでも感謝するところを、

トゥ アイ イヨアイ アニ エアラ や(?) アニ イチョツチャ ワ  
**tu ay iyoay ani ear YA(?) ani i=cotca wa**

二つの矢、毒矢で、一つの矢で私を射って、

タネ アナク カムイ ネ アナン クス  
**tane anak kamuy ne an=an kusu**

いまは神となって暮らしているてので、

エセレマカ アウシ ワ シノ ニシパ ネ エアン オラウン  
**e=sermaka a=us wa sino nispa ne e=an oraun**

私はお前の守り神になって、お前は本当に立派になる。それから

ウトウレシコロ ヘカッタラ カ アエコペカ ワ エコウオマ ワ

utureskor hekattar ka a=e=kopeka wa e=kouoma wa

妹のいる子供たちも私がお前にさずけて、お前に子供が揃い、

シノ ニシパ エネ オラ レタラ カムイ アノミ ナ セコロ エハウエアン ヤク

sino nispa e=ne ora retar kamuy a=nomi na sekor e=hawean yak

お前は本当に立派な長者になり、そして、「私は白いクマ神を祀りますよ」と言ったら

ウカットウイマノ ネ ヤッカ キ ヤクネ エセレマカ アウシ

ukattuymano ne yakka ki yakne e=sermaka a=us

互いに遠くに離れていても、そのようにしたら（私に祈ったら）、私はお前の守り神になり、

エコロ ヘカッタツ トウラノ エセレマカ アウシ ヤクネ

e=kor hekattar\_ turano e=sermaka a=us yakne

お前の子供たちと一緒に、お前の背後に私が憑いたら

パクノ ニシパ イサム ニシパ エネ オアシ プ ネ ルウエ ネ ナ。

pakno nispa isam nispa e=ne oasi p ne ruwe ne na.

それぐらい立派な長者はいないほどにお前はなるだろうぞ、

セコロ レタッチラマンテプ カムイ ハウエアン ヤク アタカラ

sekor retarciramantep kamuy hawean yak a=takar

と白いクマ神様が言ったら私が夢に見た

(萱野：ほ～夢？)

うん。

(萱野：ほ～)

そのお礼言…… オマンテしてから夢見たのさ。

そのお礼言… omante してから夢見たのさ。

そのお礼言…… 送ってから夢見たのさ

(萱野：ほ～あ～そうそうなるほどね～)

だからエカリ エクしたのはシクヌ ワ エクして、こんとホリピしるもの  
 だから ekari ek したのは siknu wa ek して、こんと horipi しるもの  
 だから、向かってきたのは死なずにきて、今度踊りもしたもの

カムイも テクトゥリ コロ ホリピ しるんだと  
**kamuy MO tekturi kor horipi SIRUNDATO**  
 神も手を伸ばしながら踊るんだって

(萱野：う～んなるほどね)

タシロ アエタイテクテク して ケウエ アホムス アクス ネノ ホリピ して  
**tasiro a=etaytektek SITE kewe a=homsu akusu neno horipi SITE**  
 私が山刀を引き抜いて危なかったことの見舞いを言う(魔払い)と、そんなふうには踊って

ヘセパハ タプネ タプネ ハウエアン したということ  
**hesepaha tapne tapne hawean SITATOIUKOTO**  
 吐く息はかくかくしかじか言ったということ

(萱野：なるほどなるほど)

アン レタラ カムイ だと ユピ ワノ  
**ar\_ retar kamuy DATO yupi wano**  
 真っ白いクマ神だと兄から (殺されそうになった)

#### 【注】

- [1] 「二次的なサケへとは、サケへのように神謡の中に繰り返し現れる表現であるが、サケへとは異なって地の文の一部をなしており、しかも、文法的、語彙的に破格であり、かつその話に固有な表現とみなせるものである」(中川裕、2001「口承文芸のメカニズム」藤井貞和(他編)『シリーズ言語態2 創発的言語態』東京大学出版会：P68)。
- [2] ネシ nesi は強調をあらわす。
- [3] e-「～で」kat「姿」-ne「～になる」-kar「～させる」＝「～という姿にさせる」か？つまり、兄は弟を殺したわけではなく、とどめをさしたのは人間の男のほうなので、「殺したにせよ、殺したのと同じ姿にしたのにせよ」と言っているのではないかと、考える。

### 3-7 カムイユカラ「ハラトンナ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：私は一頭のシロクマでございました。家族は……この **kamuyyukar** [神謡] の場合は、神様自身が自分のことを語っている事が **kamuyyukar** [神謡] で、今この場合、**sakehe** [リフレイン] がハラトゥンナと言うの繰り返しです。そのハラトゥンナの繰り返しの中で、**kamuy** いわゆるクマ自身が物語っている。

クマはクマなりに、神の国では、人間がアイヌが生活しておると全く同じように生活しておるわけです。

私たちクマ夫婦は、非常に仲良く暮らしておった。そうしておるうちに、いい男の子が生まれたので、その子供を大切に大切に育てて、何不自由なく生活をしておった。ある日のこと、弟の神様から……弟からだな？

貝澤：うん。

萱野：弟から招待状が……招待が来て、酒を作ったので、どうぞ遊びに来て下さい。

貝澤：兄貴から、

萱野：兄貴からか。兄貴からだな。

貝澤：兄貴、赤いクマだ。

萱野：ああ、そうか。兄貴の方のクマから招待が来て、そして、是非どっさりお酒を作ったので、飲みに来て下さい、と、そういう言づけが来たので、留守番の家内によく言いつけて、「子供を大切にしておってね」、と。私は **ikutasa** と言って、お酒を飲みに行つて来ますからね、と。そう言つて出た。

その間に、留守番をする神様は、**tar** [背負い縄] と言って、山へ行く



ときに荷物を背負うところの縄を一生懸命編んでいる。それをあちらへ返し、こちらへ返ししながら編んでいる。そのうちに、どうしたのか子供が火のついたように泣き始めた。それをいくらあやしても泣き止まない、と。そういうふうにしておる所で、話が変わって。

私は一人のアイヌでありました、と。家の近くを歩いておると向こうの方から一頭のシロクマがこうゆっくりゆっくり来ている。見るとそのクマは、すごく大怪我をして、もう内蔵物は出ていわゆるその大腸も小腸もこう地べたに引きずるようにして、向こうからその怪我をしたクマが来ておる。

私は **tasiro** [山刀] を抜いて、アイヌはそういうことを **ukewehomsu** と言うんですけれども、何とというか、日本語訳にこの **kewehomsu** ということば非常に難しくって、**yukar** [英雄叙事詩] に出てくる場合であれば、「ねぎらう」というふうに私は訳しておりますが、「どうしたんですか、クマの神様、あなたがそういうことをして来ているのはただ事ではありませんね」という意味のことを言いながら、**tasiro** [山刀] を持って、こう胸に、右手を伸ばしてそれを胸に引きつけ引きつけ、そのどうしたんですか、と言うと。

そのクマも立ち上がって、私のやると同じように、前手を突き、前足を突き出しながら言う事には、「私は神の国に住んでおるクマでした。それが兄神から招待を受けましたので、飲みに行った、と。そうしたらたくさんのご馳走が出たので、そのご馳走を私の家内に私の子供にと思いまして、それをこう美味しい所をよそへよけた。そうしたら、兄神の言うのには、いいもんだなあ、あなたは。家内がおっていいものだなあ、あなたは。子供がおって、そういうふうにご馳走を残す人がおって、というふうに、言いがかりをつけて、私に喧嘩をふっかけてきた、と。我慢したんだけど我慢しきれずに、喧嘩をしたんだが、もうこうなれば生きることはできないんだ、と。だからあなたは非常に精神のいい人なの知っておりますから、どうぞ私に矢を向けて撃って下さい、と。それによって、私は神として蘇生して、神の国へ帰りますから」と、そのように言いましたので、私は早速弓矢を取って撃った。

そうすると、私の家近くへそのクマが来て、**nusasan** と言って、外の祭壇近くへ来て、まあ、**sumawne** [獲物となって]、死んだ。それをちゃんと皮を剥いで、型通りにお祈りをしてお祀りをした。

そうすると、その晩に夢枕に立った、クマは、「お蔭さんで、あなたのお陰で本当に私は神として神の国に帰る事が出来ました。これからはあなたをお守りしますよ。本当にどうもありがとうございました」と、い

う夢を見せてくれた、と。

そして、その私は何不自由なく生活をしておりました、と。いわゆるクマ神が、神の国での生活、そして、神の国での生活の中で、クマの連れ合いである人は、アイヌの国でアイヌのおばあさんがしておるように、アイヌの婦人がしておるように、山へ持っていくところの荷縄と言われる、その縄を一生懸命編んだり織ったりしておる様がこの **kamuyyukar** [神謡] の中ではよく出ておるわけですね。

今の場合、これ **kamuyyukar** [神謡] と言って、繰り返しがハラトゥンナ、というふうに言っておるわけでした。**kamuyyukar** です。

それではテープ番号第3巻、これで終わります。昭和44年1月23日、録音者および……採録者および和訳、萱野茂。

## 4-1 テープ内容紹介

解説：萱野茂

萱野：昭和44年1月23日、沙流郡平取町二風谷。貝澤とろしのさんのところ  
ろです。uepeker [散文説話]、録音テープ番号4号です。

## 4-2 ウエペケレ

「キムンカムイ カネ アワンキ イエルサ」

熊の神が鉄の扇を私に貸した

語り：貝澤とうるしの  
聞き起こし・訳：関根真紀

シノ ニシパ アネ ヒネ アナン ルウェ ネ イケ、  
sino nispa a=ne hine an=an ruwe ne h\_ike,  
私はとても裕福な暮らしを

アウヌフ アン アオナハ アン ヒネ オカアン。  
a=unuhu an a=onaha an hine oka=an.  
父と母と共に生きていました。

シネ マタパ アコロ ヒネ オカアン ペ ルウェ ネ ヒケ  
sine matapa a=kor hine oka=an pe ruwe ne h\_ike  
妹も1人います。

アオナハ エネ イラマンテアニ イエパカシヌ ワ  
a=onaha ene iramante=an h\_i i=epakasnu wa  
父がどのように狩りをするのかを私に教え

ネノ イキアン コロ ユク カ カムイ カ アロンヌ ワ  
nenno iki=an kor yuk ka kamuy ka a=ronnu wa  
私が教えられたとおりに鹿や熊を獲ると

ポ イオマプレス コロ オカアン ペ ネ ルウェ ネ ア プ  
po i=omapresu kor oka=an pe ne ruwe ne a p  
なおいっそう私をかわいがる、といった様子だったので

シネ アン タ ソレクス ハンケ クチャ トウイマ クチャ  
**sine an ta sorekusu hanke kuca tuyma kuca**  
 ある日、近いところと遠いところに父は狩り小屋を

アオナハ コロ ペ ネ ア、アオカリ<sup>[1]</sup> ワ  
**a=onaha kor pe ne a, a=okari wa**  
 持っていたのですが、父に代わり

クチャ コツ チセ アコロ ワ アナン アラパアン コン ナニ  
**kuca kor\_ cise a=kor wa an=an arpa=an kor\_ nani**  
 私が一人で猟に出て狩り小屋に着くとすぐに

イナウロシキアン。アラパアン エトク タ アオナハ  
**inawroski=an. arpa=an etok ta a=onaha**  
 イナウを立てました。行く前に父が

イエイノンノイタク ワ アラパアン コン ネイ タ オムケナン  
**i=eynonnoytak wa arpa=an kor\_ ney ta omuken=an**  
 私のために祈りの言葉を述べた時は、獲物が獲れない

カ ソモ キ プ ネ ルウエ ネ ア プ、  
**ka somo ki p ne ruwe ne a p,**  
 ということがないのでした。

シネ アン キムンアン ルウエ ネ アクス ソレクス ワ  
**sine an kimun=an ruwe ne akusu sorekusu wa**  
 ある山へ猟に行ったとき、それこそ

カムイ ネ クス コラチ アン カムイ ネットパ スマウエ  
**kamuy ne kusu koraci an kamuy netopa sumawe**  
 神であるからこそその立派な熊を獲物

アコロ エアラキンネ アエヤイコプンテク コロ、イワカン ワ ポ ヘネ<sup>[2]</sup>、  
**a=kor earkinne a=eyaykopuntek kor, iwak=an wa po hene,**  
 にしたので、たいそう喜びながら

アリ ワ シケ アキ ワ イワカン ワ ポ ヘネ アオナ  
**a=ri wa sike a=ki wa iwak=an wa po hene a=ona**  
 皮をはぎ、背負って帰ると、なおいっそう父は

イコプンテク ア イコプンテク ア コロ アウニ ワ シロマチセ オロ ワ  
**ikopuntek a ikopuntek a kor a=uni wa siromacise or wa**  
 喜び喜び、我々の立派な家から

イナウ アコレ ワ アホプニレ ルウエ ネ アクス  
**inaw a=kore wa a=hopunire ruwe ne akusu**  
 イナウを捧げて熊の魂を神の国へ送ったのですが

ネ エアンチカリ ウェンタラパン カトウ エネ アニ。  
**ne eancikari wentarap=an katu ene an h\_i.**  
 すると、その夜にみた夢はこのようなものでした。

アシリ コソソテ エ…… オパンナアッテ カネ アン  
**asir kosonte e... opannaatte kane an**  
 新しい小袖をはおった

カムイ オッカイポ ミナ カネ アン イネ エネ ハウエアニ。  
**kamuy okkaypo mina kane an h\_inine ene hawean h\_i.**  
 神様のような青年が笑みを浮かべながらこのように言うのです。

「タン オッカイポ イタカン ワ エイヌ カトウ エネ アニ、  
**“tan okkaypo itak=an wa e=inu katu ene an h\_i,**  
 「青年よ、私が話すことをお前が聞くようすとは、こういったものだ。

パクノ ケウトウム ピリカ パクノ イナウエ ピリカ プ  
**pakno kewtumu pirka pakno inawe pirka p**  
 お前たちほど、心もちが良く、美しいイナウを作る

イサム ペ エチネ エチウオナコロ ワ キ ルウエ ネ コロカ オラ  
**isam pe eci=ne eci=uonakor wa ki ruwe ne korka ora**  
 者たちは他にはないといった親子であるのだが

コタン アエニソマプカラ ペ シネプ アン ルウェ ネ クス  
**kotan a=enisomapkar pe sinep an ruwe ne kusu**  
 村で気がかりなことが一つあるので

ニサッタ ネ アン ヤクン オロ タ エシニ ランケ  
**nisatta ne an yakun oro ta e=sini ranke**  
 明日になったらお前がよく休む

ペロ チクニ オウシ タ ネプ カ アアヌ ナンコン ナ。  
**pero cikuni ousi ta nep ka a=anu nankor\_ na.**  
 ナラの木の根元に何かが置かれているはずだ。

ネワアンペ エコロ ワ エアラパ アク ピリカ」  
**newaanpe e=kor wa e=arpa y\_ak pirka”**  
 それを持って行くとよい」

シコロ ハウエアン ハウエ エネ アニ。  
**sekor hawean hawe ene an h\_i.**  
 と言うのはこういうことなのだそうです。

「アラケヘ ワ メニシ ノカ オマ アラケヘ ワ スクシ  
**“arkehe wa menis noka oma arkehe wa suku**  
 「片側に凍雲の模様があり、もう片側に日光

ソレクス スクシ ノカ オマ アワンキ ってば うちわ  
**sorekusu suku noka oma awanki TTEBA UCIWA**  
 それこそ日光の模様のある扇が

アアヌ ナンコロ クス、アウコチュプ ワ アヌイナ ワ アン  
**a=anu nankor kusu, a=ukocupu wa a=nuyna wa an**  
 置いてあるだろうから、閉じて隠してある

ナンコロ クス オロ タ エシニ ランケ ウシケヘ タ  
**nankor kusu oro ta e=sini ranke uskehe ta**  
 だろうから、お前がいつも休むところを

エインカラ アク ピリカ。オラウン エアラパ ヒネ タネ  
**e=inkar y\_ak pirka. oraun e=arpa hine tane**  
 見るとよい。それからさらに進み

エコロ クチャ チセ オロ ウン シリハンケ ヤクン オロ タ  
**e=kor kuca cise or un sirhanke yakun oro ta**  
 お前の狩り小屋の近くまで行ったらそこで、

ネ スクシ ノカ オマ ウシケ エサンケ ヤクネ エクシコンナ  
**ne sukuš noka oma uske e=sanke yakne ekuskonna**  
 その日光の模様のある側をお前が出せば突然

ポロ ト アン ナンコロ ルウェ ネ クス オロ タ  
**poro to an nankor ruwe ne kusu oro ta**  
 大きな湖が現れるだろうから、その

ニ センピッ タ エヌイナク ワ スクシ ノカ オマ ウシケ  
**ni sempir\_ ta e=nuynak wa sukuš noka oma uske**  
 木の陰にお前が隠れて日光の模様の側を

ネイ タ パクノ エサンケ ヤクン、コタン アエヤムカラ ペ  
**ney ta pakno e=sanke yakun, kotan a=eyamkar pe**  
 いつまでもお前が出していれば、村で気がかりなことというのは

アナクネ エネ アン ヒ、ニツネ カムイ トウプ ウトウラ ワ コタン  
**anakne ene an hi, nitne kamuy tup utura wa kotan**  
 このようなことである。悪い神二人が一緒になって村

ウエンテ クシ アラキ クシ ネ アアン ルウェ ネ ワ  
**wente kus arki kus ne aan ruwe ne wa**  
 を荒らすために来るということになっていて

ネワアンペ アエニソマプ ワクス アコロ マンプリ アエカシヌカラ  
**newaanpe a=enisomap wakusu a=kor manpuri a=e=ekasinukar**  
 それが気がかりだから、私のお守りでお前を守ってやる



クシ ネ ナ。イテキ オリパク ノ ネワアンペ ウプソロ オマレ ワ  
**kus ne na. iteki oripak no newaanpe upsor omare wa**  
 つもりだ。遠慮しないで、それを懐に入れて

アラパ ワ ニ センピッ タ ヌイナク ワ スクシ オマ  
**arpa wa ni sempir\_ ta nuynak wa sukus oma**  
 行き、木の陰に隠れて日光のある

ウシケヘ タネ シンノシキ タ エアラパ クチャ チセ オルン  
**uskehe tane sinnoski ta e=arpa kuca cise or un**  
 側を、道中でお前が向かっている狩り小屋の

シリハンケ ウシケ タ エアラパ チキ、スクシ ノカ<sup>[3]</sup> オマ ウシケ  
**sirhanke uske ta e=arpa ciki, sukus noka oma uske**  
 近くまで行ったら、日光の模様のある側を

エサンケ ヤク エネ シリキ エヌカン ナンコン ナ。  
**e=sanke yak ene sirki e=nukar\_ nankor\_ na.**  
 お前が出せば、このような様子をお前は見ることになるだろう。

エクシコンナ ポロ ト アン ナンコロ ヤクン ソレクス  
**ekuskonna poro to an nankor yakun sorekusu**  
 突然に大きな湖が現れるだろう、そうすれば、それこそ

トゥン ウトゥラ ワ パイエ ナンコロ。アイヌ ネ オカ ワ  
**tun utura wa paye nankor. aynu ne oka wa**  
 二人一緒になって(悪い神が)行くだろう。アイヌ(人間)の姿をして

パイェ ナンコロ クス イテキ アエヌカラ アレンカイネ  
**paye nankor kusu iteki a=e=nukar a=renkayne**  
 行くだろうから、決して見られずに、私の力

ネ クス アエヌイナ クシ ネ ナ、ソモ アエヌカラ コロ  
**ne kusu a=e=nuyna kus ne na, somo a=e=nukar kor**  
 によって、お前を隠してやるから、お前は人に見られずに

エアン ワ ネ スクシ ノカ オマ ウシケ エサンケ ヤクン  
**e=an wa ne sukus noka oma uske e=sanke yakun**

いて、その日光の模様の側をお前が出したならば

セセク コヤイウエンヌカラ パ エアラキンネ ネア ト コシレパ  
**sesek koyaywennukar pa earkinne nea to kosirepa**

暑さで非常に苦しみ、その湖に着く

エトコ ワノ セセク コヤイウエンヌカラ パ プ ネ クス、ソレクス  
**etoko wano sesek koyaywennukar pa p ne kusu, sorekusu**

前から暑さで苦しむことになるので、それこそ

ナニ ネ ト サム タ パイエ ヤクン オラ ミピ ウセ アリ ワ  
**nani ne to sam ta paye yakun ora mipi use ari wa**

その湖のそばまで行ったならば、すぐに着ているものを脱いで

スシ パ ナンコロ ルウェ ネ クス ハウエ エネ アニ。  
**sus pa nankor ruwe ne kusu hawe ene an h\_i.**

泳ぎだすだろう、そして言うこととはこのようなことである。

ポニウネ ワ アニケ、  
**poniwne wa an h\_ike,**

年下の方が

「フンタ ネ クス アユピ イシレニネ  
**“hnta ne kusu a=yupi i=siren h\_ine**

「どういうわけで、兄が俺を連れてきたおかげで

オラ エネ セセッコヤイウエンヌカラ フミ アニ アン」  
**ora ene sesekkoyaywennukar=an humi an h\_i an”**

こんなに暑さで苦しむことになっているのだ」

シコロ ハウエアン コロ パイエ ヤッカ オラ オピッタ カトウ アカラ  
**sekor hawean kor paye yakka ora opitta katu a=kar**

と言いながら泳いで行っても全部、私が化かしている

ペ ネ クス スシ パ ナンコロ クス、ネ スシ パ コロカ……

pe ne kusu sus pa nankor kusu, ne sus pa korka...

ものなので泳ぐだろうから、ふたりで泳ぐのだが……

ワ タネ しっかり ト ノシキ タ パイエ コン ラポッケヘ

wa tane SIKKARI to noski ta paye kor\_ rapokkehe

そうしてもうしっかり湖の真ん中まで泳いで行ったその時、

メニシ ノカ オマ ウシケ エサンケ ワ ポンノ ポンノ エエシリパル

menis noka oma uske e=sanke wa ponno ponno e=esirparu

氷雲の模様のついた側を出してお前が、少しづつ、少しづつ、扇いで

エエシリパル カネ ヤクネ ネア ト エクシコンナ ルプシ ナンコロ。

e=esirparu kane yakne nea to ekuskonna rupus nankor.

扇いでとやっていると、その湖は突然凍るだろう。

ルウェ ネ ヤクン エアラキンネ キマテク パ ワ

ruwe ne yakun earkinne kimatek pa wa

そうなるとたいそう驚いて

「マク イキアン クシ フマシ フマシ？」

“mak iki=an kus humas humas?”

「いったいどうしたらいいんだ？」

シコロ ハウエオカ コロ

sekor haweoka kor

と言いながら

ヤプ クシ ネ プ ヤプ エアイカプ ノ コンル ネ しっかり

yap kus ne p yap eaykap no konru ne SIKKARI

岸へ上がろうとするが、そうすることもできないうちに、氷になる、しっかり

コンル ル ワ…… ルプシ ルウェ ネ クス、ネ ナム ウシケヘ

konru ru wa... rupus ruwe ne kusu, ne nam uskehe

凍りついてしまうので、その冷たい側で

エエシリパルパル コロ

e=esirparuparu kor

お前が何度も扇ぎながら

「カムイ エネ イイエ イ ネ ワクス イキアニ ネ クス

“kamuy ene i=ye h\_i ne wakusu iki=an h\_i ne kusu

「神がそのように言うからやったことなので

ネア イカシヌカラカムイ イコホサリ ワ イコレ。」

nea i=kasukarkamuy i=kohosari wa i=kore.”

私の憑神よ、私を見守ってくれ。」

シコロ エハウエアン アク エヘコテ インカラン ヤクネ

sekor e=hawean y\_ak e=hekote inkar=an yakne

とお前が言えば私はお前の方を見るであろう、そうすれば

アウエンパカシヌ パ クシ ネ クス ネノ エイキ ヤク ピリカ ナ。」

a=wenpakasnu pa kus ne kusu neno e=iki yak pirka na.”

私が悪い神たちをひどく懲らしめるので、お前はそうにすればよいぞ。」

シコロ ウェンタラパン。アオナハ エウン カ アイエ

sekor wentarap=an. a=onaha eun ka a=ye

という夢を見たのです。父にはそのことは言い

カ ソモ キ ノ クンネイワ エウオンネアン ヘム キ ヒネ オラウン

ka somo ki no kunneywa ewonne=an hem ki hine oraun

もせず、朝、顔を洗い、それから

オンカミアナ アナ コロ

onkami=an a =an a kor

礼拝をして、礼拝をして、そうしながら

「マク アニ クス ウェンタラパン フミ ネ クス

“mak an h\_i kusu wentarap=an humi ne kusu

「どういったわけか夢を見たので

カムイ ネ アン クル イセレマクシ ワ イコレ ナンコン ナ。」

**kamuy ne an kur i=seremakus wa i=kore nankor\_ na.”**

神のような人が私の守り神になってくれるということなのだ。」

シコロ ハウエアナン カムイ アヌレ ヒネ カムイ フチ

**sekor hawean=an kamuy a=nure hine kamuy huci**

という私の声を神に聞かせ、そうして火の神様

エウン アヌヤラ。ヌサ コロ カムイ エウン カ オンカミアニネ

**eun a=nuyar. nusa kor kamuy eun ka onkami=an h\_in**

にも聞いてもらいました。祭壇の神へも礼拝をしてから

オラウン エキムネアン ルウェ ネ ア プ、ソンノ カ タネ

**oraun ekimne=an ruwe ne a p, sonno ka tane**

山へ猟に行ったのですが、本当にとうとう

アコロ クチャ チセ オロ シリハンケ コロ アシ ルウェ ピリカ

**a=kor kuca cise or sirhanke kor as ruwe pirka**

我々の狩り小屋の近くまで来ると、太くて立派で

ポロ ルウェ ペロ アン ペ ネ ヒクス、オカ…… オウシケ タ シニアン

**poro ruwe pero an pe ne hikusu, oka... ouske ta sini=an**

大きくて太いナラの木が立っていたので、その根元のところで

ランケ トカプ イペ アセ ヤッカ ネ ヒ オウシケヘ タ

**ranke tokap ipe a=se yakka ne hi ouskehe ta**

いつも休むところ、昼飯を背負って来てもその根元のところで

シニアン ワ イペアン したり キ プ ネ ヒ クス、オウシケ タ

**sini=an wa ipe=an SITARI ki p ne hi kusu, ouske ta**

休んでは食事をとったりするものなので、その根元のところに

アラパアニネ ピリカ シルワンテアナクス、ソンノ カ

**arpa=an h\_in** pirka siruwante=an akusu, sonno ka

行ってそれからよくその周りを調べてみると、本当に

ピリカ ワ オケレ サランペ アコカリ アワンキ アウコチュプ ヒネ  
**pirka wa okere saranpe a=kokari awanki a=ukocupu hine**  
 きれいな絹にくるんだ扇が閉じられて

ニ オウシ タ カシ ポンノ コナム アクシテ ヒネ アニ クス  
**ni ousi ta kasi ponno konam a=kuste hine an h\_i kusu**  
 木の根元に少しその上に少し落ち葉をかけた状態であったので

アウク ヒネ、ナニ アピラサ ヒネ  
**a=uk hine, nani a=pirasa hine**  
 それを取って、そしてすぐに広げて、それから

インカラシ ルウェ ネ アクス ソレクス ワ カムイ ノカ オマ  
**inkar=an ruwe ne akusu sorekusu wa kamuy noka oma**  
 よく見たのですが、それこそ神の模様が付いた

カネ アン アワンキ ネ ヒネ オラ アウプソロオマレ ヒネ  
**kane an awanki ne hine ora a=upsoroomare hine**  
 扇です。それを懐にしまって

アラパアン ルウェ ネ ヒネ タネ ネ ペロ オロ ワ アラパアン  
**arpa=an ruwe ne hine tane ne pero or wa arpa=an**  
 行きました、今はもうそのナラの木のところからさらに

ルイノ アラパアン コロ アコロ クチャ チセ カランケ  
**ruyno arpa=an kor a=kor kuca cise karanke**  
 うんと進んで行き狩り小屋の近くまで

アラパアン コロ ころんと ネア スクシ ノカ オマ ウシケヘ  
**arpa=an kor KORONTO nea sukus noka oma uskehe**  
 進みながら、今度はその日光の模様の側を

シオカ ウンノ アナニネ アエシリパルパル ワ クス  
**sioka unno an=an h\_ine a=esirparuparu wa kusu**  
 自分の進んできた後ろに向かって何度も扇ぐと

ソレクス イチレ ノイネ フミ アン スクシ アン ルウェ ネ。

sorekusu icire noyne humi an sukus an ruwe ne.

それこそ、ものが焼けるほどの強烈な日差しになったのです。

オラノ ネノ イキアン コロ アナン アイネ ソモ アイヌ ネ ノイネ

orano neno iki=an kor an=an ayne somo aynu ne noyne

そして、私はそのように扇ぎながらいたのですが、人間ではない様子の

オカイ ペ オラウン アイヌ ネ オカ ヒネ ウトゥラ ヒネ

okay pe oraun aynu ne oka hine utura hine

者たちが、人間になりすまして連れ立って

パイェ パ ルウェ ネ ヒ クシ…… シリキ ヒ クス オラノ ネ

paye pa ruwe ne hi kus... siriki hi kusu orano ne

やってくる様子だったので、その

スクシ ノカ オマ ウシケヘ ラッチタラ アエシリパル アエシリパル

sukus noka oma uskehe ratcitara a=esirparu a=esirparu

日光の模様のある側を私はゆっくりと扇いで扇いで

カネ アクシ オラノ まるっで シリセセク アイネ ネア ニタイ

kane akus orano MARUDDE sirsesek ayne nea nitay

いると、とても暑くなってしまい、そうしてあの林の

オシマク タ ポロ ト アン ル オシマク タ キ ルウェ ネ ヒネ

osmak ta poro to an ru osmak ta ki ruwe ne hine

後ろに大きな湖が現れた。道の奥に現れて

「セセッコヤイウエンヌカラアン クス スサニケ スサニケ。」

“sesekkoyaywennukar=an kusu sus=an h\_ike sus=an h\_ike.”

「ひどい暑さで苦しくなったので、水浴びしてはどうか。」

シコロ ハウエオカ キヤンネ ノイネ アニケ ハウエアナクス

sekor haweoka kiyanne noyne an h\_ike hawean akusu

と年上と思われる方が言うと

「マク ネ ヒネ トイサンペコロ ヤイヌアン インカラン

“mak ne hine toysanpekor yaynu=an inkar=an

「どういうわけか心がひどくおかしくなり、そのように思ったり見えたり

ヒケ キ ア プ、エネ ト アン ルウェ アニ アン？」

hike ki a p, ene to an ruwe an h\_i an?”

するのか、あんな湖があったっけ？」

シコロ ハウェアン ポニウネ ワ アン ヒケ キ ヒケカ

sekor hawean poniwne wa an hike ki hikeka

と年下の方が言ったのだけれども

キヤンネ ノイネ アン ヒケ オラ アムケ アムペツ…… ケ<sup>[4]</sup> コロ オピッタ

kiyanne noyne an hike ora amke ampet...ke kor opitta

年上らしい方が着ていたものを脱ぎ、全部

シピタ ヒネ スシ パ ルウェ ネ。タネ ト ノシキ タ パイエ コロ

sipita hine sus pa ruwe ne. tane to noski ta paye kor

脱ぎ捨てて二人して泳ぎだしたのです。今はもう湖の真ん中まで行ったところで

コント ネア メニシ ノカ オマ ウシケヘ カムイ イェ プ ネ ワクス

konto nea menis noka oma uskehe kamuy ye p ne wakusu

その扇の凍雲の模様のある側を、神がそうしろということなので

イキアニネ

iki=an h\_in

扇いで

「トゥナシペタ(?) イコホサリ ワ イコレ ヤン。」

“tunaspeta(?) i=kohosari wa i=kore yan.”

「早く(?) 私を見守ってください。」

シコロ ハウェアナン コロ アエシリパル アエシリパル カネ アクス

sekor hawean=an kor a=esirparu a=esirparu kane akusu

と言いながら何度も扇いでいると



コオピ(?) ネア ト ルプシ アクス オラノ ヤプ クシ ネ プ  
**koopipi(?) nea to rupus akusu orano yap kus ne p**

その湖が凍りついたので二人は陸へ上がろうとするのですが

ネトパケヘ コンル コルプシ ワ ヤプ カ エアイカプ。  
**netopakehe konru korupus wa yap ka eaykap.**

体に氷がついて上がることもできません。

オシロウノウン アイネ ナニ ルプシ パ ヒネ シリコルプシ ルウェ ネ。  
**osirounoun ayne nani rupus pa hine sirkorupus ruwe ne.**

お尻がはまって抜けないでいるうち、すぐに凍り、すっかり凍ってしまったのです。

オラウン ソレクス タネ イホシ(?) コッポク タ ポニウネ ヒケ  
**oraun sorekusu tane ihosi(?) kotpok ta poniwne hike**

そしてこれはその少し前に年下の方が

エネ ハウエアニ。  
**ene hawean h\_i.**

言った言葉です。

「エネ ネ ワクス ウエン ケウトウムコラン コロ ウエン ヒケ  
**“ene ne wakusu wen kewtumkor=an kor wen hike**

「このようなことになるのだから悪い心を持つのは良くなかったのに

エネ アユピ ハウエアナクス オラ オヨヨポ。」  
**ene a=yupi hawean\_ akusu ora oyoyopo.”**

あんなふうに兄が言ったので、嗚呼……。」

シコロ ハウエオカ ヒ パクノ ネ コロ マウエ トウイパ ルウェ ネ。  
**sekor haweoka hi pakno ne kor mawe tuypa ruwe ne.**

と言ったのを最後に彼らは息切れてしまいました。

オラウン コント ネア メニシ ノカ オマ ウシケヘ カ アウコチュプ  
**oraun konto nea menis noka oma uskehe ka a=ukocupu**

そして次に私はその凍雲の模様の側もつぼめてしまい、

ネ ネア サランペ アコカラカリ ヒネ アウプソロオマレ イネ  
 ne nea saranpe a=kokarkari hine a=upsoroomare h\_inē  
 それを絹でグルグルと巻いて懐にしまいました。

オラウン アコロ クチャ チセ オッ タ アラパアニネ ソレクス  
 oraun a=kor kuca cise or\_ ta arpa=an h\_inē sorekusu  
 それから私たちの狩り小屋まで行き、それこそ

「コタン アエヤムカラ ペ カムイ イェ ワ アン ワクス  
 “kotan a=eyamkar pe kamuy ye wa an wakusu  
 「村で気がかりなことを神が言っていたのだから

タネ アナクネ アシヌマ イキアニ ソモ ネ カムイ オロ ワ  
 tane anakne asinuma iki=an h\_i somo ne kamuy or wa  
 今回のことは私の独断で行ったことではない、神から

ネロク ウエン ケウトウム コロ アイヌ モシリ アイヌ コタン  
 nerok wen kewtum kor aynu mosir aynu kotan  
 あの悪い心を持って人間の国土、人間の村を

ウエンテ ルスイ ウエン ニツネカムイ アウエンパカシヌ シリ  
 wente rusuy wen nitnekamuy a=wenpakasnu siri  
 荒廃させたがっていた悪い性悪な神がひどく懲らしめられる様子を

アイヌ オックアイポ アネ ヤッカ アイヌ スクプ クル  
 aynu okkaypo a=ne yakka aynu sukup kur  
 私は（ただの）人間の若者であり、人間の大人

アネ ヤッカ アヌカラ シリ ネ クス イウオロ コロ カムイ  
 a=ne yakka a=nukar siri ne kusu iwor kor kamuy  
 であるが、私が見たということなので、狩場を司る神

ネ ヤッカ カムイウタラ ホサラパ ワ コイパク パ ヒ イェ パ。  
 ne yakka kamuyutar hosarpa wa koypak pa hi ye pa.  
 も、神々が振り向いて、（あの者たちに）罰するぞということを書いて、

テワノ アナク イテキィ アイヌ コタン アイヌ モシリ

tewano anak iteki aynu kotan aynu mosir

これからは決してアイヌの村、アイヌの国を

ケシケ パ クニ アイカシパオツテ ヤク ピリカ。」

keske pa kuni a=ikaspaotte yak pirka.”

憎んではいけないということを命じてください。」

シコロ アン ペ アイェ コロ イナウロシキアン したり キ ヒネ オラウン

sekor an pe a=ye kor inawroski=an SITARI ki hine oraun

と言いつつイナウを立てたして

コント トウッコ レレコ アナニネ スイ ハイカンヌプ スマウエ

konto tutko rerko an=an h\_ine suy haykannup sumawe

今度、二三日するとまた若い熊の獲物があり

アコロ イネ イワカン ルウエ ネ ヒネ オラウン

a=kor h\_ine iwak=an ruwe ne hine oraun

帰ってきたのですが

ソモ アイェ ヤク ウエン ヒ クス オラ アオナ エウン

somo a=ye yak wen hi kusu ora a=ona eun

言わないでいるのも悪いので父に

「タブネ カネ ネ ルウエ ネ ワ ソレクス ヤイケウエホムス カ

“tapne kane ne ruwe ne wa sorekusu yaykewehomsu ka

「こういったわけで、自分に対する魔払いも

アキ オラ カムイコヤイライケアン ルウエ ネ」

a=ki ora kamuykoyayrayke=an ruwe ne“

行い、そして神に対し感謝しています。」

シコロ ハウエアナナクス

sekor hawean=an akusu

と言うと

「ケライ ネ ポン カムイ サシミ ネ クニ アラム プ アポ ネ  
 “keray ne pon kamuy sasimi ne kuni a=ramu p a=po ne  
 「さすがは若い神の子孫だと思ふものを息子として

アエコノ エネ セレマッコロ ハウエ アン  
 a=e=kor\_ no ene sermakkor hawe an  
 お前をさずかり、このように守護神を得たという話だ。

オヨイ オヨイ  
 oyoy oyoy  
 ありがたや、ありがたや。

アコロ コタン アコロ モシリ アエヤムカラ ペ カムイ レンカイネ  
 a=kor kotan a=kor mosir a=eyamkar pe kamuy renkayne  
 わが村、わが国土の心配事も神の力により

タネ エエピル ワ カムイ コクシシ エエピル ワ  
 tane e=epiru wa kamuy kokusis e=epiru wa  
 すでにお前によって祓い清められた、神の助けと共に、お前が祓い清めたので

ネプ カ しんばい カ ソモ キ オアシ ハウエ ネ」  
 nep ka SINPAI ka somo ki oasi hawe ne”  
 これからは、何も心配することがないであろう。」

シコロ アオナハ ハウエアン コロ イコプンテク ア イコプンテク ア オラ  
 sekor a=onaha hawean kor i=kopuntek a i=kopuntek a ora  
 と父は言いながら私を褒めまくりました。それから

ネア スマウエ アコロ カムイ オカ ノミ クシ イナウ ロシキ したり キ  
 nea sumawe a=kor kamuy oka nomi kus inaw rosiki SITARI ki ora  
 あの獲物となった熊に祈りを捧げるためにイナウを立てたりして

オラ ネア カネ アワンキ アナクネ ヌサ オッ タ アアヌ ヤクン  
 nea kane awanki anakne nusa or\_ ta a=anu yakun  
 あの金属製の扇は祭壇に置いておけば

アウク ペ ネ イイエ プ ネ クス、アオナ イナウ トウンプ オロ オマレ ヒネ  
 a=uk pe ne i=ye p ne kusu, a=ona inaw tumpu or omare hine  
 (神が) 持って行くと言われていたので、父はイナウキケに包んで

イナウチパ オツ タ アアヌ ワ イナウ ホントム タ アシレオコクテ ヒネ  
 inawcipa or\_ ta a=anu wa inaw hontom ta a=sireokokte hine  
 祭壇に置いて、イナウの中ほどに結び付け

アアヌ アクス ソンノ カ アウク ワ イサム ルウェ ネ オラ  
 a=anu akusu sonno ka a=uk wa isam ruwe ne ora  
 置いておくと本当に持っていかれて無くなってしまったのです。

クシケライポ ネ ニツネカムイ ウタラ コタン ウエンテ  
 kuskeraypo ne nitnekamuy utar kotan wente  
 そういふわけで悪い神たちが、村を荒らし、

モシリ ウエンテ クス アラキ ペ キムンカムイ スマウエ アコロ ペ  
 mosir wente kusu arki pe kimunkamuy sumawe a=kor pe  
 国土を荒らすためにやって来たものを、私が仕留めた熊の獲物が

マンプリ イコレ クシケライ アコロ モシリ アコロ コタン  
 manpuri i=kore kuskeray a=kor mosir a=kor kotan  
 お守りを私にくれたおかげで、我が国土、我が村に

アエプリウエン ワ アオナハ カ カムイ ウタラ イホメタロ プ ネ クス  
 a=epuriwen wa a=onaha ka kamuy utar i=hometaro p ne kusu  
 (神が) 加勢して、父も神々も私を誉めそやしたことなので

アエイソイタク オラウン ピリカ メノコポ アコロ ワ  
 a=eysoytak oraun pirka menokopo a=kor wa  
 私は話しているのです。そして私は美しい娘と結婚し

オッカヨ ポ カ アコロ メノコポ カ アコロ ワ  
 okkayo po ka a=kor menoko po ka a=kor wa  
 男の子も生まれ、女の子も生まれ

ネプ アエシリキラプ カ ソモ キ アウヌ ウタリ イコイレシパ  
**nep a=esirkirap ka somo ki a=unu utari i=koyrespa**  
 何も心配することもなく、母たちは私の子どもらを育て

イコヨマプ コロ オカアナイネ アピリカオンネレパ オカケ タ  
**i=koyomap kor oka=an ayne a=pirkaonnerepa okake ta**  
 かわいがって過ごしていたのですが、そのような幸せな晩年を送らせ看取ることができた後

パクノ ニシパ イサム ペ アネ ワ アポウタリ カ  
**pakno nispa isam pe a=ne wa a=poutari ka**  
 私もこれほど裕福な人は他にいないというほどの者となり子どもたちも

ピリカ シリ アヌカラ コツ タネ オンネアン シンネ クシ  
**pirka siri a=nukar kor\_ tane onne=an sinne kus**  
 幸せにすごしている様子を見ているうちに私も年を取ってしまったので

ネプ ネ ヤッカ アヌ ワ オカアン ペ ネ ナ。  
**nep ne yakka a=nu wa oka=an pe ne na.**  
 どんなことでも、あなたたちに話しているということなのです。

アポ ウタリ アパシクマ ハウエ ネ ナ  
**a=po utari a=paskuma hawe ne na**  
 私の子どもたちに物語ったのですよ。

シコロ シノ ニシパ ネ クル ハウエアン  
**sekor sino nispa ne kur hawean**  
 と本当に裕福な男が言いました。

ヤク アイエ。  
**yak a=ye.**  
 ということだよ。

#### 【注】

- [1] アエオカリ a=eokari のように聞こえるが、アからオに移行する際にわたり音のような形で聞こえる音か。

- [2] ここのイワカン ワ ポ ヘネ iwak=an wa po hene は、後に言うべき内容を間違っ  
て先に言ってしまったもの。
- [3] 音声はノシカ noska のように聞こえるが、ノカ noka か。
- [4] アムペツ…… ケ ampet... ke の部分は amke の言い間違い。

## 4-3 ウエペケレ「キムンカムイ カネ アワンキ イエルサ」解

## 説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：kimun kamuy kane awanki i=erusa [熊神が鉄の扇を私に貸した] ちゅう uepeker [散文説話] だな。これはな。

貝澤：そう、そうだな。

萱野：わたくしは1人の aynu [アイヌ] でありました。

えー、この aynu の uepeker というのは、いつでも sino nispa a=ne hine oka=an pe ne a hike [私は本当に裕福な者として暮らしていたのですが] というふうに始まるんですが、あー、御多分に洩れず、わたくしも非常にその金持ちのいい、いい aynu であったと。

である日のこと山へ行ったら、いつも沢山、熊は獲れるんですけども、いつもにもまして、形の上からも非常にその、いい熊を獲ることが出来て喜んでそれを家へ持って帰って、父の aynu と2人で丁寧に沢山の inaw [イナウ] を作り沢山のおみやげを作って、神の国へお返しする、いわゆるお祭りをした。

そして神の国へ帰した夜、夢を見たら立派な神様が夢枕に立って「これ aynu と、あんたは非常に精神のいい aynu なので、今日はあなたのところへわたくしはお客として来ましたよ。けれども、あなたの村にちょっとその気がかりな心配があるんですと、それというのは悪い、恐ろしい熊が2頭であの、aynu の村を食い荒らそうとして明日、出かけて来るのがわたしは分かっていると、だからそうして熊が来てはいかんで、わたくしは、あなたを助けようとして今日はお客として来たんす。それというのも、この熊は、手を出して助けるというわけにいかないんで、明日あなたが山へ行く時にいつも休むあのナラの木の下へ寄ってみて下さいと。そこで、わたくしはあなたに貸すその、アイヌ語でこう、お守りのことを mampuri [お守り] という言葉で言っていますが、そのお守り、という言葉が訛ったんで、訛ったんだと思いますが、その mampuri を置いておくと、それというのは、扇なんだと、アイヌ語で、アイ……



ま、アイヌ的な発音すると **kane awanki** [金属の扇] というふうに言っておりますが、

貝澤：うちわの話だ。

萱野：その扇を持ってそこへ置いておくと、その扇の片面には、**menis noka** [凍雲の模様] いわゆる寒さを……の絵を描いてある。もう一方には太陽の絵を描いてあると、したがってその寒い方を扇ぐと、たちまちその辺一面は氷になるし、暑いほうは、暑……で扇ぐと、たちまちその辺は暑くなる、というふうに出来ているから、それを持って明日、来るその2人連れの悪い神様を待ちなさいと。それはあの2人連れで来たら、すぐにもう山の方へ出かけ……山の方から出かけて来るから迎えうつようにしてその扇を持って木の陰なんかで待っていなさいよと。それは神様である私がするので決してあなたは、その悪い神様から見られることはありませんから。だから、私の言うようにしなさいと。

そして、まず最初にその暑い方の面で扇ぐと、その者たちは早速その、裸になって、そして今まで湖もなかったところに急にその湖が出る……出来るからそこへ奴ら2人が入って泳ぎ始めると。そうしたらその時にはその泳ぐ……泳ぎ始めた、その湖の真ん中頃まで泳いで行ったら、いわゆる寒い方の面で扇ぎなさいと。そうするとたちまちにして湖は凍るでしょうと。そういうことによって、その悪者どもは凍ってしまいますよ」と。そのように神様が夢でお告げをしてくれた。

わたくしは夜明けとともに支度をしてさっそく言われたいつも休むその太いナラの木の側まで出かけて行った。そこには綺麗な、くさつ……包みの中で、その銀の扇が入っておったと。その一方は、いわゆる暑さの方のもの、一方は寒さの方の絵を描いてあるので、それでそれを持ってまず山の方へ出かけて行った。

そうしたら夕べに夢に見た神様のお告げの通り、**aynu** といっても **aynu** らしくもない、まあ一応、人間の形はしておるけれども恐ろしい化け物のような2人の人間がやって来たと。だから神様に言われた通り、いわゆるその **sukus noka** [日ざしの模様]、こう太陽の方の絵の付いた方で扇ぐとゆっくりゆっくり扇いでいると、もうその2人連れはもう「暑い暑い」と言い始まった。

そしたら目の前に湖があるので、湖のへりに、まかない [身に着けているもの] を解いておいて、そして泳ぎに入ってしまった。途中まで泳いで行ったところに、こちらからこう、まだ (また) 寒い方のあれでやると、

たちまち湖は凍って2人がその湖の真ん中ごろで凍りついてしまった。

そして弟神の言うのには「それ見たかと。兄よと。こんなことして誘ってくれなければ、こうして来て **aynu** のところへ来て悪さをしようとしたおかげでこんなふうに湖で凍りついちゃうのに本当に残念なことだ」と言いながらそこで凍りついてしまった。

それを見ながらわたくしは家へ帰って来て父に報告をし「このようにして悪い2人を退治して来ましたよ」と言いながらその神様からお借りした扇とか、そうした物は次の日に **inaw** [イナウ] をたくさん付けて、その **inawcipa** [幣場] という外の祭壇のところへ掛けておいた。

そしたら神様のおっしゃったとおりに神様はそこへ取りに来て持って行ったらしく、そこではありませんでしたが、おかげで村は何事も無く救われましたと、だから精神良くしておくで精神のいい人間、精神のいい **aynu** には常に神様が守って、そういう恐ろしいことも未然に防ぐことが出来ましたよ。これからの **aynu** たちも常に行いを正しく精神をまともに持つことによっていつまで平和で暮らすことが出来ましようよ。

と1人の **aynu** が言って死にました。

よく聞いたかい？

貝澤：よく聞いたか！ 聞いたよ、言ったべし。

萱野： **ikonpap** [芋虫] (?)

貝澤： **upopotata** (イムという驚いた時の発声か)

## 4-4 ウエペケレ

「アオナハ ウエンカムイ オロワ アウク」

父は悪神にとられた

語り：貝澤とうるしの

アウヌフ アン ヒネ オカアニケ アシヌマ アナクネ  
a=unuhu an hine oka=an h\_ike asinuma anakne  
私は母と暮らしていました。私には

アオナ アン ペ ネ ヤク アイェ コロカ ナ ポナニネ  
a=ona an pe ne yak a=ye korka na pon=an h\_ine  
父がいると言われていましたが、まだ私が小さい頃から

マク ネ ワ イサム ペ ネ ヤ アウヌ チシ コロ パテク アン ワ  
mak ne wa isam pe ne ya a=unu cis kor patek an wa  
どういったわけで（父が）いないのか、母は泣いてばかりいて

もう ネ エネ ネ ワ アオナ イサミ カ イエパカシヌ カ ソモ キ。  
MOU ne ene ne wa a=ona isam h\_i ka i=epakasnu ka somo ki.  
どうして父がいないのか私に教えてくれることも無かったのです。

オラウン トゥ イペ レ イペ ソモ キ ノ チサ チサ コロ パテク  
oraun tu ipe re ipe somo ki no cis a cis a kor patek  
そうして母は2度も3度も食事を抜いて、泣いてばかり

アン ハウエ エネ アニ。  
an hawe ene an h\_i.  
いる様子がこのようでした。

「セコロ セコロ クワリアン ペ ネ ナ」  
“sekor sekor kuari=an pe ne na.”  
「こうこうこの様にして仕掛け弓を仕掛けるんだぞ。」

シコロ アン ペ オツカイポ ウタラ イエパカシヌ ワ クアリアン クス  
**sekor an pe okkaypo utar i=epakasnu wa kuari=an kusu**  
 ということを若い男たちが私に教えてくれ、私は仕掛け弓をかけるために

エキムネアン コロ エネ ハウエアニ  
**ekimne=an kor ene hawean h\_i**  
 私が山へ行こうとしている時に母がこのように言ったのです。

「イキアニキアン チュッポク ワ クシ ペツ オルン エエキムネ ナ、  
**“ikian ikian cuppok wa kus pet or un e=ekimne na,**  
 「絶対に西を流れる川へ狩りに行ってはいけないぞ、

ソモ チュッポク ワ クシ ペツ オルン エキムネアン ペ ネ ナ。」  
**somo cuppok wa kus pet or un ekimne=an pe ne na.”**  
 西を流れる川へ狩りに行くものではないぞ。」

シコロ ハウエアニ ワ コロ オラ コント シセンピルン ノ アン ワ  
**sekor hawean wa kor ora konto sisenpir un no an wa**  
 と言いながら今度は後ろを向いて

チサ チサ チサ コラン、アオヤモクテ コロ アナナイネ  
**cis a cis a cis a kor an, a=oyamokte kor an=an ayne**  
 泣いて泣いて泣いてばかりいるのです。私はそれを不思議に思っていました。そして

タネ ユク クワリ カ カムイ クワリ カ アエアシカイ ワ スマウ カ  
**tane yuk kuari ka kamuy kuari ka a=easkay wa sumaw ka**  
 今では鹿の仕掛け猟も熊の仕掛け猟もできるようになったので私は獲物を自分で

アコロ コロ アナン ラポッケ エネ ハウエアニ  
**a=kor kor an=an rapokke ene hawean h\_i**  
 獲っているのですが、そうしているうちに母はこのように言いました。

「クス ハウエアナン ペ アナクネ エオナハ ナ エパシテッテレケ ヒネ  
**“kusu hawean=an pe anakne e=onaha na e=pastetterke hine**  
 「あのようにつけていた理由は、お前の父親はお前がよちよち歩きの頃

エキムネ プ オラ チュッポク ワ クシ ペッ オルン エキムネ プ  
**ekimne p ora cuppok wa kus pet or un ekimne p**

山獵に行ったのだが、西を流れる川へ獵に行ったのだが、

コント イワク イサム ルウェ ネ ワ、ソレクス チシ パテク  
**konto iwak isam ruwe ne wa, sorekusu cis patek**

それから帰ってこないのだ。それこそ私はずっと泣いてばかり

アキ コロ オカアン オラ ネイ タ カ ケウ ポカ カ アパ カ ソモ キ  
**a=ki kor oka=an ora ney ta ka kew poka ka a=pa ka somo ki**

いたのだが、そしてどこかから遺体が見つかるということさえもなかったんだよ。

イフナラパ ウタラ パヨカ ヒケ カ キ ワ、エネ アラム ヒ カ イサム ペ ネ  
**ihunarapa utar payoka hike ka ki wa, ene a=ramu hi ka isam pe ne**

探しに出た人たちがあちこち歩き回っても見つけ出すことができず、どうにもわからなかった。

ルウェ ネ ナ イキアン イキアン<sup>[1]</sup> チュッポク ワ クシ ペッ オルン  
**ruwe ne na. ikian ikian cuppok wa kus pet or un**

だから絶対に西を流れる川へ

エエキムネ ナ」  
**e=ekimne na.”**

お前は獵にいつてはならないよ。」

シコロ パテク アウヌフ イイエ コロ オカアン ワ アエオハイシトマ  
**sekor patek a=unuhu i=ye kor oka=an wa a=eohaysitoma**

このことだけを母は私に言いつつ暮らしていたのですが、気味が悪いことに

ネイ タ カ アオナハ ライ シリヒ ポカ アパ アン ハウェ カ イサム ノ  
**ney ta ka a=onaha ray sirihi poka a=pa an hawe ka isam no**

どこかで父の死んでいる姿さえ見つかったという話もなく母がそのように言うので、

アウヌ ハウェアン ワ ソレクス たんたに ポロアニ ウン(?) アナクネ アウヌ  
**a=unu hawean wa sorekusu TANTANI poro=an h\_i un(?) anakne a=unu**

それこそだんだんと成長すると母と一緒に私も泣いてばかり

エイリパク チシ パテク アキ コロ アナン ペ ネ ア コロカ  
**eirpak cis patek a=ki kor an=an pe ne a korka**

いて暮らしていたのですが、

アオナ コロ クチャチセ  
**a=ona kor kucacise**

父の狩り小屋のことを

「タアン ウシケ タ タアン ウシケ タ トウスヤン (?) タン ペ ネ」  
**“taan uske ta taan uske ta tusuyan(?) tan pe ne.”**

「ここにも、ここにも、またここにもあるんだよ。」

シコロ ハウエアン。

**sekor hawean.**

そのように言います。

「まっしぐ ペツ カリ パイエアン コロ ハンケ クチャチセ アン  
**“MASSIGU pet kari paye=an kor hanke kucacise an**

「まっしぐ川に沿って行くと近くの狩り小屋があって

アツカリ パイエアン コツ トウイマ クチャチセ アン ペ ネ ナ」  
**akkari paye=an kor\_ tuyma kucacise an pe ne na.”**

さらにそれを越して行くと遠くの狩り小屋があるのだよ。」

シコロ ハウエアン コロ アン ペ ネ オラ ユク カ カムイ カ タネ  
**sekor hawean kor an pe ne ora yuk ka kamuı ka tane**

と（母は）言いながらいたのです。そうして今は鹿でも熊でも私が獲って

アライケ ワ アエ コロ ポ アウヌ チサ チサ コラン。アエランペカマム コロ  
**a=rayke wa a=e kor po a=unu cis a cis a kor an. a=erampekamam kor**

それぞれを食べていたのですが母はさらに泣いてばかりいました。私はそのことを思い悩み

アナナイネ タネ ポロ オッカヨ アネ ヒ クス シネ アン タ  
**an=an ayne tane poro okkayo a=ne hi kusu sine an ta**

ながらいたのですが、今は私も立派な大人の男になったのである日山獵に出て

エキムネアニネ ウェン ヘネ ピリカ ヘネ キ ヤッカ ネ エネ ネ ヒ  
 ekimne=an h\_inewen hene pirka hene ki yakka ne ne ene ne hi  
 悪かろうが良かろうが、どうなっているのか

ペツ ネ ヒ アヌカン ルスイ クス ネ チュッポク ワ クシ ペツ  
 pet ne hi a=nukar\_rusuy kusu ne cuppok wa kus pet  
 川の所を見てみたいのでその西を流れている川の

ペツ オプトウ タ アラパアンニネ アコロ ペツ と チュッポク ワ クシ ペツ  
 pet oputu ta arpa=an h\_inea=kor pet TO cuppok wa kus pet  
 川尻に行き、我々の川の川尻と西を流れる川が

ウトモシマ ウシケヘ タ セプ ケナシ オツ タ アペ アアリ ヒネ ネ  
 utomosma uskehe ta sep kenas or\_ta ape a=ari hine ne  
 ぶつかり合流する場所の広い木原で火を焚き、その

チュッポク ワ クシ ペツ ヘタプ ナイ ヘタプ プトウフ ポ タ アペ アアリ  
 cuppok wa kus pet hetap nay hetap putuhu po ta ape a=ari  
 西を流れる川だか沢だか、その河口に火を焚き、大きな火を焚きそして

ポロ アペ アアリ ヒネ エタカスレ ポロンノ アペ アアリ イネ  
 poro ape a=ari hine etakasure poronno ape a=ari h\_inew  
 さらにいっぱい火を焚いてそして

オラウン ポン パンチョ ムカラ アコロ ペ ネ ヒケ  
 oraun pon panco mukar a=kor pe ne hike  
 それから私は小さな手斧を持っていたので

アペ オシマク タ アペ カットウイマノ アラパアン ヒネ  
 ape osmak ta ape kattuymano arpa=an hine  
 火の背後、火から離れているところまで行きそして

ネ ポン パンチョ ムカラ アシチョロポコマレ ヒネ アナナクス  
 ne pon panco mukar a=sicorpokomare hine an=an akusu  
 小さな手斧を自分の体の下に入れてみると、

タネ シリクンネ ルウェ ネ アクス ネア チュッポク ワ クシ ペッ  
 tane sirkunne ruwe ne akusu nea cuppok wa kus pet  
 もう辺りが暗くなったのでその西を流れる川

ペッ ペシ ルイ レラ サン フム ネノ カネ フマシ ヒネ ヘマンタ サニネ  
 pet pes ruy rera san hum neno kane humas hine hemanta san h\_inē  
 川に沿って強い風が吹き下ろしてきたような感じがして、何かが下って来て

アペ サム タ サン ワ インカラナクス アイヌ カ ウタラパケ  
 ape sam ta san wa inkar=an akusu aynu ka utarpake  
 火の近くへと下って来たのを見ると男のなかでも特に立派な男性

ネ ア ノイネ アン ペ オラウン ソレクス ナン オ ウシケ ヌマ トウラ  
 ne a noyne an pe oraun sorekusu nan o uske numa tura  
 であるようで、そしてそれこそ顔のあるあたりに毛が

ルウェヘ ネ ヤ アエラミシカリ ノ アン ヒネ オラウン  
 ruwehe ne ya a=eramiskari no an hine oraun  
 見たこともないほどに生えていて、そして

アペ サム タ ア ヒネ ヌペコラパプセ コロ アン  
 ape sam ta a hine nupekorapapse kor an  
 火の側に座り涙を流しているのですが

アイネ エネ ハウエアニ  
 ayne ene hawean h\_i  
 このように言うのです。

「エアン ウシケ アエランペウテク カ ソモ キ ルウェ ネ ナ  
 “e=an uske a=erampewtek ka somo ki ruwe ne na,  
 「お前がいる場所を私が知らないというわけではないのだ、

タン アポホ エネ ワ イタカン ワ エイヌ カトウ エネ アニ。  
 tan a=poho e=ne wa itak=an wa e=inu katu ene an h\_i.  
 これ、お前は私の息子であって私が説明するのをお前が聞く様子とはこうだ。



タン チュッポク ワ クシ ペツ パクノ ウエン カムイ エウタンネ  
**tan cuppok wa kus pet pakno wen kamuy ewtanne**  
 この西を流れる川ほどの悪い神が集まる

ウエン カムイ オ ウシケ イサム ペ ネ アアン ペ、ペツ トウラシ  
**wen kamuy o uske isam pe ne aan pe, pet turasi**  
 悪い神がいるところはなかったのだが、この川に沿って

エキムネアン オラウン アラウエン カムイ イライケ ルウェ ネ ワ  
**ekimne=an oraun arwen kamuy i=rayke ruwe ne wa**  
 狩りをしていると非常に悪い神が私を殺して

ウエン カムイ ネ アナン ペ オラウン エチチシ ロク エチチシ ロク コロ  
**wen kamuy ne an=an pe oraun eci=cis rok eci=cis rok kor**  
 私自身も悪い神となったのだ。それからはお前たちが泣いて泣いてばかり

エチオカイ ペ ネ クス カムイ フチ イエコアスラニ ワ  
**eci=okay pe ne kusu kamuy huci i=ekoasurani wa**  
 いるので、火の神の老婆が私にそのことを知らせてくれ

『アエランペカマム ルウェ ネ。ネウ カ エウエンタラパレ エネ  
**'a=erampekamam ruwe ne. new ka e=wentarapare h\_ene**  
 『私もそれについて思い悩んでいたのだが、何とかしてお前に夢を見させるなり

ヤラ ヘネ キ ヤク エウタリ エイタサ イテキ ネノ イキ プ  
**yar hene ki yak e=utari eytasa iteki neno iki p**  
 して、お前の家族があんまりそのように（泣いてばかり）いないようにと、

アシヌマ カ アエランペカマム ペ。』  
**asinuma ka a=erampekamam pe.'**  
 私もそのことで思い悩んでいるのだ』

シコロ カムイ フチ ハウエアン クス  
**sekor kamuy huci hawean kusu**  
 ということをお前の神の老婆が言うので

タナンチカッ タ タント オッ タ アエシコエクテ ワ エエク ルウェ ネ ナ  
 tanancikar\_ ta tanto or\_ ta a=e=sikoekte wa e=ek ruwe ne na  
 今晚、今日私がお前を呼び寄せたからお前が来たのだ。

エオナハ アネ ワ パクノ ニシパ イサム ペ アネ ワ アナン ペ  
 e=onaha a=ne wa pakno nispa isam pe a=ne wa an=an pe  
 私はお前の父で私ほど裕福な者は他にいないというほどだったが

ネ ア コロカ ソレクス カムイ イケシケ ウェン カムイ イケシケ ワ  
 ne a korka sorekusu kamuy i=keske wen kamuy i=keske wa  
 神が私を嫌い、悪い神が私を嫌って

チュッポク ワ クシ ペッ ペッ トウラシ アラパアニネ アン ペ  
 cuppok wa kus pet pet turasi arpa=an h\_ine an pe  
 西を流れる川その川沿いに私が上っていくと

オラウン ウェン レラ イカ クシ エイリパク カミアシ イライケ ワ  
 oraun wen rera i=ka kus eirpak kamiasi i=rayke wa  
 悪い風が私の上を通りそれと同時に化け物が私を殺したので

ソレクス アラウエン カムイ ネ アナン ルウェ ネ ワ クス エウヌ  
 sorekusu arwen kamuy ne an=an ruwe ne wa kusu e=unu  
 私自身もとても悪い神となってしまったのでお前の母が

ハウエアニ チュッポク ワ ケク…… クシ ペッ オロ ウン イテキィ エキムネ  
 hawean h\_i cuppok wa kek... kus pet or un iteki ekimne  
 お前に西を流れる川へ獵に行ってはいけない、

シコロ ハウエアン ヒ カ アエラマン ノ アナン ルウェ ネ コロカ  
 sekor hawean hi ka a=eraman no an=an ruwe ne korka  
 と言っていたことも私は知っているのだが、

アシヌマ アレンカイネ ネ クシ テウン アナク ぜったい ソモ エエキムネ  
 asinuma a=renkayne ne kus teun anak ZETTAI somo e=ekimne  
 私の意思でもあるので、お前にはここでは絶対に獵をしないこと、

ノ エイラウケトウパ ヤク ピリカ オラウン エイタサ エチチシ  
**no e=irawketupa yak pirka oraun eytasa eci=cis**  
 働かないことだ。そしてあまりにもお前たちが泣いて

ヤクネ ワカ ウェン ナ、エイタカ…… エイタサ イテキ チシ ノ タネ  
**yakne waka wen na, eytaka... eytasa iteki cis no tane**  
 ばかり泣いてはかえってよくない。あまり泣かないようにして、お前はこれ

パクノ アノッカヨ エネ ヤクン ネイ ワ カ メノコ エエトウン ワ トウラノ  
**pakno an okkayo e=ne yakun ney wa ka menoko e=etun wa turano**  
 ほど立派な大人となったのだから、お前はどこからか嫁を貰い、一緒に母親を助けて

エウヌフ カシ エチオイキ オラウン エウヌ エウン  
**e=unuhu kasi eci=oyki oraun e=unu eun**  
 それからお前がお前の母親に

エハウエアナウエ アナクネ スケ ワ チャラパ ヤッカ アウク カ  
**e=hawean h\_awe anakne suke wa carpa yakka a=uk ka**  
 話す内容というのは、料理を作り撒いて供養をしようとしても私はそれを受け取る

エアikap ルウェ ネ。シンリトッ タ アラパアン カ ソモ キ ルウェ ネ。  
**eykap ruwe ne. sinrit or\_ ta arpa=an ka somo ki ruwe ne.**  
 ことも出来ない、私は先祖のところへ行ったのではないのだ。

アラウエン カムイ ネ アナン ニサ ルウェ ネ ナ。イテキ チシパ ノ  
**arwen kamuy ne an=an nisa ruwe ne na. iteki cispa no**  
 ひどく悪い神になってしまったのだよ。お前たちは泣いたりしないで

エチウニヒ エブンキネ ワ オカ ヤン。タップ パクノ イタカナクン オラウン  
**eci=unihi epunkine wa oka yan. tap pakno itak=an y\_akun oraun**  
 お前たちの家を守っていてくれ。ここまで話したら、

ネイ ワ カ ウェンタラプ オッ タ ポカ  
**ney wa ka wentarap or\_ ta poka**  
 これからは夢でさえ

イヌカラ カ エラミシカリ オアシ プ

**i=nukar ka eramiskari oasi p**

私を見ることもできなくなるぞ。

ネ ルウェ ネ ナ。ウエンカムイ エ…… オ ウシケ チュッポク ワ クシ

**ne ruwe ne na. wenkamuy e... o uske cuppoku wa kus**

悪い神の住むところが西を流れる

ペツ ネ ルウェ ネ ナ。イテキ エウン エエキムネ エウタリ カ

**pet ne ruwe ne na. iteki eun e=ekimne e=utari ka**

川なのだから、お前はそこには決して獵に行つては行けないし、お前の村の仲間たちにも

イテキ エウン エキムネ クニ エイエ プ ネ ナ」

**iteki eun ekimne kuni e=ye p ne na.”**

そこには獵に行つてはいけないと伝えるのだぞ。」

シコロ ハウエアン コロ ナニ ネア ナイ トウラシ オウセ ホプニ ヒネ

**sekor hawean kor nani nea nay turasi ouse hopuni hine**

そう言いながらすぐその川に沿い上流に向かって飛んでいき

イサム ルウェ ネ。ソレクス アラチサナ アナ コロ ネア アコロ

**isam ruwe ne. sorekusu arcis=an a =an a kor nea a=kor**

いなくなってしまったのです。それこそ私はひどく泣きに泣きながら私の

ポン パンチョ ムカラ アウキネ アペ サム タ アラパアニネ チサン コロ

**pon panco mukar a=uk h\_ine ape sam ta arpa=an h\_ine cis=an kor**

手斧を取り上げ火の近くまで行って泣いていたのですが

「オロヤチキ オナ コロ ペ エネ アナウエ ネ プ

**“oroyaciki ona kor pe e=ne an h\_awe ne p**

「なるほど、お前（自分）には父親がいたということだが、

オラウン ネプ ウエンカムイ

**oraun nep wenkamuy**

なんとも悪いカムイ、なんとも悪い神

ネプ ウェンピト アン クス オナ ネ マヌ プ カ エエイコイトウパ コロ  
**nep wenpito an kusu ona ne manu p ka e=eykoytupa kor**  
 がいたせいで、父というものをお前は羨ましがること

エアン ハウエ アン」  
**e=an hawe an.**”  
 なったのだな」

シコロ ヤイヌアン ワ チサナ コロカ オラ ウェンカムイ ネ アナウエ ネ プ  
**sekor yaynu=an wa cis=an a korka ora wenkamuy ne an h\_awe ne p**  
 と考えて泣いていたのですが（父は）悪い神となったという話だし

エイタサ チサン カ エトランネ クス オラウン コント  
**eytasa cis=an ka etoranne kusu oraun konto**  
 泣いてばかりいるのも父が嫌がるので、それから今度は

ハンケ クチャ オルン シリハンケ プ ネ クシ エウン サナニネ オロ タ  
**hanke kuca or un sirhanke p ne kus eun san=an h\_ine oro ta**  
 近場の狩り小屋はそこから近いのでそこに下って行き、そこで

アンケシ ワノ ネ コロカ アナニネ、オラウン イワカン。ポイ ユク シネプ  
**ankes wano ne korka an=an h\_ine, oraun iwak=an. pon\_ yuk sinep**  
 明け方近くはなっていましたがそこにとどまり、それから家へ帰りました。小さな鹿を1頭

アライケ ヒネ イワカン ルウエ ネ コロカ オラ アイポロ クルクシ ワ  
**a=rayke hine iwak=an ruwe ne korka ora a=iporo kurkus wa**  
 獲って帰ったのですが、私が沈んだ顔つきで

イワカン ペ ネ クス アウヌフ ネウ カ ハウエアン カ ソモ キ ヒクス  
**iwak=an pe ne kusu a=unuhu new ka hawean ka somo ki hikusu**  
 帰って来たため母は何も喋ろうとはしませんでした。なので

「タプネ タプネ インカラン ルウエ ネ イヌアン ルウエ ネ ナ、アウヌフ  
**“tapne tapne inkar=an ruwe ne inu=an ruwe ne na, a=unuhu**  
 「こうこうということを私は見たり聞いたりしてきたのですよ。母さん、

カムイフチ カ エランペカマミ カ アヌ ルウェ ネ ナ。エイタサ  
**kamuyhuci ka erampekamam h\_i ka a=nu ruwe ne na. eytasa**  
 火の老婆神も困っているということも聞きました。あまり

イテキ チシ タネ ウエンカムイ ネ アナ アオナハ キ ワ  
**iteki cis tane wenkamuy ne an a a=onaha ki wa**  
 泣かないで今は悪い神となっている父ですが、

ウエンカムイ オロ ワ アウク ワ ウエンカムイ ネ  
**wenkamuy or wa a=uk wa wenkamuy ne**  
 別の悪い神にとられて、悪い神になってしまったのだ

アン ルウェ ネ プ ネ ヤク イェ コロ カミアシ ネノ アン シリヒ  
**an ruwe ne p ne yak ye kor kamiasi neno an sirihi**  
 といことを（父から）説明されて、その化け物のような姿を、

アヌカラ ウ…… ワ オラ オウセ ホプニ シリ アヌカラ ナ、イテキ チシ。」  
**a=nukar w... wa ora ouse hopuni siri a=nukar na, iteki cis.”**  
 見て空中を飛んでいった様子も私は見てきたのですよ。泣かないで下さい。」

シコロ ハウエアナナクス アエコオロスツケ ア ペコロ  
**sekor hawean=an akusu a=ekoorstutke a pekor**  
 と私が言うとその言葉にさらに促されたかのように

スイ パラパラク コロ アナ コロカ オロワノ アナク  
**suy paraparak kor an a korka orowano anak**  
 また大声を上げて泣いていたのですが

ポロンノ チシ カ ソモ キ ノ コント イパロスケ コロ アナン  
**poronno cis ka somo ki no konto i=parosuke kor an=an**  
 大泣きするのをやめて今度は私のために食事を作りました。

オラ アエランポキウエン ペ ネ クシ ユク ポカ アライケ ワ  
**ora a=erampokiwen pe ne kus yuk poka a=rayke wa**  
 それで私は母のことがかわいそうなので、鹿でも獲って来てはそれで

パロ アエイキ (?) コロ アナナイネ イパナケ タ インネ コタン  
 paro a=eyki(?) kor an=an ayne i=panake ta inne kotan

母の面倒をみていました。そして、私の村より下流には多くの人が住む

ポロ コタン アン ペ ネ ルウェ ネ ヒケ エウン アウヌフ サン ランケ  
 poro kotan an pe ne ruwe ne hike eun a=unuhu san ranke

大きな集落があるのですが、そこへ母が何度も下って

コトム アン ペ ネ ア プ コタン コロ クル トウ ポ コロ ペ ネ プ  
 kotom an pe ne a p kotan kor kur tu po kor pe ne p

行っている様子なのですがその村長には子どもが2人いましたが

ポニウネ ワ アン ニシパ イヨルン エク クニ イェ クシ サン ヒネ  
 poniwne wa an nispa i=or un ek kuni ye kus san hine

年下の方の立派な息子を私のところへ来させるように言うために母は下って

アン イネ ソレクス ニシパ コロ ペ ピリカ ヒケ アウニ エシク ペ ネ クス  
 an h\_ine sorekusu nispa kor pe pirka hike a=uni esik pe ne kusu

行き、それこそ長者の持ち物の中でも立派なもので私たちの家中をいっぱいにしたので

ネ オッカイポ イヨツ タ アン クニ エイコラムコロ ヒネ ネ アニネ,  
 ne okkaypo i=or\_ ta an kuni eykoramkor hine ne an h\_ine

その若者が私たちのところに暮らすように相談していたのですが、それから

オラウン トウンナネ ワ アウヌ カシ アオイキ アイネ コント  
 oraun tun a=ne wa a=unu kasi a=oyki ayne konto

その若者と私の2人で母の面倒をみていて、それから

ピリカ メノコポ アエトウン イネ トウラノ アナン オラ  
 pirka menokopo a=etun h\_ine turano an=an ora

美しい娘を私は嫁にもらい一緒になりました。そして

イリワク ネ アコン ネ オッカイポ キ ワ ウタシパ ウエニシテアン コロ  
 irwak ne a=kor\_ ne okkaypo ki wa utaspa ueniste=an kor

その若者とは兄弟のようにして互いに頼りあいながら

アナナイネ ネ コタン オロ ワ ネ オツカイポ カ マテトウン ワ  
**an=an ayne ne kotan or wa ne okkaypo ka matetun wa**  
 暮らし、そしてその村からその若者も嫁をもらい

イソイケ タ アン ワ トウ チセ ネ オカアン ワ ウタシパ ウエプンキネアン  
**i=soyke ta an wa tu cise ne oka=an wa utaspa uepunkine=an**  
 我が家のすぐ近くにおいて2つの家でそれぞれ暮らし互いに助け合っている

ペ ネ クス オヤチキ ピリカ オナ アコロ ペ ネ アアン ペ、  
**pe ne kusu oyaciki pirka ona a=kor pe ne aan pe,**  
 ので、元来、私には良い父がいたのですが

チュッポク ワ クシ ペツ オルン エキムネ オラ  
**cuppok wa kus pet or un ekimne ora**  
 西を流れる川へ獵に行きそして

ウエンカムイ オロ ワ アウク ワ ウエンカムイ ネ アン ヒ エサラタラ  
**wenkamuy or wa a=uk wa wenkamuy ne an hi esaratarara**  
 悪い神にとられて、父自身が悪い神になってしまったことを言葉でも

アヌ カ キ ウエンカムイ カツコン ルウェ アヌカラ カ キ ワ アイェ カ  
**a=nu ka ki wenkamuy katkor\_ ruwe a=nukar ka ki wa a=ye ka**  
 聞き、悪神の姿を見もし、言うのも

エヤイカラム アイェ カ シトマ プ ネ ア コロカ アシトマ ペツ  
**eyaykaram a=ye ka sitoma p ne a koraka a=sitoma pet**  
 不安で恐ろしいことだったので恐ろしい川

チュッポシ…… クワ ワ クシ ペツ オルン エキムネ ネ アニ アヌカラ カ  
**cuppos... k wa kus pet or un ekimne ne an h\_i a=nukar ka**  
 西を通る川へ獵に行った時に私が見たり

アヌ カ キ プ ネ アクシ アイェ ハウエ ネ ナ アシンノ オカ ウタラ  
**a=nu ka ki p ne akus a=ye hawe ne na. asinno oka utar**  
 聞いたりしたことなのでこのように話したのですよ。若い人たちよ



イテキ チュッポク ワ クシ ペツ オルン エキムネ ヤン。

**iteki cuppok wa kus pet or un ekimne yan.**

西を流れる川へ獵にいったはいけませんよ。

シコロ シノ ニシパ ハウエアン ヤク アイエ。

**sekor sino nispa hawean yak a=ye.**

と本当に裕福な男が語りました。ということだよ。

(萱野：はい。)

**【注】**

[1] 音はイカンのように聞こえる。

[2] チュッポシ……クは cuppok の言い間違い。

## 4-5 ウエペケレ「アオナハ ウエンカムイ オロワ アウク」解

## 説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：わたくしは母と2人暮らしで暮らしておる1人の **aynu** [アイヌ] の少年でした。

母は父が昔に亡くなったと言って、泣きながらわたくしを育ててくれ、そして少し大きくなると、「鹿の仕掛け矢はこういうふうにするんですよ、熊を獲る時はこういうふうに獲るんですよ。」と言いながらいろいろなその猟の方法だとか母が教えてくれ、そしてわたくしは成長しました。

で、母の言うのには「あなたの父は猟に出てそのまま **wen kamuy** [悪い神様] いわゆる悪い神様にとられるといいましようか、悪い精神にすげ替えられて、もう帰ってくることも忘れて山でおるんですよ。ですから決してあの、西の方の沢へは猟に入ってははいけません。」

それは **cuppok** [西] だから西でいいな？

貝澤：うん、そうだ。

萱野：「西の方の沢へは入ってははいけませんよ」と言われながらわたくしは成長した。

けれども1度行ってみたいなど、そんなふうに考えてもおるある日のこと、わたくしは1人でこっそり家を抜け出して、その西の方の沢へ出て沢へ入って行った。そうするとそこで **kuca cise** [狩り小屋] いわゆる一軒の狩り小屋があったので、そこを掃除し、そして火を焚いて、そこへまあ、ひと晩泊まることにした。

武器として持って行ったのは **pon panco mukar** [小さな大工の鉞] という言い方でアイヌ語で出ていましたが、**panco mukar** というのは同じ鉞でも、「手はびろ」と言って右手1つで使える鉞のこと。アイヌ語は **panco mukar** と言うんですが、その、鉞を自分の寝ておる下へ、こう隠すようにして、何かその悪い化け物が来たらそれで切り付けてやろうと、そんなふうに考えて、その **panco mukar** を自分の寝ておる下へ入れて、

そして黙ってその、耳をすませてその **wen kamuy**、悪い化け物の来るのを待っておった。

寝てしばらくすると、沢の上の方から、一陣の風が吹いて来るように何かその空を飛ぶような、空（くう）を飛ぶような感じでその、しばわら（しばらく（?））風と一緒に来たのをじっとして耳を澄ませて聞いていた。

そしたら、ひょいっとその狩り小屋の中へ入って来たのは人間、体は人間らしい体しておるんですけれども、体つきだけ人間、顔中はもう毛がもしゃもしゃで本当に人間という感じも1つもしないような化け物のような者が入って来て、黙ってその火を焚いてあるそばへ座って、ハラハラと涙をこぼしながら言うのには「お前はそこへ隠れておることもわたくしは知ってますと。わたくしはあなたの父である **aynu** なんだよ。けれどもお前が **pastetterke** [よちよち歩きする] という言葉で表現していますが、よちよち歩きの、歩きをしておる時に、この沢へ猟に来たらその悪い化け物のその風が自分にあたったと、同時にこういうふう顔中、体中、何となくその化け物のような顔になってしまった。それから戻る、**aynu** の村へ戻ることも出来ずに化け物の仲間入りして生活しておるんだけれども、お前の母、そしてお前が泣いてばかりおるので、その泣いた涙とかそうしたものがわたくしの方へ送られてくるような状態になって、全然その、いくら **wen kamuy** 悪い神様の国での生活でも、もう生活することも出来なくて、それでなおさら不自由しておるんだと、だからあまり泣かないようにお前の母に言ってくれないかと。もうこれから泣いてもどうすることも帰ることも出来ませんから。」と言いながらその神様……でない、私のその **aynu** の父であったという化け物が山の方へ帰って行った。

それからわたくしはその、まあ **panco mukar** 手はびろを持って、そのまま家へ帰って来たら、母は私の顔色を見て「ああ何かあったな」ということを感づいてあまり話しかけようとしません。けれどもわたくしの方から話しかけて「こういうようなことで父はもうすっかり悪い神様の仲間入りをしていましたよ。だからその、今からいくら泣いても戻って来ることも出来ないと言ったからこれから泣かずに生活しましょう。そして父もそれによって悪い神様、化け物は化け物らしい生活に入るといっていましたから」と1人のアイヌが言いました。

という **uepeker** [散文説話] です。これ普通の **aynu uepeker** [アイヌの散文説話] でしたね。

でもその **aynu uepeker** の中でもその **pon panko mukar** とか、いわゆ

るその生活の中での道具がそんなような形で表現されておることなどは、何かしらその同じ **uepeker** の中でもそういう日本ふうな、手はびろと普通言うものはアイヌ語では **pon panko mukar** というふうに、鉞だけのことは **mukar** [鉞] といいます、**pon** [小さい] を付けて **panco** [大工] 付けて **pon panko mukar** という呼び……言い方をしているところがこの **uepeker** [散文説話] のちょっと違うところかと思われます。**uepeker**。

## 4-6 オンネ パシクル

## 年寄りガラス

語り：貝澤とうるしの

オンネ パシクル イネ  
onne paskur ine

年寄りガラスはどうした

タラ タク ワ イサム  
tara tak wa isam

俵を持って行ってしまったよ

ネ タラ イネ  
ne tara ine

その俵はどうしたの

サケ アカラ ワ イサム  
sake a=kar wa isam

酒を醸してしまったよ

ネ サケ イネ  
ne sake ine

その酒はどうしたの

アク ワ イサム  
a=ku wa isam

飲まれてしまったよ

アク ルウエ イネ  
a=ku ruwe ine

飲まれたのはどうしたの

アク ワ トシト  
a=ku wa tosto

飲まれてからそうして

(萱野：アク ルウエ イネ)  
(萱野：a=ku ruwe ine)

(萱野：飲まれたのはどうしたの)

アク ルウエ イネ  
a=ku ruwe ine

飲まれたのはどうしたの

アク ワ トシト

a=ku wa tosto

飲まれてからそうして

カムイ オピッタ イヨシキ イネ

kamuy opitta iyoski h\_ine

神さまみんな酔っぱらったよ

イヨシキ ルウエ イネ

iyoski ruwe ine

酔っぱらったのはどうしたの

オラ スイ マク

ora suy mak

それからまたどう (言ったらいいの?)

(萱野：うん、あ、エチク ルウエ イ……)

(萱野：飲んでしまっただろう……)

(萱野：うん、あ、eci=ku ruwe i...)

エチク ルウエ イネ

eci=ku ruwe ine

飲んでしまっただろうしたの

(萱野：チェオソマ ワ)

(萱野：ウンチになって)

(萱野：c=eosoma wa)

チェオソ…… アク ルウエ イネ

c=eoso... a=ku ruwe ine

飲まれたのはどうしたの

アエオソマ ワ イサム

a=eosoma wa isam

ウンチにされてしまったよ

アエオソマ ルウエ イネ

a=eosoma ruwe ine

ウンチにされたのはどうしたの

セタ エ ワ イサム

seta e wa isam

犬が食べてしまったよ

(萱野：うん、パシクル エ ワ イサム よ)

(萱野：カラスが食べてしまったよ)

(萱野：うん、paskur e wa isam よ)

パシ…… パシ…… セタ カ エ ワ イサム 犬も食べてしまった  
 pas... pas... seta ka e wa isam

パシクル エ ワ イネ カラスが食べてどうしたの  
 paskur e wa ine

ネ パシクル イネ そのカラスはどうしたの  
 ne paskur ine

アライケ ワ イサム 殺されてしまったよ  
 a=rayke wa isam

アライケ ワ トシト エキムネ レ ホッ エピシネ レ ホッ  
 a=rayke wa tosto ekimne re hot episne re hot  
 殺されて、そして山へ60本、浜へ60本の

アイラブ ネ アカラ ワ  
 ayrap ne a=kar wa  
 矢羽根にされて

アエシッチョッチャ ワ イサム ネ アイラブ ノカハ ネ  
 a=esitcotca wa isam ne ayrap nokaha ne  
 弓で射られてしまったので、その矢羽根の形をした

アイラブキナ アエトイタ ワ オカ  
 ayrapkina a=etoyta wa oka  
 クサソテツが植えられている

おわ……  
 OWA…  
 終わ……

## 4-7 オンネ パシクル解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：今のはこれあの、**onne paskur** [年を取ったカラス] という童話めいたものなんで、年寄りガラスはどうしたの？ 米の俵を取りに行った。そのかわら……その俵はどうしたの？ 酒に造ってしまいました。その酒はどうしたの？ うーん、その酒はどうしたの？ 私たちが飲んでしまった。

貝澤：飲んでしまった。

萱野：あなたたち飲んだ後はどうしたの？ ウンコしてしまった。そのウンコどうしたの？ カラスが食べてしまったよ。そのカラスはどうしたの？ 殺してしまったよ。殺したカラスはどうしたの？ 矢羽根に作ってしまったよ。矢羽根に作ってどうしたの？ 海へ60本、山へ60本撃ってしまいました。撃ったやつはどうしたの？ あれ、あすこ [あそこ] で **ayrapkina** [コゴミ] という矢羽根に似た草になって生えておりますよ。という、

貝澤：まったくあれよく似ているわな。

萱野：子どもの頃、私たちもこの、今のその **onne paskur ine?** [年を取ったカラスはどうなった?] という **kamuyyukar** [神謡] はよくあの、

貝澤：**huci** [お婆さん] あと [たち] 言ったの。

萱野：**huci**、おばあさんは貝澤テカッテというおばあさんで、

貝澤：そうさな **a=kor huci sapaha ku=kar\_ nanu ku=kar kusu** [私たちのおばあさんの髪を切り、顔をつくろうために] こっから下がって、

萱野：昭和20年の1月に亡くなったんです。当時百何歳でしたね。そんなこ



とで私自身もよく聞かされて、私自身もあるいは言えるかと思われるものですね。

貝澤:まったく兄さん〔萱野茂さんのこと〕くらい uepeker〔散文説話〕も yukar〔英雄叙事詩〕も聞く人無いてやー。機械は持っているし、yaysama〔即興歌〕は言えるし

## 4-8 カムイユカラ

「ハンチキキ ソクソキヤ」

クサソテツが山にある訳

語り：貝澤とうるしの

サケへ V=ハンチキキ

hancikiki

サケへ V2=ソクソキヤク

soksokiyak

V シネ アمام プシ

一つの穀物の穂を

V sine amam pus

V チプイカレ

倉から出して

V ci=puikare

V イワイ シントコ

6つの行器を

V iwan\_ sintoko

V ロッ チョライエ

上座へ寄せて

V ror\_ c=oraye

V カム…… トウツコ レレコ

2、3日

V kamu... tutko rerko

V シラン キ コロ

たつと

V siran ki kor

V サケ ピリカ

酒がよく（醸され）て

V sake pirka

V イヤシケウカシ V iyaskeuk=as	(酒宴に) 招待して
V カムイ オピッタ V kamuy opitta	神々がみんな
V アラキ ヒネ V arki hine	来て
V トノト カムイ V tonoto kamuy	酒の神で
V アウコマクテッカ V a=ukomaktekka	酒宴を催し
V イルカ シラン コロ V iruka siran kor	ちよつとすると
V パシクル オッカヨ V paskur okkayo	カラスの男が
V タプカラ タプカラ V tapkar tapkar	踊り踊り
V ソイ ワ サム マ V soy wa sam w_a	外の方へ
V オシライエ V osiraye	出て
V ア……[1] V a…	
エヤミ オッカヨ eyami okkayo	カケスの男が

V タブカラ タブカラ	踊り踊り
V tapkar tapkar	
V ソイ ワ サム マ	外の方へ
V soy wa sam w_a	
V オシライエ	出て
V osiraye	
V シネ ニセウ ヌム	一つのどんぐりを
V sine nisew num	
V エクパ ヒネ	くわえて
V ekupa hine	
V アフン ワ アラキ	入ってきて
V ahun wa arki	
V シントコ オロ オマレ	行器の中に入れ
V sintoko or omare	
V カムイ オピッタ	神々がみんな
V kamuy opitta	
V ミナ ハウエ	笑い
V mina hawe	
V アンラマス	おもしろく、
V an=ramasu	
V チュエスイエ	楽しんで
V c=uesuye	
V タブネ ネ シリキ シリ	このような様子を
V tapne ne sirki siri	

V パシクル オッカヨ V paskur okkayo	カラスの男が
V ヌカラ ヌカラ V nukar nukar	見て見て
V ソイ ワ サム マ V soy wa sam w_a	外の方へ
V オシライパ アワ V osiraypa awa	出て
V イルカ シラン コロ V iruka siran kor	ちよつとすると
V シネ シタクタク V sine sitaktak	一つの糞の塊を
V エクパ ヒネ V ekupa hine	くわえて
V アフプ ワ アラキ V ahup wa arki	入って来て
V シントコ オロ オマレ V sintoko or omare	行器の中に入れ
V タプコホピ(?) V tapkohopi(?)	そこから (?)
V ウエイサカヨ V weysakayo	大ゲンカが
V チホプニレ V cihopunire	はじまった

V エアリキンネ V earikinne	本当に
V サカヨ ユプケ V sakayo yupke	喧嘩が激しい
V タプコホピ(?) V tapkohopi(?)	そこで (?)
V エソクソキ オッカヨ V esoksoki okkayo	キツツキの男が回
V アスラニ クス V asurani kusu	危急を知らせるために
V カムイ オピッタ V kamuy opitta	神々みんなに
V コアスラニ クシ V koasurani kus	知らせるために
V ソイネ ハウエ V soyne hawe	外に出て言ったことには
V	
V2 サカヨ アン ナ V2 sakayo an na	喧嘩だよ。
V2 カムイ オピッタ V2 kamuy opitta	神さまみんな
V2 イカオパサン V2 ikaopas y_an	助けに入ってください。

V2 パシクル オッカヨ V2 paskur okkayo	カラスの男が
V2 シネ シタクタク V2 sine sitaktak	一つの糞の塊を
V2 シントコ オロ オマレ V2 sintoko or omare	行器の中に入れた
V2 エヤミ カムイ V2 eyami kamuy	カケスの男が
V2 シネ ニセウ ヌム V2 sine nisew num	ひとつのどんぐりを
V2 オマレ ヒ V2 omare hi	入れたのを
V2 エイコイサンパ クシ V2 eykoysanpa kus	真似しようと
V2 シタクタク オマレ V2 sitaktak omare	糞の塊を入れたので
V2 ネワアンペ V2 newaanpe	そのことを
V2 カムイ オピッタ V2 kamuy opitta	神々がみんな
V2 イルシカ ユツパ V2 iruska yuppa	激しく怒り
V2 ネプ カムイエ V2 nep kamuye	神にも

V2 ネプ アイヌフ

人間にも

V2 nep aynuhu

V2 アクレ クニ

振る舞われるはずの

V2 a=kure kuni

オクソキ……[3]

oksoki…

V2 サケ ネ ヒネ

酒であったのに

V2 sake ne hine

V2

V2

(ここから散文)

オロ シ オマレ シリ アン セコン ネ コロ ウエイサカヨ チホプニレ  
oro si omare siri an sekor\_ ne kor weysakayo cihopunire

そこに糞を入れたということで大ゲンカが始まり

ネワアンペ クシ パ…… パシクル オッカヨ アライケ ヒネ

newaanpe kus pa... paskur okkayo a=rayke hine

そういうことでカラスの男は殺されて

アイラブキナ ネ アカラ……

ayrapkina ne a=kar…

クサソテツにされて……

アイラブキナ ネ アカラ ワ トシト アライケ パシクル アイラブキナ

ayrapkina ne a=kar wa tosto a=rayke paskur ayrapkina

クサソテツにされて、ほら、その殺されたカラスのクサソテツが

キムン イウオロソ イウオロソ カ タ カ ヘトウクパ オラウン

kim un iworso iworso ka ta ka hetukpa oraun

山奥でたくさん育ててそうして



レ ホツ ウピシ アトウイ オルン

re hot upis atuy or un

60本セットを海へ

レ ホツ ウピシ エキムネ ワ アエシツチョツチャ

re hot upis ekimne wa a=esitcotca

60本セットを山のほうから弓で打ち放ったので

ネワアンペ クス アイラブキナ イウオロソ カ タ

newaanpe kusu ayrapkina iworso ka ta

そういうわけでクサソテツが山に

オカ ルウエ ネ ヤク アイエ。

oka ruwe ne yak a=ye.

あるという話なんだよ。

#### 【注】

- [1] 言い間違えたのに気づいて言い直す。
- [2] 類話では「キツツキの男」に仲介を求めるので、ここは「キツツキの男に」になるところだが、このテキストでは asurani「危急を知らせる」以下の動詞に「私が」にあたる人称接辞がついていないことや、危急を知らせるセリフからキツツキを表すサケへ（V2）になることから、ここは「キツツキの男が神々みんなに危急を知らせる」と解釈した。
- [3] サケへを言い間違えている。

## 4-9 カムイユカラ「ハンチキキ ソクソキヤ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：これも **kamuyyukar** [神謡] で

貝澤：そうだ。

萱野：お婆さんたちがよく孫を寝せる時などやっておったの聞いたことあるんです。この場合のあれはちょっとその、最初の出だし **hancikiki sine amam pus hancikiki ci=puikare** [ハンチキキ 一つの穀物の穂を ハンチキキ 倉から出して] と、これは **amamecikappo** [スズメ] ？

貝澤：**amamecikappo** [スズメ]、酒こしらえたので、こんと [今度]

萱野：スズメの……**amamecikappo** ちゅうのは普通のこの村スズメというと、この家の前で見えるスズメの……、が自分で自分のことを語っている。  
わたくしはスズメです。1つのヒエの穂を、ぜんぶ白 [精米] にして、それで酒を造った。6つの **sintoko** [シントコ] に満々と酒を造って、わたくしは何日かして大勢の神々を招待した。たくさんの神様はそのお酒を飲んで上機嫌になった。

カケスの男が **tapkar** [踏舞] しながら **tapkar** というのは、お酒を飲んだ時にこう楽しくなって踊る踊りですが、その **tapkar** をしながら外へ出て、1つの **sine nisew num** [一つのドングリ] という言葉で、1つのドングリをくわえて入って来て酒樽に入れた。神様はみんな手をたたいて笑って喜んだ。

次にカラスの男が立ち上がって **tapkar** しながら外へ出た。大きなウンコの塊を1つくわえて入って来て酒樽に入れた。それで神様は大いに怒って、そのカラスの男を皆で叩いていじめて殺してしまった。そこで **sakehe** [折り返し] が **hancikiki** から **soosokiyak soosokiyak** っところ変わっていくんですが、今度はその

貝澤：あのキチチキ [キツツキ] **asurani hawehe** [キツツキが知らせる声]

萱野：あー今度はその喧嘩が始まったから、よそへ神様を迎えに行って連れて来て、仲裁するという筋書きの **kamuyyukar** [神謡] ですね。この場合は **kamuyyukar**。 **sakehe** [折り返し] は **hancikiki** とそれから **sossokiyak sosskiyak**。

貝澤：**asurani p** [危急を知らせるもの] は **soksokiyak sakayo an na** [ソクソキヤク 喧嘩だよ] って言うんだ。

萱野：あーなるほどね。 **a... sossokiya sakayo an na** [ソクソキヤ 喧嘩だよ] が

貝澤：**sa... sakayo an na soksokiyak kamuy opitta soksokiyak ikaopas yan** [喧嘩だよ ソクソキヤク 神様みんな ソクソキヤク 助けに入ってください] って言うのよ。

萱野：あーなるほどな。そういうふうにしていくと。今のは **kamuyyukar** [神謡] でしたね。

## 4-10 ウエペケレ

「パシクルトノ ヤニ アコロ」

カラスの神と危うく結婚するところだった

語り：貝澤とうるしの

ネウン イキ ワ オカイ ペ アネ ルウェ ネ ヤ カ アエラミシカリ ノ  
 neun iki wa okay pe a=ne ruwe ne ya ka a=eramiskari no  
 私はどのようにしている者であるのか知らないのですが

アユピ イレス イネ オカアン ペ ネ ヒケ  
 a=yupi i=resu h\_ine oka=an pe ne hike  
 兄が私を育てていて、

エアラキンネ イオマプレス ワ イピリカコロ  
 earkinne i=omapresu wa i=pirkakor  
 本当に可愛がって大切に育ててくれていました。

オラウン サランペ ネイ ワ ネ ヤ サプテ ワ  
 oraun saranpe ney wa ne ya sapte wa  
 そして、絹織物をどこかから取り出してきて

「メノコ アナクネ セコロ ケメイキ プ ネ ナ タプ ネノ イキアン ペ ネ ナ」  
 “menoko anakne sekor kemeyki p ne na tap neno iki=an pe ne na.”  
 「女は刺繍をこのようにするものだよ。」

シコロ ハウエアン コロ イケメイキレ ワ アカラ コロ  
 sekor hawean kor i=kemeikire wa a=kar kor  
 と、私に刺繍をさせて、私が縫うと

エヤイコプンテク ペコロ ハウエアニケカ オラウン  
 eyaykopuntek pekor hawean h\_ikeka oraun  
 兄は喜んだように言ったけれど、それから

アツパケ タ アナク ネウン カン ルウェ ネ ヤ カ アエラミシカリ ア プ、  
**atpake ta anak neun kar\_ ruwe ne ya ka a=eramiskari a p,**  
 最初はどのようにするのかわからなかったのですが、

タンタニ ポロアニ ウン ケメイキアン エアシカイ イオモンヌレ コロ  
**tantani poro=an h\_i un kemeyki=an easkay i=omonnure kor**  
 だんだん私が大きくなると縫い物が上手になり、それを兄は褒めると、

ミ ワ オヤコヤク タ イオロツ カ キ コロ  
**mi wa oyakoyak ta iorot ka ki kor**  
 その着物を着てあちこちに顔を出しに行きつつ

オカアン ペ ネ ルウェ ネ アイネ  
**oka=an pe ne ruwe ne ayne**  
 暮らしていました。しばらくして

イカランケ アイヌ オカイ ペ ネ ワ ネ ノイネ キムヌタラ カ パヨカ ワ  
**i=karanke aynu okay pe ne wa ne noyne kimun utar ka payoka wa**  
 近くに人がいるらしく、狩りに行く人たちがやってきて

アイヌ アヌカラ コロ  
**aynu a=nukar kor**  
 私がその人たちを見ていると、

エアラキンネ アユピ ケウトウム ピリカ プ ネ ワ ネ ノイネ  
**earkinne a=yupi kewtumu pirka p ne wa ne noyne**  
 兄はとてもやさしい人らしく

アウコヌヌケ ピリカノ アイイエ コロ オカアン オラ  
**a=ukonunuke pirvano a=i=ye kor oka=an ora**  
 面倒をよく見るようにと私は言われて、そのようにして暮らしていました。そして

アシヌマ カ カム ネ ヤッカ チェプ ネ ヤッカ イエウンケライテ ワ  
**asinuma ka kam ne yakka cep ne yakka i=eunkerayte wa**  
 私も肉でも魚でももらって

ネプ アエシリキラプ カ ソモ キ ノ オカアン ペ ネ ルウェ ネ ア プ、  
**nep a=esirkirap ka somo ki no oka=an pe ne ruwe ne a p,**  
 何も困ることなく暮らしていました。

タネ ポロ メノコポ アネ アシカイ カ アキ ワ  
**tane poro menokopo a=ne askay ka a=ki wa**  
 私は大きくなって、刺繍も上手になり、

ポ ヘネ アユピ エヤイコブンテク コロ オカアン ペ ネ ルウェ ネ アイネ  
**po hene a=yupi eyaykopuntek kor oka=an pe ne ruwe ne ayne**  
 兄はいつそう喜びながら暮らしていました。そうして

シネ アン タ ピリカ オツカイポ フナク ワ エキネ  
**sine an ta pirka okkaypo hunak wa ek h\_ine**  
 ある日、立派な若者がどこからか来て

レウシ イペ オラウン アユピ エウン アン ハウエ エネ アニ  
**rewsi ipe oraun a=yupi eun an hawe ene an h\_i**  
 泊まって食事をとり、それから兄に対してこのように言いました。

「アイヌ ニシパ コツ トウレシ ソモ マツ ネ イコレ ルウェ アン？」  
**“aynu nispa kor\_ turesi somo mat ne i=kore ruwe an?”**  
 「立派な方よ、あなたの妹を私の嫁にくれませんか？」

シコロ ハウエアン アクス  
**sekor hawean akusu**  
 と、若者が言ったところ

アユピ ネプ カ ソモ イェ ノ アン アイネ  
**a=yupi nep ka somo ye no an ayne**  
 兄は何も言わずに

オラ ネ アイヌ エヌチシシケ ワ アナイネ オラウン  
**ora ne aynu enucisiske wa an ayne oraun**  
 その若者をじっと見つめ、しばらくして

「アコシリキラプ コロ トパットウミ オカ タ オカアン ペ ネ ワ

“a=kosirkirap kor topattumi oka ta oka=an pe ne wa

「苦勞しながら群盜のあと私たちは暮らして、<sup>[1]</sup>

アトゥレシ アカイ カネ イネ

a=turesi a=kay kane h\_ine

妹をおぶりながら、

チェッポコイキアン クス エキムネアン ルウェ ネ ア プ

ceppokoyki=an kusu ekimne=an ruwe ne a p

小魚を捕るために山へ行きました。

ヤ アコロ ワ チェッポコイキアン クス エキムネアン ルウェ ネ ア プ

ya a=kor wa ceppokoyki=an kusu ekimne=an ruwe ne a p

網を持って小魚を捕るために山へ行ったところ、

イワカン アクス イエトク ウン

iwak=an akusu i=etok un

私が帰ったところ、私の前方、

アコタヌン ユカラ ハウ ウエン ルイ イネ インカラナクス

a=kotanu un yukar haw wen ruy h\_ine inkar=an akusu

私の村からユカラをする声がひどくするのだけれど、見たところ

オアラ アウタリヒ オカ カトゥ アエランペウテク ヒクス

oar a=utarihi oka katu a=erampewtek hikusu

村人たちはいる様子がありません。なので

オラウン キム タ ヘトポ ホシピアン イネ トシッ チョロポク タ

oraun kim ta hetopo hosipi=an h\_ine tosir\_ corpok ta

山へ再び引き返して、川岸の土手の下で

アコッ トウレシ アトゥمام ヒネ レウシアン ルウェ ネ ア プ、

a=kor\_ turesi a=tumam hine rewsu=an ruwe ne a p,

妹を抱いて寝て、そこで一晩過ごしました。

オヤチキ トパットウミ エキネ

oyaciki topattumi ek h\_ine

後でわかったことには、群盗が来て

アウヌウタリ アオナウタリ アロンヌ ヒネ オラ オカケ タ

a=unuutari a=onautari a=ronnu hine ora okake ta

私の母たちや父たちを殺して、そのあとから

ウコウエペケレ ウコユカラ コロカ ハウエ ネ アアン ヒネ オラウン

ukouepeker ukoyukar kor oka hawe ne aan hine oraun

ウエペケレやユカラを言いあっていたのでした。それから

エネ オアツ トウナネ イネ アレス プ ネ ワ

ene oar\_ tun a=ne h\_ine a=resu p ne wa

このようにたった二人でいて、私がこの子を育てたので

トウイマ ノ ネウ カ アコララ カ コライニウケシ

tuyma no new ka a=korar ka korayniwkes

遠くへ嫁にやることが出来ない気がして、

アトウヤシカラプ ペ ネ クス

a=tuyaskarap pe ne kusu

可愛そうなので

アウニ タ イコヤントネ ヒネ キ クニ ネ ヤク エアシリ アコレ ハウエ ネ」

a=uni ta i=koyantone hine ki kuni ne yak easir a=kore hawe ne”

私の家で一緒に暮らすのなら、嫁にやるよ。」

シコロ ハウエアン ルウエ ネ アクス

sekor hawean ruwe ne akusu

と、兄が言うと

「ネウ カ トウイマ ノ アトゥラ カ ソモ キ ノ

“new ka tuyma no a=tura ka somo ki no

「どこにも遠くへ連れて行かないで



アマチヒ ネ クニ キマッタロ ヤクン

**a=macihi ne kuni kimattaro yakun**

妻にすることが決まったなら

オラ エカン ワ トウラノ アナン ペ ネ。」

**ora ek=an wa turano an=an pe ne.”**

それからここへ来て一緒に暮らしますよ。」

シコロ ハウエアン アクス

**sekor hawean akusu**

と、若者が言うと

「ハウエ ネ ヤクン アラパ ワ エトウラ ワ

**“hawe ne yaku arpa wa e=tura wa**

「そういうことであれば妹と一緒に行って、

ハンケ ノ エウニ アン ペ ネ ヤ？」

**hanke no e=uni an pe ne ya?”**

お前の家は近くなのか？」

ていったけ

**TEITTAKE**

て言うと

「ハンケ ノ アン…… アナン ペ ネ。

**“hanke no an... an=an pe ne.**

「近くに住んでいます。

アオナハ カ アウヌフ カ アウタリ オカイ ペ ネ」

**a=onaha ka a=unuhu ka a=utari okay pe ne.”**

父も母も親戚もいます。」

シコロ ハウエアン ペ ネ クス

**sekor hawean pe ne kusu**

と、若者が言うので

アユピヒ エイソコロ ヒネ

**a=yupihi eysokor hine**

兄はそれを信じて、

「トゥラ ワ インカラ」

**“tura wa inkar.”**

「ついて行ってみなさい」

シコロ イイエ プ ネ クス アトゥラ ヒネ パイエアン。

**sekor i=ye p ne kusu a=tura hine paye=an.**

と、私に言ったので、私は若者と一緒に行って

ネプ カ アセ ヘネ イセレ ヘネ キ カ ソモ キ プ ネ クス

**nep ka a=se hene i=sere hene ki ka somo ki p ne kusu**

私は何も背負いも、(兄は) 私に背負わせもしなかったので

レウシアン イネ

**rewsi=an h\_in**

一晚過ごして、

オラ イシムネ アトゥラ ヒネ パイエアン ルウェ ネ アクス

**ora isimne a=tura hine paye=an ruwe ne akusu**

そして翌日、一緒に行くと

キムン イウオロ オルン パテク アラパ アイネ

**kimun iwor or un patek arpa ayne**

山の中の狩場ばかり行って、

ヒナクン イユタ フム カ アヌ

**hinak un iuta hum ka a=nu**

どこかから搦き物をしている音が聞こえ、

オラウン セタ ミク ハウ カ アヌ コロ パイエアナクス

**oraun seta mik haw ka a=nu kor paye=an akusu**

それから犬の鳴き声が聞こえ、それを聞きながら行くと

チセ ソイ タ メノコ<sup>ポ</sup> オッカイ<sup>ポ</sup> ポロンノ オカ イネ オラウン  
 cise soy ta menokopo okkaypo poronno oka h\_ine oraun  
 家の外で若い女と男が大勢いて

メノコ ウタラ アナク イユタ イケ イユタ コロ オカ  
 menoko utar anak iuta h\_ike iuta kor oka  
 女たちは搦き物をしていました。

ウシケ タ アラバアナクス  
 uske ta arpa=an akusu  
 そこに行くと

「ホクレ アフン アフン」  
 “hokure ahun ahun.”  
 「急いで家の中に入れ入れ」

シコロ アイイエ ヒネ  
 sekor a=i=ye hine  
 と、言って

ネウカ…… ネイ ワ カ イアムキリ ペコン ネ オカイ ペ カ ハウオカ。  
 newka... ney wa ka i=amkir pekor\_ ne okay pe ka hawoka.  
 どこからか私を見知っているかのように言っている。

アエラムコエシカリ コロ アフナン ルウェ ネ ヒネ  
 a=eramkoesikari kor ahun=an ruwe ne hine  
 びっくりしながら私が家の中に入ると

チャチャカムイ アン ルプネマツカムイ アン イネ  
 cacakamuy an rupnematkamuy an h\_ine  
 おじいさんの神とばあさんの神がいて、

アエランカラブ イネ  
 a=erankarap h\_ine  
 私は挨拶をして

マク ライミク ハウエ ネ ライミカン ルウエ ネ ア プ オラウン  
**mak raymik hawe ne raymik=an ruwe ne a p oraun**

どのように女の挨拶をしたのだから挨拶をしたのだけれど、それから

イシケライパレアナクス  
**isikeraypare=an akusu**

じっと見ると

ネア エクシ シラン ペ カ アエランペウテク ペ オラウン  
**nea ekus siran pe ka a=erampewtek pe oraun**

そんな状況を見たことがなかったが(?)

チェッポ ウプシ たり ネン なのか クヨイ たり チセ トム ペカ  
**ceppo upus TARI nen NANOKA kuyoy TARI cise tom peka**

小魚を束にしたのだったり、何なのか膀胱だったり、家の壁中に

シレウシ シレウシ オラウン  
**sirewsi sirewsi oraun**

突き刺してあって、それから

コント イユタ ペ カ オカ メノコポ ウタラ イユタ したり  
**konto iuta pe ka oka menokopo utar iuta SITARI**

搦き物の道具もあって、女たちは搦き物をしたり、

ナ ネン ネン イキ コロカ  
**na nen nen iki kor oka**

いろいろして

ヒネ オラウン オンネ ニシパ エネ ハウエアニ  
**hine oraun onne nispa ene hawean h\_i**

そして高齢で裕福な男性がこう言いました。

「タン カツケマツ イタカン ワ エイヌ カトウ エネ アニ  
**“tan katkemat itak=an wa e=inu katu ene an h\_i**

「淑女よ、私の話をよく聞きなさい。

ネプ アイヌフ アネ ルウェ カ ソモ ネ

nep aynuhu a=ne ruwe ka somo ne

私はどんな人間でもない

オラウン ネプ カ アラウエンカムイ ヘネ アネ ルウェ カ ソモ ネ

oraun nep ka arwenkamuy hene a=ne ruwe ka somo ne

そして、どんな極悪な神でもない

パシクル トノ アネ ヒネ オカアン ルウェ ネ ヒケ

paskur tono a=ne hine oka=an ruwe ne hike

カラスの神であって、暮らしていて、

アポホ ヤイコトムカ プ フナラ ヤッカ ウエン ヒネ

a=poho yaykatomka p hunara yakka wen hine

私の息子が自分に似合う結婚相手を探したけれどもいないので

コント ナニ アイヌ オルン インカラクス

konto nani aynu or un inkar akusu

人間の国を見ると、

『アエヤイコトムカ クス サナン ワ

‘a=eyaykatomka kusu san=an wa

『似合いの者がいたので下りて行って

アエエトウニタク キ ワ イヌアン クシ ネ』

a=e=etun itak ki wa inu=an kus ne.’

あなたを嫁にもらう話をするから。』

シコロ ハウエアニ クス

sekor hawean h\_i kusu

と（息子が）言い、そして

ネプ カ ウエンカムイ ネ アエカラ クス カ ソモ ネ。

nep ka wenkamuy ne a=e=kar kusu ka somo ne.

あなたを何か悪い神にするのではありません。

アポ エエウタンネ ヤクネ アエエニシテ カ キ ヒ アキ ルスイ クシ  
**a=po e=ewtanne yakne a=e=eniste ka ki hi a=ki rusuy kus**  
 私の息子と夫婦になるのなら、あなたを頼りにしたいので

アイヌ アコレ ルスイ クス  
**aynu a=kore rusuy kusu**  
 息子に人間の妻を持たせたかったので

アサンテ ルウェ ネ アワ エインカラ クス エエク ヒ  
**a=sante ruwe ne awa e=inkar kusu e=ek hi**  
 私は息子を行かせたところ、あなたがためしに来たことを

アエラマン コロ アナン ルウェ ネ コロカ  
**a=eraman kor an=an ruwe ne korka**  
 私はわかっているけれども

ヤヨペヨペアン ワ ウェン ヤクン  
**yayopeyope=an wa wen yakun**  
 自己紹介するのを聞いて、それでダメなら

エネ アイェ ヒ カ イサム ルウェ ネ クシ  
**ene a=ye hi ka isam ruwe ne kus**  
 しかたがないので

パシクル アネ ワ タプ タ エネ アウタリヒ オヤコヤク ワ  
**paskur a=ne wa tap ta ene a=utarihi oyakoyak wa**  
 私はカラスであって、こうして私の親族はあちこちで

ネプ ポカ ウイナ コロ  
**nep poka uyna kor**  
 少しばかり取ってきては

オラ ウサ ポッピセ ウサ クヨイ オロ ネプネプ オワ アラキ ワ  
**ora usa poppise usa kuyoy oro nepnep o wa arki wa**  
 それから、魚の浮き袋や鹿だとか熊だとかの膀胱にいろんなものを入れて来て、

タップ タ エネ オプシナラチツケ ルウエ オカ

**tap ta ene opusnaracitke ruwe oka**

このようにして穴をあけてぶら下げているのか、

チェッポ カ オプシナラチツケレ ワ オカ ルウエ ネ」

**ceppo ka opusnaracitkere wa oka ruwe ne.”**

小魚も下げている」

シコロ ハウエアン

**sekor hawean**

と、言いました。

イヌ ネ ワ アキ プ ネ コロカ

**inu ne wa a=ki p ne korka**

話は聞いたけれど

フンナ エネ アユピ<sup>o</sup> イオマプレス イコレ ア プ<sup>[2]</sup>

**hunna ene a=yupi i=omapresu i=kore a p**

誰がこのように兄が私を可愛がって育ててくれたのに

パシクル マツネ アナナウエ シコロ ヤイヌアン クス

**paskur matne an=an h\_awe sekor yaynu=an kusu**

カラスの妻になるという話があるかと思ったので

「サナン ワ アユピ<sup>o</sup> エウン アイェ ワ エネ ハウエアニ アヌ クス ネ」

**“san=an wa a=yupi eun a=ye wa ene hawean h\_i a=nu kusu ne.”**

「山を下りて、兄に話して（兄が）言うことを聞いてきます。」

セコロ ハウエアナン コロ

**sekor hawean=an kor**

と、言う

「िकासイ イペ イペ」

**“ikasuy ipe ipe.”**

「いっしょに食べる、食べる」

シコロ ハウエアン…… ハウエオカ コロカ

**sekor hawean... haweoka korka**

と、言うけれど

オロ タ イペアン カ エトランネ クシ

**oro ta ipe=an ka etoranne kus**

そこで私が食事をするのも気がすすまないので、

ネプ カ アエ カ ソモ キ ノ ナニ ソヨシマアン ルウェ ネ アクス

**nep ka a=e ka somo ki no nani soyosma=an ruwe ne akusu**

何も食べないで、すぐに外へとび出すと、

オラノ シネ セタ イエトク トウイエ トウイエ ミク コロ キ ヒケ カ

**orano sine seta i=etok tuye tuye mik kor ki hike ka**

一匹の犬が私の前を何度も横切って吠えていたのだけれども

アアッカリ ヒネ サナナクス

**a=akkari hine san=an akusu**

私は（犬を）やりすごして山を下りて行くと

ナニ サمامニ カ タ シネ ポイ セタ アン ペ オラウン

**nani samamni ka ta sine pon\_ seta an pe oraun**

すぐに倒木の上でもう一匹子犬がいました。そして

「イテキ エク。イテキ エク」

“iteki ek. iteki ek.”

「来てはいけない」

シコロ ミク したんだと ルウェ ネ ヒネ

**sekor mik SITANDATO ruwe ne hine**

と、子犬が吠えて

ポ アエニシテ ヒネ ホユプテクテクアナクス

**po a=eniste hine hoyuputektek=an akusu**

いっそう力を入れて、さっと走ると



ネ ポン ルウェ ネ アペコロ アナ セタ ネア イオシ エク ワ  
 ne pon ruwe ne apekor an a seta nea i=os ek wa  
 その子犬のように見える犬が後からついて来て

イエハム ノイネ イキ セタ コウエンコイキカラ シリ  
 i=eham noyne iki seta kowenkoykikar siri  
 私を心配しているらしい犬と猛烈に戦っている様子を

アヌカラ コロ サナニネ オトウイマシルンノ  
 a=nukar kor san=an h\_ine otuymasir unno  
 私は見ながら山を下りて、遠くから

アユピ アッ…… アホトウイエカラ クシ エラムトウイ イネ ソヨシマ ヒネ  
 a=yupi at... a=hotuyekar kus eramutuy h\_ine soyosma hine  
 兄を大声で呼んだので、兄はびっくりして外にとび出してきました。そして

「タップネ タブネ ネ ワ パシクツ チセ オツ タ アラパアン ルウェ ネ ワ  
 “tapne tapne ne wa paskur\_ cise or\_ ta arpa=an ruwe ne wa  
 「これこのようなことで、カラスの家に私は行って

パシクル インネ ワ アイヌ ネ オカ ワ イユタ ヒケ  
 paskur inne wa aynu ne oka wa iuta hike  
 カラスがたくさん人間の姿でいて、

イユタ オラ ネアエクシ (?)  
 iuta ora neaekus(?)  
 搦き物もしていたが (?)

アンペ カ アンペ…… オカイ ペ カ アエランペウテク ノ  
 anpe ka an pe... okay pe ka a=erampewtek no  
 本当の姿も分からないで

ポン チェッポ アオプシナラチッケ ワ カ オカ  
 pon ceppo a=opusnaracitke wa ka oka  
 小さい小魚が穴をあけてぶら下げてあり、

ネプ ピセ ネ ルウェ ネ ヤ ネプ クヨイ ネ ルウェ ネ ヤ  
**nep pise ne ruwe ne ya nep kuyoy ne ruwe ne ya**  
 何の浮き袋だか、何の膀胱だか

クヨイ オプシナラチッケ したり キ プ オラウン  
**kuyoy opusnaracitke SITARI ki p oraun**  
 膀胱をぶら下げてあったりして

パシクル オンネクル パシクン ルプネマツ オカ オラ  
**paskur onnekur paskur\_ rupnemat oka ora**  
 カラスのおじいさん、カラスのおばあさんがいて、そして

アポホ シネ オッカヨ ネ ワ  
**a=poho sine okkayo ne wa**  
 息子はたったひとりの男の子であって

アイヌ マツ アコレ ヤク アエニシテ ルスイ クス  
**aynu mat a=kore yak a=eniste rusuy kusu**  
 人間の女を妻にさせて頼りにしたくて

ハウエアナニ ネ シコロ ハウエアン ワ オヨヨポ  
**hawean=an h\_i ne sekor hawean wa oyoyopo**  
 話をしたのだというので、これは大変

シコロ ヤイヌアン クス サナン ルウェ ネ ナ。  
**sekor yaynu=an kusu san=an ruwe ne na.**  
 と、私は思い山を下りてきました。

アユピ エラモシマ アカナク  
**a=yupi eramosma y\_ak anak**  
 兄さんが（カラスとの結婚に）同意したら、

アシヌマ アナクネ ヤイライケアン クス ネ  
**asinuma anakne yayrayke=an kusu ne**  
 私は自殺するつもりです。

アユピ° エネ イオマプ コラナナポラウネネ カミアシ オロ ワ  
**a=yupi ene i=omap kor an=an a p oraun ene kamiasi oro wa**  
 兄さんにこのように可愛がられてきたのに、あんな化け物から

イエトウン ルスイ ハウエ ネ ヤッカ ソモ アヌ ナ」  
**i=etun rusuy hawe ne yakka somo a=nu na.”**  
 私を嫁に欲しいと言われても、聞くつもりはありません。」

ていったけ  
**TEITTAKE**  
 と、言うと

エアラキンネ アユピ° イルシカ コロ  
**earkinne a=yupi iruska kor**  
 兄はとても怒りながら

トゥ カムイ シンリッ レ カムイ シンリッ オペンタリ ハウエ エネ アニ  
**tu kamuy sinrit re kamuy sinrit opentari hawe ene an h\_i**  
 二人の先祖の神、三人の先祖の神の素性を解きながら言うには、

「アイヌ アナク オハ アイヌ ネ ウコロ  
**“aynu anak oha aynu ne ukor**  
 「人間は同じ人間と結婚し、

カムイ アナク オハ カムイ ネ ウコロ ペ ネ ヒネ…… ヒケ  
**kamuy anak oha kamuy ne ukor pe ne hine... hike**  
 神は同じ神と夫婦になるものなのに

ヒナク タ パシクル マツ ネ アイヌ オカイ ペ ネ ヒネ エネ ハワシ アナ。  
**hinak ta paskur mat ne aynu okay pe ne hine ene hawas h\_i an y\_a.**  
 どこにカラスの妻になる人間がいる話があるか。

ソモ アン クニ プ ネ ハウエ ネ」  
**somo an kuni p ne hawe ne.”**  
 あるべき話ではない。」

シコロ ハウエアン コロ イエイノンノイタク イネ  
**sekor hawean kor i=eynonnoytak h\_inē**

と、言いながら私のために神に祈りを捧げ、

ノヤ タクサ カリネ イカキク パシロタ コロ キ アクス  
**noya takusa kar h\_inē i=kakik pasrota kor ki akusu**

ヨモギで手草を作って私をお払いし、ののしりながらすると

オラ ネワアンペ サン ルウェ カ イサム  
**ora newaanpe san ruwe ka isam**

それから、例の者<sup>④</sup>は山を下りて来ませんでした。

オラノ コント ネイ ワ カ アイヌ パヨカ コロ  
**orano konto ney wa ka aynu payoka kor**

それから、どこからか人が行き来しながら

アウコヌヌケ コラン ペ アユピヒ ネ クス  
**a=ukonunuke kor an pe a=yupihi ne kusu**

(兄妹が) お互いを大事にしている兄なので

「トオプ イパナケ タ チウエンテ コタン アン ペ ネ。

“**toop i=panake ta ciwente kotan an pe ne.**

「ずっと川下のほうに、荒廃した村があります。

ネワアン チウエンテ コタン オツ タ  
**newaan ciwente kotan or\_ ta**

その荒廃した村に、

コタン ケシ タ アイヌ オカイ ペ ネ クシ  
**kotan kes ta aynu okay pe ne kus**

村の下手に人間がいるので

アイヌ なんぼでも アウタンネ シンリッ イヌヌケアシ クシ  
**aynu NANBODEMO a=utanne sinrit inunukeas kus**

人間はいくらでも同族になるが (?), 先祖が気の毒なので

チウエンテ コタン オルン トウパン ヤクネ

**ciwente kotan or un tup=an yakne**

荒廃した村へ私たちが移ったら

アコロ コタン ネ アポロ タ オカアン クシ ネ ナ。

**a=kor kotan ne a p oro ta oka=an kus ne na.**

そこは私たちの村だったところなのだが、そこで暮らすことにしよう。

トパットウミ アシトマ クシ

**topattumi a=sitoma kus**

群盗が恐ろしいので、

イケスヤン ワ テ タ アラキアン ルウェ ネ ア コロカ

**ikesuy=an wa te ta arki=an ruwe ne a korka**

逃げてここにやってきたのだけれども

パシクル ウエンカムイ ウタラ カランケ オカ…… アナウエ ネ ヤクン

**paskur wenkamuy utar karanke oka... an h\_awe ne yakun**

カラスの悪い神たちがそばにいるのなら

アコタヌン サパン クシ ネ ナ」

**a=kotan un sap=an kus ne na.”**

私たちの村へ下りよう。」

シコロ ハウエアン コロ

**sekor hawean kor**

と、兄が言うと

ネプ ポカ コロ ペ シケヘ カラ ヒネ ウサ アセ ヒネ

**nep poka kor pe sikehe kar hine usa a=se hine**

わずかに持っているものをまとめて、いろいろなものを背負って

オラ ネア チセ ヌイエオツケ ヒネ オロワ

**ora nea cise nuyeatke hine orowa**

それから、その家に火をつけてから

イケスイアン ヒネ サパナクス  
 ikesuy=an hine sap=an akusu  
 そこを逃げ出して山を下りていくと

ナ シリペケリネ ソンノ カ チウエンテ コタン ネ アン ペ オロ タ  
 na sirpeker h\_inne sonno ka ciwente kotan ne an pe oro ta  
 まだ明るいうちに、本当に荒廃した村があって、そこに

サパン ワ イクシペ ロシキ ウシケヘ タ  
 sap=an wa ikuspe roske uskehe ta  
 下りて行って、柱が立っているところ<sup>[4]</sup>で、

「タン ウシケ アウニ ネ ルウエ ネ」  
 “tan uske a=uni ne ruwe ne.”  
 「ここが私たちの家だ」

シコロ ハウエアン コロ コタン エピル したり  
 sekor hawean kor kotan epiru SITARI  
 と、兄が言いながらお祓いしたり

イナウ ロシキ したり キ ヒネ  
 inaw roske SITARI ki hine  
 木幣を立てたりして、

オラ ピリカ チセ カリネ オロ タ オカアン アクス  
 ora pirka cise kar h\_inne oro ta oka=an akusu  
 それから、立派な家を建てて暮らしていたら

イパナケ タ インネ コタン ポロ コタン アナアン ペ  
 i=panake ta inne kotan poro kotan an aan pe  
 私の家より少し川下よりの所に、にぎわった村、大きい村が実はあったのだけれども

コタン コン ニシパ トウ ポ コロ ペ ポン ワ アン ポホ イエトウン ヒネ  
 kotan kor\_nispa tu po kor pe pon wa an poho i=etun hine  
 村の村長にはふたりの息子がいて、若い息子のほうが私を嫁にして

アユピ コント アナク アイヌ ネ プ ネ クシ ラモシマ ワ

a=yupi konto anak aynu ne p ne kus ramosma wa

兄は今度は人間なので承諾して、

イオツ タ エク ワ トウラノ オカアン ワ アユピ トウラ イソン ネ ヤッカ

i=or\_ ta ek wa turano oka=an wa a=yupi tura ison ne yakka

(男は) 私たちのところに来て一緒に暮らし、兄さんと一緒に狩りであれ

アイヌ オッカ ヤヨラリレ<sup>5</sup> ワ

aynu okka yayorarire wa

人並み以上にできるので

ネプ アエ ルスイ カ ネパコン ルスイ カ ソモ キ ノ オカアナイネ

nep a=e rusuy ka nep a=kor\_ rusuy ka somo ki no oka=an ayne

何を食べたいとも、何を欲しいとも思わないで暮らし

メノコ アネ クス アイヌ シリポ アオシマレ ヒネ

menoko a=ne kusu aynu sirpo a=osmare hine

私は女であるのですっかり人(大人)らしくなり

オッカヨ ポ ホシキノ アコロ ワ

okkayo po hoskino a=kor wa

男の子が先に生まれて

ネワアンペ ポ チシ コロ アユピ エヤイコプンテク コロ オカアン

newaanpe po cis kor a=yupi eyaykopuntek kor oka=an

それでなおいっそう、泣きながら兄は喜んで暮らして

ヘセ アットム サンペ アットム イエコテ アエコテ コロ オカアン ワ

hese attom sampe attom i=ekote a=ekote kor oka=an wa

息の真ん中に、心臓の真ん中に私を結び、私も(兄たちを)結んで暮らして

ネプ アエシリキラプ カ ソモ キ ノ オカアン ペ ネ クス

nep a=esirkirap ka somo ki no oka=an pe ne kusu

何不自由なく暮らしたので

ネイ ワ カ ヤイモトイエ ヤイコタンイエ ソモ キ プ  
 ney wa ka yaymotoye yaykotanye somo ki p

どこからか自分の素性、自分の村のことを言わない者が来て、

イテキ イエトウン イタク ヤッカ エセアン ペ ネ ナ  
 iteki ietun itak yakka ese=an pe ne na

嫁にくれという話をしても、うんと言っははいけませんよ

シコロ シネ ポン カツケマツ イソイタク。

sekor sine pon katkemat isoytak.

と、一人の若い妻が話しました。

#### 【注】

- [1] 次の行から、兄妹が群盗が来る前に暮らしていたころの話になる。
- [2] イコレアナブのようにも聞こえるが、イコレアブ i=kore a p か。
- [3] 「例の若者」とは、カラスの若者のこと。
- [4] 「柱が立っている」ところは、燃やされた家の跡。柱だけが焼け残っている。
- [5] アイヌ オッカ ヤヨラリレ aynu okka yayorarire。「aynu okka eyayoraye アイヌ オッカ エヤヨライエ [人・の首の上・に自分をそこに行かせる] [慣用句]... のことで人にまさる」『沙流方言辞典』と同様の表現か？



## 4-11 ウエペケレ「パシクルトノ ヤニ アコロ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：paskur tono yani a=kor [カラスの神をもう少しで私が（婿に）持つところだった] というんだな。

貝澤：うん、paskur\_ tono yani a=kor [カラスの神をもう少しで私が（婿に）持つところだった]。

paskur\_に i=ye wa ora kira=an wa san=an pe ne sekor [カラスに（嫁にほしいと）言われて、逃げて山を下りてきたのだと]

萱野：わたくしは兄に

貝澤：pon horkew [子狼] だとその os san seta koyki p は pon horkew [後から下りてきて犬と戦ったのは子狼]

萱野：あーなるほど、なるほど

貝澤：その女助けた……

萱野：その pon seta [子犬] は

貝澤：poyseta [子犬] は horkewkamuy poho [狼神の息子] だか matnepoho [娘] だかその女助けるに [助けに]、その seta etoko tuye [犬の邪魔する (?)] して

萱野：あーなるほど。

わたくしは兄に育てられて成長した1人の娘でありました。兄は狼の名人であったので何不自由なく生活をしておったと。

ある日のこと1人の若者が私たちの家をたずねて来て、何日か泊まっておってから言うことの、言うことには「あなたの妹、わたくしの嫁にくださいや。」と言う。

兄は黙って考えておってから「実はこうしてたった2人で生活しておるといのは昔々、わたしら子どもの頃に、川へ小魚をすくいに行っておる間に、わたしたちの村が何かその悪いものに襲われて全滅させられたと。川へ小魚をすくって帰って来てみると、村へ、村へ帰って来てみると、村では知らない人たちばかりが大勢おって、おるのを見て、それですっかり恐ろしくなって村へは帰らずに、とうとうこうして村はずれに小さな家を建てて私たちは生活しておったのですよ。だからあなたがどっから来たか知りませんが、お嫁にやるということは出来ません」と言ったら「まあ父もおるし母もおるから私の家へ来てみて、もしよかったらお嫁にくださいや」そう、「そうまで言うんなら、じゃあ妹行ってその家を見て来なさい」と言ったので、その男に連れられてわたくしは山の方へ行ってみた。

ズンズンズンズン里の方へでなく山へ入って行く。そうすると行き先へ iuta [搗き物をする] って物、米を搗いたりヒエを搗いたりそういう音、あるいは大勢の人声がする。ずうっと山へ行ってみると一軒の家があって、その側では若い娘や他の人たちがいろいろな仕事をしておった。そしてその仕事をしておるの見ながら家の中へ入ってみた。

そうすると、そこでは年寄り夫婦だけど立派な人たちが2人おって、こう辺りをこう見回して見ると壁にかかっているのは魚の屑とかあるいはその、普通の鹿とか熊の内臓のちょっと一部分というような物だけが下がっている。

そればかりもその不思議に思って黙っていたら、そのお爺さんの言うのには「私たちの motoho [素性] いわゆる、生い立ちを隠すということも悪いから、あなたに言いますが、私たちはカラスですと。カラスでもこうして人間になって生活することがあるので、私の息子はどうしてもそのあなたをお嫁に欲しいからと言うので、それでは行って訊いて、もしくれると言ったらもらいなさい、と言ったら、息子が1人で出かけて行ったのに、あなたが幸いにこうしてついて来てくださったんですねと、まあ氏素性を隠すということは嫌ですから、あのちゃんと知らせますが、よかったらお嫁に来てください。」と言われました。

私はすっかり驚いて、「まあ家へ帰って兄に相談してまだ(また)出直してきますよ。」と言いながら外へ出た。そうすると大きな犬が1匹とび出して来て私を家の方へ向けまい向けまいとする。それでも私はしゃにむに家の方へ行ったら途中で1匹の小さな犬がおって、私を追いかけて来た。その犬を追い散らし蹴散らすようにして「もう来るんでないよ、来るんでないよ」と言うのを聞きながら一目散に家へ帰ってきた。

兄にそのことを報告すると兄は「あーそうであったか、それはそれは帰ってきてよかった」と言いながら「それではここでおるといことも、もう嫌なので別の方へ村を移しましょう」と言って持ち物を荷物にくるんでそして自分の家はすっかりその火を付けて燃やしてしまっ、隣村へ私たちは引っ越ししました。

そしてそこで私も新しくいいお婿さんをお願い姉……兄もいいお嫁さんをもって楽しく生活をしておりました。ということですね。

今のはこれ uepeker [散文説話] ですけども、カラスがお嫁をもらいに行ったという、

貝澤：あの nanu a=nukar kusu etu eun ruwe ka sinnayno an sik eun ruwe sinnayno an wa kusu a=eramunkeray(?)だっ a=yupihi 言っ……(?) [顔を見ても鼻の付き具合も目の付き具合も普通ではないので(?)と兄が言っ]

萱野：あーなるほど。兄の言うのには顔を見たら鼻の付き具合も目の付き具合もよくないので、さっそく返事しなかつたのだよ。だから氏素性の分からない者がお嫁に欲しいと言っ時でもさっそく「はい」と2つ返事で決してするものではありません。とそ男の人も女の人も言いました、と。

そして助けてくれた小さい形の犬は horkewkamuy 狼の神様でありました。もちろんその神様に inaw [イナウ] をもっお礼をしたことは言っまでもありません。

今のはこれ uepeker [散文説話]。

## 4-12 テープ内容 日時 再紹介

語り手：貝澤とろしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：……でした。昭和44年1月23日、貝澤とろしのさんにやってもらった uepeker〔散文説話〕および kamuuyukar〔神謡〕でした。

採録者、萱野茂、わたくしです。それでは今日の録音を終わります。どうも有難うございました。

貝澤：はいー、ご苦労様でした。

ora suy〔そしたらまた〕…

## 5-1 テープ内容紹介

語り手：貝澤とろしの

聞き手：萱野茂

萱野：昭和 44 年 1 月 26 日です。え、沙流郡平取町二風谷、貝澤とろしのさんの所へおじゃましております。えー、これからまだ……

貝澤：あの *mun sam un(?) surku tonno matne ye* したの (?) ... [トリカブトの神の女が話したもの (?)]

萱野：まだ言わない。

貝澤：まだ言わないの。

萱野：これからまだ *uepeker* [散文説話]、その他のものを聞かせていただきます。

## 5-2 ウエペケレ

「スルクマツ チクペニカムイ イカオピューキ」

トリカブトとエンジュのカムイが私を助けた

語り：貝澤とうるしの

シノ ニシパ アネ ヒネ アナニケ、パクノ ニシパ イサム ペ アネ ワ  
 sino nispa a=ne hine an=an h\_ike, pakno nispa isam pe a=ne wa  
 私は本当の長者で、並び立つほどの者がいないほどの者であったので

ユク ネ チキ カムイ ネ チキ アエアヌラ…… アエアウナルラ ワ  
 yuk ne ciki kamuy ne ciki a=eanura... a=eawnarura wa  
 鹿であれ熊であれ私は獲って

ネプ アエ ルスイ カ ネプ アコン ルスイ カ ソモ キ コロカ  
 nep a=e rusuy ka nep a=kor\_ rusuy ka somo ki korka  
 何を私は食べたいともほしいとも思わないでいたのだが、

オラウン ウコポサカン ワ ポエイコイトウパアン アクス  
 oraun ukoposak=an wa poeykoytupa=an akusu  
 私たちには子どもがおらず、子どもがほしかったので、

オロワノ アマチ アナクネ  
 orowano a=maci anakne  
 そこで私の妻は、

「ポンマテトゥナン ワ アコラク ピリカ  
 “ponmatetun=an wa a=kor y\_ak pirka  
 「私たちが二人目の妻を迎えるのがよい、

ヤク イコイヨマップ ポカ アン クス ネ ナ ネ ナ」  
 yak ikoy'omap poka =an kusu ne na ne na”  
 そうしたら私は（その人との間にできた子どもを）可愛がるばかりもしましょう、しましょう」

セコロ ハウエアニ カ

sekor hawean h\_i ka

と言うけれど

アエランポキウエヌミ ネ ペコロ ヤイヌアン ワ

a=erampokiwen h\_umi ne pekor yaynu=an wa

かわいそうなことだなと私は思っ、

ポンマテトゥナン カ ソモ キ アイネ

ponmatetun=an ka somo ki ayne

二人目の妻をめとることもしなかったが、

イパナケ タ コタン コン ニシパ トウ マツネポ コロ

i=panake ta kotan kor\_nispa tu matnepo kor

私から川下の方に、村長に二人の娘がいて、

ポン ワ アニケ ポ ヘネ シレトッコロ カ キ

pon wa an h\_ike po hene siretokkor ka ki

その年下の方は、とても器量が良く、

アリキキ プ ネ ヒ エラマン ペ ネ クス

arikiki p ne hi eraman pe ne kusu

働き者であることを妻は見て取って、

ポ エウンノ ハウエアシ ヒクス

po eunno hawean hikusu

なおさらその方向へ（妻に迎えるべきだと）主張するものだから、

オラ アエトゥニネ ユプ ウタリ カ ラムオシマ オナ ウタリ カ キ ワ

ora a=etun h\_ine yup utari ka ramuosma ona utari ka ki wa

私がめとることになると、娘の兄たちも同意し、娘の両親も同意したので、

アエヤイライケ コロ アエトゥニネ アコン ルウエ ネ ア プ

a=eyayrayke kor a=etun h\_ine a=kor\_ruwe ne a p

私は感謝をして、私はその娘をめとって妻にしたところ、

ソンノ カ オッカヨ ヘカチ コロ ワ エアラキンネ アエヤイコブンテク コロ  
**sonno ka okkayo hekaci kor wa earkinne a=eyaykopuntek kor**

本当に男の子ができて、私たちはとても喜んで、

パロ アオイキ コロ オカアナイネ  
**paro a=oyki kor oka=an ayne**

私が彼らを養いながら暮らしていたところ、

タネ パシ ワ ホユトウ…… ホユプ パクノ イキ コロ アン ワ  
**tane pas wa hoyutu... hoyupu pakno iki kor an wa**

今では（その男の子は）駆けたりするまでになり、

ポヘネ アエヤイコブンテク アイネ  
**pohene a=eyaykopuntek ayne**

なおいっそう私は喜んで、そしてその後、

トゥイマ クチャ カ ハンケ クチャ カ コロ クル アネ プ ネ クス  
**tuyma kuca ka hanke kuca ka kor kur a=ne p ne kusu**

私は遠い狩小屋と近い狩小屋の両方を持っていて、

トゥイマ クチャチセ オルン エキムネアン ルスイ クス  
**tuyma kucacise or un ekimne=an rusuy kusu**

遠くの方の狩小屋へ向かって私は山に入りたくなったので、

アラパアン ルウェ ネ ア プ  
**arpa=an ruwe ne a p**

私は出かけたところ、

ナニ アプカサナ アナ クアリアン したり キ アイネ  
**NANI apkas=an a =an a kuari=an SITARI ki ayne**

私はどんどん歩いて、仕掛け弓をしかけたりして、

アプカサナ アナ アイネ  
**apkas=an a =an a ayne**

私は歩きに歩いて、



タネ トケシ サナン クチャチセ オルン キ アクス

**tane tokes san=an kucacise or un ki akusu**

もはや夕方になって狩小屋に向かって下って行って、

クチャチセ キム<sup>田</sup> タ イロンネ トマム アン ペ ネ ア プ

**kucacise kim ta ironne tomam an pe ne a p**

狩小屋の山手に深く茂った湿地があったのだが、

エウン イネ ウレペツ ウシ ペ アフン オカケ アン ルウエ アナク

**eun ine urepet us pe ahun okake an ruwe an y\_ak**

そこに四本の指を持った者（魔熊）が入っていった跡があり、

ホタシヌアン クニ アラム コロ サナニネ アクス

**hotasnu=an kuni a=ramu kor san=an h\_ine akusu**

ということはなにか危険を感じるなど思いながら私は下って行くと、

ソモ カ エネ シリキ クナク アラム ア ヒ

**somo ka ene siriki kunak a=ramu a hi**

そのようなことがあるとは思わなかったことに

イエトク ウン アコロ クチャチセ オルン スプヤ アッ コロ シラン。

**i=etok un a=kor kucacise or un supuya at kor siran.**

私が着く前に私の狩小屋で煮炊きの煙が立っている。

マク ネ シリ アン セコロ ヤイヌアン コロ サナナクス

**mak ne siri an sekor yaynu=an kor san=an akusu**

どうしたことだろうと私は思いながら下って行くと、

アポンマチ アポロマチ ウエネウサラ コロ オカ。

**a=ponmaci a=poromaci uenewsar kor oka.**

私の二人目の妻と最初の妻とがあれこれと話をしながらいた。

ピリカノ シピネ パ ヒネ ウエネウサラ コロ オカ。

**pirkano sipine pa hine uenewsar kor oka.**

きれいに身支度をして、あれこれ話をしていた。

ウエミナウシウシ<sup>[2]</sup> ウエネウサラ コロ オカ イネ  
**ueminausiusi uenewsar kor oka h\_ine**  
 二人で笑い合いながらあれこれ話をしていて、

サナン アクス エネ ハウエオカ イ。  
**san=an akusu ene haweoka h\_i.**  
 私が下りていくところ言った。

「アヘコテ ニシパ シンキ クニ アラム ヤッカ  
**“a=hekote nispa sinki kuni a=ramu yakka**  
 「私の夫は疲れているだろうと思うのですが、

トオカ ウサク ウサ オヤオヤプ チセ コロ カムイ ヘコテ エアリ ワ  
**tooka usak usa oyaoyap cise kor kamuy hekote e=ari wa**  
 あそこにある雑多ないろいろの物を家の守り神へ向けてあなたは置いて、

オラ チセ コロ カムイ オシマケ タ  
**ora cise kor kamuy osmake ta**  
 家の守り神の後ろで、

イテキ エハウエ エアシテ イテキ エモイモイケ ノ  
**iteki e=hawe e=aste iteki e=moymoyke no**  
 あなたは声を出すこともせず動くこともしないで

トゥ カムイ シンリッ レ カムイ シンリッ エオペッターリ<sup>[3]</sup> コロ  
**tu kamuy sinrit re kamuy sinrit e=opettari kor**  
 二つのカムイの素性、三つのカムイの素性を述べながら

エアン ペ ネ ナ」  
**e=an pe ne na”**  
 助けを請うているのですよ」

セコロ ハウエオカ ヒクス オラウン ネノ イキアニネ ウサク  
**sekor haweoka hikusu oraun neno iki=an h\_ine usak**  
 と（二人が）言うので、私はそのようにして、

ウサ オヤオヤプ カムイ エコパシ アアヌ。

**usa oyaoyap kamuy ekopas a=anu.**

雑多ないろいろの物を（家の守り）神に向けて立てかけて置いた。

カムイ イナウトウンブ<sup>[4]</sup> オロ エウシ ワ アン ペ ネ クス

**kamuy inawtumpu oro eus wa an pe ne kusu**

（家を守る）カムイは、イナウの箱のところに立てかけてあるものなので、

センピリケヘ タ エシリコパサン ノ アナン ルウエ ネ ア プ

**sempirkehe ta esirkopas=an no an=an ruwe ne a p**

その後ろに私はもたれかかっていたところ、

ラポッケヘ スケ パ ウコ…… ウエネウサラ コロ オカ ハウエ エネ アニ。

**rapokkehe suke pa uko... uenewsar kor oka hawe ene an h\_i.**

その間に（二人の妻は）煮炊きをし、あれこれ話をしているのは次のようであった。

「ヘンパラ アコン ニシパ イワク ルウエ アン。シンキ クニ アラム ワ

**“hempara a=kor\_ nispa iwak ruwe an. sinki kuni a=ramu wa**

いつ私たちの主人は帰って来るのだろうか。疲れているだろうと思うので、

ポ エネ ネ ワ イペ クニ ネ<sup>[5]</sup> スケアン コロ オカアナ プ

**po ene ne wa ipe kuni ne suke=an kor oka=an a p**

なおさらどうにかして食事をするように料理をしていたのだが、

ヘンパラ イワク ルウエ アン」

**hempara iwak ruwe an”**

いつ帰って来るのだろうか」

セコロ ハウエオカ コロ オカ。

**sekor haweoka kor oka.**

と話している。

アオヤモクテ アオクンヌレ コロ アナン アイネ

**a=oyamokte a=okunnure kor an=an ayne**

私は不思議に思い、ひどく驚いていると、

ヘマンタ アプカシ フマシ ルウエ ネ アクス

hemanta apkas hum as ruwe ne akusu

何かが歩く音がして、

エネ アナン クニ ネノ アン イネノ アン アイヌ アフン シリ キ アクス

ene an=an kuni neno an i=nenno an aynu ahun siri ki akusu

私さながらの、私にそっくりの人間が入っていき、そうすると、

「アヘコテ ニシパ シンキ イポロ コロ ワ イワク ルウエ

“a=hekote nispa sinki ipor kor wa iwak ruwe

「私の旦那様は疲れた顔色をして帰ってきて、

ポ タク<sup>[6]</sup> アケムヌ ナ。ホクレ イペ ヤン イペ ヤン」

po tak a=kemnu na. hokure ipe yan ipe yan”

とても気の毒なことですよ。さあさあお食べなさいお食べなさい」

セコロ ハウエアン コロ

sekor hawean kor

と（妻の一人が）言うと

イメキケ イメク。イタンキ オロ イオ イケ イオ

imek h\_ike imek. itanki or io h\_ike io

片方（の妻）が食べ物を配膳した。片方がお椀によそい、

オラウン コプニ ヒケ コプニ ヒネ

oraun kopuni hike kopuni hine

もう一方がそれを差し出して、

オロワノ イペレ イペレ クシ イエ パ イペ コロ アン。

orowano ipere ipere kus ye pa ipe kor an.

そして食べなさい食べなさいと言ったので、（その者は）食事をしていた。

ソレクス トゥ ピヌイタク レ ピヌイタク

sorekusu tu pinuytak re pinuytak

私は二つのささやく言葉、三つのささやく言葉を、

チセ コロ カムイ エウン カ イノンノイタカン

**cise kor kamuy eun ka inonnoytak=an**

家の守り神に対しても祈り唱えて、

「タップネ カネ インカラン ア プ

**“tapne kane inkar=an a p**

「このようにして事態の推移を眺めていたところ

ネ ア プ ネ ルウェ ソモ ヘ アン<sup>[7]</sup>

**ne a p ne ruwe somo he an**

さっきのやつなのではないか

イネノ カネ アン ペ ネ アッカ

**i=nenokane an pe ne y\_akka**

私に似た姿をしているのだが、

イシネレ ルウェ ソモ ヘ アン セコロ ヤイヌアン ナ。

**i=sinere ruwe somo he an sekor yaynu=an na.**

私に化けているんじゃないかと思います。

カムイ ウタラ イセレマクシ ワ イコレ ヤン」

**kamuy utar i=sermakus wa i=kore yan”**

カムイたちよ、私をお守りください」

セコロ ハウエアナン コロ アナナイネ

**sekor hawean=an kor an=an ayne**

と私は言って、じっとしていたところ、

イペ ヒネ タネ オホンノ アン テク コロ

**ipe hine tane ohonno an tek kor**

食事をして、ちょっと時間が経つと

カトゥン シリ シンナイ ノ アン ルウェ ネ アクス

**katun siri sinnay no an ruwe ne akusu**

様子がおかしくなったので、

オラノ ウタシパ ウヌカン ランケ ヤッカ

**orano utaspa unukar\_ ranke yakka**

すると互いに顔を見合わせながらも、

ウコパロルイ ネア アマトウタリ キ コロカ

**ukoparoruy nea a=matutari ki korka**

その私の妻たちは饒舌におしゃべりをしていたが、

ウコパロルイ コロカ ラポツケヘ コント

**ukoparoruy korka rapokkehe konto**

おしゃべりをしていたが、その間、

オアラ カトウン シリ ウエン シンネ ノイネ イキ ア プ

**oar katun siri wen sinne noyne iki a p**

(その者は) とても調子が悪そうにしていたが、

アロロキシネ ソイネ ルウエ ネ ヒネ

**arorkisne soyne ruwe ne hine**

こっそりと外へ出た様子で、

チセ ハラキシソ ペカ エロンネ ワ シキル シリ アヌカラ アクス<sup>[8]</sup>

**cise harkiso peka eronne wa sikiru siri a=nukar akusu**

家の左手(裏)を通過して上手へと向かう様子を私は見ていると、

オロワノ ウコラットプトポ パ ワ

**orowano ukorattoptopo pa wa**

(妻たちは) 二人で互いに眉を動かし合図をして、

ウコピイタク パ コロ オカ ルウエ ネ アイネ

**ukopiitak pa kor oka ruwe ne ayne**

ひそひそと言葉を交わしていると、

ヌサ オロ パク アラパ コロ エシッチウ ルウエ エネ アニ

**nusa or pak arpa kor esitciw ruwe ene an h\_i**

(その者が) 幣のところまで進んで倒れたのはこのようであった――

ソレクスワ フレ トンプク<sup>[9]</sup> は(?) イカクシテ アペコロ アン  
**sorekusuwa hure tonpuku WA(?) ikakuste apekor an**  
 それこそは赤い道服を上から着ているような

エムコホ オロワノ チポロ ペ オロ<sup>[10]</sup> アオタ  
**emkoho orwano cipor pe or a=ota**  
 体の半分は筋子を潰した汁をかけたような赤い色をして、

エムコホ ワノ チコロ…… チクル……  
**emkoho wano cikor... cikur...**  
 体の半分は

チクイ パシ オロ アクシテ アペコロ アン  
**cikuy pas or a=kuste apekor an**  
 粉墨にくぐらせたような黒い色をした

フレ カムイ ライ ワ トウルセ ヒネ アン ルウェ ネ アクス  
**hure kamuy ray wa turse hine an ruwe ne akusu**  
 赤色の熊が死んでぼったり倒れたのであって、

オラウン ヒネ パシロタアン。  
**oraun hine pasrota=an.**  
 私はそいつをののしった。

フンタ イエヤイラムシ…… エカスレ<sup>[11]</sup> クス  
**hnta i=eyayramusi... ekasure kusu**  
 何を私を出し抜こうとして、

エネ サン ルウェ アヌカラ アクス  
**ene san ruwe a=nukar akusu**  
 このように山を下りてきた様子を見られて、

オラウン カムイ シコイパクテ<sup>[12]</sup> プ ネ クス  
**oraun kamuy sikoypakte p ne kusu**  
 そしてカムイが腹を立てたために、

アイヌ マッ アイヌ<sup>[13]</sup> ネ アペコロ オカ ヤッカ  
 aynu mat aynu ne apekor oka yakka

人間の女のような姿をしていたが、

カシカムイェ ユプケ ワ シリキ ヒ ネ セコロ アン ペ  
 kasikamuye yupke wa siriki hi ne sekor an pe

その守り神が強力なので、そのようなことなのだとということ、

イノノイタカナ アナ コロ アフナナクス  
 inonoytak=an a =an a kor ahun=an akusu

私は何度も祈りの言葉を唱えて（家の中へ）入ると、

ネア アポロマチ ネ クナク アラム ア イケ エネ ハウエ アニ。  
 nea a=poromaci ne kunak a=ramu a h\_ike ene hawe an h\_i.

その第一の妻のように見えた方の者がこのように言った。

「タン アコン ニシパ イタカン ワ エイヌ カトウ エネ アニ。

“tan a=kor\_ nispa itak=an wa e=inu katu ene an h\_i.

「私の主人よ、これから私が話してあなたが耳にするのはこのようなことですよ。

アシヌマ アナクネ エコロ イナウチパ オッ タ アン  
 asinuma anakne e=kor inawcipa or\_ ta an

私はあなたの幣場に生えている

チュクペニ カムイ アネ ルウエ ネ。

cukupeni kamuy a=ne ruwe ne.

エンジュのカムイなのですよ。

オラウン イネ ウレペッ ウシ ペ エコパクン シキル ノイネ  
 oraun ine urepet us pe e=kopak un sikiru noyne

そして四本の指が付いた者（魔熊）がお前の方へ向かっているように

インカラニクス  
 inkar=an h\_ikusu

見えたものだから



スルク トノマツ イヨッタ ヌプリケヘ アニスキネ  
**surku tonomat iyotta nupur h\_ikehe a=nisuk h\_ine**  
 トリカブトの女神のなかでも最も巫力が強い者に私は依頼して、

アラキアン ルウェ ネ ワ  
**arki=an ruwe ne wa**  
 二人でやって来て

エトコ アオスケ ワ エエトコ アオスケ ルウェ ネ アク アイェ コロ  
**etoko a=osuke wa e=etoko a=osuke ruwe ne y\_ak a=ye kor**  
 私たちは料理の支度をして、あなたの料理の支度をすると言いながら

エトコ アオスケ ワ アイペレ ルウェ ネ ワ  
**etoko a=osuke wa a=ipere ruwe ne wa**  
 私たちは料理の支度をして、その者に食べさせて、

タネ スルク エコツ ルウェ ネ クス  
**tane surku ekot ruwe ne kusu**  
 今や毒によって死んだので

オラウン モシマノ エアニヤク ワカ<sup>[14]</sup> ウェン クス  
**oraun mosmano e=an y\_ak waka wen kusu**  
 あなたがそのままにしているとかえって悪いので、

ナニ エホプニレ ワ ニツネ イナウ ポカ エコアシ<sup>[15]</sup>  
**nani e=hopunire wa nitne inaw poka e=koasi**  
 あなたはすぐに送り返して、魔神に捧げるイナウだけを立てて、

オラウン カムイ ウタラパ エウン エエヨンヌッパ ワ  
**oraun kamuy utarpa eun e=eyonnuppa wa**  
 偉いカムイに向けて何が起きたのかを告げて

『テ ワノ アナクネ  
**'te wano anakne**  
 『これからは

イテキ アイヌ オルン ネノ ウェニラモッカ ヤク ピリカ  
**iteki aynu or un neno weniramokka yak pirka**  
 人間に対してそのような悪いいたずらをするなよ

フンタ エヤイラムイカスレ アイヌ オルン キ クス  
**hnta eyayramuikasure aynu or un ki kusu**  
 何で人間に対して出し抜こうとして

エネ イキ ヒ ネ ヤ ネ ヤ』  
**ene iki hi ne ya ne ya'**  
 そのようにしたのか』

セコロ エハウエアン コロ  
**sekor e=hawean kor**  
 とあなたは言って、

エエヨンヌッパ サマ エエイカシパオツテ コロ  
**e=eyonnuppa sama e=eykaspotte kor**  
 告げ口をして、そいつのことについて指令を下したら、

カムイ ウタラ エウン カ イナウ エアシ。  
**kamuy utar eun ka inaw e=asi.**  
 カムイたちにもイナウを立てるのですよ。

オラ ネアプ カ ニツネ イナウ ポカ エコロシキ ヤク ピリカ ナ。  
**ora neap ka nitne inaw poka e=koroski yak pirka na.**  
 そんなものにでも魔神に捧げるイナウだけは立てるといいですよ。

モシマノ シラナク ポオ ウエン ナ」  
**mosmano siran y\_ak poo wen na**”  
 何もしないままだと一層よくないですよ」

セコロ カネ ハウエアン ヒネ  
**sekor kane hawean hine**  
 と（その二人は）言って

オラウン ソイエンパ ヒネ イサム ルウエ ネ。

oraun soyenpa hine isam ruwe ne.

そして外へ出て、去っていった。

スルク トノマツ カ アコオンカミ ア アコオンカミ ア ルウエ ネ。

surku tonomat ka a=koonkami a a=koonkami a ruwe ne.

毒の婦人にも私は何度も礼拝をした。

オラウン コント イルシカアン コロ

oraun konto iruska=an kor

そして私は腹を立てて、

イシムネ ネア フレ カムイ アリ ヒネ アコイキ ア アコイキ ア

isimne nea hure kamuy a=ri hine a=koyki a a=koyki a

翌日その赤色の熊を解体して何度も叱りつけて、

コント ヌサ コロ カムイ エウン カ アエヨンヌツパ ア イ アイェ コロ

konto nusa kor kamuy eun ka a=eyonnuppa a h\_i a=ye kor

幣場のカムイへも私は色々と報告を述べて、

「フンタ イエヤイラミカスレ クス イシネレ ワ アフン ワ

“hnta i=eyayramikasure kusu i=sinere wa ahun wa

「何を私を出し抜こうとして、私に化けて入って行って

オラ エポソカネ エネ イ アン シリ カムイ ウタン ヌカラ ペ ネ クス

ora eposokane ene h\_i an siri kamuy utar\_ nukar pe ne kusu

すると、やはりことの次第をカムイたちが見ているものだから、

アコン ヌサ オロ ワ カムイ フチ ウテク ワ

a=kor\_ nusa or wa kamuy huci utek wa

私の幣場からも火の媼神がカムイを使いに出して、

チュクペニ カムイ ヌサ オツ タ アシ ペ カ エク ワ

cukupeni kamuy nusa or\_ ta as pe ka ek wa

エンジュのカムイ、幣場に立っている者が来て、

スルク トノマツ タノンタロ ワ エク ワ

**surku tonomat tanontaro wa ek wa**

トリカブトの女神に頼んで、(トリカブトの女神が) 来て

トゥン ネ ワ エパロスケ シンネ クス エエラマナク ピリカ。

**tun ne wa e=parosuke sinne kusu e=eraman y\_ak pirka.**

二人であなたに食べさせたのだから、あなたは覚えておくといい。

テ ワノ アナクネ イテキ ネノ アン ウェン プリ エコロ ヤクネ

**te wano anakne iteki neno an wen puri e=kor yakne**

これからはそのような悪い振る舞いをあなたがしなければ

カムイ ウタラパ イリワキ エネ プ ネ クス

**kamuy utarpa irwaki e=ne p ne kusu**

偉いカムイとあなたは兄弟であるのだから

カムイ エウタンネ エエアシカイ ペ ネ ナ。

**kamuy eutanne e=easkay pe ne na.**

あなたはカムイの一族でいられるのだよ。

イテキ ネノ アン ウェン プリ コロ」

**iteki neno an wen puri kor”**

そのような悪い振る舞いをしてはいけないよ」

セコロ アイエ コロ アカシパオツテ コロ

**sekor a=ye kor a=kaspaotte kor**

と私は言いながら説教をして、

アホプニレ ルウェ ネ アクス ネ アンチカリ ウェンタラパン。

**a=hopunire ruwe ne akusu ne ancikari wentarap=an.**

私は帰って来るとその夜に夢を見た。

フレ トンプク イカクシテ オラウン レク ネ コロ ペ

**hure tonpuku ikakuste oraun rek ne kor pe**

赤い道服を上に着て、髭を生やした者が、

フレ レク タンネ レク レララ カシセシケ カネ

**hure rek tanne rek rerar kasiseske kane**

赤い長い髭が胸を覆っていて、

フレ オトプ タンネ オトプ ノヤプ ホントモ チコエトウイエ<sup>[16]</sup> コロ

**hure otop tanne otop noyap hontomo cikoetuye kor**

赤く長い髪が顔の途中でざっくりと切り揃えられていて、

イルシカ ワ オケレ ヒネ アニネ エネ ハウエアニ。

**iruska wa okere hine an h\_inne ene hawean h\_i.**

憤懣やるかたない様子で、次のように話した。

「アシヌマ ウェナン ワ オラ エネ イキアニネ

**“asinuma wen=an wa ora ene iki=an h\_inne**

「私は性質が悪くてこのようなことをしてしまって、

アイヌ メノコ ウタン ネ ルウェ ネ クナク アラム コロ

**aynu menoko utar\_ne ruwe ne kunak a=ramu kor**

人間の女たちだと思って

アランモッカ クス エカン ア プ

**a=rammokka kusu ek=an a p**

(その女たちを) からかいに来たのだが、

エイワク ワクス

**e=iwak wakusu**

お前が帰って来るので

スプヤ アッ シンネ クナク アラム クス アフナン アクス

**supuya at sinne kunak a=ramu kusu ahun=an akusu**

(炊事の) 煙が立っているようだと私は思って (亭主のふりをして) 入っていくと、

エネ エポンマチ エポロマチ ネ クナク アラム プ オカイ ペ

**ene e=ponmaci e=poromaci ne kunak a=ramu p okay pe**

そのようにお前の二番目の妻と最初の妻だと私が思った者たちがいたが、

オラ ミナ トウラ

**ora mina tura**

笑みを浮かべて、

「アヘコテ ニシパ シンキ イポロ コン ルウエ ポオ タプ<sup>[17]</sup>」

**“a=hekote nispa sinki ipor kor\_ ruwe poo tap”**

「私の旦那様が疲れた顔をしているから、尚更（食べないといけませんよ）」

セコロ ハウエオカ コロ

**sekor haweoka kor**

と（彼女たち二人が）言って、

イイペレ パ ヒクス カムイ イコイパク ペ ネ クス<sup>[18]</sup>

**i=ipere pa hikusu kamuy i=koypak pe ne kusu**

私に食事を勧めるので、カムイが私に罰を与えて

イペアン ルスイ カ キ イクス

**ipe=an rusuy ka ki h\_ikusu**

私はお腹が空いてもいたので、

イペアン ルウエ ネ アクス イルカ ネ コロ スルクカラニネ

**ipe=an ruwe ne akusu iruka ne kor surkukar=an h\_in**

私は食事をすると短い間で毒にあたって、

オアラ アネアイカパン ノイネ インカラン アクス

**oar an eaykap=an noyne inkar=an akusu**

ただそこにいることもできなさそうな状態になったので（？）、

アイパウチエレ<sup>[19]</sup> ノイネ ヤイヌアン オラ ソイネアン ア プ

**a=i=pawciere noyne yaynu=an ora soyne=an a p**

私は毒を食べさせられたようだと思ったので、外へ出たのだけれど、

ヌサ トウカリ タ トウルセアニ パクノ ネ ルウエ ネ アクス

**nusa tukari ta turse=an h\_i pakno ne ruwe ne akusu**

幣の手前で倒れたまで（のところで死んだの）だが、

アイヌ ヘ タプ エネ カトゥ アン クス

**aynu he tap ene katu an kusu**

このような姿をしていて（お前は）人間なのだろうか

アウタリ エウン カ イサム エイカシパオツテ カ イエヨンヌツパ カ キ ワ

**a=utari eun ka i=sam eykaspotte ka i=eyonnuppa ka ki wa**

（もう既に）私の同胞たちに私のことを伝えて、告げ口をしたので、

アイウココパシロタ アイウココイキ コロカ オラウン

**a=i=ukokopasrota a=i=ukokoyki korka oraun**

私は罵声を浴びせられて殴られたのだが、

カムイエウタンネアン クニ キマッタロ ルウェ ネ クシ

**kamuyewtanne=an kuni kimattaro ruwe ne kus**

私はカムイの仲間ですらに決まっていたので、

オラ アエコヤブ…… ヤパプ クス

**ora a=e=koyap... yapapu kusu**

私はあなたに謝ろうと思って、

アウタリ アカシパオツテ ワ

**a=utari a=kaspotte wa**

私の同族たちに言伝をして、

オラ ポ ヘネ エイソン クニ ネ ハウエアナン クシ ネ ナ。

**ora po hene e=ison kuni ne hawean=an kus ne na.**

なお一層あなたが狩猟の獲物に恵まれるように言おう。

イテキ テイネモシルン アラパアン クニ イエイノンノイタク ワ イコレ。

**iteki teynemosir un arpa=an kuni i=eynonnoytak wa i=kore.**

（だから）地底の国へ私が行ってしまうように祈るのはやめておくれ。

ヤク エセレマカ アウシ クシ ネ ナ」

**yak e=sermaka a=us kus ne na”**

そうしたら私はあなたを守護しよう」

セコロ ウェンタラパン

sekor wentarap=an

と言う夢を見たので、

オラ パシロタアン カ オンカミアン カ キ コロ

ora pasrota=an ka onkami=an ka ki kor

私はののしったり拝礼をしたりすると、

オラウン シノ ポロ プ スマウエ アコロ ヒネ サナン ルウエ ネ ヒネ

oraun sino poro p sumawe a=kor hine san=an ruwe ne hine

本当に私は大きなもの、クマの獲物を手に入れて戻ってきて、

オラウン カムイ サパ アセ ワ サナン ペ ネ クス

oraun kamuy sapa a=se wa san=an pe ne kusu

熊の頭を背負って山を下ってくるので、

ポ ヘネ ウナフンケアン ワ マラプトコラン カシ ウン

po hene unahunke=an wa maraptokor=an kasi un

いっそう人を招待して酒宴を催した上、

オラウン ネア チュクペニ カムイ カ アコイプニ

oraun nea cukupeni kamuy ka a=koypuni

そのエンジュのカムイにも食物を供したり、

イナウ アコレ イナウ タクタク…… アコタクタク オラウン

inaw a=kore inaw taktaku... a=kotaktaku oraun

イナウを供したり、イナウを私は付けて捧げて、

「スルク トノ マツ エウン

“surku tonno mat eun

「トリカブトの婦人へも、

タパン さけ タパン イナウ エアラパレ ワ イコレ プ ネ ナ」

tapan SAKE tapan inaw e=arpare wa i=kore p ne na”

この酒とこのイナウを送って、下さいな。」



セコロ ハウエアナン コロ

**sekor hawean=an kor**

と私が言うと

イナウ シンノ チキ オラウン ワ アヌ。

**inaw sinno ciki oraun wa a=nu.**

XXX (?)。

ネ ワ アン ペ ポ アエピリカ シンネ クニ アラム まるって

**ne wa an pe po a=epirika sinne kuni a=ramu MARUTTE**

そのことで私はもっと暮らし向きが良くなるように思うと、本当に

アルオカケ アルエトコ チョイランケ コロ アナン ルウェ ネ アイネ

**a=ruokake a=ruetoko coyranke kor an=an ruwe ne ayne**

私の進む後ろにも前にも獲物が授けられているようで、

オラウン ネア アコロ ポン ヘカチ ポロ

**oraun nea a=kor pon hekaci poro**

そしてあの私のちいさな息子も大きくなって、

タネ エアラキンネ ポロ ワ オケレ アクス

**tane earkinne poro wa okere akusu**

今や本当に大きくなって、

スイ オシ マッカチ アポンマチ コロ ワ

**suy os matkaci a=ponmaci kor wa**

また続いて私の二人目の妻は娘も生んで、

ネ ポン ワ アン マッカチ アナク

**ne pon wa an matkaci anak**

その小さい娘を、

シノ アコロ カツケマツ オマプレス コロ オカアン アイネ

**sino a=kor katkemat omapresu kor oka=an ayne**

私の第一の妻もとてもかわいがって育てながら、私たちは暮していて、

タネ ポロ オッカヨ ネ ワ エネ クアリアニ アエパカシヌ カ キ ワ  
**tane poro okkayo ne wa ene kuarian h\_i a=epakasnu ka ki wa**

(息子は) もう少年の歳になって、私が仕掛け弓を置くことを教えたりもして、

イトウラ ワ クワリアン コロ  
**i=tura wa kuari=an kor**

私と一緒に仕掛け弓を置いたりして、

イネアプ エアシカイ ワ シリキ ヤ カ アエラミシカリ コロ  
**ineap easkay wa siriki ya ka a=eramiskari kor**

なんとまあ上手に (息子は) それをして

アオマプレス コロ オカアナイネ  
**a=omapresu kor oka=an ayne**

私たちはかわいがって育てていて、

タネ オロワノ ポ ヘネ チュクペニ トノ アノミ  
**tane orowano po hene cukupeni tonon a=nomi**

いっそうエンジュのカムイに祈りを捧げ、

ヌサ オツ タ アン ペ ネ クス キ コロ  
**nusa or\_ ta an pe ne kusu ki kor**

幣棚の所にいるものなので私は祈りを捧げ、

オカアナイネ オンネアン ペ ネ クス  
**oka=an ayne onne=an pe ne kusu**

そうして暮らしていると、私は年を取ってきたので、

アポホ カ ネプ タネ ヤイラメコテ シリ アヌカラ コロ アナナイネ  
**a=poho ka nep tane yayramekote siri a=nukar kor an=an ayne**

息子がなんとまあ何かと私のことを気遣ってくれる様子を私は見ながら暮らしていて、

オンネアン ペ ネ クス  
**onne=an pe ne kusu**

私は年をとったので

イオクンヌレアン イナウ エコパシ アアシ チクニ

**iokunnure=an inaw ekopas a=asi cikuni**

驚いたことに、私がイナウをもたせかけて立てた木に

ナニ シンリッ ウシ ワ ヘトウク プ ピリカ チュクペニ ネ ア プ

**nani sinrit us wa hetuku p pirka cukupeni ne a p**

すぐに根が生えてきれいなエンジュになったのだが、

ネワアンペ イカ オピウキ スルク トノマッ クス…… アン クシケライ

**newaanpe i=ka opiwki surku tonomat kusu... an kuskeray**

それが私を助けてくれて、毒の婦人がいたおかげで、

トゥンネ ワ イシクヌレ ワ

**tunne wa i=siknure wa**

二人で私を救ってくれたので、

ソモ ヌプリ ケシ プリ ウエン クル イライケ プ ネ アクス

**somo nupuri kes puri wen kur i=rayke p ne akusu**

山裾の性質の悪いものに殺されなくてすんだので、

アエイソク…… アエイソイタク ナ。

**a=eysoak... a=eysoytak na.**

そのことを私は物語るのだよ。

ネプ ネ アッカ アヌ ワ オカアン ペ ネ ナ。

**nep ne y\_akka a=nu wa oka=an pe ne na.**

なんであつても聞いておくものなのだよ。

セコロ シノ ニシパ イソイタク。

**sekor sino nispa isoytak.**

と本当の長者が物語った。

#### 【注】

- [1] kim は通常「山」と訳すが、厳密には「山のほう」「山手」という意味の、方向を表す語である。ここでは「kucacise から見て山手のほうに」という意味。

- [2] uwominausiusi 「みんなで大笑いする」(『沙流方言辞典』 p. 815)、ueminausiusi 「笑い合う」(片山龍峯氏採録資料 テープ No72-B、鍋沢強巳氏の発言)。
- [3] opentari 「素性を言う。(…) \*困って神々に頼みごとをする時」(『萱野辞典』、p. 180)。この場合は opettari と聞こえるか。
- [4] inaotumbu 「a box filled with inau shavings」(『バチェラー辞典』 p. 191)。cisekorkamuy は沙流川では壁に挿してあるが、さらに東に行くと並べて台に立ててあるという。
- [5] ene ne wa kotusa kuni 「どうしたら治癒するか」(『神話集成』 第7巻 p. 122)。(『音声資料』 No. 3)。
- [6] po tak 「ナホ更、ナホ一層」(『久保寺辞典稿』 p. 213)。
- [7] 上に湿地帯へ四つ指の魔熊が入って言った跡を見て危険を察知するというくだりがあるので、そのことと結びつけて推察しているのだと解釈した。
- [8] 家の外側のその辺りをつたってやってくる様子を主人公は窓から眺めているという構図になっている。
- [9] tunpuku 「道服；道士の着る着物。\*これはウウェペケレなどで神様が着ている着物として出て来る。huretunpuku ikakuste kamuy an wa と描写されている。トンプクとはどんな着物だろうか和人のらしいが、と私が聞くと東京の岡村吉右衛門さんが道服という着物があるからそれかも知れないと教えてくれたので、トンプク=道服とした」(『萱野辞典』 pp. 338-9)。
- [10] 『沙流方言辞典』では emko cipor pe a=ota emko cikuy pas a=kuste apekor an kameasi (半分は筋子をつぶしてぶっかけたような、半分は粉墨をまぶしたようなばけもの) (p. 53 など)、『萱野辞典』では wenyuk anakne emkoho cipor pe a=ota pekor emkoho ci=kuy pas or a=kuste apekor an pe ne sekor uepeker or\_ ta a=ye p ne (どうもうな熊は身体の半分が筋子を潰した汁をかけたような赤い色、体半分は消し炭を噛んだ汁にくぐらせたような黒い色をしていると昔話の中では言われるものだ) (p. 303 など)。この部分は cipor pe or a=kuste と言われることもあるので、二つの形が混ざったか、後ろとの形を合わせようとしてこのように言ったのではないか。
- [11] eyayramu-ikasure 「(人の) 上になる、(人) より上位に立つ、(人) に負けずにする」(『沙流方言辞典』 p. 159)。ここの si は言いさしで、下の方で yayramuikasure という形を言っている。
- [12] shikoipakte 「憤る、怒る、怒らず」(『久保寺辞典稿』 p. 243)。
- [13] 鍋沢元蔵筆録、扇谷昌康ローマ字化・訳、1966『アイヌの祈詞』(門別町郷土史研究会) : p. 131 及び『神謡・聖伝の研究』 p. 131 に同じ表現がみられる。
- [14] waka 「【副】かえって。なおさら。」(『千歳方言辞典』 p. 430) ; waka wen na 「かへって悪い」(『久保寺辞典稿』 p. 305)。
- [15] あえて粗末なイナウを捧げるということ。
- [16] chikoetuipa 「切ってある、ぞっくりと揃ふ」、chikoetuye 「同じ長さにたれ下る」(『久

保寺辞典稿』 p. 43)。解体されると髪も短くなるようだ。

[17] poo tap 「ナホ更」(『久保寺辞典稿』 p. 212) ; po tap (『神謡・聖伝の研究』 p. 464)。

[18] 既にエンジュのカムイとトリカブトのカムイが、その力によってお腹がすくように仕向けていたということか。

[19] ipawciere 「毒を食わせる」(『萱野辞典』 p. 68)。辞書では i-pawci-e-re で「毒を食わせる」となっているが、これでは項数が合わず、i-は人称接辞なのではないか。

## 5-3 ウエペケレ「スルクマツ チクペニカムイ イカオピューキ」

## 解説

語り手：貝澤とうるしの

聞き手：解説：萱野茂

萱野：これは、*surku tonomat cikupeni kamuy i=kaopiwiki* [トリカブトの女神とエンジュの神が私を助ける] という *uepeker* [散文説話] だな。

貝澤：うん。

萱野：私はある村に住んでおる男、なに不自由なく、猟も上手だし、まったく不自由なく私の妻とともに生活をしておりました。けれども一番そればかりがまあ、足りないといえば足りない、不自由だといえば不自由なのは、子供がないことである。

だからなんとかして子供が欲しくって、考えておってもどうすることも出来ずにおったら、妻が「私には子供がなさそうだから、ぜひ、家の旦那よ妾をもつてくれないか」と、そんなふうに言われ言われしておったんだけど、なんか妾を持つということは、いわゆる本妻に申し訳ないような気がして、それもしないでおった。でも、あんまりにも言われるし私自身も子供が欲しいので、近所からいい娘を一人、妾として迎えて暮らしておるうちに、男の子が産まれた。その男の子も非常に良くて、どんどん大きくなっていく。

そうしておる時に、ある日、山の狩り小屋へ、いわゆる *kucacise* [狩小屋] と出ていますが、その *kucacise* へ狩りに出かけて行った。そしたら私の *kucacise* に人がおるはずではないのに、行く前にちゃんと火が燃えて、煙が出ているのが見えながら入っていった。

そしたら、家で置いてきたはずの本妻と妾、二人がちゃんと座って火を焚いて、「家の主人はそれ、来るのに疲れて帰るだろうと思って先に来ておったよ。さあさあ。」と言いながら、でも小声で言うことは、「危ない事があるので、先回りしてきていたんです。さあさあ、そこの家の隅の方にある *cisekorkamuy* [家の守り神] という神さまのもとへ行つて、あんたはだまって見ていなさい。」

そういうふうに使われたので、自分のものは整理して、ちゃんとその *cisekorkamuy* という家の東隅にある神さまの所へ行って、隠れるようにして座っておった。

そうすると、そこへ間もなく、あっ、その *kucacise* という家まで来るちょっと前に、その *kucacise* の、狩り小屋のすぐそばの所で *ineurepet'uspe* [四つ爪の熊] というふうに表示されておりますが、昔のどう猛な熊は足の親指を、ま人間風に言えば親指を人差し指へ重ねて歩いた足跡が爪四本だけ、そのこう、見えるというのがこれアイヌで非常にそのどう猛な熊として見分けるんですが、その *ineurepet'uspe* いわゆる四つ爪の熊がすぐ狩り小屋の近くのぼさ原へ入ったのを見たので、これは恐ろしいなとも思いながら来た。

そうしたら今言ったようなその、本妻と妾がおって「さあさあ隠れなさい」と使われたので、すぐに隠れた。まもなく私とまったく同じようなかたち恰好をした男が入ってきて、そうしたらその本妻と妾の言うのには、「やあやあ、家の主人はお疲れでしょう。さあさあ、さあさあ」という調子で、二人がかりでまかない [身につけたもの] をほどいたりいろいろ待遇して、「さあ、お疲れでしょう。食べなさい。」という訳で物を食べさせた。

そしてまあ、食べさせられるままに物を食べて、終わって、食べ終わって間もなく、なんかその熊は変に、熊って、ま、その時はまだ人間なんですけれども、その人間は姿勢ばっと (?) こうフラフラしたような恰好をしとる。それから家からすぐに出て、家の裏のその *nusasan* [祭壇] と言いますが、その *nusasan* の所へ行ったら。そして、ぼったり倒れた音がした。

そうしておるところへ、まあ、出てしまったので安心して出てみると、出ると、そのいわゆる家の隅の方から、その、本当ではないけれども、私の妻らしき恰好した人たちがそばへ出ると、「よく、ま、これでもう終わりましたよ」と。「実は私たち人間ではありませんが、私は *cikupenikamuy* と言って、エンジュの樹です」と。「あなたのこの祭壇のすぐ傍の所から生えておったんだけれども、熊が来てあなたを襲おうとしたのを見たので……」 *surku tonomat* と言って、毒ですね、これは。アイヌ語での *surku* は、

貝澤：*surku tonomat* はブシ [トリカブト]。

萱野：うん、ブシ [トリカブト] だな。「ブシの神さまを頼んで、そして二人で

あなたを助けるべくここへ来て待っており、そして熊があなたの顔、形そっくりにして来たのを待ち構えて、毒を食わせて殺したんですよ。」と、そういうふう言いながら帰って行ったと。

ありがたくて、ありがたくて、厚くお礼を言いながら次の朝になり、そして、なるほど、昼間になってみると、外の方のその祭壇には、あるのは **cikupeni** [エンジュ] だとか、それから **surku** というブシ [トリカブト] があったと。それらにも **inaw** [木幣] をあげたり、そして、本家へ帰ったと。

だけども、山へ行って危なく死にそうになったのに、エンジュの樹の神さまと、ブシ [トリカブト] の毒、毒草ですね、ブシの神さまが私を助けてくれたおかげで、そのあと **inaw** あるたびにいろいろとそのお礼をするものだから、なお私は非常に幸せに、熊も沢山獲れて幸せに生活しております。

そして、さらに私の妾には続いて女の子も産まれたので、子供も不足なく幸せに暮らしておりました。と、一人の男が語りました。



## 5-4 ウエペケレ

「ポロシルンカムイ トウレシヒ アコロ」

ポロシルンカムイの妹と結婚した

語り：貝澤とうるしの

シノ カムイ ネットパ アネ カムイ オツカイポ アネ ヒネ

sino kamuy netopa a=ne kamuy okkaypo a=ne hine

私は本当の、カムイの中のカムイ、カムイの若者であるのだが、

ポロシルンカムイ<sup>[4]</sup> マタパハ アシコヤントネレ ヒネ アナン ルウエ ネ ヒケ

Porosirunkamuy matapaha a=sikoyantonere hine an=an ruwe ne hike

ポロシルンカムイの妹と一緒に暮らしているのだが、

エアラキンネ ユプテケム キ

earkinne yuptek h\_em ki

(妻は) とても働き者でもあって

ネプ テ…… ア…… アテケヘ ケレ シリ カ イサム ノ

nep te... a... a=tekehe kere siri ka isam no

何にも私の手が触れることもないほど妻が何でもやって

ネプ ネ アッカ カラ ワ アコロ ミプ ピリカ コロカ

nep ne y\_akka kar wa a=kor mip pirka korka

何でも (妻が) 作って、私の着物は素晴らしかったが

カムイ ネ プ ネ クス アシヌマ カ ソレクス

kamuy ne p ne kusu asinuma ka sorekusu

(妻は) カムイであるために、私もそれこそ

アウコエオリパク カムイ オツカイポ アネ ワ アナン ペ

a=ukoeoripak kamuy okkaypo a=ne wa an=an pe

敬われるカムイの若者であったのだが

トゥラノ アナン ワ

**turano an=an wa**

一緒に暮らしていて、

ネプ アエシリキラプ カ ソモ キ ノ アナン ルウェ ネ ア プ

**nep a=esirkirap ka somo ki no an=an ruwe ne a p**

何も私は困ることもなく暮らしているのだが

タネ ヘンパク ヘンパク パ オホンノ オカアン コロ

**tane hempak hempak pa ohonno oka=an kor**

もう何年と長い間暮らしていると、

シネ アン タ ヤオ…… ヤ オ ウサツ レプ オライエ<sup>[2]</sup>

**sine an ta yao... ya o usat rep oraye**

あるとき、(妻は) いろりの中央の燠を炉縁近くに押しやり、

レプ オ ウサツ ヤ オライエ

**rep o usat ya oraye**

炉縁の燠を中央に押しやり

トゥ ウトウルサマ ナイパ カネ オツケ カネ

**tu utursama naypa kane otke kane**

その二つの (=多くの) 間を (火箸で) 筋をつけたり突いたりして

ネプ カ イェ ルスイ ノイネ イキ

**nep ka ye rusuy noyne iki.**

何か言いたいようにしている。

アコオヤモクテ コロカ モシマノ アナナ…… ノ…… アクス

**a=kooyamokte korka mosmano an=an a... no... akusu**

私は不思議に思うけれど、黙っていたところ

ホシキ イェ クニ プ ヤイコルキ

**hoski ye kuni p yaykoruki**

先に話すべきことを (言わずに) 飲み込み

シノンルキ ア シノンルキ ア コロ アン アイネ エネ ハウエアニ  
**sinonruki a sinonruki a kor an ayne ene hawean hi**  
 生唾を飲み飲みしていたあげくこのように言った

「アコン ニシパ アユピ° エウン シネウエアシ ワ エカン ルスイ」  
**“a=kor\_ nispa a=yupi eun sinewe=an wa ek=an rusuy.”**  
 「旦那様、私の兄のところに遊びに行きたいのです。」

セコロ ハウエアニ クス  
**sekor hawean h\_i kusu**  
 と（妻が）言ったので

「ヤッカ ピリカ…… アラパ ヤッカ ピリカ クス  
**“yakka pirka... arpa yakka pirka kusu**  
 「どうしても良い……、行っても良いから

ヤイトウパレノ アラパ ワ エカク ピリカ」  
**yaitupareno arpa wa ek y\_ak pirka.”**  
 気をつけて行って来たらしいよ。」

セコロ ハウエアナナクシ  
**sekor hawean=an akus**  
 と（私が）言うと

シノ キ ウミ ピリカ ノイネ アラム コロ  
**sino ki h\_umi pirka noyne a=ramu kor**  
 本当に（それを）聞いて気分がよくなったように思い、

アラパ ワ イサム ルウエ ネ ア プ  
**arpa wa isam ruwe ne a p**  
 妻は行ってしまったのだが

オラウン ヘンパク ヘンパク ト イサム アイネ サン ヒネ スイ  
**oraun hompok hompok to isam ayne san hine suy**  
 それから何日もいなかったが、戻ってまた

イパロスケ したり ネウン ネウン イキ コロ アナイネ

i=parosuke SITARI neun neun iki kor an ayne

(妻が) 私に食事をつくってくれたり色々しているうちに

ネプ カ イェ ルスイ ノイネ スイ イキ コロ アナイネ エネ ハウエアニ

nep ka ye rusuy noyne suy iki kor an ayne ene hawean h\_i

何か言いたいらしく、また(そうした様子を)していたあげく(妻は)このように言った

「タン アコロ アヘコテ ニシパ イタカン ワ エイヌ カトウ エネ アニ

“tan a=kor a=hekote nispa itak=an wa e=inu katu ene an h\_i

「私の旦那様よ、私が話してあなたが聞く(=聞いてほしい)ことはこうなのです。

『モシリパサリ タ ポロ ニツネ カムイ アイヌ モシリ アイヌ コタン

‘Mosirpasari ta poro nitne kamuy aynu mosir aynu kotan

『モシリパサリ(=斜里)で強大な悪いカムイがアイヌの国、アイヌの村を

ウエンテ クニ ラム コロ アン ルウェ ネ アン クス

wente kuni ramu kor an ruwe ne an kusu

荒らそうと思っているのであるから

エサン ワ イェ ワ エヘコテ ニシパ ネ ヤク エアシリ アエオトウワシ クス

e=san wa ye wa e=hekote nispa ne yak easir a=eotuwasi kusu

山を下って(家に戻って、お前の旦那に)話して、お前の旦那でなければ頼りにできないので

エサン ワ イェ ワ エウン アラパ ワ ウエンパカシヌ ライケ ワ

e=san wa ye wa eun arpa wa wenpakasnu rayke wa

戻って(夫に)話して、そこへ行って懲らしめて殺して

エク クニ エイエ ヤク ピリカ』

ek kuni e=ye yak pirka’

来るように、とお前が(夫に)言いなさい』

セコロ アユピ° イウテク」

sekor a=yupi i=utek.”

と私の兄は私に言いつけたのです。」

セコロ ハウエアン

**sekor hawean**

と言う (と)

イヨクンヌレアン

**iokunnure=an**

私はびっくりした

インカラナクシ ソンノ カ ネ ノイネ ヤイヌアン ルウエ ネ イネ

**inkar=an akus sonno ka ne noyne yaynu=an ruwe ne h\_ine**

見ると本当に聞いた通りのようだと思って

オラノ コント ネ モシリパサリ ウン アラパアニネ インカラナクス

**orano konto ne Mosirpasari un arpa=an h\_ine inkar=an akusu**

それから今度、そのモシリパサリに行って見たところ

エアラキンネ アイヌ コタン エウン ヤン ワ

**earkinne aynu kotan eun yan wa**

とてもアイヌの村に上がって行って

「アイヌ コタン アイヌ モシリ

**“aynu kotan aynu mosir**

「アイヌの国、アイヌの村を

ウエンテ クニ ラム コロ アン ペ ネ アアン ルウエ ネ イネ

**wente kuni ramu kor an pe ne aan ruwe ne h\_ine**

荒らそうと思っているものがいるのであって

ソレクス アテケ アニ アウエンパカシヌ

**sorekusu a=teke ani a=wenpakasnu**

それこそ私の手でもって戒めて、

アアッコノイエ チウエンパカシヌ アエカラカン ルウエ ネ

**a=atkonoye ciwenpakasnu a=ekarkar\_ ruwe ne.**

紐を縛うようにきつく罰してやるぞ。

ネプ アン クス アイヌ モシリ アイヌ コタン  
**nep an kusu aynu mosir aynu kotan**  
 どんな理由でアイヌの国、アイヌの村を

ウエンテ ルスイ コロ アン ルウエ ネ アッカ  
**wente rusuy kor an ruwe ne y\_akka**  
 荒らしたがっているのもであっても

カムイ ヌプル<sup>[3]</sup> ペ ネ クス アエラムアン ワ  
**kamuy nupur pe ne kusu a=eramuan wa**  
 カムイは巫力が強いものであるのわかって

カムイ オピッタ イトゥラ ワ エク ワ…… アラキアン ワ  
**kamuy opitta i=tura wa ek wa... arki=an wa**  
 カムイ全員が私を連れてきて

タップ タップ アカラ シリ アン ナ」  
**tap tap a=kar siri an na.”**  
 これぞまさに私のすることよ。」

セコロ ハウエアナン コロ  
**sekor hawean=an kor**  
 と私は言う

ソレクス アオペニヌ ウサ ノヤ<sup>[4]</sup> オプ  
**sorekusu a=openinu usa noya op**  
 それこそ槍でつき、いろいろなヨモギの槍、

ウサ ウエン オプ アカラ ワ アオペニヌ イネ  
**usa wen op a=kar wa a=openinu h\_ine**  
 いろいろなひどい槍を作って、槍について、

アウエンパカシヌ イネ アライケ ワ イサム ルウエ ネ ヒネ  
**a=wenpakasnu h\_ine a=rayke wa isam ruwe ne hine**  
 私は罰を与えて殺してしまったので

オラ アエラムシンネ ヒネ エカン ルウエ ネ。

**ora a=eramsinne hine ek=an ruwe ne.**

それから私は安心して（戻って）来たのだ。

オラノ アナクネ ネプ カ アエシリキラプ エネ キ カ ソモ キ

**orano anakne nep ka a=esirkirap h\_ene ki ka somo ki**

それからは何も私は困ることもなく

ネプ カ オヤモクテ カ ソモ キ ノ オカアン ルウエ ネ クス

**nep ka oyamokte ka somo ki no oka=an ruwe ne kusu**

何も不思議に思うこともなく暮らしているのであるのは

カトゥ レンカイネ ネ ワ クス

**katu renkayne ne wa kusu**

このような次第であるので

アヘコテ カムイ カツケマツ

**a=hekote kamuy katkemat**

私の良き妻が

ユピ° エウン アラパ ルスイ ハウエ ネ アン クス

**yupi eun arpa rusuy hawe ne an kusu**

兄のところへ行きたいと言うので

ポロシルン アラパ ワ ユピ° イェ プ ヌ ワ エク クシケライポ

**Porosir un arpa wa yupi ye p nu wa ek kuskeraypo**

ポロシリに行って、（妻の）兄が言うことを聞いて、（妻が）来たおかげであって

オラ アイヌ モシリ カシ アオピウキ アイヌ ク…… カシ アオピウキ クス

**ora aynu mosir kasi a=opiwki aynu ku... kasi a=opiwki kusu**

それからアイヌの国を私が助けて、アイヌを私が助けたので、

カミアシ アラウエン カムイ

**kamiasi arwen kamuy**

魔物、全く悪いカムイが

コタン ウエンテ モシリ ウエンテ ルスイ アアン ペ  
**kotan wente mosir wente rusuy aan pe**  
 村を荒らそう国を荒らそうとしたがっていたが

アウエンパカシヌ ワ アライケ プ ネ クス  
**a=wenpakasnu wa a=rayke p ne kusu**  
 私が戒めて、殺したので

ネプ ネ アッカ アコエラメウニン エアイカプ ペ ネ クス  
**nep ne y\_akka a=koeramewnin eaykap pe ne kusu**  
 何であれ私はうっかり見逃すことはできないものだから

アヘコテ カツケマツ エクシコンナ ユピ エウン アラパ ルスイ アイネ  
**a=hekote katkemat ekuskonna yupi eun arpa rusuy ayne**  
 私の良き妻が突然（妻の）兄のところに行きたがったあげく

オラウン アラパ アクス オラ エネ アン ソンコ コロ ワ サン ワ  
**oraun arpa akusu ora ene an sonko kor wa san wa**  
 それから（妻が）行ったところ、あのように（妻が）ことづてを持って下って

クスケライポ オラ ネ アシウト ネ カムイ カ  
**kusukeraypo ora ne a=siwto ne kamuy ka**  
 おかげでそれからその義兄のカムイも

イセレマクシ イカスイ ペ ネ クス  
**i=sermakus i=kasuy pe ne kusu**  
 私を守ってくれて手伝ってくれたので

ネ モシリシンナイサム<sup>㊦</sup> ネ アラウエン カムイ  
**ne mosirsinnaisam ne arwen kamuy**  
 そのモシリシンナイサムという極悪のカムイを

アテケライケ アテケウエンテ ワ  
**a=tekerayke a=tekewente wa**  
 私が手ずから殺し手ずから痛めつけたので



アエラムシンネ クシケライ アイヌ モシリ

a=eramsinne kuskeray aynu mosir

私は安心して、おかげでアイヌの国は

アプンノ ウウオマノ オカ ルウェ ネ クス アエイソイタク

apunno uwomano oka ruwe ne kusu a=eysoytak,

静かに皆そろっているのだと私は話をした、

セコロ シノ パセ カムイ ハウエアン。

sekor sino pase kamuy hawean.

と本当に尊いカムイが語った。

#### 【注】

- [1] Porosir「幌尻岳」の神。
- [2] 言いたいことを言いだしにくく、迷っている様子を表す常套表現。
- [3] nupur「巫力（ふりよく）」透視力をはじめとする霊力（超能力）があること。見ないでもわかるし、先のこともわかる、病気や災いの原因を言い当てたり、重病人を癒したり生き返らせたりできる。（『沙流方言辞典』）
- [4] ヨモギは強い霊力がある草とみなされている。「ヨモギの槍で突かれた者、ヨモギの刀で斬られた者はどんな悪い神も蘇生することができないものだ。（『萱野辞典』）」
- [5] 国土の他にいる化物。「人によっては、頭も足もない馬のようとか、白黒まだらの牛のようなものという。これを見たら長生きしないか不運になるという。（『萱野辞典』）」

## 5-5 ウエペケレ「ポロシルンカムイ トウレシヒ アコロ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：私は Porosir〔幌尻岳〕の神さまの妹を妻にしておる一人の神でありました。

ある日のこと、妻である Porosirunkamuy〔ポロシリの神〕の妹は何か言いたくて私に……、そのしゃべり始まる時のその表現と言いましょるか、そういう時の描写にこういうふうに出るんですけども、rep o usak ya omare ya o usak rep omare〔炉の中心にある燠を炉端に置き、炉端にある燠を炉の中心に置く〕というふうに、話をするその話の中、話をするきっかけをつかむその時にこう、昔風のその囲炉裏の中である、いわゆる燠をです、真ん中の方にある燠をこう縁（へり）の方へ寄したり、縁の方にある燠を真ん中へ押したりというふうに、そういう表現で言うんですが、そういうようにして、言いたいこともなんか言いそびれ言いそびれして、とうとう言うのには、「なんか〔なにか〕しら Porosirの私の兄神のところへ遊びに行きたいので、どうぞひとつ許してください。」と、そのように言うのだ。

「どうぞ、どうぞ、行って来なさいよ。」というふうには私は妻が、いわゆる私の舅である Porosirunkamuy〔ポロシリの神〕へ行くことを許可した。

そうすると、行って何日か過ぎて帰ってきて言うのには、「私の兄神のところへ行ったところが、aynu kotan〔人間の村〕を襲おうとしている mosirsinnaysam〔国土の他に在る化け物〕という化け物がおるから、それをぜひあなたの方で退治してくださいと、そのように言われましたよ。だからどうぞひとつお願いします。」と、そんなふうに言われて、なるほどそう言われてよく注意して見たらば、本当にその悪い神様が aynu mosir〔人間の国土〕を襲おうとしておったと。

それを見たのでいろいろと、その化け物を退治するに見合った武器を作り、そして Porosirunkamuy〔ポロシリの神〕と一緒にその化け物を征伐したと。

そのおかげで今ではこの aynu mosir、いわゆる人間の国土もなんも恐ろしいものもなく、私たちは生活しておりますよと、一人の大変位の

重い神様が言いましたと。

これは **Porosirunkamuy turesihi a=kor** [ポロシリ神の妹と私は結婚した] という **uepeker** [散文説話]。

貝澤 : **Porosirunkamuy kokowe kamuy isoitak XXX** [ポロシリ神の婿神が話した XX]

萱野 : そうね。 **Porosirunkamuy** の **kokowe**。いわゆるポロシリの神様の婿殿になる人、神様がこういう語りをした、という **uepeker** [散文説話] でした。

## 5-6 ウエペケレ

「アロヌマンノチュー トウレシヒ イカオピューキ」

宵の明星の妹が私を助けた

語り：貝澤とうるしの

アヘコテ ニシパ アン ヒネ オカアン ペ ネ

a=hekote nispa an hine oka=an pe ne

私は主人と暮らしていたものであって

シネ オッカヨポ アコロ ワ

sine okkayopo a=kor wa

ひとりの男の子が私にはいたが

アヘコテ ニシパ アポホ トウンネ ワ キムン パ コロ

a=hekote nispa a=poho tunne wa kimun pa kor

主人と息子は二人で山に行って

オラ ユク ネ チキ カムイ ネ チキ エアウナルラ コロ オカ ワ

ora yuk ne ciki kamuy ne ciki eawnarura kor oka wa

そこで鹿だの熊だのにとって来て、私たちは暮らして

ネプ アエ ルスイ カ

nep a=e rusuy ka

私は何も食べたいとも

ネプ アコン ルスイ カ ソモ キ<sup>㊦</sup> プ ネ ルウエ ネ ア プ

nep a=kor\_ rusuy ka somo ki p ne ruwe ne a p

欲しいとも思わずにいたのだが

スイ キムン パ イネ シネト トリ ヘネ ヤ シラン コロ

suy kimun pa h\_ine sineto tori hene ya siran kor

また山に行きついでと晩ほどたつて

エネ ハワシ カ アエラミシカリ ア ヒ

ene hawas ka a=eramiskari a hi

何が起こったとも聞いていなかったのだが

なに…… アポ シネ アン ト サン ヒネ エネ ハウエアニ

NANI... a=po sine an to san hine ene hawean h\_i

息子がある日山から帰って次のように言った

「シパセ カムイ キム タ アライケ ナ

“sipase kamuy kim ta a=rayke na

「立派な尊い熊を山で私が殺したから

シト カラ ワ シケヘ キ ワ エク セコロ カネ アオナ イウテク」

sito kar wa sikehe ki wa ek sekor kane a=ona i=utek.”

団子を作って荷物を作って来いと父に言われて来た。」

セコロ ハウエアニ コロ サン ヒネ

sekor hawean kor san hine

と息子が言って山から帰ってきて、

アエイソコロ クス アポシタ (?) イユタ トウナシ ハウエ ネ シトカラニネ

a=ey Sokor kusu aposita(?) iuta tunas hawe ne sitokar=an h\_ine

私は本当だと信じたので息子の団子を私は急いでついて (?) 団子を作って

シケ アキ ヒネ アトゥラ ヒネ パイエアン

sike a=ki hine a=tura hine paye=an

荷物を作って一緒に行った

アコン ニシパ コロ クチャチセ オルン パイエアン

a=kor\_nispa kor kucacise or un paye=an

主人の狩小屋のところに私は行き

イエカノク アン カ キ ワ オロヌ プ ネ クス

iekanok=an ka ki wa oronu p ne kusu

(クマの神を) 出迎えたこともあり、場所を知っているので (?)

クチャチセ コパク ウン パイエアン ルウェ ネ ア プ

**kucacise kopak un paye=an ruwe ne a p**

狩小屋の方に向かったのだが

クチャチセ エホシ エホシ イネ アポホ ネ クナク アラム プ アラパ アイネ

**kucacise ehosi ehosi h\_ine a=poho ne kunak a=ramu p arpa ayne**

狩小屋とはどんどん違う方向に、私の息子だろうと思われる者は行ったあげく

konto シリコクンネアン ノイネ フマシ クス

**konto sirkokunne=an noyne humas kusu**

今度日も暮れてきたような感じなので

「テ タ レウシアニケ」

**“te ta rewsu=an h\_ike.”**

「ここで泊まりましょう。」

セコロ ハウエアン コロ

**sekor hawean kor**

と息子は言って

ソレクスワ オウポポリンネ ポロ

**sorekusuwa owpoporinne poro**

それこそ若生えの多い

タクuppeサバ<sup>[3]</sup> ネノ アン ラペンペ オウシ ウン モノ ア

**takupesapa neno an rapempe ousi un mono a**

ヤチボウズの頭のようなカヤの根元に息子は座った

「マク エイキ ハウエ アン？」

**“mak e=iki hawe an?”**

「お前は何をするというのか、

エオナ エウン パイエアン エアシリキ プ マク エイキ ハウエ アン？」

**e=ona eun paye=an easirki p mak e=iki hawe an?”**

お前の父のところに私たちは行かなければならないのに、お前は何をするというのか」

セコロ ハウエアナニケ カ なに…… モノ ア ワ アニ クス  
 sekor hawean=an h\_ike ka NANI... mono a wa an h\_i kusu  
 と私が言っても息子は座っているだけで

ヤユテカン ルスイ クス アシケ アアヌ イネ オラウン  
 yayutek=an rusuy kusu a=sike a=anu h\_ine oraun  
 私は用を足したかったので自分の荷物を置いてから

ムントウムン アラパアニネ エカン アクス  
 muntum un arpa=an h\_ine ek=an akusu  
 草むらの中に行って来たところ

ネア オッカイポ…… ネア アポ ネ クナク アラム ア プ オアラ イサム  
 nea okkaypo... nea a=po ne kunak a=ramu a p oar isam  
 その若者、その私の息子だろうと思っていた者はすっかりいなくなっていた

アシケ アン コロカ キ コント エネ イラムアニ カ イサム  
 a=sike an korka ki konto ene iramu=an h\_i ka isam  
 私の荷物はあっても今度何がなんだかわからない

ネオロ タ アイトウラ ルウェ アニカ アエランペウテク ペ ネ クス  
 neoro ta a=i=tura ruwe an h\_i ka a=erampewtek pe ne kusu  
 どこに連れて来られたかも分からなかったの

エネ イキ アニ カ イサム ヒ クス オラウン アシケ アセ ヒネ  
 ene iki an h\_i ka isam hi kusu oraun a=sike a=se hine  
 どうしていいかもわからないので、それから私は荷物を背負って

ヒナクン ワ ケナシ トウラシ だか アラパアン ルウェ ネ アクス  
 hinak un wa kenas turasi DAKA arpa=an ruwe ne akusu  
 どこへか木原に沿ってだか行ったのだが、すると

(フ) ナク タ シネ チセ アニネ  
 (hu)nak ta sine cise an h\_ine  
 どこかにひとつの家があつて

オラウン エウン スプヤ アッ コロ シラニ クス シムシシカアナクス  
 oraun eun supuya at kor siran h\_i kusu simusiska=an akusu  
 それからその方に煙が立っているように見えたので咳払いをすると

「ソイネ クル カ イサム ナ  
 “soyne kur ka isam na  
 「外に出ていく人もいないので

アイヌ カッケマツ アフン ヤクネ アエピリマ クス ネ ナ」  
 aynu katkemat ahun yakne a=e=pirma kusu ne na.”  
 人間の婦人よ、家に入れば（事情を）教えましょう。」

セコロ カネ ハワシ イネ  
 sekor kane hawas h\_ine  
 と聞こえて

オリパカニネ レイエアン カネ シヌアン カネ<sup>14</sup> アフナナクス  
 oripak=an h\_ine reye=an kane sinu=an kane ahun=an akusu  
 私はかしこまって這いながらずりながら入ると

カムイ ネ クシ コラチ アン メノコ カニッ アシ  
 kamuy ne kus koraci an menoko kanit asi  
 いかにもカムイらしい女性が糸巻き棒を立てて

アペオイ オッ タ カニッ アシ イネ カエカ コロ アニネ アフナナクス  
 apeoy or\_ ta kanit asi h\_ine kaeka kor an h\_ine ahun=an akusu  
 炉のところで糸巻き棒を立てて、糸を撚っているところに私が入ると

「アイヌ カッケマツ、アラウエンカムイ エコスンケ ワ  
 “aynu katkemat, arwenkamuy e=kosunke wa  
 「人間の婦人よ、非常に悪いカムイがあなたをだまして

エポホ ネ ヤイカラ ワ エシレン ワ エク カトウ エネ アニ  
 e=poho ne yaykar wa e=siren wa ek katu ene an h\_i  
 あなたの息子に化けてあなたを誘って来たのはこういうことなのです



アシヌマ アナクネ なに…… アロヌマンノチウ アネ ルウエ ネ ワ  
**asinuma anakne NANI... aronumannociw a=ne ruwe ne wa**  
 私は宵の明星であって、

オラ イエンコロケヘ タ  
**ora i=enkorkehe ta**  
 それからこの（私の）川上の方に

ニサツサウオツ カムイ アサハ アン ルウエ ネ クス  
**nisatsawot kamuy a=saha an ruwe ne kusu**  
 明けの明星のカムイである私の姉がいるので

アサハ タ エアラパ ヤクネ エネ エイキ クニ  
**a=saha ta e=arpa yakne ene e=iki kuni**  
 私の姉のところに行ってどのようにすべきかを

エ…… アエエパカシヌ ヤク ネノ エイキ ヤクネ  
**e... a=e=epakasnu yak neno e=iki yakne**  
 私が教えるようにすれば

エヘコテ ニシパ エパ ヘム キ アエエペンキネ ヤクネ  
**e=hekote nispa e=pa hem ki a=e=epunkine yakne**  
 あなたのご主人もあなたが見つめもして私があなたを守れば

ネプ カ エキマテク カ ソモ キ クス ネ ナ」  
**nep ka e=kimatek ka somo ki kusu ne na**”  
 あなたは何もあわてることもないですよ」

セコロ カネ  
**sekor kane**  
 と言って

「アラウエンカムイ エポホ ネ ヤイカラ ワ  
**“arwenkamuy e=poho ne yaykar wa**  
 「非常に悪いカムイがあなたの息子に化けて

エコスンケ ワ エク…… アラパ ヒネ ワ エシレン ワ エク ルウェ ネ ナ  
**e=kosunke wa ek... arpa hine wa e=siren wa ek ruwe ne na**  
 あなたをだましに行ってあなたを誘って来たのですよ

ラペンペ オウシ タ アナクネ  
**rapempe ousi ta anakne**  
 カヤの根元には

ウエンカムイ パテク レウシパ プ ネ ルウェ ネ  
**wenkamuy patek rewsipa p ne ruwe ne**  
 悪いカムイばかり泊まっているのである

ラペンペ オウシ オコタンコロ ウエンカムイ  
**rapempe ousi okotankor wenkamuy**  
 カヤの根元に村をもつ悪いカムイは

エポホ ネ ヤイカラ ワ サン ルウェ ネ ワ クス  
**e=poho ne yaykar wa san ruwe ne wa kusu**  
 あなたの息子に化けて山を下りたので

エヘコテ ノ インカラシ アクス エルカリ ルスイ クス  
**e=hekote no inkar=an akusu e=rukari rusuy kusu**  
 あなたの方を私は見るとあなたは用を足しに行きたがって

ムントウムン エアラパ シリ ヌカッ テク ナニ  
**muntum un e=arpa siri nukar\_ tek nani**  
 あなたが草むらに行った様子を（悪いカムイが）見てすぐに

ラペンペ チョロポク オアン ルウェ ネ コロカ  
**rapempe corpok oan ruwe ne korka**  
 カヤの下にいたけれど、

エシケ アセ…… アシッカシマ ワ アナン ワ クス  
**e=sike a=se... a=sikkasma wa an=an wa kusu**  
 あなたの荷物を私が見守っていたので

ネウ カ スルク オ ヘネ ネウ カ キ カ ソモ キ ノ アン ナ  
**new ka surku o hene new ka ki ka somo ki no an na**  
 何も毒を入れることも何もできずにいたのだ

エシケ エセ ワ ペツ トウラシ エアラパ ヤクネ アサハ アン ワ  
**e=sike e=se wa pet turasi e=arpa yakne a=saha an wa**  
 あなたは荷物を背負って、川に沿って行けば私の姉がいて、

オロ タ エアラパ ヤクン オラ エシレパカシヌ ヤクネ  
**oro ta e=arpa yakun ora e=sirepakasnu yakne**  
 そこへあなたが行けば、あなたに道を教えるので

ヘトポ エシケ エセ ワ エサナツカ エオシ ノ インカラシ ヤクネ  
**hetopo e=sike e=se wa e=san y\_akka e=os no inkar=an yakne**  
 また戻ってあなたが荷物を背負って降りても、あなたの背後を私が見守っていれば

ネプ カ エエラナク カ ソモ キ クス ネ ナ  
**nep ka e=eranak ka somo ki kusu ne na**  
 何もあなたは困ることもないのでよ

アシトマプ ラポン…… ラペンペ エアラキンネ オウポポリンネ イロンネ  
**asitomap rapon... rapempe earkinne owpoporinne ironne**  
 化物は、カヤ、非常に若生えのたくさんある

ラペンペ シンリッ カ タ ソモ シニアン ペ ネ ルウェ ネ  
**rapempe sinrit ka ta somo sini=an pe ne ruwe ne**  
 カヤの根の上で（一般的には）休むものではないのだ

オロ ウエンカムイ オレウシ ウシケ ネ プ ネ ワ アシトマ プ ネ ナ  
**oro wenkamuy orewsi uske ne p ne wa a=sitoma p ne na**  
 そこは悪いカムイが泊まる場所であっておそろしいものだよ

ヌ ワ ヘタク トウナシ ソイネ ワ ペツ トウラシ アアラパ ヤクネ  
**nu wa hetak tunas soyne wa pet turasi arpa yakne**  
 （このことを）聞いて、さあ早く外に出て川に沿って行って

アサ オロ タ アラパ ヤク エネ エネ エイキ クニ カリ エクシ クニ  
**a=sa oro ta arpa yak ene ene e=iki kuni kari e=kus kuni**

私の姉のところに行きなさい、このようにあなたが通っていくべきところを私が教えて

アエエパカシヌ ワ ヤクネ なに (?) エオシ ノ インカラナクネ  
**a=e=epakasnu wa yakne NANI(?) e=os no inkar=an y\_akne**

教えられて、あなたの背後を私が見守るので

エエラマン ノ エサン エウニ ウン キ クス ネ ナ」  
**e=eraman no e=san e=uni un ki kusu ne na“**

気を付けて山を降りてあなたの家に戻りなさい」

セコロ ハウエアン ルウェ ネ  
**sekor hawean ruwe ne**

と言った

オラウン ライミク アナ アナ チサン コロ  
**oraun raymik=an a =an a cis=an kor**

それから私は何度も感謝して泣きながら

「アポ ネノ フミ ネ クナク アラム コロ アトウラ ア プ  
**“a=po neno humi ne kunak a=ramu kor a=tura a p**

「私の息子と似ていると思いつつ私が一緒に来たが、

エネ ハワシ イ アン」  
**ene hawas h\_i an”**

このようなことだったのか」

セコロ ヤイヌアン  
**sekor yaynu=an**

と私は思った

チサン コロ ソイネアン ルウェ ネ ヒネ  
**cis=an kor soyne=an ruwe ne hine**

私は泣きながら外へ出たが

オラ ペツ トウラシ アシケ アセ ヒネ アラパアン

ora pet turasi a=sike a=se hine arpa=an

それから川に沿って荷物を背負って行って

ニタン ネ アッカ メノコ アネ コロカ

nitan ne y\_akka menoko a=ne korka

早く走ることでも、私は女であるけど

アイヌ オッカ アエヤヨライエ プ ネ クス ニタナン ワ アラパアナイネ

aynu okka a=eyayoraye p ne kusu nitan=an wa arpa=an ayne

人よりまさっているので早く走って行くと

チキタイコユプ チキタイコ…… カ チトウマムコユプ チキタイコライエ

cikitaykoyupu cikitayko... ka citumamkoyupu cikitaykoraye

屋根が締められていて、壁もしまっていて、きれいに屋根が葺いてある

ピリカ チセ アニネ スイ スプヤ アッ コロ シラン シムシシカアナクス

pirka cise an h\_ine suy supuya at kor sir an simusiska=an akusu

立派な家があってまた煙が立っている様子で、私は咳払いをすると

「ソイネ クル カ イサム ナ ホクレ アフン アフン」

“soyne kur ka isam na hokure ahun ahun“

「外に出る人もいないので、さあ早く入りなさい入りなさい」

セコロ ハワシ イネ アフナナクス

sekor hawas h\_ine ahun=an akusu

と聞こえたので私は入ると

カムイ カツケマツ イエ プ コラチ カムイ ネ クス コラチ アン

kamuy katkemat ye p koraci kamuy ne kusu koraci an

カムイらしい淑女（妹のカムイ）が言った者のような、いかにもカムイのような

ソンノ カ キヤンネ ヤクン キヤンネ ノイネ アン カツケマツ

sonno ka kiyanne yakun kiyanne noyne an katkemat

聞いた通りの年上らしい淑女が

カエカ コロ アニネ オロ タ アフナナクス エネ ハウエアニ  
**kaeka kor an h\_inē oro ta ahun=an akusu ene hawean h\_i**  
 糸を擦っていてそこに私が入ると淑女はこのように言った

「エイタク エトク タ イタカン ハウエ ネ ナ ピリカノ イヌ  
**“e=itak etok ta itak=an hawe ne na pirkano inu**  
 「あなたが話すより前に私が話すのだよ、よく聞きなさい

ソレクス エアラキンネ ウエンカムイ  
**sorekusu earkinne wenkamuy**  
 それこそものすごく悪いカムイ

ケナシウナラペ コケウトウムコロパ ウエンカムイ  
**kenas'unarpe kokewtumkorpa wenkamuy**  
 ケナシウナラペの仲間のカムイが

ポホ…… エポホ ネ ヤイカラ ワ なに……  
**poho... e=poho ne yaykar wa NANI...**  
 あなたの息子に化けて

『エオナハ カムイ ライケ ワ シ…… エ…… アオナ カムイ ライケ ワ  
**'e=onaha kamuy rayke wa s... e... a=ona kamuy rayke wa**  
 『私の父が熊を殺したので

シト エカラ ワ エセ ワ イトゥラ クナク イェ ルウエ ネ 』  
**sito e=kar wa e=se wa i=tura kunak ye ruwe ne ‘**  
 団子を作って背負って私と一緒に来いと言ったのだ』

セコロ ハウエアソ ソンコ コロ ワ サン ヤクン  
**sekor hawean sonko kor wa san yakun**  
 と言う言いづてを持ってきて山を降りて、

ネ ラペンペ オウシ タ エチレウシ ヤクン…… エレウシ ヤクン  
**ne rapempe ousi ta eci=rewsi yakun... e=rewsi yakun**  
 そのカヤの根元にあなたが泊まると

エウン アエパカリ クス ネ アアン ペ

**eun a=epakari kusu ne aan pe**

その方を謀られることになっていた（化物に毒殺されることになっていた）のだろうが、

カムイ ウチ エオシ インカラ クステライポ

**kamuy h\_uci e=os inkar kusukeraypo**

火の神があなたの後ろを見ていたおかげで、

アイコアスラニ ワ アエシクヌレ ルウエ ネ

**a=i=koasurani wa a=e=siknure ruwe ne**

火の神が私に事態を知らせて、あなたを生かしたのだ

アマタキ オロ タ ホシキ エソ…… エアフニ カ アエラマン ルウエ ネ ナ

**a=mataki oro ta hoski e=so... e=ahun h\_i ka a=eraman ruwe ne na**

私の妹のところに先にあなたが入ったことも私は分かっていたのだよ

イテキ テ ワノ エペットウラシ とんでもない オヤッケ ウン

**iteki te wano e=petturasu TONDEMONAI oyakke un**

決してこれから川を遡って、とんでもないところへ

アエキ オヤクン アエキル ワ エエク ルウエ ネ ナ

**a=e=ki oyak un a=e=kiru wa e=ek ruwe ne na**

よそへ向けられて、来るのではないよ（どこかに行くのではないよ）

イテキ エペットウラシ ノ テ ワノ ニサッタ ネ エサン ヤクネ

**iteki e=petturasu no te wano nisatta ne e=san yakne**

決して川をのぼらずに、これから明日になって降りて、

エウニ タ エシレパ チキ

**e=uni ta e=sirepa ciki**

あなたの家に着いたら

オラウン エヘコテ ニシパ トウッコ レレコ シラン ヤクン

**oraun e=hekote nispa tutko rerko siran yakun**

それからあなたの主人が二、三日たって

ソンノ カ カムイ ライケ ワ サン チキ

sonno ka kamuy rayke wa san ciki

本当に熊を殺して山を降りたら

『タップネ タブネ ネ ヒ エエヤイケウコロ ヘム キ オラウン

‘tapne tapne ne hi e=eyaykewkor hem ki oraun

『これこれこのようにあなたが恐ろしい目にあってそれから

ニサッサウオッ カムイ アロヌマンノチウ オロ タ アラパアン』

nisatsawot kamuy aronumannociw oro ta arpa=an‘

明けの明星のカムイと宵の明星のところに行った』

セコロ アン ペ エイエ ヤクネ

sekor an pe e=ye yakne

とあなたが言え

エアラキンネ ケウトウム ピリカ ニシパ ネ クス

earkinne kewtum pirka nispa ne kusu

(あなたの主人は) 非常に性根の良い長者であるので

イナウエ ピリカ プ ネ クス

inawe pirka p ne kusu

そのイナウも素晴らしいものである

イナウ カ アシ アイノミ ヤクネ

inaw ka asi a=i=nomi yakne

(あなたの主人が) イナウも立てて私が奉られれば

アエセレマッコロ オラ エチオカ カ エチセレマカ アウシ ワ

a=esermakkor ora ecioka ka eci=sermaka a=us wa

私はイナウで力を得て、そしてあなたたちも私があなたたちの後ろに付いて

シノ チコラマス ルスイ ペ エポホ ネ アアン ワ

sino cikoramasu rusuy pe e=poho ne aan wa

あなたの息子は本当に(?) したいものであったので



ネ ワ アン ペ クス ウエンカムイ ネ アアン ペ

**ne wa an pe kusu wenkamuy ne aan pe**

そのために本当は悪いカムイであったものを

エポ<sup>o</sup> ネ クナク エラム イネ アン クス

**e=po ne kunak e=ramu h\_ine an kusu**

あなたは自分の息子だと思っていたので

アイエ ハウエ ネ ナ ヌ」

**a=ye hawe ne na nu”**

私は言うのですから聞きなさい」

セコロ ハウエアン コロ

**sekor hawean kor**

と言いながら

フシコ ワ オケレ アペコラン コソソテ ネ ヤク イエ プ イミレ コロ

**husko wa okere apekor an kosonte ne yak ye p i=mire kor**

たいそう古びてしまったかのような小袖であると言うものを私に着せて

「タパン ペ エミ ヤク アナクネ

**“tapan pe e=mi yak anakne**

「これをあなたが着れば、

アラマッケノ エサン エウニ ウン キ プ ネ ナ」

**armakkeno e=san e=uni un ki p ne na”**

XXX (?) 降りてあなたは家につきますよ」

セコロ ハウエアン コロ イコレ イネ

**sekor hawean kor i=kore h\_ine**

と言いながら私に着せたので

チサン コン ライミク アナ アナ アクシ

**cis=an kor\_ raymik=an a =an a akus**

私は泣きながら何度も感謝すると

「イテキ チシ ノ ホクレ エシケ セ ワ シキル シキル」

“iteki cis no hokure e=sike se wa sikiru sikiru”

「泣かないで、急いで荷物を背負って戻りなさい」

セコロ ハウエアニネ

sekor hawean h\_inine

と言って

エソウスッタネ アペコン レウシアナ コロカ

esowsuttane apekor\_rewsi=an a korka

隅のようなところに私は泊まったけれど

ポプケアン イカセシケ ワ キ イネ オラウン

popke=an ikaseske wa ki h\_inine oraun

夜具をかぶせてくれたので私はあたたかくて、それから

「エセレマカウシ オラウン アフラ アラッカ シン ネ ナ」

“e=sermakaus oraun a=hura a=rakka sir\_ne na.”

「(小袖が) あなたを守って、それから私のおいがするのですよ。」

セコロ ハウエアニ コロ フシコ コソソテ イコレ ヒネ

sekor hawean kor husko kosonte i=kore hine

と言って古い小袖を私に与えて

アミ クシ イエ ヒネ アミ アクス

a=mi kusu ye hine a=mi akusu

着るように言って私は着ると

アミムトウム オレレ イネ イサム イネ

a=mimtumu orere h\_inine isam h\_inine

(小袖は) 私の体に沈んでなくなってしまつて

オラノ コント サナン ルウェ ネ アクス

orano konto san=an ruwe ne akusu

それから今度山を降りると

エアラキンネ シレラミシカリアン フミ ネ ペコロ ヤイヌアン ア プ  
**earkinne sireramiskari=an humi ne pekor yaynu=an a p**  
 まったく道もわからないように私は思っていたが

とんでもない ケナシ スッ ペカ ケナシ スッ ペカ シリクルポク ペカ  
**TONDEMONAI kenas sut peka kenas sut peka sirkurpok peka**  
 とんでもない木原の裾をたどり、木原の裾をたどり、地面の下（のようなところ）を

アイトウラ ヒネ アニネ クス アン ヤイエランペウテカニネ アン マ  
**a=i=tura hine an h\_inine kusu an yayerampewtek=an h\_inine an w\_a**  
 私は連れられていたので分からないで

まるって チサン コロ ヤイケウコラニ オラ サナニネ  
**MARUTTE cis=an kor yaykewkor=an h\_i ora san=an h\_inine**  
 ひどく泣きながら恐ろしい目にあってそれから山を降りて

アヘコテ カムイ エウン チサン コッ  
**a=hekote kamuy eun cis=an kor\_**  
 私のカムイ（火のカムイ）の方へ泣きながら

タップネ タブネ ネ ヒ アイェ コロ アペ アアリ ヒネ アナン  
**tapne tapne ne hi a=ye kor ape a=ari hine an=an**  
 これこれ言いながら火を焚いて過ごして

オラノ ケシト イエカヌナラアン コロ アナナイネ  
**orano kesto iekanunara=an kor an=an ayne**  
 それから毎日夫と息子を待ち焦がれていたあげく

ネ ヒ ワ ネ シットウライヌアン ヒ ワ  
**ne hi wa ne sitturaynu=an hi wa**  
 それから、私が道に迷ったそのときから

レレコ シラン コロ アヘコテ ニシパ アポホ クチャサプテ ルウェ ネ ヒネ  
**rerko siran kor a=hekote nispa a=poho kucasapte ruwe ne hine**  
 三日間たつと、主人と息子が狩小屋から帰ったのであって

コント ヤイエラパン チサン コロ キ アクス

**konto yayerap=an cis=an kor ki akusu**

今度泣きながら自分の話を語ると

エアシラナ、フムセ トウラ カムイ フチ エウン

**easirana, humse tura kamuy huci eun**

本当にまあ、夫が怒って火の神に

イヨンヌツパ イエ ア イエ ア

**iyonnuppa ye a ye a**

告げ口して何度も言って

「ネプ ウエンカムイ ネプ ウエンピト

**"nep wenkamuy nep wenpito**

「悪いカムイ・悪い神が、

パテク アコロ ペ アポ ニシパケ ネ ヒネ

**patek a=kor pe a=po nispake ne hine**

たった一人の私の息子であるのに、

シネレ ワ エネ ハウエアン ハウエ アニ アン」

**sinere wa ene hawean hawe an h\_i an”**

それに化けてそのように言った話であることよ」

セコロ ハウエアン コロ

**sekor hawean kor**

と言って

イルシカ コロ イヨンヌツパ イエ ア イエ ア イエ ア ルウエ ネ ヒネ

**iruska kor iyonnuppa ye a ye a ye a ruwe ne hine**

腹を立てて告げ口して何度も言って

オラウン コント イナウケ ア イナウケ ア ヒネ

**oraun konto inawke a inawke a hine**

それから今度イナウを作り続けて

「ニサッサウオツ カムイ アロヌマンノチウ カムイ

“nisatsawot kamuy aronumannociw kamuy

「明けの明星のカムイと宵の明星のカムイに

アエイクラ シン ネ ナ」

a=eikra sir\_ ne na”

私は送りますよ」

セコロ ハウオ…… ハウエアン

sekor hawo... hawean

と言って

キサラ アナク ソモ オリパク ペ ネ クス キ コロ

kisar anak somo oripak pe ne kusu ki kor

萱原は恐れ慄まないものであるので、(明けの明星と宵の明星のカムイに) イナウを送って

カムイ フチ エウン イェ ワ イナウ ロシキ エソイネ キ ネ ワ アン ペ

kamuy huci eun ye wa inaw rosiki esoyne ki ne wa an pe

火のカムイに言って外にイナウを立てていたが

コント レ…… ウェンタラプ ウミ ヌ ワ ネ ノイネ

konto re... wentarap h\_umi nu wa ne noyne

今度夢を見たようで、

オンカミ ア オンカミ ア

onkami a onkami a

揮んで揮んで

イシムネ アナクシ キ オラウン

isimne an akus ki oraun

翌日になって(目が覚めたら) そうして

「テ ワノ アナクネ ネウ カ ハワサッカ

“te wano anakne new ka hawas y\_akka

「これからはどんなことを言われても、

ソモ エカン ラポク アナク イカン ネプ カ エキ ナ」

**somo ek=an rapok anak ikan nep ka e=ki na**“

私が来ない間は決して何もするな」

セコロ イイエ コロ オカアン アイネ タネ アポ ポロ オックアイポ ネ ヒネ

**sekor i=ye kor oka=an ayne tane a=po poro okkaypo ne hine**

と（主人は）私に言って私たちは暮らしていると、もう息子は大きく成長して

ネイ ワ ネ ヤ ピリカ メノコポ エク ワ マツ ネ コロ ワ アコウカスイ

**ney wa ne ya pirka menokopo ek wa mat ne kor wa a=kowkasuy**

どこからか良い女性が来て息子はそれを妻にして、私と息子の妻は互いに助け合って

キムン カ ネン ネン イキ ワ クス

**kimun ka nen nen iki wa kusu**

狩りに行くにも（息子は）いろいろしたので（そうして順調に暮らしていたので）、

アキ プ アロヌマンノチウ アヌカラッカ エウン ライミカン

**a=ki p aronumannociw a=nukar y\_akka eun raymik=an**

私がしたことと言えば、私は宵の明星を見てもその方に感謝し

ニサッサウオッ カムイ アヌカラッカ エウン ライミカン コロ アナン

**nisatsawot kamuy a=nukar y\_akka eun raymik=an kor an=an**

明けの明星を見てもその方に感謝していた

ネ ワ アン ペ ポ アエピリカ イ ネ クニ アラム ア ラポッケヘ

**ne wa an pe po a=epirka h\_i ne kuni a=ramu a rapokkehe**

そのことでいっそう暮らしが良くなることであると思っていたその間

タネ アコロ ソン アポ アナク ポロ プ

**tane a=kor son a=po anak poro p**

もういとしい私の息子は大きくなったが

オラウン スイ セメイリパ（？） ウトウレシコロ ヘカッタラ アコロ ワ

**oraun suy semeirpa(?) utureskor hekattar a=kor wa**

それからまた、XXX（？）兄と妹の二人兄弟を持って

レプ ネ ワ アウコオマプ コロ オカアナイネ

rep ne wa a=ukoomap kor oka=an ayne

(兄弟) 三人になって、みんなでかわいがって暮らしていたあげく

タネ ポロ スクパン ペ ネ クス アポホ カ ポ コロ シリ アヌカラ コロ

tane poro sukup=an pe ne kusu a=poho ka po kor siri a=nukar kor

今や大きく成長して私の息子も子供を持ったのを見、

アヘコテ ニシパ ホシキ オンネ ワ イサム オカケヘ タ

a=hekote nispa hoski onne wa isam okakehe ta

私の主人が先に年をとって亡くなった後

アコロ ソン ウタラ アオマプレス コロ アナナイネ

a=kor son utar a=omapresu kor an=an ayne

私の子供たちをかわいがって育てていたあげく

タネ アシヌマ カ ハウケアン ワ オンネアン ノ…… シンネ クシ

tane asinuma ka hawke=an wa onne=an no... sinne kus

もう私も弱って年をとったようなので

タップネ カネ ヤイスukupka アン ペ ネ アクス アエイソイタク

tapne kane yaysukupka=an pe ne akusu a=e=isoytak

このように自分の体験を思い出してお前に語るのだ

セコロ シノ カツケマツ イソイタク

sekor sino katkemat isoytak

と本当の淑女が語った

#### 【注】

- [1] 実際は、nisatsawot kamuy (明けの明星のカムイ) の turesihi (妹) が aronumannociw kamuy (宵の明星のカムイ) である。
- [2] 何不自由なく暮らしていることを表わす常套表現。
- [3] takuppe 「谷地坊主 (やちぼうず)」湿地に生えた草が伸びては重なり重なりして、高さが 1m 位になった枯れ草 (『萱野辞典』)。
- [4] reye kane sinu kane 「はいながらずりながら」他人の家に入るとき、へりくだって遠慮深く入っていく様子の描写。(『沙流方言辞典』)

## 5-7 ウエペケレ「アロヌマンノチュー トウレシヒ イカオピュ 一キ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：息子が一人あり、夫がある、何不自由ない良い家庭の私は主婦でした。夫も非常に猟の名人、そして子供ももう今ではやや一人前に狩りをするぐらいになった家族で、何不自由なく生活しておりました。

ある日のこと、夫と息子は山へ狩りへ出かけて二～三日した。そして、子供が山から帰ってきて、父が山へ行っており、家へ帰って母に言ってお餅をついてもらって来いと、そのように使われましたので帰ってきましたよと。

そのように言いますので、大あわくいで〔大慌てで〕、昔風のその *iuta* をして、搗き物をしてですね、それで団子をどっさり作って荷物を作り、そしてその息子に案内されるままに、山をさして歩いて行った。

そうするといつもと違って、いつも行くその *iwor* というのはその、猟をする場所ですけれども、いつも行く場所とやや違うようなところへ歩く。

それにしてもまあそちらの方へ行ったのかなぐらいな調子でずっと後へついて行って、さっぱりそのいつもの場所とも違うようなところへ行って、もうやや日暮れも近くなったので、困ったなと思っていると、息子の言うのにはここでちょっと休みましようと言って、ちょっとした茅原のようなところへ、まあ座って、まあ一服したと。

そしたらそこの茅原の中でも、一つの茅の根からも分蘖（ぶんけつ）したようにさっと一か所で生えてる茅原のところへ荷物を降ろし、そして私の荷物もそこへ降ろして休んだ。で、ちょっとそのおしっこをしたいので、そのところから離れたところへ行って用をたして、元の場所へ戻って来てみると、もう息子はどこへ行っちゃったのか見えない。

そうなって良くそこで考えてみると、いつもの場所とまったく違う、見たこともない、行ったこともないような場所なので、途方に暮れてしまったと。けれども荷物があるんで、荷物だけ背負ってその辺ちょっと歩いてみると、ずっと向こうの方へ家が一軒見えた。その家には人が



住んでおるらしく、煙が見えるので、そこへ入ったと。

そして外から誘いをこうというか、外でこう、自分でこう入る前に咳払いをして中の人に、人がお客として来ましたよという知らせ方があるんですが、それでも中からは出てこないで、中から声があって、「外へ出る人もいませんからどうぞお入りください。」そう言われたので、**reye kane sinu kane** [這ったりずったりしながら] という言葉で表現されておりますが、本当に這うようにいざるようにして家の中へ入った。そしてたらそこ最初は **aronumannociw** [宵の明星] がいるんだな？

貝澤：うん、うん。

萱野：入ったらば、そこで立派な女の人が一人で **kaeka** という、その糸を撚り撚り座っているわけですが、昔の家であれば、まあお婆さんたちそうやっておったわけですが、こう又になった木、さらに両脇の枝がまた双方同じに又になった **kanit** という糸撚りの道具があるんです。道具というより、寄った糸をかける道具ですが、それをこう炉端へぎゅっと挿して糸撚りしながらおって言うのには、「さあさあ休みなさい」と。

「あんたのここへ来たのは、全部私は火の神様からの連絡があって知っていますよ。私は **aronumannociw** といって宵の明星の女神です」と。  
「けれどもあなたのこうやって来たのは、その今さっきまで一緒に歩いていたのは、あなたの息子ではなくて、化け物があなたの息子の顔、形そのままにしてあなたを化かしておったんだと。そして自分の住んでいるところまで連れては来たけれども、あとどうすることも出来なくて、その化け物はそのまま消えてしまったが、あんただけは残ったけれども、だまっておくと危ないことになりそうなので、私のところへ呼び寄せたんですから、どうぞ、どうぞ入ってお休みなさい」と。

「そして、ここではどうにもならないが、私の姉神である **nisatcawot** という明けの明星の女神が、これから少し上流へ行くとそこでおるから、そこへ行って、さらにあなたの行先を聞かないと、あなたの家へ帰ることは出来ませんよ。けれども注意して行きなさい」と、言われましたので、私はまださらに自分の荷物を背負って川をずっと辿って上って行った。

そうするとそこで、明けの明星の女神の家がありまして、まだ入ってみると、なるほど、先ほどの人よりはいくらか年寄りらしい女の神様がおって、いろいろと教えてくれ、そして「今晚は泊まりなさい」と言いながら一つの宝物を授けてくれた。それは **mour** [女性の肌着] らしき、

肌着かなんかそんなような物をくれたので……

貝澤：an kaske ore [その上に乗せる] っば毛氈(?)

萱野：そういうのを貰って生きることによって、あなたは今後とも運のいい人になるからと言ってその肌着をくれたので着ると、それが体内へ沈んでしまったと。

そして、まあその晩は泊めてもらって、次の朝は自分の家へ帰る道をよく教えてもらって、自分の家へ帰ったと。そしたら二～三日して夫と子供が帰ってきて話をすると、それは本当に大変でしたねと。本当に大変でしたと。これからそういうことがないようにと。まあお互い注意されたりしたりしながら、お互い無事であった事を喜び合ったと。

そして私の夫は inaw [木幣] を上手に作るので、その inaw を作って、神様、それぞれ世話になった神々へお礼に送ったのを私は耳でよくそれを聞きました。その後、長男にも嫁が来て非常に幸せに暮らしましたと。

そういうことで、若いときに宵の明星の女神、あるいは明けの明星の女神に助けられました、今ではとても幸せに暮らしておりますと、一人の女が語りました。

うん。これは珍しい uepeker [散文説話] だね。

貝澤：うん。asitomap [化け物] あの、sinkep mototo [ハギの根元] ……あの、rapempe ousikehe wa [茅の根元から] いいかみさん osinipte na(?), っっていう isoytak [物語] を聞いたもんだ。

萱野：あー、なるほどね。

## 5-8 ウエペケレ

「キクレッポ チチラ ウコイソイタク ヒ アヌ」

ヤマベとドジョウが話をするのを私は聞いた

語り：貝澤とうるしの

シノ ニシパ アネ ヒネ アン…… アナン ペ ネ イケ

sino nispa a=ne hine an... an=an pe ne h\_ike

私は本当の長者であって、そのように暮らしている者であって

ナニ<sup>[1]</sup> エケシンネ アプカサン コロ

NANI ekesinne apkas=an kor

ほうぼうへと私は歩き回っていて

ルイカ アン ワ サمام…… ペツ トモトウイエ サمام…… ルイ……<sup>[2]</sup>

ruyka an wa samam... pet tomotuye samam... ruy

橋があって倒れた……、川を横切って倒れた……、

ペツ たか ナイ たか トモトウイエ ポロ サمامニ アン ワ

pet TAKA nay TAKA tomotuye poro samamni an wa

川だか沢だかを横切って大きな倒木があって、

カシ アクシ ワ ルイカ ネ アクシ ペ ネ イケ

kasi a=kus wa ruyka ne a=kus pe ne h\_ike

その上を私は通り、橋にして私は通っていたのだが、

なに あるひ ネ スイ エキムネアン アクス

NANI ARUHI ne suy ekimne=an akusu

ある日、また山へ行くと

ネア ルイカ カシ アク…… アクシ アクス

nea ruyka kasi a=ku... a=kus akusu

その橋の上を私が通ると、

オキムネ キクレッポ シネプ サニネ  
**okimne kikreppo sinep san h\_ine**  
 山からヤマベが一匹下ってきて

ルイカ チョロポク タ モイモイケ コロ アン。  
**ruyka corpok ta moymoyke kor an.**  
 橋の下で動いていた。

オピシネ チチラ チェッポ シネプ エキネ  
**opisne cicira ceppo sinep ek h\_ine**  
 浜からドジョウが一匹上ってきて、

スイ ウエトゥナンカラ モイモイケ パ  
**suy uetunankar moymoyke pa**  
 また互いに行きあって動いていて、

オラウン イタク ハウエ アヌ ハウエ エネ アニ…… アニ。  
**oraun itak hawe a=nu hawe ene an h\_i... an h\_i.**  
 そして言葉を発したのを私が聞き取ったのは次のようなことであった。

「オピシネ エク ワ ネプ カ アイヌ オツ タ エネ カムイ オツ タ エネ  
**“opisne ek wa nep ka aynu or\_ ta h\_ene kamuy or\_ ta h\_ene**  
 「浜から来て、何か人間の世界にでもカムイの世界にでも

アエラナク ペ イサム ヤ」  
**a=eranak pe isam ya”**  
 困ったことはありませんか」

セコロ カネ キクレッポ カムイ ハウエアン アクス  
**sekor kane kikreppo kamuy hawean akusu**  
 とヤマベのカムイが言うと、

オピシネ エク チチラ エネ ハウエヘ ネ プ エネ ハウエアニ。  
**opisne ek cicira ne hawehe ne p ene hawean h\_i.**  
 浜から来たドジョウが話したのは、次のようなことだった。

「カムイ オツ タ アナク ネプ カ アエラナク<sup>[3]</sup> ペ カ イサム コロカ

“kamuy or\_ ta anak nep ka a=eranak pe ka isam korka

「カムイの世界では特に伝えるべきこともありませんが、

オラウン なに アイヌ オツ タ アエラムサラク ペ アン カトウ エネ アニ。

oraun NANI aynu or\_ ta a=eramusarak pe an katu ene an h\_i.

人間の世界に次のような心配なことがあります。

なに ポロ ワ オケレ チャペ、オッカヨ チャペ レス ウムレク オカイ ペ

NANI poro wa okere cape, okkayo cape resu umurek okay pe

大きくなった猫が、オス猫を育てている夫婦がいるのですが、

ネ オッカヨ チャペ アイヌ マタイヌ オシッコテ ヒ アニ

ne okkayo cape aynu mataynu osikkote hi ani

そのオス猫が人間の女性に惚れてしまったので、

コント ネウ カ ホクフ カラ ワ

konto new ka hokuhu kar wa

その夫をどうにかして

ライケ ルスイ コロ アン ヒ パテク タシ アシンパイ ネク」

rayke rusuy kor an hi patek tasi a=esinpay nek”

殺したがっていることだけが私は心配ですよ」

セコロ ハウエアン…… ハウエアン ウェニヨクンヌレ アキ アクス コント

sekor hawean... hawean wen iokunnure a=ki akusu konto

と言い、私はひどく驚いていると、今度は

「オキムネ サン カムイ エネ ワ アイヌ オツ タ ヘネ カムイ オツ タ ヘネ

“okimne san kamuy e=ne wa aynu or\_ ta hene kamuy or\_ ta hene

「あなたは山から下りてきたカムイですが、人間の世界でもカムイの世界でも

ネプ カ アエラナク ペ イサム ルウェ ヘ アン」

nep ka a=eranak pe isam ruwe he an”

何か困ったことはありませんか」

セコロ カネ ハウエアン アクス

sekor kane hawean akusu

と言うので

エネ ネア キクレッポ カムイ ハウエアニ。

ene nea kikreppo kamuy hawean h\_i.

次のようにそのヤマベのカムイが言った。

「なに ソモ アン ペ キキンニ ネシコ チセ オウシ タ アエトイタ ネ ペ

“NANI somo an pe kikinni nesko cise ous ta a=etoyta ne pe

「してはならないことが、キキンニとクルミを家の側に植えることであるが、

ネ ネシコ と キキンニ チセ オウシ タ

ne nesko TO kikinni cise ous ta

そのクルミとキキンニを家のそばで、

タン ホク ネ アン ニシパ チセ オウシ タ

tan hoku ne an nispa cise ous ta

その夫である長者が、家のそばに、

ネ (?) [4] メノコル サム タ エトイタ プ

ne(?) menokoru sam ta etoyta p

その女便所の近くに植えたのだが、

ネア メノコル サム ワノ アラパ ヒネ

nea menokoru sam wano arpa hine

女便所のほうから延びて行って、

シンリチヒ オッカヨ エニヌイ ウシケ チョロポッケ エウシ ルウエ ネ。

sinricihi okkayo eninuy uske corpokke eus ruwe ne.

その根っこが男の枕のところの下にまで届いているのです。

ネ チョロポッケヘ タ

ne corpokkehe ta

その下で

エサマン<sup>[5]</sup> ニツネヒ セツ カラ ヒネ アン ルウエ ネ ヒネ  
**esaman nitnehi set kar hine an ruwe ne hine**

カワウソの魔物が巣を作っていて、

オラウン ネ エサマン ニツネヒ と キキンニ と ウカスイ ワ  
**oraun ne esaman nitnehi TO kikinni TO ukasuy wa**

そのカワウソの魔物とキキンニとが共謀して、

ネ ニシパ ケウエ ウク クニ ラム コロ オカ。  
**ne nispa kewe uk kuni ramu kor oka.**

その主人を殺そうとしています。

ネ ワ アン ペ パテク タシ アシンパイ ネク」  
**ne wa an pe patek tasi a=sinpay nek”**

このことばかりが私は心配ですよ」

セコロ カネ ハワシ ハウエ アン。  
**sekor kane hawas hawe an.**

ということを話した。

エアラキンネ イヌ ネ ワ アキ プ ネ コロカ  
**earkinne inu ne wa a=ki p ne korka**

本当に私はただ聞いただけであるが、

ウエン イオクヌレ アキ ルウエ ネ ヒネ オラ  
**wen iokunnure a=ki ruwe ne hine ora**

ひどくたまげて、

イナニ ウン ホシキ アラパアン クス ハワシ  
**inani un hoski arpa=an kusu hawas**

どちらへ先に私は行くのがよい話だろうか

セコロ ヤイヌアナ コロカ オラ コント  
**sekor yaynu=an a korka ora konto**

と私は考えたのだが

ナニ エピシネ ワ ホシキ アウニヒ アアッカリ ヒネ サナン ヒネ コント  
**nani episne wa hoski a=unihi a=akkari hine san=an hine konto**  
 すぐに浜の方へ先に自分の家を通り過ぎて下っていき、

ネ ウムレク クル オカ ウシケヘ タ アフナナクス  
**ne umurek kur oka uskehe ta ahun=an akusu**  
 その夫婦が暮らしている所へ入っていったところ、

ウェン イエラムコエシカリ キ パ ノイネ アラム パ コロ  
**wen i=eramukoeshikari ki pa noyne a=ramu pa kor**  
 ひどく私を見てびっくりするようだと私は思いながら

「マク ネ シリ イリパク (?) ワ  
**“mak ne siri irpak(?) wa**  
 「一体どうして、XXXして

アコン ニシパ オマナン クニ アラム カ ソモ キ ア プ エネ イキ ヒ アン」  
**a=kor\_ nispa omanan kuni a=ramu ka somo ki a p ene iki hi an”**  
 私はあなたが来るなんて思いもよらなかったのですが、 そんなことをしているのですか」

セコロ アン クス  
**sekor an kusu**  
 というので、

「シネウエアン ルスイ コロ アナン ア イクス エカン シリ ネ」  
**“sinewe=an rusuy kor an=an a h\_ikusu ek=an siri ne”**  
 「遊びに行きたいと私は思ったので、来たのですよ」

セコロ ハウエアナン アクス なに イエヤイコプンテク ヒ イェ オラ  
**sekor hawean=an akusu NANI i=eyaykopuntek hi ye ora**  
 と私が言うと、私が来たことを嬉しく思うと言って、

スケ。ネア マチヒ スケ、ピリカ スケ キ、  
**suke. nea macihi suke, pirka suke ki,**  
 料理をした。その妻が料理をして、おいしい食事を作り、



イネアプ スケ トムテ ワ シリキ ヤ カ アエラミシカリ ノ  
**ineap suke tomte wa sirki ya ka a=eramiskari no**  
どれほど料理が上手なのかびっくりするほどに

スケ コロ アン アイネ  
**suke kor an ayne**  
料理をしていたあげくに、

コント イペアン クス ネ プ、  
**konto ipe=an kusu ne p,**  
我々は食事をしようとしたところ、

ネン アフプ アッカ テムニコロ オパシ ネ オッカヨ チャペ  
**nen ahup y\_akka temnikor opas ne okkayo cape**  
誰が入って来ても腕の中で走り回っているというあのオス猫、

キヒ ウンノ<sup>[6]</sup> アイェ ハウエ アン ア プ  
**kihi unno a=ye hawe an a p**  
そのように呼ばれているやつが、

ソンノ カ イヤイエシル パ したり キ コロカ  
**sonno ka i=yayesiru pa SITARI ki korka**  
本当に私に体を何度もすりつけたりしたが、

ソモ アヌカラ アペコロ アナン アクス  
**somo a=nukar apekor an=an akusu**  
私は見ないふりをしていたところ、

オロワノ ヤイエシル パ イサム ペカ イキ。  
**orowano yayesiru pa i=sam peka iki.**  
私の側を通りながら体をすりつけた。

タネ チセコロクル ホシキ オイペピ メノコ カツケマツ イオ ヒネ アシ。  
**tane cisekorkur hoski oyepipi menoko katkemat io hine asi.**  
先に奥さんは家の主人に食器によそって出した。

イヘコテ スイ イタンキ アシ ア プ

**i=hekote suy itanki asi a p**

私の前にもまたお椀を出したところ、

ネア チャペ イヤイ…… イヤイエシリパ コロ イアッカリ コン

**nea cape i=yay... i=yayesirpa kor i=akkari kor\_**

そのネコが私に体をすり寄せながら私を通り越して、

ネア チセコロクル ヤイエシリパ ヒ エイリパク

**nea cisekorkur yayesirpa hi eirpak**

その主人に体をすり寄せるのと同時に、

ネア チセコロクル オイペピヒ サラ エトウプシケ オマレ イネ

**nea cisekorkur oyepihi sar etupsike omare h\_ine**

その主人の食器にしっぽの先を入れて

スイエスイエ テク シリ アヌカン ルウエ ネ。

**suyesuye tek siri a=nukar\_ ruwe ne.**

ちょっとかき回す様子を私は見た。

オラウン コント イペアン。

**oraun konto ipe=an.**

そして我々は食事をした。

「ホクレ アコン ニシパ イペ ヤン イペ ヤン」

**“hokure a=kor\_ nispa ipe yan ipe yan”**

「さあさあ、旦那さん、お食べなさいお食べなさい」

セコロ アン。

**sekor an.**

と（彼らは）言った。

「マキ アオッシケ アラカ イネ イペアン カ エトランネ クス

**“maki a=ossike arka h\_ine ipe=an ka etoranne kusu**

「あろうことか私は腹痛がして食欲がないので、

ラッチタラ イペアン クシ ネ ナ。

**ratcitara ipe=an kus ne na.**

ゆっくりと食事をするつもりですよ

アコン ニシパ ホシキ イペ ヤク ピリカ」

**a=kor\_ nispa hoski ipe yak pirka”**

私の旦那さんが先に食事をするといいですよ」

セコロ ハウエアナン ア プ

**sekor hawean=an a p**

と私は言ったが、

ネア チャペ アプカシ ラポク

**nea cape apkas rapok**

その猫が歩いている間に、

やっと ネア チセコロクル オイペピ シヘコテ アアヌ ヒネ

**YATTO nea cisekorkur oyepipi sihekote a=anu hine**

さっと私はその家の主人の器を自分の方に置いて

アオイペピ ヘコテ アアヌ ヒネ、

**a=oyepipi hekote a=anu hine,**

私の器を彼の方にあるようにして、

ホクレ ホクレ アイペレ クス アイエ ルウエ ネ コロ

**hokure hokure a=ipere kusu a=ye ruwe ne kor**

「さあさあ」と私は彼に食べさせようとして言いながら

言えば、兄さんつきりしか知らん（笑う）

**IEBA NIISANKIRI SHIKA SHIRAN**（笑う）

ということは、主人公しか知らない

なに イペ クス アイエ ルウエ ネ ヒネ オラ

**NANI ipe kusu a=ye ruwe ne hine ora**

食事をするよう私は言って、

アプカサプカシ コロ アニネ チャペ キ ラポッケ  
**apkasapkas kor an ne cape ki rapokke**

その猫が歩き続けている間に、

ネア メノコ エウン アロロキシネ  
**nea menoko eun arorkisne**

その女にこっそりと

「トアン チャペ オイペピ タパンペ オタ」  
**“toan cape oyepi tapanpe ota”**

「あの猫の皿にこれをあけて」

セコン ネ オロ サラ オマレ シリ アヌカラ ペ アイェ コロ  
**sekor\_ ne oro sara omare siri a=nukar pe a=ye kor**

と、その中に尻尾を入れた様子を私が見たことを言いながら、

アオマレレ アクス ソンノ カ オリパク ペ ネ クス  
**a=omarere akusu sonno ka oripak pe ne kusu**

私は入れさせたところ、(奥さんは) 本当に礼儀正しい人なので

ネ チャペ オイペピ オタ ルウェ ネ ヒネ  
**ne cape oyepi ota ruwe ne hine**

その猫の器にあけて、

オラウン ネア ニシパ カ イペ ルウェ ネ ヒネ オカアン ラポッケ  
**oraun nea nispa ka ipe ruwe ne hine oka=an rapokke**

そしてその主人も食事をして、そのように私たちはしているときに、

ソンノ カ イペ ルスイ ワ ネ ノイネ アラパ ヒネ  
**sonno ka ipe rusuy wa ne noyne arpa hine**

(猫は) 本当に腹が減っている様子でそこへ行って、

ネア オイペピ アオタ クス アエプ エ コロ アン ア プ  
**nea oyepi a=ota kusu aep e kor an a p**

例の器、私がそこにあけると言ったものを食べていたのだが、

エ オケレ ワ ヘネ ヤ、マク ネ ワ ネ ヤ、  
**e okere wa hene ya, mak ne wa ne ya,**  
 食べ終わるが先か、どうしたことか、

エクシコンナ ホチカチカ ヘネ トウルセ ヒクス  
**ekuskonna hocikacika hene turse hikusu**  
 突然もがき苦しんで、バタッと倒れたので、

エウン アトイコキッキク イネ アライケ ルウェ ネ アクス  
**eun a=toykokikkik h\_ine a=rayke ruwe ne akusu**  
 そこへ私はめったうちにして、殺してしまうと、

ネア アイヌ ニシパ ネ ヤ メノコ エネ ハウエオカ イ。  
**nea aynu nispa ne ya menoko ene haweoka h\_i.**  
 その主人と妻はこのように言った。

「ポ カ アサク ペ ネ ワ ポ カ アオマプ ルスイ クス アレス プ ネ ア プ  
**“po ka a=sak pe ne wa po ka a=omap rusuy kusu a=resu p ne a p**  
 「私たちには子がなく、子をかわいがりたくて、大事に育てていたのだが、

マク アコン ニシパ イキ シリ アン」  
**mak a=kor\_ nispa iki siri an.”**  
 私の旦那は何てことをしてくれたのか」

アイペレ クス アイエ ヒケ カ ウエン ア プ オラウン  
**a=ipere kusu a=ye hike ka wen a p oraun**  
 私が（猫に）食べさせるよう言ったことも悪かったのだが、

チシ コロ アニクス イルシカアン コロ  
**cis kor an h\_ikusu iruska=an kor**  
 泣いているので、私は腹を立てて、

「セレマッコン ルスイ ペ ネ コロカ エネ ハウエアニ ネ ヤ  
**“sermakkor\_ rusuy pe ne korka ene hawean h\_i ne ya**  
 「憑神にしたいものであるが、そのように言っているのか？

タップネ カネ エキムネアン アクス

tapne kane ekimne=an akusu

これこれこのように、私が山に行くと

キクレッポ カムイ チチラ カムイ ウコイソイタク ハウエ アヌ ワ

kikreppo kamuy cicira kamuy ukoysoytak hawe a=nu wa

ヤマベのカムイとドジョウのカムイが話し合っているのを私は聞いて、

エチカシ アオピウキ クス エカン ルウエ ネ イケ

eci=kasi a=opiwki kusu ek=an ruwe ne h\_ike

あなたたちを助けるために私は来たのであるのに、

ヘマンタ エイエ ハウエ ネ ヤ」

hemanta e=ye hawe ne ya”

何てことをあなたたちは言っているのか」

セコロ ハウエアナン コロ イルシカアン アクス

sekor hawean=an kor iruska=an akusu

と私は言って腹を立てたところ、

ネア メノコ アナク チシ コロ

nea menoko anak cis kor

その女は泣きながら、

「アコン ニシパ エキサマクン アヘコテ ニシパ ライ ヒ アン ハウエ ネ」

“a=kor\_nispa ek isam y\_akun a=hekote nispa ray hi an hawe ne”

「旦那さんが来なかったら、私の夫が死んでしまうところでした」

セコ(ロ) アン。

sek(or) an.

と言った。

ネア ニシパ カ コント イコヤヤパプ イヤヤ…… チシ ロク チシ ロク。

nea nispa ka konto i=koyayapapu i=ye a i=ye a... cis rok cis rok.

その主人も私に詫びを何度も言い、ずっと泣いていて、

ナニ オラウン スイ アラパアニネ ネ オクシ アラパアン ルウェ ネ アクス  
**nani oraun suy arpa=an h\_ine ne okus arpa=an ruwe ne akusu**

そして、また私は反対方向に行った。

ソンノ カ タネ アナクネ ハウ ヌ カ ヌクリ ノ アニネ  
**sonno ka tane anakne haw nu ka nukuri no an h\_ine**

本当に今や（猫のことをなげく）声を聞くのも嫌になって（?）、

「なに イエンコロケ タ ニシパ キ ルウェ ネ」

“NANI i=enkoroke ta nispa ki ruwe ne”

「川上の長者がそうしている（危険な状態にある）のだ（?）」

ヤカイエ コロ アラパアン ルウェ ネ。

**yak a=ye kor arpa=an ruwe ne.**

と私は言いながら行ったのだ。

ピリカ シルワンテアン アクス

**pirka siruwante=an akusu**

私はよく様子を見たところ、

ソンノ カ メノコル カランケ アエトイタ キキンニ シンリチヒ

**sonno ka menokoru karanke a=etoyta kikinni sinricihi**

本当に女便所の近くに植えられたキキンニの根が

エロンネ ワ シトゥリ ルウェ カ アエラマン ルウェ ネ ワ オラウン

**eronne wa situri ruwe ka a=eraman ruwe ne wa oraun**

東側から伸びている様子を私は見て取ったので、

コント ネ くるみ カ アン ルウェ ネ イクス

**konto ne KURUMI ka an ruwe ne h\_ikusu**

そのクルミの木もあるものだから、

コント アラパアン ヒ ワ モイレ。

**konto arpa=an hi wa moyre.**

私が行くのも遅れてしまった。

「マク ネ シリ アン。

“mak ne siri an.

「どうしたことだろうか。

エク クニ アラム カ ソモ キ ア ニシパ エク シリ アン」

ek kuni a=ramu ka somo ki a nispa ek siri an”

来るとも私は思っていなかった旦那さんが来たようだよ」

セコロ ハワシクス

sekor hawas h\_ikusu

と話しているので、

「アエラナク ペ アナク アイェワ ホタヌアン クス エカン ルウェ ネ ナ。

“a=eranak pe an y\_ak a=ye wa hotanu=an kusu ek=an ruwe ne na.

「心配なことがあると言われたので、私は見舞いに来たのですよ。

ホクレ ウサ トンカ ウサ クプカ コロ ウサムカ コロ ワ

hokure usa tonka usa kupka kor usamka kor wa

はやく唐鍬やら畝立鍬やらを一緒に持って来て、

トアン キキンニ と ネシコ シンリチ ポイ シンリチ ウンノ オプシ ヤン。

toan kikinni TO nesko sinrici pon\_ sinrici unno opusi yan.

そのキキンニとクルミの根、小さな根まで掘り返しなさい。

ヤク エウン アラパ イ エチヌカン ナ。

yak eun arpa h\_i eci=nukar\_ na.

そうするとその向かって行く先をあなたたちは見ることになるよ。

オッカヨ ホツケ イ

okkayo hotke h\_i

男の寝所、

オッカヨ エニヌイ ウシケ チョロポツケヘ オク オシンリッコロ ワ

okkayo eninuy uske corpokkehe ok osinritkor wa

男の枕の場所の下に引っかかって、そこに根をもち、



オラウン オロ タ トイ エサマン ウエン エサマン カ  
**oraun oro ta toy esaman wen esaman ka**  
 そこに悪いカワウソ腐れカワウソが

キキンニ コケウトウムコロ フ  
**kikinni kokewtumkor wa**  
 キキンニと意を通じて、

アイヌ ニシパ ライケ クニ ラム コッ チ<sup>[7]</sup>…… セッ カラ フ  
**aynu nispa rayke kuni ramu kor\_ ci... set kar wa**  
 人間の旦那を殺そうという気持ちを持って、巣を作って

オロ タ アン ルウェ ネ ナ。  
**oro ta an ruwe ne na.**  
 そこにいるのですよ。

イカン アオラウキ ナ」  
**ikan a=orawki na**”  
 取り逃がしてはいけませんよ。」

セコロ ハウエアナン コロ アシカスイレ パ ヒネ シロウリ パ アイネ  
**sekor hawean=an kor a=sikasuyre pa hine sirouri pa ayne**  
 と言って、私は自分を手伝わせて皆で掘ったところ、

チセ チョロポク チセ シッケウ ソパ ソイナ ワ アナン フ  
**cise corpok cise sikkew sopa soyna wa an=an wa**  
 家の下、家の隅、家の上座の外側に私たちはいて、

キラ クニ ア ヒ アン (?) ペ ネ クス  
**kira kuni a hi an (?) pe ne kusu**  
 逃げようとしていたので (?)

インネ オッカイポ ウタラ イカスイ ワ シロウリアニネ  
**inne okkaypo utar i=kasuy wa sirouri=an h\_ine**  
 大勢の男たちが私を助け、私たちは掘って

ネウン ネウン イキアン アイネ

neun neun iki=an ayne

あれこれとすると、

ソンノ カ ウエン エサマン トイ エサマン セツ カラ ヒネ

sonno ka wen esaman toy esaman set kar hine

本当に悪いカワウソ腐れカワウソが巣を作って、

セツ オツ タ ホツケ ワ アン ルウェ ネ。

set or\_ ta hotke wa an ruwe ne.

巣に横になっていた。

コント アキッキッキネ アトイコタタ アムンコタタ オラノ

konto a=kikkik h\_ine a=toykotata a=munkotata orano

そして私は（そのカワウソを）何度もなぐって、ひどく刻んで、ゴミとともに刻んで、

ネア エサマン カ ネア キキリ カ…… キキンニ カ ネシコ カ

nea esaman ka nea kikir ka... kikinni ka nesko ka

そのカワウソも、その虫も……キキンニもクルミも

オピッタ メノコル エトク タ

opitta menokoru etok ta

すべて女便所の前で

フムネアニ アオ イネ アムンコウファイカ。

humneani a=o h\_ine a=munkouhuyka.

一カ所に集めて置いてゴミとともに焼いてしまった。

「ネプ アンクス アイヌ ニシパ エラマン して パ (?) ワ

“nep an kusu aynu nispa eraman SITE pa(?) wa

「どうしてかアイヌの長者は分かっているようで、

エネ キキンニ カ ネシコ カ アラウエンカムイ ネ アン、

ene kikinni ka nesko ka arwenkamuy ne an,

そのようにキキンニもクルミもとても悪いカムイになり、

ウエン エサマン トイ エサマン コケウトウムコロ ワ  
**wen esaman toy esaman kokewtumkor wa**  
悪いカワウソ腐れカワウソと意を通じて

イキ パイ ネ ヤクネ  
**iki pa h\_i ne yakne**  
そのようにしたことならば

タネ アナクネ アッテイネ モシリ アラポクナ モシリ  
**tane anakne atteyne mosir arpokna mosir**  
もはや湿った国地下の国へ

アコオケウエ アコオテレケ シンネ ナ」  
**a=kookewe a=kooterke sinne na”**  
私が追い出して蹴落としてやるのだぞ」

セコロ ハウエアナン コロ ヤイクルカタ アムンコタタ アシリコタタ。  
**sekor hawean=an kor yaykurkata a=munkotata a=sirkotata.**  
と私は言って、自分で草とともに刻み、地面とともに刻んだ。

アイヌ ハウ カ ヌ カ ヌクリ ア ニシパ ソイ ワ アサン  
**aynu haw ka nu ka nukuri a nispa, soy wa as=an**  
人間の声を聞くこともできなかつた長者（のために）、私は外に出たり、

アウ ワ アサン ワ イノンノイタカン アイネ  
**aw wa as=an wa inonnoytak=an ayne**  
家に入ったりして、祈り言葉を唱えていると、

ニシパ ウタラ イカスイ ワ キ アイネ アハウエヘ カ エラムアン。  
**nispa utar i=kasuy wa ki ayne a=hawehe ka eramuan.**  
旦那たちが私を手伝ってくれて、（長者は）私の言うことも分かるようになった。

オラ イタク カ キ オラウン  
**ora itak ka ki oraun**  
そして話すこともできるようになった。

ソレクス メノコ オツ タ オツカヨ オツ タ チシ コロ  
 sorekusu menoko or\_ ta okkayo or\_ ta cis kor  
 女の方でも男の方でも泣きながら

「アコン ニシパ エキサマ チキ  
 “a=kor\_ nispa ek isam a ciki  
 「旦那様が来なかったら、

マカナク アン ペ アイエカラカラ アン シリ アン」  
 makanak an pe a=i=ekarkar an siri an”  
 一体私たちはどんな目に遭っていたでしょうか」

セコロ ハウエオカ コロ ウコパラパラク パ。  
 sekor haweoka kor ukoparaparak pa.  
 と言って声を上げて泣く。

ネア ニシパ シクヌ ア ヒ エラムオカイ ペ ネ クス  
 nea nispa siknu a hi eramuokay pe ne kusu  
 その旦那が生き返ったことを人々は分かったものだから、

エアラキンネ イコヤイライケ パ オラ  
 earkinne i=koyayrayke pa ora  
 とても私に感謝して、

アラパアン アラパアン ウエン カムイ シコイルシカレアン。  
 arpa=an arpa=an wen kamuy sikoyruskare=an.  
 私は歩きまわって悪いカムイを自分に対して怒らせた。

コント アコタヌ カ アウニヒ カ アマチヒ カ アエポタラ プ ネ クス  
 konto a=kotanu ka a=unihi ka a=macihi ka a=epotara p ne kusu  
 私の村のことも父のことも母のことも私は心配に思うので、

サナン ルウェ ネ。  
 san=an ruwe ne.  
 下っていった。

オラウン ヘンパク ヘンパク ト アナン アクス

**oraun hempak hempak to an=an akusu**

何日私がいたということか、

コント ネ ペニ ワ カ イコロ シケ キ ワ イコヤヤッタサ クス サプ パ

**konto ne peni wa ka ikor sike ki wa i=koyayattasa kusu sap pa.**

その川上からも私に宝物を用意して、私にお礼をしに下りてきた。

オピシネ たすけたしと カ イコロ シケ キ パ ワ

**opisne TASUKETASHITO ka ikor sike ki pa wa**

浜の方の私が助けた人も宝物を用意してくれて

アイコヤヤッタサ クス ウエカラパ ワ…… クス ニシパ イコロ

**a=i=koyayattasa kusu uekarpa wa... kusu nispa ikor**

私にお礼をしに集まって、長者の宝物を

イパナケ ワ イペナケ ワ アコロ ペ ネ クス

**i=panake wa i=penake wa a=kor pe ne kusu**

川下から川上から、私は手に入れたものだから、

チェッポ ウタラ イタク ハウエ カ アヌ ワ イオクンヌレアン

**ceppo utar itak hawe ka a=nu wa iokunnure=an**

魚たちが話したことも私は聞いてびっくりして、

オラ タプネ タプネ イキアン ペ ネ アクス

**ora tapne tapne iki=an pe ne akusu**

そうしてこれこのように私はしたので、

イテキ チセ カランケ キキンニ ネシコ アエトイタ プ ネ クス

**iteki cise karanke kikinni nesko a=etoyta p ne kusu**

家の側にキキンニとクルミを植えるものではないから

アエイソイタク ハウエ ネ ナ

**a=eysoytak hawe ne na**

このことを私は話しておくのだよ、

セコロ シノ ニシパ イソイタク。

sekor sino nispa isoytak。

と本当の長者が語った。

【注】

- [1] 貝澤とうるしのさんの語りには、アイヌ語の nani (「すぐに」) とは異なると思われるこの単語が複数の話で用いられており、日本語の「なに」から来ているのではないかと推察されるが、正確な意味がよく分らない。
- [2] ここはどう言えばいいのか一旦よく分らなくなって、次の二行でもう一度言い直しているのではないか。
- [3] ここに人称接辞 a=が付いているかどうかは微妙なところであるが、これより以前に付けて話しているので、ここでも同様だと判断した。すぐ下のもう一箇所も同じ。
- [4] 音としては e と聞こえる。
- [5] ここは esamat に近い発音をしている。
- [6] kihi anakun 「さすれば、するとしたら」、kihi an yakun 「さうすることなれば」(『久保寺辞典稿』 p. 128) などから判断した。
- [7] cise 「家」と言いそうになり、set 「巢」と言い直したのではないかと考えられる。

## 5-9 ウエペケレ「キクレッポ チチラ ウコイソイタク ヒ アヌ」

### 解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：私はある川の、川の流れの中流ごろに住まいをしておる **aynu** [人間] でした。ある時に山へ狩りに行く、いつも行くときに、行く途中、ある一本橋を渡ろうとすると、その時に川の上流から **kikreppo** というの、ヤマベだな？ これ。

貝澤：うん。

萱野：ヤマベが一匹下がってきて、川の下流から **cicira** っちゅうのはこれカジカです。

貝澤：ドジョウ。

萱野：あつ、ドジョウ。

エカシ：ドジョウよ。

萱野：ドジョウが一匹下がってきたと。

そしたらそのドジョウとヤマベの話が始まったので、だまっていたら、その話するのがどういはずみか、その日良く分かる。ヤマベの聞くのには「あんたの村で何か心配事はありませんか？」と言ったら、「いやー、そう心配事ってないんだけど、私たちの村に住んでおるアイヌの家にちょっとしたその心配」、「それは何ですか？」と言ったら「**kikinni** [エゾノウワミズザクラ] という堅杉 (かたすぎ) とそれからクルミの木が生えて、その木の根がその酋長の寝ている枕下へいつてるんで、それが原因で病気になっておるので、それを掘り起こさないと死ぬような心配がありますよ」と。

「あーそう、それは大変ですね。したらドジョウ、あんたの方は何

か心配はありませんか？」と言ったら、そのドジョウの言うのには「私の方のところはそう心配でもないんだけど、私の村の酋長の家に飼っている雄猫がその家の奥さんに惚れて、そして、旦那を殺して、そこに住まおうとしているのも見えてるんですよ」と。

その両方の話を聞いて、私は大急ぎでまず下流へ下がっていった。そしてその家の様子をじっと、まあ話早いんですが、見ると大きな猫がおって、その、行ったらそのドジョウやそれからヤマベの話したとおり、人間に非常に人懐っこくて、体をすり寄せてきたりするけれど、かまわないでおるうちに、食事が出されるとその猫のしっぽがその家の主人の食べ物にチラチラと触っただけで、毒を入れたのを見た。「それを食うな、食うな」と言うと、それを食べずにその猫の腕へ入れたらその猫が **hocikacika** [悶える] と言って、ほたえて死んじまったと。

それからすぐに、まだ山の方へ戻って、そしてその家のそばに生えている **kikinni** という堅杉の木とそれからクルミの木の根をよくよく掘らして、その家の主人の寝ておる枕下へ生えてるそれを掘り起こす。その下に **esaman** といってカワウソが一匹穴を掘ってずっと来てその家の下をやっぱり寝床としておった。それらを退治したので、もう今は死ぬかと思われるほどに重体な病人も、その木の根を取ったり、その **esaman** というカワウソを退治した途端に、非常に元気になっておったと。

私は別にその何かお礼とかそれを希望したわけではないけれども、家へ帰っておると下の村からも、上の村からも沢山の **ikor** [宝] とかお礼の品々が届いて、私は **nispa** [裕福な男性] に、いわゆる金持ちになっておったと。

ま、私の生い立ちの途中でそういう風にヤマベの話し声、あるいはドジョウとヤマベのその話し声を聞いて、それを聞き分けることができたおかげで、上隣の村の酋長も下隣の村の酋長も死なずに済むことができましたよと、一人のアイヌが語りました。

これは、これに類したようなのは、どのテープにか、いわゆるカラスがしゃべった、カラスとワシがしゃべったのを聞いたとか、あるいはこの魚がしゃべったとかいうのはたまたまこうしたことは聞くことができます。

この **uepeker** [散文説話] の題は「**kikreppo cicira ukoysoytak hi a=nu**」いわゆる、ドジョウとヤマベがしゃべったのを私は聞いたという題の **uepeker** [散文説話] で



## 5-10 テープ内容再紹介

解説：萱野茂

萱野：昭和 44 年 1 月 26 日、平取町二風谷、貝澤とろしのさんのところへ伺っております。録音者、私、萱野茂です。

## 6-1 ウエペケレ

「ヌサコロカムイ イカオピューキ」

祭壇を司る神さまが私を助けた

語り：貝澤とうるしの

シノ カツケマツ アネ ヒネ アナニケ  
 sino katkemat a=ne hine an=an h\_ike  
 本当に立派な女性で、そうして暮らしている

アホク パクノ ニシパ イサム ニシパ ネ ワ  
 a=hoku pakno nispa isam nispa ne wa  
 私の夫はこれくらい立派な人はいないという程の人で

ネプ アエ ルスイ カ ネパコン ルスイ カ ソモ キ ノ  
 nep a=e rusuy ka nep a=kor\_ rusuy ka somo ki no  
 何を食べたいとも何が欲しいとも思わないで

オカアン ペ ネ ルウエ ネ ヒケ  
 oka=an pe ne ruwe ne hike  
 暮らしていたのですが

イエンコロケ タ シノ ニシパ ネ クル アン ペ オラウン  
 i=enkorke ta sino nispa ne kur an pe oraun  
 川上の方でも本当に立派な人がいて

エアラキンネ ウエン サカンラムコロ ペ ネ シコロ ハワシ ハウエ  
 earkinne wen sakanramkor pe ne sekor hawas hawe  
 たいそうひどいかんしゃく持ちであるという話を

アヌ コロ アナン ペ ネ ルウエ ネ ア プ エネ ハワシ。  
 a=nu kor an=an pe ne ruwe ne a p ene hawas h\_i.  
 聞きながらいたのですが、このような話がありました。

ネ ニシパ エネ ハウエアニ

**ne nispa ene hawean h\_i**

川上の男がこう言うそうです。

トゥ ポ コロ ペ オラウン

**tu po kor pe oraun**

二人の子供を持っていて、それから

「コント イエンコロケヘ タ カパチツ トノ ウタラ セツ カラ ワ オカ ナ

**“konto i=enkorkehe ta kapacir\_ tonu utar set kar wa oka na**

「川上の方でタカ神たちが巣を作っているぞ。」

シネプ ウク ワ エク クル パテク

**sinep uk wa ek kur patek**

一羽取って来たやつだけに

アコロ イコロ カ オピッタ アコレ クシ ネ。」

**a=kor ikor ka opitta a=kore kus ne.”**

私の宝物を全部与えるつもりだ。」

シコロ カネ ハウエアニ

**sekor kane hawean**

と言いました。

シコロ ハワシ ワ オラノ

**sekor hawas wa orano**

そのような話で、それから

「イキアニカン エウン アコン ニシパ カ アポホ カ アラパ ハウエ ネ ナ」

**“ikianikan eun a=kor\_ nispa ka a=poho ka arpa hawe ne na”**

「決してそちらへ私の夫も息子も行ってはいけないよ」

シコロ ハウエアナン コロ アナン ペ ネ ルウエ ネ ア プ、

**sekor hawean=an kor an=an pe ne ruwe ne a p,**

と、言いながら暮らしていたところ

オラノ アヘコテ ニシパ カ パシロタ コロ アン ペ ネ ルウエ ネ ア プ  
**orano a=hekote nispa ka pasrota kor an pe ne ruwe ne a p**  
 私の夫も川上の男をののしりながらいたのですが

(コント セコロ アン クン ネア イポネ クル シネン イポネ いるんだと<sup>[1]</sup>  
**(konto sekor an kur\_ nea ipone kur sinen ipone IRUNDATO**  
 (こんどは、その者の息子のほう、一人息子がいるんだと

その イポネ クル イソイタク。)  
**SONO ipone kur isoytak.)**  
 その息子が語る。)

タップ ネ ハワシ ハウエアン ノ オラノ キサラメッカ アテシパレ  
**tap ne hawas hawean no orano kisarmekka a=tespare**  
 このような話が聞こえ、そう言っていて耳をそばだてていると

「マカナク ソレクス ト オピッタ オカ ペ カパチン ネ ヒ タ  
**“makanak sorekusu to opitta oka pe kapacir\_ ne hi ta**  
 「いったいどのように、それこそ沼全体にいるのがタカで

マク アウク ハウエ？  
**mak a=uk hawe?**  
 どうやって捉えるというのだ？

ネ インネ ワ オカイ ペ ネ ヒケ クス マク アウク ハウエ エネ アニネ？  
**ne inne wa okay pe ne hike kusu mak a=uk hawe ene an h\_i ne?**  
 ワシはたくさんいるものだからどうやって獲るという話だ？

マク アイヌ ウク ペ ネ ルウエ？  
**mak aynu uk pe ne ruwe?**  
 どうやって誰が捉えられるというのだ？

ウエニレンカコロ ウエンケウトウムコロ チャチャ  
**wenirenkakor wenkewtumkor caca**  
 よこしまな考えを持つ悪い精神のじいさんが

エネ ハウエアン ハウエ アン」

ene hawean hawe an”

そんな事を言うのか」

シコロ ヤイヌアン コロ アナン ペ ネ ルウエ ネ ア プ

sekor yaynu=an kor an=an pe ne ruwe ne a p

と、私は思いながら居たものであったのですが

ランマ エウン イシレン したり

ramma eun isiren SITARI

いつも、そこへ人々を誘ったり

エイコラムヌカラ ペ ネ ヤク アイェ アヌ コラナン ルウエ ネ ア プ

eykoramunukar pe ne yak a=ye a=nu kor\_ an=an ruwe ne a p

人を試しているという話を聞いていたのだけれども、

あるばん ネ ウエンタラパン。

ARUBAN ne wentarap=an.

ある晩、私は夢を見ました。

カムイ ネ クシ コラチ アン クル アン イネ エネ ハウエアニ。

kamuy ne kus koraci an kur an h\_ine ene hawean h\_i.

いかにも神であるらしい者がいて、このように言いました。

「タン オッカイポ ニシパ

“tan okkaypo nispa

「そこの立派な若者よ、

エアニ ネ ヤク エアシリ アエエオトウワシ ルウエ ネ ナ。

eani ne yak easir a=e=eotuwasi ruwe ne na.

お主をこそ私は見込んでいるのだ。

タン アシヌマ アナクネ ヌサコロカムイ アネ ワ アエオテクヌレ シンネ ナ。

tan asinuma anakne nusakorkamuy a=ne wa a=e=oteknure sinne na.

この私は祭壇を司る神であって、お主に授けものをする。

タン カネ アイ コロ ワ ニサッタ ネ アエニスク クニ アヌカラ ワクス  
 tan kane ay kor wa nisatta ne a=e=nisuk kuni a=nukar wakusu  
 この金の矢を持って、明日お前が例の長者に頼みごとをされるのが見えたので

アエウンピリマ クス エカン ルウェ ネ ナ。  
 a=e=unpirma kusu ek=an ruwe ne na.  
 お主に告げるためにやって来たのだ。

タン カネ アイ コロ ワ アラパ ワ エネ シリキ ヒ ヌカラ。  
 tan kane ay kor wa arpa wa ene sirki hi nukar.  
 この金の矢を持って行って様子を見ろ。

エオシノ インカラン ペ ネ ナ。」  
 e=osno inkar=an pe ne na.”  
 お主の後ろから私が見守っているから」

シコロ ウェンタラパン アロロキシネ オンカミアナ アナ アイネ ノ  
 sekor wentarap=an arorkisne onkami=an a =an a ayne no  
 という夢を見て、だまって静かに礼拝を繰り返し、しばらくすると

オラウン アクス ソンノ カ  
 oraun akusu sonno ka  
 それから、本当に

「『テウン アコロ オックアイポ ヘネ ネ ヤク エアシリ  
 “teun a=kor okkaypo hene ne yak easir  
 「『ここにいる若者であればこそ、

カパチツ トノ ウク ワ カパチリ カム アエ ルスイ クス』  
 kapacir\_ tonno uk wa kapacir kam a=e rusuy kusu’  
 タカの神を獲るだろうよ。そのタカの肉を私は食べたい』

シコロ オンネ クル ハウエアン」  
 sekor onne kur hawean”  
 と、うちの老翁が言っています」

セコロ アン ソンコ サナ クス アオナ ライ パシロタ。

sekor an sonko san a kusu a=ona ray pasirota.

という連絡が来たので、父は怒りの言葉をはいた。

「ヘマンタ ポオ カネ アエ ルスイ ペ ネ ヒネ エネ ハワシ アン?

“hemanta poo kane a=e rusuy pe ne hine ene hawas h\_i an?

「何をそれほどまでに食べたがって、このように言うのだ?

カパチン ネ ハウエ アン? シチカプ ネ ハウエ アン?」

kapacir\_ ne hawe an? sicikap ne hawe an?”

タカだって? ワシだって?」

シコロ。ネ ア クス

sekor. ne a kusu

と、言いました。そうしたら

「シチカプ」

“sicikap”

「ワシだ」

だとよ ルウエ ネ

DATOYO ruwe ne

という。

「ルプネ シチカプ パテク セツ カラ ワ インネ ワ オカ ウシケヘ ワ

“rupne sicikap patek set kar wa inne wa oka uskehe wa

「大きいワシばかり巣を作って、大勢でいるところから

シチカプ シネプ ウク クル パセ アタイエ アコレ クシネ」

sicikap sinep uk kur pase ataye a=kore kusne”

ワシを一羽持って来た者に大層な見返りを与えてやる」

シコロ カネ ハウエアン ルウエ ネ ヤク アイエ

sekor kane hawean ruwe ne yak a=ye

と、言うのだそうです。

パクノ ニシパ イサム ネ パクノ イコレピリカ ニシパ イサム ペ ネ コロカ  
**pakno nispa isam ne pakno ikorepirka nispa isam pe ne korka**

ほかに比較になるような長者が無いほど室によって富む長者であるけれど

オラ エネ シトウムカネレ ハウエ アン ヤカイエ ワ  
**ora ene situmkanere hawe an yak a=ye wa**

こうやって余計な事を言うのか、と言って

オラノ アオナ イカシパオツテ コロ オカアン ペ ネ。  
**orano a=ona i=kaspaotte kor oka=an pe ne.**

それから父は、私に言い聞かせながら暮らして

「シノ」カ ネプ カ アイエ ヘネ キ カ ソモ キ  
**“sino” ka nep ka a=ye hene ki ka somo ki**

「本当に」とも何とも言わずに

イタッコムツケ ノ ホ(?) アネ コロカ オラ  
**itakkomukke no ho(?) a=ne korka ora**

(夢のことは) 口に出さずにいたが、

「ネプ カ ウエンケウトウム カ  
**“nep ka wenkewtum ka**

「何も悪い心も

ウェイサンペ カ アコロ カ ソモ キ プ ネ アラパアン」 [2]  
**weysampe ka a=kor ka somo ki p ne arpa=an”**

悪い精神も私は持っていないので、行ってきます」

クナク アイエ アクス アオナハ エアラキンネ エキマテク コロカ  
**kunak a=ye akusu a=onaha earkinne ekimatek korka**

と言うと、父はとても驚いた。けれども

「イテキ イテキ アオナ イエポタラ ヤク ピリカ  
**“iteki iteki a=ona i=epotara yak pirka**

「お父さん、けっして心配しないでください。



アラパアン ワ エネ シリキ エネ シラニ アヌカラ ポカ キ クシ ネ ナ。」  
**arpa=an wa ene siriki ene siran h\_i a=nukar poka ki kus ne na.**  
 行ってみてどういう様子か見るだけ見てみます」

シコロ ハウエアナン コン ネ アイコレ プ アウプソロマレ、  
**sekor hawean=an kor\_ ne a=i=kore p a=upsoromare,**  
 と、言いながら、その授かった矢を懐に入れて、

アホントウイペシテ イネ ク ヤヤン ク ヤヤン アイ アコロ ヒネ  
**a=hontuypeste h\_inu ku yayan ku yayan ay a=kor hine**  
 腹にしのばせて、弓、普通の弓、普通の矢を携えて

ソイネアン ルウェ ネ ヒネ ペッ トウラシ アラパアナイネ  
**soyne=an ruwe ne hine pet turasi arpa=an ayne**  
 外へ出ました。そして川に沿って行き、しばらく行くと

ソンノカ ネ ニシパ コタン アコシレパ ルウェ ネ。  
**sonnoka ne nispa kotan a=kosirepa ruwe ne.**  
 聞いたとおり長者の村に到着しました。

インネ コタン ポロ コタン アン ルウェ ネ  
**inne kotan poro kotan an ruwe ne**  
 家が連なるの村、大きい村がありました。

ネ ピリカ シルワンテ アキ コロ アラパアン ルウェ ネ ヒケ  
**ne pirka siruwante a=ki kor arpa=an ruwe ne hike**  
 その村の様子をよく見回しながら行くと

チセ エルプシク ポ タ ポロ シコタンコンニ スンク  
**cise erupsik po ta poro sikotankonni sunku**  
 家並の上手に、見事なエゾマツの巨木が

チセ カットウイマノ テク アシ ルウェ ネ。  
**cise kattuymano tek as ruwe ne.**  
 家並みから離れて立っているのです。

エウン カ ピリカ シリワンテアナイケ

**eun ka pirka sirwante=an ayke**

そちらもよく見回し確かめていると、

オロ タ ネプ カ ルプネ チカプ サプ ワ

**oro ta nep ka rupne cikap sap wa**

そこに何か大きな鳥が降りてきて

ネプ カ エ パ ワ ネ ノイネ チカッポ コンコン ネ ルウエ ヘ ネ ヤ

**nep ka e pa wa ne noyne cikappo konkon ne ruwe he ne ya**

何か食べたかのように小鳥の羽なのか

ネプ コンコン ネ ルウエ ネ ヤ

**nep konkon ne ruwe ne ya**

何の鳥の羽なのか

チカプ シ コポイケ ワ シリカ タ ラ PAPセ ルウエ カ アヌカラ コン

**cikap si kopoyke wa sirka ta rapapse ruwe ka a=nukar kor\_**

鳥の糞に混じって地面に落ちているのを見ながら

ヤイラム カ カパチッ でない フリトノ ウタラ ネ ヒ ネ クニ アラム。

**yayramu ka kapacir\_ DENAI huritono utar ne hi ne kuni a=ramu.**

私は内心、タカではなく、フリ神たちであるように思いました。

ネ カパチン ネ ハウエ ネ

**ne kapacir\_ ne hawe ne**

そのタカだという話だ

クナク アラム コロ アン ア…… アラパアン ルウエ ネ ア プ エネ

**kunak a=ramu kor an a... arpa=an ruwe ne a p ene**

と思いながら進んでいって、このように

フリ ニツネ イ オカ ウシケ ウン

**huri nitne h\_i oka uske un**

フリの凶悪なものがたくさんいる所に

アイシレン ヒ ネ ハウエ ネ ノイネ ハワシ イネ  
**a=i=siren hi ne hawe ne noyne hawas h\_ine**  
 おびき出されているように感じて

オラ シムシシカアン アクス  
**ora simusiska=an akusu**  
 それから家の前で咳払いをすると

ピリカ メノコポ ソイネ ヒネ アナニ イェ アクス オラウン  
**pirka menokopo soyne hine an=an h\_i ye akusu oraun**  
 美しい若い女が外へ出てきて、私がいることを告げるとそれから

「ニシパ カムイ アフンテ アフンテ」  
**“nispa kamuy ahunte ahunte”**  
 「尊い方をお通ししろ、お通ししろ」

シコロ チャチャカムイ イタク ハワシネ。  
**sekor cacakamuy itak haw as h\_ine.**  
 と、立派な老翁が言っている声がして

イアフンテ クシ イェ イネ レイエ カネ シヌ カネ<sup>[3]</sup>アフナン ルウエ ネ。  
**i=ahunte kus ye h\_ine reye kane sinu kane ahun=an ruwe ne.**  
 私を招き入れるので、はいながらずりながら入って行きました。

アコロ イカヨプ アアヌ カネ ヒ ネ キ ルウエ ネ アクシ  
**a=kor ikayop a=anu kane hi ne ki ruwe ne akus**  
 私の矢筒を置きながら、そうして入ると

ルプネマツ カムイ アン チャチャ カムイ アン イアラソ ウンワ  
**rupnemat kamuy an caca kamuy an i=arso unwa**  
 立派なおばあさんとおじいさん神がいて、私の向かいの座には

スケ エトコイキ メノコポ アン ルウエ エネ アン イネ オラ  
**suke etokoyki menokopo an ruwe ene an h\_ine ora**  
 飯炊きをする若い女がいます。そして

イポネ ウタラ アナク エキムネ ワ イサム ルウェ ネ ノイネ シラン イネ  
 ipone utar anak ekimne wa isam ruwe ne noyne siran h\_ine  
 息子たちは山へ行っていないらしい。

「タプネ カネ フリ トノ ウタラ シネプ ポカ ネン カ オシコニ ヤクネ  
 “tapne kane huri tonu utar sinep poka nen ka oskoni yakne  
 「このようにフリ神たちを一羽でも誰か獲らえたなら、

フリ カム アエ ルスイ クス  
 huri kam a=e rusuy kusu  
 そのフリの肉を私は食べたいので

イニスカニケカ ネン オシコニ ハウエ カ イサム マクス  
 inisuk=an h\_ikeka nen oskoni hawe ka isam w\_akusu  
 人を頼むのだが、誰も獲ったという話も聞かないので

アコロ オッカイポ アエテシカラ クス ピリカ ヒ ネ エク シリ アン」  
 a=kor okkaypo a=e=teskar kusu pirka hi ne ek siri an”  
 私の息子があなたにことづけしたところ、いいところに来てくれた」

シコロ ハワニクス  
 sekor hawan h\_i kusu  
 というので

カトゥトルシノ オンカミアン アクス イエランカラプ キッタラムノ  
 katuturusno onkami=an akusu i=erankarap kittaramno  
 しぶしぶ私が礼拝すると、老爺も私に挨拶し、

イエランカラプ ア イエランカラプ ア ルウェ ネ ヒネ オラウン  
 i=erankarap a i=erankarap a ruwe ne hine oraun  
 私に挨拶を繰り返して、それから

オカアン ルウェ ネ アクス  
 oka=an ruwe ne akusu  
 そうしていたら

シロヌマン アクス イワク ウタラ アン フミ アシ ペ

**sironuman akusu iwak utar an humi as pe**

夕方になったので、帰ってきた者たちの音がして、

ネ メノコポ アナニ イェ ワ ネ ノイネ ウワキコロ ウタラ シケ……

**ne menokopo an=an h\_i ye wa ne noyne uwakikor utar sike...**

その若い女が私がいることを伝えたようで、兄弟たちが荷物を、

カム セ イネ プヤラ カリ アフプテ ヒネ オラウン

**kam se h\_ine puyar kari ahupte hine oraun**

肉を背負って窓から入れて、それから

ソヨシピタツパ<sup>[4]</sup> ヒネ アパ カリ アフパ パ ルウエ ネ ヒネ

**soyosipitatpa hine apa kari ahup pa ruwe ne hine**

家の外で身支度を解いて入口から入ってきて

ラムノ カネ イエランカラッパ。

**ramno kane i=erankarappa.**

身を低くして私に挨拶をしました。

キヤンネ クル ホシキ イエランカラッパ アクシ

**kiyanne kur hoski i=erankarap akus**

年長の息子が先に私に挨拶したのですが、

イネアプ ポニウネ ワ アン クル

**ineap poniwne wa an kur**

下の息子は

シレトッコロ カシ ウン オリパク エアシカイ ワ

**siretokkor kasi un oripak easkay wa**

いっそう器量がよくそのうえ行儀もよい

ソレクス サパハ ラムノ カネ アヌ ワ

**sorekusu sapaha ramno kane anu wa**

それこそ頭を低くたれていて

リク タ リク タ オンカミ カ ソモ キ ノ ラム ノ オンカミ  
**rik ta rik ta onkami ka somo ki no ram no onkami**

高慢な礼拝をしないで、低く低く丁寧な礼拝をして、

ラッチタラ イコオンカミ イエランカラプ。  
**ratcitara i=koonkami i=erankarap.**

静かに私に向かって礼拝し、挨拶をしました。

アフイマンパ イケ エアラキンネ ケウトウム ピリカ クン ネ ノイネ  
**a=huymampa h\_ike earkinne kewtum pirka kur\_ ne noyne**

注意して見ていたが、本当に気だてが良いように

アラム ルウェ ネ ヒネ オラウン  
**a=ramu ruwe ne hine oraun**

思われて、それから

「ホクレ アコロ オッカイポ スケ ワ キロンヌノ イペレ ヤン イペレ ヤン  
**“hokure a=kor okkaypo suke wa kironnuno ipere yan ipere yan**

「さあ、私の息子よ料理してお腹いっぱい食べさせなさい。

ニサッタ アナクネ フリ トノ アウクテ クス エチトゥラ  
**nisatta anakne huri tono a=ukte kusu eci=tura**

明日はフリ神を獲らせるので、お前たちが連れて、

エチシレパカシヌ ワ エチオカ アナク イテキィ エチシレパ ノ  
**eci=sirepakasnu wa ecioka anak iteki eci=sirepa no**

道を教えてお前たちは決してそこまで行かずに

エチエパカシヌ ワ エチイワク ペ ネ ナ」  
**eci=epakasnu wa eci=iwak pe ne na”**

教えたら帰ってくるんだよ」

シコロ カネ ネア ウエン チャチャ ハウエアン ルウェ ネ ヒネ  
**sekor kane nea wen caca hawean ruwe ne hine**

と、その老翁が言うので、

オラ フイペ オロ エムシ クシパレパ ワ イタ チキシマ イサム カネ  
**ora huype or emus kuspaperepa wa ita cikisma isam kane**  
 それから肝臓に刃物を通して、お盆に持つところが無いほど山盛りにして

アイコイプニ ワ アエコロ アナン ヤッカ  
**a=i=koypuni wa a=e=kor an=an yakka**  
 私に出してくれて、それを食べていたのですが

アロロキシネ ヤイエイノンノイタク アナク アキ コロ アナン アイネ  
**arorkisine yayeynonnoitak anak a=ki kor an=an ayne**  
 こっそり自分のことを神に祈っていたところ、やがて

ホッケアン ルウェ ネ アクス  
**hotke=an ruwe ne akusu**  
 床につきました。すると

ネア イピリマ カムイ スイ イシヌカレ ハウエ  
**nea i=pirma kamuy suy i=sinukare hawe**  
 その私にそっと警告した神がまた現れて

「プイネ エク ルウェ カ ソモ ネ  
**“puyne ek ruwe ka somo ne**  
 「一人で来たのではない

エモンクルカシ アエウネウン クス アエトゥラ ワ エカン  
**e=monkurkasi a=euneun kusu a=e=tura wa ek=an**  
 お前の上についているから、私がお前を連れて来たのだ。

ヌサコロカムイ アネ ワ キ ルウェ ネ ナ。  
**nusakorkamuy a=ne wa ki ruwe ne na.**  
 私は祭壇を司る神なのだよ。

ホクレ クナク アリキキ ワ  
**hokure kunak arikiki wa**  
 さあ頑張って

アッ テックピ ポカ エウク エアシリ キ プ ネ ナ」  
**ar\_ tekkupi poka e=uk easir ki p ne na**”  
 片方の翼だけでも手に入れるのだ」

シコロ カネ アイイエ ヤク アタカラ イネ  
**sekor kane a=i=ye yak a=takar h\_ine**  
 と、私に言うのを夢に見ました。そして

モサン ルウェ ネ ヒネ クンネイワ アナクス ナ シリクンネ ヒネ  
**mos=an ruwe ne hine kunneywa an akusu na sirkunne hine**  
 私が目を覚まして朝になると、まだ暗いうちで、

スケ ヤラ スケ ヤン  
**suke yar suke yar\_**  
 料理をさせていて、

ネア ウエン チャチャ ホプニ トウナシ ペ ネ クシ キ イネ  
**nea wen caca hopuni tunas pe ne kus ki h\_ine**  
 その悪い老翁が起きるのが早いのでそうさせていて

スケアン ヒネ アイイペレ イネ オラ ナニ シピンパアン パ  
**suke=an hine a=i=ipere h\_ine ora nani sipinpa=an pa**  
 料理を作って食べさせられて、それからすぐに身支度して、

シピンパ パ ネロク オツカイポ ウタラ カ キ イネ  
**sipinpa pa nerok okkaypo utar ka ki h\_ine**  
 その若者たちも身支度して

シピンパアン イネ オカ カ アイ ク コロパ カネ コロ オカ。  
**sipinpa=an h\_ine oka ka ay ku korpa kane kor oka.**  
 私も身支度して、彼らも矢と弓を持ち

オラウン イトゥラパ イネ パイエアン イケ  
**oraun i=turapa h\_ine paye=an h\_ike**  
 それから私を連れて出かけたのですが、



アコロ カムイ アイ アナク アウプソロマレ プ ネ クス

**a=kor kamuy ay anak a=upsoromare p ne kusu**

私の神の矢は懐に入れているので

アシペシテ イネ パイエアン アイネ タネ シノ トウイマ パイエアン コロ

**a=sipeste h\_ine paye=an ayne tane sino tuyma paye=an kor**

私の体にしのばせて行った。やがて、ずっと遠くまで行くと

シエトク ウン エアラキンネ ニシ オロ エウシ カネ アン

**sietok un earkinne nis or eus kane an**

前方に本当に天に届くほどの

ナニ シトゥ トウラシ

**nani situ turasi**

すぐに、尾根に沿って、

ニソレウシ カネ アン シ ポロ スンク シコタンコンニ アヌカン ルウェ ネ。

**nis or eus kane an si poro sunku sikotankonni a=nukar\_ ruwe ne.**

天に届くほどの大きなエゾマツの巨木を見たのでした。

カシ ウン ソレクス ルプネ フリ

**kasi un sorekusu rupne huri**

そのうえに、それこそ大きいフリが

ウ…… オウ…… エトゥ エコイキ たか キ シンネ ペコロ イキ パ

**u... ou... etu ekoyki TAKA ki sinne pekor iki pa**

口ばしをつきあわせたりだか、しているようにしたり

ウラテスレ<sup>[5]</sup> したり ウオッケ したり キ ペコロ イキパ コロ オカ ヒ クス

**uratesure SITARI uotke SITARI ki pekor ikipa kor oka hi kusu**

羽すれすれに反らしたり(?) 互いに突き合ったりするかのようになっているので、

イタクシコッチャオツテアナウエ エネ アニ

**itaksikotcaotte=an h\_awe ene an h\_i**

私が言葉を発した様子是这样でした。

「アシヌマ アナク ネプ ウエンカムイ ネ ヤッカ

“asinuma anak nep wenkamuy ne yakka

「私は何の悪神でも

ネプ カムイ ネ ヤッカ ウエンノ アカラ カ エラミシカリ

nep kamuy ne yakka wenna a=kar ka eramiskari

何の神であっても非道な接し方をしたことはありません。

アシヌマ アナクネ ネプ ウエンケウトウムコロペ アネ ルウェ カ ソモ ネ

asinuma anakne nep wenkewtumkorpe a=ne ruwe ka somo ne

私は何も悪い精神を持つ者だということではなく

オナ コクシシ ラッチ イレンカ ラッチ ケウトウム アコロ ペ ネ ア プ

ona kokusis ratci irenka ratci kewtum a=kor pe ne a p

父とともにおだやかな意思、おだやかな心をもっているのですが

タアン サ タ アン コタノルン コタンコロクル

taan sa ta an kotan or un kotankorkur

ここから下手に行った所にある村の村長が

『フリトノ シネ プ ポカ オシコニ ワ エク クル

‘huritono sine p poka oskoni wa ek kur

『フリ神を一羽だけでも獲って来たなら

アコロ イコロ オピッタ アコレ クシ ネ ナ』

a=kor ikor opitta a=kore kus ne na’

私の持っている宝物を全部与えよう』

シコロ アン ペ イェ コロ イニスク アッカ カムイ ネットパ ウタラ

sekor an pe ye kor inisuk y\_akka kamuy netopa utar

と言いながら人を頼むが、尊い神々を

エオリパク ウタラ アナクネ アラキ カ ソモ キ ルウェ ネ ア プ、

eoripak utar anakne arki ka somo ki ruwe ne a p,

尊敬する人たちは来ないのです。しかし

カムイ レンカイネ アイウテク ワ エカン ルウエ ネ ナ。

**kamuy renkayne a=i=utek wa ek=an ruwe ne na.**

私は神の力によって使わされた為にやって来たのです。

アシヌマ レンカイネ エカン ルウエ カ ソモ ネ。

**asinuma renkayne ek=an ruwe ka somo ne.**

自分の意思によって来たのではないのです。

ピシ ワ アン コタン コタンコロクル ポホ

**pis wa an kotan kotankorkur poho**

私は浜手にある村の村長の息子で、

シネ ポ ネ アナン ペ アネ ルウエ ネ ワ エカン ルウエ ネ ナ

**sine po ne an=an pe a=ne ruwe ne wa ek=an ruwe ne na**

一人息子であってやって来ました。

フリトノ ウタラ アイエ イタク チコホサリ イエカラカラ ワ イコレ ヤン」

**huritono utar a=ye itak cikohosari i=ekarkar wa i=kore yan”**

フリ神たちよ、私の言葉に振り返ってください」

シコロ アン ペ アイエ コロ

**sekor an pe a=ye kor**

ということを言いながら

イタクシコッチャオツテアン シリ エネ アニ。

**itaksikotcaotte=an siri ene an h\_i.**

言葉を発したのはこうでした。

イコッチャ オツ ニタヌ ワ パイエ ネロク ウタラ イキア プ

**i=kotca ot nitan\_ wa paye nerok utar ikia p**

あの若者たちは私の前を少し早く行っていたのですが

タネ ニ カランケ チカプ カランケ パイエアン アクス

**tane ni karanke cikap karanke paye=an akusu**

今、木の近くに、鳥の近くに行くと

コント イヨカネパ イヨカネパ イネ  
**konto i=yokanepa i=yokanepa h\_ine**  
 今度は私よりも後ろになって、

「トアン タ タシ ネ ネク。ト オカイ ペ タシ  
**“toan ta tasi ne nek. to okay pe tasi**  
 「あそこだ。あそこにいるものこそ

アオナ ウカラ ハウエ ネ ネク ネ ネク」  
**a=ona ukar hawe ne nek ne nek”**  
 私の父が獲らせろと言ったものだ」

シコロ ハウエオカパ コロ  
**sekor haweokapa kor**  
 と言いながら

コント ホシッパ ヒネ イサム パ ルウエ ネ。 ヒクス  
**konto hosippa hine isam pa ruwe ne. hikusu**  
 帰ってしまいました。それで

オラノ イノンノイタカン コロ アナナイネ  
**orano inonnoitak=an kor an=an ayne**  
 それから私は神に祈りながらいると、鳥たちは

ウウエトウエオツケ<sup>[6]</sup> ウコイキ シリ エネ アン  
**uetueotke ukoyki siri ene an**  
 口ばしをぶつけ合って喧嘩し、

ウラコテスレバ<sup>[7]</sup> コロ オカ アイネ  
**urakotesurepa kor oka ayne**  
 羽すれすれに飛んだりして、やがて

マク ネ ヒネ シネ フリ イトクパ ルスイ シリ ヘ ネ ヤ  
**mak ne hine sine huri i=tokpa rusuy siri he ne ya**  
 どうしたことか、一羽のフリが私をつつきたいのか

マク ネ シリ ネ ヤ アエラミシカリ。

**mak ne siri ne ya a=eramiskari.**

どうしたことなのか、わからなかった。

ヘラシ ワ イテクサム ペカ ラポラポ ヘ キ コン ラン ヒ タ

**herasi wa i=teksam peka raporapo he ki kor\_ran hi ta**

下の方へ私のそばへ羽ばたきながら降りてきた時に

ナニ ネア アイ アエシツチョツチャ アクス

**nani nea ay a=esitcotca akusu**

すぐにあの矢で射ると、

アツ テックピ トウルセテク ルウエ ネ。

**ar\_tekkupi tursetek ruwe ne.**

片方の翼がポロッと落ちたのでした。

ネ ヒネ ア…… イ……

**ne hine a... i...**

そうして、

ヤイレンカネ ネ アツ テックピヒ アエシカリ アクス

**yayrenkane ne ar\_tekcupihi a=esikari akusu**

私は喜んでその片方の翼を掴むと

オアツ テックプ コロ ヒネ

**oar\_tekcup kor hine**

片方の翼を持って

ヘリカシ ラポラポ ヒネ ニ トウラシ アラパ シリ アヌカラ コロ

**herikasi raporapo hine ni turasi arpa siri a=nukar kor**

上の方へ羽ばたいて木に沿って上に行くのを私は見ながら

コント ネア テックピヒ ヤイレンカネ アコロ オラ アヤユプソロマレ ヒネ

**konto nea tekkupihi yayrenkane a=kor ora a=yayupsoromare hine**

それからその翼を喜んで持って懐に入れて

オラ ヤイレンカネ アコロ ヒネ サナニネ  
 ora yayrenkane a=kor hine san=an h\_inie  
 それから私は喜んで持って山を下りて

ネア チセ オツ タ ヘヨキ サク ノ アウオシマアニネ  
 nea cise or\_ ta heyoki sak no awosma=an h\_inie  
 その家へ挨拶もしないで入って行って

「チャチャカムイ コン ルスイ クシ  
 “cacakamuy kor\_ rusuy kus  
 「高貴な老爺が欲しいるので、

ヌカン ルスイ クス ハウエ アン ペ ネ クス  
 nukar\_ rusuy kusu hawe an pe ne kusu  
 見たがって言うものだから

フリ カムイ シネプ テックピ アコロ ワ サナン ナ  
 huri kamuy sinep tekkupi a=kor wa san=an na  
 フリ神の翼をひとつ持って山をおりたぞ。

ヘタク ヘタク エエニシパネ エエピリカ クニネ イキ」  
 hetak hetak e=enispane e=epirka kunine iki”  
 さあさあ、これでもって長者となれ、幸福になるようにしろ」

シコロ ハウエアナナクス シエトゥウク シパルク<sup>[8]</sup> コロ  
 sekor hawean=an akusu sietuuk siparuk kor  
 と言うと、自分の鼻をおさえ、口をおさえ

「ホツ ノ ソモ カ タプネ ヤヤン アイヌ アナク  
 “hot no somo ka tapne yayan aynu anak  
 「あれ！ よもや、まさか、ただの人間は

オロ エ パ プ ネ クナク アラム アワ イシリクランテレ  
 oro e pa p ne kunak a=ramu awa isirkurantere  
 食べられるものと思っていたが、驚いたことに

シネ アイヌ カ アオラウキ ノ エネ シリキヒ アン？」

**sine aynu ka a=orawki no ene sirikihi an?"**

一人の人間が逃げおおせてこうなっているのか？」

シコロ ハウエアン コロ シエトウウク シパルク ハウエ アヌテク コロ

**sekor hawean kor sietuuk siparuk hawe a=nutek kor**

と言いながら、自らの鼻をおさえ、口をおさえた声を聞きながら

「ラウエ クス ハウエオカイ ペ ネ クス ピリカ シリ ヌカラパ ヤク

**"rawe kusu haweokay pe ne kusu pirka siri nukarpa yak**

「自ら望んで言ったことなのだからうまくいった様子を見たなら

ピリカ フリ ウタラ アコオロスツケ ヤクネ コタン コ サク ナンコン ナ」

**pirka huri utar a=koorsutke yakne kotan ko sak nankor\_ na"**

良いフリたちを私が煽り立てたならば村も失われるだろう」

シコロ ハウエアナナクシ

**sekor hawean=an akus**

と、言ったところ

「イテキ ネノ エハウエアナク ピリカ。

**"iteki neno e=hawean y\_ak pirka.**

「そう言うな。

アオカ カ アオナハ コロ ウエンプリヒ アコパク コロ オカアン コロカ

**aoka ka a=onaha kor wenpurihi a=kopak kor oka=an korka**

私も父の悪い行いに抗議していたけれども、

エネ イイエ ヒ ネ ワ クス ハウエ アコアニ ネ ア プ

**ene i=ye hi ne wa kusu hawe a=koani ne a p**

あのように私に言うのでその話を伝えたものであったが、

アエコヤヤパプ クシ ネ ナ」

**a=e=koyayapapu kus ne na"**

私はお前に詫びようと思う。」

シコン ネロク オツカイポ ウタラ ハウエオカ ハウエ アヌテク コン  
**sekor\_ nerok okkaypo utar haweoka hawe a=nutek kor\_**

と、その若者たちが言うのを私は聞いて

ライパシロタアン コロ サナン ルウエ ネ。

**raypasrota=an kor san=an ruwe ne.**

文句を言いながら帰ったのでした。

ネア アコロ アイ アコロ ヒネ キ

**nea a=kor ay a=kor hine ki**

その私の矢を持って

オラウン ネ テックプ アニ その チャチャ アエサパコキク したんだと

**oraun ne tekkup ani SONO caca a=esapakokik SITANDATO**

それから、その翼で老爺の頭をなぐりました。

コロ イルシカアン コロ サナン。

**kor iruska=an kor san=an.**

私は怒りながら山を下りました。

アイイペレ クス アイエ コロカ エネ ウエンケウトウムコロ パ プ

**a=i=ipere kusu a=ye korka ene wenkewtumkor pa p**

食事をさせると言われましたが、そのような根性が悪い、

パウチ ヘネ アイエレ クニ アシトマ プ ネ クス ナニ サナン ヒネ

**pawci hene a=i=ere kuni a=sitoma p ne kusu nani san=an hine**

気が狂う毒でも食わされそうで、恐ろしいのですぐ山を降りて、

アウニ タ サナン。

**a=uni ta san=an.**

私の家に戻りました。

オラノ タプネ タプネ ネ ヒ アイエ。オラウン

**orano tapne tapne ne hi a=ye. oraun**

それから、かくかくしかじかと語りました。それから



アオナ イルシカ ライパシロタ。オラウン

**a=ona iruska raypasrota. oraun**

父は怒って文句をいいました。

ネ ヒ タ エアシリ アコロ カムイ アイ アサンケ ヒネ

**ne hi ta easir a=kor kamuy ay a=sanke hine**

そのときに初めて、私の持っていた神の矢を出して

アオナ イナウケ ア イナウケ ア ヒネ

**a=ona inawke a inawke a hine**

父も私もたくさんのイナウを削って

イナウ コテ ヒネ オラ カムイフチ エウン イェ ア イェ ア。ヌペ トウラ

**inaw kote hine ora kamuyhuci eun ye a ye a. nupe tura**

イナウを結びつけ、それから火の神に伝えて、涙ながらに

「パテク アコロ ペ アポホ ネ プ、ネ フリ ニツネ ヒ エウン アアラパレ ワ

**“patek a=kor pe a=poho ne p, ne huri nitne hi eun a=arpare wa**

「たった一人の我が子なのに、その恐ろしいフリのところへ行かされて、

ネウ カ アン ペ アン チキ マク イキアン ワ、ヌサコロカムイ

**new ka an pe an ciki mak iki=an wa, nusakorkamuy**

何かあったらどうするかと思っていましたが、祭壇を司る神、

カムイ ウタラパ オカ クシケライポ アポ シクヌ ワ サン」

**kamuy utarpa oka kuskeraypo a=po siknu wa san”**

位の高い神のおかげで我が子は生きて帰りました」

シコロ ハワン コロ

**sekor hawan kor**

と言いながら

イナウ トシカ ネア アイ トウラノ ヌサ オツ タ コロ ワ アラパ。

**inaw toska nea ay turano nusa or\_ ta kor wa arpa.**

イナウの山をその矢と一緒に祭壇へ持って行き

エアシラナ チシ コロ カムイ コヤイライケ ヒ イェ ワ、  
**easirana cis kor kamuy koyayrayke hi ye wa,**  
 本当に泣きながら神への感謝の言葉を言いました。

アエラムシンネ ア プ オラウン  
**a=eramusinne a p oraun**  
 私は安心したのですが、それから

ソモ イコヤヤッタ サク…… ヤク ウェン ワ ネ クニ アラム コロ  
**somo i=koyayatta sak... yak wen wa ne kuni a=ramu kor**  
 私に返礼をしないのは良くないと思って

ネロク ポ ウタリヒ ピリカ イコロ シケ キ ワ  
**nerok po utarihi pirka ikor sike ki wa**  
 あの息子たちは美しい宝物を背負って

ヤヤパプ イ イェ パ コロ サプ したんだと アクス  
**yayapapu h\_i ye pa kor sap SITANDATO akusu**  
 詫びの言葉を言って山を下りました。そうすると

「イコロ カ ネプ カ ソモ アコラッカ ピリカ ポ さえ シクヌ ワ  
**“ikor ka nep ka somo a=kor y\_akka pirka po SAE siknu wa**  
 「宝物も何も貰わなくて良い。子供さえ生きて

サナク ピリカ ハウエ ネ。  
**san y\_ak pirka hawe ne.**  
 戻ってくれば良いのだ。

フンタ アイヌ パテク エ ルスイ ペ フリ カム フリ ネ ヒネ ネ  
**hnta aynu patek e rusuy pe huri kam huri ne hine ne**  
 いったい誰がフリの肉、フリだけを食べたがるか、

フナク タ アヌ アムキリ、  
**hunak ta a=nu amkir,**  
 聞いたことがあるか。

フンタ アイヌ エネ ハウエオカ ヒネ

**hnta aynu ene haweoka hine**

どんな人間がこんなことを言う、

エネ エネ アイヌ ニシパ ハウエアン ハウエ アン?

**ene ene aynu nispa hawean hawe an?**

こんな人間の長者が言うというのか?

ネア チャチャカムイ ネウン ハウエアナッカ

**nea cacakamuy neun hawean y\_akka**

その老翁がどう言おうと

オッカイポ ウタリ イテキ ウエン ケウトウム エチコロ ヤク

**okkaypo utari iteki wen kewtum eci=kor yak**

お前たち若者はけっして悪い心を持つな。

エアシリ オナ オカ タ アプンノ オカ ラッチ オカ エチキ プ ネ。

**easir ona oka ta apunno oka ratci oka eci=ki p ne.**

そうすればこそ父の跡をついで、平穏な暮らし、ゆったりとした暮らしができるのだ。

エチオナハ エチコケウトウムコロ ヤク アナクネ

**eci=onaha eci=kokewtumkor yak anakne**

お前たちの父を見習うのなら

エアラキンネ アラウエン サカンラム アチコレ<sup>[9]</sup> ワ

**earkinne arwen sakanramu aci=kore wa**

お前たちは非常に極悪な激しい気性を持たされて

とんでもない ウエン クル エチネ ナンコン ナ」

**TONDEMONAI wen kur eci=ne nankor\_ na”**

とんでもない悪者になってしまうだろう」

シコロ ネア アオナハ ハウエアン コロ カシパオツテパ。

**sekor nea a=onaha hawean kor kasipaottepa.**

と、父は言いながら彼らに言い聞かせました。

ヌペ トウラ ヤイライケ ヒ イェ ロク イェ ロク コロ  
**nupe tura yairayke hi ye rok ye rok kor**

彼らは涙ながらに感謝の言葉を重ねつつ

パイェ ワ イサム クシ タプ ネ アニ ヤイケウコロ アキ ワ  
**paye wa isam kus tap ne ani yaykewkor a=ki wa**

帰っていったので、こうして私が恐ろしい思いをして

フリ ヒ ニツネ イ ルプネ ルウェ ウン メノコ ネ ヤ オッカヨ ネ ヤ  
**huri hi nitne h\_i rupne ruwe un menoko ne ya okkayo ne ya**

フリの恐ろしく、強大な者のところへ、雌であるか雄であるか、

インネ サイ オカ ウシケ タ アイトウラ ワ  
**inne say oka uske ta a=i=tura wa**

たくさんのフリの群れがいるところに連れて行かれて、

ヤニ アイトクパ プ ネ ア クス アエイソイタク  
**yani a=itokpa p ne a kusu a=eysoytak**

もう少しで突かれるところだったのでその話をしました

シコロ シネ オッカイポ イソイタク ヘム キ  
**sekor sine okkaypo isoytak hem ki**

と、一人の男が話しもし、

マツ コロ ワ オッカヨ メノコ コロ ワ ルプネ ワ  
**mat kor wa okkayo menoko kor wa rupne wa**

妻を持って、男の子と女の子を持って、その子が大きくなって

アオナハ カ アウヌフ カ アオンネレ オカケ タ アレシパ アイネ  
**a=onaha ka a=unuhu ka a=onnere okake ta a=respa ayne**

私の父も母も見取った後で育てて、やがて

タネ イラウケトウパ シリ アヌカラ コロ  
**tane irawketupa siri a=nukar kor**

今は子供たちも仕事をしているのを私は見ながら

ヤイシンキレアナイネ アエカトゥエハンケ ワ ヘ ネ ヤ  
**yaysinkire=an ayne a=ekatuehanke wa he ne ya**  
 くたびれて早死したものか

トゥナシ オンネアン シンネ クス  
**tunas onne=an sinne kusu**  
 早くに世を去ることになりそうなので

アポ ウタリ イテキ ネンネン ハワシ コロ  
**a=po utari iteki nennen hawas kor**  
 私の子供たちよ、決して色々と話があっても

エタラカ エウン パヨカ アン ペ ネ ナ  
**etarka eun payoka an pe ne na**  
 いい加減にそこへ行くものでないよ

シコロ シネ アイヌ イソイタク。  
**sekor sine aynu isoytak.**  
 と、一人の人間が話しました。

(萱野：はい。どうもありがとうございます。)

#### 【注】

- [1] この行と次の行は一人称語りではなく、ストーリー中の叙述者が変わることを側叙的に語っている。
- [2] 「正しい行いをする者は、神に守られる」という程の意味か。
- [3] 他人の家にあがって上座に進む時には、つつ立って歩いてはいけない。
- [4] 外で靴を脱いだり、荷解きをして入ってくるのがアイヌの礼儀である。
- [5] 『久保寺辞典稿』p.217に rakotesu「羽すれすれに」とある。これと近似した意味と過程して、鳥たちがくちばしで互を突いたり、それを紙一重の所で交わしたりしている描写として訳した。
- [6] u-etu-e-otke「互い・くちばし・を以て・突く」。
- [7] 注5参照
- [8] 驚きのあまり体から魂が出ないようにする仕草
- [9] aci=kore <a=eci=kore「人が・お前たちに・持たせる」。aci=という形は、沙流方言ではめったに出てこないが、千歳方言に見られる。

## 6-2 ウエペケレ「ヌサコロカムイ イカオピューキ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：この huri っちゅうのはなんちゅうんだ？ そうすると。

貝澤：あれー、なに、何て言うべな？ おっきい鳥だわ。

萱野：ふーん。

貝澤：huri nitne h\_i [フリの悪い奴]、ってゆうのは人間も殺してるんだもの。  
tokpa [鳥がつつく] して。

萱野：これは、あのー、

貝澤：huri nitne h\_i [化け物フリ] って言うの。

萱野：うん、そう、そう。よくそう言うふうのは聞こえる、聞くけどもさ。アイヌ語でそういうけど、日本語で何て言う？

貝澤：日本語って何て言うんだべなあ、おれも……

萱野：おっきい鳥だというだけで、その……

貝澤：おっきい鳥だというだけで……

萱野：本当にその形そのものがない……

貝澤：子供は押さえて [つかまえて] 飛ぶって言うんだよ。子供盗むんだって、食うんだっていうもの。

A氏：トビでないのか？

萱野：トビとも……

貝澤：トビでない。トンビでないんだ。huri nitne h\_i ってもものもあるし、sicikap [オジロワシ] っていうものもあるし。

萱野：sicikap っちゅうのは普通

貝澤：sicikap は普通の鳥だ。

萱野：この uepeker [散文説話] は、これ nusakorkamuy i=kaopiwki [祭壇を司る神さまが私を助けた] ？

貝澤：うん。kane ay a=i=eotuknere (？)

萱野：うん、kane ay a=i=eotuknere (？) と言うけどな。

私は父がおり母がおり、私は父と母に育てられ何不自由なく一人前になった男であります。猟も上手だし、親を大切にし、というわけでごく普通ではあるけれども、特別雄弁とかそういうことではありませんが、普通に成長してきた一人のアイヌでした。

そうやって何不自由なく暮らしておるある日のこと、近くの村で一人の男がおって、それは沢山の物持ち、沢山の宝物を持っておって、無理難題といえ言えることは、近くに huri という鳥の、大きな鳥、それは日本語で何と言うのか、あるいはアイヌの社会での空想上の鳥なのかもしれないませんが、その huri という鳥、これは日本語で分かりませんので日本語は使いませんが、その huri という鳥がどっさり一か所に住んでおる。

そこのその家から「一羽なり、一羽か何か、まあとにかくそれを殺して持って来いと、そうすれば私の持つておる宝物全部、誰にでもあげますよ」と。そして村々にそれを殺す人を募集しても誰もそれを殺してきた者もおらない。

そういう話を聞いた私の父や母は、「もしそういうことであんたのところへお使いが来ても決して行ってはいけませんよ」と、言われながらだけでも、まあ興味ないわけではない。

そうしておるある夜のこと、夢を見たら夢枕に立った神様の言うのには、「私はあなたの家の nusakorkamuy だ」と。いわゆる外の祭壇を司る神様だと。その nusakorkamuy だが、「明日はあなたのところへお使いが来るでしょう。普通ではとても huri という鳥を殺すことも出来ないけれ

ども、あなたに今、金の弓と金の矢を貸してあげます」と。「だからこれを持って明日は行きなさいよ」と。「その他は成り行きにまかせなさい」と。そういうふうにならぬ神様がおり、翌朝目を覚ましてみると、まあ夢だと思っておったのが、本当にその枕元には金の弓と金の矢があったと。

それを持って、これは本当だったんだなと思っておるところへ隣の村からのお使いが来て、「いくら誰を頼んでも全然それを捕ってくれる人がおりません。今度はどうしてもあなたにお願いしたいと、家の父から使われました」と、若い者が二人来た。

まあ、夕べ夢で知っておったので、すぐにその宝の矢、宝の弓を懐へ入れるとそれはそのまま一番肌身近くに隠しこんで、そして普通の矢と普通の弓を手を持って、その男たちと一緒にいった。そうすると、その隣村、と言ってもまあ夜、夕方までかかったのかそこへ到着してみると、そこのおやじは、見かけは立派なおやじがおって、丁重に *onkami* [男性の挨拶] というアイヌ特有の仕草で迎えられ、そしていろいろ話を聞いたら、「ぜひその鳥を捕ってほしい」と。

「そうすれば私の持つておる宝物は全部あなたに差し上げますから」こういうふうにならぬ。そこへ狩に行った人たちが二人帰ってきた様子がある。それを家族のものが外へ出て知らせると、外でいわゆる狩用のまかない [身につけたもの] を全部といて、昔のアイヌの礼儀としてそうなんだが、外で *ker* [靴] をほどいたり、山行きの支度全部ほどいてきちっとして入ってくるのが昔のアイヌの礼儀であったわけなんです、それを *soyosipitatpa* と行って、外でまかない物 [身につけたもの] をほどいて入ってきた。そして私に丁寧な挨拶をするその挨拶の仕草を見ても、兄である人よりも弟の方が非常に立派で、挨拶の仕方も立派な挨拶し、挨拶されながら、まあその晩はそこで泊まった。

そして次の朝早く、その *huri* という鳥のいるところへ案内させた。で、ずっと遠くの方から「あそこだよ」と、言いながらだんだん近づいてみると、大きな木のいっぱい生えている林に、一羽や二羽でなく何十羽も何百羽もの鳥がおって、その鳥がこう羽をさすり合い、あるいは口ばしでつつき合ったりしながら、こう飛んでるものもおれば、そこでただ座ってなんか人待ち顔と言え言えるような恰好でおるところへ行つた。

そこへその恐ろしいその *huri* という鳥のいるところへ近づくと、その案内してきた男たちも今まで前歩いておったのも全部うしろへ下がっちゃって、一人でだんだん近づいた。

そこで私は夕べ、前の晩、神から、神様から授かったところの弓矢を



手に持ち直しながら、その huri たちに「私は私自身の気持ちで来たんでなくって、その隣村の悪い男の考え方であんた達を不本意ながら一羽殺すなり、持って帰るなりしたくて来たからよろしく」と、いうふうな事をアイヌ語で述べながらその弓に矢をつがえておった。そうすると一羽の鳥がずっと前へ降りてきたので、それに向かって矢を放すと一羽のその飛んできた鳥の片羽の付け根からポロリともげ落ちた。

それを喜んで「本当にありがとうございました。これを持って帰れば男にも話をする事が出来ますよ」と、そう言いながらこれを持って大急ぎで村へ、その、夕べ泊まった村へ帰ってきた。

そして帰ってきてそのおやじの上へその羽を叩き付けながら、「お前が欲しくて持ってきたものだよ。あんなに恐ろしい鳥のところにどうしてそういう無理難題をふっかけた。そういう事を今からも続けるのであれば生かしてはおけないけれども、これからそういうことのないように」と、うんと怒りながらその羽を置いたら、「やー今まで何人の人に頼んでも羽の一本も捕れなかったのに、よくまあこうして持ってきた」と。「まあ驚いたもんだ、たまげたもんだ」と、言ってるのをしりめにさっさと我が家へ帰ってきた。

そうすると次の日にどっさり、ikor という宝物をどっさり背負って私のところへ来たけれども、「ikor とかそうしたものの欲しくて私はやったものではないよ。なぜあんた達はそういう悪さをするのだ」と、うんと言い聞かせて帰してやった。その後に父にその話をしたら、その金の弓と金の矢はイナウに包んで神様へお返しをした。

そして私自身にも嫁をもらって、何不自由なく幸せに暮らし、隣村の悪さをする親父も死んでしまい、そのあと息子たちにも嚴重に言って、そういう無理難題を人にふっかけることなく、今は幸せに平和に暮らしておりますと、一人の男が言いました。

というわけだな。

貝澤：そうだよ。

## 6-3 ウエペケレ

「チシナオツ イタク ハウエ アヌ」

死人の声を私は聞いた

語り：貝澤とうるしの

(萱野：はじめから)

アリキキアン ニシパ アネ ヒネ アナニケ ネプ アエ ルスイ カ  
 arikiki=an nispa a=ne hine an=an h\_ike nep a=e rusuy ka  
 私はよく働く立派な人であって、暮らしていて、何を食べたいとも

ネプ アコン ルスイ カ ソモ キ プ ネ コロカ オラ ネプ カ アウタリ  
 nep a=kor\_ rusuy ka somo ki p ne korka ora nep ka a=utari  
 何がほしくもないものだけれど、それからなにも私の仲間(村)の

イパナケ タ カ インネ コタン アン ペ ネ コロカ ネン カ アシコウエンテ  
 i=panake ta ka inne kotan an pe ne korka nen ka a=sikowente  
 川下にもにぎわった村があるのだが、誰か憎らしく思う

カ エラミシカリ ノ アナン ペ ネ ルウエ ネ ア プ、  
 ka eramiskari no an=an pe ne ruwe ne a p,  
 ようなこともなく、私はいたものであるのだが、

ナニ シネ アン タ エキムネアン ハンケ エキムネアン ルスイ クス  
 nani sine an ta ekimne=an. hanke ekimne=an rusuy kusu  
 すぐにある日に私は山に行った。近くの山に行きたいので、

レウシ チセ オツ タ アラパアン リトゥロレウシアン ペ ネ イ クス  
 rewsu cise or\_ ta arpa=an riturorewsi=an pe ne h\_i kusu  
 私は泊まる家に行った。途中で泊まることにしていたので、

リトゥッ タ レウシアン ルウエ ネ ア プ

**ritur\_ ta rewsian ruwe ne a p**

途中で私は泊まったのだが

タネ アラパアニネ キムン イウオロ ソ アコアプカシ。カムイ アヌレ

**tane arpa=an h\_inine kimun iwor so a=koapkas. kamuy a=nure**

もう、私は山へ行って 山奥の狩場を歩いた。神に私は祈りを聞かせる

シタリ キ イネ オラ イペアン カ キ オケレ シ シリクンネ アン アクス

**sitari ki h\_inine ora ipe=an ka ki okere si sirkunne an akusu**

たりして、食事もし終え、あたりが薄暗くなると、

ヘマンタ テレケテレケ カネ ヒネ エク フミ アシ ペコロ ヤイヌアン。

**hemanta terketerke kane hine ek humi as pekor yaynu=an.**

何か跳びはねてこっちに来る音がするように私は思った。

ヒネ アパオッキ…… クチャ チセ オツ タ ネ コロカ アパオッキ

**hine apaotki... kuca cise or\_ ta ne korka apaotki**

そして戸口のすだれ、狩り小屋ではあるけれども、すだれ

アッ ペ ネ クス アパオッキ チョロポク タ

**at pe ne kusu apaotki corpok ta**

が下がっていたので、すだれの下で

ヘマンタ レイエレイエ シンネ ペコロ

**hemanta reyereye sinne pekor**

なんかはいずっているような

シリキ アエオアイシトマ ルイ アペ アン シンネ カ イサム ペ ネ クス

**sirki a=eoaysitoma ruy ape an sinne ka isam pe ne kusu**

様子で、ひどく恐ろしく思った。火がおきている様子でもなかったの

アペ アルイカ イネ ソモ カ エネ インカラン クナク アラム ア プ

**ape a=ruyka h\_inine somo ka ene inkar=an kunak a=ramu a p**

私が火を大きくすると、まさかそのようなものを見るとは思っていなかったが

チシナオツ エホロカ ホクシ ワ テレケテレケ カネ ワ  
 cisinaot ehorka hokus wa terketerke kane wa

包んだ遺体（棺桶）が反対に倒れて跳びはねるように

エク フミ アヌ ヒ ネ アアニネ コント アエオアイシトマ クス  
 ek humi a=nu hi ne aan h\_ine konto a=eoaysitoma kusu

来る音を私は聞いていたのだ。それからこわいので

エウン インカラニネ アナン アクス アパサム パクノ  
 eun inkar=an h\_ine an=an akusu apasam pakno

そのほうを見ていると、戸口のそばまで

シキル シリ ヘネ ヤ テレケ シリ ヘネ ヤ イキ ヒネ オラウン  
 sikiru siri hene ya terke siri hene ya iki hine oraun

向きを変える様子なのか、跳びはねる様子なのか、そうして、それから

チシナオツ オンナイ ウン セッセレケ ハウエアシ アウエ エネ アニ  
 cisinaot onnay un sesserke haweas h\_awe ene an h\_i

包んだ遺体（棺桶）の中から、しゃくりあげて泣きながらこのように言った

「ソレクス ワ オリパク トウラ オライ トウラ ネ ヤッカ  
 “sorekusu wa oripak tura oray tura ne yakka

「それこそ、恐縮しながら、おびえながらではありますが、

タン アイヌ ニシパ エアニ ネ アシ…… ネ ヤク  
 tan aynu nispa eani ne as... ne yak

ここなる人間の旦那こそ、

エアシリ アエオトウワシ ペ  
 easir a=e=otuwasi pe

私が見込んで頼りにするのですが、

エネ アン カトゥ アネ アニ タン エエンコロケヘ タ パイエアニネ  
 ene an katu a=ne an h\_i tan e=enkorkehe ta paye=an h\_ine

こういうわけで私はこんな姿なのです。この川上の方に行つて

オヤク ワ エク ペツ ペツル オロケ アオサン コロ  
 oyak wa ek pet petru orke a=osan kor

他所から来る川沿いの道を通って下りると、

インネ コタン アン ワ オロ タ  
 inne kotan an wa oro ta

にぎわった村があり、そこに

アヘコテ ニシパ アン ルウエ ネ イケ ソレクス  
 a=hekote nispa an ruwe ne h\_ike sorekusu

私が連れ添う旦那がいるので、それこそ

ネプ アエ ルスイ カ ネプ アコン ルスイ カ ソモ キ ノ  
 nep a=e rusuy ka nep a=kor\_ rusuy ka somo ki no

私は何が食べたいとも、何がほしくもないで

ウエウタンネアン ルウエ ネ ア プ  
 uewtanne=an ruwe ne a p

夫婦となっていました

ナニ ポサカン ペ ネ クス コント ポンマツコロ ヒネ  
 nani posak=an pe ne kusu konto ponmatkor hine

まもなく子供がないものであるので、夫はめかけを持って

ウエウタンネアン ワ オカアン ルウエ ネ ア プ  
 uewtanne=an wa oka=an ruwe ne a p

私たちは夫婦になって暮らしていましたが

ヘムシイエイエ ヘムタスミ アキ ヒネ イサマン ペ オラウン  
 hemsiyeye hemtasumi a=ki hine isam=an pe oraun

私は急病になって死んでしまい、それから

コント アヘコテ ニシパ ネンポカ アシエカランケレ  
 konto a=hekote nispa nenpoka a=siekarankere

それから私の亭主をなんとかして招きよせ

ルスイ クス アラパアン コロ チュプ ノカ オマ コソソテ  
**rusuy kusu arpa=an kor cup noka oma kosonte**

たいので、私が行くと、太陽の絵が入っている小袖

ここ聞けばにいさんエシカルン する。チュプ ノカ オマ コソソテ  
 ここ聞けばにいさん **esikarun SURU**。cup noka oma kosonte

ここ聞けば兄さん<sup>[1]</sup>思い出すでしょう。太陽の絵が入っている小袖を

コシンニヌ ワ アン アヘコテ ニシパ キ プ ネ ア プ  
**kosinninu wa an a=hekote nispa ki p ne a p**

亭主は宝として隠し持っていて、

イサマン アクス オラノ きつと アラパアン カトウ  
**isam=an akusu orano KITTO arpa=an katu**

私が死ぬときつと私に来るだろうと

オヤモクテ パ ワ ヘネ ネ ヤ  
**oyamokte pa wa hene ne ya**

疑っていたのか

ネア ポンマチ トウラノ ホツケ パ ウシケ ウン パイエアン コロ  
**nea ponmaci turano hotke pa uske un paye=an kor**

その第二の妻と一緒に寝るところへ行くと

カケンチャ オツ タ ネア チュプ ノカ オマ コソソテ  
**kakenca or\_ ta nea cup noka oma kosonte**

衣装掛けのところへその太陽の絵が入っている小袖

アン ペ ネ クス ニペキ アニ アフナン カ エアイカプ ルウェ ネ クス  
**an pe ne kusu nipeki ani ahun=an ka eaykap ruwe ne kusu**

あるので、その輝きで、私は入ることもできないので、

アコン ニシパ アラパ ワ ウトクイエコロアン ペ ネ ア クス  
**a=kor\_ nispa arpa wa utokuyekor=an pe ne a kusu**

長者様（主人公）は（私の家に）行って私たちと親しく付き合っていたのだから、

『アコン ニシパ コロ コソソテ ソモ イエコヨク ルウエ アン?』

‘a=kor\_ nispa kor kosonte somo i=ekoyok ruwe an?’

『長者様（女の夫）が持つ小袖を私に売ってくれないか?』

セコロ エハウエアン ヤクン

sekor e=hawean yakun

と、あなたが言ったら

アレンカイネ ネ クス ラムオシマ ワ エエコヨク ワ

a=renkayne ne kusu ramuosma wa e=ekoyok wa

私の力のおかげで、（旦那は）納得して、あなたに売って

ニペキ イサム ヤクネ アヘコテ ニシパ

nipeki isam yakne a=hekote nispa

輝きがなくなったなら、私の旦那を

アウク エアシカイ ルウエ ネ クス ネノ エイキ ワ

a=uk easkay ruwe ne kusu neno e=iki wa

奪うことができるのだから、そのようにして

イコレ ヤク ピリカ。ソレクス ウコハイタアン アイネ

i=kore yak pirka. sorekusu ukohayta=an ayne

ください。それこそ私たちはお互い足りない（子供がいない）まま

ウエウタンネアン ペ ネ ア プ オラ エネ イキアン ワ

uewtanne=an pe ne a p ora ene iki=an wa

夫婦として暮らしていたのに、このようなありさまでは

ポ ヘネ アエナサケナイ ワ ネ クス

po hene a=enasakenay wa ne kusu

なおさら私はなさないの

ネ チュプ ノカ オマ コソソテ エホク ワ イコレ ヤク ピリカ。

ne cup noka oma kosonte e=hok wa i=kore yak pirka.

その太陽の絵が入っている小袖をあなたが買ってください。

ソモ、アイェ プ エハイタ ヤク アナクネ ワ ソモ エホク ネ  
**somo, a=ye p e=hayta yak anakne wa somo e=hok ne**  
 そうしないで、私の言ったことにそむいて、あなたがその小袖を買わな

コソンテ キ ヤクン エアニ アエカラカラ クス ネ ナ。」  
**kosonte ki yakun eani a=ekarkar kusu ne na.”**  
 かったならば、あなたを私はする（魂を取って行く）つもりですよ」

セコロ ネア オッ オロ ウン ソンノ イヌ ネ ワ アキ プ  
**sekor nea ot or un sonno inu ne wa a=ki p**  
 と、その棺桶から本当に聞こえたの

ネ コロカ アロアイシトマアン ヒネ オラウン  
**ne korka aroaysitoma=an hine oraun**  
 だけれど、私はこわくて、そして

「ネイ ワ イオラムキリ カ ソモ キ プ エネ ハワシ アン ハウエ ネ ヤクン  
**“ney wa i=oramkir ka somo ki p ene hawas h\_i an hawe ne yakun**  
 「どこから私の居場所も知らないはずのものが、このように言うのであるなら

アラパアン ワ アウク エアシカイ ペ ネ ハウエ ネ ヤクン  
**arpa=an wa a=uk easkay pe ne hawe ne yakun**  
 私が行って取ってくることができるものであるのなら、

アイェ ワ イヌアン クス ネ ワ」  
**a=ye wa inu=an kusu ne wa”**  
 話をしてみよう」

セコロ ハウエアナン アクス  
**sekor hawean=an akusu**  
 と私は言った。すると、

「ソンノ アンペ アイェ アウエ ネ ナ。  
**“sonno anpe a=ye h\_awe ne na.**  
 「本当の事を私は言っているのだよ。



アコン ニシパ アラパ ワ ホク ワ イサムカ ワ

a=kor\_nispa arpa wa hok wa isamka wa

長者様（主人公のこと）が行って買って、（着物を）無くして

イコレ ヤクネ アコン ニシパ アウク エアシカイ ナ」

i=kore yakne a=kor\_nispa a=uk easkay na”

くれたのなら、長者様（の魂）を奪うことができる（？）よ」

セコロ ハウエアン コロ エネ エク フミ アシ ア イ ネノ

sekor hawean kor ene ek humi as a h\_i neno

といいながら、このように来たときと同じような音を立てて

ネウン シノ アプカシ ワ ネ ウミ ネ ヤ。

neun sino apkas wa ne h\_umi ne ya.

どのように本当に（足も無いのに）歩いたのであるか。

ネプ カ テレケテレケ フム ネノ カネ フマシ コロ

nep ka terketerke hum neno kane humas kor

なんかびよんびよん跳びはねる音のように聞こえながら

ヒナク ウン アラパ イネ イサム オラウン ピヌノ パシロタアン。

hinak un arpa h\_inine isam oraun pinuno pasrota=an.

どこかへ行ってしまった。それから私はこっそりと罵った。

イノンノイタカン ヤイエイノンノイタク カ アキ ヒネ オラウン

inonnoytak=an yayeinonnoytak ka a=ki hine oraun

神にも祈り、自分のことを神に祈ることもして、それから

エネ ヘタプ プリ ピリカ ニシパ ネ ア プ。

ene hetap puri pirka nispa ne a p.

こんなにも行いの良い旦那であるのに

ネノ アン ペ アキ ペ アン セコロ ヤイヌアン コロカ

nenno an pe a=ki p h\_e an sekor yaynu=an korka

同じことを私ができるかと思うけれど、

ネイタ アラパアナッカ シロカネ セツパ  
 neyta arpa=an y\_akka sirokane seppa  
 どこに行っても、銀の鐙は

ケトウシ アサム アオマレ ワ アナン ペ ネ クス  
 ketus asam a=omare wa an=an pe ne kusu  
 かばんの底に入れているものなので

ネワアンペ エネ アサンケ ワ エネ アウエアニ  
 newaanpe h\_ene a=sanke wa ene h\_awean h\_i  
 それも、私は出して、そのように言った。

アヌ クニ アラム プ ネ クス ナニ コント  
 a=nu kuni a=ramu p ne kusu nani konto  
 聞いたことは了解したので、すぐにそれから

アットムサマ アヤイトウイエレ イネ イシムネ アラパアニネ  
 attomsama a=yaytuyere h\_ine isimne arpa=an h\_ine  
 まっしぐらに、翌日行って

ナ シリクンネ アイネ ホプニアニネ  
 na sirkunne ayne hopuni=an h\_ine  
 まだ暗いうちに私は起きて

アラパアン ヒネ ネ ヒ タ シネ コタン オツ タ  
 arpa=an hine ne hi ta sine kotan or\_ ta  
 行って、そこに、そのある村に

シレパアン ルウェ ネ。  
 sirepa=an ruwe ne.  
 私は到着した。

アクス ソレクス イエヤイレンカ ヌペ トウラ キ ルウェ ネ イネ  
 akusu sorekusu i=eyayrenka nupe tura ki ruwe ne h\_ine  
 すると、それこそ私との再会を喜び、涙を流しながら喜んで、

「アコン ニシパ アエシカルニケカ

**“a=kor\_nispa a=esikarun h\_ikeka**

「長者殿を私は恋しかったが

モナサパン ヤイモニコラン ノ エカン カ

**monasap=an yaymonikor=an no ek=an ka**

私は忙しくて、忙しくて、来ることも

エラミシカリ アイネ オラウン タネポ エカン ルウエ ネ。」

**eramiskari ayne oraun tanepo ek=an ruwe ne.”**

しないでいたのだが、やっと来たのだよ」

セコロ ハウエアナン アクス ヌペ トウラ

**sekor hawean=an akusu nupe tura**

と私が言うと、涙を流しながら

イエヤイレンカ ウエネウサラン ウサ ネウサラ ペ カ

**i=eyayrenka uenewsar=an usa newsar pe ka**

喜び、互いに語り合った。いろんな話も

アイエ ワ ウエネウサラン アイネ オラ イタク ウトウル アケレ……

**a=ye wa uenewsar=an ayne ora itak utur a=kere…**

私が言い、語り合っているうちに、言葉の間を

アテレ イネ ネ トウラノ アン メノコ カ

**a=tere h\_ine ne turano an menoko ka**

私は待って、その一緒にいる女も

ヌペ トウラ イエヤイレンカ ルウエ ネ イネ

**nupe tura i=eyayrenka ruwe ne h\_ine**

涙とともに私との再会を喜んで、

オラウン イタク ウトウル アテレ イネ

**oraun itak utur a=tere h\_ine**

それから言葉の間を私は待って、

「セコロ イタク カ

“sekor itak ka

「このように言うのも

エオリパク エヤイヌクリ プ アネ ア ヤッカ

eoripak eyaynukuri p a=ne a yakka

恐縮し、気が進まないのですが

アコン ニシパ ソモ イコラムサウヌ ワ

a=kor\_ nispa somo i=koramusawnu wa

長者殿、私の願いを聞き入れて

コロ チュプ ノカ オマ コソンテ イエコヨク ペ ヘ アン

kor cup noka oma kosonte i=ekoyok pe he an

(長者殿の) 持っている太陽の絵が入った小袖を、私に売ってくれるかと

セコロ ヤイヌアン クス クス ポ エカン ルスイ ワ エカン ルウェ ネ。」

sekor yaynu=an kusu kusu po ek=an rusuy wa ek=an ruwe ne.”

と私は思っ、それもあつて来たくて来たのだ」

セコロ ハウエアナン アクス イポロ オシマ シリ ウエン

sekor hawean=an akusu ipor osma siri wen

と私が言った。すると顔色を変えた

ノイネ アラム ア プ オラウン だまって アン…… ヤイコシラムスイパ ワ

noyne a=ramu a p oraun DAMATTE an... yaykosiramsuypa wa

ように思ったが、それからだまっていて、じっと考えて

アン アイネ オラ エネ アウエアニ

an ayne ora ene h\_awean h\_i

いたあげく、こう言った。

「アシヌマ カイ…… ポ カ アサク ネプ カ アエシケシコレ プ カ

“asinuma kay... po ka a=sak. nep ka a=e=sikesikore p ka

「私も子供もいない。何も持ち物を

イサム ペ ウン ソレクス イリワク シリ ネ

**isam pe un sorekusu irwak siri ne**

あげるものもないもの。それこそ兄弟のように

アコロ ペ アコロ ニシパ ネ ア クス

**a=kor pe a=kor nispa ne a kusu**

私を持つ、私の旦那（主人公のこと）であるので

アコロ コソソテ アエコヨク イケ マカニ アエウナラ ハウエ。」

**a=kor kosonte a=e=koyok h\_ike makani a=eunara hawe.”**

私の小袖をあなたに売っても、なにを惜しむことがあるか」

セコロ ハウエアン ネ ヒ イエ パ コロ オラウン

**sekor hawean ne hi ye pa kor oraun**

と言った。そういうことを（女とふたりで）言った。それから

アケトウシ アサンケ ヒネ オロワ

**a=ketusi a=sanke hine orowa**

私の背負い袋を出して、そこから

ネ アコロ シロカネ セツパ アサンケ ヒネ

**ne a=kor sirokane seppa a=sanke hine**

その私の銀の鐙をだして、

「タパンペ アサンケ クス ネ ナ。」

**“tapanpe a=sanke kusu ne na.”**

「これを差し出しますよ」

セコロ ハウエアナン アクス エネ アウエアニ

**sekor hawean=an akusu ene h\_awean h\_i**

と私は言った。するとこのように言った、

「アミプ シネ プ クス

**“amip sine p kusu**

「着物一枚のために

エネ アン チュプ コラチ アン セツパ アウク ペ アン？」

**ene an cup koraci an seppa a=uk pe an?"**

こんな太陽のような鍔をもらうことがあるか？」

セコロ ハウエアン コロカ

**sekor hawean korka**

と言ったけれど、

「ピリカ ピリカ」

**"pirka pirka"**

「かまいません」

セコロ ハウエアナン コロ

**sekor hawean=an kor**

と私は言いながら

アコレ ヒネ オラウン ネ コソソテ ヤイクルカタ

**a=kore hine oraun ne kosonte yaykurkata**

私が増えて、それからその小袖を自分で

サンケ ヒネ イコレ ヒクス アウコニケニケ ヒネ

**sanke hine i=kore hikusu a=ukonikenike hine**

出して私にくれたので、きちんとたたんで

アセ チタラペ オロ アオマレ ルウェ ネ。

**a=se citarpe or a=omare ruwe ne.**

私が背負うござのところに入れたのだ。

ネア セツパ アコレ ヒネ オラウン キ ヒネ オラウン

**nea seppa a=kore hine oraun ki hine oraun**

その鍔を私が増えて、それから

ウエネウサラン ソレクス マク アカラ オアシ

**ueneusar=an sorekusu mak a=kar oasi**

かたりあった。どのようなことになるかを

アウエ アン ペ セコロ ヤイヌアン ペ ネ クシ ポ ヘネ

**h\_awe an pe sekor yaynu=an pe ne kus po hene**

(女が) 言っていたと私は思うので、なおさら

ウサ イソイタク アイェ ワ ウエネウサラン アイネ

**usa isoytak a=ye wa uenewsar=an ayne**

いろいろな話を私がして、お互い語り合っているうちに

コント タネ ロカン オホリ オラウン

**konto tane rok=an ohor h\_i oraun**

それから、もう座って (話して) いた時間も長くなったので

ネア カツケマツ アエホツケイ アペ エトク タ カリネ

**nea katkemat a=ehotkey ape etok ta kar h\_ine**

その奥さんは私の寝床を、上座に作ってくれて

ホツケアン ルウエ ネ ア プ ウサ ヤイコシラムスイパアン ワ

**hotke=an ruwe ne a p usa yaykosiramsumpa=an wa**

私は横になった。いろいろ考えて

モコラン カ コヤイクシ アイネ モコラン

**mokor=an ka koyaykus ayne mokor=an.**

眠ることもできずにいるうちに、眠りに落ちた。

モコラン モコラン カネ ア プ、 ネプ カ オットウニニ ハワシ ペコロ

**mokor=an mokor=an kane a p, nep ka ottunini hawas pekor**

うつらうつらとしていたが、何かうなる声がしたように

ヤイヌアニクス イコカヌアン アクス

**yaynu=an h\_ikusu ikokanu=an akusu**

私は思ったので、耳を傾けて聞いたところ

ネアプ エク フミ ネ ノイネ フマシ ネア チシナオツ エク フミ

**neap ek humi ne noyne humas nea cisinaot ek humi**

例の者が来る音であるらしく、あの包んだ遺体がある音

ネ ノイネ フマシ ア プ コント アパ オロ エウン カトウ  
**ne noyne humas a p konto apa or eun katu**

であるらし音がしたが、それから入り口のところに入り込んだ様子

チシナオツ でなく、からだはいったんだと  
**cisinaot** でなく、からだはいったんだと  
 包んだ遺体でなく、(女の) からだが入ったんだと

(萱野：うーん)

エカリ アヌカラ アミプ トウサ オポソ アヌカラ コロカ  
**ekari a=nukar amip tusa oposo a=nukar korka**

そっちのほうを私は見た。着物の袖を通して見たが

モイモイケアン カ ソモ キ ノ アナン ア プ  
**moymoyke=an ka somo ki no an=an a p**

私は動かないでいた。

アラパ ヒネ ネア トウン エホツケ イ オルン  
**arpa hine nea tun ehotke h\_i or un**

(幽霊は) 行って、そのふたりの寝床へ

チタラペ シネプ オプニ イネ ヘヘウパ ペコロ イキ ア プ  
**citarpe sinep opuni h\_ine hehewpa pekor iki a p**

ゴザ(夜具)の一つの端を持ち上げて覗き込むかのようにしていたが、

エエパツケ ネア ニシパ オララパレ ハウエアシ。  
**eepakke nea nispa orarpare haweas.**

するとその旦那が息絶える声をした。

(萱野：うん<sup>[2]</sup>)

ソンノ イヌ ネ ワ オラ ナニ シキル ヒネ イサム  
**sonno inu ne wa ora nani sikiru hine isam**

本当にそんな音が聞こえただけで、すぐに(幽霊は)振り向いて行ってしまった。



クリ パン テキネ イサム。

**kuri pan tek h\_inē isam.**

影がぱっと消えてしまった。

オラノ ソレクス ピヌノ ヤイエイノンノイタカン カ

**orano sorekusu pinuno yayeynonnoitak=an ka**

それから、私はこっそり自分のことを神に祈ったり

パシロタアン カ キ コロ アナン オラウン

**pasrota=an ka ki kor an=an oraun**

罵ったりしながらいた。それから

アウプソロ ウン チサン コロ アナン。

**a=upsoro un cis=an kor an=an.**

声を抑えながら泣きながらいた。

エアラキンネ アライケ エイカスイ クス アラパアン

**earkinne a=rayke eykasuy kusu arpa=an**

まったく私は人殺しを手伝うために来た

シリ ネ セコロ ヤイヌアン ワ キ コロ アナン アイネ

**siri ne sekor yaynu=an wa ki kor an=an ayne**

ようなものだと私は思っながら泣いているうちに

イシムネ ネア メノコ トウナシ ホプニ。ホプニ トウナシ ペ ネ

**isimne nea menoko tunas hopuni. hopuni tunas pe ne**

翌日、その女は早く起きた。（普段から）起きるのが早いもので

アン ワ ネ シリ ヘ ネ ヤ トウナシ ホプニ

**an wa ne siri he ne ya tunas hopuni**

ある様子なのか、早く起きた。

シリペケレ イ ナニ ホプニ イネ

**sirpeker h\_i nani hopuni h\_inē**

夜が明けるとすぐに起きて

アプンノ アプカシ イネ プヤラ オリコ パ イネ オラウン  
**apunno apkas h\_ine puyar oriko pa h\_ine oraun**  
 静かに歩いて、窓を上げて（開いて）それから

アペ アリ イネ オラ スケ コロ アン アイネ コント  
**ape ari h\_ine ora suke kor an ayne konto**  
 火を焚いて、料理をしながらいるうちに、それから

「アヘコテ ニシパ マク エホプニ  
**“a=hekote nispa mak e=hopuni**  
 「旦那様、どうして起きるのが

モイレ ルウェ アニ アン？ スケアン オケレ。」  
**moyre ruwe an h\_i an? suke=an okere.”**  
 遅いのかしら？ 料理ができましたよ」

セコロ ハウエアニケカ エポソカネ ウエン アイネ アラパ イネ  
**sekor hawean h\_ikeka eposokane wen ayne arpa h\_ine**  
 と言ったけれど、当然返事がないので、行って

ホック ヌカラ ワ ネ アン ペウタンケ ライパラパラク  
**hotku nukar wa ne an pewtanke rayparaparak**  
 かがんでみて、叫び声上げて大声で泣きわめいた。

ナニ マッコサンパアン  
**nani matkosanpa=an**  
 すぐに私はぱっと起き上がって、

「マク ネ ハウエ ネ ヤ？」  
**“mak ne hawe ne ya?”**  
 「どうしたんだ？」

セコロ ハウエアナン アクス  
**sekor hawean=an akusu**  
 と言うと、

「アヘコテ ニシパ マウエトウイ ワ アン。」

“a=hekote nispa mawetuy wa an.”

「私の旦那様がこときれている」

セコロ ハウエアン。オラノ コタン オロ ハウシタイキ イネ イカオパシ パ  
sekor hawean. orano kotan or hawsitayki h\_inē ikaopas pa

と言った。それから村に知らせて、（村の者たちが）かけつけた。

オラ ソレクス ワ アエラムウエン ワ

ora sorekusu wa a=eramuwen wa

それから、私は心がふさいで

チサン ア アン ア アン ア オラウン

cis=an a =an a =an a oraun

私は泣いていた。それから

アカマナイタ (?) ロク アエアイカプ ペ ネ クス オラウン

akamanayta(?) rok a=eaykap pe ne kusu oraun

座ることができないものなので、それから

アピリカ シニ…… シピネレ ニシパ ウエカラパ メノコ ウエカラパ ワ

a=pirka sini... sipinere nispa uekarpa menoko uekarpa wa

私は立派に死に装束をさせ、旦那が集まり女性も集まって

アピリカシピネレ オラウン アエイコシ カ エアイカプ ペ ネ クス

a=pirkasipinere oraun a=eykosi ka eaykap pe ne kusu

私は立派に死に装束をさせてから、そのままにも (?) できないので

ソレクス エヤイライエ ワ ソモ ネ ヤッカ カトウレンカイネ ネ ワ

sorekusu eyayraye wa somo ne yakka katurenkayne ne wa

それこそ自分の首を絞めようというわけでもないがなりゆきにまかせて、

「タップネ タブネ ネ ワ

“tapne tapne ne wa

「かくかくしかじかで

シリコットウナシ シリ アヌカラ クス ネ ナンコロ クス  
 sirkottunas siri a=nukar kusu ne nankor kusu

XXX様子を私が見ることになるだろうから

イキネイペカ イアヌンコパ イエコカタキウッタロ ナ」  
 ikineypeka i=anunkopa i=ekokatakiuttaro na”

私を敵と思わず、かたき討ちしようとしなしてくれ」

セコロ ハウエアナン。イノンノイタカン ア アン ア コロ  
 sekor hawean=an. inonnoytak=an a =an a kor

と、私は（死者に）言った。私が祈りながら

アオイタッコテ イネ トウシリ オルン アトゥラ ワ  
 a=oytakkote h\_ine tusir or un a=tura wa

私が引導を渡して墓場の所に一緒に行つて

トウシリ オツ タ カ アカシパオツテ ホリピ トウラ キ コロ アオスラ ワ  
 tusir or\_ ta ka a=kaspaotte horipi tura ki kor a=osura wa

墓場の所でも（死者に）言いつけて、踏舞しながら私は埋葬して、

オラウン チサン ア アン ア コロ シキルアン  
 oraun cis=an a =an a kor sikiru=an

それから私は泣きながら、戻つたのだ。

オラ ネ コソソテ クリ アヌイナ ワ サナン ワ アウニ タ サナニネ  
 ora ne kosonte kuri a=nuyna wa san=an wa a=uni ta san=an h\_ine

そしてあの小袖を陰に隠して山を下りて私の家に帰り、

「タブネ カネ ネ ルウェ ネ。」

“tapne kane ne ruwe ne.”

「これこれこういうことだ」

セコロ ハウエアナン アクス エアラキンネ アヘコテ カッケマツ カ  
 sekor hawean=an akusu earkinne a=hekote katkemat ka

と私が言った。すると非常に私の妻も

ライパラパラク チサ チサ

rayparaparak cis a cis a

大声で泣き叫び、泣いて泣いた。

「エネ タブネ アコヤイライケ ニシパ ネ アクス ハワシ。」

“ene tapne a=koyairayke nispa ne akusu hawas.”

「あんなに感謝していた人がそんなことに」

セコロ ハウエアン コロ

sekor hawean kor

と言いながら

「ネウカネ ワ ネ ニシパ モシマノ オカ アナクン

“newkane wa ne nispa mosmano oka=an y\_akun

「ひょっとしたら、その旦那に何も言わずにいたならば

アエコニシ…… アヘコテ ニシパ アエカラカラ ペ ネ アナウエ ネ」

a=ekonis... a=hekote nispa a=ekarkar pe ne an h\_awe ne”

私の旦那様がそうされて（殺されて）いたということだ」

セコロ アコロ メノコ カ ハウエアン

sekor a=kor menoko ka hawean

と、わが妻も言った。

オラ ネイパク アナッカ アラムオトゥラン (?)

ora neypak an=an y\_akka a=ramuoturan(?)

それから、いつまでたっても私は気の毒に思い (?)

ネ めかけ アナク イリワキ ピリカ プ ネ クス

ne MEKAKE anak irwaki pirka p ne kusu

そのめかけは兄弟が裕福なものだから

ネプ エシリキラプ カ ソモ キ ノ

nep esirkirap ka somo ki no

何も苦勞することもなく

アン ヒ アヌ カ キ コロカ オラウン

**an hi a=nu ka ki korka oraun**

いることを私が聞くこともするけれど、それから

ネイ パク アナナツカ ネ ニシパ アオシクル ワ

**ney pak an=an y\_akka ne nispa a=oskur wa**

いつまでたっても、その旦那のことを惜しく思って、

ネ チュプ ノカ オマ コソソテ カケンチャ オロ ワ

**ne cup noka oma kosonte kakenca or wa**

その太陽の絵が入っている小袖を掛け竿の所から

アランケ エアンチカリ シリコットウナシ シリ

**a=ranke eancikari sirkottunas siri**

私が下したその夜にXXX様子を

アヌカラ ペ ネ ア クス タプネ タプネ ヤイスukupka=an ペ ネ クス

**a=nukar pe ne a kusu tapne tapne yaysukupka=an pe ne kusu**

私が見たものであるのです、こうこう私が体験したことを思い出したものであるのです、

アエイソイタク セコロ シノ ニシパ イソイタク

**a=eysoitak sekor sino nispa isoytak**

私がそれについて話したと立派な旦那が話をしました。

(萱野：はい、どうもありがとうございました)

【注】

[1] 「兄さん」とは萱野茂さんのこと。

[2] 発言が重なっている。

## 6-4 ウエペケレ「チシナオツ イタク ハウエ アヌ」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：この uepeker [散文説話] は cisinaot [包んだ遺体]

貝澤：cisinaot

萱野：cisinaot?

貝澤：cisinaot っていうの。toma [ござ] あれ……

萱野：うん、分かる。cisinaot i=koramukor [棺桶が私に相談した] でもない…  
…

貝澤：cisinaot itak hawe a=nu... [棺桶のいう言葉を私は聞いた……]

萱野：うん。cisinaot itak hawe a=nu だな。

貝澤：ot onnay un itak hawe... [遺体を包むござの中から言った言葉...] あの  
わかる？ XXX?

萱野：私は何不自由なく暮らしておった一人の男でありました。ある時に、こ  
れは kucacise [狩小屋] にか？ 聞いたの。

貝澤：うん。

萱野：siromacise or\_ ta... [立派な家に]

貝澤：siromacise or\_ ta でなく……

萱野：kucacise だな？

貝澤：途中 ne kucacise or\_ ta, hanke kuca or\_ ta rewsian akusu a=nu. i=or un ek wa [狩小屋に、近い狩小屋に泊まった時間いた。狩場にやって来て]

萱野：うーん。私は何不自由なく暮らしておった一人の男でありました。ある時に山へまだ獵に行くのにずっと家から出かけて行って、途中にある kucacise というその狩り小屋へ入って泊まった。それも遠い方ではなく、近い方の狩り小屋へ行って泊まって、すっかり暗くなって火を焚いて一人で座っておったら、遠くの方から何かゴトン、ゴトンというような、人間が歩いた音とはまだ違う何か荷物を投げてはまだ後へ来るというような音がずっと聞こえてる。

それがだんだん、だんだん近くなって自分の入ってるその kucacise のところまで来たら、kucacise の戸の、kucacise ちゅうのは狩り小屋ですが、その狩り小屋のそこへかけてある、こう toma といいますが、ごぎのような物をすっとまくって、そのそこへ出てきたものを見ればそれは cisinaot と言って aynu が死んだら toma に包むんですが、その toma というのごぎですが、そのごぎに包んだ死体、ごぎで出来た棺桶ですね、その棺桶がそこへすつときて、その中から声があって聞くとそれは女の声。しかも私の一番の友達の男の人がつい最近妻を亡くした、その女の声で言うのには、「いやー、しばらくでしたね。私はあんたへ今日はお願いがあって来たんですよ。実は私は病気で死んで、その後に私の夫であったあなたの友達のあの男が、すぐにお嫁をもらってしまったので、本当に情けない、残念だ。何とかその男の命をとって、別なところで夫にしたいと思って毎晩狙いに行っても、まったくその殺すことが出来ない。その、殺せない一番の理由はその夫が生前、いや前々からその宝物として持っておったところの、その cup noka oma kosonte というのは、太陽の絵を描いた、形を描いた着物があつた。その着物を、その太陽の形の描いたところを表にして、ま、アイヌ語で kakenca というのはその夫婦の寝室の仕切りのところに toma というごぎなんか掛けて仕切つてある、その側の衣文掛けのような物へ掛けて置いてあるので、夜行ってもそれがキラリキラリ光ってもうビカビカ光って近寄ることが出来ないんだよ。それで全然行くことが出来なくて命をとることが出来ない。それであなたにお願いがあるんだが、今から行ってその着物をあなたが買い受けてはくれませんか」と。



そうして、「その着物がなくなれば、私は近寄ることが出来るので、命をすぐにとります。もし、私の言う事をあなたが聞かずに、今言ったようなその着物を買って取ってくれなければ、殺すのはあんたを殺しますから、いいですか、お願いはこれだけです」と、言ってその **cisinaot** 棺桶はまたカタンカタン、パタリパタリと音をしながらどっかへ去ってしまった。

それを聞いてもうすっかり驚いてしまって、まあどうしようかと思ったんだけど、自分がしなければ、行ってその着物を買って受けなければ代わりに自分を殺すというんだから、それをしない訳にもいかないし、どうにもならん。考えて次の朝になってから自分が死ぬよりはとってその友達の男のそこへ出かけて行った。

そして、「長いお付き合いだったしあなたの持つてる宝物で私が欲しいのは、その着物なんだけど分けてはくれないでしょうか」。そう言ったら顔色さっと変わったが、「まあ他ならん友人のあんたがそう言うのであれば、それを分けてあげましょう」と、承諾したので、私もいつも持つておいた荷物の底へ入れて持つて歩いた宝物のその **seppa**、刀の鏢ですね、それを代わりに差し出して、そしてその着物はすぐに受け取って、その刀の鏢を相手へ渡して、その着物はまあ畳んで自分の荷物の中へしまいこんでしまった。

いろいろな話をしながらその夜はそこで泊まることになったので、その着物はしまってしまったし、その奥さんは、まあ後妻に入ってる奥さんだが、その奥さんはまあ「さあ、休みましょう」と、布団……、布団というか寝床をとってくれたのでそこへ寝た。

でもなんかその夕べ、その **cisinaot** という棺桶から話、棺桶の中から話されたので恐ろしくてよく眠れないし、そうしておるうちに、なんかその人影がさっと入ってきたような気がした。そして、その夫婦の寝室近くへ行って垂れてあるごぎを、こうまくったの見た。そしたらその中で寝ておる私の友人である男が **orarpare** いわゆる息を引き取るようなその音が聞こえた。

そのまま恐ろしさのあまりガタガタ震えながら朝になってしまった。そしたら、その主婦である女が起きてご飯の支度いろいろ、起きたすぐに **puyar oriko** と言って窓を開けるのにも静かにあげるといふ、その歩き方でも上品さを描写されておりますが、その棺桶が夕べ来た。して、恐ろしさに夜も寝ないでおった。その翌朝のことなんだけど、そういう細かい描写もしてありますが、そんなことで、窓開けたりして火を焚いて、ご飯を炊いて、自分の夫を起こしたら、その主婦が起こしに

行ったらば死んでおるものだから、まあアイヌ語で言う **pewtanke**、危急を知らず声を出して村中の人が集まってまあ葬式をしたと。

けれども、友人であるものを私も一緒に殺したような気して、非常に後味悪いので、出来るだけ丁寧に弔いをして、それから我が家へ帰ってきた。

そして妻にも話をしたら、「まあ仕方ないけれども本当に恐ろしいことだったね」と、話をして妻も泣いて悲しんだと。けれどもその後も別にどうって悪いこともないけれども、そのまま私は生活はしましたが、なんとなく後味の悪い思い出の一つでありました。と、**aynu** の男が語りました。

これは **uepeker** [散文説話] だな？

貝澤： **uepeker** だ、これ。

萱野： うん、 **uepeker**。 **cisinaot itak hawe a=nu** と。

貝澤： うん。

萱野： 「棺桶がしゃべった声を私は聞いた」という題ですね。

## 6-5 ウエペケレ

「ケトウペ カムイ イレス」

ケトウペカムイに育てられた

語り：貝澤とうるしの

……アニ ネウン イキ ワ アン ヘカチ

...ani neun iki wa an hekaci

どのようにしていた子供が

アネ ルウェ ネ ヤ カ アエラムシカリ ノ

a=ne ruwe ne ya ka a=eramuskari no

私であるのかも分らずに

ピリカ ポン コソンテ アミ ヒネ

pirka pon kosonte a=mi hine

上等な綺麗な着物を着て

ヤチ トウム タ アナン コロカ オラウン

yaci tum ta an=an korka oraun

泥地の中で暮らしていたが、

モコラナ アン<sup>[1]</sup> コロ

mokor=an a an kor

眠ると

カムイ ネ クス コラチ アン メノコ

kamuy ne kusu koraci an menoko

いかにもカムイらしい女が

ピリカ スケ キ ワ ピリカ ポン イタンキ アニ

pirka suke ki wa pirka pon itanki ani

美味しく料理して綺麗な小さなお椀で

イコイプニ ヤク アタカラ コロ オラ

**i=koypuni yak a=takar kor ora**

私に差し出してくれる夢を見て

ヤチ カ ネプ カ ウシ カ ソモ キ ノ

**yaci ka nep ka us ka somo ki no**

泥も何もつくようなこともなく

シットカプ コロ

**sittokap kor**

昼になると

ウセ<sup>[2]</sup> アナン ワ シノタン コロ アナン

**use an=an wa sinot=an kor an=an**

外に出て遊んでいた、

ルウェ ネ アイネ タネ

**ruwe ne ayne tane**

そうしているうちに、今や

よっぼど ポロ ヘカチ アネ コン ラポッケヘ

**YOPPODO poro hekaci a=ne kor\_ rapokkehe**

かなり大きな子供になった頃、

トオプ ペツ トウラシ ペトプツ<sup>[3]</sup> ワノ

**toop pet turasi petoput wano**

遠く、川に沿って、河口の方から

フンタ ペツ オツ タ ネ アウ ネ ヤ

**hnta pet or\_ ta ne h\_aw ne ya**

何やら川から、なんの音だろうか

ペツ トウラシ リク ペカ

**pet turasi rik peka**

川伝いにさかのぼって、高いところを

チプ アラパ シリ アヌカラ、ルウェ ネ

**cip arpa siri a=nukar, ruwe ne**

舟がやってくる様子を見たのだった

エウンノ インカラナクス オラノ

**eunno inkar=an akusu orano**

そちらの方をみていると

イヤットムンノ ネ アペコン

**i=attomunno ne apekor\_**

私の方へ向かってくるかのように

ネア チプ エク シリキ オラノ

**nea cip ek siriki orano**

その舟がくる様子で、それから

エウンノ インカラン……

**eunno inkar=an…**

そちらを見て……

アエラマス フミ アシ ペ ネ クス

**a=eramasu humi as pe ne kusu**

気が惹きつけられる音を立てているので

アエラマス ヒネ エウンノ インカラン ワ アナナイネ

**a=eramasu hine eunno inkar=an wa an=an ayne**

気になってそちらを見ていると

イエペカノ エク コロ オロワ

**i=epekano ek kor orowa**

私のほうに来て、そこから

アイヌ ソモ ネ ノイネ アラム

**aynu somo ne noyne a=ramu**

人間ではない様に思われる

カムイ ネ クシ コラチ アン ピリカ オッカヨ ラン ヒネ……

**kamuy ne kus koraci an pirka okkayo ran hine...**

いかにもカムイらしい立派な男性が下りてきて、

イトアタニ ラン ヒネ エネ ハウエアニ

**itoat ani ran hine ene hawean h\_i**

ロープを伝って下りてきてこのように言った

「タン アコロ ヘカチ

**“tan a=kor hekaci**

「これわが子よ、

イタカン ワ エイヌ カトゥ エネ アニ

**itak=an wa e=inu katu ene an h\_i**

私が話してお前が聞くことはこういうことだ

アシヌマ アナク ネプ アイヌフ アネ ルウェ カ ソモ ネ

**asinuma anak nep aynuhu a=ne ruwe ka somo ne**

私は人間なんかではないのだ。

カトゥ エネ アニ

**katu ene an h\_i**

こういうことだ

ソレクスワ パヨカカムイ パヨカ ヒ タ

**sorekusuwa payokakamuy payoka hi ta**

それこそ、パヨカカムイ(流行病のカムイ)が歩き回っていた時に

シネン エネ ワ アエコロ ペ オラウン

**sinen e=ne wa a=e=kor pe oraun**

独り息子としてお前を育てていたのだが

パヨカカムイ ネ アイカラ ペ ネ クス

**payokakamuy ne a=i=kar pe ne kusu**

私がパヨカカムイにされてしまったために(流行病で死んだために)

イエイリパク<sup>[4]</sup> エアニ カ アルシカ クス コント

ieirpak e=an h\_i ka a=ruska kusu konto

そのままお前と一緒にいることはできないから、

カムイエウタンネアン…… カムイ ネ アイカラ

kamuy'ewtanne=an... kamuy ne a=i=kar

私はカムイの一族になって、カムイにされた

ラマツ アコロ ワ オカアン ペ ネ クス

ramat a=kor wa oka=an pe ne kusu

魂を持っているものなので、

カムイエウタンネアン エアシリキ ワ アイコラムヌカラ<sup>[5]</sup> ペ ネ クス

kamuy'ewtanne=an easirki wa a=i=koramunukar pe ne kusu

カムイの一族にならなければならず、試練を与えられた(?)ものなので、

コント アイヌ オツ タ エアナッカ

konto aynu or\_ ta e=an y\_akka

人間のところにお前がいても

エネ ネ ヒ カ イサミ クス オラウン

ene ne hi ka isam h\_i kusu oraun

どうすることもできないので、それから

ケトゥペカムイ アタノントロ ヒネ

ketupekamuy a=tanontaro hine

ケトゥペカムイに私が頼んで

オロ タ アエレス ルウエ

oro ta a=e=resu ruwe

そこでお前は育てられ

タブ エネ ヤチ ネ アペコロ アン ウシケ タ

tap ene yaci ne apekor an uske ta

このような泥地のようなところで

エアン ヤッカ ヤチ オツ タ エアン ルウェ カ ソモ ネ  
**e=an yakka yaci or\_ ta e=an ruwe ka somo ne**  
 お前は泥地で育てられていたのではない

ケトゥペケムイ エシッカシマ クニ  
**ketupekemuy e=sikkasma kuni**  
 ケトゥペカムイがお前を見守るように

アエタノンタロ ワ エアン ルウェ ネ ア プ タネ  
**a=etanontaro wa e=an ruwe ne a p tane**  
 私がお願いしてお前が暮らしていたのだったが、もう

パクノ エアン ヤクン アエシレパカシヌ ヤクン  
**pakno e=an yakun a=e=sirepakasnu yakun**  
 これくらいお前が大きくなったのだから、道を教えれば

エエラムアン クニ アラム ワ クス スイ  
**e=eramuan kuni a=ramu wa kusu suy**  
 お前も分かるだろうと思ったので、また

アシリ ピト ネ アシリ カムイ ネ モシリ オカリ  
**asir pito ne asir kamuy ne mosir okari**  
 新しい神、新しいカムイになって国土のまわりを

パヨカアン エトク タ、エカン したついでに  
**payoka=an etok ta, ek=an SITATSUIDENI**  
 歩き回る前に、来たついでに

タップネ カムイ ポ エネ ヒ アエエパカシヌ コロ  
**tapne kamuy po e=ne hi a=e=epakasnu kor**  
 このようにカムイの子供がお前であることを教えて

アエシレパカシヌ ルスイ クス エカン シンネ ナ。  
**a=e=sirepakasnu rusuy kusu ek=an sinne na.**  
 お前に道を教えたくて来たのだよ。



パクノ オカイ ペ カ タネ

**pakno okay pe ka tane**

こういうわけだという事も、もう

イタク ヌ ワ…… エラムオカイ ペ ネ ナ!

**itak nu wa... eramuokay pe ne na!**

聞いて理解するんだぞ!

アイェ プ ヌ ワ イコレ アコロ ソン

**a=ye p nu wa i=kore a=kor son**

私のいう事を聞いてくれ息子よ。

ネプ アイヌフ エネ ルウェ カ ソモ ネ

**nep aynuhu e=ne ruwe ka somo ne**

お前はただの人間じゃないのだ

パヨカカムイ アネ ワ

**payokakamuy a=ne wa**

私はパヨカカムイで

アポホ エネ ルウェ ネ、カトゥ エネ アニ

**a=poho e=ne ruwe ne, katu ene an h\_i**

私の息子がお前なのだ。そういうわけだ。

テワノ ペツ トウラシ エアラパ アイネ

**tewano pet turasi e=arpa ayne**

ここから川に沿って遡っていくと

ホシキ エコシレパ ポロ ナイ アン ナンコロ クシ

**hoski e=kosirepa poro nay an nankor kus**

最初に着く大きな川があるから

ネ ナイ トウラシ エアラパ ワ

**ne nay turasi e=arpa wa**

その川に沿って遡って行って、

オヤプ パ ナイ トウラ……<sup>[6]</sup> ペツ トウラシ エアラパ アイネ  
**oyap w\_a nay tura... pet turasi e=arpa ayne**  
 上がって、沢にそ……川に沿って遡って行って

エハラキサムン エシキル、ポロナイ アン ナンコン  
**eharkisam un e=sikiru, poronay an nankor\_**  
 左の方に目を向けると、大きな川があるだろう

ネ ナイ トウラシ エアラパ アイネ  
**ne nay turasi e=arpa ayne**  
 その川に沿って遡ると、

シシトゥ カ エオヘメス ヤクン  
**sisitu ka e=ohemesu yakun**  
 大きな尾根の上へのぼると

シシトゥ カ タ エアラパ ヤクン  
**sisitu ka ta e=arpa yakun**  
 尾根の上に乗ると

サナン キカラ……  
**san=an kihar...**  
 下りていく細道が……

ナイ オロ ワ ヘメス ワ アン ナンコン ネ クス  
**nay oro wa hemesu wa an nankor\_ ne kusu**  
 沢から続いているだろうから

ウウエトッコロナイ<sup>[7]</sup> ネ クス  
**uwetokkornay ne kusu**  
 水源を同じくする川なので

ネ キカラ<sup>[8]</sup> カリ エラン ワ エナイペサクン  
**ne kihar kari e=ran wa e=naypes y\_akun**  
 その細道に沿って下りて、沢に沿って下っていくと

だんだんに ナイ ポロ ワ アン ナンコロ クス

**DANDANNI nay poro wa an nankor kusu**

だんだん沢が大きくなっているだろうから

ナイ ケナシカ ペカ ル カリ エサナイネ

**nay kenaska peka ru kari e=san ayne**

沢の木原を通過して道を通って下っていくと

ペトロ エオシマ ナンコロ クス オロワノ エコタヌ ペシ ワ

**pet or e=osma nankor kusu orowano e=kotanu pes wa**

川にぶつかるだろうから、それからお前の村に沿って<sup>[9]</sup>

コタン コロ クル……

**kotan kor kur…**

村長……

インネ コタン ポロ コタン アン ナンコロ クス

**inne kotan poro kotan an nankor kusu**

栄えた多い村、大きな村があるだろうから

コタン コロ クル ソイ タ エアラパ ヤクン

**kotan kor kur soy ta e=arpa yakun**

村長の家の外にお前が行ったら

アエアフンテ ナンコロ クス

**a=e=ahunte nankor kusu**

お前は招き入れられるだろうから

イテキ エエシナ ノ タプネ タプネ カムイ アオナハ ネ アアン ペ

**iteki e=esina no tapne tapne kamuy a=onaha ne aan pe**

隠し立てせずに、かくかくしかじか、私の父はカムイになっていて

リク ペカ クシ チプ オ ワ エク ワ イトアタニ ラン ワ オラウン

**rik peka kus cip o wa ek wa itoat ani ran wa oraun**

空を飛ぶ船に乗ってやってきて、ロープを伝って下りてきて、

『タップネ アン ニシパ エウン

**'tapne an nispa eun**

『このような旦那のところへ、

コタン コン ニシパ エウン エアラパ ヤクネ エネ ネ ヤクン

**kotan kor\_ nispa eun e=arpa yakne ene ne yakun**

村長のところへ行ったら、このようにしたら、

アイヌ エネ クニネ アエカラ ヒ アキ ルスイ ナ』

**aynu e=ne kunine a=e=kar hi a=ki rusuy na'**

人間の暮らしができるようにしてやりたいのだ』

シコロ ハウエアナン シコロ エハウエアン コロ

**sekor hawean=an sekor e=hawean kor**

と言ったと、お前が言いながら

エアラパ ヤクン アレンカイネ ネ クス

**e=arpa yakun a=renkayne ne kusu**

行ったならば、私の意志なのだから

エアラキンネ エラムハウケパ ワ

**earkinne e=ramuhawkepa wa**

本当にお前は心持が良いから

アエピリカコロ ヤクネ オラウン

**a=e=pirkakor yakne oraun**

お前はかわいがられるだろう、そして

ネプ カ エチエキマテカクン

**nep ka eci=ekimatek y\_akun**

何かに脅かされるような事があれば

『カムイ アオナハ イカ オピウキ ワ イコレ

**'kamuy a=onaha i=ka opiwki wa i=kore**

『神なる父よ助けて下さい

クスリ テサン(?) クニネ イキ ワ イコレ』

**kusuri tesan(?) kunine iki wa i=kore'**

XXXするようにしてください』

シコロ エチハウエオカ ヤクン

**sekor eci=haweoka yakun**

とお前たちが言えば

エチオカ アナクネ ネプ シイエイエ ネプ タスミ

**ecioka anakne nep siyeye nep tasumi**

お前たちはいかなる病、いかなる病魔も

エチエカランケ カ ソモ キ クニネ

**eci=ekaranke ka somo ki kunine**

近づくことがないように

イキアン クス ネ ナ、アポホ」

**iki=an kusu ne na, a=poho"**

してやるぞ、わが子よ」

シコロ ハウエアン

**sekor hawean.**

と言った。

エアラキンネ アエサンペコンナスムナタラ

**earkinne a=esampekonna-sumnatara**

全くそのことで私の心は萎れてしまい

オヤチキ ウン オナ カ コロ ウヌ カ コロ…… コロ ペ

**oyaciki un ona ka kor unu ka kor... kor pe**

まったく私には父も母もいたので

アネ アアン ヒケ

**a=ne aan hike**

あったのに

エネ ヤチ オツ タ ネ アペコロ アナン ペ オラ

**ene yaci or\_ ta ne apekor an=an pe ora**

このように泥地の中で暮らして

ヤナニケ カ ヤチ アウシ カ ソモ キ アアン ヒ アン セコロ

**yan=an hike ka yaci a=us ka somo ki aan hi an sekor**

上がっても泥が私についてもいなかったのだからと

ヤイヌアナクス コント ネ アオハナ

**yaynu=an akusu konto ne a=ohana**

思うと、その父の

ケセ アアンパ ルスイ エアラキンネ キ アクス

**kese a=ampa rusuy earkinne ki akusu**

後をついていきたくて仕方がなくなると

エネ ハウエアニ

**ene hawean h\_i**

父はこういった

「ソモ アン ペ エオナ ケセアンパ ネ ナ!

**“somo an pe e=ona kesianpa ne na!**

「してはいけないのが父の後を追う事だ

イテキ ネノ ハウエアニ

**iteki neno hawean**

そんなことを言うてはいけない

アシヌマ アナク タネ パヨカカムイ ネ アナン ワ

**asinuma anak tane payokakamuy ne an=an wa**

私は今やパコロカムイになって、

カムイエウタンネアン ルウェ ネ クス

**kamuy'ewtanne=an ruwe ne kusu**

カムイの一族になっているのだから

アエトゥラ カ エアイカプ ルウエ ネ アッカ  
**a=e=tura ka eaykap ruwe ne y\_akka**  
 お前を連れていくこともできないが

サスイシルンノ アエプンキネ  
**sasuysir unno a=epunkine**  
 ずっと（お前を）守る<sup>[10]</sup>

アシッカシマ ヤクネ  
**a=sikkasima yakne**  
 （お前を）見守るのだから

エポロ ワ メノコ トウラ エアナッカ  
**e=poro wa menoko tura e=an y\_akka**  
 お前が大きくなって結婚しても、

ポ エコラッカ ソモ エシンパイ ペ ネ ナ  
**po e=kor y\_akka somo e=sinpay pe ne na**  
 子供を持っても心配することはないのだ

イテキ エケウトウムウエン」  
**iteki e=kewtumwen**  
 気を悪くするのではないぞ」

シコロ ハウエアン コロ リコシマ ヒネ ネア チプ オロ オシマ ヒネ  
**sekor hawean kor rik osma hine nea cip or osma hine**  
 と言いながら、空に上がって船の中に入っていく

モシリ エカリ シリ アヌカラ オラ  
**mosir ekari siri a=nukar ora**  
 国土を巡りに行ったのを見て

チサナ アナ コロ  
**cis=an a =an a kor**  
 泣きに泣き、

フンタ ウン カムイ アオナハ イェ ア ワ

**hnta un kamuy a=onaha ye a wa**

いったいなぜ父はあんなことを言ったのだ

シコロ ヤイヌアン ペ ネ クス

**sekor yaynu=an pe ne kusu**

と思いながらいたが

コント シネアント タ スイ ヤイトウラシノタン

**konto sineanto ta suy yayturasinot=an**

それからある日また一人で遊んでいて

ウサ モニヒ アカラ ワ

**usa monihi a=kar wa**

色々しながら

ネン ネン アエシノッ コロ アナナ コロカ

**nen nen a=esinot kor an=an a korka**

様々な遊びをしながらいたが

カムイ アオナ フンタ ウン イェ ア ワ セコロ ヤイヌアン ペ ネ クス

**kamuy a=ona hnta un ye a wa sekor yaynu=an pe ne kusu**

神なる父がなぜあんなことを言ったのだと思ったので、

ペッ トウラシ アラパアナクス

**pet turasi arpa=an akusu**

川をさかのぼっていくと

イネアプ ヌタプ ピリカ ワ シラナ カ アエラミシカリ

**ineap nutap pirka wa siran y\_a ka a=eramiskari**

その風景の美しさは素晴らしく

シッチャシヌ ワ アラパアナイネ ポロナイ アン ヒネ

**sitcasnu wa arpa=an ayne poronay an hine**

綺麗で、ずっと進んでいくと大きな沢があり



ナイ トウラシ アラパアン クナク アイイエ プ ネ クス オラ  
**nay turasi arpa=an kunak a=i=ye p ne kusu ora**  
 川に沿っていくようにとされたので、

ナイ トウラシ アラパアン……  
**nay turasi arpa=an…**  
 川をさかのぼって行って、

イネアブ…… アラパ ルイ ナイ ネ ワ シラナ カ アエラミシカリ。  
**ineap… arpa ruy nay ne wa siran y\_a ka a=eramiskari.**  
 まったく……川の流れの激しいさまは言い表しようもないほどだった

コロ アラパアナイネ  
**kor arpa=an ayne**  
 そうしながら登っていくと

ナイ エトク アコヘメス  
**nay etok a=kohemesu**  
 川の源流にたどり着いた

ナイ エトク アナクネ セプ パラコタン ワ  
**nay etok anakne sep parakot an wa**  
 川の広い窪地があり

ラムムケプ ネ クス ヘメスアン エニタン  
**ramamkep ne kusu hemesu=an enitan**  
 緩やかな道だったので登りやすく

オラ アオナハ ヤイコシラムスイパ コッ  
**ora a=onaha yaykosiramsuypa kor\_**  
 それから父を思い浮かべながら

チサン コン ネ コロカ アラパアナイネ  
**cis=an kor\_ ne korka arpa=an ayne**  
 泣きながらだけれど進んでいくと

ナイ エトク タ ヘメスアン ルウエ ネ ヒネ オラウン  
**nay etok ta hemesu=an ruwe ne hine oraun**  
 沢の源流にたどり着いて

ナイ ペシ サナン ルウエ ネ  
**nay pes san=an ruwe ne**  
 沢に沿って下っていった

ネイ タ アラパアナッカ  
**ney ta arpa=an y\_akka**  
 どこを歩いても

イイエブンキネ クナク イエ プ ネ クス  
**i=epunkine kunak ye p ne kusu**  
 父が私を守ってくれると言っていたので

アエニシテフムコユブナタラ ヒネ サナン  
**a=enistehumko-yupnatara hine san=an**  
 心強く、下っていくと

イネ ア プ アラパ ルイ ナイ ネ ワ シラナ カ アエラミシカリ ア……  
**ine a p arpa ruy nay ne wa siran y\_a ka a=eramiskari a...**  
 まったく物凄く流れの激しい川だった

ナイ ペシ サナナイネ  
**nay pes san=an ayne**  
 沢に沿って下がっていくと

ペツル オロ アエパ  
**petru or a=epa**  
 川筋の開けたところに出た

アクス オラノ ペツサム ペカ サナナイネ  
**akusu orano petsam peka san=an ayne**  
 のでそれから川沿いに下っていくと

インネ コタン ポロ コタン アン シリキ  
**inne kotan poro kotan an siriki**  
 栄えた村、大きな村があるようだった

セタ ミク ハウ カ アヌ  
**seta mik haw ka a=nu**  
 犬が吠える声や

アイヌ ハウ カ アヌ コロ サナナイネ  
**aynu haw ka a=nu kor san=an ayne**  
 人間の声を聞きながら下がっていくと

「コタン コロ クル オヤクン イキアン エアフン ナ」  
**“kotan kor kur oyak un ikian e=ahun na”**  
 「村長以外のところには入るなよ」

シコロ アイイエ プ ネ クス  
**sekor a=i=ye p ne kusu**  
 と言われていたので

コタン ノシキ タ モシリ パク チセ  
**kotan noski ta mosir pak cise**  
 村の中央にそびえる島のように大きな邸宅で

チキタイコライエ<sup>[11]</sup> チトゥ……  
**cikitaykoraye citu…**  
 家の屋根はぴんと張り

チトゥマムコユプ チセ アン クス  
**citumamkoyupu cise an kusu**  
 家の壁は美しく締め上げられた家があったので

ソイケ タ アラパアン ヒネ  
**soyke ta arpa=an hine**  
 その家のところまで行って

シリキッキカナクス  
**sir-kikkik=an akusu**  
 ノックすると

ピリカ ワ オケレ メノコポ  
**pirka wa okere menokopo**  
 大変に綺麗な若い女性が

ヌプキクタ コシレレマ ソイネ ヒネ  
**nupkikuta kosirerma soyne hine**  
 汚れ水を捨てるついでに外に出てきて

イヌカラ ヒネ オラウン  
**i=nukar hine oraun**  
 私をみてそれから

ネプ ヌカラ ペ ネ ヤ  
**nep nukar pe ne ya**  
 何を見たというのか

アノ(?) エラムコエシカリ…… イイエラムコエシカリ ワ ヘ  
**ANO(?) eramukoeshikari... i=eramukoeshikari wa he**  
 仰天して……私に仰天してだか

ネプ カ ソモ イエ ノ アフン ヒネ  
**nep ka somo ye no ahun hine**  
 何も言わずに家に入って

「ソイナ…… ソイ タ カムイ ネ ルウエ ヘ ネ ヤ  
 “soyna... soy ta kamuy ne ruwe he ne ya  
 「外に神様だか

アイヌ ネ ルウエ ヘ ネ ヤ アエラミシカリ  
**aynu ne ruwe he ne ya a=eramiskari**  
 人間だか分からない

オアラ ヘカチ エク ワ アン」

**oar hekaci ek wa an”**

全くの子供が来ておりますよ」

シコン ネ アクス

**sekor\_ ne akusu**

と言うと

オンネ クル イタク ハウ エネ ハウエアシ

**onne kur itak haw ene haweas**

年寄りがこう話す声が聞こえた

「イテキイ イヨモンモモアン ノ

**“iteki iomonmomo=an no**

「細かいことを言わずに

アフプ ルスイ クス イソイケ タ アラキ ウタラ アナク

**ahup rusuy kusu i=soyke ta arki utar anak**

中に入りたくて外に来ている人は

ヘカッタラ ヘネ ルプネ ウタレネ ネ ヤッカ

**hekattar hene rupne utar h\_ene ne yakka**

子供であっても年寄りであっても

アアフプテ プ ネ ナ！

**a=ahupte p ne na!**

招き入れるものだ！

ソモ ネプ イェ ノ オリパク ノ アフンテ クス イェ！」

**somo nep ye no oripak no ahunte kusu ye!”**

何も言わずに畏まって招き入れるとお伝えしなさい」

シコロ ハワシハワシ

**sekor hawashawas**

と言う声が聞こえた

ヒネ オラウン

**hine oraun**

それから

イアフンテ クス イェ ヒ クス

**i=ahunte kusu ye hi kusu**

私に入るように言うので

アフナン ヒネ アパサム アコシキル ヒネ

**ahun=an hine apasam a=kosikiru hine**

家に上がって入り口の方に向かって

アナ…… アアン…… だか アサン ワ アナナクス

**ana... a=an.. DAKA as=an wa an=an akusu**

座っているだか…立っているものだから

「アペクル アペクル」

**“apekur apekur”**

「火に当たりなさい、あたりなさい」

セコロ アイイエ ヒネ

**sekor a=i=ye hine**

というので

アペ サム タ アラパアン ルウェ ネ アクス

**ape sam ta arpa=an ruwe ne akusu**

囲炉裏端に進むと

チャチャ カムイ ピリカ ヒケ アン

**caca kamuy pirka hike an**

立派なおじいさんがいて、

ルプネマツ カムイ ピリカ ヒケ アン オラ

**rupnemat kamuy pirka hike an ora**

立派なお婆さんがいて、

アシキ アナク インカラ ペ ネ クス

a=siki anak inkar pe ne kusu

私は目が利くので

イネアプ イソンクル アヌシ ネ ワ シラナ カ アエラミシカリ ノ

ineap isonkur an usi ne wa siran y\_a ka a=eramiskari no

全くどれだけ幸運に恵まれた人であるのか分からないほど

チセソイ タ カ カム クマ タイ チェプ クマ タイ オカ ア プ

cisesoy ta ka kam kuma tay cep kuma tay oka a p

家の外にも肉の干し竿、魚の干し竿が立ち並んでいたと思ったら

チセ オルンノ ネノ シラン…… ルウエ ネ ヒネ オラウン

cise orunno neno siran... ruwe ne hine oraun

家の中もそのようであった。それから

イコオンカミ…… ヘカチ アネ プ オラ

i=koonkami... hekaci a=ne p ora

私に礼拝し、私は子供なのだけれど

イコオンカミ ラムノ カネ キ ヒネ オラ

i=koonkami ramno kane ki hine ora

礼拝を低く（丁寧に）なさせて

エネ ハウエアニ

ene hawean h\_i

このように言った。

「エタラカ ウウエペケンヌ カ アエオリパク ペ ネ ヤッカ

“etarka uwepekennu ka a=eoripak pe ne yakka

「不躰に尋ねるのも憚られるが

ヒナク ワ エク ヘカチ エネ ヒネ

hinak wa ek hekaci e=ne hine

どこから来た子供が

オアラ ヘカチ オアラ オッカイポ エネ ノイネ アラム  
**oar hekaci oar okkaypo e=ne noyne a=ramu**  
 まったくの子供、全くの男の子に見えるが

エネ オアラ シネンネ ヒナク ワ エエク ルウェ アン？」  
**ene oar sinenne hinak wa e=ek ruwe an?”**  
 このように一人ぼっちでどこから来たのか？」

シコロ ハウエアン ヒ クス  
**sekor hawean hi kusu**  
 と言うので

「タップネ カネ ネウン イキ ワ アン ペ  
**“tapne kane neun iki wa an pe**  
 「このように、どうにして

アネ ルウェ ネ ヤ カ アエラミシカリ コロ  
**a=ne ruwe ne ya ka a=eramiskari kor**  
 いたのかも分からないで

ヤチ オツ タ ネ アペコロ アナン  
**yaci or\_ ta ne apekor an=an**  
 泥地のようなところにいる

ヤイトウラシノタン トカプ キ コロ キ プ オラウン  
**yayturasinot=an tokap ki kor ki p oraun**  
 一人ぼっちで遊んでいて、昼はそうしていて、

シリクンネ コロ ピリカ チセ アン ワ  
**sir-kunne kor pirka cise an wa**  
 夜になると綺麗な家があって、

オロ タ カムイ ネ クシ コラチ アン メノコ  
**oro ta kamuy ne kus koraci an menoko**  
 そこでいかにもカムイらしい女が



ピリカ スケ キ ワ オッチケ アニ

**pirka suke ki wa otcike ani**

おいしく料理をしてお膳で

イコイプニ ワ イペアナク アタカラ コロ オラ

**i=koypuni wa ipe=an y\_ak a=takar kor ora**

私に差し出してくれ食べるという夢を見て、それで

キロンヌアン ワ アナン ワ

**kironnu=an wa an=an wa**

おなか一杯になっいて、

トカプ ヤイトウラシノタン コロ アナン ペ ネ ア プ

**tokap yayturasinot=an kor an=an pe ne a p**

昼は一人で遊んでいたのですが、

ヌマン ネ ペツ トウラシ チプ エク フム アシ クス

**numan ne pet turasi cip ek hum as h\_i kusu**

昨日、川に沿って舟がやってくる音が聞こえたので

インカラン アクス リク ペカ チプ ネ アペコロ アン ペ

**inkar=an akusu rik peka cip ne apekor an pe**

見てみると高いところに舟のようなものがあって、

オラ リク ペカ エク ヒネ オラウン

**ora rik peka ek hine oraun**

高いところを飛んできて、

イイエペカノ エク コロ ラッチタラ イキ ヒネ オラ

**i=epekano ek kor ratcitara iki hine ora**

私の方にやってきて、ゆっくりとやってきて

オロ ワ イトアタニ アイヌ カ ウタラパケ ラン ヒネ

**oro wa itoat ani aynu ka utarpake ran hine**

そこからロープで、人間と言っても立派な人が下りてきて、

『アポホ ヘ アポホ ヘ

‘a=poho he a=poho he

『わが子や、わが子や、

エアニ アナクネ アコロ ソン エネ ルウエ ネ

eani anakne a=kor son e=ne ruwe ne

お前は私の息子なんだよ

アポホ エネ ルウエ ネ

a=poho e=ne ruwe ne

私の子供なんだよ

アシヌマ アナク パヨカカムイ アネ ワ

asinuma anak payoka-kamuy a=ne wa

私はパヨカカムイで、

アポホ エネ コロカ オラ

a=poho e=ne korka ora

私の子供がお前なのだけれど、

パヨカカムイ アエウタンネ クニ キマッタロ<sup>[12]</sup> ワ

payoka-kamuy a=ewtanne kuni kimattaro wa

私はパヨカカムイの一族になることになり、

パヨカカムイ ネ アナン……

payoka-kamuy ne an=an…

パヨカカムイになった

パヨカカムイ のおやかた ネ アナン ルウエ ネ ワ

payokakamuy NOOYAKATA ne an=an ruwe ne wa

パヨカカムイの親方になっているのだ

エネ タネ アエウク ワ アエレス ヒ カ イサム ルウエ ネ クス

ene tane a=e=uk wa a=e=resu hi ka isam ruwe ne kusu

このようにお前を引き取って育てることもできないから

タップネ カネ ナニ イシカラ ホントモ コロ ニシパ オロ タ エアラパ

tapne kane nani Iskar hontomo kor nispa oro ta e=arpa

このように、すぐに石狩中流の長者のところに行って、

コタン コロ クル オツ タ エアラパ ワ

kotan kor kur or\_ ta e=arpa wa

村長のところに行って、

タップネ カネ カムイ アオナハ ネ アアン ペ

tapne kane kamuy a=onaha ne aan pe

かくかくしかじかのことを、カムイである父が、

カムイ チプ オロ ワ イトアタニ ラン ワ

kamuy cip or wa itoat ani ran wa

カムイの乗る船からロープで降りて

タップネ ハウエアン ルウエ ネ

tapne hawean ruwe ne

このように言った

シコロ エハウエアン ヤクン アレンカイネ ネ クス

sekor e=hawean yakun a=renkayne ne kusu

とお前が言えば、私の思いなのだから

ソレクス ウタラパ ネ ニシパ ネ アエカラ クニ

sorekusu utarpa ne nispa ne a=e=kar kuni

それこそ長に、長者にするように

アエラマン ワ クス アエエパカシヌ ハウエ ネ ナ

a=eraman wa kusu a=e=epakasnu hawe ne na

考えてお前に言って聞かせるのだから

アラパ ワ ヤイオペオペ』

arpa wa yay'opeope'

言って訳を話さない』

シコロ カムイ アオナハ ハウエアン ワ エカン」

**sekor kamuy a=onaha hawean wa ek=an”**

とカムイである父が言ったので来ました」

シコロ ハウエアナナクス

**sekor hawean=an akusu**

というと、

エアシリ カ オトウスイ レスイ

**easir ka otusuy resuy**

それはまあ幾度も幾度も

イコテムタサレ チシ コロ

**i=kotemtasare cis kor**

涙を流して私を抱きしめながら

イヨマプ ア イヨマプ ア コロ

**i=omap a i=omap a kor**

私をなでながら

「ポンノ ポンノ アスルフ オルシペ アヌ プ

**“ponno ponno asuruhu oruspe a=nu p**

少しだけ噂には聞いていた人物

カムイパ アン ヒ イサム カムイ ニシパ ネ アクス

**kamuy pa an hi isam kamuy nispa ne akusu**

流行病が流行った時に亡くなった立派な長者であって、

サニケヘ アナアナウエ ネ ヤクン

**sanikehe an aan h\_awe ne yakun**

その子孫がいたのであれば

アシヌマ ヤイクルカタ ウタラパ ネ アカン ニシパ ネ アカラ ヤクネ

**asinuma yaykurkata utarpa ne a=kar\_ nispa ne a=kar yakne**

私自らお前を首長に、長者にし

アエセレマッコロ アウタリ カ エセレマッコロ オアシ ハウエ ネ」

**a=e=seremakkor a=utari ka e=seremakkor oasi hawe ne”**

お前を守りし、私の家族もお前を守ることになるのだ」

シコロ アン コロ チシ コロ イムライパ

**sekor an kor cis kor i=muraypa**

と言いながら泣きながら抱きしめた

ルプネ マツ カムイ カ イヨマパ イヨマパ

**rupne mat kamuy ka i=omap a i=omap a**

立派なお婆さんも私を何度も抱きしめた

アポイサパ イコルイルイパ コロ

**a=poysapa i=koruyruypa kor**

私の小さな頭をなでまわしながら

イヨマプ ロク イヨマプ ロク ルウエ ネ

**i=omap rok i=omap rok ruwe ne**

何度も抱きしめ

ヒネ オラウン コント ネア メノコ

**hine oraun konto nea menoko**

それから例の女は

ポ スケコアリキキ コラン アイネ ラポッケヘ

**po sukekoarikiki kor an ayne rapokkehe**

なおさら料理に勤しんでいたのだが

イワク ウタラ アン フミ アサクス

**iwak utar an humi as akusu**

誰かが帰ってきたような音がして

アナン ヒ イェ パ ワ ネ ノイネ

**an=an hi ye pa wa ne noyne**

私がいることを伝えたようで

ソヨシピタウタラ アフプ フミ アシネ インカラナクス  
**soyosipita utar ahup humi as h\_inē inkar=an akusu**  
 身支度を解いた人たちが入ってくる音がしたので見てみると

すっかり レコマトゥ カネ アン クル オラ  
**SUKKARI rekomatu kane an kur ora**  
 すっかり髭の生えそろうた人もいてそれから

レックルマ<sup>[13]</sup> カネ アン オツカイポ  
**rekkurma kane an okkaypo**  
 ひげのはえかかっている若者、

イリクン ネ ノイネ オカ ウタラ アフプ ヒネ  
**irkur\_ ne noyne oka utar ahup hine**  
 親類と思われる人たちが入ってきて

イヌカン ロク イヌカン ロク ヒネ オラウン  
**i=nukar\_ rok i=nukar\_ rok hine oraun**  
 次々に私の方を見ながら

「オリパク トウラ ネ ヤッカ アオナ ウエペケンヌ ア ルウェ アン？」  
**“oripak tura ne yakka a=ona uepekennu a ruwe an?”**  
 「畏れながら、父上はお尋ねになりましたか？」

シコロ ハウエアナクス……… ハウエオカ アクス  
**sekor hawean akusu... haweoka akusu**  
 と言うと、口々に言うと、

キヤンネ ノイネ アン クル ハウエアナクス  
**kiyanne noyne an kur hawean akusu**  
 年上のように見受けられる男性がそういったので

「ウエペケンヌアン ワ  
**“uepekennu=an wa**  
 「伺いたところ、

タップネ カネ イソイタク コロ エク クン ネ ワ

tapne kane isoytak kor ek kur\_ ne wa

このようなわけで来た人物であり、

アイヌ オルシペ アヌ ワ アエサンペアウオマップ ネ アクス

aynu oruspe a=nu wa a=esampeawomap ne akusu

この方の話を聞いて私はあわれに思ったのだよ

カムイオナハ オロ ワ アシレパカシヌ ワ

kamuy'onaha oro wa a=sirepakasnu wa

カムイなる父が道を教えられたので

イヨルン アエクテ ルウエ ネ ヤカイエ」

i=or un a=ekte ruwe ne yak a=ye”

私達のところへ使わされてきたのだということだ」

シコロ ハウエアナクス

sekor hawean akusu

というと、

エアラキンネ ネア キヤンネ ニシパ ポヘネ

earkinne nea kiyanne nispa pohene

本当にその年上の男性は一層

イヤイコルイルイパ イヨマパ イヨマパ

i=yaykoruyruypa i=omap a i=omap a

私を抱きかかえ何度も抱きしめながら

「カムイレンカイネ イヨルン アエクテ ハウエ ネ ヤクネ

“kamuyrenkayne i=or un a=ekte hawe ne yakne

カムイの思し召しで私たちのところに遣わされたということならば

カムイ エセレマツコロ アキ オアシ ハウエ ネ」

kamuy esermakkor a=ki oasi hawe ne”

私たちはカムイの御加護を受けるということだな」

シコン ネア キヤンネ クル カ ハウエアン

sekor\_ nea kiyanne kur ka hawean

とその年長の男性が言い、

ポニウネ クル カ ハウエアン コロ

poniwne kur ka hawean kor

若い男性もそう口にした

コント ウサ カム やら ウサ オヤオヤプ アスパ ワ フムノ アイイエレ

konto usa kam YARA usa oyaoyap a=supa wa humno a=i=ere

それから色々な肉や様々なものを調理して食べさせてくれ

コロ ポヘネ ネア カムイ アオナ アヌカラ ペコロ ヤイヌアナ コロカ

kor pohene nea kamuy a=ona a=nukar pekor yaynu=an a korka

それで尚更父を見たように思っていたが

「ネイ タ パクノ ネノ エヤイヌ ヤクン

“ney ta pakno neno e=yaynu yakun

「いつまでもそのようなことに気を取られていては

ワカ タシ ウェン ナンコロ ペ」

waka tas wen nankor pe”

かえってかえってよくないだろう」

セコロ ヤイヌアン オラノ

sekor yaynu=an orano

と思い直した

イネアプ タ ネア メノコポ カ アシカイ ワ シリキ ヤ カ エラミシカリ

ineap ta nea menokopo ka askay wa sirki ya ka eramiskari

若い娘も驚くほど針仕事が上手で

ピリカ アエシピネ クニプ カラ アミプ カ カラ ワ

pirka a=esipine kunip kar amip ka kar wa

美しい身に着けるものや着物を作り



イミレ ワ アイピリカコロ エアラキンネ アイウコオマブ  
**i=mire wa a=i=pirkakor earkinne a=i=ukoomap**  
 私に着せて私は大事に扱われ、本当にみんなに可愛がられた。

アユプタリ セコロ ハウエアン  
**a=yuputari sekor hawean**  
 (私は彼らを) お兄さんたちと呼び

ポナユピ° ポロ アユピ° アサハ セコロ ハウエアナン コロ  
**pon-a=yupi poro a=yupi a=saha sekor hawean=an kor**  
 若いお兄さん、お兄さん、お姉さんと呼びながら

アナン ペ アイウコオマブ ワ  
**an=an pe a=i=ukoomap wa**  
 暮らしていてみんなに可愛がられて

ネプ カ アエシリキラプ カ ソモ キ ノ アナナイネ  
**nep ka a=esirkirap ka somo ki no an=an ayne**  
 なにを思いわずらうこともなく暮らしていたが

ネ アユプタリ カ マッ コロ ワ  
**ne a=yuputari ka mat kor wa**  
 兄たちも結婚し

ポシレシクテ ワ トウラ シノツ ミシムアン カ ソモ キ コロカ  
**posiresikte wa tura sinot mismu=an ka somo ki korka**  
 たくさんの子宝に恵まれ、一緒に遊んで淋しいこともなく暮らしていたが

オラウン サシネ サシネ<sup>[14]</sup> アオナハ ヤイコシラムスイパ コッ  
**oraun sasne sasne a=onaha yaykosiramsuy pa kor\_**  
 折に触れて(?)、父の事が思い出されるが

チサナ コロカ タネ アエイケスイ ワ アオイラ ノ アナナイネ  
**cis=an a korka tane a=eikesuy wa a=oyra no an=an ayne**  
 泣くこともあるが、今はもうしゃくにさわるので思い出しもせずに

アシヌマ カ ポロ オッカイポ アネ ワ

asinuma ka poro okkaypo a=ne wa

私も大きくなり

ピリカ アユプタリ ピリカ メノコ エトウン ワ

pirka a=yuputari pirka menoko etun wa

立派な兄たちは美しい女性を娶って

マツ ネ アコロ ワ アユプタリ ソイケ タ オカアン ワ

mat ne a=kor wa a=yuputari soyke ta oka=an wa

私も妻を娶り兄たちの近くに住まい、

ヘセ アットム サンペ アットム アヘコテ コロ アナン

hese attom sampe attom a=hekote kor an=an

仲睦まじく暮らしていた

オラウン ネウ カ パトマム ノイネ ハワシ カラ(?) コロ

oraun new ka patomam noyne hawas kar(?) kor

それから何か流行病の気配があっても

イエパカシヌ パ ヤイエイノンノイタク パ ワ

i=epakasnu pa yayeynonnoitak pa wa

教えられたように祈りをささげ

クス ネ ノイネ ネプ シイエイエ ネプ タスミ

kusu ne noyne nep siyeye nep tasumi

そのような兆しがあっても何の病、流行病も

アキ カ ソモ キ アイネ

a=ki ka somo ki ayne

私達が患う事はなく

アアチャハ アウナラペヘ カ オンネ ワ イサム オカケ タ

a=acaha a=unarpehe ka onne wa isam okake ta

叔父、叔母も年老いてこの世を去り、

アユプタリ トウラノ ウコナカヨクアン ノ オカアン  
**a=yuputari turano ukonakayoku=an no oka=an**  
 兄たちとは互いに仲良く過ごし

ポシレシクテアン アオピッタ キ ワ シノ ニシパ アネ パ ワ  
**posiresikte=an a=opitta ki wa sino nispa a=ne pa wa**  
 たくさんの子宝に恵まれることを皆がして本当の長者となって

シヨクンヌレ コロ オカアナイネ  
**siokunnure kor oka=an ayne**  
 驚くほどであったが

オンネアン ペ ネ クス  
**onne=an pe ne kusu**  
 今や年老いたので

タップネ カネ アイヌ レス ヘネ キ プ  
**tapne kane aynu resu hene ki p**  
 私は、このように普通の生い立ちをしたもの

アネ ルウェ カ ソモ ネ  
**a=ne ruwe ka somo ne**  
 ではないのだ

ヤチ オツ タ ネ アペコロ ヤイシカルンペ アネ プ オラ  
**yaci or\_ ta ne apekor yaysikarunpe a=ne p ora**  
 泥地のようなところで物心ついたのが私であって

リク ペカ エク チプ オロ ワ アオナハ イトアタニ ラン ワ  
**rik peka ek cip or wa a=onaha itoat ani ran wa**  
 高いところを飛んできた船から父がロープを伝って下りてきて

カムイ アオナハ イコイタカウエ カ アヌ  
**kamuy a=onaha i=koytak h\_awe ka a=nu**  
 カムイなる父が私に話したのを聞いた

サラ ネットパケ アヌカラ ペ ネ アクス

sara netopake a=nukar pe ne akusu

現れた姿を私は見たので

アエイソイタク セコロ シノ オツカイポ ニシパ ハウエアン。

a=eysoytak sekor sino okkaypo nispa hawean.

それを語ったのだ」と立派な男性が語った。

(萱野：はい、どうもありがとうございました)

### 【注】

- [1] 動作の反復を示す a と人称接辞の an が表れたものと解釈したが、不明。
- [2] 『千歳方言辞典』p62 ウセアン「脱げる(はまっていたものから)抜ける」、『沙流方言辞典』及び『萱野辞典』では use 「普通の」のみ。ここでは yaci tum から出て遊んでいたという事であろう。
- [3] 『沙流方言辞典』に無し、『萱野辞典』 p400
- [4] 『久保寺辞典稿』「eir-pakno 一緒に、それと共に、同時に」・「ieirpakno それに引続いて(二谷氏)」、中川裕「アイヌ口承文芸テキスト集 4」(千葉大学ユーラシア言語文化論講座(編)、2003『千葉大学ユーラシア言語文化論集 第6号』)に、「tane nisat or pekere kane siran akusu, eirpak no hawehe tuy 夜が白々と明けてくると同時に、その声はふつと聞こえなくなってしまった」
- [5] koramnukar に聞こえるものの、「試す」(『久保寺辞典稿』)、「度胸・力量を見る」(『沙流方言辞典』)、「誘惑する」(『萱野辞典』)との関係が不明。
- [6] oyap 「上陸する」、nay turasi 「沢に沿って」と言いかけて言いなおしたものか。
- [7] u-ekok-kor-nay[互いに・水源・～を持つ・沢]で水源を同じくする川を表すものと解釈した。
- [8] 『久保寺辞典稿』410に「kikar(a) 草行、細道(久保寺訳)」とある。ここでは音節末母音はない。
- [9] ここは言いさしか。
- [10] a=e=epunkine が予想されるどころ。
- [11] 『久保寺辞典稿』122「chikitaikokur 家の屋の棟 ~rayehitara びんとはねたる」。ci-kitay-ko-kur-raye-hi-tara で、kur は虚辞。『神謡・聖伝の研究』神謡 61 註 2「chikitaiko raye kane」、同註 3「chi-tumam-ko, -yupu, -kane」。
- [12] 日本語にアイヌ語の活用語尾 taro が接尾したもの。
- [13] 『久保寺辞典稿』「rekkurumama chiarehai 髯(ひげ)のまだのびととのぬもの。頤鬚

(おとがいひげ) の黒み未だととのはず。」の rekkurmam と同意の語か。なお、『知里人間篇』にも「あごひげ rek-kurmam(-a)」とある (P 331)。

[14] 『久保寺辞典稿』783 に auchiri tuitak sash-ne re-itak sashne iko-arki とあるが関連も含めて不明。

## 6-6 ウエペケレ「ケトウペ カムイ イレス」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：これは **ketupekamuy i=resu** [ハリガネムシの女神が私を育てる] という題だな？

貝澤：うん、そうだ。

萱野：私は一人の少年でありました。

貝澤：**kamuykatkemat i=parosuke** [神の淑女が養ってくれた]

萱野：ものごごろついた時には、**yaci** [湿った泥] の中、**yaci** っちゅうのはドロドロになったのアイヌ語で **yaci** というんだけど、その **yaci** の中で育てられており、そして夜眠ると綺麗な女の人がおいしいものを作って持ってきて、私に食べさせてくれると。

そうするとまたそれによってお腹がいっぱいになるという生活を続けておった。陸（おか）へ上がると体も全然汚れずに、誰かが……、汚れずに毎日を過ごしておった。

ある日のこと、**rik kus cip... cip** というふうだな？

貝澤：うん、うん。

萱野：何かその、こうずっと今でいう……

貝澤：**rik peka cip owse hopuni wa ek** [高いところを舟がまっすぐ飛んできた]

萱野：空を飛ぶ舟が飛んできて、私の住んでいるすぐ上へ降りて、降りてってすっかり降りずにそこから **itoat** [ロープ] というふうな表現で出ておりますが、糸が降りてきてその連なりに男の人が一人降りて言うことには「これこれ、お前は私の息子なんだよ」と。「私は **oripak kamuy** と言っ

て病気の神様だけれども、お前を自分の息子として生まれてからそういう悪い、悪いというか、神の仲間に入って育てること出来ないの、**ketupekamuy** というのはハリガネムシの女神にあなたを預けて、もう今ではこのぐらいに成長したのだから、あなたの叔父さんや叔母さんがこの向こうに見える地根を超えた向こう側へ行くと、そこで生活をしているから、そこへ歩いて行って、そこで **yay'opeople** 自分で自分のこういうふうな生い立ちできたんですよという事を言いなさい。そうすると人間としてあなたは成長することが出来るから」と、言われたので私は次の日に、まあ、そのあいだ細かく表現出てるんですけども、父である神の後を追おうとしたんだけど、もう今ではその、お前と一緒にいくことが出来ないからと、私を叱りつけるようにしておいて、次の日は早くその地根を超えて向こう側へ行き、そして叔父や叔母に育てられて、私は成長したと、そういうふうなこれは **uepeker** [散文説話] の中でも非常にその珍しく……

貝澤：ほんと。

萱野：きちっと整え……

## 7-2 ウエペケレ

「ケソラプ カムイ イレス」

孔雀の神に育てられた

語り手：平賀さだも

ポロ アコロ ユピ アン ポン アコロ ユピ アン ヒネ オカアン ワ  
 poro a=kor yupi an pon a=kor yupi an hine oka=an wa  
 大きい兄と小さい兄と暮らしている私です、

オラノ ポロ アコロ ユピ エアシリ チトムテレス イエカラカラ パ  
 orano poro a=kor yupi easir citomteresu i=ekarkar pa  
 大きい兄はそれこそ、私をきれいに磨くように大事に育て

イウコオマブ。  
 i=ukoomap.  
 かわいがありました。

ナ ノカナン アポロ…… アポイユピヒ カ ナ ポン  
 na nokan=an a=por... a=pon\_-yupihi ka na pon  
 まだ私が子供のころ、小さい兄もまだ小さく、

アシヌマ カ ポナン ヒ  
 asinuma ka pon=an hi  
 私も小さい時、

エピッタ アポロユピヒ イカイ カネ  
 epitta a=poro-yupihi i=kay kane  
 ずーっと大きい兄は私をおぶって、

アポロ…… アポイユピヒ テケ アニ カネ ワ エキムネ コロ……  
 a=poro... a=pon\_-yupihi teke ani kane wa ekimne kor  
 小さい兄の手を取って山に登ると、



エキムネ コロ ネウン シノ イキ シンネ アエラミシカリ ポナン ペ ネ クス  
 ekimne kor neun sino iki sinne a=eramiskari pon=an pe ne kusu  
 山に登ると、どこへもそうしていくようで、私は小さくて知らなかったので、

キ ヒケ カ ユク ネ チキ カムイ ネ チキ エアウナルラ ワ  
 ki hike ka yuk ne ciki kamuy ne ciki eawnarura wa  
 そうして、鹿も熊も捕ってきて

イエピリカコン レス カネ オカアン アイネ  
 i=epirkakor\_ resu kane oka=an ayne  
 私を大事に育ててくれて、そうしていて、

タネ ルプネアン マ インカラン ルウエ  
 tane rupne=an w\_a inkar=an ruwe  
 今は大人になって見てみると、

オヤチキ インネ コタン アン ペ ネ アアン  
 oyaciki inne kotan an pe ne aan  
 なるほど、大きな村だったものです。

ネ コタン イマク タ コタン マウカ タ アシンノ アカラ ポロ チセ アン  
 ne kotan imak ta kotan mawka ta asinno a=kar poro cise an  
 その村の奥の方、東方に新しく建てられた大きな家がありました。

ヒネ オロ タ オカアン ルウエ ネ アアン  
 hine oro ta oka=an ruwe ne aan  
 そして、そこで住んでいました。

オロ タ アポロユピヒ イレシパ ワ オカアン ルウエ ネ アアン  
 oro ta a=poro-yupihi i=respa wa oka=an ruwe ne aan  
 そこで大きい兄が私達を育ててくれていたのです。

ヒネ オロワノ タネ アナクネ ルプネアニ ワノ  
 hine orowno tane anakne rupne=an h\_i wano  
 それから、今は私が大人になってからは、

アポロ ユピ° イトゥラ ワ エキムネ ワ

a=poro yupi i=tura wa ekimne wa

大きい兄は私達を連れて山に行つて、

「エネ アン ペ クワリ ネ チキ イラマンテ

"ene an pe kuari ne ciki iramante

「このようなものが仕掛けであるとか、狩りをして

ユク ネ チキ カムイ ネ チキ アラマンテ カトウ セコロ セコロ アン コロ

yuk ne ciki kamuy ne ciki a=ramante katu sekor sekor an kor

鹿も熊も、狩りをするのは、これこれこのようにすると

エアシリ ピリカ プ ネ ナ」

easir pirka p ne na”

よいのだ」

セコロ ハウエアン コロ イエパカシヌ…… イエパカシヌ パ

sekor hawean kor i=epakasnu... i=epakasnu pa

と言って、教えてくれました。

アポイユピ° トウラノ キ コロ オカアン

a=pon\_-yupi turano ki kor oka=an

小さい兄と、そうしながら暮らして、

ランマ カネ キ ルウェ ネ アイネ タネ シオッカヨ アネ パ イ ワノ

ranma kane ki ruwe ne ayne tane siokkayo a=ne pa h\_i wano

いつもそうして、今は、私は一人前の男ぐらいの歳になって

アポロユピ° エネ イキ エキムネアン クス ネ コロ

a=poro-yupi ene iki ekimne=an kusu ne kor

大きい兄はこのようにして、山に行こうというときは

アポイユピ°ヒ オアツテク コロ テケ エシカリ オアツテク コロ

a=pon\_-yupih\_i oattek kor teke esikari oattek kor

片手で小さい兄の手をつなぎ、もう片手で

アテケ エシカリ ワ エキムネアン パ シリ エネ アニ エアシリ カ  
**a=teke esikari wa ekimne=an pa siri ene ani easir ka**  
 私の手をつないで山に（私たちを）連れていく様子は、本当に、

ニタイ スツ トム アチクルレ ワ アイヌ アプカシ ソモ ネ  
**nitay sut tom a=cikurure wa aynu apkas somo ne**  
 林の根元を通り過ぎるので、人間が歩くのではなく、

ニタイ スツ トム アチクルレ ワ オロワノ  
**nitay sut tom a=cikurure wa orowano**  
 林の根元を通り過ぎるので、そして、

ハンケ ネ チキ トウイマ ネ チキ エキムネアン パ コロ  
**hanke ne ciki tuyma ne ciki ekimne=an pa kor**  
 近くても遠くても山に行くと

ユケネ カムイ ヘネ アエアウナルラ エアシリ カ  
**yuk hene kamuy hene a=eawnarura easir ka**  
 鹿でも熊でも捕ってきて、本当に

ネプ アエ ルスイ カ アコン ルスイ カ ソモ キ コラチ  
**nep a=e rusuy ka a=kor\_ rusuy ka somo ki koraci**  
 何を食いたいとも、何を欲しいとも思わないように、

イキアン パ コロ オカアン ルウェ ネ アイネ シネ アン タ  
**iki=an pa kor oka=an ruwe ne ayne sine an ta**  
 して山に連れて行っていたのです。そうしてあるとき

アポロユピ エネ ハウエアニ  
**a=poro-yupi ene hawean h\_i**  
 大きい兄がこのように言いました。

「アアクタリ タント アニ アナクネ レウシ エキムネアン クス ネ ナ  
**“a=ak-utari tanto an h\_i anakne rewsu ekimne=an kusu ne na**  
 「弟たちよ、今日は泊りがけで山に行くのですよ。」

レウシ エキムネアン クニ ニサッタ ネ アナク……」

**rewsi ekimne=an kuni nisatta ne anak ... ”**

泊りがけで山に行くように、明日には……」

クイエ ハウエ ウエナウエ ネ

**ku=ye hawe wen h\_awe ne**

私の言い方がよくないね。<sup>[1]</sup>

「ニサッタ ネ アナク レウシ エキムネアン クス ネ ナ

**“nisatta ne anak rewsu ekimne=an kusu ne na**

「明日には泊りがけで山に行くのです。

アエ コン レウシアン クニ カラ ワ セ クニ ラム ヤン」

**a=e kor\_ rewsu=an kuni kar wa se kuni ramu yan “**

私達は食べて泊まるように、(荷物を) 作って背負っていくのだと思えよ。」

セコロ カネ ハウエアン オラノ

**sekor kane hawean orano**

というふうに兄が言いました。それから

「チェプ ネ チキ カム ネ チキ サツ ワ オカ ウシケ アセ シネ アンチカラ

**“cep ne ciki kam ne ciki sat wa oka uske a=se sine ancikar**

「魚も肉も干しあがっているところを私たちが背負って行って、一晩

レウシ ネ エキムネアニ ネ ナ」

**rewsi ne ekimne=an h\_i ne na”**

山に行って泊まるのですよ。」

セコロ ハウエアン ペ ネクス

**sekor hawean pe nekusu**

と兄が言うものなので、

アセ シネ アンチカラ アエ パクノ カ イカシマ パクノ カ

**a=se sine ancikar a=e pakno ka ikasma pakno ka**

私たちは一晩では食べるのに、余るほども背負って、

アシケ アキ ヒネ オロワノ スイ ニタイ クロ……

**a=sike a=ki hine orwano suy nitay kuro ...**

荷物を背負って、そしてまた、林の

ニタイ スットム アチクルレ ワ オロワノ フナク ウン パイエアン アイネ

**nitay suttom a=cikurre wa orwano hunak un paye=an ayne**

林の根元を通り過ぎるようにして、それから、どこやらへ私たちは行って、

ソモ セタク フナク タ パイエアン コロ トウレプ タ チセ アン ヒネ

**somo setak hunak ta paye=an kor turep ta cise an hine**

ずいぶん長い間どこかわからないけど行っていたら、トウレプ堀りの小屋があって、

ソイケ タ エアシリ ラパン ヒネ パイエアン ヒネ

**soyke ta easir rap=an hine paye=an hine**

その前に下りて行って、私たちは行って、

オアラ オッカヨ アン ペ ネ カトゥ カ エランペウテク

**oar okkayo an pe ne katu ka erampewtek**

全然男の人がそこにいる様子にも思えず（いなくて）

メノコ パテク ネ ワ トウレプタ プ ネロク アン ルウェ ネ ノイネ シラン

**menoko patek ne wa turepta p nerok an ruwe ne noyne siran**

女性だけで、トウレプ堀りをしているのだったらしい様子である。

イケ ナニ アポロ ユピ アウオテレケ

**h\_ike nani a=poro yupi awoterke**

だが、すぐに大きい兄は、家の中へ飛び込んで、

「アアクタリ アフパン」

“a=akutari ahup y\_an”

「弟たちよ！入りなさい」

セコロ カネ ハワン コロ

**sekor kane hawan kor**

というふうには、言いながら、

アウオテレケ インカラシ アクス

**awoterke inkar=an akusu**

家の中に飛び込んで私たちが見ると、

レ メノコ アン イネ トウレプタコエキムネ クス

**re menoko an h\_ine tureptako-ekimne kusu**

三人の女性がトウレプ堀りに、山に行くために

オカイ ペ ネ アン ルウエ ネ ノイネ

**okay pe ne an ruwe ne noyne**

滞在するものであるらしく、

トウレプ キクキク ル カ アン カネ ルウエ カ アン カネ トウレプ キク ワ

**turep kikkik ru ka an kane ruwe ka an kane turep kik wa**

トウレプを叩いて叩いて置いた跡もあって、トウレプを叩いて、

エ コロ オカイ ペ ネ アン ルウエ ネ ノイネ シラニネ

**e kor okay pe ne an ruwe ne noyne siran h\_ine**

食べていたものであるらしいという様子であって、

オラ パイエアン(?) オラノ

**ora paye=an (?) orano**

そこへ行って(?), すると

「ポナアキ スケ」

**“pon a=aki suke “**

「小さい弟よ料理しなさい」

セコロ ハウエアン。アセ ワ パイエアン ペ

**sekor hawean. a=se wa paye=an pe**

と大きい兄が言いました。私達は背負ってそこに行って、

「ス イエルサ ヤン」

**“su i=erusa yan”**

「鍋を貸してください。」

セコロ カネ ハワナン アクス

sekor kane hawan=an akusu

と私は言ってそうして、

メノコ ウタラ アニ ヤイパロスパ クニ ス セ パ プ ネ アアン クス

menoko utar ani yayparosupa kuni su se pa p ne aan kusu

女たちは自分たちで煮炊きするように鍋を持ってきていたので、だから

イエルシパ イネ

i=eruspa h\_inē

それを貸してくれて、

オラノ カム ピリカ イ チェプ ピリカ イ アウオロトウイパ

orano kam pirka h\_i cep pirka h\_i a=worotuypa

そして、肉の良いのや、魚の良いのを切って

ス オロ アエシクテ ヒネ アポロユピ ホシキ アコイプニ

su or a=esikte hine a=poro-yupi hoski a=koypuni

鍋いっぱいに入れて、大きい兄に先に食べ物をあげて、

アシヌマ カ アポイユピヒ カ アエ パ。

asinuma ka a=pon\_yupihī ka a=e pa.

私も小さい兄も、食べた。

ネロク レ メノコ カ シカスイ アエレパ ルウェ ネ ヒネ オカアン アクス

nerok re menoko ka sikasuy a=erepa ruwe ne hine oka=an akusu

例の三人の女も自分でよそって食べさせていた、すると、

アポロ ユピ チソイエカッタ

a=poro yupi cisoyekatta

大きい兄は家から外に飛び出して

イサム テク アイネ アフン ルウェ エネ アニ エアシリ カ カンニ カ

isam tek ayne ahun ruwe ene an h\_i easir ka kanni ka

いなくなって、ちょっとして入ってきた。本当に棍棒といっても

アナクネ シ トウマシヌ カンニ アエモイモイケ エアシカイノ オカ カンニ  
**anakne si tumasnu kanni a=emoy moyke easkayno oka kanni**

本当に頑丈そうな棍棒、私が動かせそうな棍棒を

レプ カリネ コリネ エキネ ウサ ウサ イサム タ アリ アリ カネ イキ  
**rep kar h\_ine kor h\_ine ek h\_ine usa usa i=sam ta ari ari kane iki**

三本作ってきて、持ってきて、それぞれ私たちのそばに置いた。

イネ オラウン アポロユピ° アナク アペ エトク タ ア  
**h\_ine oraun a=poro-yupi anak ape etok ta a**

それから、大きい兄は、横座に座って、

アペ エトク マウトウム ネ ウシケ タ ア オトウタヌ アポイユピ° ア  
**ape etok mawtum ne uske ta a otutanu a=pon-yupi a**

横座のような場所に座って、その次に小さい兄が座って、

オトウタヌ イヨッタ ウトゥル ワノ アアン ヒネ オカアン ルウェ ネ  
**otutanu iyotta utur wano a=an hine oka=an ruwe ne**

その次に、一番下座に私が座っている

アクス タネ シリクンネ シロヌマン カネ アクス  
**akusu tane sirkunne sironuman kane akusu**

したところ、今は暗くなって夕方になると

オラノ アポロユピ° エネ ハウエアニ  
**orano a=poro-yupi ene hawean h\_i**

それから、大きい兄がこのように言って言う事には

「フンタ アポロ アアキヒ ユカラ ユカラ ホクレ ユカラ」  
**“hnta a=poro a=akihi yukar yukar hokure yukar”**

「さあ、上の方の弟よ、ユカラを言いなさい、言いなさい、早く言いなさい」

セコロ カネ ハウエアン  
**sekor kane hawean**

と言いました。



アクス オラノ ネア アポイユピヒ ユカラ ハウエ エネ アニ  
**akusu orano nea a=pon\_-yupihi yukar hawe ene an h\_i**  
 なので、それから、その小さい兄はユカラを言って

イネアプクスン  
**ineapkusun**  
 なんとまあ、

パロ アシカイ ワ ハワシ ヤ カ アエラミシカリ エアシカイ ワ  
**paro askay wa hawas ya ka a=eramiskari easkay wa**  
 上手なことかわからないほど上手で、

ハワシ ヤ カ アエラミシカリ ノ ユカン ネ マヌ プ コヘキサ  
**hawas ya ka a=eramiskari no yukar\_ ne manu p kohekisa**  
 なんともしゃいようがないほど、ユカラというものを首をふって言うのです。

エアシリ カ ナ カネマイ ネ ウウエトウヌイセ ノ  
**easir ka na kanemay ne uetunuyse no**  
 それこそ、金の響きのように美しく響いて、

パロ アシカイ エネ キ アウエ  
**paro askay h\_ene ki h\_awe**  
 上手に言っている声がして、

イヨクンヌレアン コロ オカアン ルウエ ネ アクス ヘマンタ オキムネ  
**iokunnure=an kor oka=an ruwe ne akusu hemanta okimne**  
 驚いていたら、何かが山から

サン フミ アシ。  
**san humi as.**  
 降りてきた音がして、

ルプシ クル…… ルプシ ケレ ウシ ペ ヘネ サヌム ネノ カネ  
**rupus kur... rupus ker us pe hene san h\_um neno kane**  
 凍った靴をはいているものだろうか、降りてくる音がして

ヘマンタ サン フミ アシ アイネ アパ オッ タ アフン カネ アクス  
**hemanta san humi as ayne apa or\_ ta ahun kane akusu**

何が下りてきた音がして、ずいぶんして、入ってきたので、

ポロ チラマンテ プ ネ ヒネ エムコ ワノ チクイ パソロ アクシテ ペコロ  
**poro ciramante p ne hine emko wano cikuy pas or a=kuste pekor**

大きな獲物でして、半分は粉墨をまぶしたような

エムコ ワノ チポロ ペ アオタ ペコラン ポロ カメアシ ネ ヒネ  
**emko wano cipor pe a=ota pekor an poro kameasi ne hine**

半分は筋子をつぶしてぶっかけたような大きな化け物であって、

アパ コシトポトポ ポン チセ ネ クス アパコシトポトポ コロ  
**apa kositopotopo pon cise ne kusu apakositopotopo kor**

入り口に身体を押し付けて身をよじると、小さい家なので、こうして身をよじりながら

アフニケ カ アヌカラ カトゥン カ アキ パ カ ソモ キ  
**ahun h\_ike ka a=nukar katun ka a=ki pa ka somo ki**

入ってきても、私たちは見たふりもしなかった。

ネ メノコ ウタラ アナク オシソウンマ ウサム タ ウキシマ カネ ワ  
**ne menoko utar anak osisounma usam ta ukisma kane wa**

その女たちは右座の方に並んでお互いに抱きあって、

レプ ネ ワ ウキシマ カネ オカ ワ エアシリ パル ノイネ オカ ワ  
**rep ne wa ukisma kane oka wa easir paru noyne oka wa**

三人でお互いに抱きあって、それこそ火をあおぐ(?)ようにして、

インカラ ワ オカ アオカ アナク アヌカラ カトゥン カ アポロユピ カ  
**inkar wa oka aoka anak a=nukar katun ka a=poro-yupi ka**

見ていた、私は見たふりも(しない)、大きい兄も

アポイユピ カ アシヌマ カ アフン ヒケ カ アフン ワ エキク ワ  
**a=pon\_-yupi ka asinuma ka ahun hike ka ahun wa ekik wa**

小さい兄も、私もいても、熊が家の中に入って、ぶっつけて、

イコソトゥラシ コロカ アヌカラ カトゥン カ ソモ アキ

i=kosoturasi korka a=nukar katun ka somo a=ki

上座のほうにやってきても、私は見たふりもしなかった。

オラノ アポイユピヒ ユカラ コヘキサ イネアプクスン エアシカイ ワ

orano a=pon\_-yupihi yukar kohekisa ineapkusun easkay wa

それから、小さい兄はユカラを言って首を振って、なんとまあびっくりするほど

ハワシ ヤ カ アエラミシカリ アクス イセルコピウエノ ネア (?) カメアシ

hawas ya ka a=eramiskari akusu i=serekopiweno nea(?) kameasi

上手であるかわからないほどで、XXXXXXXXその(?)化け物は

ア ヒネ オロワノ ユカラ コカヌ ルウェ ネ ノイネ アン テケ エレプ

a hine orowano yukar kokanu ruwe ne noyne an teke erep

座って、それからユカラをじっと聴き入っているようできて、手で拍子を

エレプ カネ コロ オラノ アン アイネ オイケシネ アイスイェ

erep kane kor orano an ayne oykesne aysuye

とりながら、あげく、とうとう居眠りをしてしまった。

アイスイェ ユカラ コカヌ アイネ

aysuye yukar kokanu ayne

居眠りして、ユカラを聞きながらもそして、

ヘラチチ ヘラチチ カネ イキ コロ アン

heracici heracici kane iki kor an

頭をだらっと下げてそのまま居眠りして

アクス ラポッケ タ アポロユピ アポイユピ コッカエオッケ テク

akusu rapokke ta a=poro-yupi a=pon\_-yupi kokkaeotke tek

すると、ここで、大きい兄が小さい兄を膝でつついた

ノイネ ヤイヌアン アクス エエパッケタ イコッカエオッケ テク シリ

noyne yaynu=an akusu eepakketa i=kokkaeotke tek siri

らしく、思っていると、次に(小さい兄が)私を膝でつついて

アポイユピヒ キ ヒクス ネア アコロ カンニ アエリケカッタ

a=pon\_yupihi ki hikusu nea a=kor kanni a=erikekatta

小さい兄がしたものだから、その持っていた棍棒を私がふりあげて

アエサパコキク ルウェ アナクス エシリシル アクス オロワノ アユプタリ

a=esapakokik ruwe an akusu esirsiru akusu orowano a=yuputari

私が熊の頭をたたくと、(熊は) 頭をこすって、それから、兄たちは、

シネ オソロ エホブンパ<sup>[3]</sup> ウコキッキク パ レン アニ アウコキッキク ヒネ

sine osor ehopunpa ukokikkik pa ren ani a=ukokikkik hine

いっせいに立ち上がって<sup>[3]</sup>、三人でたたいて、たたいて、

オロ タ アライケ イネ

oro ta a=rayke h\_inē

そこで、私たちは殺した。

オラ エソイネ アニ ラルウェリンパ (?) ヒネ ソイ タ

ora esoyne ani raruwerinpa(?) hine soy ta

そうして外へ置いたところ、悪者顔のひどい熊で (?)、外に

アアヌ ルウェ ネ アクス イシムネ ノクンネイワ アン アクス アポロユピ

a=anu ruwe ne akusu isimne nokunneywa an akusu a=poro-yupi

置いたところ、翌日、まだ暗いうちから居て、大きい兄が

「ホクレ リ ヤン リ ヤン アアクタリ ホクレ リ ヤン

“hokure ri yan ri yan a=akutari hokure ri yan

「早く、皮を剥ぎなさい。剥ぎなさい。弟たちよ、早く皮を剥ぎなさい

イリ ヤン イリ ヤン」

iri yan iri yan”

それを剥ぎなさい、剥ぎなさい。」

セコロ カネ ハワン ネ サパ トウイテクテク

sekor kane hawan ne sapa tuytektek

と、言いました。その化け物の頭を切り落として

ネア カメアシ キ ヒネ オラ イヘコテ エヤプキリ コロ  
**nea kameasi ki hine ora i=hekote eyapkir kor**  
 私に向かって投げると

「スマウコロ クル アエコシナ」  
**“sumawkor kur a=e=kosina “**  
 「熊を捕った者だ。お前の役割だ(?)」

セコロ ハウエアン コロ イヘコテ オスラ  
**sekor hawean kor i=hekote osura**  
 と言って私に向かって投げました。

エアラキンネ イルシカアン  
**earkinne iruska=an**  
 私は大変腹を立てて、

「マカニ アシヌマ ポオ  
**“mak ani asinuma poo**  
 「どうして、私にわざわざ

アユプタリ イエコシ クス エネ ハウエオカ イ アン」  
**a=yuputari i=ekosi kusu ene haweoka h\_i an “**  
 兄たちが任せたので、こうなのか」

セコロ ヤイヌアン  
**sekor yaynu=an**  
 と思っていました。

オッシ オロ ペカ イルシカアン コロカ  
**ossi or peka iruska=an korka**  
 腹の中で怒っているけれど、

エネ アイエ イ カ イサム ペ ネクス  
**ene a=ye h\_i ka isam pe nekusu**  
 何と言しようもないので、

こんと ニトウイエアニネ ニ アアシ クニ カ アオエンケ サパ アエタラレ  
**KONTO nituye=an h\_ine ni a=asi kuni ka a=oenke sapa a=etarare**  
 今度、木を伐って、その木を立てられるように木の尻をとがらせて、熊の頭をさせるように

クニ カ オエンケ ヒネ オラウン サパ アエタラレ ヒネ オラ  
**kuni ka oenke hine oraun sapa a=etarare hine ora**  
 木の尻をとがらせて、それから熊の頭をさしました。そして

カント オルン ノ ノッタララ クニネ アアシ コロ アイェ ハウエ エネ アニ  
**kanto or un no nottarara kunine a=asi kor a=ye hawe ene an h\_i**  
 天の方に顎を突き出して上を見るようにして、私は立てて、言ったことには、

「タン カント オツ タ オカ ノチウ オピッタ  
**“tan kanto or\_ ta oka nociw opitta**  
 「この天にある全部の星を

エピシキ ア エピシキ ア コロ  
**e=piski a e=piski a kor**  
 数えて数えて、

クンネ ヘネ トカプ ヘネ エピシキ コロ サク ヘネ マタ ヘネ エアン  
**kunne hene tokap hene e=piski kor sak hene mata hene e=an**  
 夜も昼も数えながら、夏も冬も居なさい。

モシマ アナク ネン カ エヤイヌ カ ソモ キ ノ ノチウ ピシキ パテク  
**mosma anak nen ka e=yaynu ka somo ki no nociw piski patek**  
 その他は、何も思わないで星を数えるばかりで

エキ コロ エアン タパンペ タプタプ エエヤクコロ ワ  
**e=ki kor e=an tapanpe taptap e=eyakukor wa**  
 居て、これこのとおり、お前の役目として、

エエヤイケウトウムアンテ カネ エエラマス コロ エアン クニ プ ネ ナ」  
**e=eyaykewtum'ante kane e=eramasu kor e=an kuni p ne na”**  
 お前が自ら考えて、満足しているのですよ」

セコロ アイェ コロ アシレタラレ ヒネ アアヌ ルウェ ネ ヒネ  
**sekor a=ye kor a=siretarare hine a=anu ruwe ne hine**

と、私は言いながら、地面につきさして、おいて、

オラウン ネア カメアシ カム アリ ルウェ エネ アニ  
**oraun nea kameasi kam a=ri ruwe ene an h\_i**

それから、その化け物の肉をこのように解体した。

カパラル (?) コロ カネ アン ペ ネ イネ アリ ヒネ  
**kapararu(?) kor kane an pe ne h\_ine a=ri hine**

カパラル (?) を持っているもので、私は解体して

オラウン オラノ ネロク メノコ ウタラ  
**oraun orano nerok menoko utar**

それからそして、例の女たちに

「ホクレ ヘタク セ ワ イワク ヤン イワク ヤン」  
**“hokure hetak se wa iwak yan iwak yan”**

「早く、さあ、背負って帰りなさい。帰りなさい。」

セコロ アポロユピ ハウエアン  
**sekor a=poro-yupi hawean**

と、大きい兄が言いました。

「フナク ワ アラキ プ エチネ ルウェ ネ ヤ カ アエラミシカリ コロカ  
**“hunak wa arki p eci=ne ruwe ne ya ka a=eramiskari korka**

「お前たちがどこから来たものであっても私は分からないが、

ヘタク コロ ワ パイエ ヤン」  
**hetak kor wa paye yan”**

さあ持って行きなさい」

セコロ カネ ハウエアン コロ セレパ クス…… セレ……  
**sekor kane hawean kor serepa kusu... sere...**

というふうと言って

セレ クス イェ パ アオカ アナクネ アセ カ ソモ キ ノ コロパレ ヤク  
**sere kusu ye pa aoka anakne a=se ka somo ki no korpare yak**

背負うように言った。私たちは背負わないで（全部あげて）、背負わせるように、

イエ ペ ネ クス ネロク メノコ ウタラ エウコヤイコプンテク コロ  
**ye pe ne kusu nerok menoko utar eukoyaykopuntek kor**

兄が言ったので、その女たちは喜んで

サッサツケ パ オアシ シリ アヌカラ パ コロ  
**satsatke pa oasi siri a=nukar pa kor**

干し肉にしようとするのを、私が見ていると、

「ヘタク アアクタリ イワカン ロ」

“**hetak a=akutari iwak=an ro**”

「弟たちよ、帰りましょう」

セコロ カネ アン アポロユピ イキ クス アテケ エシカリ パ ワ  
**sekor kane an a=poro-yupi iki kusu a=teke esikari pa wa**

と言って、大きい兄は再び私の手を握んで

オロワノ スイ オウセ ホブンパアン マ イワカナイネ アウニ タ サパニネ  
**orowano suy owse hopunpa=an w\_a iwak=an ayne a=uni ta sap=an hine**

それから再び、飛ぶように帰って、我が家に下って居た。

オカアン コロ サパン クニ ネ エトコ タ ネロク メノコ ウタラ  
**oka=an kor sap=an kuni ne etoko ta nerok menoko utar**

しつつ、下る前に例の女たち

オルン エネ アポロ ユピ ハウエアニ  
**or un ene a=poro yupi hawean h\_i**

にも、大きい兄が言ったことは、

「オヤパ ネ スイ タント ネ アラキアン クス ネ ナ

“**oyapa ne suy tanto ne arki=an kusu ne na**

「来年の、またこの日に私達は来ますよ。



イエカリ スイ アラキ ヤン」

**i=ekari suy arki yan”**

それを作るのにまた来てください」

セコロ カネ ハウエアン コロ

**sekor kane hawean kor**

と、言っていました。

オラウン アオカ アナクネ アウニ ウン サパニネ オカアン ルウェ ネ

**oraun aoka anakne a=uni un sap=an h\_ine oka=an ruwe ne**

それから、私は我が家に下ってきているんです。

リヤ オカアン イヨヤパケ スイ ネア パキタ ネ アクス

**riya oka=an iyoyapake suy nea pakita ne akusu**

それから年を越して、翌年のちょうどその時になると、

スイ アポロユピ

**suy a=poro-yupi**

再び大きい兄が

「ヘタ ヤン アアクタリ タント ネ スイ エキムネアン

**“heta yan a=akutari tanto ne suy ekimne=an**

「さあ、弟たちよ、今日また、山に登る

カトゥ アナクネ トリトリアン カ キ クニ カ アラム ナ。

**katu anakne toritori=an ka ki kuni ka a=ramu na.**

のは、何日も泊りがけになると思うよ。

アエプ エヤイエトコイキ ワ ポロンノ ポロンノ セ ヤン」

**aep eyayetokoyki wa poronno poronno se yan”**

食べ物を自分たちで支度してたくさん、たくさん背負いなさい」

セコロ カネ ハウエアン ペ ネ クス

**sekor kane hawean pe ne kusu**

と、言いました。だから、

オラノ アエヤイェトコイキ パ ヒネ アセ エアシカイ パクノ アセ ヒネ  
 orano a=eyayetokoyki pa hine a=se easkay pakno a=se hine  
 それから私は身支度して、できるだけ背負って、

パイェアン ヒネ ネア ウシケ タ パイェアン アクス ネロク メノコ ウタラ  
 paye=an hine nea uske ta paye=an akusu nerok menoko utar  
 私たちは行って、例のところに行ったら、あの女たちは

アラキ ルウェ カ イサム。イサム アクス オロ タ スイ シネ アンチカン  
 arki ruwe ka isam. isam akusu oro ta suy sine ancikar\_  
 来ていなかった。いないので、そこで私たちはもう一晩

レウシアナクス  
 rewsian akusu  
 泊まったので、

「ヘタ ヤン ニサッタ スイ オヤクン パイェアン ペ ネ ナ」  
 “heta yan nisatta suy oyak un paye=an pe ne na”  
 「さあ、明日またよそに行くものですよ。」

セコロ カネ ハウエアン コロ アポロユピ<sup>o</sup> ハウエアン コロ フナクン スイ  
 sekor kane hawean kor a=poro-yupi hawean kor hunak un suy  
 と、言いながら、大きい兄は言うど、どこやらへまた

パイェアン アイネ オヤク ワ エク ペッ ペッル オロケ アイオラプテ  
 paye=an ayne oyak wa ek pet pet ru orke a=i=orapte  
 行って、別の所から来ている川、川沿いの道に私たちを下らせました。

(テープ中断)

(萱野茂：はい)

はい。

ペッル オロケ アイオラプテ オロワノ ペッ ペシ スイ ニタイ クルポク  
**petru orke a=i=orapte orowano pet pes suy nitay kurpok**

川沿いの道に私たちを下りさせて、それから、私たちは川を下って再び森の下を

アチクルレ ワ サパナイネ インネ コタナン シリキ シエトクン  
**a=cikurure wa sap=an ayne inne kotan an sirki sietok un**

通り過ぎて行って、大きな村があるのを前方に

アヌカラ コロ サパナイネ キ アクス コタン イマク タ テク……  
**a=nukar kor sap=an ayne ki akusu kotan imak ta tek...**

見ながら下りて行っていたところ、村の奥に

ライテク チセ ポロ チセ アン ソイケヘ タ パイエアン ルウェ ネ イネ  
**raytek cise poro cise an soykehe ta paye=an ruwe ne h\_ine**

古びた家、大きな家があった。私たちは、その家の表に行って

インカラン ルウェ テエタ アナクネ イソン クル アン ウシ ネ ア  
**inkar=an ruwe teeta anakne ison kur an usi ne a**

見てみると、昔は猟の上手な人がいたところ、

コトム シラン コロカ タネ アナクネ ネプ カ オッカヨ カラ ペ  
**kotom siran korka tane anakne nep ka okkayo kar pe**

らしいが、今は何も男が捕ってくるものも

アカラ アン ルウェ カ オアララ イサム イネ メノコ パテク オカイ ペ ネ  
**a=kar an ruwe ka oarar isam h\_ine menoko patek okay pe ne**

全然なくて、その女だけいるもの

ノイネ シラン チセ ソイ タ パイエアナクス ナニ アポロユピヒ  
**noyne siran cise soy ta paye=an akusu nani a=poro-yupihi**

であるらしい様子で家の外に私たちは行くと、すぐに、大きい兄が

シムシシカ アクス ネア キム タ アヌカラ ア メノコ  
**simusiska akusu nea kim ta a=nukar a menoko**

咳払いをして、例の山で見た女の

イヨッタ ポン マ アナイケヘ アプンノ アパ マカ イネ イヌカッテキネ  
 iyotta pon w\_a an a h\_ikehe apunno apa maka h\_ine i=nukar\_ tek h\_ine  
 一番年下のものが静かに戸をあけて、私たちをちらっと見ると、

オラ アフン ヒネ オナ エウン ハカキタク ネ コロカ  
 ora ahun hine ona eun hakak itak ne korka  
 入って、父親に、かすかな声だけれど、

ハウエナウエ エネ アニ  
 hawean h\_awe ene an h\_i  
 言うことには、

「サクネ ネ トウレプタアン ヒ タ アヌカラ パ オアラ アイヌ ネ クニ  
 “sakne ne turepta=an hi ta a=nukar pa oar aynu ne kuni  
 「去年の夏、私達がウバユリ掘りをしている時に、私たちが見た、ただの人間だとは

アラム パ カ エアイカプ ノ オカ ウタラ レン ネ ワ キ ア プ  
 a=ramu pa ka eaykap no oka utar ren ne wa ki a p  
 思う事も出来ないでいた人たちが三人でいたのですが、

スイ レン ネ ヒネ ソイ タ アラキ ワ オカ」  
 suy ren ne hine soy ta arki wa oka “  
 また三人で、外に來ています。」

セコロ カネ ハウエアン  
 sekor kane hawean  
 と、言って

「アコヤイライケ ウタン ネ ア プ キ」  
 “a=koyairayke utar\_ ne a p ki “  
 「私たちが感謝している人たちが來ました」

セコロ カネ ハワナクス アピウコパシロタ (?) ハウエアン  
 sekor kane hawan akusu a=piwkopasirota(?) hawean  
 と言うと、それを叱りつけて言って

「アシ ソモ イヨモンモモ ノ カ ホクレ ウナフンケ」

“as somo iyomommomo no ka hokure unahunke “

「あまりこまごまと言わないで早く、お入れしなさい」

セコロ カネ ア…… イェ アウエ アシ アクス オラ ムンヌウエ  
sekor kane a... ye h\_awe as akusu ora munnuwe

と言うと、ごみを掃いて、

シツチャシヌレ フミ アシ エンネノ カネ シツチャツチャリ ワ  
sitcasnure humi as en=nenno kane sitcatcari wa

かたづけている音がして、私<sup>4</sup>同様に散らかして

アヌ プ ネ アン マ ネ ノイネ キ イネ オラウン オリパクノ ソイネ ヒネ  
anu p ne an w\_a ne noyne ki h\_ine oraun oripakno soyne hine

おいているものであるらしくて、それから、遠慮がちに外に出て、

イアフプテ クス イェ。オシ オシ アポロユピ° ホシキ アフン  
i=ahupte kusu ye. os os a=poro-yupi° hoski ahun

私たちに入るように言いました。その後を大きい兄が先に入って、

オシ アポイユピ° アフン ネ オラノ スイ アラキリカサムテコアン  
os a=pon\_-yupi° ahun ne orano suy arkirkasamteko=an

その後小さい兄が入って、それからまた私があぐらをかいて座って、

ネア チセ コロ クル トウラノ アポロユピ° ウコオンカミ  
nea cise kor kur turano a=poro-yupi° ukoonkami

その村長と一緒に大きい兄はお互いに挨拶して

アポイユピ° カ トウラ ウコオンカミ アシヌマ カ アコオンカミ ルウエ ネ。  
a=pon\_-yupi° ka tura ukoonkami asinuma ka a=koonkami ruwe ne.

小さい兄も一緒に挨拶して私も挨拶しました。

イネ オラノ イネアプクスン オンネ ニシパ イキ コロカ  
hine orano ineapkusun onne nispa iki korka

そして、なんとも、年老いたニシパではあるが、

ウタラパ ネ アアン コトム アエサンンヨ ノ アン

utarpa ne aan kotom a=esannyo no an

人の上に立つ人であるような

ピリカ オンネ クル ルプネマツ カ ピリカ ヒケ ネ ヒネ オカ

pirka onne kur rupnemat ka pirka hike ne hine oka

立派な老人だ。年配の夫人も立派な方であって、

オラ ネア キヤンネ イヨッタ キヤン メノコ アヌカルミ カ イサム

ora nea kiyanne iyotta kiyann menoko a=nukar h\_umi ka isam

それから例の一番年上の女は見当たらない。

ネア ウコノカン ペ パテク オカ イネ オラノ ウエネウサラ

nea ukonokan pe patek oka h\_inine orano uenewsar

その若い二人だけであるから、一緒に団らんして語らい、

ネア ポロ クツ トウラノ アユプタリ ウエネウサラ パ アイネ

nea poro kur\_turano a=yuputari uenewsar pa ayne

例の大人と一緒に兄たちは語らって、

ナ アポロユピ エネ ハウエアニ

na a=poro-yupi ene hawean h\_i

さらに、大きい兄が言ったことには、

「アアクタリ エチセ アエプ サプテ ヤン ワ スパヤラ ヤン」

“a=akutari eci=se aep sapte yan wa supayar yan”

「弟たちよ、お前たちは食べ物を背負って下って、煮てもらいなさい。」

セコロ カネ ハワン

sekor kane hawan

と、言いました。

アポイユピヒ アシケ アフプテ ヒネ ネア メノコ ウタラ スパレ クシ イエ

a=pon\_yupihi a=sike ahupte hine nea menoko utar supare kus ye

小さい兄と私は荷物を家に入れ、その女たちに煮炊きするように、言う

ヒネ オラ ワ ウカスイパ ワ イランマカカ スケ トムテ パ シリ カ  
 hine ora wa ukasuyupa wa irammakaka suke tomte pa siri ka  
 と、一緒に立派に料理している様子に

アエラヤプ コロ イランマカカ オリパクノ スケパ ワ オラ オリパクノ  
 a=erayap kor irammakaka oripakno sukepa wa ora oripakno  
 私は感心して（彼女たちは）立派に慎み深く料理してそして、慎み深く

イコイブンパ ワ ルウェ ネ アクス オラウン  
 i=koypunpa wa ruwe ne akusu oraun  
 私たちに食べ物を供すと、

「アアクタリ ヘタ ヤン イルカ エキムネアン テク ロ」  
 “a=akutari heta yan iruka ekimne=an tek ro”  
 （大きい兄は）「弟たちよ、さあ、ちょっとの間ちょっと狩りに行こう」

セコロ カネ ハウエアン  
 sekor kane hawean  
 と言って、

「ナ シロヌマン ヒ ナ トウイマ クス エキムネアン テク ロ」  
 “na sironuman hi na tuyma kusu ekimne=an tek ro “  
 「まだ夕暮れ時まで遠いので、ちょっと山に登ろう」

セコロ カネ ハワン コロ スイ チソヨクダアン パ イネ パヨカアニケ  
 sekor kane hawan kor suy cisoyokuta=an pa h\_ine payoka=an h\_ike  
 と言いながら、再び、外に飛び出して、歩き回ったが、

イネアプクスン イウオロ ピリカ ワ シラナ カ アエラミシカリ イネ  
 ineapkusun iwor pirka wa siran y\_a ka a=eramiskari h\_ine  
 なんと良い狩場かみたことがないほどでした。

ナニ スイ ユク カ カムイ カ  
 nani suy yuk ka kamuy ka  
 すぐに鹿も熊も

ヘンパク ヘンパク ペ レン アネ プ ネ クス アロンヌ ヒネ オラノ  
**hempak hempak pe ren a=ne p ne kusu a=ronnu hine orano**  
 何頭も私たちは三人なので、私が殺してそれから、

ウサ ウサ ライシケ アキ ヒネ イワカン パ ヒネ アクス オラノ  
**usa usa raysike a=ki hine iwak=an pa hine akusu orano**  
 いろいろ大荷物を持って持ち帰って、それから

ネア オンネ ニシパ ヌペ トウラ オンカミ ア オンカミ ア  
**nea onne nispa nupe tura onkami a onkami a**  
 その年老いたニシパは涙とともに拝礼して、拝礼して、

「エネ サクネ ネ  
**“ene sakne ne**  
 「このように去年の夏に

エアシリ アシヌマ カ ペウレアニ ネ アナクネ アエモニピリカ プ  
**easir asinuma ka pewre=an h\_i ne anakne a=emonipirka p**  
 それこそ自分も若いときは、獵運があるもので

イラマンテ ネ ア コロカ タネ アナクネ オンネアン カ キ  
**iramante ne a korka tane anakne onne=an ka ki**  
 このように獵をしたけれど、今は、老いもし、

イラマンテ カ アヌクリ ケマパセアン クス キ ルウェ ネ ヒネ オラ  
**iramante ka a=nukuri kemapase=an kusu ki ruwe ne hine ora**  
 獵も大儀になり、年をとって、そして、

オッカヨポ アナク アサク ノ エネ メノコ パテク  
**okkayopo anak a=sak no ene menoko patek**  
 息子はいなくてこのように、

レプ ネ ワ アコロ ペ ネ クス  
**rep ne wa a=kor pe ne kusu**  
 女ばかり三人持っているものだから、



オッカヨ カラ ペ アナク アエ カ エラミシカリ ノ オカアン  
**okkayo kar pe anak a=e ka eramiskari no oka=an**  
 男が作ったものは、私たちは食べたことがなくていた。

エオッセタッコ キ ルウェ ネ アクス  
**eossetakko ki ruwe ne akusu**  
 長いことそうしていたところ、

ネウン ニシパ ウタラ カムイ ヘ オカ アイヌ エ オカ ヤ  
**neun nispa utar kamuy he oka aynu h\_e oka ya**  
 どこのニシパ達か、神か、人間か、

アエラミシカリ ヤッカ ネウン ウタラ オカ クスケライポ エネ サクネ カ  
**a=eramiskari yakka neun utar oka kusukeraypo ene sakne ka**  
 わからないが、この人たちが、居たおかげで、このように去年の夏も

アマツネポウタリ ウンケライ ワ シケ キ ワ アラキ クスケライポ  
**a=matnepoutari unkeray wa sike ki wa arki kusukeraypo**  
 娘たちは贈り物をもって背負ってきた。おかげで

オッカヨ カラ ペ アエ ヤイライケアン パテク ネ ヤッカ キ アクス スイ  
**okkayo kar pe a=e yairayke=an patek ne yakka ki akusu suy**  
 男が作ったものを私たちは食べて、感謝してばかりいたけれども、また

エネ カ イカ アオシケ シリ エネ アニ アン」  
**ene ka i=ka a=osike siri ene an h\_i an**  
 このように、私たちに荷物をいっぱい背負ってきてくれたことよ。」

セコロ ハワン コロ ヌペ トウラ オンカミ ア オンカミ ア エシルシ ランケ  
**sekor hawan kor nupe tura onkami a onkami a esirus ranke**  
 と言って、泣きながら拝礼して拝礼して、頭を何度も下げては、

オンカミ ア オンカミ ア コロ オラウン レウシ オカアン  
**onkami a onkami a kor oraun rewsu oka=an**  
 拝礼して拝礼して、それから私たちは泊まって、

オラノ トウッコ レレコ オカアン コロ ケシト アン コン ネノ  
 orano tutko rerko oka=an kor kesto an kor\_ neno

そして2、3日居て、毎日のように

エキムネアン パ レン アネ ワ エキムネアン コロ カムイ ヘネ ユク ヘネ  
 ekimne=an pa ren a=ne wa ekimne=an kor kamuy hene yuk hene

山に登って、三人で山に行っては、熊とか鹿とか

アエアウナルラ コロ オカアン ルウェ ネ アイネ オラノ  
 a=eawnarura kor oka=an ruwe ne ayne orano

獲って来て、そして、

「タネ ホシッパアン クス ネ ルウェ ネ コロカ  
 “tane hosippa=an kusu ne ruwe ne korka

「もう、私たちは戻ることにしよう。けれど、

アアクタリ タネ ホシッパアン クス ネ ルウェ ネ コロカ  
 a=akutari tane hosippa=an kusu ne ruwe ne korka

弟たちよ、もう戻るのだけれど、

アオカ アナク オッカヨ ネ パテク レナネ ワ オカアン  
 aoka anak okkayo ne patek ren a=ne wa oka=an

私たちは男ばかり三人でいて、

スケ メノコ スウェ プ カ アエ カ エラミシカリ テ パクノ キ ルウェ ネ  
 suke menoko suwe p ka a=e ka eramiskari te pakno ki ruwe ne

料理をする女が煮るものを食べたこともないで、今までいたのだ

アワ ソモ…… チセ コン ニシパ コラムサウヌ ワ  
 awa somo... cise kor\_ nispa koramusawnu wa

が、家主様は（私たちの）願いを聞き入れて、

マツネポ イナニケ カ ソモ イトゥラレ ルスイ ルウェ ヘ アン？」  
 matnepo inanike ka somo i=turare rusuy ruwe he an?“

娘さんをどなたか私たちと一緒にさせたくないですか？」

セコロ カネ アポロユピ ハウエアン アクス

sekor kane a=poro-yupi hawean akusu

というふうに大きい兄が言うと、

「ピリカ ハウエ ネ エアシリ オリパカン アシヌマ アナク オリパカン

"pirka hawe ne easir oripak=an asinuma anak oripak=an

「結構なお話です。本当に恐れ多いことと思い、私は恐縮して、

カムイ ウタラパ ネ ノイネ オカ ウタン ネ クス オリパカン クス

kamuy utarpa ne noyne oka utar\_ ne kusu oripak=an kusu

威風堂々とした神らしくいる人達なので、私は恐縮して

ニシパ ウタラ イェ プ アナクネ アハイタ エアイカプ ルウェ ネ ナ

nispa utar ye p anakne a=hayta eaykap ruwe ne na

あなた方が言うことをないがしろにすることはできません。

イナン ペ ネ ヤッカ トウラ ヤン」

inan pe ne yakka tura yan”

どの子でも連れて行ってください」

セコロ カネ ハウエアン アクス

sekor kane hawean akusu

と、言ったので

ネア キヤンネ ノイネ アン イヨトウタヌ キヤンネ ノイネ アナンク (?)

nea kiyanne noyne an iotutanu kiyanne noyne an anku(?)

その年上らしい、2番目に年上らしい(娘)は、

ウクペテケハイタ ルウェ ネ アクス ポニウネ ヒケ

ukpetekehayta ruwe ne akusu poniwne hike

大慌てで支度をしていると、年下の方が、

「アシヌマ カ タシ エネ ヤイヌアニ ネ」

“asinuma ka tas ene yaynu=an h\_i ne”

「私こそ、そう思っていたのに。」

セコロ ハウエアン コロ ライパラパラク アクス  
**sekor hawean kor rayparaparak akusu**

と言って、大声で泣き叫ぶので、

アポロユピ エネ ハウエアニ  
**a=poro-yupi ene hawean h\_i**

大きい兄はこのように言って、

「ハウエ ネ チキ アポン アアキ テ タ アン ワ  
**“hawe ne ciki a=pon a=aki te ta an wa**

「それでは、小さい弟よ、ここに居て、

と ハウエアン ペ トウラノ アン ワ オンネ ウタラ  
**TO hawean pe turano an wa onne utar**

と、言っているものと一緒に居て、年寄りたちの

カシ オイキ ヤク ピリカ ナ スイ アエチホカヌカン ランケ クス ネ ナ」  
**kasi oyki yak pirka na. suy a=eci=hokanukar\_ranke kusu ne na“**

面倒を見るといいよ。また、私がお前たちをちょいちょいたずねてくるからな」

セコロ カネ ハウエアン コロ オラノ ネア イコキヤンネ アン メノコ  
**sekor kane hawean kor orano nea ikokiyanne an menoko**

というふうに言いながら、それから、例の年上の女は

ウクペテケハイタ ヒネ アユプタリ トウラ ヒネ パイエ ヒネ イサム。  
**ukpetekehayta hine a=yuputari tura hine paye hine isam.**

あわてて支度して大きい兄たちと一緒に行ってしまいました。

シネンネ アイホツパ。エアラキンネ アエラムチュプテク ワ オケレ  
**sinenne a=i=hoppa. earkinne a=eramucuptek wa okere**

私は一人残されて、たいへん心細くなってしまって、

シネン アネ アイホツパ イキ オラノ テ パクノ  
**sinen a=ne a=i=hoppa iki orano te pakno**

一人で残されてそして、今まで

アユプタリ トウラノ パテク アナン ワ アユプタリ トウラ ウパクノ ネノ  
**a=yuputari turano patek an=an wa a=yuputari tura upakno neno**  
 兄たちと一緒にだけ居て、兄たちと一緒にと同じぐらいのように

イラマンテ カ アエアシカイ ペ ネ アクス アイホッパ プ ネ クス  
**iramante ka a=easkay pe ne akusu a=i=hoppa p ne kusu**  
 猟をするのも上手なので、私は残されたものなので、

エネ アイェ ヒ カ イサム。アポロユピ イェ プ  
**ene a=ye hi ka isam. a=poro-yupi ye p**  
 なんとはいふようもない、大きい兄が言うことに、

アハイタ カ エアイカプ ペ ネ クス オラノ  
**a=hayta ka eaykap pe ne kusu orano**  
 背くわけにはいかないのです、そして、

ネロク オンネ ウタラ カシ アオイキ コロ オカアン アイネ ウェンカス  
**nerok onne utar kasi a=oyki kor oka=an ayne wenkasu**  
 私が例の年寄りたちの世話をしている、あまりにも、

アユプタリ アエシカルン パ イ クス ホシッパアン パクノ オンネ ウタラ  
**a=yuputari a=esikarun pa h\_i kusu hosippa=an pakno onne utar**  
 兄たちが恋しいので、私たちが戻るまで、年寄りたちが

エ クニ プ ネ チキ ホカオ クニ プ ネ チキ サマ アオクタ エアシリ カ  
**e kuni p ne ciki hokao kuni p ne ciki sama a=okuta easir ka**  
 食べれるような 物も、燃やすようなものも、そばに全部あけて（山積み）にして

エネ ネ ワ エ パ エアシカイ クニ ネ アカラ ワ エネ ネ ワ  
**ene ne wa e pa easkay kuni ne a=kar wa ene ne wa**  
 本当にこのようにして、食べることができるようにしてこのようにして

ワッカ ヘネ アタ ワ ポロンノ アコロパレ アエプ ネ チキ チェプ ネ チキ  
**wakka hene a=ta wa poronno a=korpare aep ne ciki cep ne ciki**  
 水も汲んで、たくさんの食べ物も魚も与えて、

ネプ ネ ヤッカ アコアリキキ プ ネ クス ネプ エ ルスイ パク カ イサム  
 nep ne yakka a=koarikiki p ne kusu nep e rusuy pak ka isam

なんであっても、頑張って獲ったので、何を食べたいとも思わないほど（食料を集めて）

ネア ポン メノコ カ イネアプ ユプテク ワ シリキ ヤ カ エラミシカリノ  
 nea pon menoko ka ineap yuptek wa siriki ya ka eramiskarino

例の若い女も、なんとまあ、しっかりとした働き者であるかわからないほど

イキ プ ネ クス キナ ラタシケプ ヘネ ネプ ヘネ ネ ヤッカ  
 iki p ne kusu kina rataskep hene nep hene ne yakka

働くので、山菜の混ぜ煮とか、何であつても

ポロノ カラ ワ オンネ ウタラ エ パ クニ プ アコホツパ パ イネ オラ  
 porono kar wa onne utar e pa kuni p a=kohoppa pa h\_ine ora

たくさん作って、年寄りたちが食べるものを私たちは置いて行って、そして

「アシヌマ カ アユプタリ アエシカルン クス イルカ アマチ アトゥラ ワ  
 “asinuma ka a=yuputari a=esikarun kusu iruka a=maci a=tura wa

「私も兄たちが恋しいので、ちょっとの間、妻と連れ立って、

パイェアン テク ワ アラキアン クス ネ ナ」  
 paye=an tek wa arki=an kusu ne na“

ちょっと行ってきます」

セコロ カネ ハウエアナン ルウエ ネ アクス  
 sekor kane hawean=an ruwe ne akusu

と、言うと、

オンネ クル オンカミ ア オンカミ ア  
 onne kur onkami a onkami a

老人は何度も拝礼して

「ヤッカ ピリカ ルウエ ネ  
 “yakka pirka ruwe ne

「行ってもいいよ。

タネ タネノ アエ プ ネ ヤッカ ホカ アオ クニ プ ネ チキ  
**tane ta neno a=e p ne yakka hoka a=o kuni p ne ciki**  
 今、このように私たちが食べるものでも、火にくべるようなものも

アエシリキラプ ソモ キ ノ エカラ シンネ ヤクン オツカイポ ニシパ  
**a=esirkirap somo ki no e=kar sinne yakun okkaypo nispa**  
 困ることがないように、してくれたようであれば、若旦那様の

エネ ハウエアン ヒ アハイタ エアイカプ クス  
**ene hawean hi a=hayta eaykap kusu**  
 言うことを、私はそまつにできないので、

フンタ パイエ ワ アラキ ヤン」  
**hunta paye wa arki yan”**  
 さあ行って来てください」

セコロ カネ イイエ ヒネ オラ  
**sekor kane i=ye hine ora**  
 と、私に言って、

オラノ アエヤイコプンテク クス オラノ ネア メノコ  
**orano a=eyaykopuntek kusu orano nea menoko**  
 そして、私は喜んだので、その女を

アトゥラ ヒネ オラノ アラキアナイン ニタナン ペ ネクス ネア メノコ  
**a=tura hine orano arki=an ayne nitan=an pe nekusu nea menoko**  
 同伴して、それから、私たちは来たあげく、私は足が速いものなので、その女は

イオカ ムケムケ コロ オラノ アラキアン アイネ  
**i=oka mukemuke kor orano arki=an ayne**  
 私の後から必死に手を伸ばしながら来て、やっと

ア…… アウニ タ シレパアン  
**a... a=uni ta sirepa=an**  
 私の家に着いた。

エアラキンネ アユプタリ エヤイコプンテク パ オラノ  
**earkinne a=yuputari eyaykopuntek pa orano**  
 兄たちは大変喜んで、そして

ウエヤイコプンテカン パ アポロユピ カ イネアプクスン  
**ueyaykopuntek=an pa a=poro-yupi ka ineapkusun**  
 お互いに喜び合って大きい兄も、なんとまあ、

イエヤイコプンテク ハワサ カ エラミシカリ アポイユピ  
**i=eyaykopuntek hawas y\_a ka eramiskari a=pon\_-yupi**  
 私たちのことを大変によろこんでくれた。ちいさい兄は

ネア メノコ コロ ヒネ オカ ルウェ ネ アアン ヒネ アウ タ  
**nea menoko kor hine oka ruwe ne aan hine aw ta**  
 その女をもらって暮らしていたのです。そして、中に

パイェアン オラ ネア メノコ ウタラ カ ウエヤイコプンテク パ コロ  
**paye=an ora nea menoko utar ka ueyaykopuntek pa kor**  
 入ると、その女たちもお互いに喜んでいました。

オラノ スイ ケシト アン コロ エキムネアン コロ オカアナイネ  
**orano suy kesto an kor ekimne=an kor oka=an ayne**  
 それから、再び、毎日私は山に登って暮らしては、

シネアンタ スイ アポロユピ エネ ハウエアニ  
**sineanta suy a=poro-yupi ene hawan h\_i**  
 ある日また、大きい兄がこのように言いました。

「エチオカ カ オホンノ エチオカ カ エアイカプ  
**“eci=oka ka ohonno eci=oka ka eaykap**  
 「お前たちはあんまり長い間居ることもできない。

オンネ ウタラ イヌヌケアシキ ネ クス  
**onne utar inunukeaski ne kusu**  
 老人たちが気の毒なので、



オホンノ エチオカ カ エアイカプ ルウエ ネ コロカ タント ネ  
**ohonno eci=oka ka eaykap ruwe ne korka tanto ne**  
 今日は長い間お前たちが居ることもできないけれど、

エキムネアン カトゥ ポンノ トウイマノ エキムネアン エアシリキ プ ネ ナ  
**ekimne=an katu ponno tuymano ekimne=an easirki p ne na**  
 私たちはちょっと遠くに狩りに行かねばならないぞ。

ホクレ ポロンノ アエプ ネ チキ ネプ ネ チキ…… イペ ヤン  
**hokure poronno aep ne ciki nep ne ciki... ipe yan**  
 さあ、たくさん、食べ物でも何でも、食べなさい。

オラ イット エキムネ ネ コロカ シノ ウエン ウシケ ウン  
**ora itto ekimne ne korka sino wen uske un**  
 そして、一日（で行けるところ）の狩りだけれど、本当にけわしいところで

エキムネアン コロ エアシリ ピリカ プ ネ ナ」  
**ekimne=an kor easir pirka p ne na “**  
 狩りをすると、いい獲物がとれるのだぞ」

セコロ カネ ハウエアン  
**sekor kane hawean**  
 と言いました。

オラノ イヨヤモクテアン パ コロ アポロ…… アポイユピヒ トウラノ  
**orano ioyamokte=an pa kor aporo... a=pon\_-yupihi turano**  
 そして、私たちが不思議に思いながら、小さい兄と一緒に

ヤイエトコイキアン パ フナク ウン イトゥラ スイ キ クス  
**yayetokoyki=an pa hunak un i=tura suy ki kusu**  
 身支度をしていてどこへまた一緒に行くと

ハウエアン セコン ラムアナン コロ キ アイネ イシムネ ヒケ  
**hawean sekor\_ ramuan=an kor ki ayne isimne hike**  
 言うのかと思って支度していると、

ノクンネイワ ワノ スイ アマトウタリ ホブンパ スケ パ  
**nokunneywa wano suy a=matutari hopunpa suke pa**  
 朝早くから私の妻たちは起きて料理をして、

イペアン テク コロ ナニ チソヨクダアン パ ヒネ オロワノ スイ  
**ipe=an tek kor nani cisoyokuta=an pa hine orowano suy**  
 私達はさっと食べて、すぐに外に飛び出して、それからまた

フナクン アコロ ペッ ペッ トウラシ パイエアン フム コ……  
**hunak un a=kor pet pet turasi paye=an hum ko…**  
 どこやらへ、私達の沢の川づたいに私達は上って

アプカシ ネ ワ アキ パ プ ネ コロカ ニタンカシパアン ペ ネ クス  
**apkas ne wa a=ki pa p ne korka nitan-kaspa=an pe ne kusu**  
 行って、私はするものであったけれど、私たちはとても足が速いので、

エアシリ カ ニタイ スットム アチクルレ ペコロ イキアン パ コロ  
**easir ka nitay suttom a=cikurure pekor iki=an pa kor**  
 それこそ、木の根元を通り過ぎるかのようにしながら、私達は競うように走り

アルケセンパアン マ パイエアン ルウェ ネ アイネ  
**arukesempa=an w\_a paye=an ruwe ne ayne**  
 私達は行ったあげく、

フナク タ パイエアン ヒネ フナク タ パイエアン ルウェ ネ アクス  
**hunak ta paye=an hine hunak ta paye=an ruwe ne akusu**  
 どこやらにやってきて、どこやらにやってくると

エアシリ カ フナク タ パイエアン ルウェ エネ アニ  
**easir ka hunak ta paye=an ruwe ene an h\_i**  
 本当にどこやらか、こんなところにやってきた。

ポロ メマ<sup>54</sup> アン タクuppe タイ オンネ ヘマンタ メマ アン ルウェ ネ ヒネ  
**poro mema an takuppe tay onne hemanta mema an ruwe ne hine**  
 大きい谷地原があったのです。谷内坊主の林の中に、何やら谷地原があったのでした。そうして、

オロ タ パイエアン コロ パイエアン ル トム タ

oro ta paye=an kor paye=an ru tom ta

そこに、私達は行きながら、行く道の途中で、

スイ アポロユピ カンニ カラ コアリキキ ヘンパク ヘンパク

suy a=poro-yupi kanni kar koarikiki hempak hempak

また大きい兄は棍棒を精を出して作って、いくつもいくつも、

カンニ カ アエモイモイケ エニタン クニ ネ オカ クニ ネ

kanni ka a=emoy moyke enitan kuni ne oka kuni ne

棍棒といっても、それを持ってすばやく動けるように、

アキシマ クニ オチシチシ ワ カラ カンニ ウサ ウサ イコロパレ

a=kisma kuni ociscis wa kar kanni usa usa i=korpare

持つところを削って作った棍棒をくれて、

「アヌカラ ペ アナク アライケ エアシリ キ ヤク エアシリ

“a=nukar pe anak a=rayke easir ki yak easir

「目にしたものは、殺したら、

イワカン エアシカイ ペ ネ ナ」

iwak=an easkay pe ne na"

家に帰れるぞ」

セコロ ハウエアン コロ キ ヒネ

sekor hawean kor ki hine

と、言いながら棍棒をくれて、

オラノ ネア メマ カランケ パイエアン マ インカラン シリ エネ アニ

orano nea mema karanke paye=an w\_a inkar=an siri ene an h\_i.

そして、その谷地原の近くに私達は行って辺りを見たところ、何であるのか

ネプ ネ ルウェ ネ ヤ チコイキプ ネ ルウェ ヘ ヤ ネプ ネ ルウェ ネ ヤ

nep ne ruwe ne ya cikoykip ne ruwe he ne ya nep ne ruwe ne ya

化け物であろうか、獣であろうか、何であろうか、

チヌマコシトシト ヌマ プサ エオラシナチツケ ヘマンタ オトプ ヘ  
cinumakositosito numa pusa eorasnacikke hemanta otop he

毛がぐしゃぐしゃと生えていて毛の房がだらりと下がって、髪なのか

ヘマンタ ネ ルウェ ネ ヤ ヌマ ヘ ヘマンタ ネ ルウェ ネ ヤ  
hemanta ne ruwe ne ya numa he hemanta ne ruwe ne ya

何なのか？ 毛なのか何なのか？

コヘクルプクテ (?) ヘマンタ アラカメアシ ネ シリ イキ プ  
kohekurpukte(?) hemanta arkameasi ne siri iki p

そのほうを振り向いてみると、何の化け物だが、

ネ タクuppe カ タ チアウエカッタ テク オロ ワ スイ チラエカッタ テク  
ne takuppe ka ta ciawekatta tek oro wa suy ciraekatta tek

谷内坊主の上に飛び移って、そこから、また飛び降りて

ネア ヤチ ポチポチ テク オロワ スイ チリケカッタ ポロ タクuppe  
nea yaci pocipoci tek orowa suy cirikekatta poro takuppe

その泥地を爪で引っ掻き回したと思うと、また急に飛び上がって、大きい谷内坊主、

タクuppe カ ペカ イキイキ カネ コラン シリ アヌカラ コロ パイエアン  
takuppe ka peka ikiiki kane kor an siri a=nukar kor paye=an

谷内坊主の上でとびまわっている様子を私達は見ながら行って、

パイェアン シリ ヌカラ。メマ ヤ タ パイエアン シリ ヌカラクス  
paye=an siri nukar. mema ya ta paye=an siri nukar akusu

(その化け物が) 私たちが行く様子を見て、谷地原の岸边を私達が行く様子を見ると、

オロワノ イヘコテ ワ エク シリ コンナ コラママツキ ルウェ ネ  
orowano i=hekote wa ek sir konna koramamatki ruwe ne

私たちのほうを向いてヒューと飛んできた。

アクス アポロユピ ホシキノポ シラライエ テク アラパ カンニ トウラ  
akusu a=poro-yupi hoskinopo siraraye tek arpa kanni tura i=kohopuni

すると、大きい兄は、まっ先にぱっと着物を脱いで、棍棒をもって私のところに飛んで来て、

イコホプニ オロワノ キク クス ネ コロ エアシリ ポロ プ ネ コロカ  
**orowano kik kusu ne kor easir poro p ne korka**

それから、殴ろうとすると、本当に大きなものである€のだが、

イネアプクスン カンニ エトク エコッ エコッ アキク プ ポカ  
**ineapkusun kanni etok ekot ekot a=kik p poka**

なんとまあ、棍棒の先をかわしかわし、殴ることも

エウエネウエン オロワノ ネノ アン ペ エウコシカンナツキレ オカ イネ  
**ewenewen orowano neno an pe ewkosikannatkire oka h\_ine**

できない。そして、そいつは、ぐるぐる回って

アポロユピ エネ ハウエアニ  
**a=poro-yupi ene hawean h\_i**

大きい兄はこのように言った、

「アポロアキ イオカリ シンキアン ナ イオカリ」  
**"a=poro-aki i=okari sinki=an na i=okari"**

「大きい弟よ。交代しなさい。私は休むから交代しなさい。」

セコロ カネ ハウエアニ ヒネ スイ アポロ…… アポイユピヒ  
**sekor kane hawean hine suy a=poro ... a=pon\_-yupihi**

と言って、再び小さい兄は、

シラライエ テキネ スイ リコテレケ オロワノ スイ カンニ  
**siraraye tek h\_ine suy rikoterke orowano suy kanni**

ぱっと服を脱いで再び飛び上がって、それから、また棍棒で

エコイキ キク ポカ エウエネウエン エアシリ  
**ekoyki kik poka ewenewen easir**

戦ったが、叩くこともできなくて、本当に

ネプ カ コイスム ヤク シンネノ カネ イキ プ ネクス  
**nep ka koysum yaku sinneno kane iki p nekusu**

何か泡をつぶすような感じなので<sup>[6]</sup>、

アキク ポカ エウエネウエンノ イキ アイネ スイ アポンユピ  
**a=kik poka ewenewenno iki ayne suy a=pon-yupi**  
 叩くこともできなくっているうちに、あげく、再び、小さい兄は

「シンキアン ナ アポナアキ イオカリ ワ イコレ」  
**“sinki=an na a=pon a=aki i=okari wa i=kore”**  
 「疲れたから、小さい弟よ。私と交代しておくれ。」

セコロ カネ ハウエアン タ スイ シラライエアン テク カンニ トウラ  
**sekor kane hawean ta suy siraraye=an tek kanni tura**  
 と、言われて、再び、私はぱっと服を脱いで、棍棒を持って

イコホプニアン オロワノ スイ ウエシカンナッキアン イキアン アイネ  
**ikohopuni=an orowano suy uesikannatki=an iki=an ayne**  
 立ち上がり、それからまたお互いにぐるぐる回りあったあげく

ウエイ サパ フナク オロケ アシリコキク  
**wen\_ sapa hunak orke a=sirkokik**  
 悪い頭のどこかを私は強くたたいて、

アキク フム コンナ ヤクナタラ ヤッコサンパ  
**a=kik hum konna yaknatara yakkosanpa**  
 たたいて砕けてつぶれるようなものすごい音がした。

アトイコキッキク ルウェ ネ アクス オロ タ スイ アユプタリ アラキ ヒネ  
**a=toykokikkik ruwe ne akusu oro ta suy a=yuputari arki hine**  
 私はひどく何回も殴っていたためつけたので、そこにまた、兄達に来て、

レン アネ ワ アウコキッキク アイネ アライケ ルウェ ネ アクス スイ  
**ren a=ne wa a=ukokikkik ayne a=rayke ruwe ne akusu suy**  
 三人で一緒にバンバンたたいたあげく、私が殺したので、再び、

ネア アポロユピ ネア ウエン カムイ サパ トウイテクテキネ  
**nea a=poro-yupi nea wen kamuy sapa tuytektek h\_in**  
 その大きい兄はその悪いクマの頭をバサッときって、

イホトゥ…… イヘコテ オスラ テク コロ ハウエアニ  
i=hotu... i=hekote osura tek kor hawean h\_i

私のほうにぼんと投げて、こう言って、

「スマウコロ コロ アエコシナ」

“sumawkor kor a=e=kosina”

「獲物をしとめたら、お前にまかせる。」

セコロ カネ ハウエアニ コロ イヘコテ オセ  
sekor kane hawean kor i=hekote ose

と、いいながら、私のほうに持ってきた。

「マキプ エネ ピシノ ピシノ エネ イイエ イ アン？」

“makip ene pisno pisno ene i=ye h\_i an?”

「どうしてこう、そのたんびにこのようにいうのか」

セコロ ヤイヌアン コロ

sekor yaynu=an kor

と、私は思いながら、

エアラキンネ イヨクヌレアン コロカ エネ ハウエアニ エホシ イキアン カ  
earkinne iokunure=an korka ene hawean h\_i ehosi iki=an ka

本当にあきれたけれど、何を言うこともさからうことも、

エアイカプ ペ ネ クス オラ スイ ニトウイエアニネ アエエンケ イネ  
eaykap pe ne kusu ora suy nituye=an h\_ina a=eenke h\_ina

できないもの、だから、それからまた木を切って、私は尖らせて、

サパ アエウシ ヒネ オラウン ネア ヤチ オルン ヘポキキ クニ ネ  
sapa a=eusi hine oraun nea yaci or un hepokiki kuni ne

頭をその先に刺して、それから、その泥地に頭を下げるように、

エンプイナ クニ ネ アアシ コロ イタカナウエ エネ アニ  
enpuyna kuni ne a=asi koritak=an h\_awa ene an h\_i

前のめりになるように、私は立てて、こう言いました。

「タン ウシケヘ エエラマス ワ オロ エオコタンコロ ペ ネ アクス

"tan uskehe e=eramasu wa oro e=okotankor pe ne akusu

「ここはお前が気に入っていて、お前の村があるところなので

エネ ネ クニ テワノ アナクネ オヤク ウン エホサリ カ ソモ キ ノ

ene ne kuni tewano anakne oyak un e=hosari ka somo ki no

このように、これからは、よそへ振り向くこともしないで、

タン ヤチ エポチポチ エタチタチ エエヤイコパトウパトウ エエヤイコタチ

tan yaci e=pocipoci e=tacitaci e=eyaykopatupatu e=eyaykotaci

この谷地でお前は泥遊びして、塗りたくって、自分に跳ねちらかして、自分に塗りたくって、

エエヤイパナコパトウパトウ コロ クンネ ヘネ

e=eyaypanakopatupatu kor kunne hene

自分に埃を跳ねちらかして、夜でも、

サケネ マタ ヘネ ネ ヤッカ ネノ エイキ コロ エアン アイネ

sak h\_ene mata hene ne yakka neno e=iki kor e=an ayne

夏でも冬でもお前はそうしていたあげく、

エコエンプイナ ヤクン アッ テイネ モシリ アラ ポクナシリ

e=koenpuyna yakun ar\_ teyne mosir ar poknasir

前にのめると、湿った世界、地下の世界に

エオアラパ クニ プ ネ クス タプタプ アエカン ナ」

e=oarpa kuni p ne kusu taptap a=e=kar\_ na”

お前は行くはずなので、これこのとおりにお前をしてやるぞ」

セコロ ハウエアナン コロ

sekor hawean=an kor

と、私は言いながら

ニ アエタラレ ヒネ エンプイナ クニ ネ アカラ ヒネ アホツパ ルウエ ネ

ni a=etarare hine enpuyna kuni ne a=kar hine a=hoppa ruwe ne

木に刺して、前にのめるようにして、残していったのです。



オラノ スイ サパン オラノ サパニネ スイ アウニ タ サパン  
 orano suy sap=an orano sap=an h\_inē suy a=uni ta sap=an  
 それから再び私達は下って、そして下って再び私達の家を下って、

「イヨクヌレアン マカナキ ペ ネ アポロユピ° オロ タ オロ タ  
 "iokunure=an makanaki pe ne a=poro-yupi oro ta oro ta  
 「ああ驚いた。どうして兄さんは、そこここに、

ウエンカムイ オカ アニ ヌカラ ワ ヘ エネ ハウエアン コロ ピシノ ピシノ  
 wenkamuy oka a h\_i nukar wa he ene hawean kor pisno pisno  
 化け物が居るのが見えるのか、そのように言って、そのたびにこのように

エネ アイエオクイ…… アエヤイケウコロ ノ オカイ ペ ハウエアニ アン」  
 ene a=yeokuy... a=eyaykewkor no okay pe hawean h\_i an "  
 私たちは恐ろしい目に合う話なのか」

セコロ ヤイヌアナクス  
 sekor yaynu=an akusu  
 と、私は思った。すると、

「アアクタリ スイ ニサッタ ネ  
 "a=akutari suy nisatta ne  
 「弟達よ、また、明日

スイ エキムネアン クス ネ スイ トウイマノ エキムネアン クス ネ ナ。  
 suy ekimne=an kusu ne suy tuymano ekimne=an kusu ne na.  
 また私達は狩りに行くので、その再び遠くの山に登るのですよ。

ヤイエトコイキ ヤン」  
 yayetokoyki yan"  
 身支度をしなさい。」

セコロ カネ ハウエアン オラノ  
 sekor kane hawean orano  
 と、言いました。それから、

ヤイエトコイキアン パ ヒネ オラ スイ ネ ニサッタ アナク  
**yayetokoyki=an pa hine ora suy ne nisatta anak**

身支度をして、そして、再びその明日は、

スイ ノクネイワノ メノコウタラ スケ ヒネ  
**suy nokuneywano menokoutar suke hine**

再びまだ暗いうちから、女達は料理を作って

イイペレ パ オラノ スイ ソヨ…… ソヨクタアン ワ オラノ ペツ トウラシ  
**i=ipere pa orano suy soyo... soyokuta=an wa orano pet turasi**

私たちに食べさせた。それから、また、私達は外にとび出して、そして川づたいに

フナクン パイエアン フミ アエキサラストウ マウクルル コラチ  
**hunak un paye=an humi a=ekisarsutu mawkururu koraci**

どこかに行く音が私の耳元で風がビュービューと鳴って、

ニタナン ペ ネ プ ネ クス アセトウル タ  
**nitan=an pe ne p ne kusu a=seturu ta**

私達は足が速いものなので私の背中で

イカヨブ オマウテスス カネ  
**ikayop omawtesusu kane**

矢筒が風で浮き上がるようにして、

パヨカアン シリ アン コロ オラノ パイエアン アイネ  
**payoka=an siri an kor orano paye=an ayne**

走り回りながら行ったあげく、

フナク タ パイエアン ルウェ ネ アクス ウエンクッ オンネ ウシケ タ  
**hunak ta paye=an ruwe ne akusu wenkut onne uske ta**

どこやらに行くと、ひどい崖の朽ちた処に

パイェアン ルウェ ネ アクス クッ ホントム タ ウエンクッ  
**paye=an ruwe ne akusu kut hontom ta wenkut**

私達は行ったのです。すると、ひどい崖の真ん中で、

オンネ クツ ホントム タ ヤイラム ネプ カ アン ペ ネ ノイネ シラン  
**onne kut hontom ta yayram nep ka an pe ne noyne siran**  
 朽ちた崖の真ん中で、思うに何かが生んでいるらしい様子で

ネプ カ チセ アン ペ ネ ノイネ シラン ルウェ ネ アクス  
**nep ka cise an pe ne noyne siran ruwe ne akusu**  
 何か家に居るものがあるらしい様子です。なので、

オラノ アポロユピ エネ ハワン  
**orano a=poro-yupi ene hawan**  
 そして、大きい兄がこのように言いました。

「ホクレ アッケプ ヤン  
**"hokure atkep yan**  
 「早く、オヒョウの皮剥ぎをなさい。

アアクタリ アッケパン クス ネ ナ」  
**a=akutari atkep=an kusu ne na"**  
 弟達よ私達は皮剥ぎをするんですよ。」

セコロ ハウエアン コロ アッケパン ロク アン ロク ウサ ウサ キ アイネ  
**sekor haewan kor atkep=an rok =an rok usa usa ki ayne**  
 と、言いながら、私達はオヒョウの皮剥ぎをしてして、いろいろしたあげく、

コント アエカ ハラキカ ネ ハラキカ ネ アエカ ロク アエカ ロク  
**konto a=eka harkika ne harkika ne a=eka rok a=eka rok**  
 今度、私は縄よりして縄で縄をよってよって、

ルイノ キ アイネ アウエロシキ ワ オラノ アエカ ロク アエカ ロク ヒネ  
**ruyno ki ayne a=ueroski wa orano a=eka rok a=eka rok hine**  
 たくさんよって、山積みにして、それからよってよって、

オラウン  
**oraun**  
 そして

「フンナ シノ アポンアキヒ ヘ アポロアキヒ ヘ タ

"hunna sino a=pon-akihi he a=poro-akihi he ta

「誰か本当に、小さい弟か？ 大きい弟か？」

トアン ウェンクツ ホントム タ カメアシ アン ルウェ ネ ワ オロ ウン

toan wenkut hontom ta kameasi an ruwe ne wa oro un

そのけわしい崖の真ん中に、化け物がいて、そこに

アラキアン ルウェ ネ ワ フンナ シノ シコメウエ クス ラン」

arki=an ruwe ne wa hunna sino sikomewe kusu ran "

私達は来て、誰が本当に挑発しに下りるのか？」

セコロ カネ ハウエアン

sekor kane hawean

と、言って

「フンタ アポンアキヒ シノ アオトゥワシ ナ

"hnta a=pon-akihi sino a=otuwasi na

「さあ、小さい弟よ！ 本当に私は頼りにしてますよ。

フンタ アエアタラ…… アエアテランケ ワ ネプ カ チソイエカッタ ヤクン

hnta a=e=atar ... a=e=ateranke wa nep ka cisoyekatta yakun

さあ、お前を紐で下す。何か飛び出して来たら、

アエエタイエ プ ネ ナ」

a=e=etaye p ne na "

私がお前を引っ張り上げるから」

セコロ カネ ハウエアン コロ スイ カンニ カラカラ

sekor kane hawean kor suy kanni karkar

と、言いながら、再び棍棒を作って、

オラノ タンペ オツ タ アナク シネ カンニ ランケ ソモ ネ ノ

orano tanpe or\_ ta anak sine kanni ranke somo ne no

それから今回は棍棒一本づつではなく

カンニ トシカ カラカラ ヒネ アリクツ キプカ タ キ ヒネ オラウン

**kanni toska karkar hine arikut kipka ta ki hine oraun**

山のような棍棒を作って、崖のてっぺんでして（棍棒を作って）、そして

アイアテランケ イトウシコツパ ヒネ

**a=i=ateranke i=tuskotpa hine**

私は紐でぶら下げられ、綱をむすびつけられて、

アユプタリ イアテラプテ ルウェ ネ ヒネ

**a=yuputari i=aterapte ruwe ne hine**

兄達が私を紐でぶら下げて

フナク タ ラナン ルウェ ネ アクス ポンノ カイサンカンヌ ウシケヘ タ

**hunak ta ran=an ruwe ne akusu ponno kaysankannu uskehe ta**

どこやらに私が下りると、勾配が緩くなったところに

ラナン テク コロ ネア ウエンクツ ホムトム パッコサンパ。

**ran=an tek kor nea wenkut homtom patkosanpa.**

ちょっと私が降りると、例のひどい崖でパッと音がした、

マカナク アン ペ ネ ヤ チソイエカッタ ウェンムニラ ウェントイラ

**makanak an pe ne ya cisoyekatta wenmunira wentoyra**

何者かが外に飛び出した。草ごみや土ごみを

シオコテ プ チソイエカッタ ヒ タ ナニ ネア トウシ アコテクラムユププ

**siokote p cisoyekatta hi ta nani nea tus a=kotekramyupupu**

身につけて外に飛び出したときに、すぐに例の綱を私は手で強く引いた

ネ クス オロワノ アユプタリ エタイパ パ イエタイパ パ オロワノ

**ne kusu orowano a=yuputari etaypa pa i=etaypa pa orowano**

ので、兄達は引っ張って、私を引っ張った。すると、

イオシ エネ アン ウエンクツ オツ タ イオシ イオカ ハイタ ハイタ コロ

**i=os ene an wenkut or\_ ta i=os i=oka hayta hayta kor**

私の後を、あのようにひどい崖を、私の後にもうちょっとで届きそうな勢いで追いかけてきて

オロワノ アイエタイェ アエラム カ カリカリ コロ アイエタイェ アイネ  
**orowano a=i=etaye a=eramu ka karikari kor a=i=etaye ayne**

それから私は引っ張られて、めまいがするほど引っ張られたあげく、

クッ キプカ タ アテシコサンパ イオシ テシコサンパ プ オロワノ エカリ  
**kut kipka ta a=teskosanpa i=os teskosanpa p orowano ekari**

崖の上にはっと下り立った、私の後ろに飛びあがってきたものは、そこに向かって

アユプタリ カンニ エコイキ パ アシヌマ カ レン アネ ワ オラノ  
**a=yuputari kanni ekoyki pa asinuma ka ren a=ne wa orano**

兄達が棍棒で襲って、私も三人で

アカンニエコイキ パイエ ペウレプ パクノ アン ペ イキ コロカ  
**a=kanniekoyki paye pewrep pakno an pe iki korka**

棍棒で戦って(?) 小熊ぐらいの大きさのものだが、

エアシリ カ ネア アコサプマク カ アエランペウ (テク)  
**easir ka nea a=kosapmak ka a=erampew(tek)**

本当にXXXもわからない。

ケプトントネ サレトウブシケ ポオン ヌマポ チェチョツチャカラ キ  
**kep tontone saretupsike poon numapo cecotcakar ki**

毛が抜け落ちて、尾の先の処にほんのちょっと毛が生えている

キサレトウブシケ ポオン ヌマポ チェチョツチャカラ  
**kisaretupsike poon numapo cecotcakar**

耳の先の処にほんのちょっと毛が生えている。

ヘマンタ ケプトントネ ヘマンタ ネ エアシリ カ エアシラナ  
**hemanta kep tontone hemanta ne easir ka easirana**

何やら毛が抜けおちた化け物でそれこそ、

チリッチリリ ペコロ イキ プ ネ クス  
**ciritcirir pekor iki p ne kusu**

XXXものなので、

イピシカニケ ウエカリレ オロワノ レン アネ プ ネ クス

**i=piskanike uekarire orowano ren a=ne p ne kusu**

(兄たちは)私の周りに集まって、私たちは三人いるので

カンニ アコケッケ コロ カワリ スイ カンニ アウイナ ワ アニ

**kanni a=kokekke kor kawari suy kanni a=uyna wa ani**

棍棒が折れると、代わりの棍棒を受け取ってそれでもって

アカン ロカイネ スイ アヤ…… シリカ アオマレ アウコキッキク アイネ

**a=kar\_ rok ayne suy a=ya... sirka a=omare a=ukokikkik ayne**

叩き続けて、地面に叩き伏せて、みんなで殴りつけたあげく

シリカ アオマレ ルウエ ネ アクス スイ レクチ トウイテクテク

**sirka a=omare ruwe ne akusu suy rekuci tuytektek**

地面の上に置いたので再び首をパッとちよん切って

アポロユピ キ コロ イヘコテ オスラ

**a=poro-yupi ki kor i=hekote osura**

大きい兄はその首を私に向かって投げました。

「スマウコロ クル スイ アエコシナ」

“**sumawkor kur suy a=e=kosina** “

「獲物を捕った人にまたまかせるよ」

セコロ ハウエアン コロ

**sekor hawean kor**

と言って、

イヘコテ オスラテク タンペ オツ タ エネ アイェ クニ カ

**i=hekote osuratek tanpe or\_ ta ene a=ye kuni ka**

私の方へ、ぱっと投げた。今回も何も言いようが

アエランペウテク ヒ クス オロワノ ヤイコシラムスイパアン。

**a=erampewtek hi kusu orowano yaykosiramususyupa=an.**

ないので、それから、いろいろ考えた。

「オロ タ タシ チセコラン ウシケ ネ ワ エラマス クス

**“oro ta tasi cisekor=an uske ne wa eramasu kusu**

「そこにこそ、家を持っている場所で、気に入っているのだからこそ、

オロ タ チセコロ ワ アン ウシケ ネ クス

**oro ta cisekor wa an uske ne kusu**

そこに家を持っているところなのだから、

エウン アエヤプキリ ピリカ ナンコロ

**eun a=eyapkir pirka nankor**

そこにほうり投げられてもいいでしょう

セコロ ウエンクツ アサムン アエヤプキリ オロ ウン エンパイナ クニ ネ。

**sekor wenkut asam un a=eyapkir oro un enpuyna kuni ne**

と、けわしい崖の底に投げられて、そこに頭からのめりこむように、

アカラ ヤク タシ ピリカ ネク」

**a=kar yak tas pirka nek”**

するときっといいだろう」

セコロ ヤイヌアン クス スイ

**sekor yaynu=an kusu suy**

と、私は思ったので

ニエエンケアニネ ウエイ サパハ アエタラレ ヒネ オラ

**nieenke=an h\_inen wen\_ sapaha a=etarare hine ora**

木をとがらせて、化け物の頭を私はさして、

ウエンクツ キプカ タ スイ アエポキキレ オロ ワ トウルセ ヤクン

**wenkut kipka ta suy a=epokikire oro wa turse yakun**

ひどい崖の端の上でまた、頭を下げさせて、そこから、すとんと落ちると、

ウエンクツ アサム エアシリ ピウカオンネ ウエンクタサム ウン エシッチウ

**wenkut asam easir piwkaonne wenkut asam un esitciw**

ひどい崖の底に本当に石ばかりの川原で、けわしい崖の底にはまってしまう



クニ アエサンニヨ クニ ネ アアシ コロ イタカン ハウエ エネ アニ  
**kuni a=esanniyo kuni ne a=asi kor itak=an hawe ene an h\_i**  
 ように私は算段して立てて、このように言いました。

「オロ エエラマス エアシリ タン テ パクノ エコロ ウエンプリ  
**“oro e=eramasu easir tan te pakno e=kor wenpuri**  
 「ここを、お前が本当に気に入って、今まで、お前の悪い精神で、

エエカランケ プ カムイ ネ チキ アイヌ ネ チキ オロヤチキ  
**e=ekaranke p kamuy ne ciki aynu ne ciki oroyaciki**  
 お前に近づいてきたものを神でも人間でも、おそらく

エロンヌ コロ エアン ペ ネ アアン ワ  
**e=ronnu kor e=an pe ne aan wa**  
 お前が殺していたものだったが

カムイ エコイパク ワクス ヤヤン アイヌ アネ パ ヤッカ  
**kamuy e=koypak wakusu yayan aynu a=ne pa yakka**  
 神がお前をとがめたので、私たちはただの人間だが、

エアシリ アエウエンパカシヌ シリ ネ ワ テ ワ エエンプイナ ヤクン  
**easir a=e=wenpakasnu siri ne wa te wa e=enpuyna yakun**  
 本当にお前を罰してやるのだ。ここからお前が前のめりに落ちれば、

トゥ ワン ポクナシリ エコエンプイナ クス  
**tu wan poknasir e=koenpuyna kusu**  
 20の地下の国にお前は落ち込むのだから、

タップ タップ カムイ オロ ワノ チウエンパカシヌ アエエカラカラ シリ ネ ナ」  
**tap tap kamuy oro wano ciwenpakasnu a=e=ekarkar siri ne na“**  
 これこのとおり、神様からお前はひどく罰せられるのだよ」

セコロ アイエ コロ ウエンクツ キプカ タ タネ エンプイナ クニ ネ  
**sekor a=ye kor wenkut kipka ta tane enpuyna kuni ne**  
 と、私は言いながら、けわしい崖のてっぺんで、今にも前のめりに落ちるように、

アアシ ヒネ オラ イワカン パ ウェントウママ アナク ネノ アン マ  
 a=asi hine ora iwak=an pa wentumama anak neno an w\_a  
 私は立てて、それから皆で帰宅しました。化け物の身体は、

アオスルパ ヒネ イワカン パ ルウェ ネ オロワノ  
 a=osurpa hine iwak=an pa ruwe ne orowano  
 そのままに捨てて皆で帰ってきました。それから、

「イヨクヌレアン アポロユピ エネ マカン クス オロ タ オロ タ  
 “iokunure=an a=poro-yupi ene mak an kusu oro ta oro ta  
 「ああ驚いた。大きい兄は、どうして、その場その場で

ウェンカムイ オカ イ エラマン ハウエ エネ アニ アン」  
 wenkamuy oka h\_i eraman hawe ene an h\_i an”  
 悪い神が居ることをこのようにわかるのだろう」

セコロ ラムアナン…… ラムオカアン コロ オカアン コロカ  
 sekor ramuan=an... ramuoka=an kor oka=an korka  
 と、私たちは思っ居たけれど、

アイェ カ エヤイラムコン ノ オカアン ルウェ ネ アイネ  
 a=ye ka eyayramkor\_ no oka=an ruwe ne ayne  
 言おうと思ったけどあえて言わないでいて、あげく

アポロユピ エネ イタキ  
 a=poro-yupi ene itak h\_i  
 大きい兄がこのように言いました。

「エアシリ タン テ パクノ アイヌ アネ ワ  
 “easir tan te pakno aynu a=ne wa  
 「本当に今まで、私は人間であって、

アエチレシパ ルウェ ソモ ネ カトウ エネ アニ リクン カント タ  
 a=eci=respa ruwe somo ne katu ene an h\_i rikun kanto ta  
 お前たちを育てたのではありません。高い天の上の

ケソラプトノ アネ ヒネ アナン ルウェ ネ ヒケ  
**kesoraptono a=ne hine an=an ruwe ne hike**

クジャク神として居たのですが、

アイヌモシリ アヌカン ルスイ ワクス シネアントタ  
**aynumosir a=nukar\_ rusuy wakusu sineantota**

人間の国を見たかったので、ある日、

カント オロ ワ ラナン ヒネ ケウェリ ヌプリ カ タ アナン ワ  
**kanto or wa ran=an hine keweri nupuri ka ta an=an wa**

天から降りて高い山の上において、

モシリソ カ アシクシパレ ルウェ ネ アクス ペッ ペシ インカラン  
**mosirso ka a=sikkuspare ruwe ne akusu pet pes inkar=an**

国土の上をながめていたところ、川を下って見る

アクス インネ コタン チウエンテ コタン アン ヒネ オラウン オロ タ  
**akusu inne kotan ciwente kotan an hine oraun oro ta**

と、大きい村ですっかりだめになった村があつて、そしてそこで、

イナウチパ パラポク アエチコホクシパレ プ ネ アアン ヒネ  
**inawcipa parpok a=eci=kohokuspare p ne aan hine**

幣場のすぐそばで、祭壇がお前たちの上に倒してあつて、

エチウトウマム マ エチチシ コロ エチオカ ルウェ アヌカリケ  
**eci=utumam w\_a eci=cis kor eci=oka ruwe a=nukar h\_ike**

お前たちが二人で抱き合つて泣いていた。私はそれを見て、

エアラキンネ アエサンペハウケ。エチモシマノ アナン ヤクン  
**earkinne a=esampehawke. eci=mosmano an=an yakun**

非常に不憫に思った。お前たちを放っておいたら

ネン カ エチオナ ウタラ ノミ カムイ インネ コロカ  
**nen ka eci=ona utar nomi kamuy inne korka**

だれかお前たちの父たちが祈っていた神様は大勢いたけれど、

エチレス クニ ラム ウタラ カ イサム コトム アラム ヒ クス  
 eci=resu kuni ramu utar ka isam kotom a=ramu hi kusu

お前たちを育てようとするものはいないように思われて、だから、

オラウン サナン ヒネ アイヌ ネ ヤイカラン ワ タン テ パクノ  
 oraun san=an hine aynu ne yaykar=an wa tan te pakno

それから、私が下りて、人間になって、今まで

アエチレシパ ワ アナン ルウェ ネ ワ タネ アナク アエチマッコレ カ キ  
 a=eci=respa wa an=an ruwe ne wa tane anak a=eci=matkore ka ki

お前たちを育てていたのだ。今は私がお前たちを結婚させて、

オラウン アエチコエヤム ペ オカ カトゥフ アロンヌ ソモ キ ノ  
 oraun a=eci=koeyam pe oka katuhu a=ronnu somo ki no

そして、お前たちが気がかりになるような存在を、殺さずに

カント オルン リキナン カ エアイカプ アエチエポタラ ワクス キ ワクス  
 kanto or un rikin=an ka eaykap a=eci=epotara wakusu ki wakusu

天に上ることもできず、お前たちのことが心配なので、そうした（殺した）のだから、

エネ アエチトゥラ ランケ カンナ カンナ キ ヒ ネ シリ  
 ene a=eci=tura ranke kanna kanna ki hi ne siri

お前たちを連れ回して、何度も何度もした（魔物を退治した）ことを、

エチエ ヤ…… エチイエオヤモクテ ナンコロ ヤッカ  
 eci=e ya... eci=i=eoyamokte nankor yakka

お前たちは私のことを変だと思ったでしょうが、私は神である

アシヌマ アナク カムイ アネ クス アヌカラ コロ アナン ペ ネ クス  
 asinuma anak kamuy a=ne kusu a=nukar kor an=an pe ne kusu

ので、私には見えていたものだから、

エネ イキアン ランケ ヒ ネ ルウェ ネ。  
 ene iki=an ranke hi ne ruwe ne.

このようなことを繰り返していたのだ。

ナ ネンポカ イキ ワ サケカラ ヤン。テ パクノ アエチレシパ ヒネ  
**na nenpoka iki wa sakekar yan. te pakno a=eci=respa hine**  
 何とかして酒を造ってください。今まで、私がお前たちを育てて、

オラウン サケ サクノ カムイモシルン リクン カント ウン リキナン カ  
**oraun sake sakno kamuymosir un rikun kanto un rikin=an ka**  
 それから、酒もないで神の国に高い天に私が上るのも、

エヤイパセレ ルウェ ネ ナ ネン ポカ イキ ワ ヤイエトコイキ ワ  
**eyaypasere ruwe ne na nen poka iki wa yayetokoyki wa**  
 避けたい。何とかして、自分たちで準備して、

サケカラ ワ イコロパレ ヤン ワ サケ アニ イナウ アニ  
**sakekar wa i=korpore yan wa sake ani inaw ani**  
 酒を造ってください。そして、酒やイナウで（祈って）

エチ……… アエチホツパ クニ ネ イキ ワ イコレ ヤン」  
**eci... a=eci=hoppa kuni ne iki wa i=kore yan”**  
 私がお前たちを残していけるようにしてください」

セコロ カネ ハウエアン  
**sekor kane hawean**  
 と言って、

オラノ チサン ロク アン ロク オロヤチキ パセカムイ ネ ワ  
**orano cis=an rok =an rok oroyaciki pasekamuy ne wa**  
 そこで、私たちは泣き続けて、思うに（兄は）位の高い神で

エネ イレシパ ワ タン テ パクノ オカアン ヒネ アアン ペ  
**ene i=respa wa tan te pakno oka=an hine aan pe**  
 私たちをこのように育ててくれ、今の今まで暮らしていたのだなあ。

ヤヤン アイヌ エネ ネ ワ イレス シリ ネ クナク アラム ア プ エネ ネ  
**yayan aynu ene ne wa i=resu siri ne kunak a=ramu a p ene ne**  
 普通の人間であって私たちを育ててくれていたのだと私は思ったのだったがこのように

ハウエアニ アン セコロ ヤイヌアン パ ポ アポイユピヒ トウラノ チサン  
**hawean h\_i an sekor yaynu=an pa po a=pon\_-yupihi turano cis=an**  
 話だったのだと、私達みんな思って、なおいっそう小さい兄と一緒に泣いて、

アロロキシネ キ コロ ヤイライケアン オロワノ ネン ポカ イキアン アイネ  
**arorkisne ki kor yairayke=an orowano nen poka iki=an ayne**  
 そっと内緒でしながら感謝して、それから、私たちは何とかして、

アマトウタリ カ アリキクパ プ ネクス  
**a=matutari ka arikikpa p nekusu**  
 妻たちも働き者なので、

ヘマンタ アニ サケカラウエ ネ  
**hemanta ani sakekar hawe ne**  
 何を使って酒を造った話だか。<sup>[7]</sup>

ヒネ サケカラン パ イナウ アケ ロク アケ ロク カムイコヤイライケアニ  
**hine sakekar=an pa inaw a=ke rok a=ke rok kamuykoyairayke=an h\_i**  
 皆で酒を造って、私はイナウを削って、削って、神に感謝の言葉を

アイエ ルウエ ネ コロ オラウン アポロユピ カラウト シネプ  
**a=ye ruwe ne kor oraun a=poro-yupi karawto sinep**  
 述べて、それから、大きい兄はつづらを一つ

サンケ ヒネ チシナ スウオプ シネプ パラカ タ アン ルウエ  
**sanke hine cisina suwop sinep parka ta an ruwe**  
 出して、縛られた宝箱が一つ梁の上にあったのを、

アヌカラ ペ ネ ア プ サンケ ヒネ オロワ  
**a=nukar pe ne a p sanke hine orowa**  
 私は見ていたがそれを出して、そこから

カムイ コソント サナサブテ ルウエ エアシラナ  
**kamuy kosonte sanasapte ruwe easirana**  
 神様の小袖を中から出すと、なんとまあ

カネペ ウシ だべさな、あのきれいなもの  
**kanepe us** だべさな、あのきれいなもの  
 金のものがついているべさな、あのきれいなもの、

(萱野茂：そうだな)

うん。

カネ コソソテ サウオクタ  
**kane kosonte sawokuta**  
 金の小袖を全部出して、

イワン コソソテ ウコエクッコロ イワン コソソテ オパネレ オラウン  
**iwan kosonte ukoekutkor iwan kosonte opanere oraun**  
 6枚の小袖と一緒に帯をしめて、6枚の小袖をはおって、それから（こう言った）、

「イタカン ハウエ エチヌ ナ エチイエシカルン パ ヤクン イヨッタ……  
 “**itak=an hawe eci=nu na eci=i=esikarun pa yakun iyotta...**  
 「私の言うことをお前たちはよく聞きなさい。お前たちが私を恋しく思うのなら、

エチエキムネ ワ イヨッタ ケウエリ ヌプリ カ タ エチオカ ワ  
**eci=ekimne wa iyotta keweri nupuri ka ta eci=oka wa**  
 お前たちが山に登って、最も高い山の上にお前たちが居て、

ヘリカシノ エチインカラ ヤクン アシヌマ ネ ヤッカ  
**herikasino eci=inkar yakun asinuma ne yakka**  
 上の方をお前たちが見ると、私も

アエチレシパ プ ネ クス エチノカニ ワノ アエチレシパ プ ネ クス  
**a=eci=respa p ne kusu eci=nokan h\_i wano a=eci=respa p ne kusu**  
 お前たちを育てたのだから、お前たちが幼い時から私が育てたものなので、

アエチエシカルン ヤクン ラナン ワ アエチヌカラン ルスイ クス  
**a=eci=esikarun yakun ran=an wa a=eci=nukarar\_ rusuy kusu**  
 私もお前たちが恋しくなったら、(天の下に) もぐってお前たちに自分の姿を見せたいので

ラナン シリ カントコトロ ウン エチイヌカラ カ キ クス ネ ナ」

ran=an siri kantokotor un eci=i=nukar ka ki kusu ne na”

私が下りた姿を、空の辺りで、お前たちが私を見るであろう」

セコロ カネ ハウエアン コロ オラノ モイレ アシ ペ アラム ワクス

sekor kane hawean kor orano moyre as pe a=ramu wakusu

と言って、それから、もっと遅くいくものと私は思ったのに、

ノ クンネイワノ チソイナライエ オトゥ タプカンル オレ タプカンル

no kunneywano cisoynaraye otu tapkanru ore tapkanru

朝早くに兄は外に出て行って、踏舞を何回も何回も

ウカクシパレ ヒケ オロワノ キ アイネ ヘリカシ ワ カントコトロ

ukakuspare hike orowano ki ayne herikasi wa kantokotor

繰り返したがそうしたあげく、上の方へ、天空へと

コシエタイェ リキニ ワノ タプ アイヌ ネ ペコロ ヤイヌアン ロク ペ

kosietaye rikin h\_i wano tap aynu ne pekor yaynu=an rok pe

わが身を引き去って、上って行くとき今人間だと思っていたものが、

チカプ カスノ ポロ チカプ ケソラプ カネ ケソラプ ネ ヒネ

cikap kasuno poro cikap kesorap kane kesorap ne hine

並みの鳥以上に大きな鳥のクジャク、金のクジャクとなって、

オラノ イエンカシケ エカリンパ チョロポッケ アエパシ パ

orano i=enkaske ekarinpa corpokke a=epas pa

そして、私の上でぐるぐる回り、その下を私達は走った。

チサン コロ キ パ コロ ネア アポロユピ ネ イ カ ヤッカ

cis=an kor ki pa kor nea a=poro-yupi ne h\_i ka yakka

泣きながら走っていくと、あの大きい兄も

ランケ ヌペ ルヤプト クンネ イクルカシケ チオランケ コロ

ranke nupe ruyapto kunne i=kurkaske cioranke kor

流す涙を激しい雨のように私たちの上に落として、



イエンカシケ エカリンパ アイネ オラウン カントコトロ コオムコッケ  
**i=enkaske ekarinpa ayne oraun kantokotor koomukokke**  
 私たちの上を、ぐるぐる回って、そこから、空に上って姿を消した。

オロワノ エネ ヘ タプ イレシパ シリ ピリカ プ  
**orowano ene he tap i=respa siri pirka p**  
 それから、こんなにも私たちが良く育ててくれたのに

カムイ アユピヒ ネ ア クス  
**kamuy a=yupihi ne a kusu**  
 兄は神様だったので、

タネ アナクネ ソモ アヌカラ オアシ セコロ ヤイヌアン パ  
**tane anakne somo a=nukar oasi sekor yaynu=an pa**  
 今はもう、見ることもなくなるのだと、私達は思っ、

コロ チサン ロカン ロク ルウェ ネ ヒネ オラノ オロ タ アユプタリ  
**kor cis=an rok =an rok ruwe ne hine orano oro ta a=yuputari**  
 さんざん泣いたのでして、それから、そこで、(兄たち)

アユピヒ トウラノ オカアン アマトウタリ トウラノ キ ラポッケ  
**a=yupihi turano oka=an a=matutari turano ki rapokke**  
 兄と一緒に暮らして妻たちも一緒に暮らしている間、

タネ ポコロ ポ アマトウタリ カ キ パ オラウン  
**tane pokor po a=matutari ka ki pa oraun**  
 今は子を持って、妻たちにも子供が生まれ、そして

ネア アコロ オンネウタラ アホタヌカラ パ ワ アホタヌカラ パ ランケ  
**nea a=kor onneutar a=hotanukar pa wa a=hotanukar pa ranke**  
 あの年寄りたちを訪ねて行き、何度も訪ねて行って、

エネ ネ ワ イペ パ クニ アカラパ ランケ コロ スイ アユピヒ カ  
**ene ne wa ipe pa kuni a=karpa ranke kor suy a=yupihi ka**  
 食事ができるようにしてあげて、また兄も

アエランポキウエン シネン ネ アニ アエランポキウエン ペ ネ クス スイ  
 a=erampokiwen sinen ne an h\_i a=erampokiwen pe ne kusu suy  
 私はかわいそうに思って、一人でいることをかわいそうに思ったので、また

エウン アラキアン マ オカアン ランケ コロ アポロユピ° アエシカルン コロ  
 eun arki=an w\_a oka=an ranke kor a=poro-yupi a=esikarun kor  
 そこへ、私達はしょっちゅう来て、大きい兄が恋しくなると

アユピヒ トウラ ウシレナン マ エキムネアン ナ イラマンテ クス  
 a=yupihit tura usiren=an w\_a ekimne=an na iramante kusu  
 兄と一緒にあって、私達は、山に登った。狩猟するために

エキムネアニ カ ソモ ネ。ヘル アユピ° ネン ポカ ネ チキ  
 ekimne=an h\_i ka somo ne. heru a=yupi nen poka ne ciki  
 山に登るのではない。ただ、(大きい) 兄をなんとかして、

ソモ アヌカラ セコロ ヤイヌアン パ クス エキムネアン パ ワ  
 somo a=nukar sekor yaynu=an pa kusu ekimne=an pa wa  
 見れないかと、私達は思ったので、山に登って、

ケウエリ ヌプリ アヌムケ ワ ヌプリ カ タ パイエアン マ ヘリカシ  
 keweri nupuri a=numke wa nupuri ka ta paye=an w\_a herikasi  
 高い山を私は選んで、山の上に私達は行って、上の方を

インカラン コロ マカン ネ コロ アツパケ タ アナクネ ランラン カネ ワ  
 inkar=an kor makan ne kor atpake ta anakne ranran kane wa  
 見ると、時によると最初は(兄であるクジャクが) 下りてきて、

イエンカシケ エカリンパ コロ ランケ ヌペ イクルカシケ チオランケ  
 i=enkaske ekarinpa kor ranke nupe i=kurkaske cioranke  
 私の上でぐるぐる回って、落とす涙が私たちの上に降り注ぎ、

アオカ カ チサン ロク アン ロク コロ オンカミアン ロク アン ロク オラ  
 aoka ka cis=an rok =an rok kor onkami=an rok =an rok ora  
 私たちも私はさんざん泣きながら、祈り続けて、

アエサンペシトゥリ コロ オラ イワカン パ ランケ コロ  
 a=esampesituri kor ora iwak=an pa ranke kor  
 満足して帰ってきて

オカアン ルウェ ネ アイネ ヘムトマニ ワノ アナクネ  
 oka=an ruwe ne ayne hemtomani wano anakne  
 暮らしていたものでした。そのうちいつのころからか、

トオプ シニシコトロ ウン ヘル カネ トム シリ イメル クンネ  
 toop siniskotor un heru kane tom siri imeru kunne  
 遠い空にただ金色に光って、いなびかりのようなものが

アヌカリ パテク ネ シリ ネ ヤクン タネ アナクネ  
 a=nukar h\_i patek ne siri ne yakun tane anakne  
 見えるだけのようになり、ということはもはや

オロワノ アヌカラ クニ ソモ ネ シンネ セコロ ヤイヌアン パ コロ  
 orowano a=nukar kuni somo ne sinne sekor yaynu=an pa kor  
 これからは私は見ることもできなくなるだろうと、思って

チサン コロ イワカン パ オロワノ タネ カユン パセカムイ  
 cis=an kor iwak=an pa orowano tane kayun pasekamuy  
 泣きながら、帰ってきました。そこで、今となっては、位の高い神が

イレス イ パテキレシパ イ パテク ネ ヤッカ アエコヤイライケ プ  
 i=resu h\_i patek i=respa h\_i patek ne yakka a=ekoyairayke p  
 育ててくれただけ、私たちが育ててくれただけであっても、それに感謝するものなのに、

ネイ タ パクノ ラム アシツネレ コラチ ネノ チサン パ コロ  
 ney ta pakno ramu a=sitnere koraci neno cis=an pa kor  
 いつまでも（兄を）悩ませるかのように、このように泣いていてもよくない

オカアン ヤッカ ウェン ナ セコロ ヤイヌアン パ クス ネン ポカ  
 oka=an yakka wen na sekor yaynu=an pa kusu nen poka  
 と、私達は思ったので、なんとかして、

イキアン パ ワ サケコラン コロ オロワノ アノミ ヒ アイェ アエイクラ ヒ  
 iki=an pa wa sakekor=an kor orowano a=nomi hi a=ye a=eikra hi  
 酒を手に入れて、それから、お祀りしますよと言ひ、お供物を送りますよ

アイェ コロ オカアン ワ ポ ヘタプ ネ イカ ウン ネプ トウイ ペコロ  
 a=ye kor oka=an wa po hetap ne i=ka un nep tuy pekor  
 と言ひながら私達は暮らして、なおいつそう私の上になんでも降ってくるかのように、

イソナン シリ オカ。アユピヒ トウラノ キ  
 ison=an siri oka. a=yupihi turano ki  
 私はたくさんの獲物を捕って暮らしていました。私は兄と一緒にたくさんの獵をして、

アポウタリ カ ナ ウシムネ ルプネ ペコロ イキ パ ワ  
 a=poutari ka na usimne rupne pekor iki pa wa  
 子供たちもまだ日に日に大きくなるかのようにでいて

アポウタリ カ タネ アナクネ ルプネ ワ  
 a=poutari ka tane anakne rupne wa  
 子供たちも今は大きくなって、

アコロ ネロク オンネウタラ カ アピリカオンネレ パ ヒ  
 a=kor nerok onneutar ka a=pirka-onnere pa hi  
 私のあの年寄りらも私が立派にあの世に送って、

オロ ワ アエラムシンネ ワ アユピヒ カシ アオトウツパ シロマノ キ ワ  
 oro wa a=eramusinne wa a=yupihi kasi a=otuppa siromano ki wa  
 それから私は安心して、兄のもとへ大手をふって引っ越し、

オラノ アユピヒ トウラノ ウエコタンネアン コロ  
 orano a=yupihi turano uekotanne=an kor  
 それから、兄と同じ村の人になっていて、

イペ コカラパ ペコン ネ パ シエコタンネレ パ ワ  
 ipe kokarpa pekor\_ ne pa siekotannere pa wa  
 食べ物に群がるかのように村ができあがっていき、

モヨノ コタン アネ コロカ コタンコロクル アネ ワ オカアン  
 moyono kotan a=ne korka kotankorkur a=ne wa oka=an

人の少ない村ではあるが、私は村長になって、暮らしていました。

タネ アコロ ヘカッター カ ルプネ メノコ オロケ オッカヨ オロケ キ ワ  
 tane a=kor hekattar ka rupne menoko orke okkayo orke ki wa

もはや子供たちも大きくなって、女も男もみんな大きくなって、

アコロ ペ ネ クス ネプ アエルスイ カ アコン ルスイ カ ソモ キ ノ  
 a=kor pe ne kusu nep a=e rusuy ka a=kor\_ rusuy ka somo ki no

(そういう子供を) 私は持っているものだから、何を食べたいとも何を欲しいとも思わないで

オカアン ペ ネ アクス アポウタリ アエパシクマ ハウエ ネ  
 oka=an pe ne akusu a=poutari a=epaskuma hawe ne.

暮っていたものでした。だから、子供たちに言い伝えを語ったのです。

エアシリ カムイノミ アッパ ネ ケソラプトノ アノミ ナ セコロ  
 easir kamuynomi atpa ne kesoraptono a=nomi na sekor

それこそ、神への祈りの始まりには、クジャク神に私は祈るのです。と、

イタク クニプ エチネ ルウェ ネ ナ  
 itak kunip eci=ne ruwe ne na

お前たちは言うことになっているのですよ。

セコロ シノ ニシパウタラ ハウエオカ セコン ルウェ ネ。  
 sekor sino nispautar haweoka sekor\_ ruwe ne.

と、まことのニシパ達が言っていました。とき！

(萱野茂：ああ、どうもありがとうございました。大変長くて……)

(フチ<sup>[8]</sup>：ウトウルフ タ クモコロ タネポ クヌ)

(フチ： uturuhu ta ku=mokor tanepo ku=nu)

(フチ：ところどころ寝ちゃった。はじめて聞いた)

エコロ くせだもの (?)

e=kor KUSEDAMONO(?)

あなたの癖だもの (?)

**【注】**

- [1] この1行は語り手（平賀サダモさん）自身による感想。
- [2] トゥレプはオオウバユリのこと。
- [3] 直訳は「ひとつの尻で立ち上がって」。
- [4] この「私」は、この話の語り手である平賀サダモさん自身のことを言っているらしい。
- [5] mema。辞書にはない単語だが、7-3の平賀サダモさんの解説によると、「谷地原」を指すということである。
- [6] 「ぬかに釘」という意味か。
- [7] この1行は平賀サダモさん自身による感想。
- [8] この発言者は萱野茂さんの母・貝澤はつめさんか？

## 7-3 ウエペケレ「ケソラプ カムイ イレス」解説

語り手：平賀さだも  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：私は二人の兄に育てられておった、一人のアイヌであります。アイヌと言っても、まだ本当に若い少年の域をちょっと出たぐらいの子供でありました。

兄二人に誘われて山へ働きにというよりも、猟に出かけて行っても、兄たち二人は、非常に足が速くて、猟に歩くその時にも、歩くというより、宙を飛ぶように、木の枝をかすりながら、木の幹に体をすりながらと言う風に、本当にもう、宙を飛ぶような山歩きをする兄二人に連れられて、毎日山へ、クマを捕りに、鹿を捕りに行き来して、なに不自由なく生活をしておった三人兄弟でありました。

ある日のこと兄は、今日はちょっと遠い所へ猟に行くから、さあたくさん食べ物も背負いなさい、といい、そして兄二人に連れられて私も、肉とか干し魚なんかをどっさり、どっさりというより、一日、二日分くらいを背負って山へ行った。

ずーっと行くと、ある一か所の原野のような平地（たいらち）で、三人姉妹の女がそこで **turep ta** と言ってウバユリを掘っておった。そのウバユリ掘りをやっているところに行き、そして一緒に、「まあ、今晚泊めてくださいよ。」と言うような調子で、持って行った肉とか魚とかを食べさせながら、一緒にそこで泊まることにした。

そこで **turep kikkik** [ウバユリを打つ] という言葉が出ましたね、おばあちゃん？

平賀：はい。

萱野：これは、山で食う時は、どう？ たたいて食うわけかい？

平賀：そうです。あのねえ、山に……**turep kik** [ウバユリを打つ] と言ってね、**yar** [白樺の皮の入れ物] といってね、ガンビの皮でこしらった [作った] 籠のような形した入れ物がこしらうんですよね。

その中さ、木の棒っこね、直径 5 寸なり 6 寸の丸さの棒っこ置いてそこさこうやって、はたいて [たたいて]、はたいたらこなれる [どろどろになる] でしょう？ それを水の中に入れて澄ますと、下にウバユリのデンプンがたまるので、そのかすをこうやってすくって投げて、その澱粉を溶解して、水を取り替え取り替えして、やると、味が大変おいしい澱粉ができる。それを、**turep kik** [ウバユリを打つ] といって。

萱野：ああ、なるほど。山で急いでそれを食べるときには？

平賀：そうです、そうです。

萱野：なるほど。その、女の人たちは、**turep kikkik** [ウバユリを打つ] して食べておった様子なの。

いわゆる、今、おばあさんの説明のように、ウバユリのデンプンを、即製で山で採って、それを食料にしながらおった所へ、私達男が行ったので、まあ、肉を出し、魚を出しと言う風にして食べた。そして、夜そこで泊まることにして、一番上の兄の言う事には「二番目の弟よ」、いや、真ん中の弟。

今、自分で話をしておるのは一番小さい弟が自分で自分のことを話しておるんですが、まあ、真ん中の兄に「**yukar** せ [英雄叙事詩を言いなさい]。」って言ったら、一生懸命 **yukar** [英雄叙事詩] をする。

それを聞いて楽しんでおるところへ、何者かが、何かが山の方から来る。黙って足音を聞いておると、その足音によれば、熊らしいと。その熊が、出てきて、自分たちの泊まっておる小さな家の入り口に、体ようやく入れるのに入ってきたと。もう、その時はすっかり暗くなっておるんだけど、その暗くなる前に一番上の兄が伐って来てあったのは、**kanni** と言って熊とか何かをたたき殺す時に使う手ごろな棒を、

平賀：たたき棒！

萱野：たたき棒だな。それを切ってあった。それを一本一本自分たちのそばへ引き寄せてあった所へその熊が来たので、熊は、まあ、入っては来たのだけれど、全然危害も加える様子もなく、その兄の言う **yukar** [英雄叙事詩] を聞いて楽しんでおった。そのうち、楽しんでおったのを通り越して、居眠りに入ったと。

そして、その、居眠りをしているところへ、そら、そら、と膝で合図



しあって、いきなり手元にあった **kanni** というそのたたき棒で、メチャクチャぶん殴りつけて、熊を殺したと。外へスポンとぶん投げておいて、次の朝になって、一番兄の言う事は、「これは、肉を食っても差し支えないだろう。」けれども、というわけで、「さあ、皮剥げ、皮剥げ」というわけで、皮を剥いだ。

そして、皮を剥ぐときに首だけスポンと切り落として、私、話をしておる一番小さい弟のところへ、ポンと投げよこしながら言うのに、「お前が捕ったものだから、お前がこの頭始末せ。」と、言われたので、どうしようかと思ったけれど、まあそう言われたら、そのままにしておくわけにもいけないので、適当な棒を伐って、それにポンとさして、頭の、いわゆる鼻先が真上、天井向くように、空向くようにして、「お前は、これから、空、每晚出る星を数えて、その星を何ぼあるか、年中それだけ数えていなさい。」と言う風に言って、そこへ、ポンと置いた。

そして、次の日は、まだ **turep** [ウバユリ] を掘っておる娘等と別れて、「来年の今日の日にまだ来るから。待っていなさいよ」と、言いながら、私たちは、村へ帰った。

そして、自分の家で住んでおり、そして、まだ一年経った日になったら、兄は「さあ行くぞ。」と、言うので、まだ、去年の場所へ肉や魚を持ってきてみると、そこでは、誰も来ておらないものだから、まあ、それにしても、そこで一晩泊まって、一地根越えて、そして隣の川筋に下りて行ったら、大きな家の屋根が一軒あって、そっから、人が住んでおるらしく、煙は出ておるけれども、つい最近、このごろは男が熊を捕ったとか、そういう様子は、全く見られない。けれども、入って行ったら、りっぱな、ここでは、男だけだな、**huci** [おばあさん] の話は出ないな？

平賀：**huci** もいた。

萱野：ああ、そうか。りっぱな **umurek** [夫婦] だ。したら。

平賀：うん、**umurek** [夫婦]

萱野：年とったご夫婦がおって、そこへ入って行ったと。

そこで入って行く以前に、情景描写は非常に細かく出ているんですが、まあ、そういうのを入れる時間はありませんが、その、入る前に外へ訪ねていざないを問うと、中の方から、そんな、人をいちいち入れるとか入れないとか言わずに、さあ入れなさい。と、言ったら、家の中では、

ハウキがけの音もしながら、そして、私たちが、招じいれられたと。

そして、おじいさんに、いろいろ話を聞いたら、「家は、三人娘だけなんだよ。」と、言う風に言われ、まだ、そこでも、何日か滞在して、帰るときに、私一人、一番小さい弟である私だけが、その家に置かれて、そして、居た女のうち一人を連れて、兄二人と姉娘になる方を連れて、それぞれ家へ帰ってしまったと。

そのあとで、私は妹娘を嫁に持って、そして、その爺さんたちの食べる肉、魚、どっさり薪まで準備してから、嫁を連れて、兄のところへ遊びに行ったと。そしたら、兄たちは、非常に喜んでくれたんだけど、まだ、三人そろったら、「山に行くぞ。」と、まだ、誘われたので、山に出かけて行った。そしたら、この、ここで出てきた、poro mema ということ……、poro mema かい？

平賀：mema

萱野：poro mema ちゅうのは谷地原と。

平賀：谷地原

萱野：谷地原ですね。

平賀：そうでござ……。谷地坊主やいろいろなものがある谷地原。

萱野：その、広い広い谷地原に来たら、なんか熊らしくもない、非常に恐ろしい、毛のモサモサ生えたあまり大きい体のものでもない、まあ、化け物みたいななんか獣がその谷地原で住んでおった。

その横に行って、まだ kanni というそのたたき棒を伐って、その化け物をも征伐したと。それから、まだ何日か、まあそこも細かく出てるんですけども、その、yaci poci [どろんこの中でびちゃびちゃになって遊ぶ] している wen kamuy 悪い神様を三人で征伐した。

それからもう一つ、wenkut or un [ひどい崖に] wen kamuy まあその悪い崖に住んでおる、これは熊らしい表現、熊でもない？

平賀：これは熊でもない。

萱野：熊でもないね。

平賀：オオカミにもつかない。なんていうのかな。arsarus て言うんだけど。

萱野：なるほどね。

平賀：arsarus って言って、俺言い忘れたな。eynokuwen arasarus(?)、毛の一本も生えていない、しっぽの先っちょ、耳の先っぽにだけ、毛房が付いている。

萱野：なるほどね。なんかその、ちょっと今の言葉で言い表すことのできないような悪い神様が、崖のへりに住んでおった。そこへ、私が、その縄で胴の真ん中縛って降ろされて、そして、下りて行ったら、その穴のところから飛び出して、私を追いかけて、崖の上まで上がってきた。そこで待っておった兄と三人で、まだ、たたき棒で、それをたたき、そしてそれも殺したと。

そしてそれから、その本家である育った家へ帰ってきて、兄の言う事には、「私は人間であって、お前たちを育てたのではありませんよ」と。kesorap kamuy と行って、天の上に住んでおった、

平賀：クジャクの王様。

萱野：クジャクの王様であったんだと。けれどもアイヌの村を見たいので、ある日のこと、降りてきて、高い山の上から辺りを見ておると、お前の住んでおった村、これはなんだね？ topattumi [夜襲] でもない、何かで、

平賀：まあ、topattumi だね。topattumi だから、その家の者を殺される前に、子供らだけでもと思って、そうやって inawcipa kohokuste [祭壇を倒す] して。

萱野：そのなにか、いわゆる野盗というか、よそから襲ってきたものに、すっかり

平賀：悪者たちに。

萱野：そうね、悪者たちに殺されて、お前たち二人兄弟だけが残っておったと。それを、inawcipa と行って、アイヌの昔の生活の中で、

平賀：祭壇。

萱野：うん。外で窓のところからずっと見える場所である祭壇、いっぱいもう何年もやると、ちょっと柴原みたいに柴が重なっちゃうもんですが、その下へ二人を入れて、それを押して押し倒して、「これを育ててください。」と、言う風に言って、そのお前の父や母は死んでしまったのを見た。見たら、黙っていたら、お前たち二人は死にそうであったので、私はクジャクの神様ですけれども、それを見捨てるわけにはいけません。それで、人間に身を化わしてお前たちを育てたと。お前たちも一人前になったので、私は国へ帰りますから、どっさり酒を造って私を送ってくださいと。

このように言われたので、私の家内達、妻たちは一生懸命ヒエを搗いたり、アワを搗いたり、そして、どぶろくを造ったり、団子を作ったりして、お祝いをして、「まことに、長い間、ありがとうございました。」

で、次の朝になったら、ゆっくりでもするものかと思えば、夜の明け早々に外へ出て、本来の姿であったクジャクになって、舞い上がって行った。舞い上がって天国へ帰ろうとする、その下を私たち二人は、走りながら、「もう少しいてください、もう少し待ってください。」と、言いながらも、神ですから、神本来の姿にかえって、天国へ帰ってしまった。

けれども、「お前たちが私に会いたくなつた時には、できるだけ高い山の上へ上がって、そして、空を見ると、空から舞い降りてお前たちと会うこともできるでしょうと。だから、お前たちの舅も大事にきなさい。そのうちに、どこからともなく人が集まってきて、お前たちの村も大きな村になるであろう。」と、そのように、兄は言いながら神の国へ帰ってしまったわけだと。

それから、私たち村でだんだんだんだん人数も増えて、そして、兄に会いたくなると、高い山へ獵に行つて、空を見上げると。最初のうちは、舞い降りて、やや近くに見えたけれど、そのうちに、ずーっと空の上へ、銀色に光った羽の一部が見えるぐらいになったと。けれども、いつまでもそういうこともできないので、だんだん山へ行くことも、兄に会いに行くことも少なくなったと。

けれども、私達兄弟は、あぶなく死ぬところを **kesorap kamuy** というクジャクの神様に育てられて一人前になり、もうこの歳になりましたと。子供もたくさん生まれて、もう、死ぬんですけれども、**kamuynomi** [神への祈り] と言ってお礼にお祈りする神様にお神酒を上げるときは、

第一番にその **kesorap kamuy** [クジャクの神様] に **kamuynomi** [神への祈り] をする私達でございました。と、一人の男が語りました。

この **uepeker** [散文説話] の場合、ずいぶん長いですね。そして非常に聞くところも、いろいろな生活の中でのあれがよく細かく描写されておりまして、非常に、活字にするとか、そういうことなんかでも、こういう **uepeker** [散文説話] は良い **uepeker**。まあ、たまたまあるというのは、カラスに育てられた、狐に育てられた、**kesorap** [クジャク] という、今のそのそういうのに育てられたという **uepeker** もあるんですけども、これ、非常に良い **uepeker** です。

昭和44年2月16日に平賀さだもさんが語ってくれた **uepeker** でした。どうもありがとうございました。

フチ：兄さんも **ye easkay** [上手に言う]

平賀：**ye easkay. makip ku=ye hawe akkari easkay hawe an.** [上手だ。どうして私が言うより上手に言えるんだろう]

## 8-1 テープ内容日時紹介

語り手：平賀さだも  
聞き手・解説：萱野茂

平賀：pipa yayeyukar [沼貝が自らのことを語った歌]だよ。to pipa yayeyukar  
[沼の貝が自ら語った歌]

萱野：えっと、昭和44年2月16日です。えー録音テープ番号8号、えー平賀さだもさんの kamuyyukar [神謡] です。

## 8-2 カムイユカラ

「トピパカムイ ヤイエユカラ (ヘウルル)」

沼貝の神が自ら物語る

語り：平賀さだも

サケヘ V=ヘウルル ヘウルル  
heururu heururu

V タン ポロ ト この大きい沼  
V tan poro to

V ト ラキルル 沼の縁  
V to rakirur

V ト ピシカニ 沼のまわり  
V to piskani

V チョヤイレス 一人で育つ  
V c=oyayresu

オカアサワ たが  
oka=as awa

V シネ アン パ タ ある年、  
V sine an pa ta

ネプ ウェン カムイ どんな悪い神  
nep wen kamuy

コリレンカ のせいかわからない  
kor irenka

ネ アクス ne akusu	けれど
V スクサナイネ V suku <sup>s</sup> an ayne	日照りが続き
エアシラナ easirana	それこそ
パ エピッタ pa epitta	一年中
サク パ エピッタ sak pa epitta	夏の年中
V スクサナイネ V suku <sup>s</sup> an ayne	日が照り続けて
チコロ ポロ ト ci=kor poro to	私たちの大きな沼が
サツ ワ イサム。 sat wa isam.	干上がってしまった。
V キ プ ネ クス V ki p ne kusu	だから、
ワッカクルスヤシ wakka-ku-rusuy=as	水が飲みたいと
V チサシ カネ V cis=as kane	泣いて
オカアサワ oka=as awa	いると



シネアントタ sineantota	ある日、
ヘパシ ワ hepasi wa	川下の方から
ハワシハワシ。 hawashawas.	声がした。
V インカラサワ V inkar=as awa	見たところ
V シネ メノコ V sine menoko	一人の女が
サラニプ セ カネ saranip se kane	袋を背負って
アラキ ヒネ arki hine	来て、
ウンヌカラ ワ un=nukar wa	私たちを見て
ウンコパシロタ。 un=kopasrota.	ののしった。
V 「タン ト ウエン ピパ V “tan to wen pipa	「この沼の悪い沼貝、
シルン ウエン ピパ sirun wen pipa	根性が悪い沼貝
ウタロロケヘ utarorkehe	たち、

オロヤチキ oroyaciki	なるほど
ワッカ ク ルスイ クス wakka ku rusuy kusu	水が飲みたいと
チシ コロ オカ ハウエ cis kor oka hawe	泣いている声が
イラムシツネレ iramshitnere	騒がしくて
V アコソモモコン ノ ハウエオカ ハウエ V a=kosomomokor_ no haweoka hawe	私たちは眠れずに騒いで
ネ ロコカ。」 ne rokoka.”	いたのだ。」
V シコロ ハウエアン コロ V sekor hawean kor	と、言いながら
ウンコパシロタ パテク ネ ヤッカ un=kopasrota patek ne yakka	私たちをののしるだけでも、
チルシカ トイ ネ ci=ruska toy ne	腹立たしいのに
ウンシリコオテレケ un=sirkooterke	ひどく踏みつけ
チウエンセイエヘ ci=wenseyehe	私たちの貝殻ごと
ウンコヤクヤク un=koyakyaku	私たちを潰し

V	ウレエトuppシケ	つま先を
V	ureetupsike	
	ウノマレ ワ ウヌレエトウルセレ	私たちの体に入れて蹴飛ばし
	un=omare wa un=ureetursere	
V	トオプ ヘマカシ	ずっと山の方に
V	toop hemakasi	
	ウネ ルウエ ネ……	
	une ruwe ne…	
	ウヌレエトウルセレ	私たちは蹴飛ばされ
	un=ureetursere	
V	チサシ カネ	泣いて
V	cis=as kane	
	オカアサワ	いたところ
	oka=as awa	
V	カンナ ルイノ	ふたたび
V	kanna ruyno	
V	ヘペラ ワ	川上の方から
V	hepera wa	
	ハワシハワシ。	ガヤガヤと声が出た。
	hawashawas.	
V	インカラサワ	見たところ、
V	inkar=as awa	
	シネ メノコ	一人の女が
	sine menoko	

V サラニプ セ カネ V saranip se kane	袋を背負って、
ピリカ サラニプ pirka saranip	きれいな袋を
シセトウルカ siseturka-	自分の背中に
エテレケレ eterkere	のせて
V サプ ワ アラキ V sap wa arki	下りて来る。
エアシラナ easirana	それはそれは
カムイ メノコ kamuy menoko	神の女の
ネ コトムノ ne kotomno	ように
アヌカン ルウエ a=nukar_ ruwe	見え、
カムイ ネ クス kamuy ne kusu	神だからこそ
コロ シレトク kor siretok	その器量は
イメル タク ネ imeru tak ne	光のかたまりと

ヤイカラ カネ yaykar kane	なって
V ウンヌカラ ワ V un=nukar wa	私たちを見て
オトゥ ヘンクロロ otu henkuror	二度も
オレ ヘンクロロ ore henkuror	三度も
ウンコアリ un=koari	私たちにうなずきかけて
エネ イタキ。 ene itak h_i.	こう言った。
V 「イヌヌケアシキ V “inunukeaski	「かわいそうに、
ト ピパ カムイ to pipa kamuy	沼貝の神
ウタロロケヘ utarorkehe	たちは、
ト サク クス to sak kusu	沼が乾いたので
ワッカ ケ…… wakka ke…	
ワッカ エチク ルスイ クス wakka eci=ku rusuy kusu	水が飲みたくて

エチシ ハウエへ…… e=cis hawehe...	あなたは泣いて
エチチシ ロク ハウエ eci=cis rok hawe	あなたたちは泣いていたの
ネ ロコカ。 ne rokoka.	だな。
V キ ワ ネ ヤクネ V ki wa ne yakne	それならば、
タパン テワノ tapan tewano	今から
アエチウイナ ヤクネ a=eci=uyna yakne	あなたたちを拾って
V アエチワッカクレ ピリカ ワッカ V a=eci=wakkakure pirka wakka	あなたたちに水を飲ませおいしい水を
アエチクレ クス ネ ナ。」 a=eci=kure kusu ne na.”	飲ませてあげるよ。」
セコロ イタク コロ sekor itak kor	と、言いながら
ウヌオム…… ウヌモマラパレ unuom... un=umomarpare	私たちを拾い集め
V ピリカ サラニプ V pirka saranip	きれいな袋
サラニプ シクノ saranip sikno	いっぱい

ウヌモマレ。 un=umomare.	拾い集めた。
V ウンセ ヒネ V un=se hine	私たちを背負って
イネフナクン inehunak un	どこかへ
アラパ アイネ arpa ayne	行くと、
イネフナク タ inehunak ta	どこかに
アラパ ルウエ arpa ruwe	行くと
エネ オカ ヒ。 ene oka hi.	こうであった。
V ピリカ ポン ナイ V pirka pon nay	きれいな小さい沢
サンルコンナ sanrukonna	清い流れが
コマクナタラ komaknatara	広々と見える
V キ ロク アワ V ki rok awa	そうしていて
ナイ ウン ナイ ウン nay un nay un	沢に

ウノハレ コロ un=ohare kor	私たちを空けると
エネ イタキ。 ene itak h_i.	こう言った。
「トピカ…… ト ピパ カムイ “topika... to pipa kamuy	「沼貝の神
エチネ ロク ヤッカ eci=ne rok yakka	であります
V タン ピリカ ワッカ V tan pirka wakka	このきれいな水
タン ピリカ ポン ナイ tan pirka pon nay	このきれいな小さい沢の
オロタ エチオカ orota eci=oka	ところにあなたたちがいる
キ ワ ネ ヤク ki wa ne yak	のなら
ナイ ピパ セコロ nay pipa sekor	沢の貝と
アエチレコ コロ a=eci=reko kor	あなたたちは呼ばれて
エチカムイセイエヘ eci=kamuyseyehe	あなたたちの神なる貝殻は
イロンネ ナンコロ ironne nankor	厚くなるだろう



エチカムイイペヘ カ  
eci=kamuy-ipehe ka

あなたたちの神なる身もまた

ケラアン ヤクン  
keraan yakun

おいしくなったら

アイヌ ネ チキ  
aynu ne ciki

人間も

カムイ ネ チキ  
kamuy ne ciki

神も

エチカムイイペヘ  
eci=kamuyipehe

あなたたちの神なる身を

エ カ エアシカイ  
e ka easkay

食べることができて

アエチピリカトムテ ナ。  
a=eci=pirka-tomte na.

あなたたちは大事にされるぞ。

アエヤイカムイ……  
a=eyaykamuy…

私は立派な神と……

エチエヤイカムイ  
eci=eyaykamuy-

あなたたちは立派な神と

ネレ カネ  
nere kane

なって

エチオカ ナンコンナ。」  
eci=oka nankor\_ na.”

暮らすであろう。」

セコロ イタク コロ  
sekor itak kor

と、言いながら

V ナイ オロ ウノタ V <b>nay or un=ota</b>	わたしたちを沢へ空け
キ ルウエ ネ アワ <b>ki ruwe ne awa</b>	たところ、
チェサンペケセ <b>c=esanpekese</b>	私たちの肝の末
チェサンペ ケ…… パケ <b>c=esanpe ke... pake</b>	私たちの肝の先が
コシトゥリリ <b>kosituriri</b>	それでのびのびとする。
イネアブクスン <b>ineapkusun</b>	なんとまあ
チェサンペシトゥリ ワ <b>c=esanpe-situri wa</b>	それで私たちの気持ちが晴れる
フマシ ヤ カ <b>humas ya ka</b>	感じがするか
チェラミシカリ <b>c=eramiskari</b>	わからないほどである。
インネアシ ペ <b>inne=as pe</b>	私たちは大勢いる
ネ プ ネ クス <b>ne p ne kusu</b>	ものだから
V タブ オロワノ V <b>tap orowano</b>	このようにして

ネア ポン ナイ nea pon nay	あの小さい沢
チョヤイレス c=oyayresu	で私たちは育っ
オカアサワ oka=as awa	たが
インカラシケ inkar=as h_ike	見てみると
ホシキ エク メノコ hoski ek menoko	最初に来た女は
ネイ…… ネ…… ネン…… ネイ ワ モトコロ ペ どこ ney... ne... nen... ney wa motokor pe	の者が
エク カトゥフ ek katuhu	来た時の様子が
ウェン カスノ wen kasuno	とてもひどく
イルシカアシ クス iruska=as kusu	私たちは腹を立てたので
トゥ モトオロケ tu motoorke	素性を何度も
チシクシパレ ci=sikkuspare	見通した
キ ロカワ ki rok awa	すると

オロヤチキ oroyaciki	思うに
サマユンクル <sup>[1]</sup> Samayunkur	サマユンクル
コッ トウレシ kor_ turesi	の妹
ネ ロク アン。 ne rok an.	だったのだ。
オロワノ イルシカアシ コロ orowano iruska=as kor	それから私たちは腹を立てながら
タポロワノ tap orowano	それから
イヨシノ エク メノコ iosno ek menoko	あとから来た女の
トゥ モトオロケ tu motoorke	素性を何度も
チシクシパレ ci=sikkuspare	見通した。
キ ロカワ ki rok awa	すると
ケライ カムイ ネ keray kamuy ne	さすがに神様らしく
V オキクルミ <sup>[2]</sup> V Okikurmi	オキクルミ

コッ トウレシ kor_ turesi	の妹
ネ ロコカ。 ne rokoka.	だったのだ。
カムイ ネ クス kamuy ne kusu	神なので
カムイ イタキ kamuy itaki	神の言葉が
ソネ クス sone kusu	本当になったので
V チク…… チカムイセイェ V ciku... ci=kamuyseye	私たちの神なる貝殻は
ソンノ ポカ sonno poka	本当に
イロンネ カ キ ironne ka ki	厚くなった。
V アナク キ コロカ V anak ki korka	けれども
ウェン カスノ wen kasuno	あまりにも
サマユンクル Samayunkur	サマユンクル
コッ トウレシ kor_ turesi	の妹が

チコイルシカ クス ci=koyruska kusu	憎らしいので
トイカラ キ コロ toykar ki kor	彼女が畑を作ると
コッ トイエヘ kor_ toyehe	その畑で
イペ サク クニ ネ ipe sak kuni ne	食べ物ができないように
V チカン ランケ V ci=kar_ ranke	何度もした。
オキクルミ Okikurmi	オキクルミ
コッ トウレシ kor_ turesi	の妹が
トイカラ キ コロ toykar ki kor	畑を作る時は
アマム ピリカピ amam pirkapi	穀物のよいもの
V ハル ピリカピ V haru pirkapi	食べ物のよいものが
エテコロカシ etekorkasi	手の上に
イヨマ クニ ioma kuni	入ってくるように

チェコブンキネ c=ekopunkine	私たちは見守っている。
キ ロカワ ki rok awa	すると
V オキクルミ V Okikurmi	オキクルミ
コッ トウレシ kor_ turesi	の妹が
アラキ ヒネ arki hine	来て
エネ イタキ。 ene itak h_i.	こう言った。
「ナイ ピパ カムイ “nay pipa kamuy	「沢の貝の神
テエタ アナク teeta anak	昔は
ト ピパ セコロ to pipa sekor	沼の沼貝と
アエチレコ ア コロカ a=eci=reko a korka	あなたたちを呼んだけれど
タネ アナクネ tane anakne	今は
ナイ ピパ セコロ nay pipa sekor	沢の貝と

アエチレコ クス a=eci=reko kusu	あなたたちを呼ぶので
V ハルカラン マ V harukar=an w_a	食べ物を採って
ハルカラン ウサ harukar=an usa	食べ物を採っても、いろいろな
アマミ ピリカ ヒケ amami pirka hike	穀物もよいほうのものを
ポロンノ アコロ poronno a=kor	たくさん持つ
アナク キ コロカ anak ki korka	けれども
V アニ アチャ ペ V ani a=ca pe	刈る道具が
イサム マクス isam w_akusu	ないので
エチカムイセイエヘ eci=kamuyseyehe	あなたたちの神なる貝殻を
チコアフブカラ cikoahupkar	もらう
アキ クス a=ki kusu	ために
エカン ルウエ ネ ナ。」 ek=an ruwe ne na.”	私たちは来たのだよ。」



セコロ イタク コロ sekor itak kor	と、言いながら
V ウヌモマラパレ V un=umomarpare	私たちを集めて
V コロ ワ イワク V kor wa iwak	持って帰り
ウンセ ワ イワク un=se wa iwak	背負って帰り
ウンスウェ ヒネ un=suwe hine	私たちを煮て
チカムイセイエ ci=kamuyseye	私たちの神なる貝殻を
ルイケ ルイケ ruyke ruyke	研ぎ研ぎ
V オロワノ V orowano	それから
チカムイイペヘ カ ci=kamuyipehe ka	私たちの神なる身も
ケラアン カシパ keraan kaspā	おいしすぎる
ヤク イエ パ コロ エ ルウエ ネ。 yak ye pa kor e ruwe ne.	と言いながら食べた。
V オロワノ V orowano	それから

ノカン アマンプシ nokan amampus	小さい穀物の穂
ルプネ アマンプシ rupne amampus	大きい穀物の穂が
ピパ トウイカ タ pipa tuyka ta	沼貝の上に
ウウエスルルケ uwesururke	広がって
V チェヤイカムイ V c=eyaykamuy-	私たちは立派な神
ネレ カネ nere kane	になって
V オロワノ アイヌ オルン V orowano aynu or un	それから人間に
エイパカシヌ eypakasnu	それを教えた。
オキクルミ Okikurmi	オキクルミの
コッ トウレシ kor_ turesi	妹は
トイ カン ネ ヤッカ toy kar_ ne yakka	畑作りでも
イチャ ネ ヤッカ ica ne yakka	穂ちぎりでも

エイパカシヌ eypakasnu	人に教えた。
「ナイ ピパ セコロ “nay pipa sekor	「沢の貝と
アイエ プ オカ ナ。 a=ye p oka na.	言うものがあるよ。
アニ イチャ ヤン。 ani ica yan.	それでもって穂ちぎりしなさい。
カムイイペへ kamuy-ipehe	神なる身を
エカキヤン。」 e ka ki yan.”	食べなさい。」
セコロ イタク コロ sekor itak kor	と、言いながら
エイパカシヌ eypakasnu	それを教えた
キペネクス ki pe ne kusu	ので、
アイヌ ネ ヤッカ aynu ne yakka	人間であっても
カムイ ネ ヤッカ kamuy ne yakka	神であっても
ウヌモマレ un=umomare	私たちを拾い集め

チカムイイペ ci=kamuyipe	私たちの神なる身が
ケラアン カシパ keraan kspa	おいしすぎる
キ マヌ ヒ ki manu hi	とかいうことを
イエ コロ エ パ アエヤイカムイ ye kor e pa a=eyaykamuy-	言いながら食べると私たちは立派な神
ネレ カネ nere kane	となって
アカムイセイエ a=kamuyseye	神なる貝殻を
コロ ワ パイエ kor wa paye	人間が持って行き
V アニ イチャ パ コロ V ani ica pa kor	それでもって穂ちぎりすると
アイヌ ネ ヤッカ aynu ne yakka	人間も
トイカラ クニ toykar kuni	そのように畑仕事をするように
エイパカシヌ パ eypakasnu pa	みんなに教え
エパカシヌ パ epakasnu pa	みんなに教えた

キ プ ネ クス ki p ne kusu	ので、
アイヌ ウタラ aynu utar	人間たち
ネ ワ ネ ヤッカ ne wa ne yakka	もまた
ハル ピリカピ haru pirkapi	食べ物のよいものを
カラ ルウエ ネ。 kar ruwe ne.	採った。
トイ ピリカピ toy pirkapi	よい畑を
カラ ルウエ ネ。 kar ruwe ne.	つくった。
V アエヤイカムイ V a=eyaykamuy-	私たちはそれで立派な神
ネレ カネ nere kane	になって
アカムイセイエヘ a=kamuyseyehe	神なる貝殻が
アイヌ テコロ カ aynu tekor ka	人間の手の上に
アウイルケ ワ a=uyruke wa	置かれて

カムイセイエへ kamuyseyehe	神なる貝殻
セイ クルカ タ sey kurka ta	貝の上に
ピパ トウイカ タ pipa tuyka ta	沼貝の上に
V ルプケ……… ルプネ アマムプシ V rupke... rupne amampus	大きな穀物の穂
ノカアム……… ノカン アマムプシ nokaam... nokan amampus	小さな穀物の穂が
ウウエスルルケ uwesururke	広がるのを
アンラマス anramasu	おもしろく思い
アウウエスイエ auwesuye	気に入って
V オトゥ ケシ パ タ V otu kes pa ta	毎年、
オレ ケシ パ タ ore kes pa ta	毎年、
オカアン カトゥ oka=an katu	いた様子を
アオモンモモ ナ。」 a=omommomo na.”	事細かに述べたよ。」

セコロ ナイ ピパ ウタラ ハウエオカ。 と、沢の貝たちが言った。  
**sekor nay pipa utar haweoka.**

(萱野：はい、ピリカ)

(萱野：はい、いいね)

(萱野：はい、pirka)

テエタ カネ  
**teeta kane**

むかしむかし

ト コロ ピパ  
**to kor pipa**

沼の沼貝

セコロ アウンレコ  
**sekor a=un=reko**

と、私たちが呼ばれて

オカアシ ウシケ  
**oka=as uske**

いたところの

レコロ カトウ  
**rekor katu**

その名前は

ピラカ トホ  
**Piraka toho**

平賀の沼

セコロ アイエ コロ  
**sekor a=ye kor**

という

ポロ トネ アン  
**poro to ne an**

大きな沼であって

オロ チョヤイレス  
**oro c=oyayresu**

そこに育つ

キ ア コロカ  
**ki a korka**

たが

タネ アナクネ tane anakne	今は
シラウ…… シラウ セコロ アイェ ナイ Siraw... Siraw sekor a=ye nay	シラウという沢の
オロ チョヤイレス oro c=oyayresu	ところで私たちは育って
キ ワ タプ ネ ki wa tap ne	このように
ナイ コロ ピパ nay kor pipa	沢の貝
セコロ アウンイエ sekor a=un=ye	と、私たちは呼ばれ
アイヌ ネ チキ aynu ne ciki	人間とか
カムイ ネ チキ kamuy ne ciki	神とかの
カシ チオイキ kasi ci=oyki	世話をする
セムコラチ semkoraci	かのように
アウネイワンケ a=un=eywanke	私たちは使われて
アイヌ ネ ヤッカ aynu ne yakka	人間も



ミナ カネ  
mina kane

笑って

チカムイイペヘ  
ci=kamuyipehe

神なる身を

ウイナ ワ エ パ  
uyna wa e pa

獲って食べ

ケラアン ヒ タブ  
keraan hi tap

おいしいことを

アンレカカラ  
an=rekakar

ほめる

キ ルウエ ネ クス  
ki ruwe ne kusu

ので、

アイエ ハウエ ネ セコロ  
a=ye hawe ne sekor

こういう話をしたのだよ。と

(ここから散文)

テエタ アナク  
teeta anak

「昔は

ト ピパ チネ ア コロカ  
to pipa ci=ne a korka

沼の沼貝であったが、

タネ アナク  
tane anak

今は

ナイ ピパ チネ ワ  
nay pipa ci=ne wa

沢の貝で

オキクルミ トウレシマチ

Okikurmi turesmaci

オキクルミの妹である妻が

エネ ウンイエ イネ ア クス

ene un=ye h\_i ne a kusu

あのように私たちに言ったために

ナイ ピパ チネ ワ

nay pipa ci=ne wa

私たちは沢の貝となって

アウネイワンケ ヒ

a=un=eywanke hi

使われていることを

アイエ ハウエ ネ セコロ

a=ye hawe ne sekor

語ったのだ。」と、

ナイ ピパ カムイ ウタラ ハウオカ。

nay pipa kamuy utar hawoka.

沢の貝の神たちは言った。

【注】

[1] カムイユカラの登場人物。必ずオキクルミと対になって登場し、たいてい悪い役まわりを受けもたされる。

[2] カムイユカラの主人公。サマユンクルという相棒と連れ立って登場することが多い。

### 8-3 カムイユカラ「トピパカムイ ヤイエユカラ（ヘウルル）」

#### 解説

語り手：平賀さだも

解説：萱野茂

萱野：わたくしたちは沼貝でありました。大きな沼に住んでおったんですけれども、ある夏のこと、ひどい日照りが続きまして、私たちの沼もすっかりカラカラに乾いて、私たちが水が欲しい、水が欲しい、誰か水はくれないかと、毎日泣き叫ぶ日が続けておりました。

ある日のこと声がする。ずっと見ると **saranip** [背負い袋] を背負った女の人がやって来た。私たちを見て、

「何だこの沼貝ども、お前たちはここで何騒いでいた？ 何か騒ぎ声聞こえると思ったら今年はこれ、日照りで水が無くてお前たちの声だったのか。」

と言いながら私たちを踏んで踏み潰し、すれ…… そのあげく足で蹴飛ばして、ヤブ原へ蹴散らすというふうにしながらその女の人には行ってしまった。少しすると、向こう側からまだ女の人 came。やっぱり同じように **saranip** を背負っておる。**saranip** というのはまあ、えー、シナの木の皮であい……

平賀：背負いかご

萱野：編んだ……

平賀：かごだ。

萱野：袋なんですけれども、その **saranip** を背負った人たちが来て

平賀：本当にな、

萱野：して、

「あっ、これはこれは可哀そうに今年は日照りなので水不足でこうして泣

いていたの、可哀そうにね。お前たちをここへ置いてはいけない。この **saranip** にいっぱい集めて背負ってって沢へ入れてあげますよ。」  
 と言いながら私たち1つ1つを丁寧に拾って、そして、えー背負って行った。そして、えー沢へ流……放してくれた。

しばらくぶりで飲む水の味は本当においしくて、嬉しくて嬉しくて、よくよく見るとその、いやっ……、えー沢へ入れながら言うのには、  
 「お前たちは今まで沼でおったから沼貝と言ったけれども、今度は沢へ入れるよ。今度は、いわゆる沢貝……

平賀：川貝

萱野：えー川貝として、その殻はアイヌたちがヒエを作りアワを作った時の穂ちぎりとして使うであろう。その身は沼でおる沼貝よりも身もおいしくなってアイヌの為にも、そして、えー、神様の為にもなるでしょうよ。」  
 と言いながら私たちを放してくれた。放された数もかなりであったので今ではすっかり、えーえー、拵がってその沢いっぱいになっておった。その沢の名前は **Siraw** という沢。前にいた沼は何ちゅうの？

平賀：Biraka toho [平賀の沼]

萱野：おー、Biraka toho 平賀の沼であったと、あー、そういうふうに、沼貝が、あー、語りましたという、これ実際その今私たちこの沙流川でも、よく言ったんですけど、その **Siraw** の沢である貝は **pipa** としてもいいんでしょ？

平賀：いいの。身が厚いの。

フチ1・フチ2：(絶賛)

萱野：貝が厚いんだってね。うん。あーそうかい。身が厚くていいもんだった  
 っちゅう話は聞いたことあるな。

そしてあの、んー、そういうこの沼貝がそういうふうに語ったっていう **kamuyyukar** [神謡] と言って、えっと、さっきの繰り返しは **heururu** というような繰り返し繰り返し、一言一言の間、えーこの言葉を区切って入れながら、やる **kamuyyukar** [神謡] という物語でした。

## 8-4 カムイユカラ

### 「チュポルンクル (サンタソワソ)」

#### 月の中の人

語り：平賀さだも

サケへ V=サンタソワソ  
V=santasowaso

V ヘカチ ネ クル 男の子に  
V hekaci ne kur

V チワッカタレ 私が水汲みに行かせた  
V ci=wakkatare

V キ アクス ところ  
V ki akusu

V ソイネ トウイカ タ (男の子は) 外に出ながら  
V soyne tuyka ta

V イヌンペ ネ クル 炉縁を  
V inumpe ne kur

V オツケ オツケ 突っつき突っつき  
V otke otke

V タウキ タウキ 叩き叩き (して)  
V tawki tawki

V 「アイヌパクス 「うらやましいな。  
V “aynupakusu

V イヌンペ ネ クル V inumpe ne kur	炉縁は
V ホッケ ワ パテク V hotke wa patek	寝てばかり (で)
ソモ ワッカタ ノ somo wakkata no	水汲みに行くこともしないで
ホッケ ワ パテク hotke wa patek	寝てばかり
V オカ ルウエ アン?」 V oka ruwe an?"	いるんでしょ?」
V セコロ イタク コロ V sekor itak kor	と言うと
V ソイネ トウイカ タ V soyne tuyka ta	外に出ながら
V イクシペ ネ クル V ikuspe ne kur	柱を
V キッキク キッキク V kikkik kikkik	ポカポカ殴り
V タウキ タウキ V tawki tawki	叩き叩き (して)
V 「アイヌパクス V "aynupakusu	「うらやましいな。
V イクシペ ネ クシ V ikuspe ne kus	柱だから

V ソモ ネプキ ノ V <i>somo nepki no</i>	働きもしないで
V ロシキ ワ パテク V <i>roski wa patek</i>	立ってばかり
V オカ ルウエ アン？」 V <i>oka ruwe an?"</i>	いるんでしょ？」
V セコロ イタク コロ V <i>sekor itak kor</i>	と言って
V アエワッカatap アンパ カネ V <i>a=ewakkatap anpa kane</i>	水汲み道具を持って
V ワッカタ クス V <i>wakkata kusu</i>	水を汲むために
V ラナワ オロワノ V <i>ran awa orowano</i>	下りていくが、それから
V ホシピ° クニ V <i>hosipi kuni</i>	戻る様子が
V カスノ イサム V <i>kasuno isam</i>	まったくない。
V カスノ イサム V <i>kasuno isam</i>	まったくない（から）
V チョエマツトウイェ <sup>[1]</sup> クシ(?) V <i>c=oemattuye kus(?)</i>	探す(?) ために
V オシ ラパサワ V <i>os rap=as awa</i>	後から私は下りたが

V オアラリサム V oararisam	まったく姿が見えない。
ワッカタ ウシ タ wakkata us ta	水汲み場には
オアラリサム oararisam	まったく姿が見えない。
V ペッ ペシ カネ V pet pes kane	川を下流に
サパサワ sap=as awa	下っていくと
V スプン ルプ アラキ V supun rup arki	ウグイの群が来た (ので)
V 「ヘカチ ネ クル V “hekaci ne kur	「男の子を
V ソモ エチヌカラ ヤ？」 V somo eci=nukar ya?”	お前たちは見なかったかい？」
V イタカサワ V itak=as awa	(と) 私が聞いたが
V 「アイヌ オツ タ V “aynu or_ ta	「人間のところに
V パイエアン キ コロ V paye=an ki kor	私たちが行くと
『パリモモ パリモモ』 セコロ 'parimomo parimomo' sekor	『クチボソ、クチボソ』と



V アイイェ ワ クス  
V a=i=ye wa kusu

言われるので

イルシカアン クス  
iruska=an kusu

私たちは怒っているから

V ヘカチ ネ クル  
V hekaci ne kur

男の子が

V オロ タ アヌシケ  
V oro ta an uske

いるところは

(ここから散文)

ソモ アエパカシヌ」 セコラウエオカ 教えないよ」と言った。  
somo a=epakasnu” sekor h\_aweoka

(ここから韻文)

オロワ カス アッカリ  
orowa kasu akkari

それから、さらに

V サナン アイネ  
V san=an ayne

下りていくうちに

V イチャヌイ ルプ アラキ  
V icanuy rup arki

マスの群が来た

V キ ワ クス  
V ki wa kusu

ので

V 「ヘカチ ネ クル  
V “hekaci ne kur

「男の子を

ソモ エチヌカラ ヤ？」  
somo eci=nukar ya?”

お前たちは見なかったかい？」

V イタカン アワ V itak=an awa	(と) 私が聞いたが
V 「アイヌ オツ タ V “aynu or_ ta	「人間のところに
V パイエアン キ コロ V paye=an ki kor	私たちが行くと
V 『ミミチ ミミチ』 セコロ アイイエ 『身焼け、身焼け』と言われて V ‘mimici mimici’ sekor a=i=ye	
V イルシカアン クス V iruska=an kusu	私たちは怒っているから
V ヘカチ ネ クル V hekaci ne kur	男の子が
V アヌシケヘ V an uskehe	いるところは
V ソモ アイエ ワ」 V somo a=ye wa”	言わないよ」
V セコロ ハウエオカ。 V sekor haweoka.	と言う。
V カスノ サナン V kasuno san=an	さらに下りて
V キ ロク アワ V ki rok awa	行くと
V カムイチェプ ルプ アラキ V kamuycep rup arki	サケの群が来た。

V アクオメペペンヌ……

V akuomepepennu...

アコウエペケンヌ

a=kouepekennu

私は尋ねて

V 「ヘカチ ネ クル

V “hekaci ne kur

「男の子が

V オロ ワノ パ…… アラパ ヒ

V oro wano pa... arpa hi

そこから行ったところを

エチエラミシカリ ヤ」

eci=eramiskari ya”

お前たちは知らないかい？」

V アコウエペケンヌ

V a=kowepekennu

(と) 尋ねると

V シペ ネ クル

V sipe ne kur

サケは

エネ イタキ

ene itak h\_i

こう言った。

V 「アイヌ オツ タ

V “aynu or\_ ta

「人間のところに

V パイエアン キ コロ

V paye=an ki kor

私たちが行くと

V 『カムイチェプ カムイチェプ』

V ‘kamuycep kamuycep’

『神の魚、神の魚』

V セコロ アイレコ

V sekor a=i=reko

と名づけられて

V アイヤ…… アエイライケ クス 私たちは感謝しているので（教えよう）  
 V aiya... a=eyairayke kusu

V ヘカチ ネ クル 男の子は  
 V hekaci ne kur

エネ イキ ワ こうして  
 ene iki wa

V イサミ アイエ いなくなったのだ。  
 V isam h\_i a=ye

V エイタサ ルイノ あまりにもひどく  
 V eytasa ruyno

トランネ キ ワ ものぐさがったので  
 toranne ki wa

V アコイパク クス 罰せられるために  
 V a=koypak kusu

V モシレピッタ 国土中に  
 V mosir epitta

V アエパカシヌ 知らしめる  
 V a=epakasnu

V キ クス ために、  
 V ki kusu

（ここから散文）

トット、トシト チュポッタ アキシマ ワ アン ルウエ。  
 totto tosto cup or\_ ta a=kisma wa an ruwe.  
 お母さん<sup>[2]</sup>、ほらそこに、月に捕まえられているのだ。

トシト アン ネク」

**tosto an nek**”

ほらそこにいるぞ」

セコロ ハウエオカ。

**sekor haweoka.**

と言う。

インカラナクス

**inkar=an akusu**

私が見やると

ソンノ カ クンネチュポッ タ ヘカチ ネ クッ

**sonno ka kunnecup or\_ ta hekaci ne kur\_**

本当に月に男の子が

テオケ アニ カネ ワ アシ ワ アン ルウェ アン ナ。

**TEOKE ani kane wa as wa an ruwe an na.**

手桶を持って立っていたのだよ。（だから）

イテキ タネ オカ ヘカッタラ

**iteki tane oka hekattar**

今いる子どもたちは、決して

ワッカ エタラ…… エトランネ ヤク ピリカ ナ。

**wakka etar... etoranne yak pirka na.**

水汲みを面倒くさがってはいけないよ。

【注】

[1] このように聞こえるが不詳の語。和訳は前後の文脈からの類推。

[2] tutto といっているが、tosto 「ほらそこに」の言い間違いで、すぐ後で言い直しているのかもしれない。

## 8-5 カムイユカラ「チュポルンクル（サンタソワソ）」解説

語り手：平賀さだも  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：それは、言ってるのは何神様なのよ？

平賀：これ何だべな？ kamuy huci [火の神様] だべ。

萱野：あー、そうかい。kamuyyukar [神謡] santasowaso、この santasowaso ちゅうのは sakehe [繰り返し] だな。これね。

平賀：sakehe よ。繰り返しの。

萱野：うん、そうだね。

えー、わたくしは……、わたくしはでない。この kamuyyukar [神謡] の行き方として往々にして、その語る神様自身が、自称したり、あるいはこう、よそからそれを見ていてそれを語っている場合もあるんだけど、今の場合まあ語っておるのは火の神様、らしいということで、1人の少年が水を汲まされた。手桶を両手に持って、

「汲みに行きなさい！」

と言われても嫌がりながら、いわゆる、まああの、普通の俗語で言う「からっぽやみ [怠け者]」の子どもなもんだから、もう嫌がりながら、まず手桶を持って言うのには、

「いいもんだなあ。お前は寝てばかりいる。」

と、その炉縁を叩いたり蹴ったりして怒りながら出て行った。そしてまだ入り口では、言うのには

「いいもんだなあ。お前は柱であるがゆえに立ってばかりいていいもんだなあ。」

と言って柱を叩きながら水汲みに出て行った。

そうしたら、しばらくたっても水汲みに行ったのが出てこない、いや、戻ってこない、どうしたんだろうと思って外へ出て辺りを見回しても全然戻ってくる様子がないと、そのままそれを捜しに、子どもを捜しに、ずっと小沢なり下って行ったら、そこを上って来たのはその、ユグイ [ウ

グイ]の群が上って来た。

「ユグイよ、ユグイよ、うちの子ども、どこへ行ったか知らないかい？」  
 「知らないよ、私たちはアイヌのところへ行くと **parimomo** [口をすぼめてい  
 る] **parimomo** と、いわゆる、クチボソ、クチボソと、あの言わ  
 れるので、アイヌの子どもが……、の行き先教えてやらん！」  
 と言ってすつと通り越ししまった。それから少し行くと **icanuy** [マス]  
 いる。この **icanuy** ちゅうのは、

平賀：マス

萱野：マスだな。マスの群がやって来た。それに

「ちょっとすまないけど、うちの子どもの行き先知らないか？」  
 「知らないよ。アイヌのところ行ったら **mimici** [身が煮えている]  
**mimici** と言って」、と言うのはお前の肉が柔らかくてすぐに溶けてしま  
 うからその、肉……、まあ日本語に直すと、「肉が溶ける、肉が溶ける  
 というふうなこと言われるから教えてやらん！教えてやらん！」  
 と言いながら通り越ししまった。それから少し行くとこの **sipe** [サケ]  
 ちゅうのは **siperup** [サケの群] だな、やっぱり、

平賀：**siperup**。うん

萱野：アキアジ [サケ] の群

平賀：そうだ、そうだ。

萱野：アキアジ [サケ] の群がやって来た。

「アキアジの群、ちょっとちょっと、うちの子どもはどこ行ったか知らな  
 いかい？」  
 そうすると  
 「いや、私たちアイヌのところへ来ると **kamuycep** [サケ (神の魚)]  
**kamuycep** と言って、えー、神様の魚、神様の魚と大切にされるから教え  
 てあげるよ。あの子どもはね、あまりにもその、水汲みに行かされるのに  
 嫌がったので、えー、見せしめのためにお月さんへやられて、あれ、あす  
 こで、お月さんに両手に手桶を持って立っているの見えるでしょう？」  
 とそのように、その……

平賀：世界中を見せてやるのにそういうふうにしてあるんだ。

萱野：うんうん、その世界中を見えるようにということであすこに……

平賀：子どもがた見えるように、うん、仕事が嫌ならばそうやって、いましおの……戒めに、

萱野：あーそうね。いわゆる、からっぽやむ〔怠ける〕子どもがおったら、「あれ、あすこで、からっぽやみ〔怠け者〕の子どもは、あのようにお月さんへ行かされるのだよ」

と、見せて聞かせるのに、ああいうふうにしたんだよと、アキアジ〔サケ〕が教えてくれたので、ようやく、その所在を見ることが出来ました。だから、これからおる子どもは決してその、いわゆる、からっぽやんだり〔怠けたり〕してはいけないよ。必ずその水を汲めと言ったら、「はい」と言っただけで、というふうにはやっぱり生活の中でよく働く子どもはいいんだ、というその、教えをも含められておるもののようです。これは kamuyyukar〔神謡〕、santasowaso と言うのはあの、いわゆる繰り返し

平賀：繰り返し節

萱野：ですね。どうも有難うございました。



## 8-6 カムイユカラ

「ミントウチカムイ イケスイモトホ (ヘムノエ)」

河童が去ったわけ

語り：平賀さだも

サケヘ V=ヘムノイエ  
V=hemnoye

V モコロ クル ヘ アン  
V mokor kur he an

眠っている人か？

V モナク クル ヘ アン  
V monak kur he an

目を覚ましている人か？

V カムイ オルシペ  
V kamuy oruspe

神の話を

V エヌ ヘ キ ヤ  
V e=nu he ki ya

お前は聞いたか？

V ソモ エヌ ヤクン  
V somo e=nu yakun

お前が聞いていないのなら

V アイェ チキ ヌ  
V a=ye ciki nu

私が言うから聞け

V キ カトウフ  
V ki katuhu

そうあった様子は

V トカプチ プトウ  
V Tokapci putu

十勝川の河口

V エコタンコロクル V ekotankorkur	の村おさは
V シネ マツネボ V sine matnepo	一人の娘を
V コン ルウエ ネ V kor_ ruwe ne	持っているのだ
V エアシラナ V easirana	それこそ
V コロ シレトク V kor siretok	彼女の美貌
V コロ テケトク V kor teketok	彼女の手仕事のうまさは
V カムイ オロ パクノ V kamuy or pakno	神のところまで
V エアスル アシ V easur as	うわさがある
V ネワ アン ペ V ne wa an pe	そのことが
V ウエンカムイ オロ パクノ V wenkamuy or pakno	悪い神のところまで
V アスル ヌ ペ V asur nu pe	うわさに聞こえ
V アラ カメアシ V ar kameasi	とんでもない化け物が

V ネア メノコ V nea menoko	その女性を
V エトウン クス サン V etun kusu san	妻にするために下った
V キ カトウフ V ki katuhu	その様子は
V ポン ルプネ アイヌ V pon rupne aynu	小男 (河童)
V ネ ルウエ ネ V ne ruwe ne	であるのだ
V エネ…… エネ ネア ニシパ V ene... ene nea nispa	このようにその旦那、
トカプチ プトウ Tokapci putu	十勝川の河口
V コロ ア ニシパ V kor a nispa	の旦那に
V アウエンタラプテ V a=wentarapte	私は夢を見させた
V 「エネ アラウエンカムイ V “ene arwenkamuy	「このようにひどく悪い神に
V エコロ マツネポ V e=kor matnepo	お前の娘を
V エコレ ヤクン V e=kore yakun	お前が与えたら

V アコロ コタン ウン V a=kor kotan un	私の村の
V ウタラ サク ナンコロ V utar sak nankor	人々はいなくなるだろう
V キワ ネ クス V ki wa ne kusu	それゆえ
V 『タパン トカプチ V ‘tapan Tokapci	『この十勝川は
V アラパ アイネ V arpa ayne	さかのぼっていくと
V トウ ペツ ネ アラパ V tu pet ne arpa	二つの川になって行く
V チュプ オカ…… チュツポク ワ クシ ペツ 西から通る川の V cup oka... cuppok wa kus pet	
V ペテトコホ V petetokoho	水源地が
V ウエン クトム ネ V wen kutom ne	ひどい崖になっている
V ネ クツ ホントモ V ne kut hontomo	その崖の中腹に
V トヤラサルシ V toy arasarus	邪悪なアラサルシ
V ウェナラサルシ V wen arasarus	悪いアラサルシが

V オコタンコロ V okotankor	村を持つ (住んでいる)
V キルウエ ネ ナ V ki ruwe ne na	のだぞ
V ネ ワ アン ペ V ne wa an pe	そいつを
V エライケ ヤクン V e=rayke yakun	お前が殺したら
V アコロ マツネボ V a=kor matnepo	私の娘を
V エコロ エアシカイ』 V e=kor easkay'	お前が持つことができるぞ』
V セコロ アイタクテ V sekor a=itakte	と (十勝の長者に) 言わせた
V キルウエ ネ クス V ki ruwe ne kusu	それゆえ
V トカプチ プトゥ エプンキネ クル 十勝川の河口を守る人は V Tokapci putu epunkine kur	
V ネノ イタク V neno itak	そのように話した
V キ ロク アクス V ki rok akusu	したところ
V ポン ルプネ アイヌ V pon rupne aynu	小男は

V ミナ トウラ V mina tura	笑いながら
V ペットウラシ V pettulasi	川沿いを上流へ
V アラパ フム コ V arpa hum ko	行く音が
V コトウリミムセ V koturimimse	ごろごろとなる
V トカプチ タ…… タパン トカプチ この十勝川が V tokapci ta... tapan tokapci	
V トウペツ ネ アラパ V tupet ne arpa	二つの川になって行く
V ポ…… チュッポク ワ クシ ペツ V po...cuppok wa kus pet	西から通る川
V トウラシ アラパ V turasi arpa	川をさかのぼって行く
V ペテトコホ V petetokoho	水源地に
V ウエン クツ エアン V wen kut ean	ひどい崖がある
V クツ ホントモ V kut hontomo	崖の中腹
V オコタン コロ ペ V okotan kor pe	に村を持つものは

V トヤラサルシ V toy arasarus	邪悪なアラサルシ
V ウェナラサルシ V wen arasarus	悪いアラサルシ
V ネルウェ ネワ V ne ruwe ne wa	であるのであって
V オロ タ アラパ V oro ta arpa	そのところに行き
V ウコイキ アワ V ukoyki awa	戦ったところ
V トヤラサルシ V toy arasarus	邪悪なアラサルシ は
V イルカ ネ コロ V iruka ne kor	ちょっとの間に (すぐに)
V アアンノライケ V a=annorayke	殺されて
V パクノ ネ コロ V pakno ne kor	それから
V ヘトポ サン ナ V hetopo san na	(河童は) 引き返して下りてきた
V コタン オツ タ サン V kotan or_ ta san	村に下りてきた。
V ネ ヒ オロ タ V ne hi oro ta	そこで

V カンナ ルイノ V kanna ruyno	さらにまた
V カムイ ウタラ V kamuy utar	神々が
V ウコラムコロ ワ V ukoramkor wa	互いに相談して
キキタネクス kikitane kusu	しかたがないので
V 『タン トカプチ V 'tan Tokapci	『この十勝川の
V チュプカ ワ クシ ペッ V cupka wa kus pet	東から通る川の
V ペテトコ V petetoko	水源地に
V ポロ コツ エアン V poro kot ean	大きい窪地がある
V コツ ノシキケ V kot noskike	窪地の真ん中に
V ポンノ ト オツ V ponno to ot	沼がいくつもある
V オロ タ アン ペ V oro ta an pe	そこにいるものが
V サクソモアイエプ V saksomoayep	大蛇



V ネ ルウエ ネ V ne ruwe ne	であるのだ
V エライケ ヤクン V e=rayke yakun	お前が殺したら
V タパン メノコ V tapan menoko	この女性を
エコロ エアシカイ』 e=kor easkay'	お前は持つことができる』
V セコロ アイタクテ V sekor a=itakte	と (十勝の長者に) 言わせた。
V アイヌ ニシパ V aynu nispa	人間の長者に
V キ ペ ネ クス V ki pe ne kusu	言わせたので
V ネノ ハウエアン V neno hawean	そのとおりに言った
V キ ルウエ ネ アワ V ki ruwe ne awa	そうしたところ
V カンナ ルイノ V kanna ruyno	再びまた
V ペツ トウラシ V pet turasi	(河童は) 川をさかのぼって
V アラパ アイネ V arpa ayne	行くうちに

V チュプカ ワ クシ ペッ V cupka wa kus pet	東から通る川の
V ペテトコホ V petetokoho	水源地
V オアラパ ルウエ ネ V oarpa ruwe ne	へ行ったのだ
V ポン…… ポロ コッ エアン V pon... poro kot ean	大きい窪地がある
V コッ ノシキヒ V kot noskihi	窪地の真ん中
V ト オッ カネ V to ot kane	沼があつて
V ネ ウシケ タ V ne uske ta	そのところに
V タンペ アイエ V tanpe a=ye	話に聞くように
V シク パルルケ V sik parurke	目のふちに
V フレ サランペ V hure saranpe	赤い絹織物が
アエカイエ ペコロ a=ekaye pekor	縫われているかのように
V パラ ピシカニ V par piskani	口のまわりは

V フレ サランペ V hure saranpe	赤の絹織物が
アエカイェ ペコロ a=ekaye pekor	縫われているかのように
V アラ ウェン カムイ V ar wen kamuy	とても悪い神が
V タパンペ レコロ V tapanpe rekor	その名は
サクソモアイェプ saksomoayep	大蛇の
ニツネ ヒケ nitne hike	悪いやつ
V ネ ルウエ ネ V ne ruwe ne	なのだ
V オロ タ アラパ V oro ta arpa	そのところに行き
V ウコイキ アイネ V ukoyki ayne	戦っているうちに
V ポンルプネ アイヌ V ponrupne aynu	小男は
V クンネ タシロ V kunne tasiro	黒い山刀を
V エヌプル クンネ クス V enupur kunne kusu	呪具として使うようだから

V サナサンケ V sanasanke	出し
V カシレ タウキ V kasre tawki	浅く叩いて切りつける
V ラウネ タウキ V rawne tawki	深く叩いて切りつける
V キ ロク アイネ V ki rok ayne	そうしているうちに
V サクソモアイエプ V saksomoayep	大蛇の
ニツネ ヒケ nitne hike	悪いやつは
V ミミ ウマケ V mimi umake	肉もばらばらになり
V ポネ ウマケ <sup>[1]</sup> V pone umake	骨もばらばらになった
V パクノ ネ コロ V pakno ne kor	それから (河童は)
V ヘトポスイ V hetoposuy	引き返してまた
コタン オツ タ サン kotan or_ ta san	村に下りてきた
キ ルウエ ネ ki ruwe ne	したのだ

カンナ ルイノ kanna ruyno	さらにまた
V カムイ オピッタ V kamuy opitta	神たちが
V コタン キッカラ クス V kotan kikkar kusu	村を防ぎ守るために
V キキタネクス V kikitane kusu	しかたなく
V ソナ…… ソヤ ニツネヒ V sona... soya nitnehi	スズメバチの
V コタン オロケヘ V kotan orkehe	村の場所を
アエパカシヌ ワ a=epakasnu wa	教えて
V ネ ワ ネ ヤクン V ne wa ne yakun	それであれば
V セコロ ハウエアシ コロ V sekor haweas kor	と言いながら
V カムイ ウコラムコロ V kamuy ukoramkor	神が相談し合い
ユプケ シリ yupke siri	激しい様子
V ネ ロク アイネ V ne rok ayne	だったあげく（激しく論争したあげく）

V ネア ニシパ V nea nispa	その旦那に
V カンナ アイタクテ V kanna a=itakte	また私は言わせた
V 『タカン…… タパン トカプチ V 'takan ... tapan tokapci	『この十勝川を
V アラパ アイネ V arpa ayne	さかのぼって行くうちに
V チュプカ ワ クシ ペッ V cupka wa kus pet	東から通る川の
V ペテトコホ V petetokoho	水源地の
V トウプ ネ アラパ V tup ne arpa	二つになって行く
V エコイポクン マ V ekoypokun w_a	西の方へ
V ヘノイエ ウシケ V henoye uske	曲がったところ
V エトコ タ アン ペ V etoko ta an pe	の先にいるものは
V ソヤ ニツネヒ V soya nitnehi	蜂のお化け
V ネ ルウエ ネ V ne ruwe ne	であるのだ

V ネットカイペ エロンヌ ヤクン V newaokaype e=ronnu yakun	そいつをお前が殺したら
V ネット ヤク エアシリ』 V ne yak easir'	そうすればやっど（娘をやれる）』
V セコロ アイタクテ V sekora=itakte	と言わせた
V ネット ヒ オロ タ V ne hi oro ta	その時
V ポン ルプネ アイヌ V pon rupne aynu	小男は
V ヤイコシラムスイパ V yaykosiramusuipa	じっと考えた
V オアラ アナクネ V oar anakne	まったく（?）
V アイヌ ニシパ V aynu nispa	立派な人が
V ヤイ…… ヤイランマノ V yay... yayrammano	自分の心から（?）
V ハウエアン カトウ V hawean katu	言ったこと
V ソモ ネット コトム V somo ne kotom	ではないように
V エサンニヨ V esanniyo	思った。

V アナク キ コロカ V anak ki korka	されども
V ソヤ ニツネヒ V soya nitnehi	スズメバチが
V コロ ラメトク V kor rametok	持つ勇氣
V コマウヌクリ V komawnukuri	に恐ろしくて近寄れない
V キ ペ ネクス V ki pe nekusu	ので
V キキ タ ネ クス V kiki ta ne kusu	しかたなく
V オロワ イケスイ V orowa ikesuy	怒って出ていった。
V トカプチ プトウ V Tokapci putu	十勝川の河口
V チオサンケカラ V ciosankekar	に出て
V エク カトウフ V ek katuhu	やってきたことには
V オヤコヤク タ V oyakoyak ta	あちこちに
V ヤント エトウン V yanto etun	宿を頼んで



V アナク キ ヤツカ V anak ki yakka	みても
V チワシ コロ カムイ V ciwas kor kamuy	河口の神は
V ヤイエイカタイタク V yayeykataitak	断って
V エネ オカ ヒ V ene oka hi	このように言った。
V 『アコロ コタヌ V 'a=kor kotanu	『私の村
V アコロ…… アコロ ペツポ V a=kor... a=kor petpo	我らの川には
V チェプ カ サク ナ V cep ka sak na	魚もないよ
V アコロ コタヌ V a=kor kotanu	私の村には
V ハル カ サク ナ V haru ka sak na	食物もないよ
V アイヌ カ モヨ V aynu ka moyo	人も少ない
V パセ カムイ V pase kamuy	重々しい神を
V アヤントコロ カ V a=yantokor ka	私がお泊めするのも

V コヤヤプテ ナ』 V koyayapte na'	できかねる』
V セコロ ハワシ V sekor hawas	と言う
V ペツ ピシノボ V pet pispopo	川ごとに
V エク カトウフ V ek katuhu	やってきたことには
V シシリムカ V Sisirmuka	沙流川
V サノプトウフ V sanopotuhu	の河口
V チオエクテカラ V cioektekarakar	にやってきた
V サラ プトウ V Sar putu	沙流川の河口
V チワシ コロ カムイ V ciwas kor kamuy	河口の神に
V コヤントエトウン V koyantoetun	宿を頼ん
V キ ア コロカ V ki a korka	だけれど
V チワシ コロ カムイ V ciwas kor kamuy	河口の神は

V ヤイエイカタイタク V yayeykataitak	断った。
V 『アコロ ペツポ V 'a=kor petpo	『我らの川は
V チェプ サク ペツ ネ V cep sak pet ne	魚もない川で
V アエプ サク ペ ネ V aep sak pe ne	食べ物もない
V アイヌ カ モヨ V aynu ka moyo	人も少ない
V パセ カムイ V pase kamuy	重々しい神が
V アヤントコロ カ V a=yantokor ka	お泊めすることも
V コヤヤプテ ナ』 V koyayapte na'	いたしかねる』
V セコリタク V sekor itak	と言った
V オロワノ V orowano	それから
V モシツ トウラシ V mosir_ turasi	大地をつたって
V アラパ カトウ V arpa katu	行った様子は

- V シピチャラ プトウ 静内川の河口に  
V Sipicar putu
- V オアラパ ヒネ 行って  
V oarpa hine
- V シピチャラ プトウ 静内の河口で  
V Sipicar putu
- V コヤントエトウン 宿を頼んだ  
V koyantoetun
- V キルウエ ネ アワ ところ  
V ki ruwe ne awa
- V チワシ コロ カムイ エネ イタキ 河口の神がこのように言った  
V ciwas kor kamuy ene itak h\_i
- V 『パセ カムイ 『重々しい神  
V 'pase kamuy
- V イエ ア イタク 言った言葉を  
V ye a itak
- V アコヌ ソモ キ カ エオロパク コロカ 聞かないのはおそれおおいが  
V a=konu somo ki ka eorpak korka
- V アシヌマ アナク 私は  
V asinuma anak
- V チワシ コロ カムイ 河口の神  
V ciwas kor kamuy
- V アネ ルウエ ネ であるのだ  
V a=ne ruwe ne

V パセ カムイ V pase kamuy	重々しい神を
V アヤントコロ カ V a=yantokor ka	お泊めするのは
V コヤヤプテ ナ ペッ トウラシ V koyayapte na pet turasi	いたしかねる。川沿いに
V エアラパ キ ワ V e=arpa ki wa	お前が行って
V ペッ トウラシ ヤイエヤントエトウン V pet turasi yayeyantoetun	川沿いに自分で宿を頼む
V エキ ワ エイヌ』 V e=ki wa e=inu'	『してみなさい』
V セコロ アイエ V sekor a=ye	という
V タプ オロワノ シピチャツ トウラシ V tap orowano Sipicar_ turasi	それからは静内川沿いに
V ペッ トウラシ V pet turasi	川をさかのぼる
V マカン アン キ コロ V makan an ki kor	時には
V チウ ノイエ マツ V ciw noye mat	流れを曲げる女神
V チウ ノイエ クル V ciw noye kur	流れを曲げる男神に

V コヤントエトウン V koyantoetun	宿を頼んで
V マカン ネ コロ V makan ne kor	時には
V モイチワ…… モイコノイケ V moyciwa... moykonoyke	渦と共によじれ
V モイ コシプス V moy kosipusu	渦と共に浮かび上がる
V パセ カムイ V pase kamuy	重々しい神に
V コヤントエトウン V koyantoetun	(河童は) 宿を頼んだ
V アナク キ コロカ V anak ki korka	されども
V サッ コパンカラ V sat kopankar	きっぱり断られた
V アラパ カトウ V arpa katu	(そしてさらに) 行ったのは
V ネイ タ パクノ V ney ta pakno	どこまでも
V シピチャラ トウラシ V Sipicar turasi	静内川沿いに
V アラパ アイネ V arpa ayne	さかのぼっているうちに

V タパン シピチャラ V tapan Sipicar	この静内川に
V アラパ カトウ V arpa katu	行ったのは
V ペテトコホ V petetokoho	水源地の
V トウプ ネ アラパ V tup ne arpa	二つになって行く（うち）
V コイカ ワ クシ ペッ V koyka wa kus pet	東の方から通る川の
V ペテトコホ V petetokoho	水源地に
V ポロ コトマ V poro kot oma	大きな窪地がある
V アラパ アイネ V arpa ayne	さかのぼっているうちに
V サツ ワ アラパ V sat wa arpa	乾いて行く
V アナク キ コロカ V anak ki korka	されども
V ポロ パラコッ V poro parakot	大きく広い窪地
V パラコッ ノシキ V parakot noski	広い窪地の真ん中に

V オリワク クニ プ V oriwak kuni p	いるはずのもの
V ポロ ニツネ カムイ V poro nitne kamuy	大きい悪い神が
V アン ルウエ ネ V an ruwe ne	いるのだ
V オロ タ アラパ V oro ta arpa	そのところに行って
V コヤントエトウン V koyantoetun	宿を頼ん
V キ ルウエ ネ アワ V ki ruwe ne awa	なのであるところ
V ウネノ ウエンカムイ V uneno wenkamuy	同じく悪い神が
V ウケムヌ クス V ukemnu kusu	同情し合って
V シコヤントネレ V sikoyantonere	自分のところに泊めた
V オロワウイ スイ V orowaun_suy	それから
V ヤイエイモンタシパ クス V yayeymontaspa kusu	しかえしをするために
V サケ カラ ワ V sake kar wa	酒を作って



V イワイ シントコ V iwan_ sintoko	六つの行器を
V ロロ オライパ V ror oraypa	上座に移動させる
V イワイ シントコ V iwan_ sintoko	六つの行器を
V ウトゥル オライパ V utur oraypa	下座に寄せ
V キワ クス V ki wa kusu	たので
V カムイ ウタラ V kamuy utar	神たちが
V ウコラムコロ ワ V ukoramkor wa	互いに相談して
V ポロシルンカムイ V Porosirunkamuy	ポロシリの神に
V アコアスラニ V a=koasurani	緊急事態を知らせた
V ネ ヒ オロ タ V ne hi oro ta	その時
V オプ エテテ V op etete	槍を（地面に）突き
V エムシ シトムシ V emus sitomusi	刀を腰につけて

V コツチャケ ワ オシマケ ワ V kotcake wa osmake wa	前から、後ろから
V シトメロシキ V sitomeroski	帯にさして
V アラパ カトウ V arpa katu	(悪神が) 行った様子は
V ネア シントコ V nea sintoko	その行器を
V オプ エオツケ V op eotke	槍で刺し
V ラッチタラ V ratcitara	ゆっくり
V ニカニカ V nikanika	ゆすった。
V 『アルスイ ネ アクタ ヤクン V 'arusuy ne a=kuta yakun	『いっぺんに (シントコが) 空けられたら
V エアシラナ V easirana	それこそ
V モシリ エピッタ V mosir epitta	国中
V モシリ ペネ ナ V mosir pene na	国が水浸しになるぞ。
V アイヌ コタン V aynu kotan	人間の村が

V アウエンテ ナンコロ』 V a=wente nankor'	荒らされるだろう』
V セコロ オカイ ペ V sekor okay pe	という事を
V カムイ オピッタ V kamuy opitta	神たちが
V エキマテク クス V ekimatek kusu	あわてているので
V ポロシルンカムイ V Porosirunkamuy	ポロシリの神に
V アコアスラニ V a=koasurani	私が緊急事態を知らせ
V キワ クス V ki wa kusu	たので
V ポロシルンカムイ V Porosirunkamuy	ポロシリの神が
V イカオパシ ワ V ikaopas wa	助けに来て (見ると)
V イワイ シントコ V iwan_ sintoko	(悪神が) 六つの行器を
V オプ エオツケ V op eotke	槍で突いて
V エムシ エオツケ V emus eotke	刀で刺して

V ラッチタラ V ratcitarā	ゆっくり
V ニカニカ ペ V nikanika pe	ゆすっているの
V エポソ クス V eposo kusu	なるほど
V タンパ アナク V tanpa anak	今年は
V ワッカ パテク V wakka patek	大水ばかり
V アン シリヒ V an sirihī	ある様子で
V イナン ペトツ タ V inan pet or_ ta	どの川のところ
V ネ ワ ネ ヤッカ V ne wa ne yakka	でも
V ワッカ パテク V wakka patek	大水ばかり
V アン シリ ネ ワ V an siri ne wa	あるのだから
V イナン ヘンパラ V inan henpara	いつ何時
V タパン シントコ V tapan sintoko	この行器が

V アオクシパレ ヤクン V a=okuspare yakun	ひっくり返されたら
V ソネ ヘタプ V sone hetap	本当に
V アイヌ コタン V aynu kotan	人間の村を
V ソモ エヤムカラ ペ V somo eyamkar pe	気にかけていない
V ネ クス ヘタプ V ne kusu hetap	のでか (そうする)
V シリキ ナ。ピリカノボ V sirki na. pirkanopo	様子だ。よくよく
V アイヌ ニシパ V aynu nispa	立派な人
V ウタロロケヘ V utarorkehe	人々たちが
V ウコソンコクル V ukosonkokur	伝言を
V トウルパ カネ V turpa kane	伝えながら
V カムイ セレマクシ V kamuy sermakus	神の加護を
V ユプケタラ V yupketara	強力にすることを



アウエンテ クス シリキ パハ タ エネ ウエンタラピ ネ  
**a=wente kusu sirki paha ta ene wentarap h\_i ne**  
 崩壊させられる様子がある年にこのように夢にみせたのだ。

オロワノ アエウコソンコクルアッテ カネ ワ  
**orowano a=eukosonkokur'atte kane wa**  
 それから私がそれについて伝言を伝え

イナン コタン タ ネ ヤッカ ニシパ ウタラ ウタラパ  
**inan kotan ta ne yakka nispa utar utarpa**  
 どの村にであっても旦那のみなさまが

ウウオマ ワ ネプ ネ クス カムイ セレマクシ  
**uwoma wa nep ne kusu kamuy sermakus**  
 大勢集まって、なんであれ守り神がついて

アエウコラムコロ ワ コタン エピッタ アエウコソンコクルアッテ セコロ  
**a=eukoramkor wa kotan epitta a=eukosonkokur'atte sekor**  
 それについて相談して村じゅうに伝言を伝えたんだと

(萱野：うん)

ネ ワ ヘタク オラ アオカ アタリマエ イェ ヤン。  
**ne wa hetak ora aoka atarimae ye yan.**  
 であって、さあ、それからあなたのやるべき分を言いなさい。

(別の女性：サッシピチャラ エコタンコロ ワ クス シピチャラ)  
 (別の女性：**Satsipicar ekotankor wa kusu Sipicar**)  
 (別の女性：乾いた静内川の村長だから静内川)

クス シピチャラ、ナ クス アン ペ シピチャラ、  
**kusu Sipicar, na kusu an pe Sipicar,**  
 なので静内川、そういうことであるのが静内川

テエタ アナク シピチャラ プトウ サツサツ ペ ネ  
**teeta anak Sipicar putu satsat pe ne**  
 昔は静内川の河口は乾くものだった。<sup>[2]</sup>

(萱野：うん)

マカナン コロ オタ トシカ ネ アン シピチャラ プトゥ  
**makanan kor ota toska ne an Sipicar putu**  
 時として砂が山のようにたくさんある静内川の河口は

ワッカ ソモ サン ノ オタ トシカ ネ アン マ  
**wakka somo san no ota toska ne an w\_a**  
 水が流れないで砂が山のようにたくさんであって

オタ ネ ルウエ ネ クナク ランパ ル オロ タ  
**ota ne ruwe ne kunak rampa ru oro ta**  
 砂なのであるのだろうと思った道で

カリ クシ クス ネ コロ オシリポシパ ワ イサム  
**kari kus kusu ne kor osirpospa wa isam**  
 そこを通ろうとすると流し出されてしまう。

クス アン ペ ネ。ネワオカ ウェン カムイ  
**kusu an pe ne. newaoka wen kamuy**  
 そうなるのだ。その悪い神が

キ イレンカ クス エネ アニ ネ ナ。  
**ki irenka kusu ene an h\_i ne na.**  
 するしわざなのそうなるのだ。

ネンポカ シピチャラ プトゥ ネ ヤッカ  
**nenpoka Sipicar putu ne yakka**  
 なんとか静内川の河口も

カムイ オピッタ エウカスイ ワ アマカ クニ  
**kamuy opitta eukasuy wa a=maka kuni**  
 すべての神が手伝いあって（河口を）開くように



エウコラムコロ ヤン セコロ ヘム フナク オロ アン ペ ネ アワ うふふふ  
 eukoramkor yan sekor hem hunak or an pe ne awa うふふふ  
 相談しなさいとか、どこの話だか。

(萱野：なるほどなるほど)

クス シピチャラ チェプ オツ コロカ エタラカ エタラカ ネ  
 kusu Sipicar cep ot korka etarka etarka ne  
 そのために静内川は魚が多いけれどもむやみやたらに

テエタ アナク エタラカ エタラカ チェプ コイキ カ アエアイカプ ペ ネ。  
 teeta anak etarka etarka cep koyki ka a=eaykap pe ne.  
 昔はむやみやたらに魚を捕ることもできないものだ。

ネ カメアシ アシトマ ワ キ セコロ アン(?) オルシペ  
 ne kameasi a=sitoma wa ki sekor an(?) oruspe  
 そして魔物がこわくてできなかったという話だ。

フンタ カムイ エネ ウンピリマ ハウエ ネ ヒネ  
 hnta kamuy ene unpirma hawe ne hine  
 何の神がこのように警告した話で

ウンピリマ ハウエ ネ カムイ アイエ しないのでおれもわからないな  
 unpirma hawe ne kamuy a=ye しないのでおれもわからないな  
 警告した神のことは言われていないので (その名前は) 私もわからないな。

(別の女性：まあ ネ ハウエ たか ハシナウ

(別の女性：まあ ne hawe TAKA hasinaw

(別の女性：まあ何の話だか枝つきのイナウ

エコテ カネ パツカイ メノコ ホックホック  
 ekote kane pakkay menoko hotkhotku  
 の方を向いたまま子供をおぶった女性が腰をまげまげ

モコロ クル ヘ アン モナク クル ヘ アン セコロ ハウエアン (?)  
 mokor kur he an monak kur he an sekor hawean (?)  
 眠っている人か？ 起きている人か？ と言った。

言った夢だっというのおらも聞いた覚えある)

エピッタ 覚えてるか？

**epitta** 覚えてるか？

全部覚えてるか？

(別の女性：わからない。わし、

シピチャラ エトコ サッシピチャラ セコロ アイェ して

**Sipicar etoko Satsipicar sekora a=ye SITE**

静内川は以前乾いた静内川と言った。

プトゥフ サツ ワ アン ペ ネ オロ

**putuhu sat wa an pe ne oro**

河口が乾いているものであるところ

エコタンコロ ウェン カムイ エコタンコロ ウシケ

**ekotankor wen kamuy ekotankor uske**

そこに村を持つ悪い神が村を持っているところ

エコタンコロ クニ アイェ ワ サッシピチャラ タ

**ekotankor kuni a=ye wa Satsipicar ta**

村を持っているという話で、乾いた静内川に

アン ワ クス エタカスレ シピチャラ)

**an wa kusu etakasure Sipicar)**

いるので特別に静内川には)

チェプ オツ ヒネ

**cep ot hine**

魚がいっぱいいて

(別の女性：チェッパ オツ コロカ エタカスレ サラク カムイ アツ シリ ネ)

(別の女性： **cep pa ot korka etakasure sarak kamuy at siri ne**)

(別の女性：魚はいっぱいいるけれども余計にドザエモンもたくさんいる様子だ)

(三人：あははははは)

サラク カムイ ネ プ ほんとだ サラク カムイ ネ プ  
sarak kamuy ne p ほんとだ sarak kamuy ne p  
ドザエモン になるもの、ほんとだ 水死体になるもの

(萱野：なにさっちゃうのかな(？))

(別の女性：びっくりした)

びっくりした、びっくりした

(三人：あははははは)

**【注】**

- [1] 音声はポノウマケのように聞こえるが、ポネ ウマケ pone umake か。
- [2] この付近で別のお婆さんが何か話しているが、声が重なっているため、何を喋っているが聞き取れない。

## 8-7 カムイユカラ「ミントウチカムイ イケスイモトホ (ヘム ノエ)」解説

語り手：平賀さだも  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：これはあの **kamuyyukar** [神謡] でも、てだし [出だし] が **mokor kur he an?** [眠っている人か?] **monak kur he an?** [目が覚めている人か?] というふうな、あなたは眠っていますか? 目を覚ましていますか? わたくしはあなたに、こっそり、あの、話をして教えてあげたいことがありますよ。だからもし目を覚ましておるとするならば、私の言うことをよく聞きなさいよ。というようなことから、てだし [出だし] が始まっている **kamuyyukar** [神謡] です。この **hemnoye** というのはあの、**sakehe** [繰り返し] といって、

平賀：折り返し

萱野：繰り返しのあれですね。そして、**Tokapci** [十勝] から始まっているんだな。うん。

平賀：そうです。**Tokapci kut ... putu ekotankorkur** [十勝の河口の村おさ]

萱野：あーなるほどね。えー十勝川の川尻に、

平賀：立派な

萱野：村を持っておる、いわゆる、今よりの言葉で言えば酋長という言葉、適当かどうか分かりませんが、酋長が夢を見た。夢を見たのは、その十勝川に非常にその、恐ろしいカッパの神様がいた。

その神様が、いつもその十勝川に行って悪さをしていけないので、なんとかそのよその村へ追い払ってしまいたいという村の人たちのその、村の人というよりもその神様の相談によってその、カッパの神様にその、無理難題を吹っかけたわけですね。それで最初にはあの、この十勝川、

上って行くとその、**cuppok wa kus pet**〔西から流れる川〕という、いわゆる西側をです。いいね、西側で？

平賀：そうです。

萱野：西側を流れている川を上って行くとそこで **arasarus**〔化け物熊(?)〕という恐ろしい神様がいるから、それをその征伐するようと、いう難題を吹っかけたらそのカップの神様は一跳びに跳んで行ってその **arasarus** とほんの軽く戦ってそれも殺してしまった。そしてまた村へ帰って来た。これではいかんという訳で神様がまた〔また〕相集って相談をして、次にあれしたことは、

平賀：十勝川も、かっち〔一番奥、水源〕行くと2つに分かれ、東側の方

萱野：**cupka... cupka wa kus pet**〔東から流れる川〕か。その川の上流の方で、**saksomoayep**〔大蛇の化け物〕といういわゆるアイヌの考え方でいったら竜というか、大蛇というか、

平賀：いや、大蛇。

萱野：それがおるとのこと言った。そしたらそこへまだ、それを行って征伐するよと言っていると、その **mintuci kamuy**〔河童の神〕は、もう喜んで、吹っ飛んで行った。行ってみると、それには少しかう、手ごわいんだけど、見ると、口のへり、あるいは目のふちに **hure saranpe a=ekaye apekor an**〔赤い絹を折って縫ったような〕という表現で出ていますが、口のへりや目のふちに赤いきれで、こう折り……赤いきれを

平賀：覆輪とったような

萱野：縁取りしたような、あの姿をした者が、そこへ現れて来た。それを、んーと、その **mintuci** というカップの神様が、せんす〔戦争〕……いくさ、いくさというより戦って、その者も征伐しまして、帰って来た。いわゆるその **saksomoayep** は負けたわけですね。そして村へ帰って来たならまだ〔また〕村の人たちが相談して、村の神様が相談して、もう1つその、いわゆる無理難題を吹っかけた。

それはその **soya nitnehi**〔蜂の化け物〕と言って、蜂の……クマ蜂と

か赤蜂とかそうした蜂の最もその、強い蜂へ行って征伐してきなさい、  
 っちゅったらその、カッパの神様考えるのには、これはここの村の、村  
 の村おさだけがかんがえて、その私に吹っかける難題でないんだなと、  
 きっとこれ私をこの村に置きたくないとか、まああの、それでこういう  
 ことしているらしいから、行ってその蜂の神様と戦ったんではどうも勝  
 ち目がないと、これではどっか行った方がいいなと、そのように自分で  
 考えて、今度はずっとその海辺を通過して西の方へ下って来た。

それぞれの川の川尻へ来たら、どうですか、私に住まいを与えてくれ  
 ませんかと言うとそこの川の神様は考えるのに、「こんな恐ろしい河童う  
 ちの川へ上したら大変だ」と、そうするもんだから、体よく「いや、う  
 ちの村は魚も少ないアイヌも少ない、あんたが住んでも食べ物ありませ  
 んよ。どうぞ、よそへ行って下さい」。まあ体よく断られる。

そして次から次と、行くんだけど、適当にその、あしらわれる。  
 で、何か所かの川を、川口へ行っては、「よそ行った方がいい、よそ行っ  
 たほうがいい」と言われて、まあ **Sipicar** [静内] の川へ来た。

そしてまあ **Sipicar** の川へも来て、まあお願いしたら、まあ、「じゃあ  
 上ってみなさい」と言われたのでそのままずっと上って行った。そして  
**Sipicar** 川の川の上流へ行ったら **poro nitne kamuy** [大きな化け物神]  
 これはまあ、まあ、アイヌふうにと考えると鬼という考えかい？

平賀：鬼、鬼か魔物

萱野：うん、とにかくその恐ろしい魔物の魔神がおったと。そこへ行って「ど  
 うぞ私をその仲間にして下さい」。と言うと、「ああいいですよ」と、  
 いわゆる悪者は悪者同士で、そこでまあ、住まわすことになったと。そ  
 してそこでどうしてあの **iwan ontaro** [6つの樽] 出てくるの？

平賀：それはねえ、それを汲んでね、それを **kotan** [村] を荒らすべく、流し  
 てしまうべく

萱野：あーなるほど。

平賀：酒買つといっても **wen kamuy** [悪い神] だからね、酒買って、大水を、  
 留めをこしらって、それ一遍に放すのに、

萱野：あーなるほどな。

平賀：そういうことではいかんで、そんでは一遍に放されたら、そんだけの大きな水なら **Sipicar**〔静内〕川ばかりでなく、たとえ新冠でも、どこ  
の川でも、上がってくるんだと

萱野：あーなるほどね。

平賀：だから、大変だから、それではとても大変だと、神様がた相談の上に  
**Porosir**〔幌尻岳〕の

萱野：神様が

平賀：山の神様が

萱野：が呼ばれたわけね。

平賀：呼ばられた。

萱野：あーなるほどね。

平賀：それで

萱野：そして、その6つの樽に入っている水を少しずつ撒かしたわけだな。

平賀：そう、あの……

萱野：槍で

平賀：槍で

萱野：槍で穴、穴あけたり

平賀：穴あけたりして

萱野：刀で穴あけたり

平賀：サットサットこう、揺すこると少し(?) 少し撒かれたようでも、こんなに春から暮れ(?) までこうやって大水ばかり出て、いたる畑は荒らされ、ね、いたる **kotan** [村] ものってくるくらいの水だと

萱野：あーなるほどね。それを聞いてまあ **Porosirunkamuy** [幌尻の神] が来てこれは大変だと、「一度に撒かすべきでない」と言いながらまあ少しずつ撒かして、その年は、まあ、特にその大水の多い年であったと。

そしてその、カッパの神様の行く末は、何ちゅうんだ、**Poronitne kamuy** と、あれしたけれどもその、とうとう **Sipicar** [静内] 川に住まい…… 住み着いたので **Sipicar** 川の川口は、急に川へも出ずに、ブヨブヨしたような、詰まったような、そして、そこを陸(おか)だと思って子どもが走ったり大人が走ったりすると、そこへ急にその人間が吸い込まれるようにして、特に **Sipicar** 川、今の静内川だな？

平賀：そうです、そうです。

萱野：あの一、静内川にその **sarakkamuy** [水死人] という言い方、したんだ…… しておったが、これはその水死人が出る率が多いのは静内川。それは静内川に河童の神様がいるからだ、というふうにその、伝説の中ではあるんですよということ、この物語の中で言っております。

そしてこの物語の中でも大水はなぜ出るかとか、あるいはどうしてその水死人が多く出るかとか、まあいろいろなその神様はどんな顔をしてどんな姿しているか、なんちゅうことが多く教えておる **kamuyyukar** [神謡] ですね。これは **mintuci kamuy** [河童の神] だから **kamuyyukar mintuci kamuy...**

平賀：**ikesuy motoho** [逃げた理由]

萱野：あー **ikesuy motoho** という題がいいね。**ikesuy motoho** ですね。これは、**sakehe** [折り返し] は **hemnoye** というふうに使われております。



## 8-8 パナンペペナンペ

「アッケテク ホプニ」

帆立貝、飛んだ

語り：平賀さだも

ペナンペ アン パナンペ アニネ シラニケ

**Penanpe an Pananpe an h\_ine siran h\_ike**

ペナンペ（川上の者）とパナンペ（川下の者）がいました。

パナンペ ピシ タ サン アクス

**Pananpe pis ta san akusu**

パナンペが海辺へ下って行くと、

アッケテク シネプ ヤニネ アン。でない。クスンケ ハウエ ネ。

**akketek sinep yan h\_ine an. DENAI. ku=sunke hawe ne.**

ホタテが1枚寄り上がっていました。（本当）でない。（今）私は嘘を言った。<sup>[2]</sup>

フンペ ヤニネ アン。エヤイコブンテク。

**hunpe yan h\_ine an. eyaykopuntek.**

クジラが寄り上がっていたので（パナンペは）喜びました。

インカラ アクス ネ オロ オ プ カ イサム。

**inkar akusu ne or o p ka isam.**

見ると何も入れる物がありませんでした。

インカラクス アッケテク シネプ ヤニネ アニ クス

**inkar akusu akketek sinep yan h\_ine an h\_i kusu**

見てみると1枚のホタテも寄り上がっていたので、

ネア アッケテク オルン フンペ チャ ア チャ ア アイネ

**nea akketek or un hunpe ca a ca a ayne**

ホタテの中へクジラ（の肉）を切り取り

イキリ カラ カラ ヒネ

**ikir kar a kar a hine**

(肉の) 山を作り、

オラウン カシ タ アシ ヒネ

**oraun kasi ta as hine**

ホタテの上に立って

「アッケテク ホプニ ホプニ、アッケテク ホプニ ホプニ」

**“akketek hopuni hopuni, akketek hopuni hopuni”**

「ホタテ飛べ飛べ、ホタテ飛べ飛べ」

セコロ カネ ハウエアナクス .

**sekor kane hawean akusu .**

とそうのように言うと、

ネ アッケテク ホプニ ヒネ エキネ ウニ タ トウルセ ヒネ

**ne akketek hopuni hine ek h\_inine uni ta turse hine**

そのホタテは飛んで来て、(パナンペの) 家へ降りて、

エアラキンネ エピリカ コロ アン ルウエ ネ アクス

**earkinne epirka kor an ruwe ne akusu**

そこでとても裕福に暮らしていました。

オロ タ ペナンペ サン ヒネ

**oro ta Penanpe san hine**

そこにペナンペが下ってきて、

「イトウラ ウエン クル エネ ア プ、

**“i=tura wen kur e=ne a p,**

「私と一緒にの貧乏人だったのに、

マケイキ イネ エニシパネ ルウエ アン？」

**mak e=iki h\_inine e=nispane ruwe an?”**

「どうやってお前は金持ちになったのだ」

セコロ カネ ハウエアナクス、パナンペ  
**sekor kane hawean akusu, Pananpe**  
 と言いました。パナンペが

「エク。イペ コロ アエパシクマ ナ」  
**“ek. ipe kor a=epaskuma na”**  
 「来いよ。食べながら教えてやろう」

セコロ カネ ハウエアナクス  
**sekor kane hawean akusu**  
 と言うと、

「ホシキ サン…… ホシキ タシ チヌ ロク ペ」  
**“hoski san... hoski tas ci=nu rok pe”**  
 (ペナンペは)「俺が先に知っていたものだ」

セコロ ハウエアン コロ アパ サムン クチッ テク コロ ソイネ  
**sekor hawean kor apa sam un kucir\_ tek kor soyne**  
 と言いながら、戸口にさっと小便をかけて出て行った。

ヘマンタ ネ エネ アネ(?) クチラウエ ネ コロ チソイエカッタ ヒネ イサム。  
**hemanta ne ene ane(?) kucir h\_awe ne kor cisoyekatta hine isam.**  
 なんだってそんなふうに小便をかけた話なのか、(ペナンペは)外へ飛び出して行っていった。

コント ピシ タ サン.  
**konto pis ta san.**  
 今度、浜へ下った。

ペナンペ ピシ タ サン アクス フンペ ヤニネ、  
**Penanpe pis ta san akusu hunpe yan h\_ine,**  
 ペナンペが海辺へ下るとクジラが寄り上がっていた。

アッケテク ヘム ヤニ ネ アニ クス  
**akketek hem yan h\_i ne an h\_i kusu**  
 ホタテも寄り上がっていたので、

「アッケテク ハサ」

“akketek hasa”

「ホタテよ口を開け」

セコロ カネ ハウエアナクス

sekor kane hawean akusu

と言うと

アッケテク ハサ イ クス オロ ウン フンペ チャ ア チャ ア ヒネ

atketek hasa h\_i kusu oro un hunpe ca a ca a hine

ホタテが口を開いたので、そこへクジラ（の肉）を切り取り、たくさん集めて、

「オロ エシクテ ポロンノ タシ エオマレ ヤクネ

“oro esikte poronno tas e=omare yakne

「それいっぱい、たくさん入れたなら、

ポロンノ エエピリカ ネク」

poronno e=epirka nek”

たいそう裕福になるぞ」

クス ヤイヌ クシ ポロンノ オマレ ヒネ オラウン カシ タ アシネ、

kusu yaynu kus poronno omare hine oraun kasi ta as h\_inine,

と思って、たくさん入れて、その上に立った。

トゥナシノ ウニ ウン アラパ ルスイ ペ ネ クス

tunasno uni un arpa rusuy pe ne kusu

早く家へ行きたいと思った者であったので、

「アッケテク ホプニ ホプニ、アッケテク ホプニ ホプニ、

“akketek hopuni hopuni, akketek hopuni hopuni,

「ホタテ飛べ飛べ、ホタテ飛べ飛べ、

アッケテク ホプニ ホプニ」

akketek hopuni hopuni.”

ホタテ飛べ飛べ」

セコロ ハウエアナクス、  
**sekor hawean akusu,**  
 と言うと、

トオペリカシ ホプニ ヒネ  
**toop h\_erikasi hopuni hine**  
 遙か上のほうに飛んで、

オロワノ トオプ ニタイ エンカ ペカ ホプニ ヒネ アラパ ヒネ、  
**orowano toop nitay enka peka hopuni hine arpa hine,**  
 それからずうっと林の上などを飛んで行って、

トオプ キム タ アラパ コロ アラホリカシ トウルセ ヒネ  
**toop kim ta arpa kor arhorikasi turse hine**  
 ずうっと山の方へ飛んで行き、すごく高いところから落っこちて

トウルセ アッケテク カ テレケ ヒネ イサム ペ ネ クス  
**turse akketek ka terke hine isam pe ne kusu**  
 落ちたホタテも飛んで行ってしまったので、

トゥ ライ ウェン ライ キ クス  
**tu ray wen ray ki kusu**  
 ひどい死に方、悪い死に方をしたので、

イテキ イテキ エイタサ イコン ルスイ  
**iteki iteki eytasa ikor\_rusuy**  
 あんまりものを欲しがったりしてはいけません。

ペ カ ポロンノ ネプ カ アコロ クス ネ。  
**pe ka poronno nep ka a=kor kusu ne.**  
 (そういう)ものは、何かたくさんもらうことになりますよ<sup>13)</sup>。

ニサプノ ニシパ アネ クス ネ セコロ イテキ ヤイヌ プ ネ。  
**nisapno nispa a=ne kusu ne sekor iteki yaynu p ne.**  
 にわかにならうと思っははいけません。

## 【注】

- [1] 聞きおこしにあたって、類話である早稲田大学語学教育研究所『音声資料3』(20～21 ページ)を参考にした。ただし、語り手も同じであるが、語っている文言は同じではない。
- [2] 間違って語ってしまったという、語り手自身によることば。
- [3] 「何かたくさんもらうことになりますよ」というのは反語的表現で、「何も手に入りませんよ」ということを言っている。このような本当の意味とは反対のことをわざとということが、アイヌ語の表現には多い。

## 8-9 パナンペペナンペ「アッケテク ホプニ」解説

語り手：平賀さだも  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：これはよくあの、Pananpe an Penanpe an [下の者がいました。上の者がいました] という uepeker [散文説話] で、自分ら子どもの頃でもよくお婆さんに聞かされたものなのですが、いわゆる、上の者と下の者と、がおったという笑い話めいたことになります。

平賀：本当によ。

萱野：「わたくしは下の者でありました。ある日のこと海辺へ出てみると大きな一頭の寄り鯨が寄り上がっておったと、これを何として持って帰ったらいいかなと、考えてよく見るとそこで1つのホタテ貝が寄り上がっておった。この辺がその童話にしてもその、ちょっとあの、話が何というかその、ちょっと普通では考えられない、いわゆる鯨をホタテ貝に積んだというんですから、まるきり話にならない話なんですけれども、そこがいわゆる童話というか笑い話なんです。

Pananpe が海辺へ行ってて大きい鯨が寄り上がった。その鯨をどっさり切ってきて脂や肉のどこを切ってそのホタテ貝にいっぱい積み込んだ。そしてホタテ貝の上に下の者も立って言うのには、『さあ私のうちへ帰ってください、お願いします。』と言うと、そのホタテ貝がふわりと浮き上がって、そしてゆっくりゆっくり飛んで、下の者の家の前へふわりと下りてくれた。そしてそこで沢山の肉や魚、いや、まあその鯨の肉を食べることが出来てなに不自由なく生活をしておった。

ある日のこと上の者がやって来て言うのには『共に貧乏であったお前は どうしてそんなに楽に生活しておるの?』って言ったら、『入って食べなさい、今あなたに話をして聞かせますよ。』と言うと、その上の者の言うのには『先に私はちゃんと知ってますわ!』と言いながら入口の柱にちょっとこうオシッコをかけて行ってしまった。

海辺へ行くとやっぱりその前と同じように大きな鯨と1つのホタテ貝が寄り上がっておった。

それにまだ〔また〕前の話と同じように、どっさりその鯨の肉を切つてホタテ貝にいっぱい積み込んで、そして上の者も共に乗り込んだ。そして『さあさあ早く早く、うちへ飛んで、うちへ飛んで、うちへ飛んで』と、言うとそのホタテ貝はグングングングングン高いところへ飛ん……飛んで飛び過ぎたもんだから少し高いところからドシーンと落ちて、えーそのホタテ貝も壊れ、そして **Penanpe** という上の者も死んでしまったとき。」という物語。

これは **Penanpe an Pananpe an**〔パナンペがいた、ペナンペがいた〕という **uepeker**〔散文説話〕ですね。



## 8-10 パナンペペナンペ

## パナンペの魚釣り

語り：平賀さだも

パナンペ アン ペナンペ アニネ シラニケ

**Pananpe an Penanpe an h\_ine siran h\_ike**

パナンペ（川下の者）がいてペナンペ（川上の者）がいました。

パナンペ ペトツ タ ラニネ チイエ ウオレウシ<sup>[1]</sup> クス**Pananpe pet or\_ ta ran h\_ine ciye woreusi kusu**

パナンペは川で陰茎を水に突っ込んだので

チェッポコトイセ オラノ ヤプテ ア ヤプテ ア ワ エピリカ コロ アン。

**ceppokotoyse orano yapte a yapte a wa epirka kor an.**

小魚が集まり、それから岸へ上げて上げて、（暮らしが）良くなり、

ヤプテ ア ヤプテ ア イネ ポロンノ ウニ ウン ルラ ヒネ

**yapte a yapte a h\_ine poronno uni un rura hine**

魚を上げて上げて家へたくさん小魚を運んで

エピリカ コロ アン アクス

**epirka kor an akusu**

裕福に暮らしていました。

オロ タ ペナンペ スイ サン ヒネ

**oro ta Penanpe suy san hine**

そこへペナンペがまた（上流から）やってきて、

「ウネノ ウエン クル アネ ア プ

**“uneno wen kur a=ne a p**

（パナンペに）「同じように貧乏だったのに

マケイキ イネ エネ エニシパネ  
**mak e=iki h\_ine ene e=nispane**  
 どのようにして金持ちになったのか、

エチェッポヌコアン ルウェ ネ エネ アン？」  
**e=cepponukoan ruwe ne ene an?”**  
 どのように魚をたくさん捕ったのか」

セコロ カネ ハウエアン ワクス、  
**sekor kane hawean wakusu,**  
 と言ったので、

「エク。イペ コロ アエパシクマ ナ」  
**“ek. ipe kor a=e=paskuma na.”**  
 「来い。食事をしながら話をしよう」

セコロ ハウエアナクス、  
**sekor hawean akusu,**  
 と言うと、

「ホシキ タシ チヌ ロク ペ」  
**“hoski tas ci=nu rok pe.”**  
 (ペナンペは)「俺が先に聞いて、知っていたのに」

セコロ ハウエアン コロ  
**sekor hawean kor**  
 と言いながら、

スイ アパサムン クチッ テク コロ チソイエカッタ ヒネ イサム。  
**su y apasam un kucir\_ tek kor cisoyekatta hine isam .**  
 戸口にさっと小便をひっかけて、飛び出して行ってしまった。

コント ペトッ タ ラン ヒネ ペトッ タ ラン ヒネ  
**konto pet or\_ ta ran hine pet or\_ ta ran hine**  
 今度、川に下りて、川に下りて、

オラノ チイエ ウオレウシ チェッポコトイセ

**orano ciye woreusi ceppokotoyse**

それから陰茎を水に突っ込むと、小魚がたくさん集まった。

「オホンノ ネノ ウオレウシ ワ アヌ ヤクン

**“ohonno neno woreusi wa anu yakun**

「長いことこのように水に突っ込んでおいたら、

ポロンノ 欲深いんだね ポロンノ チェッポコトイセ ナンコロ」

**poronno YOKUBUKAINDANE poronno ceppokotoyse nankor.”**

たくさん（欲深いんだね）<sup>回</sup>たくさん小魚が集まる」

セコロ ヤイヌ クス

**sekor yaynu kusu**

と思い、

オホンノ チイエ ウオレウシ ワ アヌ アクス シリコルプシ。

**ohonno ciye woreusi wa anu akusu sirkorupus.**

川へ陰茎を刺したままにしていたら、しっかり凍りついてしまった。

ペッ ルプシ イネ チイエ シリコルプシ クス<sup>3</sup>

**pet rupus h\_ini ciye sirkorupus kusu**

川が凍って、陰茎が凍りついてしまったので、

「アマチヒ アマチヒ ネプ カ コロ ワ エク。

**“a=macihi a=macihi nep ka kor wa ek.**

「私の妻よ、妻よ、何かもって来て

コンル タウキ ワ イコレ イコレ」

**konru tawki wa i=kore i=kore.”**

氷を叩き割ってくれ、くれ」

チイエ エタイエ カ エアイカプ ワ クス、ライホトウイパ アクス

**ciye etaye ka eaykap wa kusu, rayhotuypa akusu**

陰茎を引き抜くことができないので大声で叫ぶと、

マチヒ ムカラ コリネ ラニネ コンル タウキ クス ネ アクス  
**macihi mukar kor h\_ine ran h\_ine konru tawki kusu ne akusu**  
 妻がマサカリを持って下りて来て、氷を叩き切ろうとして、

ホク チイエ タウキ ヒ……  
**hoku ciye tawki hi…**  
 夫の陰茎を叩き切ってしまい、

ペナンペ チイエ タウキ ヒネ チイエ トウイエ プ ネ クス  
**Penanpe ciye tawki hine ciye tuye p ne kusu**  
 ペナンペの陰茎を叩き切って切ってしまったので、

トゥ ライ ウェン ライ キ。  
**tu ray wen ray ki.**  
 ひどい死に方、悪い死に方をしました。

**【注】**

- [1] このあたりで周りの聞き手が「人馬鹿にして！」と話している。
- [2] この「欲深いんだね」は語り手自身による感想として挿入されている。
- [3] このあたりで周りの聞き手が「人馬鹿にして！」と話している。

## 8-11 パナンペペナンペ解説

語り手：平賀さだも  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：えーもう1つ今と同じ上の者と下の者の話なんですけれども、上の者が魚を欲しくなったので、川へ出て自分のチンチンを伸ばして伸ばして伸ばして川ん中へ入れておいた。そうすると、どっさり魚が付いたのでそれを引き上げて、どっさり魚を獲ってまだ〔また〕なに不自由なく暮らしておった。そこへ、え……え……

平賀：Penanpe〔上の者〕

萱野：上の者がやって来て言うのには、「共に貧乏であったお前がどうしてそんなに楽なの？」ったら、「入って食べなさい。教えてあげるから。」「先に私は聞きました。」

そして、そう言いながら入口へオシッコちょっとかけて出て行ってしまったと。

そしたら、まだ〔また〕その上の者は川へ下りて、チンチンを伸ばして伸ばして川へ入れて、魚がどんどん、どんどん、どんどん付く。

いつまでおった方がどっさり付くだろうと思って、じっと待つておるとそのうち、寒くなってすっかりその、オチンチンも凍ってしまった。

したら、もううちへ帰るにも帰れない。大声出して「うちの家内よ、下りてきて、あの……私のチンチン取って」と言ったら、大泡食いで〔大慌てで〕マサカリを持ってきて、その氷を起こしてオチンチンを助けようとしたら間違って、その自分の旦那のオチンチンを切ってしまうとその上の者はそこで死んでしまった、とさ。

という uepeker〔散文説話〕でした。

平賀：(笑)。今度何だか、また入れるんだっけな？

萱野：あーそうね。こういうことでこ Penanpe an Pananpe an〔上の者がいました。下の者がいました〕というのは、あの随分たくさん種類があ

……ありますね。こう短いけれどもね。

平 賀：そうね。何……何……何ちゅうもんだべった [どんなものと言え  
いのか]、**Penanpe Pananpe** ちゅうのね。aw ta weysisam te ta  
weysisam [隣の貧乏和人、ここの貧乏和人] っていうようなもんだろ  
うかね？

フチ 1：そういったんさ (?) te ta weysisam aw ta weysisam って言う……言  
うね (?)。

平 賀：そう言うよね。sisam [和人] 入る場合にはね。(笑) maketa an pe suy  
takne p ku=ye kuni ku=ramu a p k=oyra tek おや、きもやけるな [い  
ったいどういったもんだか、また短い(話)を言おうかと思ったけれ  
ど、ちょっと忘れてしまって、腹立たしいな。]今。k=eyaykosiramsuypa  
kor k=an tek k=oyra wa isam [ちょっと考えているんだが、忘れてし  
まった] って。

萱 野：よし。

## 8-12 日時、大雪紹介

語り手：平賀さだも

解説：萱野茂

萱野：えーと昭和44年2月16日です。今年は何十年ぶりかの大雪で、2月1日の夜は、だいたい3尺〔約90cm〕近く、そして2月4日から5日にかけて降った雪は、そうですね私足長いほうですけども、その辺、道路の中へ降った雪歩いても腰つきりだから、まあおそらく4尺〔約1m20cm〕もつとかと思われるぐらい、大雪降りましたが、何日か暖かかったので、いくらか雪は融けましたが、今年は稀にみる大雪です。

で外はこう、雪をかき寄せた、あれなんかも、うず高く積まれる沙流川のこの平取町二風谷付近にしては、10年か15年に1度という大雪の冬です。

お家の中でお婆さんと一緒にこの録音をやっております。わたくし萱野茂です。

平賀：こんと〔今度〕yukar〔英雄叙事詩〕入れるかな。

## 9-1 内容 ユカラ紹介

解説：萱野茂

萱野：えーとあの、uepeker〔散文説話〕とか kamuyyukar〔神謡〕に続きまして今度は yukar〔英雄叙事詩〕平賀さだもさんにやっていただきます。



## 9-2 ユカラ

## 「サクソモアイエプ」 (1)

## サクソモアイエプ退治 (1)

語り：平賀さだも

タネポ タプネ tanepo tapne	そうして
トウミ スイケレ tumi suykere	戦争が終わり
ウエンペ スイケレ wenpe suykere	悪いことが終わった
エパキ クス ep a=ki kusu	それゆえに
アトウイ トモトウイエ atuy tomotuye	海を横切り
ウ ヤナナアワ u yan=an awa	陸にあがったところ
イネ フナクン ine hunak un	どこかで
メノコ チサウ menoko cis h_aw	女性の泣く声
メノコ パラパラカウ menoko parapararak h_aw	女性が泣き叫び

アプイコトロ a=puykotoro	私の耳に
チウニンパレ ciwninpare	響いてきた
コヤアモンアッテ…… <sup>[1]</sup> koyaamon'atte...	
コヨヤモクテ koyoyamokte	不思議に思い
エパキ クス ep a=ki kusu	それゆえに
コパッケ サマ kopakke sama	女性の方に向かって
アヤイトウイエレ a=yaytuyere	私はまっすぐに
ホプニ ネ ワ hopuni ne wa	飛びたって
アキ プ ネ コロカ a=ki p ne korka	されども
アキサラストウ a=kisarsutu	私の耳元で
コマウクルル komawkururu	風がピューピュー鳴り
オロ ハワスシケ oro hawas uske	声が聞こえるところ

コパッケ サマ kopakke sama	の方に向かって
アヤイトウイエレ a=yaytuyere	私は進み
アシエトク サモロ a=sietok samor	自分の前方に
ウ シクイルケ u sikuyruke	目を配る
ウ キ ロカワ u ki rok awa	そうすると
ソモ ウ スイ クス somo u suy kusu	まさか
インカラン クニ inkar=an kuni	見るとは
アラム ロク ワ a=ramu rok wa	思わなかった
(エ)アシラナ (e)asirana	なんとまあ
アトウイヤ コタン Atuyya kotan	アトウイヤ村に
アリタオマブ aritaomap	板綴り船が
アヤンケ ワ アン コロ a=yanke wa an kor	上陸していて

ネ ヤケ タ ne yake ta	その岸に
エアシラナ easirana	なんとまあ
ネ コタン ウイル プ ne kotan uyru p	どの村にいるもの
ネ モシリ ウイル プ ne mosir uyru p	どの国土にいるもの
ウ ネ ナンコラ u ne nankor y_a	であろうか
アシクネ オッカヨ asikne okkayo	5人の男性
シネ メノコ sine menoko	1人の女性が
エイワニウネ ワ eiwaniwne wa	6人であって
アルキリカサム arukirsam	一同膝に
ウ テコ カネ u teko kane	手を置いて（並んで座って）
ウ タン ルイ ハペ u tan ruy [h]ape	激しい炎が
シパラセレ siparsere	燃え上がっている。

インカラン ルウエ inkar=an ruwe	見ると
タパンペ レ コロ tapanpe re kor	この名前を持つ
エアシラナ easirana	なんとまあ
アイェ ロク クニ プ a=ye rok kuni p	俗に言う
サクソモアイェブ saksomoayep	サクソモアイェブ
アイェ ロク クニ プ a=ye rok kuni p	と言うべきものに
アアラコトムカ プ a=arkotomka p	違うもの
シク パルルケ sik parurke	目の縁に
フレ センカキ hure senkaki	赤い布を
アエカイパ コトム a=ekaypa kotom	縫い付けられたように
ウ パラ ピシカニ u par piskani	口のまわりに
フレ センカキ hure senkaki	赤い布を

アエカイパ コトム a=ekaypa kotom	縫い付けられたような
コカッコン ルウエ kokatkor_ ruwe	外見を持って
オカ ウェン カムイ oka wen kamuy	いる悪い神
ポロ ウェン カムイ poro wen kamuy	大きい悪い神が
アペ テクサモロ ape teksamor	火の手のそばの所に
エア ルウエ ネ ea ruwe ne	座っている
インカラン アワ inkar=an awa	見ると
ネロク オツカイポ nerok okkaypo	例の青年
キヤンネ ノイネ kiyanne noyne	年上らしく
アラム ハイケ a=ramu [h]a h_ike	思うほうのやつを
ウ テク サイカレ u tek saykare	手でつかみ
イマニツ エタラレ imanit etarare	焼き串にさした

エアシラナ easirana	なんとまあ
イマニツ カ タ imanit ka ta	焼き串の上で
ウ テシケ カネ u teske kane	反り返る
エアシラナ easirana	なんとまあ
タン ポロ アペ tan poro ape	この大きい火の
アペ テクサモロ ape teksamor	火の手のそばの所に
エアシ キ コロ easi ki kor	(焼き串を) 立てると
タネ アナクネ tane anakne	もはや
オアン ライ クニ oar_ ray kuni	すっかり死んだ
チエソネレ ciesonere	ということがわかった
ウ テク ラチチ u tek racici	手をぶらぶら
サパ ラチチ sapa racici	頭をぶらぶらして

アヌカラ チキ a=nukar ciki	私は見ると
イルシカ ルイ ペ iruska ruy pe	激しく怒るもの
イケムヌ ルイ ペ ikemnu ruy pe	激しく憐れむもの
アネ プ ネ クス a=ne p ne kusu	私であるので
アレクシコンナ arekuskonna	突然に
イネ…… シネ メノコ ine...sine menoko	1人の女性
イネ オッカヨ ine okkayo	4人の男性を
アウコライテクテク a=ukoraytektek	さっとひつつかんで
イタオマチプ itaomacip	板綴り船に
オロ アオクタ oro a=okuta	に放り込んだ
アトウイ ソ クルカ atuy so kurka	海一面の上
アコエアチウ コロ a=koeaciw kor	に向かって押しながら



イタカナウエ  
itak=an h\_awe

私が言ったことは

エネ オカ ヒ  
ene oka hi

こうである

「コタン コロクニ プ  
“kotan kor kuni p

「村を持つはずのものが

エチネ ワ ネ チキ  
eci=ne wa ne ciki

お前たちであったら

ウ ヤイキラレ  
u yaykirare

一目散に逃げろ

ホロ トウナシノ  
[h]oro tunasno

さっさと早く

エチキ ナンコロ」  
eci=ki nankor”

お前たちは逃げるんだぞ」

アオイタッコテ  
a=oitakkote

そう言いおいて

アトウイ ソ クルカ  
atuy so kurka

海一面の上に

アコエアチウ  
a=koeaciw

(舟を) 押しやった

ウ パクノ ネ コロ  
u pakno ne kor

それから

アラ ホリカシ  
ar horikasi

真上から

ウ アラ ウエンカムイ u ar wenkamuy	極悪神の
ウ アラクルカシ u arkurkasi	真上に
アラムコパシテプ a=ramkopastep	刀を
アチウ オプ クンネ aciw op kunne	投げた槍のごとく
アヤイコカラカラ a=yaykokarkar	突きたてた(?)
アナッキ コロカ anakki korka	けれど
ウ タム オプシ プ u tam opusi p	刀を刺すことも
ウ オポプシ プ u op opusi p	槍で突くことも
オアラ ソモ ネ oar somo ne	まったくできない
アキ ワ トウナシ ペ a=ki wa tunas pe	私が素早く（攻撃）したのに
アタメトコ a=tametoko	私の刀の前に
エコホプニ ekohopuni	飛び去った

イネ フナクン ine hunak un	どこかへ
ウ ヤイキラレ u yaykirare	一目散に逃げる
オラウキ クニ orawki kuni	取り逃がしては
オトゥライサンペ oturaysampe	大変だ
アニエコテ aniekote	と思った。
ウ キ プ ネ クス u ki p ne kusu	そこで
セトゥル ウ カシケ setur u kaske	背後にぴったり
アヤイラリ…… <sup>[2]</sup> ayayrari…	
アヤイラリレ a=yayrarire	くっついて
ウ ネイ タ パクノ u ney ta panko	どこまでも
ウ ケセ アアンパ u kese a=anpa	私は追いかけた
ポンコ アン ルウエ ponko an ruwe	こんなに大きい

ポロパン チキ poro p an ciki	大きな身体のくせに
イネロクペ タ inerokpe ta	なんとまあ
ケライ タ ウサム keray ta usam	さすがに
ウ アラハ ウエンカムイ u ar[ha] wenkamuy	極悪神
ウ ネ プ ネ クス u ne p ne kusu	であるので
キラ エニタン kira enitan	逃げるのが速い
ウ ヤイキラレ u yaykirare	逃げだした。
ウ ネイ タ パクノ u ney ta panko	どこまでも
ケセ アアンパ kese a=anpa	私は追いかけた。
イネフイ モシリ inehuy mosir	どこの土地
ウ ネ ナンコラ u ne nankor y_a	であろうか
コヤイキラレ koyaykirare	その方に一目散に逃げる

パイェアン アイネ paye=an ayne	うちに
イネ フナク タ ine hunak ta	どこかに
パイェアン ルウエ paye=an ruwe	行ったのは
エネ オカ ヒ ene oka hi	このようだ
クンネ ヌプリ kunne nupuri	黒い山が
チシレアヌ cisireanu	そびえていた
クンネ ヌプリ kunne nupri	黒い山を
アヌカン ルウエ a=nukar_ ruwe	見ると
ヌプリ タプカ nupuri tapka	山の上の
タニンネ コタン tan inne kotan	人が多い村
ウ クンネ コタン u kunne kotan	黒い村が
チシレアヌ cisireanu	ある

ウ キ コトムノ u ki kotomno	ように
アネサンニヨ an=esanniyo	思われ
ウ キ ロカワ u ki rok awa	たところ
ウ アラ ウエンカムイ u ar wenkamuy	極悪神
シノ ウエンカムイ sino wenkamuy	本当に悪い神が
ウ ハウケ ホトウイェ u hawke hotuye	静かな叫び
ウ ルイ ホトウイェ u ruy hotuye	激しい叫びを
ウカクシパレ ukakuspare	繰り返して（言うことは）
エネ オカ ヒ ene oka hi	このようである
「コニンカラ クス “koninkar kusu	「よく聞いてください
クンネ ヌプリ kunne nupuri	黒い山の
ヌプリ コロ クル nupuri kor kur	山の主よ

ウ ポイヤウンペ u Poyyaunpe	ポイヤウンペが
チキマテッカ cikimatekka	驚かせることを
イエカラカン ナ i=ekarkar_ na	私にしたのだ
カシ チトゥナシカ kasi citunaska	急いで助け
イコロパレ ヤン」 i=korpare yan”	てください」
ウ ハウコロ アワ u hawkor awa	(と) 言うと
クンネ ヌプリ kunne nupuri	黒い山の
ヌプリ カ タ nupuri ka ta	山の上に
クンネ メノコ kunne menoko	黒い女性が
クンネ チパヌプ kunne cipanup	黒い鉢巻
クンネ コソンテ kunne kosonte	黒い小袖を
ウ ヤイネナイネ u yaynenayne	おそろいで

エシピンパペ esipinpape	着たものが
チサウエカッタ cisawekatta	飛び出してきた
ホトウイパ ハウエ hotuypa hawe	叫ぶ声は
エネ オカ ヒ ene oka hi	このようであった
「エパコロ ユピ “ep a=kor yupi	「私の兄が
イウテク ハウエ i=utek hawe	私を思い出して言うには
エネ オカ ヒ ene oka hi	こうである
ウタラ サク ニシパ utar sak nispa	仲間もいない長者
アパ サク ニシパ apa sak nispa	親戚のいない長者
エイ クルカ ei kurka	の上に
ウ タモマレ u tamomare	刀をふるうのは
アエトランネ ナ a=etoranne na	気が進まない



セコロ イウテク sekor i=utek	と私に伝言させたの
ウ キ ナ」 セコロ u ki na” sekor	だよ」と
ホトウイパ アワ hotuyupa awa	叫ぶと
オトウ シウエンパ otu siwenpa	(悪神は) 悪口雑言を
エシロタツパ esirotatpa	吐き出して
ウ アラ ウエン カムイ u ar wen kamuy	極悪神は
イネフナクン inehunak un	どこかへ
ウ カンナ ルイノ u kanna ruyno	また激しく
ウ ヤイキラレ u yaykirare	一目散に逃げる
ウ ネイ タ パクノ u ney ta panko	どこまでも
エアシラナ easirana	なんとまあ
アオラウキ クニ a=orawki kuni	取り逃がしたら

オトゥライサンペ oturaysanpe	大変だと
アニエコテ aniekote	思って
ケセ アアンパ kese a=anpa	私は追いかけて
ウ カンナ ルイノ u kanna ruyno	また
インカラン ルウエ inkar=an ruwe	見ると
フレ ヌプリ hure nupuri	赤い山
タパン ヌプリ tapan nupuri	この山の
チエカントオロ ciekantoor	空を
ウ ソイパ コトム u soypa kotom	えぐるような
ウ シラン チキ u siran ciki	様子の
ヌプリ タプカン nupuri tapkan	山の上に
ウ フレ コタン u hure kotan	赤い村

タニンネ コタン tan inne kotan	人が多い村が
エオマ クニ eoma kuni	あるように
アネサンニヨ an=esanniyo	思って
ウ キ ロカワ u ki rok awa	たところ
ウ アラ ウエンカムイ u ar wenkamuy	極悪神が
ウ カンナ ルイノ u kanna ruyno	また再び
ホトウイパ ハウエ hotuypa hawe	大きい声を出して
エネ オカ ヒ ene oka hi	こう言った
「コニンカラ クス “koninkar kusu	「よく聞いてください
フレ ヌプリ hure nupuri	赤い山で
エヌプル カムイ enupur kamuy	巫力を持つカムイよ
カシ チトゥナシカ kasi citunaska	急いで助けて

イエカラカラ ヤン i=ekarkar yan	ください
ウ ポイヤウンペ u Poyyaunpe	ポイヤウンペ
ウェナイヌ サニ wen aynu sani	悪い人の子孫が
チキマテッカ cikimatekka	驚かせることを
イエカラカン ナ」 i=ekarkar_ na”	私にするのです」
ウ ハワサワ u hawas awa	と言うと
フレ ヌプリ hure nupuri	赤い山の
ヌプリ カ タ nupuri ka ta	山の上に
フレ コソント hure kosonte	赤い小袖に
フレ チパヌプ hure cipanup	赤い鉢巻を
エシピネ メノコ esipine menoko	身に着けた女性が
チサウエカッタ cisawekatta	飛び出してきて

ホトウイパ ハウエ  
hotuypa hawe

叫ぶ声は

エネ オカ ヒ  
ene oka hi

こうである

「エパコロ ユピ°  
“ep a=kor yupi

「私の兄が

イウテク ハウエ  
i=utek hawe

私を思い出して言うのは

エネ オカ ヒ  
ene oka hi

こうである

アオカイ アナクネ  
aokay anakne

私たちは

ウタラ サク ニシパ°  
utar sak nispa

仲間もいない長者

アパ° サク ニシパ°  
apa sak nispa

親戚もいない長者

イエ クルカ  
ie kurka

の上に

ウ タモマレ  
u tamomare

刀をふるう

アエトランネ ナ  
a=etoranne na

気がない(ということ言うために)

エパコロ ユピ°  
ep a=kor yupi

私の兄が

イウテク キ ナ」 i=utek ki na”	私を使いに出したのだ」
ウ ハワサワ u hawas awa	と言うと
ウ カンナ ルイノ u kanna ruyno	また激しく
オトウ シウエンパ otu siwenpa	(悪神は) 悪口雑言
オレ シウエンパ ore siwenpa	たくさんの悪口を
エシロタツパ esirotatpa	まき散らし
ウ ヤイキラレ u yaykirare	一目散に逃げだした
イネフイ モシリ inehuy mosir	どこの国土
ウ ネ ナンコラ u ne nankor y_a	であろうか
トウ イウオロ カマ tu iwor kama	2つの獵場を越え
レ イウオロ カマ re iwor kama	3つの獵場を越え
トウ モシリ カマ tu mosir kama	2つの国土を越え

レ モシリ カマ re mosir kama	3つの国土を越え
パイェアン フム コ paye=an hum ko	行く音が
コトウリミムセ koturimimse	鳴り響く
ウ キ ロク アイネ u ki rok ayne	そうしているうちに
ウ ネッパ アンペ u neppa anpe	何者かが
イオシ エク コトム i=os ek kotom	私の後ろから来るように
アネサンニヨ an=esanniyo	思われて
ホサリアナワ hosari=an awa	振り返ると
クンネ ルプ…… <sup>[3]</sup> kunne rup...	
クンネ コソンテ kunne kosonte	黒い小袖と
クンネ チパヌプ kunne cipanup	黒い鉢巻を
ウ ヤイネナイネ u yaynenayne	おそろいで

エシピネ メノコ  
esipine menoko

身につけた女性が

イオシ エク ハウエ  
i=os ek hawe

後から追ってきて言うことは

エネ オカ ヒ  
ene oka hi

こうである

「コニンカラ クス  
‘koninkar kusu

「よく聞いてください

カムイ ネ ハン クル  
kamuy ne [h]an kur

神である人よ

エパコロ ユピ  
ep a=kor yupi

私の兄が

イウテク<sup>[4]</sup> ハウエ  
i=utek hawe

私を使者として言うのは

エネ オカ ヒ  
ene oka hi

こういうことです

『エアシラナ  
‘easirana

『なんとまあ

カムイ ネ ヤッカ  
kamuy ne yakka

神であっても

コマウヌクルパ プ  
komawnukurpa p

おそろしいものの

コタン オロケヘ  
kotan orkehe

村の所に



カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神である人が
アオルラ シリ a=orura siri	運ばれたよう
ネ ヒ ネ ヤクン ne hi ne yakun	であることだとしたら
アエヤム ルウエ ネ a=eyam ruwe ne	私は心配なのだ
エヌ ネ クス enu ne kusu	それゆえ
タパン クスリ tapan kusuri	この薬を
コロ ワ ケセ アンパ kor wa kese anpa	持って後を追い
キタイナ ワノ kitayna wano	頭のとっぺんから
ウレスツ パクノ uresut panko	足の先まで
ウ テクスツナ ワ u teksutna wa	手の先から
ヤユシ セコロ yayusi sekor	自分につけると
ハウエアン コロ hawean kor	言いながら

ホクレ コレ  
hokure kore

早くあげなさい

ニタンノ アラパ』シコロ  
nitanno arpa' sekor

早く行きなさい』と

イイエ ワ タプ タプ  
i=ye wa tap tap

私に言って、これこのとおり

カムイ クスリ  
kamuy kusuri

神の薬を

アコロ ワ エカン ナ  
a=kor wa ek=an na

私は持って来たのです

カムイ ネ アン クル  
kamuy ne an kur

神である人よ

ヤユシ キ ワ  
yayusi ki wa

自分に塗って

イコロパレ ヤン』  
i=korpare yan”

ください」

セコロ オカイ ペ  
sekor okay pe

ということを

ウ タ イエ カネ  
u ta ye kane

言って

タパンペ クス  
tapanpe kusu

それ故に

ウアシピリカレ  
uaspirkare

お互いに立ち止り

ヤヤシピリカレ yayaspirkare	自分も立ち止ることを
エパキ ハワ ep a=ki [h]awa	すると
クスリ オ トックリ kusuri o tokkuri	薬の入ったとっくりを
イコトウリリ i=koturiri	私にさしのべた
ウ ヤイレンカネ u yayrenkane	喜んで
キタイナ ワノ kitayna wano	頭のでっぺんから
ウレスッ カ タ uresut ka ta	足の先の上に
ウ テムスッ カ タ u temsut ka ta	手の先の上に
アヤユシ ヒネ a=yayusi hine	私は自分につけて
イカシマ ウシケ ikasma uske	あまった分は
カムイ メノコ kamuy menoko	神の女性に
アコロパレ アワ a=korporare awa	私を与える

カムイ モイレマツ kamuy moyremat	神の淑女
ネ ワ ネ ヤッカ ne wa ne yakka	もまた
ヤユシ アイネ yayusi ayne	自分につけ、そして
オロワノ スイ orowano suy	それからまた
ウ アラ ウエンカムイ u ar wenkamuy	極悪神を
ケセ アアンパ kese a=anpa	私は追いかけた
ウ キ ロカイネ u ki rok ayne	そうして
イネフナク タ inehunak ta	どこやらに
パイェアン ルウエ paye=an ruwe	来た様子は
ソモ スイ クス somo suy kusu	まさか
インカラン クニ inkar=an kuni	私が見るとは
アラム ロク ワ a=ramu rok wa	思わなかった

ウ タン ポロ ト u tan poro to	大きな沼が
チシレアヌ cisireanu	あった
ウ ト クルカニ u to kurkani	沼の上に(?)
モマンペ サパ momanpe sapa	雌鹿の頭
イ シコパヤラ i sikopayar	のようなものが
モマンペ トシカ momanpe toska	雌鹿が山のようにたくさん
チシプシパレ cisipuspare	浮かび上がっている
ウ セムコラチ u semkoraci	みたいな
エアシラナ easirana	なんとまあ
ウ シク ピシカニ u sik piskani	目のまわり
ウ パラ ピシカニ u par piskani	口のまわりに
フレ センカキ hure senkaki	赤い布を

アエカラ コラチ a=ekar koraci	縫い付けられたような
コカッコン ルウエ kokatkor_ ruwe	姿であるもの
オカイ ペ パテク okay pe patek	ばかりが
チヘタラパレ cihetarpare	頭を持ち上げている
ウ タム オプシパ プ u tam opuspa p	刀で切れるもの
ウ オアラ ソモ ネ u oar somo ne	ではなく
ウ オプ オプシパ プ u op opuspa p	槍で突けるもの
ウ オアラ ソモ ネ u oar somo ne	でもない
オアラ ウエン ヒ ワ oar wen hi wa	どうにもならないので
キキタネクシ kikitanekus	てっとりばやく
ケナシ カ ウシペ kenas ka uspe	木原に生えている木を
ウ スットム オロケ u suttom orke	根元から

アコエトウイパ a=koetuypa	私は切って
ウ ピリカ カンニ u pirka kanni	立派な棍棒を
アヤイコカラカラ a=yaykokarkar	しつらえた
ウ タンネ テケ u tanne teke	長い枝
ウ タクネ テケ u takne teke	短い枝を
アタンネトウイエ a=tannetuye	私は長く切り
アタクネトウイエ a=taknetuye	私は短く切り
ウ ピリカ カンニ u pirka kanni	立派な棍棒を
アヤイコカラカラ a=yaykokarkar	私はしつらえた
タポロワノ tap orowano	それから
エアシラナ easirana	なんとまあ
アキク パ フミ a=kik pa humi	私が殴る音が

コリムナタラ korimnatara	どしんどしん
コヤクナタラ koyaknatara	ばりんばりん
アナッキコロカ anakkikorka	けれども
エアシラナ easirana	なんとまあ
アロンヌ ルイ ペ a=ronnu ruy pe	私がいくら殺そうと
イキ コロ カイキ iki kor kayki	しても
アシヌマ ワ asinuma wa	私からは
ネプ アライケ シリ nep a=rayke siri	殺される様子が
オアラリサム oararisam	全くない
カムイ モイレマツ kamuy moyremat	神の淑女は
イネロクペクス inerokpekusu	なんとまあ
オッカヨ モントム okkayo montom	男の力



エシカスレ esikasure	以上に
モイモイケ シリ moymoyke siri	動き回る様子に
アコエラヤプ a=koerayap	私は感心する。
ウカスイアン マ ukasuy=an w_a	助けあって
アロンヌ ルイ ペ a=ronnu ruy pe	激しく殺した
イキ コロカイキ iki korkayki	けれども
イネロクペクス inerokpekusu	なんとまあ
ウタリ XXX utari XXX	仲間がXXX
ウタリ インネ プ utari inne p	仲間がたくさんいるもので
チエソネレ ciesonere	あることよ
ウ ト アサム マ u to asam w_a	沼の底から
チシプシパレ cisipuspare	浮かび上がってきて

エアシラナ easirana	なんとまあ
アコン ロルンペ a=kor_ rorunpe	私の戦い
ロルンペ クルカ rorunpe kurka	戦いの上に
ウ ネプ ピトホ u nep pitoho	何の神か
イトウレン クス i=turen kusu	私に憑いているので
イトウレン カムイ i=turen kamuy	私の憑神が
コフメランケ kohumeranke	音を立てて下りてきた
アナッキ コロカ anakki korka	けれども
ウ ネイタ パクノ u neyta pakno	どこまでも
ウタリ インネ utari inne	仲間の多い
ウ ネ プ ネ クス u ne p ne kusu	ものだから
アロンヌ ルイ ペ a=ronnu ruy pe	激しく殺した

イキ コロカイキ iki korkayki	けれども
アロンヌ ニウケシ a=ronnu niwkes	殺しきれない
ウ キ ロカワ u ki rok awa	すると
イネフイ モシリ inehuy mosir	どこの国
ウ ネ ナンコラ u ne nankor y_a	であろうか
モシッ タプカシ mosir_ tapkasi	国の上で
コプシロトツケ kopusrototke	破裂する音が聞こえ
マカン カツコロ ペ makan katkor pe	なにやらが
ウ アラキ クニ u arki kuni	やってくるようで
ウ センネ モヨ u senne moyo	ただごとではなく
ウ アラキ フム コ u arki hum ko	やってくる音が
コトウリミムセ koturimimse	どうどくと響く

ウ フムセ トウム u humse tum	フムという声の中を
ウ アウワンパレ u a=uwanpare	眺めると
サウレ ラメトク sawre rametok	並みの勇者
ネ ワ ネ ヤクネ ne wa ne yakne	であれば
コトム コロカイキ kotom korkayki	それなり（のはず）であるが
シノ ラメトク sino rametok	真の勇者
チエソネレ ciesonere	本当にそうで
ウ センネ モヨ u senne moyo	ただごとではない様子で
ウ アラキ コトム u arki kotom	やってくるように
アネサンニヨ an=esanniyo	思われた
ウ キ ロク アイネ u ki rok ayne	そのうちに
タン…… tan...	

ウ タン テポタ u tan tepota	ついここに
イテクサモロケ i=teksamorke	私のそばに
コフメラプテ kohumerapte	音を立てながら下りた
インカラン ルウエ inkar=an ruwe	見ると
ソモ スイ クス somo suy kusu	まさかそんなものを
インカラン クニ inkar=an kuni	見ようとは
アラム ロク ワ a=ramu rok wa	思わなかったが
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白い木の人間
イワン ウタラパ iwan utarpa	六人の首領が
エアシラナ easirana	なんとまあ
ラメトク ネ クス rametok ne kusu	勇者であるので
ラメトク イポロ rametok ipor	勇者の顔つきが

エイポットウンマ eipottumma	顔色の中からも
コシンナ カネ kosinna kane	違って
オカ ウタラパ oka utarpa	いる勇者
イワン ウタラパ iwan utarpa	六人の勇者が
イテクサモロケ i=teksamorke	私のそばに
コオニシポシパ koonispospa	空から下り立ち
キヤンネ ヒケ kiyanne hike	年長のほうが
イタク カネ itak kane	言ったことは
エネ オカ ヒ ene oka hi	このようである。
「コニンカラ クス “koninkar kusu	「さてさて
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神である人よ
イタカン チキ itak=an ciki	私の話を

ピリカヌキヤン  
pirka nu ki yan

よく聞いてください。

レプイシルンクル  
Repuysirunkur

レブンシリの人の

ポウタリ  
poutari

子供たちの

ミマラポカ  
mimara poka

半分ばかりを

エキラレパワ  
e=kirare pa wa

あなたが逃がして

クスケライポ  
kusukeraypo

くれたおかげで

シクヌワパイェ  
siknu wa paye

生き抜くことができました。

ウネワアンペ  
u newaanpe

そのことを

レプイシルンクル  
Repuysirunkur

レブンシリの方は

エヤイライケクス  
e=yairayke kusu

あなたに感謝し

レプンクルアナク  
repunkur anak

レプンクルは

トゥスヒケヘ  
tusu hikehe

トゥスでも

ヌプル ヒケヘ  
nupur hikehe

巫術でも

**【注】**

- [1] この行は言い間違い。次の行で言い直している。
- [2] ここで咳き払いをしている。
- [3] この行は言い間違い。次の行で言い直している。
- [4] ここで咳き払いをしている。



## 9-3 ユカラ

## 「サクソモアイェプ」 (2)

## サクソモアイェプ退治 (2)

語り：平賀さだも

かやのさん アナク アイスイェ コラン ノイネ クヤイヌ

KAYANOSAN anak aysuye kor an noyne ku=yaynu

萱野さんが居眠りしているみたいに思ったよ。

(萱野：アイスイェ しない。アイスイェしたらわかるか、冗談に(？))

(萱野：aysuye しない。aysuye したらわかるか、冗談に(？))

(萱野：居眠りしていない。居眠りしたらわかるか、冗談に(？))

ヌプリケヘ

巫力が強い者が

nupur h\_ikehe

ウ インネ クスン

たくさんなので

u inne kusun

アセイ…… エセレマク オロケ

背後を

asey... esermak orke

アトウクスパ……

atokusupa...

アトウスクシパレ

巫術で見通した

a=tusukuspare

ウ キ ロク アワ

ところ

u ki rok awa

エアシラナ easirana	それこそ
タパンペ レコロ tapanpe rekor	これが世に言う
カムイ コシマツ ネ kamuy kosmat ne	神の嫁であるである (から)
『ウママ ピト 'umama pito	『凡庸ならざるひと
ウコイキ クニ プ ukoyki kuni p	戦うべきものに
エペットウラシパ プ epetturaspa p	匹敵するものが
ネイ タ オカイ ペ ney ta okay pe	どこにいて
サクサ ワ ウェン (?) sakusa wa wen(?)	悪臭で悪く (?)
アコイシトマ a=koisitoma	人が恐れる
ウ キ ロク クニ プ u ki rok kuni p	もの (である)
ウ アラウエン カムイ u arwen kamuy	極悪の神の
コタノロケヘ kotan orkehe	村へ

アイオルラ ワ a=iorura wa	運ばれて
エアシナラ easinara	それこそ
カムイ カラ トウミ kamuy kar tumi	神がおこした戦争
ウ ネ プ ネ クス u ne p ne kusu	であるために
トウミ ユプケ コロ tumi yupke kor	戦いが激しい
ウ シラン コロカ u siran korka	様子であるが
ウ アイヌ ニシパ u aynu nispa	人間の長者(ポイヤウンペ)は
シネン ネ ヤクン sinen ne yakun	ひとりであるから
アオアッテノ…… aoattenno...	
アコアプテ ナ』 a=koapte na'	危ぶまれるぞ』
セコロ オカイ ペ sekor okay pe	ということを
トウスエプシパ tusuepuspa	巫術でもって明らかにした。

タパンペ クス tapanpe kusu	そこで
キマテク クニ kimatek kuni	驚いて
レプイシルンクル Repuysirunkur	レプイシルンクルが
イテケカラ ワ <sup>[1]</sup> i=tekekar wa	私たちを手で作って
イコオロスツケ ikoorsutke	励ますことは
エネ イタキ ene itak h_i	こうでした。
『エアシラナ 'easirana	『これはこれは
ウ アンクシケライ u ankuskeray	そのおかげで
アポウタリ a=poutari	私の息子たちが
チコルラカラ cikorurakar	私のところに運ばれた
アイエカラカラ ペ a=i=ekarkar pe	のは
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇者

ウ ネ ロク アナ u ne rok ana	であったのだから
アチテケカラ ワ <sup>[2]</sup> aci=tekekar wa	私がお前たちを作って
ラメトク オツ タ rametok or_ ta	お前たちはは勇者の中から
チテクヌムケレ citeknumkere	選び出された
エチエカラカラ ワ eci=ekarkar wa	ものだから
トウミ イカ オパシ tumi ika opas	戦いの救援に行き
ロルンペ イカ オパシ rorunpe ika opas	戦争の救援に行きなさい。
エチイキ ヤクネ eci=iki yakne	そうして
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる人の
ウ タム テクサマ u tam teksama	刀の側で
ウ タモマレ u tamomare	刀を振るって
イコロパレ ヤン』 i=korporare yan'	ください』

セコロ イイエ コロ sekor i=ye kor	と私たちに言って
イコロスツケ キ コロ ikorsutke ki kor	命じて
イアラキレ キ ワ i=arkire ki wa	私たちに来させたから
アラキアン シリ arki=an siri	私たちが（こうして）来たの
ネ ヒ タパン ナ。 ne hi tapan na.	ですよ。（だから）
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる人よ、
イキネイペカ ikineypeka	決して
トゥム アン ケウトウム tumu an kewtum	憤慨する心を
イココロ クニ プ i=kokor kuni p	私たちに持つのでは
ソモ タパン ナ。 somo tapan na.	ありませんよ。
ルイノ モイモイケ ruyno moy moyke	激しい動き
ルイノ シモイエ ruyno simoye	激しい働きを

ウコクシシパ ukokusispa	ともに
アキ ヤク エアシリ a=ki yak easir	私たちがしたら初めて
エアシラナ easirana	それこそ
ウ アラウエン カムイ u arwen kamuy	極悪の神
シノウエン カムイ sinowen kamuy	本当に悪い神は
サクサ トウラ sakusa tura	悪臭とともに
アコマウヌクルパ プ a=komawnukupa p	恐ろしくて近寄れないもの
ウ ネ ロク アナ u ne rok ana	だから
タパン ロルンペ tapan rorunpe	この戦い
コタン…… コヤイラミウパン (?) kotan... koyayramiupan(?)	X X X
コテクトウミウパン (?) kotektumiupan(?)	X X X
ウ テクサマ…… u teksama...	

エテクサム オロケ e=teksam orke	お前のそばに
アイヨマレ クス ネ ナ」 a=i=omare kusu ne na.”	助太刀しますよ」
セコロカイ ペ sekor okay pe	ということを
ウ タ イェ カネ u ta ye kane	言い
ウ クルカシケ u kurkasike	ながら
ウ カンチ パク ペ u kanci pak pe	梶ほどの太刀を
シコエタイパ sikoetaypa	引き抜いた
イワヌタラパ iwan utarpa	6人の勇士
アナッキコロカ anakkikorka	ではあるが
ウ タモプシパ プ u tamopuspa p	(相手が硬くて) 刀を刺し
ウ オポプシパ プ u opopuspa p	槍で突くことも
ソモ ネ クス somo ne kusu	できないので



イカウイネ (?) カムイ ikauyne(?) kamuy	XXX (?) 神
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇者
ウタロロケヘ utar orkehe	たち
ネ ワ ネ ヤッカ ne wa ne yakka	でも
アシヌマ ネノ asinuma neno	私と同じく
ウ カンニ アニ u kanni ani	棍棒でもって
ウ ピリカ カンニ u pirka kanni	立派な棍棒を
ウ サ ウサ カラ ワ usa usa kar wa	いろいろ作って
ウ ヤイココロ ワ u yaykokor wa	自ら持って
エアシラナ easirana	それこそ
ウ アラウエン カムイ u arwen kamuy	極悪の神
ウタロロケヘ utarorkehe	たちを

アキクノ フミ a=kikno humi	ぶったたく音
アキッキク フミ a=kikkik humi	叩きに叩く音が
エアシラナ easirana	それこそ
カムイ ロルンペ kamuy rorunpe	神の戦争
ウ ネ プ ネ クス u ne p ne kusu	であるので
ウエン カムイ トウミ wen kamuy tumi	悪神の戦争が
アコウペ…… エアシラナ akoupe... easirana	それこそ
ウエン カムイ トウミ wen kamuy tumi	悪神の戦争が
アヤイコパシテ a=yaykopaste	寄せてくる (?)
ウ キ ペ ネ クス u ki pe ne kusu	ので
エポソカネ eposokane	当然のことながら
イトウレン ピト ituren pito	私の憑き神は

エアシラナ easirana	それこそ
イルシカ カムイ iruska kamuy	怒った神 (で)
ウ タン ポロ ト u tan poro to	この大きな沼
ウ ト クルカ ネ (?) u to kurka ne(?)	沼の上で (?)
マカン ネ キ コロ makan ne ki kor	ある時には
コチェラナクル koceranakur-	下の方に (降りて)
ウ チャロトツケ u carototke	騒がしい。
マカン ネ キ コロ makan ne ki kor	ある時には
リクン カント オロ rikun kanto or	低い天へ
ウ チェリキクル u cerikikur-	高く
ホブンパ カネ hopunpa kane	飛び上がって
キワ ネ キ コロ ki wa ne ki kor	そうすると

ウ ラムラム ウトゥル ワ u ramram utur wa	鱗の間から
ホプニ カムイマウ hopuni kamuymaw	上がる神風が
マカナン キ コロ makanan ki kor	時によると
ウ ト クルカ タ u to kurka ta	沼の上に
ウサッ ラヨチ usat rayoci	燠の虹
シララ ラヨチ sirar rayoci	岩の虹が
ホラオチウパ horaociwpa	降り注いでくる。
タパン カムイマウ tapan kamuymaw	神風の
ウ ユプケ ヒケ u yupke hike	激しいものが
エアシラナ easirana	それこそ
ウ タン ポロ ト u tan poro to	この大きな沼の
ウ ト クルカ タ u to kurka ta	沼の上に

ウ ウェン ペウブン u wen peupun	ひどい水しぶきが
ウエホプニ uehopuni	一斉に飛ぶ
セムコラチ semkoraci	かのように
コヤイカラ カネ koyaykar kane	なって
アコロ ロルンペ a=kor rorunpe	我々の戦いが
ウ ユプケ カシパ u yupke kaska	はげしすぎる。
エアシラナ easirana	それこそ
イネロクペクシ inerokpekus	なんとまあ
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白木の人間
イワン ウタラパ iwan utarpa	六人の勇士が
シモイパ シリ simoypa siri	働く様子は
ケライ カムイ ネ keray kamuy ne	さすがに神である。

カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇者
ウタロロケヘ utar orkehe	たちは
アシヌマ アナク asinuma anak	私は
ウト ノシキ タ u to noski ta	沼の真ん中に
ウタラ コン ノイネ utar kor_ noyne	(サクソモアイェプの) 仲間がいるように
アラム ヒケ a=ramu hike	思っていると
ポロ ヌプリ poro nupuri	大きな山に
ウ シキ アウシテ u siki a=uste	目をつけて
ウパラク…… uparku…	
アウパラコレ (?) a=uparkore(?)	口をつけた
ウ セムコラチ u semkoraci	かのようなものに
ウ ヤイカラ ヒケ u yaykar hike	変身したやつと

アヤイコイキレ a=yaykoykire	私は戦った。
ノカン ノ ヒケ nokan no hike	小さい方の
カムイ メノコ kamuy menoko	神なる女は
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白木の人間
ウタロロケヘ utarorkehe	たちと
ウ ヤイコイキレ u yaykoykire	戦った。
タヌシコトイ ワ tan h_uskotoy wa	長いこと
アキ プ ノ クニ a=ki p no kuni	そうしていた
ウ キ コロカイキ u ki korkayki	けれど
アライケ ポカ a=rayke poka	殺すことさえ
ウ ヤイニウケシテ u yayniwkeste	できない。
イネロクペクス inerokpekusu	なんとまあ(?)

カトウ イロンネ プ katu ironne p	体が厚いもの
ウ ネ プ ネ クスン u ne p ne kusun	であるので
ウ オプエオツケ u op'eotke	槍で突いて
カンニ エコツ ペ kanni ekot pe	棍棒で死ぬものでは
オアラ ソモ ネ oar somo ne	まったくないのだ。
アナツキコロカ anakkikorka	けれども
ウ ネノ アン ペ u neno an pe	同じように
アエウコトウイマ a=eukotuyma-	長いこと
シアリキキ siarikiki	奮闘
ウ キ ロク アイネ u ki rok ayne	したあげく
ウタシパ パクノ utaspa pakno	互いに
「カムイ ネ アン クル "kamuy ne an kur	「神なる人よ



アシノモイモイケ a=sinomoy moyke	私たちは一生懸命
ウ ノモイモイケ u nomoy moyke	頑張り
アキ ナンコン ナ」 a=ki nankor_ na”	ますよ(?)」
セコロ オカイ ペ sekor okay pe	ということ
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白木の人間
カムイ ウタラパ kamuy utarpa	神なる勇者
ウタラ オロケヘ utar orkehe	たちは
ウ ラムケシカチウ u ramkeskaciw	お互いに勇気づける
ウ キ プ ネ クス u ki p ne kusu	ので
エアシラナ easirana	それこそ
ウ ペウレ フムセ u pewre humse	若いかけ声
アヤヨフムセ a=yayohumse-	かけ声を

ウ チウレ カネ u ciwre kane	かけながら
ウ ネイ タ パクノ u ney ta pakno	いつまでも
ウ ネノ アン ペ u neno an pe	同じように
ウ カンニ フミ u kanni humi	棍棒の（ふるう）音
タパンペ パテク tapanpe patek	そればかりを
アヤイコカラカラ a=yaykokarkar	立て続けた
イキアナイネ iki=an ayne	あげく
ウ クンネ ヘネ u kunne hene	夜も
ウ トカプ ヘネ u tokap hene	昼も
イキアン ロク アイネ iki=an rok ayne	そうし（て棍棒を振るっ）たあげく
タネ ネ クス tane ne kusu	今や
アウン…… アルイワ…… aun... aruywa...	

アロンヌ ルイ ペ a=ronnu ruy pe	私たちがずいぶん殺したもの
ウ ネプ ネ クス u nep ne kusu	だから
モヨ ノ カネ moyo no kane	人数が少なくなって
ウ シクヌ ヒケ u siknu hike	生きているものは
アヤイピシキレ a=yaypiskire	数えられる
ウ セムコラチ u semkoraci	ほどになって
ウサ ウサ キワ usa usa ki wa	いろいろして
アキ ロク アイネ a=ki rok ayne	いたあげく
タネポ ソンノ tanepo sonno	今こそ本当に
ウエン カムイ トウミ wen kamuy tumi	悪神の戦い
ウエン カムイ ウタラ wen kamuy utar	悪神たち
ウタロロケヘ utarorkehe	たちを

アオケレ パ コトム a=okere pa kotom	殺し終えたように
アネサンニヨ an=esanniyo	私は思った。
ウ パクノ ネコロ u pakno nekor	すると
カムイ メノコ kamuy menoko	神なる女が
エネ イタキ ene itak h_i	このように言った。
「エパコロ ユピ° “ep a=kor yupi	「私の兄さんが
イコソンコアンパ i=kosonkoanpa	私に伝言した
ウ キ ハウエヘ u ki hawehe	ことは
エネ オカ ヒ ene oka hi	こうなのです。
『カムイ ネ アン クル ‘kamuy ne an kur	『神なる人の
ウ セレマク オロケ u sermak orke	背後を
カムイ オピッタ kamuy opitta	神々すべてが、

ヌカラ アナクネ  
nukar anakne

見ることは

エアイクプ ヤッカ  
eaykap yakka

できなくとも、

カムイ オピッタ  
kamuy opitta

神々がすべて

セレマカウシ ワ  
sermakaus wa

守り神としてついていて

アオカ ネ ヤッカ  
aoka ne yakka

私たちも

アコロ コタヌ  
a=kor kotanu

私たちの村

アウタリポ  
a=utaripo

私たちの仲間たちが

イカスイ アイネ  
ikasuy ayne

手伝ううちに

タネポ ソンノ  
tanepo sonno

今こそ本当に

エアシラナ  
easirana

それこそ

コラムヌクルパ プ  
koramnukurpa p

恐ろしいもの

ウ アラウエン カムイ  
u arwen kamuy

極悪の神

ウタロロケヘ utarorkehe	たち
ウネアコロカ u ne a korka	であったが
カムイネアンクル kamuy ne an kur	神なる人
イネクスネ i ne kusu ne	であるから
カムイオロパクノ kamuy or pakno	神のところまで
ラメトクアスル rametok asur	勇敢なる噂が
チホプニレプ cihopunire p	立つもの
ウネアクス u ne a kusu	だったから (退治できたので)
ホシピキコロ hosipi ki kor	帰るなら
エトコウン etoko un	その前に
サケアカラワ sake a=kar wa	私は酒を造って
アテレキワ a=tere ki wa	待って

アナン ルウエ ネ. an=an ruwe ne.	います。
イコオシニ ワ i=kosini wa	私のところで休んで
イコロパレ ヤン』 i=korpare yan'	ください』
セコロ オカイ ペ sekor okay pe	ということ
ヤ…… イパ アコロ ユピ ya... ipa a=kor yupi	私の兄の
ソソコホ エケ ルウエ sonkoho ek ruwe	伝言が来たの
ネ ヒ タパン ナ。 ne hi tapan na.	ですよ。
タネポ ソソノ tanepo sonno	今こそ本当に
トゥ…… トウムンチ オカ tu... tumunci oka	戦争の後
ウエンカムイ トウミ wenkamuy tumi	悪神の戦争
トウミ エポシパ tumi epospa	戦争が終わった
アキ ワ ネ コロ a=ki wa ne kor	ということであれば

イレス ユピ i=resu yupi	私の育ての兄が
ウ イェ ア イタク カ u ye a itak ka	言ったことばについても
イコヌ キワ ikonu ki wa	聞いて
イコロパレ ヤン」 i=korporare yan”	ください」
ウ ハワシ アワ u hawas awa	という話だが
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白木の人間の
キヤンネ ヒケ kiyanne hike	年上のほうが
エネ イタキ ene itak h_i	こう言った。
「コニンカラ クス “koninkar kusu	「きてきて
ウ ポイヤウンペ u Poyyaunpe	ポイヤウンペ、
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる人よ、
アオカ アナクネ aoka anakne	私は



カムイ アネ クス kamuy a=ne kusu	神であるので
タパン テ ワノ tapan te wano	今から
カムイ ニシ カ ウン kamuy nis ka un	神の空の上へ
リキナン クニ プ rikin=an kuni p	上るべきもの
ウ ネ ルウエ ネ。 u ne ruwe ne.	なのだ。
クンネ ヌプリ kunne nupuri	黒い山の
エヌプル カムイ enupur kamuy	巫力が強い神
ウ コロ イレンカ u kor irenka	の了見に
イテキ タサ アシ ノ iteki tasa as no	さからわずに
コシニ ハニ kosini hani	休みなさいよ。
エク ワ ネ チキ e=ku wa ne ciki	(その) 酒宴に出たらば
アエイコイトウパ プ a=eykoytupa p	私たちが欲しいものは

トノト ピリカ プ  
tonoto pirka p

よい酒

ウ ネ ルウエ ネ。  
u ne ruwe ne.

であるのだ。

ウ ホシキ トウキ  
u hoski tuki

先に杯と

イクパスイ アンパ  
ikupasuy anpa

捧酒籠をもって

アキ ワ ネ ヤク  
a=ki wa ne yak

そうしたら（捧げてくれたら）

カムイ ニシ カ タ  
kamuy nis ka ta

神の空の上に

オカアン ヤッカ  
oka=an yakka

私たちがいても

アエヤイカムイ  
a=eyaykamuy-

私たちの神格が

ウ ネレ クニ プ  
u nere kuni p

高くなるの

ネ ヒ タパン ナ」  
ne hi tapan na”

ですよ」

セコロカイ ペ  
sekor okay pe

ということを

ウ タ イエ カネ  
u ta ye kane

言うと

リクン ニシ コトロ rikun nis kotor	高い天
エウエホブンパ ewehopunpa	へ一斉に飛んでいき
リキン マ イサム rikin w_a isam	上って行ってしまった。
ウ パクノ ネコロ u pakno nekor	それから
クンネ コソント kunne kosonte	黒い小袖の
カムイ モイレマツ kamuy moyremat	神のような立派な女が
シキル ヒケ sikiru hike	振り向くと
セトゥル カシケ seturu kasike	すぐ後に
アヤイラリレ a=yayrarire	私は続いた。
テエタ カネ teeta kane	かつて
アアッカリ ペ a=akkari pe	私が通り過ぎたもの(である)
フレ ヌプリ hure nupuri	赤い山

ウネアクス u ne a kusu	なので
アアッカリワ a=akkari wa	通り越して
クンネヌプリ kunne nupuri	黒い山
ヌプリタプカ nupuri tapka	山の上に
コヤイトウナシカ koyaytunaska	向かって急いで
エパアキルウエ epa a=ki ruwe	到着した様子は
エネオカヒ ene oka hi	このようだ。
イネロクペクス ine rok pe kusu	なんとまあ
ウタリインネプ utari inne p	仲間が多いもの
アパカインネプ apa ka inne p	親戚が多いもの (だろうか)
ヌプリクルカ nupuri kurka	山の上
ヌプリクルポク nupuri kurpok	山の下に

ウ クンネ コタン u kunne kotan	黒い村に
タニンネ コタン tan inne kotan	人数の多い村が
チシレアヌ cisireanu	ある。
ウ パクノ ネコロ u pakno nekor	それから
クンネ チパヌプ kulle cipanup	黒い鉢巻の
カムイ メノコ kamuy menoko	神なる女が
ウ チャシ トウヨロ u casi tuyor	城の中に
ウ アフン カネ u ahun kane	入って
イタツカラ ハウエ itakkar hawe	言うことは
「エパコロ ユピ “ep a=kor yupi	「私の兄が
ウ イェ ソンコ ネ クス u ye sonko ne kusu	言った伝言ですから
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる人よ、

イパコロ ユピ° ip a=kor yupi	私の兄さんの
コシニ クス kosini kusu	ところで休むために
イトウラ ワ サナン i=tura wa san=an	一緒に下りた
イ ネ クシナムネ i ne kusnamne	のですから
ウ コン ラメトク u kor_ rametok	その勇名は
カムイ オロ パクノ kamuy or pakno	神のところまで
エアスル easuru	噂が
ウ キ ロク クニ プ u ki rok kuni p	立っている
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇者
ウ ネ ア クス u ne a kusu	なので
タネポ° ソンノ tanepo sonno	今こそ本当に
アヤイピリカクル a=yaypirkakur-	よくよく私たちに

ヌカレ キ ワ nukare ki wa	見せてもらって
アカスイ カネ a=kasuy kane	私が手伝って
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白木の人間
ウタロロケヘ utarorkehe	たち (という)
イカオパシ ワ ikaopas wa	助けに来たものが
インネ アン クシケライ inne an kuskeray	大勢いるおかげで
ウ ニツネ カムイ u nitne kamuy	悪い神
ウタラ オロケヘ utar orkehe	たちを
オピッタ アロンヌ opitta a=ronnu	みんな殺し
キ ワ ネ ヤクン ki wa ne yakun	たのだから
タパン テワノ tapan tewano	今から
カムイ ネ ヤッカ kamuy ne yakka	神であれ

シトマ プ アナク  
sitoma p anak

怖ろしいものは

イサム ナンコン ナ。  
isam nankor\_ na.

いなくなるだろうよ。

カムイ ネ ヤッカ  
kamuy ne yakka

神であっても

コマウヌクルパ プ  
komawnukurpa p

恐ろしくて近寄れないもの（である）

ウ アラウエン カムイ  
u arwen kamuy

極悪の神

サクソモアイェプ  
saksomoayep

サクソモアイェプ（という）

ウ ニツネ ヒケ  
u nitne hike

悪い奴

ウタラ オロケヘ  
utar orkehe

たちを

タネ アナクネ  
tane anakne

今は

オピッタ アロンヌ ワ  
opitta a=ronnu wa

すべて殺して

サパン ルウエ ネ ナ」  
sap=an ruwe ne na.”

私たちは下りてきたんですよ」

イタク ホントモ  
itak hontomo

（そう話す女の）言葉の途中（で）



アコアパマカ  
a=koapamaka

戸を開けて

アフナン アワ  
ahun=an awa

入ると

アシエトクサモロ  
a=sietoksam or

私の前方に

はい。

(萱野：はい)

**【注】**

- [1] つまり、この6人の勇者は Repuysirunkur が木から作り出した、いわゆる tekekarkamuy 「手作りの神」なのである。
- [2] aci=<a=eci=「私がお前たちを」。千歳方言でよく使われる人称接辞の形だが、沙流方言でも時々用いられる。

## 9-4 ユカラ

「サクソモアイエプ」(3)

サクソモアイエプ退治(3)

語り：平賀さだも

アフナン キ ワ  
ahun=an ki wa  
私が入って

アシエトクサモロ  
a=sietoksamor-  
前方に

ウ シクイルケ  
u sikuyruke  
目をやって

インカラン ルウエ  
inkar=an ruwe  
見たのは

エネ オカ ヒ  
ene oka hi  
このようだ。

エアシラナ  
easirana  
それこそ

カムイ ネ アン クル  
kamuy ne an kur  
神なる人

エライヌ カネ (?)  
eraynu kane(?)  
XXX

シパセ カムイ  
sipase kamuy  
重い神

ウタラ オロケヘ utar orkehe	たち
ウ ネ プ ネ クス u ne p ne kusu	であるから
クンネ コソソテ kunne kosonte	黒い小袖を
ウ ヤイネナイネ u yaynenayne	そろいで
エシピネ クル esipine kur	身につけている者
イキ コロカイキ iki korkayki	だけれども
カム…… カムイ ラメトク kam... kamuy rametok	神なる勇士は
ラメトク イポロ rametok ipor	勇士の顔色
エイポットウンマ eipottumma-	顔つきからして
コシンナ カネ kosinna kane	(他とは) 違う様子で
ウ ロク ワ オカ u rok wa oka	座っている。
メノコ ネ ヤッカ menoko ne yakka	女も

ポロ スクプ ワ poro sukup wa	年たけて
イキ コロカイキ iki korkayki	いるけれども
シノ ヌプル ペ sino nupur pe	本当に巫術の強いもの
チェソネレ ciesonere	と思しく
オカ ルウエ ネ。 oka ruwe ne.	いるのだ。
イヌカン ロク ペ i=nukar_ rok pe	私を見た者は
ウ ネプ ピトホ u nep pitoho	どんな神を
コシクライパ ペ kosikraypa pe	見たかのように
イトゥカリケ i=tukarike	私の手前に
オトゥ スイ コンナ otu suy konna	二度も
オレ スイ コンナ ore suy konna	三度も
コシケラナ kosikerana-	目を低く

ウ ランケ カネ u ranke kane	落として
イヤアン…… ウ ソ トウラシ iyaan... u so turasi	座を上手に
エパキ ヒネ ep a=ki hine	私は行って
ヘカリソ パ hekariso pa	上座で
コイサンコッカ koysankokka-	膝をそろえて
エシッチウレ コロ esitciwre kor	座ったところで
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる勇士は
ラチウリキクル raciwrikikur-	目を
ウ プンパ ヒネ u punpa hine	上げて
イタツカラ カネ itakkar kane	言うには
ネコン ネ ハウエ……(?) <sup>[1]</sup> nekon ne hawe...(?)	どう言ったら…… (?)
ラチウリキクル raciwrikikur-	目を

ウ プンパ ヒネ u punpa hine	上げて
イタックツチャマ itakkutcama	話し方は
ウエトウヌイセ uetunuyse	滔々と
エネ オカ ヒ ene oka hi	このように言った。
「コニンカラ クス “koninkar kusu	「さてさて
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる人
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇士よ、
エネ イタク カ ene itak ka	こう話すにあたって
アエオリパク コロカ a=eoripak korka	おそれおおいことだが
フナツケクス hunakkekusu	せつかく
エセレマク オロケ e=sermak orke	あなたの背後を
アエアン マ クス a=ean w_a kusu	守るために

アウエンマツネボ a=wen-matnepo	わが不肖の娘に
クスリ アセレ kusuri a=sere	薬を背負わせて
エタウテク…… エタムテクサマ etawtek... e=tam-teksama	あなたの刀の側で
タモマレ キ ヤン tamomare ki yan	刀を取るように (と)
アウテツカン ルウエ a=utekkar_ ruwe	使いにやらせたの
ウ ネ ア コロカ u ne a korka	だったけれど
ヤイヌアン ヒケ yaynu=an hike	思ったことは
フナツケクス hunakkekusu	せっかく
エタ…… エ…… エセンピリ オロケ あなたの陰を eta... e... e=sempir orke	
ウタツ トウラノ utar_ turano	仲間と共に
アエプンキネ ア プ a=epunkine a p	守ったのだから
ソモ イコシニ ノ somo i=kosini no	私のところで休まずに

エホシピ° カ e=hosipi ka	あなたが帰るのを
アエイランポキウエン マ a=eyayrampokiwen w_a	私は残念に思った
タパンペ クス tapanpe kusu	それだから
シコシニヤラ <sup>[2]</sup> sikosiniyar	私のところで休ませ
ウ アキ ハウエ ネ u a=ki hawe ne	たのです。
イキネイペカ ikineypeka	決して
トゥム アン ケウトゥム tumu an kewtum	敵対心を
エコ…… イココロ クニ eko... i=kokor kuni	私に対して持つては
ソモ タパン ナ somo tapan na	いけませんよ。
エエトコ ウン e=etoko un	あなたの（来る）前に
サケカラン マ sakekar=an w_a	酒を造って
ウ アナン キ ナ u an=an ki na	いたのですよ。



イコシニ ワ i=kosini wa	私のところで休んで
アカラ ポイ サケ a=kar pon_ sake	私の造ったちょっとした酒を
ク ワ イコレ ヤン ku wa i=kore yan	飲んでください。
オロワウイ スイ orowaun_ suy	それから
カムイ オピッタ kamuy opitta	神々すべてを
アウエカラパレ a=uekarpare	集めて
アフプ ナンコロ ワ ahup nankor wa	家に入って
ネ ワ ネ ヤッカ ne wa ne y_akka	もらったら
ウタラ オピッタ utar opitta	仲間すべてに
エセレマクウシ ワ e=sermak'us wa	守り神がつくことに
オカ ルウエ ネ アナ <sup>[3]</sup> oka ruwe ne ana	なるのだから
イキネペカ ikinepeka	絶対に

トウム アン ケウトウム tumu an kewtum	敵対心を
エコラ クニ プ e=kor a kuni p	持たないように
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇者よ、
エネ ナンコン ナ」 e=ne nankor_ na”	そうしてくださいよ」
セコロカイ ペ sekor okay pe	ということを
ウ ラッチタラ u ratecitara	ゆっくりと
トゥ ピリカ イタク tu pirka itak	二つの良い言葉を
イコトゥリカラ i=koturikar	述べた。
ヤイヌアン ヒケ yaynu=an hike	私が思うことは
「オハイネ カネ “ohayne kane	「なるほど
ルテクノ アン rutekno an	素手でいて
ルテク ネ クニ プ rutek ne kuni p	素手である者が

アネ ワ ネ コロ a=ne wa ne kor	私だったから
クスリ サクノ kusuri sakno	薬がなくては
アエペットウラシ ワ a=epetturasi wa	私は敵わ
ソモ ネ ナンコロ somo ne nankor	なかつただろう。
カムイ ネットパ kamuy netopa	神の首領
クスリ コロ クル kusuri kor kur	薬を持っている人
ウ ネ ワ クス u ne wa kusu	であるので
イエカシヌカラ i=ekasnukar	私に授けてくれた
クスリ ネ クス kusuri ne kusu	薬の
ケライポ タシ keraypo tas	おかげで
ウエン カムイ トウミ wen kamuy tumi	悪い神の戦争を
アエポソ シリ a=eposo siri	通り抜けたの

ネ ヒ ネ ヤクン ne hi ne yakun	だから
アコヘポキ タシ a=kohepoki tas	私は頭を下げ
ウ キ ナンコン ナ」 u ki nankor_ na”	よう」
ヤイヌアン カネ yaynu=an kane	(と) 思って、
ウ ネ ラポキ u ne rapoki	そのときに
カムイ ウタラパ kamuy utarpa	神なる勇士が
チアウナライエ ciawnaraye	中に入るのを
インカラン ルウエ inkar=an ruwe	見ると
フレ コソンテ hure kosonte	赤い小袖を
ウ ヤイネナイネ u yaynenayne	上から下までそろいで着て
フレ イペ タム hure ipe tam	赤い人食い刀を
エテンポク コンナ etempok konna	脇の下に

コチャシナタラ kocasnatara	すっきりと差して
オカ ウタラパ oka utarpa	いる勇士が
ウ シンナ トイネ u sinna toyne	一群となって
チアウナライパ ciawnaraypa	中に入ってきた。
ウ クンネ ホンワ…… u kunne honwa…	黒い……
クンネ コゾンテ kunne kosonte	黒い小袖（を着て）
クンネ イペ タム kunne ipe tam	黒い人食い刀を
シトメロシキ sitomeroski	帯に差している
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇士
ウタロロケヘ utar orkehe	たちも
チアウナライエ ciawnaraye	中に入ってくる。
タパン イクソ tapan ikuso	この酒宴の席

イクソ ケセ ikuso kese	酒宴の席の末端
イクソ パケ ikuso pake	酒宴の席の上端は
コキンナタラ kokinnatara	美麗に輝きわたる。
クンネ サランペ kunne sarampe	黒い絹の（服を身に着けた）
ウ ポン メノコ u pon menoko	若い女が
イヨマレ クス iomare kusu	お酌をするため
ウ ソ イクソ u so ikuso	酒宴の席の
イクソ ケスン ikuso kes un	酒の席の末へ
イクソ パ ウン ikuso pa un	酒の席の上へ
イオマレ コロ iomare kor	お酌をして
ウ ホシキ トウキ u hoski tuki	最初の杯は
イコイヨマレ i=koiomare	私に酌をする。

ウ ネ クルカシ u ne kurkasi	そのうえで
チセ コロ カムイ cise kor kamuy	家の主人が
イタツカラ ハウエ itakkar hawe	言うことは
エネ オカ ヒ ene oka hi	こうだった。
「シパセ カムイ “sipase kamuy	「重い神で
アネ ワ タプネ a=ne wa tapne	私はあって
オカアン キ ナ。 oka=an ki na.	暮らしているのだ。
アテケカラ サケ a=tekekar sake	私が手作りした酒を
エク ワ ネ ヤク e=ku wa ne yak	お前が飲んだら
エヌムトウムカシ (?) e=numtumkasi(?)	お前の体に(?)
チペシパレ ナ。 cipespare na.	染み渡るぞ。
クスリ シンネ kusuri sinne	薬のように

ウ ピリカ テクトウムネ <sup>[4]</sup> u pirka tektumne	よい気持ちを
ピリカ ケウトウム ネ pirka kewtum ne	いい心地を
エヤイコロパレ e=yaykorpora	お前は抱くよ。
タネ アナクネ tane anakne	もはや
オホンノ タシ ohonno tasi	長い間
エコラ チャシ e=kor a casi	お前の山城に
エコシレパ e=kosirepa	着くことは
エアイカプ ルウエ eaykap ruwe	できないの
ネ ヒ タパン ナ。 ne hi tapan na.	だよ。
タパン テ ワノ tapan te wano	今から
タパン トノト tapan tonoto	この酒宴
トノト オカ tonoto oka	酒宴の終わった



アン マ ネ ヤクン an w_a ne yakun	後であつたら
タネポ° ポカ tanepo poka	そこでやつと
エコラ カムイ e=kor a kamuy	お前の神は
カムイ キリサマ kamuy kirsama	神のそばに
エコホシピ° ekohosipi	戻る
エキ ナンコン ナ」 e=ki nankor_ na”	だろうよ」
セコロカイ ペ sekor okay pe	ということを
イタク ピリカピ° itak pirkapi	いろいろな話を
オトゥ スイ コンナ otu suy konna	二度
オレ スイ コンナ ore suy konna	三度
エヤイコシ ワ(?) eyaykosi wa(?)	気のおもむくままに (?)
ウ イェ イタク オシ u ye itak osi	言って、またその後に

イイエナ…… イヌレ ハウエ iyena... i=nure hawe	私に聞かせるので
イホマ ケウトウム ihoma kewtum	かわいそうな気持ちを
アヤイコロパレ a=yaykorpore	私は抱いた。
ソンノ エアシリ sonno easir	本当に初めて
シパセ カムイ sipase kamuy	重い神
ウ ネプ ピトホ u nep pitoho	何の神
ウタラ オロケヘ utar orkehe	たちが
シピンパ オツ タ sipinpa or_ ta	身支度も
ハヨク オロ ワノ hayok or wano	鎧から
コシンナ ルウエ kosinna ruwe	違って
オカ ヤ セコロ <sup>[5]</sup> oka ya sekor	いるのか、と
ヤイヌアン コロカ yaynu=an korka	思うけれど

ウエペケンヌ カ uepekennu ka	尋ねることも
アエヤイラムカラ クス a=eyayramkar kusu	できないので
ウ ピリカ サケ u pirka sake	素晴らしい酒を
アイコイヨマレ ヒケ a=i=koiomare hike	注がれたが
ウ ホシキノボ u hoskinopo	先に
レタン ニ アイヌ retar_ ni aynu	白木の人間
ウタロロケヘ utar orkehe	たちに
アノミ クニ a=nomi kuni	祈るべく
ホシキ パスイ ネ hoski pasuy ne	最初に捧酒箸で
アエパスイスイェ a=epasuysuye	捧酒箸を振って(祈り)
オカケ アン コロ okake an kor	そのあとで
アクク…… アク ワ ネ コロ akuku... a=ku wa ne kor	私が飲むと

イネロ…… イネロクペクス inero... inerokpekusu	なんとまあ
サケ ピリカ ワ sake pirka wa	酒は素晴らしく
ウ フマシ ヤ カ u humas ya ka	(いい) 心地になることか
アエラミシカリ a=eramiskari	覚えがないほどだ。
アエケウトウムコンナ a=ekewtumkonna	私の気持ちは
アエケウトウンパケ a=ekewtumpake-	私の気持ちは
アサンペパケ a=sampepake-	心は
コシトゥリリ kosituriri	のびのびとする
ウ セムコラチ u semkoraci	かのようで
タネ アナクネ tane anakne	今は
イク ノシキ ネ iku noski ne	酒宴の中盤に
チパッケ キ コロ cipakke ki kor	至ると

「ソンノ ウタラパ “sonno utarpa	「本当の勇者で
エネ ワ オラ e=ne wa ora	お前があるのなら
イク オカ パクノ iku oka pakno	酒宴の後まで
エアネ キ ヤ?」 e=an h_e ki ya?”	いるものだろうか?」
ヤイヌアン クス yaynu=an kusu	(と) 私は思うので
トゥ アイヌ ウララ tu aynu urar	二つの人間の靄を
アシタシパレ ワ a=sitaspare wa	酒宴に招待されて
アアン ルウエ カトゥ ネノ a=an ruwe katu neno	座っている姿のように
ウ ウララ アイヌ u urar aynu	靄の人間
イキ コロカイキ iki korkayki	だけれど
ウ アン ルウエ u an ruwe	(そこに) いる
ウ セムコラチ u semkoraci	かのようにして

ウ ネイケ フイケ u neyke huyke	どこもかしこも
ウ ホッパ ルウエ u hoppa ruwe	やり残した部分が
オアライサム ペ oar'isam pe	全くない（自分そっくりの）ものを
アアレ キ ワ a=are ki wa	座らせて
アロロキシネノ arorkisneno	私はこっそりと
リクイ スプヤ rikun_ supuya	立ち昇る煙
アヤイトウラレ a=yayturare	と一緒にになって
リクイスイ クルカ rikuysuy kurka	天窓の上に
アヤイピリ…… アヤイペカレ ayaypir... a=yaypekare	向かって（飛んで）
エアシラナ easirana	それこそ
オニッサク レラ onissak rera	雲のない風
オマウサク レラ omawsak rera	音のない風の

ウ レラ マウ カ u rera maw ka	風の上
カムイ マウ クルカ kamuy maw kurka	神風の上に
アヤイコシネクル a=yaykosnekur-	軽々と自分を
ウ プンパ カネ u punpa kane	持ち上げて
アトウイ トモトウイエ atuy tomotuye	海を横切り
ウ ヤナン フム コ u yan=an hum ko	陸に向かう音が
コクルラッキ kokururarki	響き渡り
コケウロトツケ kokewrototke	鳴り響く
ウ キ ロク アイネ u ki rok ayne	そのあげく
タネ ネ クス tane ne kusu	もはや
アコツ トマリ a=kor_ tomari	私の港に
アカランケ コロ a=karanke kor	近づくと

ネウン ネ ルウエ  
neun ne ruwe

どうしたこと

ウ ネ ナンコラ  
u ne nankor y\_a

だろうか

【注】

- [1] 笑いながら口にしてこの行は、語り手による独り言か、あるいは意味のある語句ではない可能性もある。笑っているために少し中断したこともあって、次行以下は言い直しとなっている。
- [2] si- 「自分」 kosini 「～のところで休む」 -yar 「～させる」 か？
- [3] ana は不詳の語だが、「chihoma ituren / iki rok ana 恐怖の憑依 / なのだから」（北海道教育庁社会教育部（編）、1990 『アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ 久保寺逸彦ノートⅤ』北海道教育委員会：P85）のように理由を表す接続詞として訳されている例が見られる。
- [4] tektumne は直訳すると「手の力である」だが、「tumi tektumne 戦う気持を」（『クトゥネシリカ』4264行）という訳を参考にした。
- [5] 立派に着飾った神たちが勢ぞろいしているのに、家の主人が長々とつまらない話をしてるので、気の毒に思っているということだろう。



## 9-5 会話[1]

語り手：平賀さだも

オヤ キモヤ ネ。[2]

oya kimoya ne.

ああ、腹立たしい。

クウェイサパハトウルセ[3]。

ku=wen-sapaha turse.

私の悪い頭が落ちた (=思うように言えない)。

エコン ルスイ クサパハ ネ クス。

e=kor\_ rusuy ku=sapaha ne kusu.

あなたが欲しがっている私の頭なのだから[4]。

(フチ A [5] : エレクチ トウルセ イネ せば……)

(huci A : e=rekuci turse h\_ino せば……)

(フチ A : あなたの喉が落ちたら[6]……)

クウェンオトピ<sup>6</sup> チャイケチャイケ パイケパイケ[7] コロ

ku=wen-otopi caykecayke paykepayke kor

私の汚い髪はボサボサのバサバサで

イチャッケレ ワ クス クシナシナ、キキタネ、うん。

icakkere wa kusu ku=sinasina, kikitane、うん。

汚いから縛る、どうせなら、うん。

スイ クチャンボ[8] ネ クニ クラム。

suy ku=campo ne kuni ku=ramu.

また私は坊主にしようと思う。

(フチ A : タン レクチ クコン ルスイ<sup>[9]</sup>)

(huci A : tan rekuci ku=kor\_ rusuy)

(フチ A : この喉 (=あなた (平賀氏) の喉) を私は欲しい)

クチャンポ ネ クニ クラム コロカ。

ku=campo ne kuni ku=ramu korka.

私は坊主にしようと思うけれど。

(フチ A : アイヌパークス)

(huci A : aynupakusu)

(フチ A : うらやましいわ)

(フチ A : エネ イェ プ ウトゥラトゥラ ハウ……)

(huci A : ene ye p uturatura haw...)

(フチ A : このように言うことが次々に (=ぺらぺら話せて) ……)

ウトゥラトゥラ イェ……

uturatura ye...

次々と言う……

(フチ A : ……エイェ ワ オカイ ペ パロホ タ……)

(huci A : ...e=ye wa okay pe paroho ta...)

(フチ A : ……あなたが言っていることは、口に……)

(フチ B : ウカシマンパ?)

(huci B : ukasmanpa?)

(フチ B : あふれる?)

(フチ A : ウカシマンパ ワ イェ ワ オケレ<sup>[10]</sup>)

(huci A : ukasmanpa wa ye wa okere)

(フチ A : 口からあふれて言い終える (=次から次へとすべて語り尽くせる))

(フチ A : いたわしい。エネ ハウエアン パロホ ヘンパラ アン コロ……)

(huci A : いたわしい。ene hawean paroho hempara an kor...)

(フチ A : 惜しいことだ。このように話す口もいつかは……)

ライ クス。

ray kusu.

死ぬから。

(フチ A : ライ ワ イサム クニ プ エネ パロホ……)

(huci A : ray wa isam kuni p ene paroho…)

(フチ A : 死んでしまうものは、このように口が……)

### 【注】

- [1] 資料一覧では「語り口の個所」となっているが、このファイルは yukar の続きを rupaye (節をつけずに語る) にしたのではなく、録音現場に同席していた人たちによる会話のようである。
- [2] oya kimoya 「ああ腹立たしい」(『沙流方言辞典』P304)
- [3] sapa turse 「頭が落ちる」とは、ここでは思うように言えないという意味か。
- [4] 以下の会話中にも出てくるが、平賀氏が非常に口が達者であるため、A氏が平賀氏の達者な口が頭ごと欲しいとうらやましがっている。この会話以前にも同様の話が出たことがあったために、ここではそれを指して「あなたのほしがっている私の頭」と言っているようである。
- [5] 数人で会話しているようだが、平賀さだも氏以外の発言者(同席者)についての情報がなく、不明であるため、平賀氏を除く発言者には便宜的にアルファベットで記す。
- [6] sapa turse 「頭が落ちる」と聞いて、平賀氏の頭が落ちてしまうなら、彼女の達者な喉が欲しいと言っている。
- [7] cayayke / payayke の重複形。cayayke は「(とげが) 出ている」(『沙流方言辞典』)、また、他動詞形の cayaya は「～を逆立てる」(『千歳方言辞典』)なので、ここでは髪の毛が逆立っている様子か。
- [8] campoho ne 「坊主頭になる」(浅井タケ口述、村崎恭子編訳、2001『浅井タケの昔話』(草風館): P60-61)。ここでは、坊主頭というよりも髪の毛をごく短く切るという意味か。
- [9] 平賀氏の発言と重複している。
- [10] 中川裕校訂、大塚一美編訳、1990『キナラブック口伝 アイヌ民話全集1』(北海道出版企画センター)に「アンパロタ ウカシマンパアナイネ 私の口からあふれてあふれて」(P35)とある。paro(ho) ta ukasmampa で「口からあふれる」という言葉を次々に紡ぎ出せることをいう語句。

## 9-6 ユカラ

「サクソモアイエプ」(4)

サクソモアイエプ退治(4)

語り：平賀さだも

アコッ トマリ a=kor_ tomari	私の港
トマリ パロ tomari paro	港の口を
アコ…… ア…… アヤイペカレ ako... a... a=yaypekare	目指して
インカラン ルウエ inkar=an ruwe	みた様子は
エネ オカ ヒ ene oka hi	このようだ。
ネオ…… ネ コタン ウイルプ neo... ne kotan uyurup	どの村の住人
ネ モシリ ウイルプ ne mosir uyurup	どの国の住人
ウ ネ ナンコラ u ne nankor y_a	であろうか。
ポロ ロクンテウ poro rokuntew	大戦艦が

カヤアッテ コンナ  
kayaatte konna

帆を掛けている様子は

コラ…… コマ……  
kora... koma...

コメウナタラ  
komewnatara

堂々として立派である。

ウ コッパラ コンナ  
u kotpar konna

舳先（にあたる波）は

コトウスサッキ  
kotususatki

ざあざあ音がして

ウ ヤン シリ コンナ  
u yan sir konna

上陸する（ときの波の）様子は

コトウスサッキ  
kotususatki

ざあざあ音がする。

ウ オヤモツケ  
u oyamotke

私は不審に

エパキ クス  
ep a=ki kusu

思ったので

カヤニ キタイ タ  
kayani kitay ta

帆柱の上に

ウ チカプ レウ シリ  
u cikap rew siri

鳥がとまる

アシリコパヤラ  
a=sirkopayar

かのようにして

ポロ ロクンテウ poro rokuntew	大戦艦
ロクンテウ ウプソロ rokuntew upsor	戦艦の中を
アシックシパレ a=sikkuspare	眺めわたした
ウ キ アクス u ki akusu	すると
シネ メノコ sine menoko	一人の女が
エネ イタキ ene itak h_i	こう言った。
「コニンカラ クス “koninkar kusu	「さてさて
ヤンケ…… シヌatapカウンクル yanke... Sinutapkaunkur	シヌatapカウンクル
カムイ ネ アン クル kamuy ne an kur	神なる人よ、
カマイ アユピ kamay a=yupi	立派なお兄様が
コヤイライケ クス koyayrayke kusu	感謝するので
コヤイ…… コヤヤッタサ koyay... koyayattasa	お返しを

エパキ クス するために  
ep a=ki kusu

イコロ ピリカ ピ° 宝物のいいもの  
ikor pirka pi

イヨイペ ピリカ プ 宝器のいいものを  
iyoype pirka p

アコロ ワ ヤパン」 私はもって (海から) 来た」  
a=kor wa yap=an”

(咳き込みによって一時中断)

セコロ…… と  
sekor...

(咳き込みによって一時中断。以下、散文)

ポンノ ポンノ セコン ネ? 「少し (だけやればいい) 」と言うの?  
ponno ponno sekor\_ ne

ア コロ ポ エネ ウウエヌミ アシ (?) それではなおさら駄目だよ (?)  
a kor po h\_ene uwen h\_umi as(?)

(フチ: モノ ア フミ (?)) (フチ: 静かに座るよ (?))  
(フチ: mono a humi(?))

フナク タ エパク イサマウエ アン? どこまで行ったかわからなくなったって? (?)  
hunak ta epak isam h\_awe an

(韻文再開)

アナッキコロカ けれども  
anakkikorka

ウ ラウケ コンナ u rawke konna	下の方を
アウワンパレ ワ a=uwanpare wa	よく眺めて (も)
インカラン ルウエ inkar=an ruwe	見たことが
アエラミシカリ a=eramiskari	ない
イキ コロカイキ iki korkayki	けれども
レプイシリウンクル Repuysir'unkur	レプイシルンクルでは
オアラ ソモ ネ oar somo ne	まったくない。
アイェ ロク クニ a=ye rok kuni	世に言う
アトウイヤ ウイルプ Atuyya uyrup	アトウイヤの住人で
チエソネレ ciesonere	あるらしく
ウ ウェン キンラ ネ u wen kinra ne	激しい怒りを
アヤイコロパレ a=yaykorpora	私は抱いた。



エアシラナ easirana	それこそ
アユプケスイェ プ a=yupkesuye p	激しく(刀を)振って
ウ ウェン メノコ u wen menoko	悪い女を
チプ ソ カ タ cip so ka ta	甲板で
ウ トゥプ ネ レプ ネ u tup ne rep ne	二つに三つに(=バラバラに)
アオウサチャリ a=ousacari	斬り散らした。
コヨヤモクテ パ プ koyoyamokte pa p	それを怪しんだ(船の中の)者たちは
ウ チプ ソ クルカ u cip so kurka	甲板の
エウソイナクル eusoynakur-	外に
ウ パシテ カネ u paste kane	飛び出して(きたが)
アコッ トマリ a=kor_ tomari	私の港
トマリ パロ tomari paro	港の口に

オアフプ クニ oahup kuni	入って
オトゥライサンペ oturaysampe	しまっては
アエコテ クス a=ekote kusu	大変なので
キキタネクス kikitane kusu	それよりはと
カヤニ キタイ kayani kitay	帆柱のてっぺんを
ウ ラッチタラ u ratecitara	私はゆっくりと
アコサウサワ アイネ a=kosawsawa ayne	ゆさゆさゆらしたあげく
カヤニ キタイ kayani kitay	帆柱のてっぺんを
アコテクユプ a=kotekyupu	手に力を籠めて (つかんで)
アコヤイラムユプ a=koyayramyupu	手に力を籠めた。
ポロ ロクンテウ poro rokuntew	大戦艦は
アトウイ ソ カ タ atuy so ka ta	海の上で

ポロ ロクンテウ poro rokuntew	大戦艦が
アア…… アホクシテ フム コ (?) 倒される音が aa... a=hokuste hum ko(?)	
コトウスサッキ kotususatki	がたがたと鳴って
エアシラナ easirana	それこそ
タニンネ ウタラ tan inne utar	大勢の人は
ウ ソンノ ポカ u sonno poka	やはり本当に
アトウイヤ ウイルプ Atuyya uyrup	アトウイヤの住人
アイェ ロク クニ a=ye rok kuni	といわれる
ウ…… ウェナイヌ サニ u... wen aynu sani	悪い人間の子孫で
アトウイヤウンクル Atuyyaunkur	アトウイヤウンクルの
ポニウネ ヒケ poniwne hike	弟のほうに
アアラコトムカ プ a=arkotomka p	違いない者は

チプセント (?) ネ ワ cipsento(?) ne wa	舟の船頭 (?) のような
コヤイカラ カネ koyaykar kane	姿になって
ウ ウェン キンラ ネ u wen kinra ne	私は激しい怒りが
イコホプニ i=kohopuni	湧き上がった。
タポロワノ tap orowano	それから
ウ ハウケ ヒケ u hawke hike	弱いほう (の者) は
ウコセタサパ ukosetasapa-	(みな) 一緒に犬の頭を
ウ ロシキ カネ u rosiki kane	並べたようで
ハヨク ノ ヒケ hayok no hike	鎧を着たほう (の者) は
スマ レレ シリ suma rer siri	石が沈む様子
シコヤパラ sikoyapar	かのようなだ。
ハヨク エウエン ペ hayok ewen pe	鎧がみすばらしい者は

ウエイ セタ マ シリ wen_ seta ma siri	みすぼらしい犬が泳ぐ様子
エシコパヤラ esikopayar	のようで
トゥ マカイカイエ tu makaykaye	二つの波紋
レ マカイカイエ re makaykaye	三つのさざなみを
アカイコタタ a=kaykotata	私は波とともに切り刻み
アカイコトウイパ a=kaykotuypa	波とともに斬った。
エアシラナ easirana	それこそ
ウ ウェンペ パシテ u wenpe paste	凶事を起こし
ロルンペ パシテ rorunpe paste	戦いを起こした
ウェン カムイ トウミ wen kamuy tumi	悪神の戦い
パテク ネ ヤッカ patek ne yakka	だけでも
アルシカ トイネ プ a=ruska toyne p	怒りに燃えるのに

ウ アイヌ トゥミ u aynu tumi	人間の戦争を
エパコツ チャシ ep a=kor_ casi	私の山城へ
チコモイモイェ cikomoymoye	持って来られた
イエカラカラ クニ i=ekarkar kuni	のだと
ラム プ ネシ ウン ramu p nesi un	思うだけでも（腹立たしいのに）
ヤプ シリ オカ yap siri oka	（敵が）上陸しようとしている
ヤイヌアン チキ yaynu=an ciki	（と）思うと
タパンペ レコロ tapanpe rekor	これは言わば
ウ ウェンペ ユプ u wenpe yupu	凶事をきつく
トゥレンペ ユプ turenpe yupu	戦争をきつく
アキ ペ ネ クス a=ki pe ne kusu	するというものなので
エアシラナ easirana	それこそ

アユプケスイエ プ a=yupkesuye p	激しく(刀を)振ると
アテンポク コンナ (?) a=tempok konna(?)	私の手元で
シカイエ カネ sikaye kane	輝き
アトウイヤウンクル Atuyyaunkur	アトウイヤウンクルに
ウ ユプケ タムクル u yupke tamkur	激しい太刀を
アコテレケレ a=koterkere	振り飛ばした。
エアシラナ easirana	それこそ
アトウイ ソ カ タ atuy so ka ta	海の上で
アランケスイエ プ a=rankesuye p	私が低く振るう太刀は
ウ テレケ ノイネ u terke noyne	跳ねるように
アリクナススイエ プ a=riknasuye p	私が高いほうへ振るう太刀は
ラヨチ クンネ rayoci kunne	虹のように

アイオヌイタ a=ionuyta-	炎を
プクテ カネ pukte kane	燃やしたてた
キ プ ネ クス ki p ne kusu	ので
エアシラナ easirana	それこそ
アトウイ ソ カ タ atuy so ka ta	海の上で
オトウ マカイカイ otu makaykay	二つの波紋
オレ マカイカイ ore makaykay	三つのさざなみを
エシコパシテ ペ esikopaste pe	免れた者の
インネ ウタリ inne utari	多くの者たちを
アペ コトウイパ ape kotuyipa	火とともに斬り
アペ コララパ ape korarpa	火とともに押さえつける
ネ ヒ コラチ ne hi koraci	かのようにした。



イトウレン カムイ i=turen kamuy	私の憑き神が
アトウイ ソ クルカ atuy so kurka	海の上で
コフメラナ kohumerana-	音を立てながら低く
ウ ランケ プ ネ コロ u ranke p ne kor	下りてくると
タパン アトウイ tapan atuy	この海は
ウ カンナ カイエ…… u kanna kaye...	上の波が……
ポクナ アトウイ pokna atuy	下の海が
ウ カンナ アトウイ u kanna atuy	上の海
エシコパヤラ esikopayar	であるかのように
ウ カンナ アトウイ u kanna atuy	上の海が
ウ ポクナ アトウイ u pokna atuy	下の海
エシコパヤラ esikopayar	であるかのようになる。

エアシラナ easirana	それこそ
ウ リリ シクマ u rir sikuma	波の峰が
シクマ クンネ sikuma kunne	(山の) 峰のようになり
アトウイ ソ カ タ atuy so ka ta	海の上で
タパン カムイマウ tapan kamuymaw	神風が
チホプニレ cihopunire	起こり
カムイマウ パシテ kamuymaw paste	神風を走らせ
(一時中断) [1]	
エパキ プ ネ クシ ep a=ki p ne kus	そうしたので
タパン ロクンテウ tapan rokuntew	この戦艦
ポロ ロクンテウ poro rokuntew	大戦艦は
ムナッタ ウサ (?) munatta usa(?)	XXX (?)

サモロケヘ samorkehe	そばに
コカンナ カネ (?) kokanna kane(?)	ひっくり返る (?)
コヤライカラ <sup>[2]</sup> クニ プ (?) koyaraykar kuni p(?)	ようになつて (?)
アホクシテ プ ネ クス a=hokuste p ne kusu	倒されたので
ウ キ ロク アワ u ki rok awa	すると
タパン カムイマウ tapan kamuymaw	神風が
ウ ユプケ カシパ u yupke kaspā	激しすぎる
ウ キ プ ネ クス u ki p ne kusu	ので
トゥ アトゥイペンルル tu atuypenrur	二つの海の上
レ アトゥイペンルル re atuypenrur	三つの海の上を
アトゥイパ アイネ a=tuyppa ayne	私は斬つたあげく
ポロ ロクンテウ poro rokuntew	大戦艦を

ウ トゥプ ネ レプ ネ u tup ne rep ne	二つに三つに (=バラバラに)
ウオロケッケ <sup>[3]</sup> uorokekke	まとめて折った
ウ キ プ ネ クス u ki p ne kusu	ので
タン インネ ウタラ tan inne utar	大勢のもので
ハヨク ノ ヒケ hayok no hike	鎧を着ているほう (の者) は
スマ レレ シリ ネ suma rer siri ne	石が沈む様子
エシコパヤラ esikopayar	さながらに
ハヨク ハウケ ペ hayok hawke pe	鎧が貧弱なもの
ハヨク エウエン ペ hayok ewen pe	鎧がみすぼらしいものは
セタ マ シリ seta ma siri	犬が泳ぐように
トゥ マカイカイエ tu makaykaye	二つのさざなみの中を
チウチウパレ ciwciwpare	のたうちまわる。

ウ ヤイレンカネ u yayrenkane	喜んで
アペ コトウイパ ape kotuypa	火とともに斬る
ウ キ ロク アイネ u ki rok ayne	あげく
タネ アナクネ tane anakne	今は
アコッ トマリ a=kor_ tomari	私の港
トマリ パロ tomari paro	港の口の
トゥカリケ タ tukarike ta	手前で
アロピッタノ aropittano	すべて皆
セタ キキリ seta kikir	犬につく虫までも
アコケシケカラ。 a=kokeskekar.	私は殺し絶やした。
ウ パクノ ネ コロ u pakno ne kor	それから
エパコッ チャシ ヌ…… ep a=kor_ casi nu...	私の山城

エパコッ チャシ ep a=kor_ casi	私の山城へ
ウ アット…… ウ…… ウ アッ…… u atto... u... u at...	
ウ アットムサマ u attomsama	まっすぐに
アヤイトウナシカ a=yaytunaska	急いで
ウ ヤナン アイネ u yan=an ayne	陸に向かったあげく
アコロ ルウエサン a=kor ruwesan	我らの浜辺に
アオヤン キ ワ タプ a=oyan ki wa tap	上陸して
タナン ワ オラ (?) tan an wa ora(?)	それから (?)
エアラセタッコ earsetakko	まったく長い間
エオロセタッコ eorsetakko	あれから長い間
イレス サポ i=resu sapo	育ての姉は
シネンネ キ ワ sinenne ki wa	一人でいて

エパコツ チャシ ep a=kor_ casi	我らの山城を
エプンキネ ワ epunkine wa	守って
シクヌ ワ アン ルウエ ネ ヤ siknu wa an ruwe ne ya	生きていたのか
ライ ルウエ ヘ ネ ヤ ray ruwe he ne ya	死んだのか
ヤイヌアン クス yaynu=an kusu	(と) 思ったので
ウ カイペ カ ワ u kaype ka wa	波の上から (まだ上陸しきっていないうちから)
ルイ ホトウイエ ruy hotuye	激しい叫び
ハウケ ホトウイエ hawke hotuye	弱い叫びを
アウカクシパレ a=ukakuspare	私はくり返し
「イレス サポ “i=resu sapo	「姉さん、
エシクヌ キ ワ e=siknu ki wa	あなたは生きて
エアン ルウエ ヘ アン? e=an ruwe he an?	いるのですか?

エイサム ルウエ ヘ アン? e=isam ruwe he an?	いなくなったのですか?
エイサム マ ネ ヤクン e=isam w_a ne yakun	いないのなら
ヘトポ <sup>°</sup> ホロカ hetopo horka	私は引き返して
ホシピ <sup>°</sup> クニ プ hosipi kuni p	戻ってしまうつもり
アネ タプ キ ナ」 a=ne tap ki na”	ですよ」
イタカン アワ itak=an awa	(と) 私が言うと
イレス サポ <sup>°</sup> i=resu sapo	育ての姉は
チソイナライエ cisoynaraye	外に出て
ウ ルイ ホトウイエ u ruy hotuye	激しい叫びを
ウカクシパレ ukakuspare	くり返した。
「カムイ…… “kamuy...	「立派な……
アレシパ <sup>°</sup> ピト a=respa pito	私が育てた尊



アレシパ カムイ a=respa kamuy	私が育てた神よ、
シクヌアン キ ワ siknu=an ki wa	私は生きて
アナン ルウエ ネ ナ。 an=an ruwe ne na.	いますよ。
ホクレ ヤン…… オラン」 hokure yan... oran”	早く下りてきなさい」
セコロ ハワシ sekor hawas	という声をする。
ウ ヤイレンカネ u yayrenkane	喜んで
ウ ヤナン ヒネ u yan=an hine	私は上陸して
エパコツ チャシ ep a=kor_ casi	我らの山城の
オロ タ ヤナン oro ta yan=an	ところへ上がって
インカラン ルウエ inkar=an ruwe	みると
エネ オカ ヒ ene oka hi	このようだった。
イレス サポ i=resu sapo	育ての姉は

ウセム…… エアシラナ usem... easirana	それこそ
ウ…… ウ サウレ カネ u... u sawre kane	弱弱しく
チャシ キツカラ ペ ネ ヤ casi kikkar pe ne ya	山城を防御するものか
コトム コロカイネ (?) kotom korkayne(?)	のように (思っていた) けれど (?)
オッカヨ クス (?) okkayo kusu(?)	男にも
イエペトウラシ…… iepeturasi...	
エペットウラシ epetturasi	匹敵する
イレス サボ i=resu sapo	育ての姉
ウ コン ラメトク u kor_ rametok	の勇敢さ
ウ ネ ロク ルウエ u ne rok ruwe	なのだな。
ウ チャシ ピシカン u casi piskan	山城のまわりでは
セマシ シクプイ semas sikpuy	つまらない目つきの

アヌカン ロク クニ プ <sup>[4]</sup> a=nukar_ rok kuni p	見たことがあるようなやつらが
トゥ トイ ロルンペ tu toy rorunpe	二つの激しい戦争で
トレ…… トウレプン…… トウレプン…… tore... turepun... turepun...	
ウ ウェン レプンペ u wen repunpe	悪い沖の奴
ウタロロケヘ utarorkehe	たちの
ウレ…… ウ ライケウエヘ ure... u raykewehe	死体が
チシレチャリ cisirecari	地面にまき散らされている
ウ シラン チキ u siran ciki	様子で
イレス サポ i=resu sapo	育ての姉は
エアシラナ easirana	それこそ
イコ…… シクプイ コンナ iko... sikpuy konna	まなじりに
コプユヤツキ kopuyuyatki	涙をためて

「コニンカラ クス “koninkar kusu	「さてさて
アレシパ ピト a=respa pito	私の育てた方よ、
エアラセタクノ earsetakno	まったく長いこと
アコラ チャシ a=kor a casi	我らの山城に
イコホツパ エピッタ i=kohoppa epitta	私を残してすべて
トゥレプンカ…… turepunka…	
トゥ トイ レプンペ tu toy repunpe	多くのひどい沖の奴が
イコチャウキ パ i=kocorawki pa	私を攻めて
チャシ コチャウキ コロ casi kocorawki kor	山城を攻めたので
エアシラナ easirana	それこそ
イキアナイネ iki=an ayne	私は抵抗して
エパコツ チャシ ep a=kor_ casi	我らの山城を

チコモイモイエ cikomoymoye	落とされる
アイエカラカラ クニ a=i=ekarkar kuni	よう (でしたが)
オトゥライサンペ oturaysampe	そうさせるものかと
アキ プ ネ クス a=ki p ne kusu	思ったものだから
チャシキッカラン クスケライ casikikkar=an kusukeray	山城を防御したおかげで
タパン コラチ tapan koraci	このように
シクヌアン キ ワ siknu=an ki wa	私は生きて
ウ アナン キ ナ u an=an ki na	いるのですよ。
アコラ モシン ネ a=kor a mosir_ ne	我々の国に
キ ワ イコロパレ ヤン ki wa i=korporare yan	いてください。
イ…… アレシパ プ アン…… i ... a=respa p an...	私が育てた……
アレシパ カムイ a=respa kamuy	私の育てた神

カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇者よ、
エフイネ パクノ ehuyne pakno	どんなに
カムイ ラメトク kamuy rametok	神なる勇者は
ウ ヤイカスレ プ u yaykasure p	すぐれているもの
カムイ アアキ kamuy a=aki	神なる弟
ウ ネ ナンコラ…… u ne nankor _ya....	であろうか……
ウ ネ ヤッカイキ u ne yakkayki	であっても
ロルンペ ウトウル rorunpe utur	戦いの間
トゥムンチ ウトウル tumunci utur	戦争の間の
ウ イルカ ポカ u iruka poka	少しだけでも (今は)
コヤイシニレ koyaysinire	休んで
イコロパレ ヤン」 i=korporare yan”	ください」

セコロ オカイ ペ sekor okay pe	ということ
エパコロ サポ ep a=kor sapo	私の姉が
トゥ ピリカ クニ プ <sup>[5]</sup> tu pirka kuni p	いろいろなことを
イエ ワ ネ コロ ye wa ne kor	言うと
アヤイコトウイマ a=yaykotuyma-	私は思いを
コシラムスイパ kosiramsuypa	めぐらせた。
イレシパ シリ i=respa siri	私を育てた様子の
ウ ピリカ クニ プ u pirka kuni p	よいものが
イレス サポ i=resu sapo	育ての姉
ウ ネ ロク アワ u ne rok awa	であったが
ウサウレ…… ウ サウレ ヤクン usawre... u sawre yakun	(姉が) か弱かったら
エパコツ チャシ ep a=kor_ casi	我らの山城は

チコモイモイエ cikomoymoye	落とされて
アイエカラカラ ペ a=i=ekarkar pe	いたが
オッカヨ クスン (?) okkayo kusun(?)	男さながらに (?)
タマニ ルウエ tamani ruwe	(育ての姉が) 刀を振るったのは
エネ オカ ヒ ene oka hi	このようだった
ヤイヌアン ヒケ yaynu=an hike	(と) 考えると
イホマ ケウトウム ihoma kewtum	かわいそうな気持ちを
アヤイコロパレ a=yaykorporare	抱いた。
(ここから散文語り)	
オロワノ orowano	それから
(萱野：はい。いいよ。ちょうどいい)	
ロルンペ…… rorunpe...	戦いが……
(萱野：はい。言って)	



うん？

(萱野：言って、ずっと続けて。いや、うん、オロワノ、言って)

(萱野：言って、ずっと続けて。いや、うん、**orowano**、言って)

オロワノ

それから

**orowano**

コヤイシカルン

自分で気づいた。

**koyaysikarun**

タパン テ パクノ

今まで

**tapan te pakno**

アイヌ トウミ ネ ヤ

人間の戦いでも

**aynu tumi ne ya**

レプンクツ トウミ

沖の奴の戦い

**repunkur\_ tumi**

ウエン カムイ トウミ

悪神の戦いが

**wen kamuy tumi**

アヤイコパシテ

寄せ来た

**a=yaykopaste**

キ アイネ

あげく

**ki ayne**

タネ アナクネ

今は

**tane anakne**

トウミ ネ マヌ プ

戦争というものを

**tumi ne manu p**

アエモン トウム コンナ                      私の力  
 a=emontumkonna

アエケウ トウム コンナ                      私の心  
 a=ekewtumkonna

コシ………[6]

kosi…

【注】

- [1] ここで録音をいったん停止したようである。直前に電話が鳴った音が聞こえるので、そのためか。
- [2] koyaraykar のように聞こえるが、koyaykar の言い間違 いか。
- [3] uorokikkik 「～をまとめて叩く」(『静内語彙集』)
- [4] 以前の戦いで戦ったことのあるような雑魚という意味か。
- [5] tu pirka kuni p/ e=eyaykewtum /ekosanniyo [雅] 「いろいろなことをご自分の心で考えるのですよ」(『沙流方言辞典』)
- [6] 最後の部分は途中でテープが途切れている。



---

アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化に関する調査研究事業  
第2年次（北海道沙流郡平取町）

調査研究報告書

1 / 3

発行日 2015年3月25日

発行者 国立大学法人千葉大学

〒263-0022 千葉県千葉市 稲毛区弥生町 1-33

電話 043-251-1111

---